

御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

2001

石川県野々市町教育委員会
野々市町御経塚第二土地区画整理組合

御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

2001

石川県野々市町教育委員会
野々市町御経塚第二土地区画整理組合

例 言

- 1 本書は石川県石川郡野々市町御経塚町に所在する御経塚シンデン遺跡・同シンデン古墳群の発掘調査報告書である。
- 2 野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る緊急発掘調査として、野々市町教育委員会が野々市町御経塚第二土地区画整理組合の委託を受け実施した。現地における調査期間、面積、調査担当者は以下のとおりである。調査総面積は14,233 m²である。

区 分	調査年	期 間	面積 (m ²)	担当者
第1次調査	昭和61年(1986)	7月15日～12月27日	4,143	吉田淳
第2次調査	昭和62年(1987)	3月13日～12月24日	7,700	吉田淳・横山貴広
第3次調査	昭和63年(1988)	6月13日～7月30日	720	横山貴広
第4次調査	平成3年(1991)	10月17日～11月19日	170	吉田淳
第5次調査	平成8年(1996)	6月17日～10月31日	1,500	吉田淳

- 3 発掘調査にあたっては御経塚第二土地区画整理組合理事長 塚本一雄(故人)、塚崎吉信、副理事長 杉林敏信、塚崎昭夫をはじめ組合員各位、御経塚町各位、野々市町都市計画課の協力を得た。
- 4 本書の執筆は、第4章2・3節を横山貴広、他は吉田淳が担当した。編集は横山と協議のうえ吉田が行った。遺物の写真は布尾和史・永野勝章が撮影した。
- 5 発掘調査及び本書の執筆にあたっては下記の方々から御教示・指導を得た。記して深謝申し上げたい。
赤塚次郎、伊藤雅文、猪熊兼勝、加藤三千雄、金山弘明、川畑 誠、北野博司、木下哲夫、楠 正勝、小嶋芳孝、高取勝喜(故人)、田嶋明人、兼越茂和、栃木英道、西野秀和、橋本澄夫、浜崎悟司、久田正弘、福島正実、本田秀生、前田清彦、増山 仁、三浦純夫、南 久和、宮本哲郎、山本直人、安 秀樹、谷内尾晋司、湯尻修平、吉岡康暢、米沢義光、和田晴吾(敬称略)
- 6 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 本書での遺構・地図等の方位はすべて真北を表示する。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、(m)で表示する。
 - (3) 各図の縮尺は以下のとおりである。
遺構 1/1000、1/250、1/200、1/120、1/80、1/60
土器 1/3、石器その他1/2、1/3、1/5
 - (4) 遺構平面図内の数字は遺物の出土地点を示し、この番号と遺物実測図番号、遺物一覧表番号、写真図版の遺物番号は対応する。
 - (5) 遺構名の略号は以下のとおりである。
竪穴建物(SI)、掘立柱建物(SB)、古墳(ST)、方形周溝状遺構(SX)、土坑(SK)、溝(SD)
- 7 本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が一括保管している。

目 次

第1章 位置と環境	1
第1節 地理的環境と遺跡の位置	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	5
第1節 調査の経緯	5
第2節 調査の経過	5
第3章 遺構と遺物	9
第1節 地形と調査の概要	9
第2節 縄文時代～弥生時代中期初頭	10
1 河道跡	10
2 河道跡出土土器	10
土器一覧表	43
第3節 弥生時代後期～古墳時代前期	47
1 竪穴建物	47
2 掘立柱建物	50
3 土坑（土塼）	52
4 方形区画溝・溝・その他の遺構	53
5 古墳群	140
土器 一覧表	186
第4節 古墳時代後期	205
1 竪穴建物	205
2 掘立柱建物	205
3 土坑・溝・その他	206
土器一覧表	220
第5節 中世以降	221
第6節 石器・石製品・その他	226
第4章 まとめ	243
第1節 縄文時代後期中葉土器群の概観	243
第2節 弥生～古墳時代初頭の集落	250
第3節 古墳群の様相	258
第4節 古墳時代後期～古代初頭の集落	264
写真図版	269

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境と遺跡の位置

加賀の霊峰白山を源とする手取川は古来より暴れ川として知られており、山間地が平野部を開ける鶴来町において流れを北から西へ急激に向きを変え日本海へとそそいでいる。しかし、手取川の旧河道跡は現在の富樫用水や郷用用水をはじめとする七ヶ用水が想定され、氾濫のたびに流れが南遷したことを物語っている。この手取川によって形成された扇状地は鶴来町を扇頂として扇径約12km、展開度約110度の規模をもち、勾配は扇央1/170、扇端1/200を測る。東側は富樫山地の低い急崖と接し、北東端では同山地水系の伏見川が形成する泉野扇状地と重なり不鮮明となる。石川県石川郡野々市町はこの手取川扇状地北東部の扇央から扇端部にかけて南北6.7km、東西4.5km、面積13.56km²の町域と人口4万5千人を有する。石川県のほぼ中央に位置し、北及び東は県都金沢市、西は松任市、南は鶴来町に接する。

都市近郊の農業地帯として経済基盤を確かなものとしてきた御経塚町周辺地域は、1960年代後半の金沢バイパス（現国道8号線）築造を契機とし、1970年代後半からは田園を市街化する目的の土地区画整理事業の開始とともに、農村と新興住宅街が混在する地域と移り変わっていった。しかも近年の金沢圏への人口集中と農業衰退が加わり都市開発は急激に進行を速めた。現在は商業地、住宅地へと一変して旧来の景観はすでに失われ、点在する水田が往時をとどめるに過ぎない。

御経塚シンデン遺跡は野々市町北西部、御経塚町に所在する。JR野々市駅の北北西700mに位置し、郷用木本流の人塚川（馬場川）と支流安原川に挟まれる海拔10mの微高地上に展開する。扇状地端部の地下水自噴地帯であり、昭和30年代までは自噴が確認されている。この扇状地端部一帯は、近世及び明治大正期の耕地整理にいたる開発を経て現在は平坦な地形となっているが、以前は河川や小支流が入り組む起伏の複雑な地形が想定され、周辺の調査では東西に約100m前後の距離をおきほぼ北流する河道跡や低湿地を確認しており、遺跡の多くはこの低地間南北方向の微高地上に存在している。



第1図 野々市町位置図

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する手取川扇状地北端部周辺は遺跡の密集する地域として知られ、縄文時代から中近世にわたり注目する遺跡も多い。多岐にわたる開発により遺跡の発見が相次ぎ、緊急発掘調査が続いている地域である。

縄文時代 前期末より中期初頭の土器が出土した上安原遺跡（01047）がもっとも古い時期であり、中期中葉の古府ヒビタ遺跡（01078）、後葉の北塚遺跡（01088）、後期前葉の押野大塚遺跡（16038）が存在する。前3者は犀川左岸の沖積地に立地する。後期中葉以降になると遺跡は増加し、中葉加賀利B1式期併行の馬普通遺跡（01400）、これに続く酒見式期の集落が確認された米泉遺跡（01125）、後期中葉～晩期の御経塚遺跡（16027）・新保本町チカモリ遺跡（01064）、晩期に入ると前葉～中葉の中屋遺跡（01050）、中葉後半の中屋サワ遺跡（01052）、晩期後葉の長竹遺跡（08044）、晩期末～弥生時代初頭の乾町遺跡（08045）など国指定史跡や標識遺跡など注目される遺跡が集中し、生活基盤の安定を示唆する地域である。

弥生時代 扇端部の八田中遺跡（08128）、御経塚遺跡、押野タチナカ遺跡（16031）、扇央部では前述の乾町遺跡で最古の弥生土器が出土している。中期になるとⅡ様式の良好な資料が出土した八木ワリ遺跡（01059）が北方に位置するが後期前半まで遺跡は散発的な様相である。後期後半になると扇端部の開発が進み、安定した稲作と人口の集中増加とともに集落の形成が活発化し遺跡は急激に増加する。いずれも扇端部に立地し、横江占屋敷遺跡（08142）、本遺跡（16030）、御経塚遺跡（ツカダ・デト地区）、二日市イシバチ遺跡（16024）、長池ニシタンボ遺跡（16026）が近在し、東方では押野タチナカ遺跡（16036）、押野ウマワリ遺跡（16037）などが形成される。

古墳時代 前期の集落では本遺跡をはじめ上荒屋遺跡 (01053)、旭遺跡群の宮永遺跡 (08121)、旭小学校遺跡 (08123) が見られ、山陰地方との密接な関係を示す四隅突出墳墓 1 基と、前方後方墳 2 基を含む 28 基の墳墓古墳が検出された一塚墳墓・古墳群 (08126) や本遺跡古墳群 (16031)、横江古屋敷遺跡では地域統合を物語る初期の前方後方墳を含む古墳群が出現する。しかし、この時期以降は集落の拡散により遺跡は減少しその後の営みは 7 世紀以降を待たなければならない。7 世紀の前半には扇端部の第 2 次開発が本遺跡の後期集落や御経塚遺跡ツカダ地区で始まるが、散発的である。しかし扇央部では同時期の上林古墳、以降の末松古墳・田地古墳が築造されるなど 6 世紀末から 7 世紀の前半には開発が着手されたものと考えられる。この結果、7 世紀第 3 四半期に建立をみる白鳳の大寺院末松庵寺 (16013) は、政治的・経済的基盤を確立し一定の権力を有する首長の存在を如実に物語るものである。

奈良・平安時代 扇央部では 7 世紀から続く開発が大規模化し集落遺跡が増加する。三浦遺跡 (08034)、近年調査された上林新庄遺跡など大規模な基幹遺跡や、粟田遺跡 (16008)、末松 A 遺跡などが展開する。扇端部においても御経塚遺跡アスノ岡地区 (旧御経塚 B 遺跡) 初期荘園の横江荘遺跡 (08135) と上荒屋遺跡が出現する。

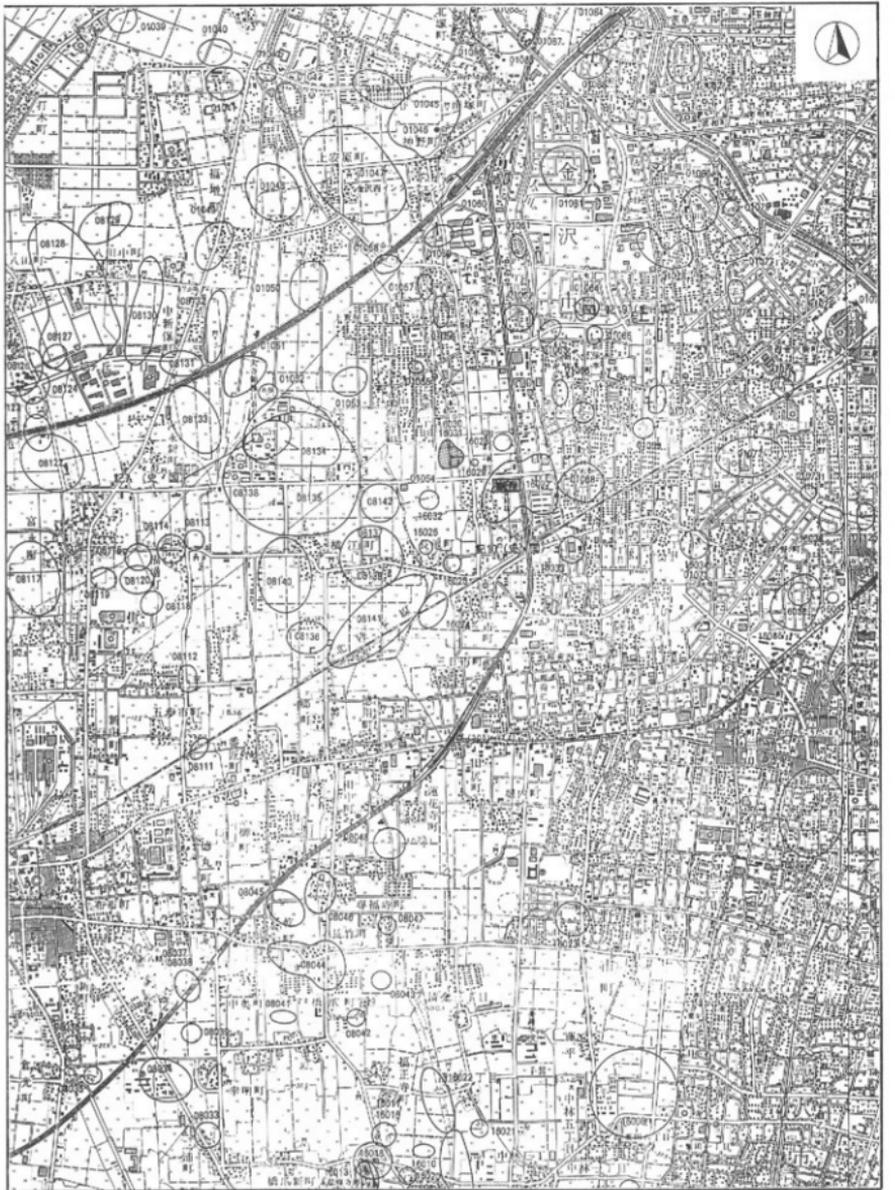
中世以降 律令制の崩壊とともに荒廃した手取川扇状地の再開発に取り組んだ在地領主の林・富樫氏は、藤原利仁の末裔と称する加賀斎藤氏の有力な武士団である。両氏とも「和名類聚抄」に載る石川郡の郷名を名字の地とし、林氏は野々市町南部から鶴巻町にかけての押野郷、富樫氏は高橋川中流域の富樫郷をその地とする。在地の主導権を握っていた林氏は、承久の乱 (1221) の際朝廷側につき没落の運命をたどるが、幕府側についた富樫氏は守護北条一門の下で勢力を伸張し、在地領主の棟梁としての地位を確かなものとしていった。建武 2 年 (1335) 足利尊氏が富樫高家を加賀守護に補任した後、富樫氏は守護所を野市に置いたとされ、14～15 世紀には野市が加賀の政治・経済の中心となる。しかし、長享 2 年 (1488) 富樫政親が加賀一向一揆の攻撃により滅亡し、天文 15 年 (1546) の金沢御堂建立以後は中心地をあけわたすこととなった。守護所とされる富樫館跡 (16039) は野々市町木町・住吉町地内に所在し礎石掘りの堀が確認されている。また館跡の南東 500m に位置する扇が丘ハワイゴク遺跡 (16043) では、総柱の掘立柱建物や 13 世紀前半の遺物を検出している。野々市町押野には富樫氏庶流押野氏の居館である押野館跡 (16035) が所在し、館を巡る掘跡、掘立柱建物、竪穴状遺構などの検出や 14～15 世紀代の遺物が出土している。

中世後期の集落遺跡が本遺跡周辺には近在し、南方 1.5km には 14 世紀後半頃の散居村的景観を有する二日市イシバチ遺跡 (16024)、一定区域に住居が集中し居住域を形成する 14 世紀後半～16 世紀前半の長池キタノハン遺跡が南方 500m に、南東 400m には 14～15 世紀の御経塚遺跡デト地区、南西 700m の松任市横江町には林氏系横江氏が居を構えたとされる 14 世紀後半～16 世紀頃の横江館跡 (08137) が存在する。また JR 北陸本線南側の野々市町二日市・三日市地内では野々市町北西部土地区画整理事業開始に伴う分布調査において大規模な中世の遺跡が確認されている。

本遺跡と複合し御経塚町の町名の由来ともなった御経塚経塚 (16029) が存在する。礎石経が出土したとされ、中世末から近世初頭頃の築造と推察するものである。

旧御経塚村の村名は正保郷帳に見られ、「高免付給人帳」では寛文年間 (1661～1672) の家高数 17、百姓数 25。宝永 5 年 (1708) の「村々高免家数等覚帳」では、家数 46、人数 243。「皇国地誌」には家数 59・人数 332 とあり、町村制施行後は石川郡押野村に所属した。押野村は昭和 31 年 (1956) に金沢市に編入したが、分市合併を強く要望する御経塚、野代、押野、押越の 4 地区は、住民投票を経て翌 32 年 4 月に野々市町へ編入した。

参考文献 「石川県の地名」 平凡社 1991 年
「押野村史」 石川郡押野村史編集委員会 1956 年



第2図 周辺の遺跡 (1/30,000) 「石川県遺跡地図」1992より

遺跡地図凡例

石川県遺跡地図 石川県教育委員会 1992 年

野々市町		01030 中屋遺跡 (縄)	08036 倉光館跡 (鎌)
16006 下新江アチラ遺跡 (奈)	01051 ト福増遺跡 (縄～古)	01052 中屋サワ遺跡 (縄・中)	08037 幸明塚 (古)
16008 栗田遺跡 (奈・縄・平)	01053 上尻屋遺跡 (縄～平)	01055 上尻屋住宅遺跡 (弥)	08038 西方寺跡 (安)
16009 末松A遺跡 (縄・平)	01056 矢木マツノキダ遺跡 (弥・古)	01057 矢木ヒガシウラ遺跡 (弥・古)	08039 幸明遺跡 (奈・平)
16010 末松B遺跡 (弥)	01058 上安原陸橋遺跡 (弥・古)	01059 矢木ジワリ遺跡 (弥・古)	08041 横瓜ガソノアヲ遺跡 (奈・平)
16011 末松福正寺遺跡 (古・平)	01060 森戸バイパス遺跡 (古)	01061 森戸本町遺跡 (縄)	08042 横瓜橋の木道跡 (中)
16012 末松古墳 (古)	01062 森戸住宅遺跡 (縄)	01063 新保本町西遺跡 (弥・古)	08043 横瓜遺跡 (縄・弥・中・近)
16013 末松院寺 (奈・平)	01064 新保本町チカモリ遺跡 (縄)	01065 新保本町東遺跡 (縄・古)	08044 長竹遺跡 (縄～古・中)
16014 末松C遺跡 (奈・平)	01066 新保本町ツカガ遺跡 (弥)	01067 新保本町南遺跡 (中)	08045 乾町遺跡 (縄～近)
16016 福正寺跡 (平)	01068 八日市B遺跡 (縄・奈・平)	01069 八日市サカイマツ遺跡 (縄・奈・平)	08046 専修寺遺跡 (中)
16018 末松ダイカン遺跡 (奈～中)	01070 八日市ヤスマル遺跡 (縄・奈・平)	01071 押野西遺跡 (縄・弥・奈・平)	08047 高山遺跡 (縄・平)
16020 古元堂館跡 (?)	01072 押野大塚古墳 (古)	01073 西金沢新町遺跡 (古)	08048 山中ノダ遺跡 (縄・古)
16021 末松信濃館跡 (中)	01074 日本たばこ金沢工場遺跡 (奈・平)	01075 伏古町遺跡 (奈・古)	08111 五歩市遺跡 (?)
16022 清金アオウ遺跡 (平～中)	01076 伏古町遺跡 (奈・古)	01077 黒山B遺跡 (平)	08112 あさひ荘遺跡 (奈・平)
16023 三林館跡 (中)	01077 黒山B遺跡 (平)	01078 古府遺跡 (縄)	08113 福城遺跡 (縄・弥)
16024 二日市インバチ遺跡 (縄・弥・中・近)	01078 古府遺跡 (縄)	01079 黒田町三角点遺跡 (古)	08114 崧上市左エ門館跡 (室)
16025 長池キタノハン遺跡 (縄・弥・中・近)	01079 黒田町三角点遺跡 (古)	01080 黒山町遺跡 (古)	08115 福増東川遺跡 (?)
16026 長池ニシタンボ遺跡 (縄・弥・中・近)	01080 黒山町遺跡 (古)	01081 松島ナカオサ遺跡 (平～中)	08117 坊の森遺跡 (弥・古・中)
16027 御経塚遺跡 (縄・弥・古・奈・中・近)	01081 松島ナカオサ遺跡 (平～中)	01082 高島遺跡 (弥・古)	08118 宮永水田遺跡 (奈・平)
16029 御経塚緑塚 (?)	01082 高島遺跡 (弥・古)	01084 古府ルビ遺跡 (弥～平)	08119 宮永水田遺跡 (縄)
16030 御経塚シンデン遺跡 (縄・弥・古・中)	01084 古府ルビ遺跡 (弥～平)	01085 おまる塚古墳 (古)	08121 宮永遺跡 (古)
16031 御経塚シンデン古墳群 (古)	01085 おまる塚古墳 (古)	01086 宇佐神社古墳 (古)	08122 宮永B遺跡 (縄・古・中)
16032 御経塚オツ遺跡 (縄・弥・古・中)	01086 宇佐神社古墳 (古)	01087 北塚古墳群 (古)	08123 旭小学校遺跡 (弥・古)
16033 野代遺跡 (縄)	01087 北塚古墳群 (古)	01088 北塚遺跡 (縄・弥・平・中)	08124 一塚オモミナクチ遺跡 (弥)
16034 上宮寺跡 (室)	01088 北塚遺跡 (縄・弥・平・中)	01120 大熊キョウテン遺跡 (?)	08125 一塚遺跡 (縄・弥・中)
16035 押野館跡 (室)	01120 大熊キョウテン遺跡 (?)	01121 扇台遺跡 (弥・平)	08126 一塚墳墓・古墳群 (弥・古)
16036 押野タチナカ遺跡 (縄・弥)	01121 扇台遺跡 (弥・平)	01125 米京遺跡 (縄・弥・平)	08127 八田小館遺跡 (弥)
16037 押野ウマワタリ遺跡 (弥)	01125 米京遺跡 (縄・弥・平)	01400 馬替遺跡 (縄・古)	08128 八田中遺跡 (縄～古)
16038 押野大塚遺跡 (縄・弥)	01400 馬替遺跡 (縄・古)	松任市	08129 八田中村遺跡 (近)
16039 富摩館跡 (中)	松任市	08033 三浦常光寺跡 (鎌)	08130 八田中ヒエモンダ遺跡 (縄・弥)
16040 高橋ウバガタ遺跡 (弥)	08033 三浦常光寺跡 (鎌)	08034 三浦遺跡 (古・奈～中)	08131 八田中アレチ遺跡 (縄・弥)
16043 扇が丘ハワイゴク遺跡 (縄～中)	08034 三浦遺跡 (古・奈～中)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08132 中保遺跡 (?)
金沢市		08035 若林長門館跡 (室・安)	08133 下福増遺跡 (縄・弥・奈・平)
01039 下安原遺跡 (縄・古・中・近)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08134 横江荘々家跡 (平)
01040 安原工業団地B遺跡 (弥～平)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08135 横江荘遺跡 (奈・平)
01041 安原工業団地B遺跡 (弥・平)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08136 横江ゴクラク寺遺跡 (縄・中)
01042 緑地地下水処理場遺跡 (弥)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08137 横江館跡 (中)
01043 緑地公園遺跡 (古・平)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08138 横江A遺跡 (縄・弥)
01044 上安原緑閑地遺跡 (弥・古)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08139 横江B遺跡 (平)
01045 南塚遺跡 (縄・古)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08140 横江C遺跡 (古)
01046 びわ塚古墳 (古)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08141 横江D遺跡 (?)
01047 上安原遺跡 (古～平)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08142 横江古屋敷遺跡 (弥)
01048 中屋ヘシタ遺跡 (奈～中)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	
01049 福増遺跡 (?)	08035 若林長門館跡 (室・安)	08035 若林長門館跡 (室・安)	

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

御経塚町周辺の野々市町北部一帯は、昭和40年代の金沢バイパス（現国道8号線）開道を契機に都市化を歩むこととなる。昭和50年代から徐々に開発が進行し、金沢市南郊地域における道路の整備や住宅地の供給を目的として稲荷・押越・野代地区において土地区画整理事業が相次いで着工している。御経塚町内では、まず8号線東側一帯で御経塚第一土地区画整理事業が着手された。この事業完了後の昭和57年（1982）には早くも8号線西側の御経塚町全域と長池町、二日市町の一部を含むJR北陸本線北側の地域について新たな土地区画整理事業施行の機運が高まり、地元では御経塚第二十土地区画整理事業組合設立準備委員会が発足し準備作業が進められた。その後昭和59年（1984）には事業認可が決定的な状況となった。事業区域には周知の御経塚遺跡、御経塚経塚の分布と新たな埋蔵文化財の存在が想定されることから、土地区画整理準備委員会、野々市町都市整備課（現都市計画課）、野々市町教育委員会の三者により事前協議を行い、事業施行予定全域についての分布確認調査実施が決定した。この間、昭和59（1984）年11月30日には60.1haにおよぶ面積が市街化区域に編入されている（第3図）。分布調査は同59年12月～翌60年3月の冬季かけて実施する急なもので、小型掘削機及び人力で試掘し埋蔵文化財の有無を確認した。調査では新たに御経塚シンデン遺跡、御経塚オッコ遺跡、長池キタノハシ遺跡、長池ニシタンボ遺跡、二日市イシバチ遺跡を発見した。短期間の分布調査のため、御経塚シンデン遺跡は詳細な遺跡範囲を十分に把握できなかったことから、同60年10月21日から23日にかけて再度試掘調査を実施している。この後の協議で埋蔵文化財は記録保存を目的とする発掘調査とし、道路築造部分と併せ住宅及び店舗等が建設必至の街区内についても調査の対象範囲に含め、野々市町教育委員会が受託事業として実施することを確認した。翌61年6月12日に野々市町御経塚第二土地区画整理組合設立準備委員会と協定を締結している。

第2節 調査の経過

御経塚シンデン遺跡は、当初昭和61・62年の2か年で現場調査を終了する計画であった。しかし遺構の分布状況から、昭和63年には南北の農道敷き部分の調査を追加することとなり（第3次）、同年の御経塚経塚周辺の分布確認調査によって現大塚川（馬場川）右岸に本遺跡の分布を確認したため、平成3年には緑道部分を調査している（第4次）。平成8年には、池の計画された都市公園部分の追加調査を実施した結果、調査は通算第5次にわたることとなった（第4図）。

第1次調査は準備委員会と協定締結後まもなくの昭和61（1986）年7月15日に開始した。遺跡の南側約1/3にあたる面積を調査対象としている。表土除去作業に先立ち、遺跡縁辺南東部の詳細分布を知るべくトレンチ調査を行い、調査範囲を決定した。次年度の水田耕作のため畦を残して表土除去作業を行い、水田区画を基準とする東西A～C区、南北1～10区の地区割を設定した（第5図）。A4区から遺構確認作業をはじめ、中世と想定する溝、布掘式の掘立柱建物や16mの間隔をおき幅5mの溝2条を確認したが、古墳周溝との認識は後日となる。A3区からA2区と調査を進め2基の古墳周溝を確認する。A4区古墳周溝を把握すべくA3区間の農道を除去するとともに迂回路を現場仮設小屋の南に設置する。この古墳を前方後方墳と確認し後方に未検出部分が残るため、A4区とA3区をブルーシートで保護し検出状態を次年度まで保つことで組合と調整する。9月17日からB区の調査を行う。B1・2区の遺構密度は低いが掘立柱建物、土坑を検出する。B3区では竪穴建物、土坑群、B4区では1基の古墳と土坑群を検出する。第1次の調査により、弥生時代後期月影式期の集落廃絶後、前方後方墳を中心とする初期古墳群が形成される重要な遺跡と認識を深めた。墳丘は後世に削平され残っていないが、平野部の水田下から現れた5基の古墳周溝は迫力があり調査員を驚かしたことは事実である。4か月におよぶ調査は埋め戻し作業を終え12月27日に終了した。次年予定の第2次調査は面積が大きいため3月から実施することになった。

第2次調査は前年調査区の北側にあたる遺跡の約2/3の面積を調査対象区としたが、ほぼ4割は水田耕作のため収穫後の調査となった。まず前方後方墳の全体を把握すべく、調査はA5区より昭和62（1987）年3月13日に開始し

た。次にA7区、C4・5区へと調査を進める。5月中旬には前方後方墳の空中写真撮影を行い、A6区調査のため埋め戻した。A7区と距離を置くC4区で新たに1基づつの古墳周溝を確認し、古墳群の構成は10基以上と推定した。6月～9月にかけてB区の調査を進める。弥生時代後期と古代前期の集落構成遺構群、3基の古墳周溝を確認する。稲作終了後の8月下旬からC2・3・6～9区、A8～10区の調査を行う。古墳周溝の検出と第1次調査から続く手実測による記録作業には多くの時間を要したが、埋め戻し作業も含め12月24日に9か月間の調査を終えた。前年度と合わせて古墳12基、竪穴建物20棟、掘立柱建物39棟を検出するにいった。この遺構検出状況から、幅5mの南北に走る農道部分の調査を翌年に実施することについて10月に組合と協議し了承を得ている。

第3次調査は前述のとおり遺跡のほぼ中央を南北に走る農道部分70mを昭和63(1988)年6月13日～7月30日にかけて実施した。

平成3(1991)年10月17日から開始し11月19日に終了した第4次調査は、大塚川に沿う幅3mの緑道築造を原因とするもので、御経塚経塚の西側が対象区となった。幅5mの古墳周溝を検出した。

第5次調査地区は、都市公園になるため緑道部分を除き調査対象外であった。しかし、親水公園としての位置付けから「滝のある小池」の計画が決定し掘削工事は必至となった。調査は組合との協議によって平成8(1996)年度に行うこととなり、第4次調査で確認した古墳周溝と経塚の周囲の状況調査も兼ね調査区を設定した。この状況調査は掘削工事が行われない区域についての調査であり、また耕作土直下が地山となることから実施したもので、遺構の確認にとどめている。調査は6月17日～10月31日にかけて実施した。7月には野々市町立布水中学校2年生の職業体験を受け入れている。10月に空中写真測量を行い状況調査部分も作図範囲とした。前方後方墳1基、方墳1基、中世期土坑群、河道跡を検出している。

出土品の整理作業は昭和61～平成元年度と平成9・10年度に行った。

発掘調査の現地作業及び出土品整理作業は次の方々協力して頂いた。記して謝意を表する。

現場作業

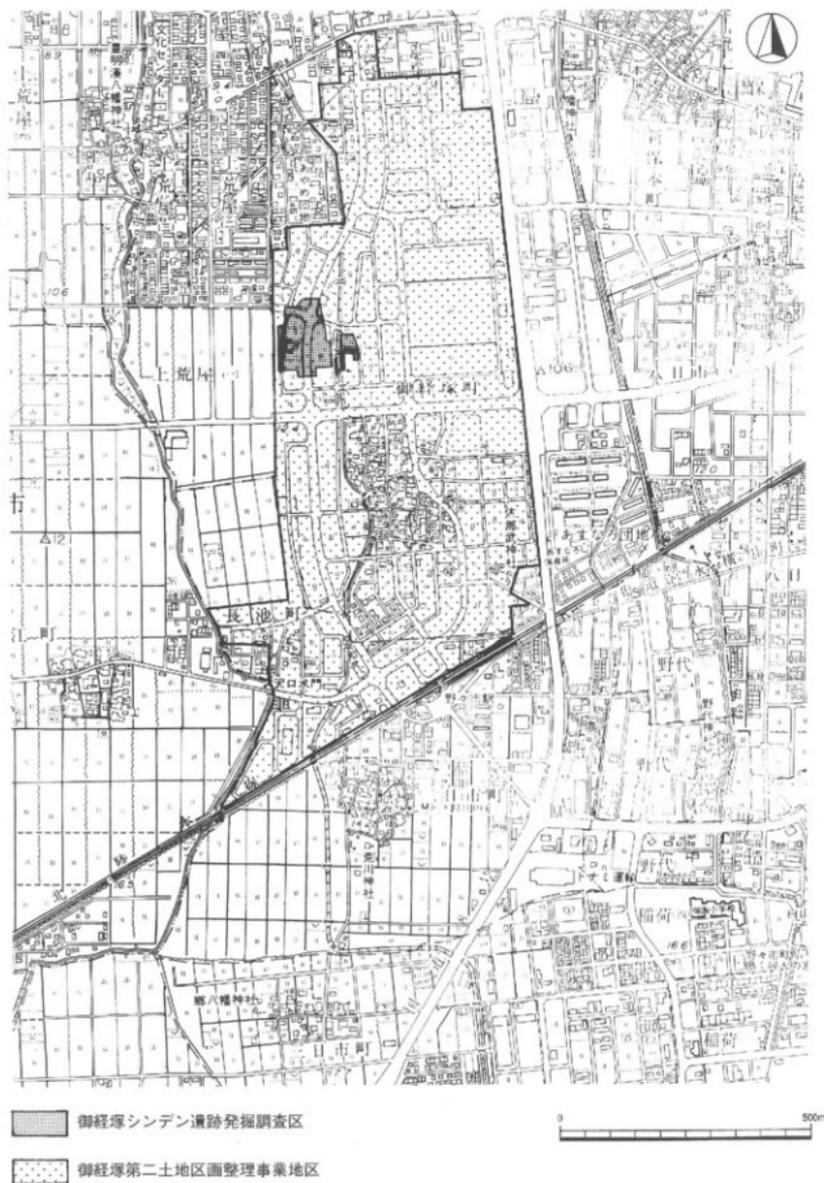
秋元元子、井田義二、石田紀子、伊藤久直、市村美知栄、上杉嘉春、大瀬戸武夫、大村淳子、尾倉利男、尾崎義雄、北和子、北貞雄、北川弘子、北川敏子、桑田しず子、李田まり子、小寺和子、小堀洋、小松義一、桜たづ子、斎藤千津子、澤村博、三納友吉、庄田トキ子、千代正志、高地ゆり子、高出マチ子、竹井由紀子、竹島みや子、谷口珠江、高島純子、塚崎咲子、塚崎陽一、塚本あい子、塚本千代子、塚本房子、塚本友江、綱島得實、百々和子、長沢恵子、中山悟、西村洋子、布一由里、長谷川啓子、浜田五郎、浜野光蔵、半村直樹、半村知之、半村美紀子、東美恵、藤田治郎、毎田百合子、三島一郎、宮田澄子、宮田孝子、宮野渡、宮本隆、村田よし子、安井千代子、山口恵子、山下陽子、山田洋子、山本いつ子、山本甚五郎、吉新美智子、米田みどり、渡邊勝己

整理作業

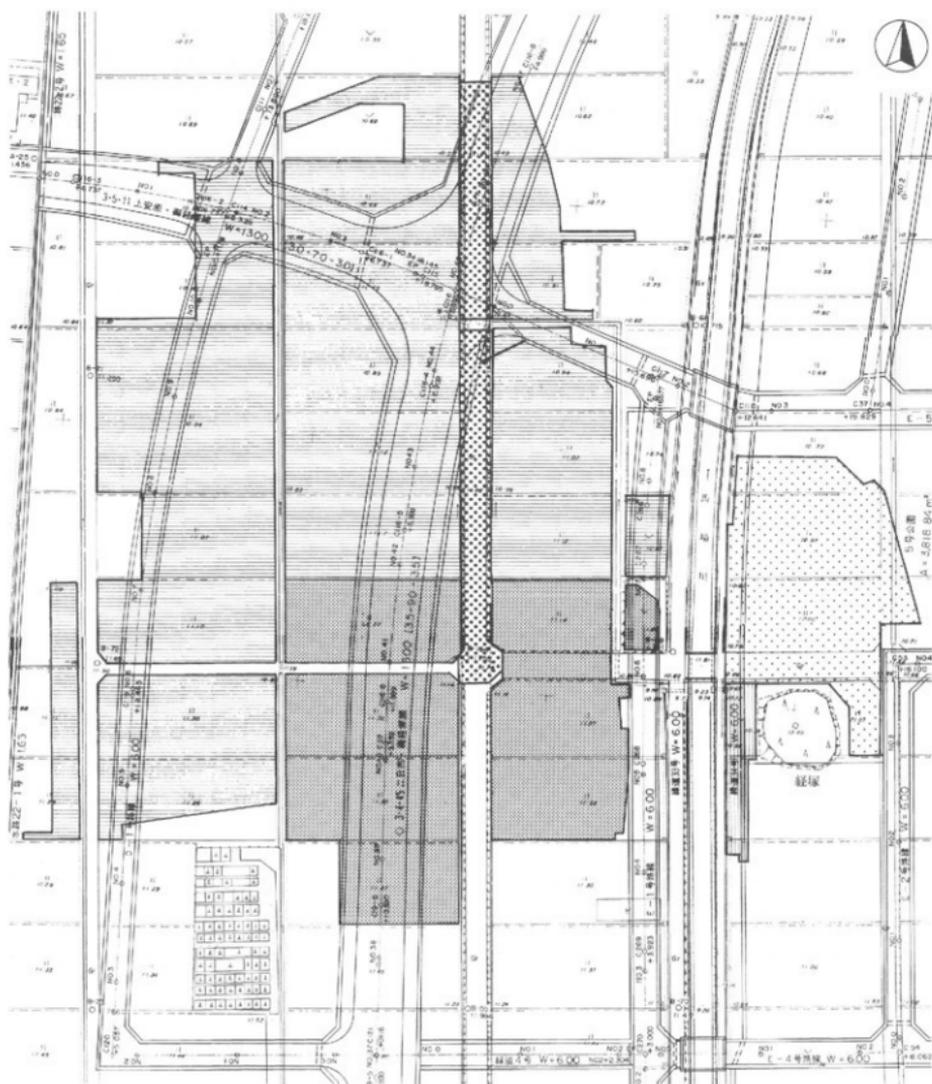
市村美知栄、大杉幸江、川端敦子、中出正子、長谷川啓子、宮本洋子



発掘調査風景



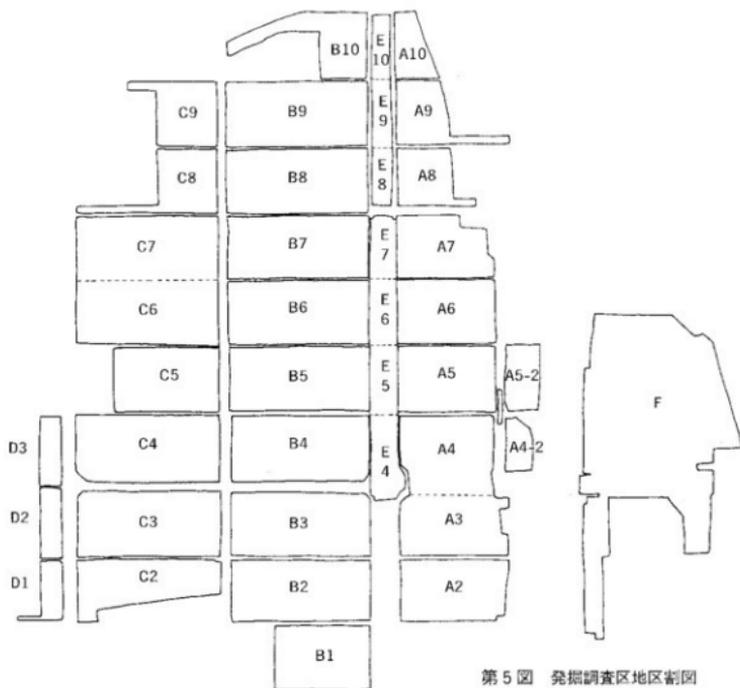
第3図 遺跡周辺及び調査区位置図 (1/10,000)



- | | | | |
|--|-----------------|---|-----------------|
|  | 第1次 (1986年) 調査区 |  | 第4次 (1991年) 調査区 |
|  | 第2次 (1987年) 調査区 |  | 第5次 (1996年) 調査区 |
|  | 第3次 (1988年) 調査区 | | |



第4図 御経塚シンデン遺跡調査区図 (1/1,000)



第5図 発掘調査区地区割図

第3章 遺構と遺物

第1節 地形と調査の概要

御経塚シンデン遺跡はF区河道跡西側一帯の北西方向に伸びる微高地上に立地する。また、B3区西側からC8区にかけて幅約25m、深さ20cm前後の鞍部が微高地と同じ北西方向に走る。この凹地を挟みC2・3、D区は微高地となり、D区に接する金沢市上荒塚地内の水田面は西方に向け徐々に低くなっていくことが観察される。A2区ではほぼ東西方向に鞍部を検出しており、C2・B3区南側では地山が南方向へと緩く落ち込みA2区鞍部の延長と推定している。これはB1・2区を挟む2つの鞍部が同一となって前述の鞍部と繋がるもので、扇状地端部における地形の複雑さを示すものであろう。B2区北3/4の範囲は地山質の下に礫層が深く続き、周辺からの遺構が分断される異なる状況が見られた。この範囲はB2区の水田区画に従うことから、明治時代末から大正時代初頭にかけて実施された耕地整理事業における礫の埋め込みが行われた個所と判断している。

調査では低地部分において一部包含層を検出したものの、ほとんどは耕土直下が地山という状況であった。このことは、小字名の「シンデン」からも窺えるように、遅くとも近世の新田開発によって微高地が削平されて耕地に変えられたものと考えられる。この新田開発では現在遺跡を東西に分断する馬場川（大塚川）の付け替え工事が行われている。遺跡の東方を流れていた旧流路を微高地の最も高い現在の位置へと変更したもので、新たに開墾した

耕地へ水利の便を図ったものであろう。この旧馬場川は昭和63年に経塚東20m付近とで流路の一部を確認している。なお、馬場川は手取川七ヶ用水のうち郷用水の本流として近世以降重要な位置を占める用水のひとつである。

御経塚シンデン遺跡の主体となる時期は縄文時代後期中葉、弥生時代後期から古墳時代前期、古代前期、14世紀代の中世期に分かれる。しかし、縄文時代の遺構は確認しておらず、後世における削平の影響と考えている。従って遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落、古墳群、古墳時代後期の集落を主体とし、中世期のものが一部加わる状況である。検出した主要な遺構は、竪穴建物(SI)27棟、掘立柱建物(SB)46棟、古墳(ST)15基、土坑(SK)105基、溝(SD)18条、ピット多数などである。竪穴建物及び掘立柱建物は弥生時代後期から古墳時代前期と古墳時代後期に所属し、これらはいくつかの群によって形成されている。上坑及び溝、ピットは各時期のものを検出している。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものが最も多く、ついで縄文時代後期、古墳時代後期となるが、中世期の遺物はごく少量である。石器類は所属時期の判別しづらい砥石や打製石斧が遺構から混入して出土しているため第6節において一括して報告することにした。

第2節 縄文時代～弥生時代中期初頭

縄文時代の遺構は確認していないが、同時期のものとして唯一F区において河道跡を検出したにとどまる。この河道跡からは後期中葉加曾利B1式～B2式併行期の土器が集中して出土した。調査区出土土器の多くは後代の遺構に混入して出土しており、調査区全般に分布する状況であった。後期中葉の土器が出土数量のほとんどを占め、後期後葉～晩期前半は数点、晩期末～弥生時代前期にかけての土器は少量だが、一定量見られる。調査地区での分布状況は、後期中葉はA・F区、晩期末～弥生時代前期はB区から出土する傾向が見られる。弥生時代前期から中期初頭の遺構についても不明であり、また土器の出土量が小量なことからこの節に含めたものである。

1 河道跡(第6図)

河道跡はF区東側に位置する。一部の検出ではあるが2時期の流路を確認している。ひとつは縄文時代後期中葉頃の流路であり、北西方向に流路をもつ。一方は弥生時代後期のもので、東方向から北東方向へ向きを変える屈曲部分を検出している。この弥生時代後期の流路はB8区東側トレンチ部の落ち込みに迷っていきものと推定している。

縄文期及び弥生期の河道跡は一部分の検出のため、いずれも河道幅は不明である。縄文期河道の深さは検出面から0.8～1.1mを、弥生期河道の最も深い部分は1.35mを測る。河道跡はセクションベルトを境界として便宜的に北からN区、M区、S区の3つの地区に分けている。a-a'ベルトはN区とM区の境界としたもので、弥生時代後期流路の部分にあたる。b-b'ベルトはM区とS区の境界であり、上層は弥生時代後期流路、下層は縄文期の流路となる。a-a'断面6層とb-b'断面6層からは弥生時代後期の土器が多量に出土し、6層には腐食した植物の堆積が見られた。a-a'断面の10層は弥生時代後期の土器を少量含み、川砂層である最下層の11層は縄文土器を含んでいた。b-b'断面13層は縄文土器を多く包含する14・15層を振り、短い時間軸内に堆積した感が窺われ土質もやや柔らかいものであった。17・18層の黄色系のシルト質土と19層の砂質土は無遺物層である。

2 河道跡出土土器(第7～27図)

まず、縄文土器の出土状況を説明したい。N区・M区上層出土の縄文土器は弥生時代後期の土器と混在するもので、土層図6層及び6層の暗褐色粘質土からの出土である。M区下層出土土器は10層の明褐色粘質土と14・15層の灰褐色粘質土から、M区最下層の土器は11層の灰色砂質土からのものである。S区上層出土土器はM区上層同様に暗褐色粘質土の6層から、S区中層出土土器は13層の淡黄色シルト質土からである。縄文土器が最もまとまって出土した地点はS区下層である。土器は河道の岸からほぼ2.5m以内の範囲に限られて出土し、岸からの廃棄と考えられる状況である。S区下層出土土器は14～15層の灰褐色粘質土からのものである。14・15層は土器が河道の落ち込みと平行して出土した面をもとに分離した層で、下部に向け漸次的に淡く変化していた土色からは判断できなかった。

このため検出では前記の出土面をもって上部と下部に分け土器を取り上げたが、上部と下部との土器の混在はまぬがれないものである。

河道下層から出土した後期中葉の土器群は、東日本系の土器と西日本系の土器が混在するなかに少量の在地土器が加わる様相を呈している。土器図版は検出状況に基づき作成したもので、土器は東日本系→西日本系の順に配置し、在地のものは東日本系に含め東海系は西日本系に含めた。器種については深鉢、鉢・浅鉢、注口、底部の順とした。しかし系統や器種の判断には迷うものがあり間違ひも生じていよう。土器の記述は実測図からでは判断しにくい点を主に行い、主要な縄文時代後期中葉の土器群は時期の記述を省略する。器種、法量、地文、底部圧痕などは節木の一覧表を参照頂きたい。文様の名称は馬背遺跡報告書（南1993）に準拠したのもある。

N区・M区上層（1～10） 1は波頂部に粘土を貼付した後で短線を施すものである。2の壺は頸部に5条の沈線を施文するもので、外面はミガキが施される。色調は明黄灰色を呈し胎土には大粒の石英粒を含む。金沢市南新保三枚出遺跡（楠・宮本1984）出土の壺に類似する弥生時代中期初頭のものと同判断している。4は連続する斜行短沈線を施した後この端部を円形刺突している。6は斜位の条痕文地に平行沈線を施すものである。5・6・9は晩期後葉頃の土器と考えられる。

M区下層（11～21） 11は耳状の偏向突起（口縁の水平接線方向を向く左右不对称のもの）を有する。12は波底部位の破片であり、「()」状文を縦に連ねて単位文が施される。14の口縁上部の縄文帯には指頭を押圧がみられる。15の平行沈線間には連続刺突が施される。16は蛇行する沈線が施されるが文様構成は不明である。18の突起は下部に大きく瘤状の隆起を有する。19の突起内側には刺突が1個所みられる。

M区最下層（22～30） 22は平行沈線間を縦短線で区切り、隆帯には刻みが施こされる。24は器壁の薄いもので西日本系の土器であろう。25は口縁部に突起を有し、2平行沈線間は刻みが施される。27は16に類似する蛇行沈線と隆帯状の部分がみられる。29は浅鉢の把手状になる突起と考えられ、指で摘まみ整形している。

S区上層（31～35） 31は平行沈線間を縦短線で区切るもので、32の文様帯には非常に細かい縞系文が充填されている。33の浅鉢は14および130と同一個体である。34・35は幅広の凹線が施されるもので後期後葉の所産であろう。

S区中層（36～52） 36は口縁部が外反し蛇行沈線文と弧線文が施される。38の突起は偏向突起である。西日本系の40は半円状の波頂部に「((()))」状文を縦連し、内面には幅広の沈線を2条入れるものである。41の波頂部は三角状に尖るものである。43・44は磨消縄文帯となるもので、43は注口土器の口縁部であろう。45は沈線区画間に円形押圧を施す。46・47は条線文が施される注口土器で、47は縦のS字状文と円形押圧文が単位文となる。48の平行沈線と緩い弧線文間は磨消縄文となる。

S区下層上部（53～164） 53～84は東日本系と在地の土器と判断した深鉢である。56は平行沈線間に斜位の刺突を施すもので、入組文と綾杉状文が見られる在地の土器であろう。54・55・57～62は平行沈線間を2本一対の縦短線や押し文などで区切る手法を採るものである。波頂部位では単位文とするものが多い。54の短沈線はやや弧線を意識している。57の押し文はやや「C」字状となり下段の施文位置を順にずらしていく。62は7単位の小波状口縁となるもので在地の土器であろう。63は74に類似する上下2条の平行沈線間を弧線で区切る長楕円形区画となるものであろう。64は3単位の突起を有する小型の深鉢である。胎土は緻密で、色調は黒褐色から暗褐色を呈する搬入品と考えられる優品である。縦の「S」字状文と短弧線を区切り文とする。65～67は蛇行沈線を区切り文とするものである。65はくの字状口縁端部に「C」字状の貼付文が見られる。68～70は対弧となる弧線文が施される。68は磨消縄文と短沈線の区切り文が確認できる。69は弧線文に垂下する蛇行沈線が加わる。71の内面には81と同様に底状の隆帯がみられる。72は長楕円形区画が向き合うと考えられるが、波頂部の形状は不明である。73は方形区画入れ子にしている。74は平行沈線間に弧線を施し長楕円形区画とするもので口縁端部にも1条の沈線がみられる。75の3単位の突起の頂部は円形の押し文が施され、口縁部文様帯は「し」字状の沈線で長楕円形の区画とする。75の沈線と76の横沈線には連続刺突が施される。

85～126は西日本系の土器と判断した深鉢であるが、95・96・98・100・106は東日本系の土器であろう。85・86の波頂部単位文は「((()))」状文である。85には僅かに充填縄文の痕跡が見られる。87は3単位の波状口縁となるもので、波頂部文様は不明だが口縁端に瘤状の小突起を有し、両側下部に三角形の区画が見られる。口縁波底部

では対弧文を単位文とする。胴部文様は縦連「((0))」状文と三角形区画文(各単位文の上部と下部を斜行する沈線で結び三角形の区画をつくるもの)。88～93は蛇行沈線が施されるものである。同一個体である88・89の波頂部蛇行沈線は弧線を重ねたもので胴部文様には弧線の区切文が見られる。93の胴部文様における折り返す蛇行沈線の下部には弧線状の沈線となる部分が見られる。95は口唇部に刻みが施される。96は口縁端部の無文帯を1段低くし、肥厚する波頂部の隆帯を際立たせている。105は「く」の字状に屈折する口縁の上下を磨消縄文帯にするものである。107・108は4単位の波状口縁となり波頂端部が円形状の突起となる特徴的な深鉢である。107は胴部文様に略長方形の区画をもち、その下部の横位沈線は弧線になっている。108の円状突起は渦巻状になるもので胴部文様帯と頸部無文帯の境界は段状としている。円形押圧文を縦に並べ単位文とする胴部文様は三角形区画文を有するが崩れている。弧線文をもつ110の胴部片は磨消縄文としている。111の胴部文様は「し」字状の沈線と沈線連続刺突を施すもので頸部との境界は明瞭な段となる。112～117・119は3本束の沈線を施すものである。胴部片112～114の沈線は弧線によって区切られている。116では上下文様の弧の部分に対向させ波頂部経位で菱状の区画としている。121の口縁部と胴部には結び目縄文が施される。122の縄文帯の上部沈線は連続刺突が施される。

123～126は隆帯を貼付する東海系の土器とされるものである。123は口縁部に下向きの弧線刻目隆帯を連続させ連結部には円形押圧文を施す。この連結部と対応させて胴部と口縁端部に突起を貼付する。口縁端部の突起はやや縦長となり上部は円形に押圧されている。124は横位に蛇行する隆帯の貼付が考えられるもので、破片では隆帯を繋ぐ橋状の部分を行す。125の縦位隆帯は指頭によって深く押圧されている。

127～142は鉢・浅鉢と判断したものである。127は口唇部を縦に巻くように粘土紐を貼付し、平行沈線間は刻まれている。128は内面に縦の粘土紐を貼付して円形刺突を施し、外面は長楕円区画をナドリとするものであろう。129には蛇行する沈線が施される。130は弧線の単位文が見られるもので、14との接合を確認した。131・132の口唇部は細かく刻まれている。133は弧線文と沈線を連続刺突するものだが、連続刺突の施文は雑で沈線を外れる部分のみみられる。136は刻みを施す弧状の突起を貼付するものである。138の胴部文様は隆帯と沈線による長方形区画内に弧線を施文するもので沈線連続刺突や縦位隆帯の上下は指頭による押圧が施される。

148～164は注口土器である。143～146は条線文が施される。144には「逆の」字状文が並ぶ。146・147の単位文は不明である。148は無頸となるもので口唇部は刻まれている。149の口縁部文様は長楕円区画となる。155の単位文は「逆の」字状文である。161は弧線間や沈線間に結び目縄文が充填されている。

S区下部 (165～236) 165～182は東日本系の土器と判断した深鉢である。165・166は口縁部に条線文が施されるものである。168は小さな偏向突起をもつもので入組弧線文を波頂部の単位文とし、波底部では円形の刺突を沈線内と沈線の間に施している。169は区画文として蛇行沈線が並んで施される。171は蛇行沈線を単位文としその上下に竹管の刺突を加えるもので、外反する器形から在地の上器と考えられる。172・173は「し」字状の沈線で長楕円区画とするもので、172は平行沈線と施文具を替えて幅広の区画文としている。174～176は2本・1対の縦短線を区画文とするものである。177は小さな三角状の突起をもち区画文は口縁部で3本・1対の斜短線、胴部では「逆S」字状沈線を施す。

183～207は西日本系の深鉢と判断し、208は東海系の土器であるが、186は東日本系、201は注口土器であろう。183～185・187など波頂部に三角形の区画をもつものが多く見られる。183の波頂部の「((0))」状文は縦連となるものか。胴部文様は波底部経位に「((0))」状文を縦連するものである。184は波頂部とその経位の胴部には「((0))」状文と蛇行沈線を重連し、波底部には小さな「((0))」状文が見られその経位の胴部には蛇行沈線が施される。胴部には三角形区画をもつ。185の波頂部文様は入組弧線文を単位文とし、胴部文様は蛇行沈線によって平行沈線を区切るものである。187・198の胴の張らない器形は加曾利B式の影響が考えられるものである。187は波頂部および胴部とも蛇行沈線文が見られる。184・185・187・189は沈線の端や沈線の接合部に「つ」字状の短沈線を加えるものである。192は波頂部に「((0))」状文が施され胴部文様の境界は段になる。193は波頂端部に「S」字状の突起が見られるもので口縁部には蛇行沈線文と長楕円区画をもつ。200は平行沈線を弧線で区切り長楕円区画としている。205の沈線は連続刺突されるもので、波頂部を三角形の区画とし「0」状の文様が認められる。206は122と同一個体である。207は波頂端部が肥厚し口唇部を面取りするものである。208は刻目隆帯によって文様

を構成するもので、円形押圧する瘤状の突起を波頂部や波底部に施している。波頂部文様は連結部に瘤状突起を加えた縦の隆帯を線対称にして蛇行沈線を配置し、胴部では蛇行隆帯を区画文としている。

209～211・213～216は浅鉢である。209は口縁部の内外面に円状の突起と内面には断面三角状の凸帯を施す。210は弧線区画文をもち「()」状文を縦に並べるが、沈線はS字状に繋がっている。深鉢である212の波頂部は小さな台形状を呈している。216は138と同一個体である。217・218は深鉢で沈線に連続刺突が施される。

219～236は注口土器である。221は刻目隆帯と瘤状の突起が二つ見られる。232は刻目隆帯と斜格子状文が施され、233～235の沈線に連続刺突が見られる。

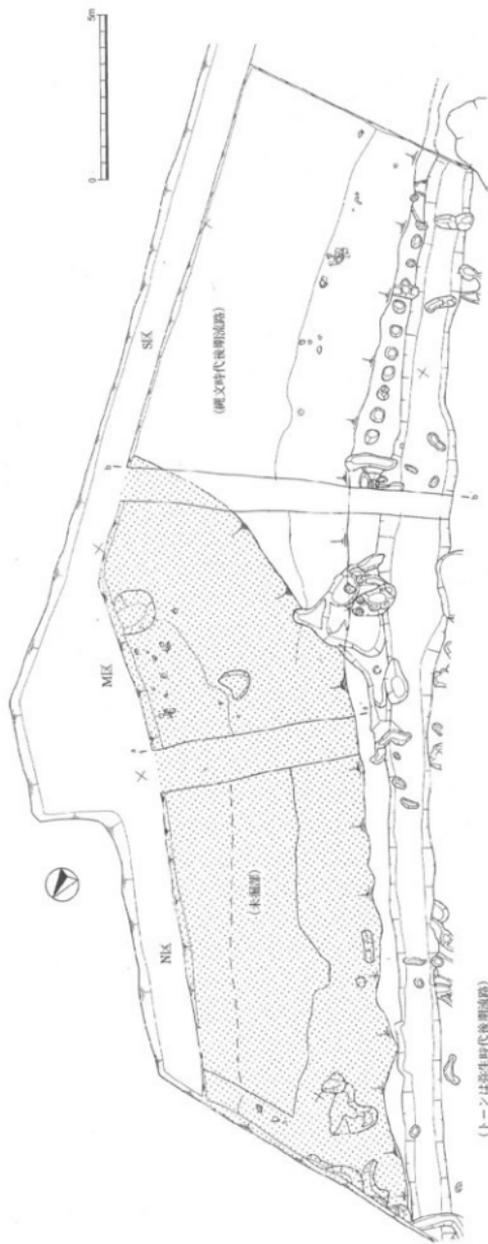
縄文・無文の土器、底部（第19～26図）法量等については一覧表を参照頂きたい。

2 調査区出土土器

調査区から出土した土器の多くは後代の遺構から出土したものである。土器は主体となる後期中葉、少量の後期後葉、晩期前葉、晩期後葉～弥生前期のものがある。後期中葉の上器はF区、A2～7区、B3・4区、C4～6区に分布が見られ、晩期後葉～弥生前期の土器はA4～7区、B2～6区、C6～7区に分布していた。土器は後期中葉と後期後葉以降に大別し、図版は出土地区毎にまとめ、器種の順序は河道跡出土に準じた。なおE区とA区の枝番地区はA区に合めている。

(1) 後期中葉（第27～32図）341は縦短線の区画文が見られる。344の幅広の沈線には斜め方向の連続刺突が施される。349の突起は筒状に立ち上がり内面に円形押圧文が一つ施される。350の突起は上から下へ隆帯をS字状に垂れ下げている。359の区切文は対弧文である。362の口縁部内面は幅広の浅い沈線が見られる。366は沈線に連続刺突が施される。367は晩期後半下野式期の深鉢である。369は浅鉢の把手であろう。縦の沈線には連続刺突が施されている。370・371は口縁部に縦位の隆帯を連続して施すもので、370は隆帯に短沈線を施す。378の注口土器と388には細かな燃糸文が施されている。379の下部沈線間は刻まれるが上部は磨消縄文としている。382の突起上部は欠損している。410の突起下部はドーナツ状の隆帯となる。412は偏向突起をもつが上部を欠く。421の口縁部には縦に粘土紐を貼付している。436の内面には「フ」字状の突起がある。437の口縁部の「し」字状沈線は起点を円形押圧文とする。450は注口付根部の下部にあたり半円状の隆帯が見られる。478・479は沈線に連続刺突が施される。480は「ノ」字状の隆帯を貼付するものであろう。501・502は隆帯が刻まれるものである。503の外面には「フ」の字状の突帯が見られる。504は内面に庇状の隆帯が2条施される。518は連続刺突沈線を対弧させて弧状に施すものである。533・534は同一個体であり弧線文間を磨消縄文とする。535は平縁となる注口土器の口縁部である。

(2) 後期後葉以降（第33・34図）536～538は後期後葉井口式の凹線土器である。539・540は後期後葉八日市新保式土器である。540は関西の滋賀式に類似する土器である。541は晩期前葉御経塚式土器である。542は半円彫り状に文様が施されるもので丁寧に磨かれている。色調は暗褐色を呈し、晩期前半頃のものと考えられる。543～592は晩期後葉長竹式と後続する弥生前期柴山出村式の上器をまとめたもので、長竹式段階では浮線水系浅鉢545・546・550～553・571・585の出土が目立ち、口縁部には幅の広い凹線を施すものが多い。壺544・584は小波状の口縁部となり、口唇部を押し出し口縁部の内面には沈線が施されている。545は小波状口縁になるもので浮線状となる鋸歯文が施される。546は口縁部に小さな突起が見られ刻目帯の下には指で掘み上げたような突起をもつ。548は頸部に沈線の痕跡が残る深鉢の破片である。549は口縁部の低い隆帯に刻みを施すものである。550は小波状口縁になるもので、多条平行沈線の施文はまず鋸歯状文とし、その後各頂点を繋げるものである。551は浮線網状文が施されている。552・553は口縁部に幅の広い沈線を施すものである。壺555は工字状文と列点文が施される。555～559・572・578～580・586・587は柴山出村式土器に判断できた土器で口縁部に凹線の施文や赤彩痕の残るものが多く、先細りの口縁端部が面取りされる粗製の562・569・570・583も当該期であろう。

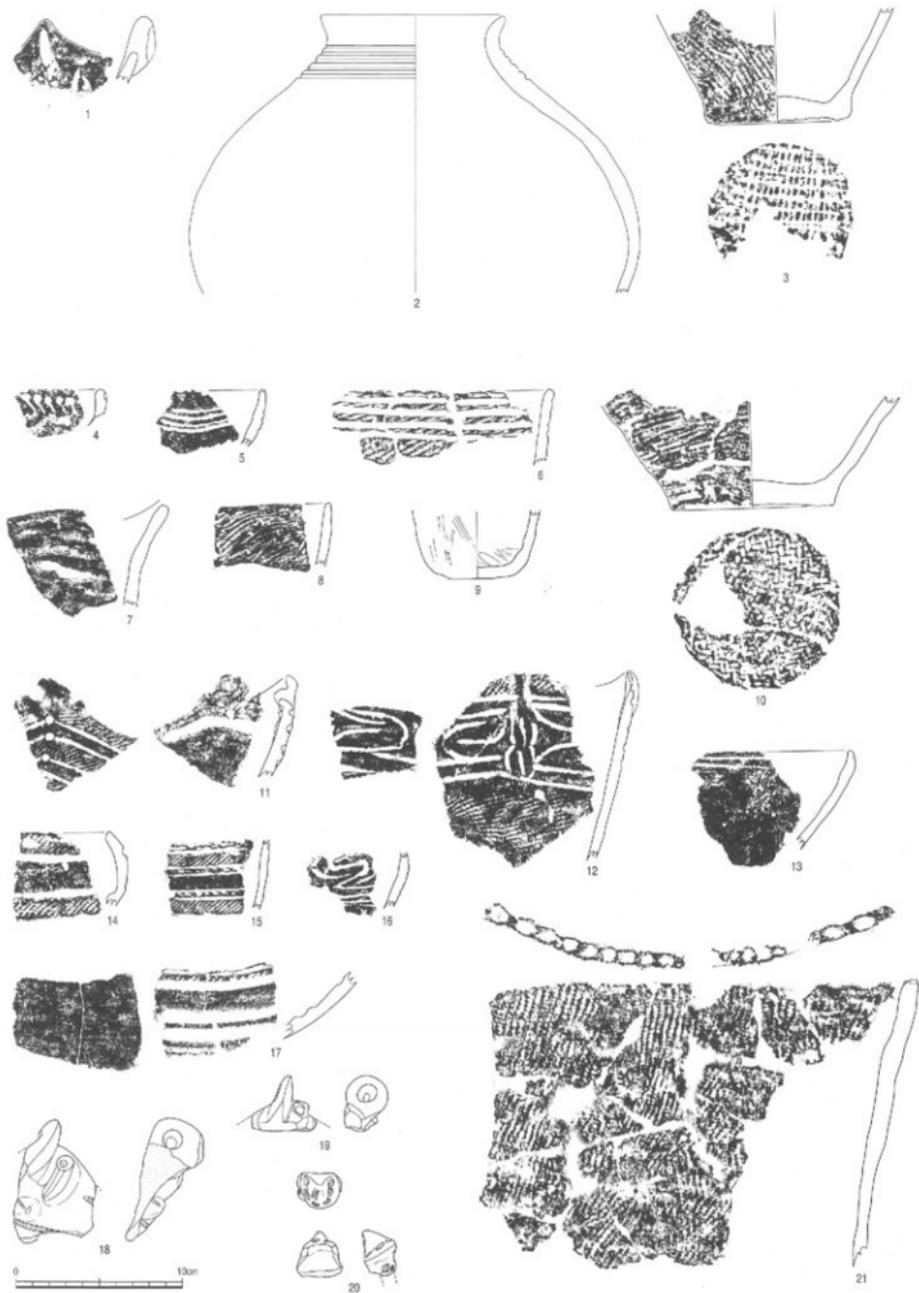


（トーンは弥生時代後期遺跡）

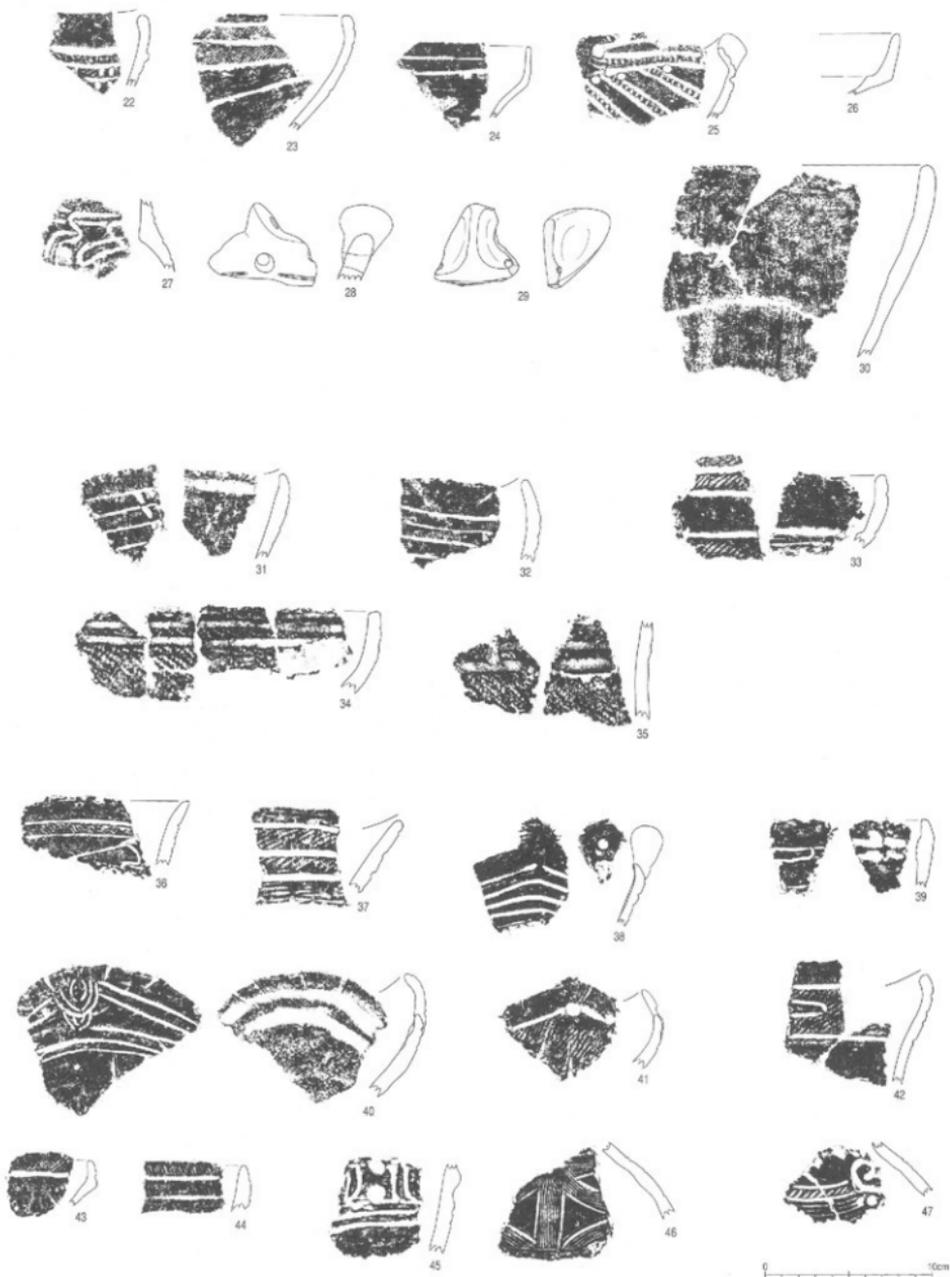


- | | | |
|---------------------------|----------------------|--------------------|
| 1 灰褐色粘質土 | 7 褐色粘質粘結質土 | 14 淡灰褐色粘質土（縄文土器含む） |
| 2 灰褐色粘質土 | 8 褐色粘質土 | 15 灰褐色粘質土（縄文土器含む） |
| 3 褐色粘質粘結質土 | 9 灰褐色粘質土 | 16 明灰褐色粘質土 |
| 4 褐色粘質土 | 10 所産色粘質土（赤土・縄文土器含む） | 17 灰褐色シルト質土 |
| 5 灰褐色シルト質土 | 11 灰褐色質土（シルト） | 18 濃黄褐色シルト質土 |
| 6 明灰粘質土（灰黄粘質粘結、弥生土器多量に含む） | 12 褐色粘質粘結質土 | 19 黄灰色砂質土 |
| | 13 淡灰褐色シルト質土 | |

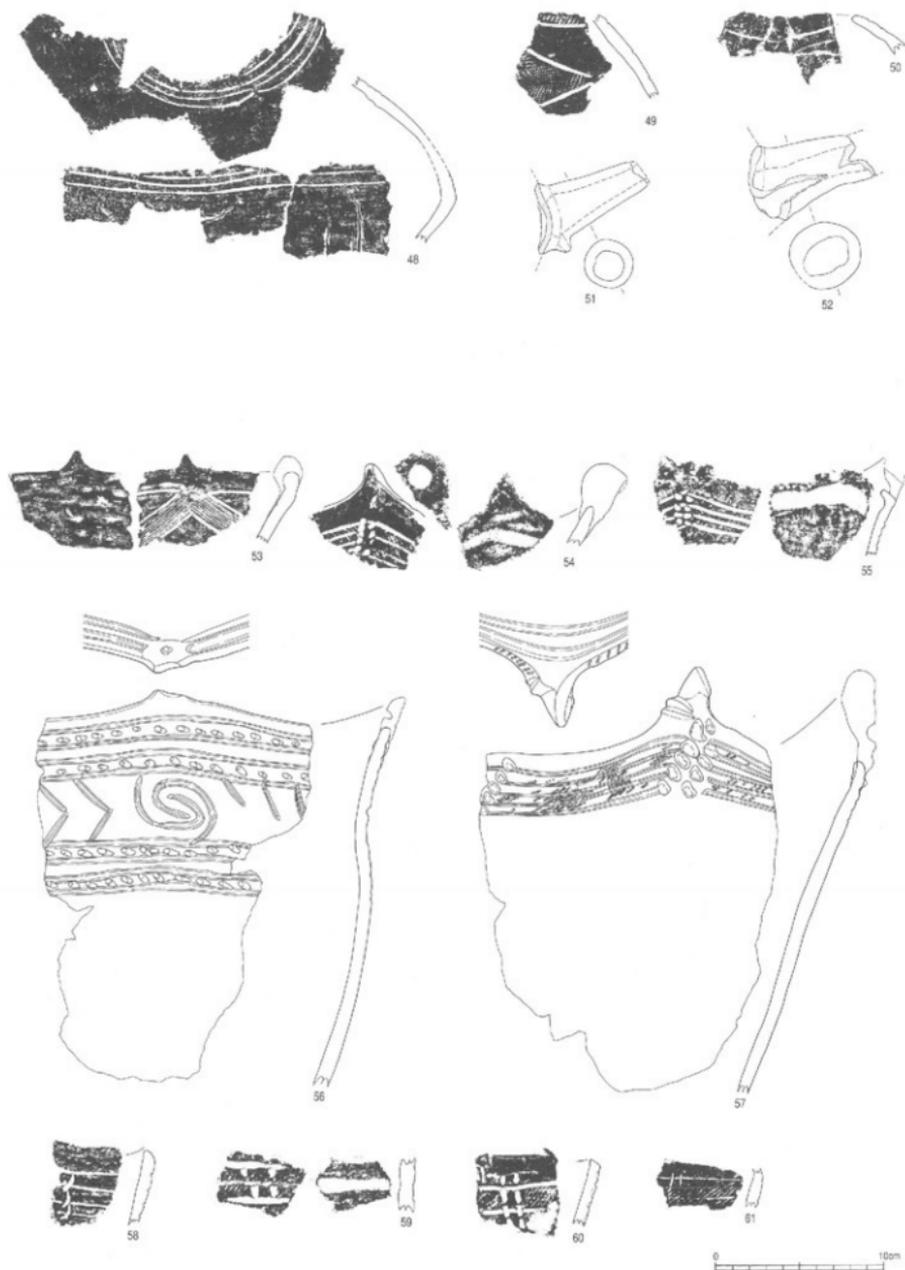
第6図 F区河溝跡平面図 (1/150)・断面図 (1/50)



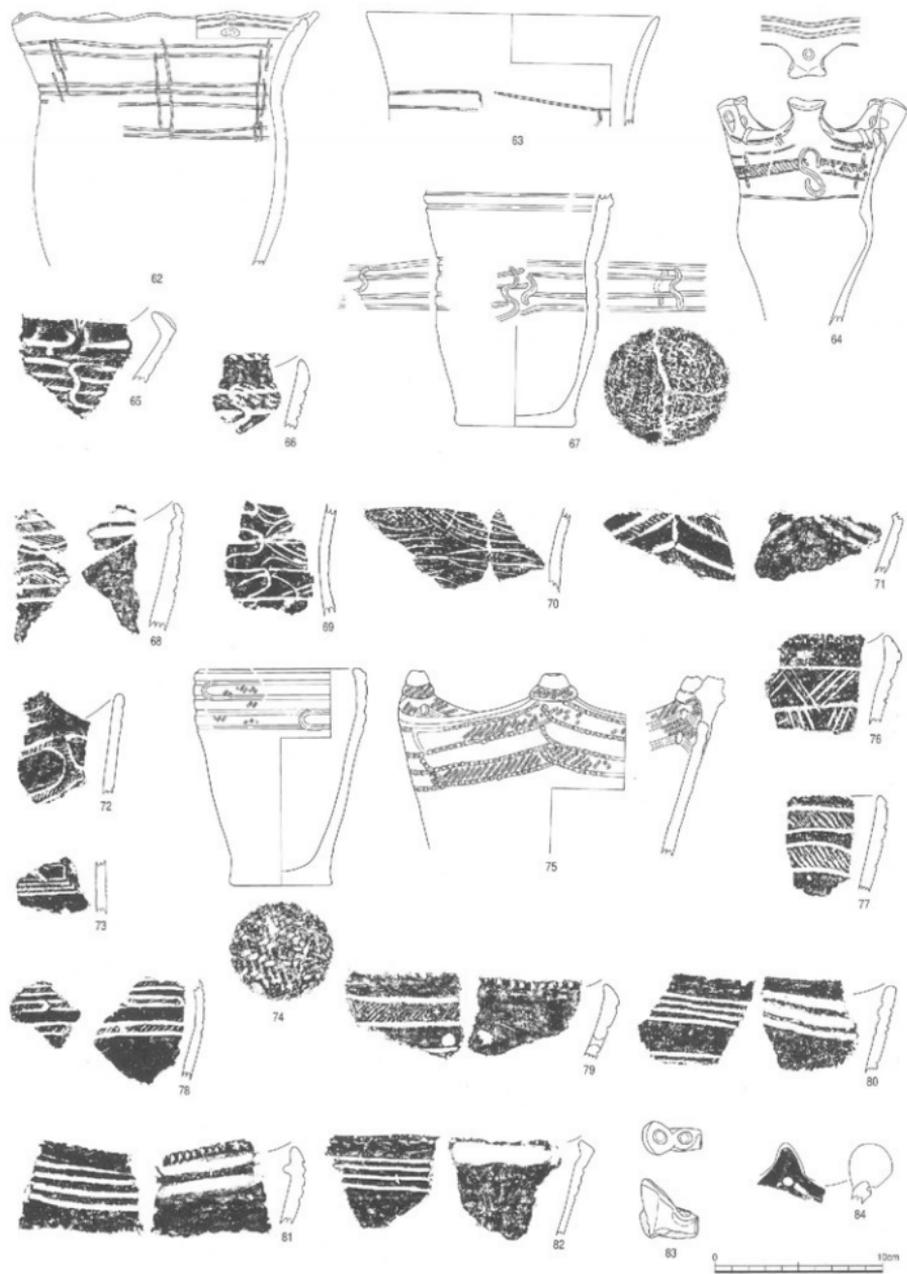
第7图 河道N区(1~3)·M区上層(4~10)·M区下層(11~21)出土土器(1/3)



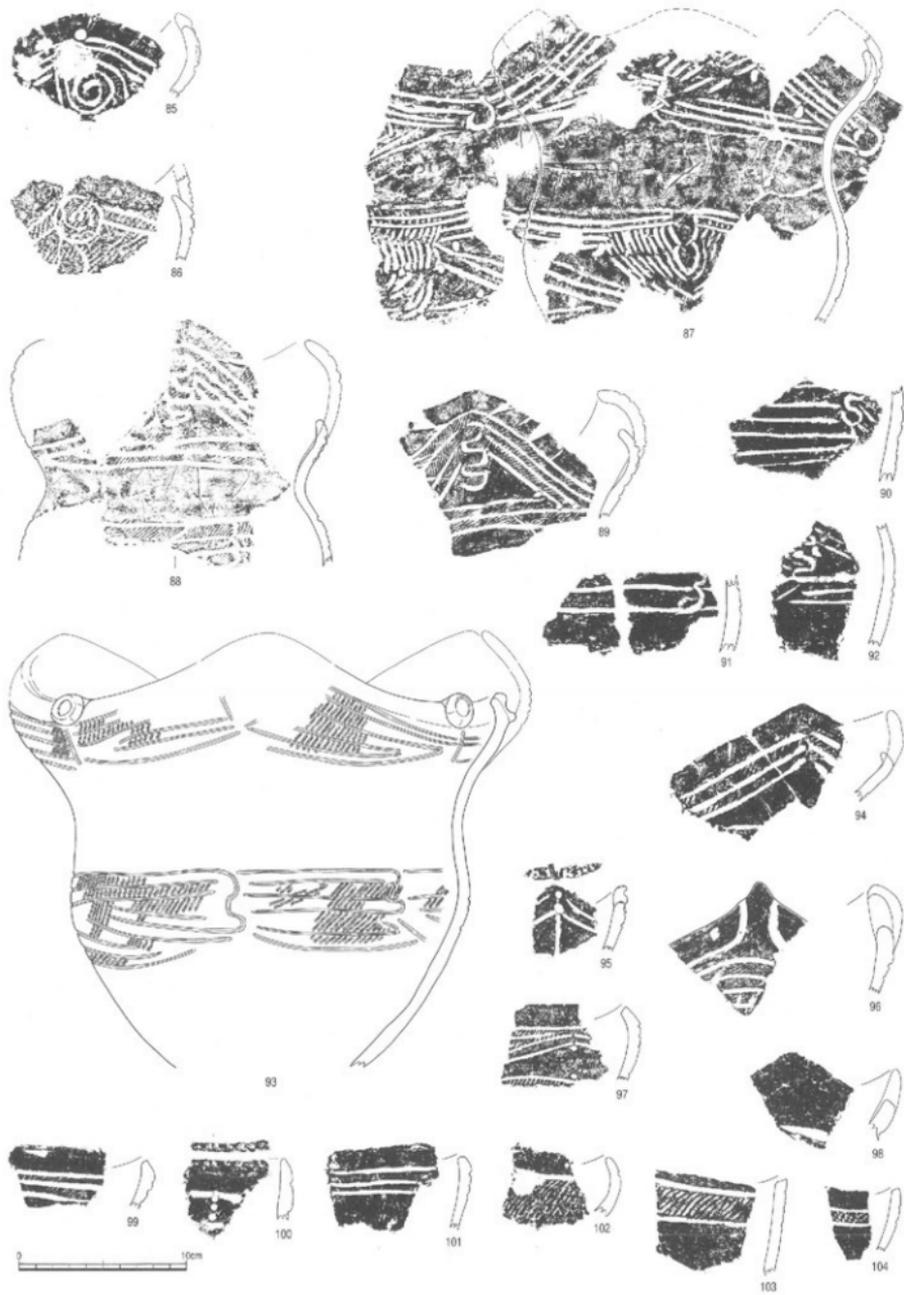
第8图 河道M区最下层(22~30)·S区上层(31~35)·S区中层(36~47)出土土器(1/3)



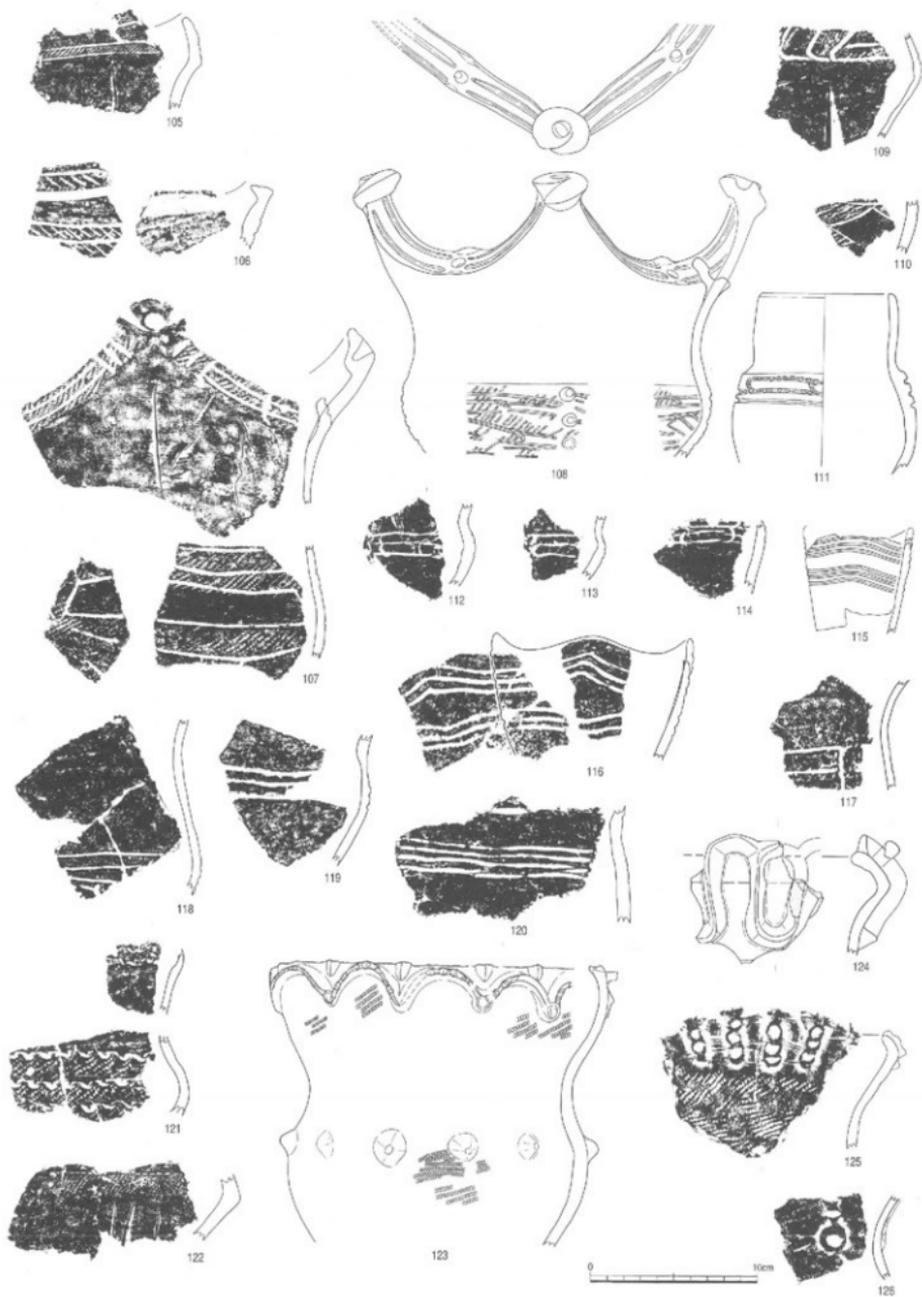
第9图 河道S区中層(48~52)・S区下層上部(53~61)出土土器(1/3)



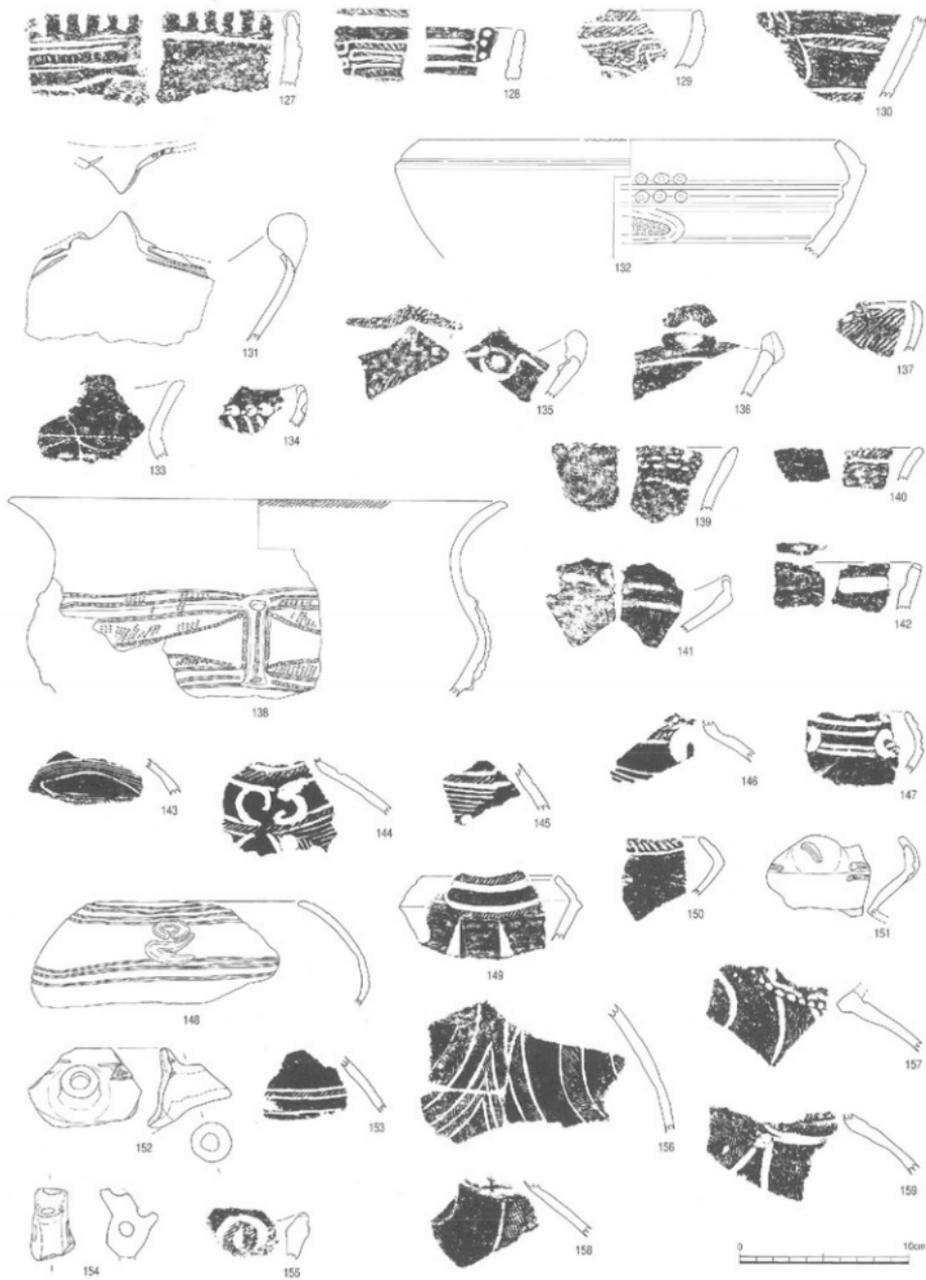
第10图 河道S区下層上部(62~84)出土土器(1/3)



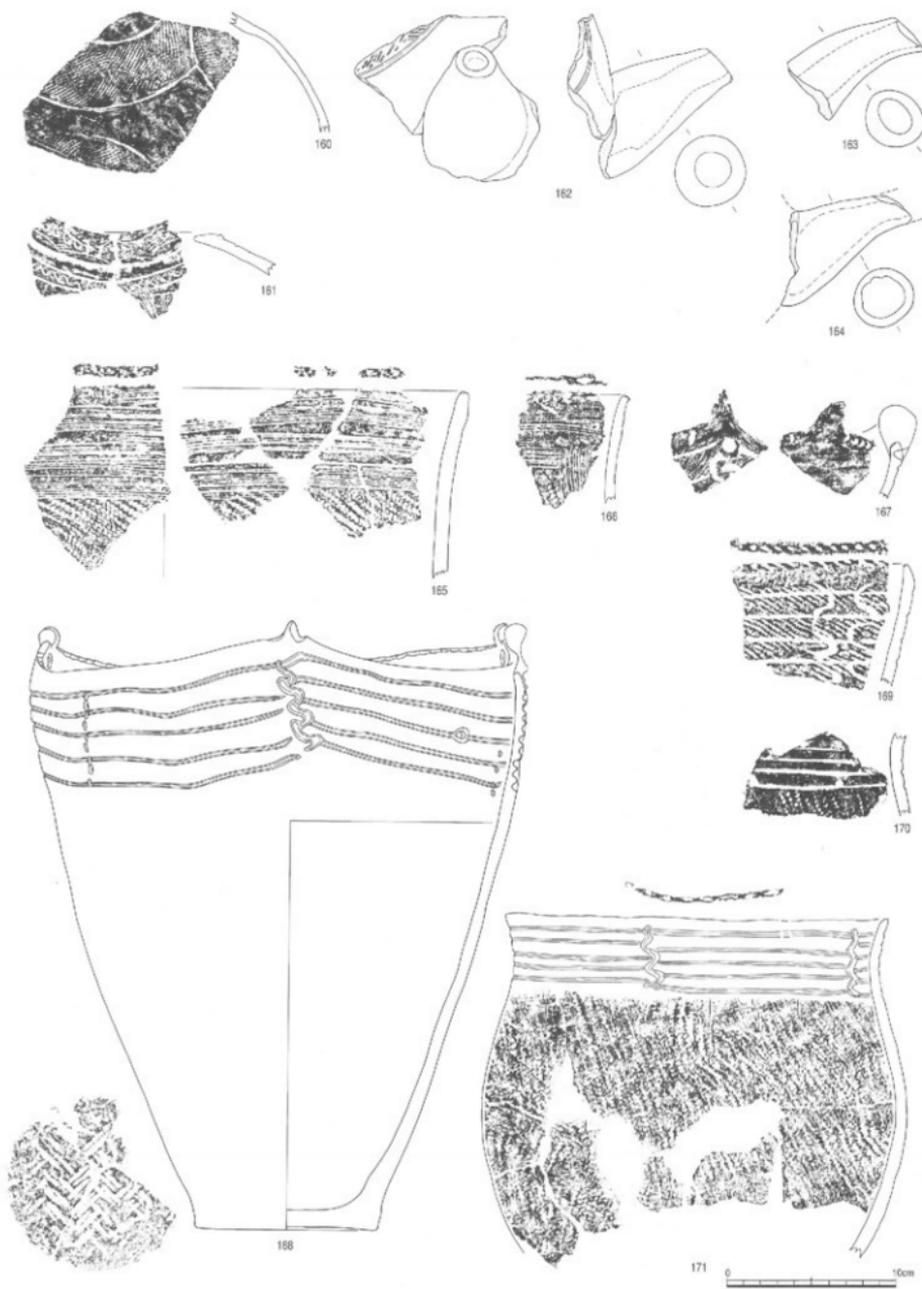
第11图 河道S区下層上部(85~104)出土土器(1/3)



第12图 河道S区下層上部(105~126)出土土器(1/3)



第13图 河道S区下層上部(127~159)出土土器(1/3)



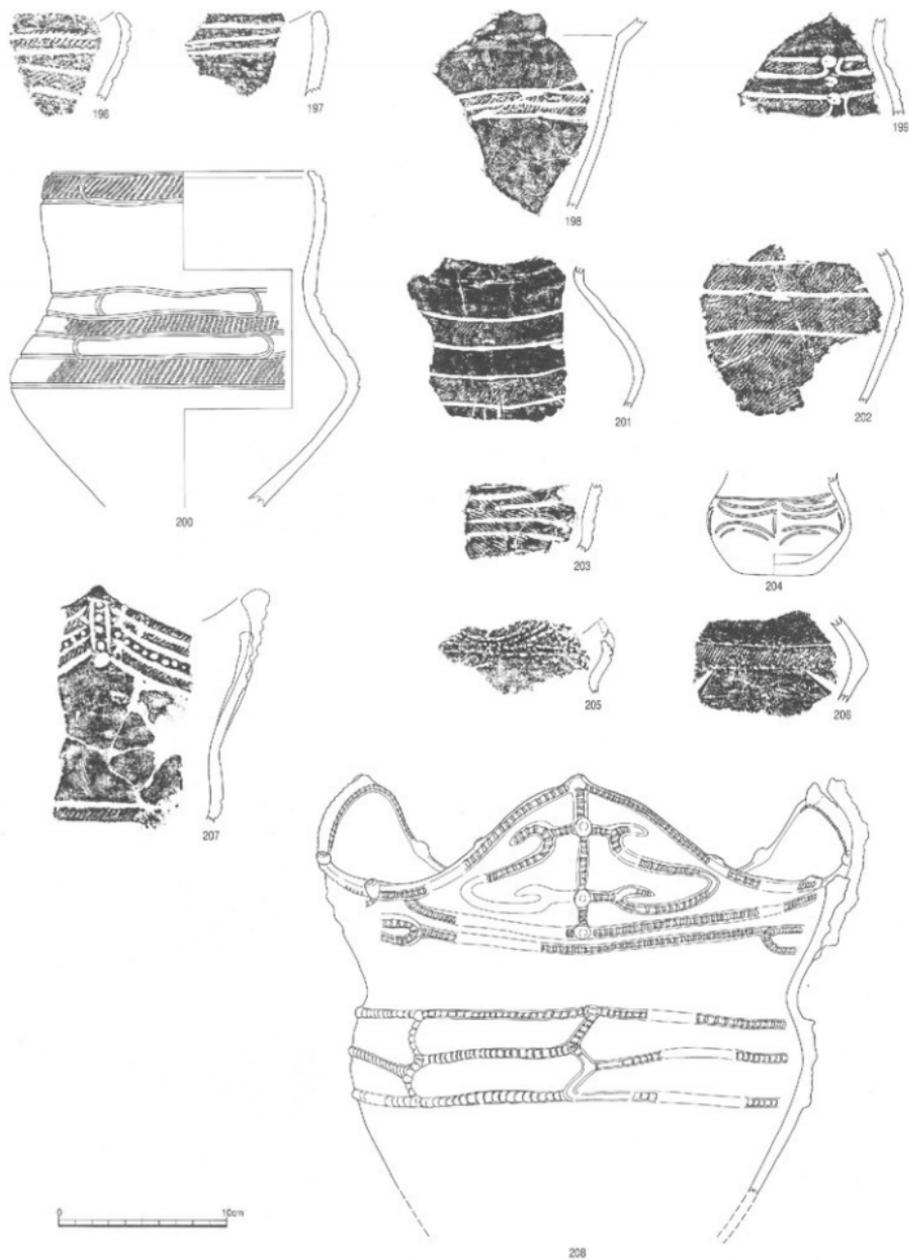
第14图 河道S区下層上部(160~164)・S区下層下部(165~171)出土土器(1/3)



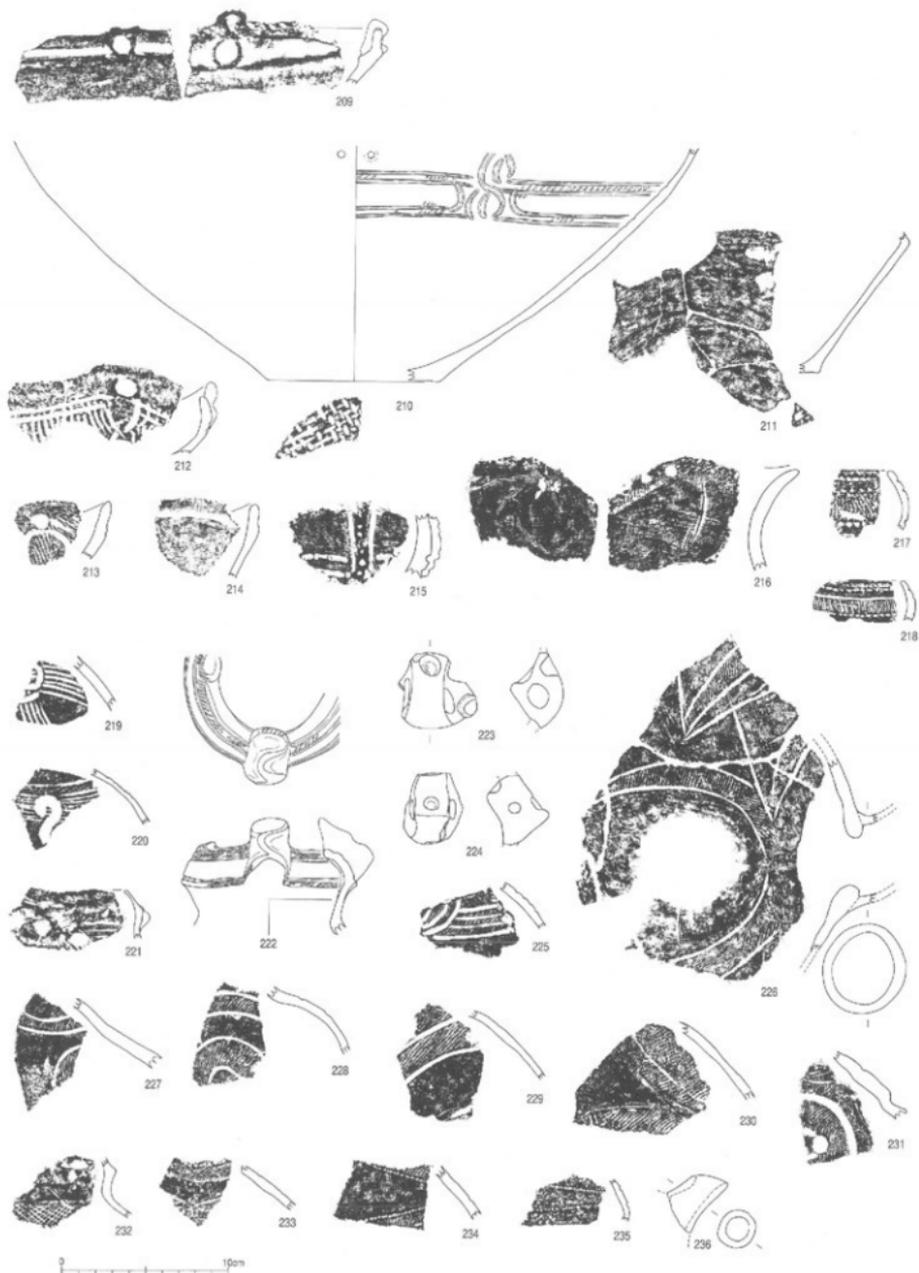
第15图 河道S区下層下部 (172~184) 出土土器 (1/3)



第16图 河道S区下層下部 (185~195) 出土土器 (1/3)



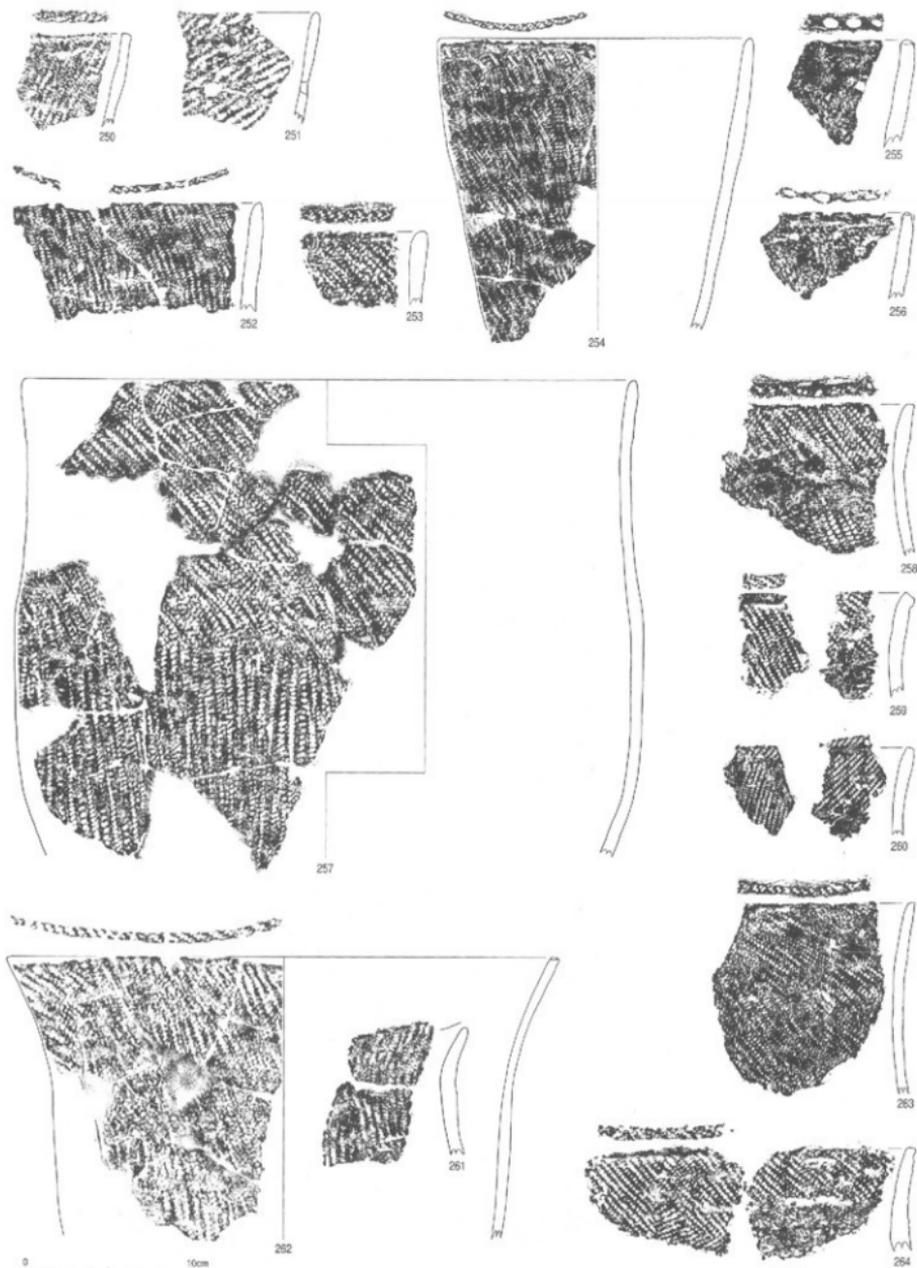
第17图 河道S区下层下部(196~208)出土土器(1/3)



第18图 河道S区下層下部(209~236)出土土器(1/3)



第19図 河道S区上層(237・238)・中層(239~241)・下層上部(242~249)出土土器(1/3)



第20图 河道S区下層上部(250~264)出土土器(1/3)



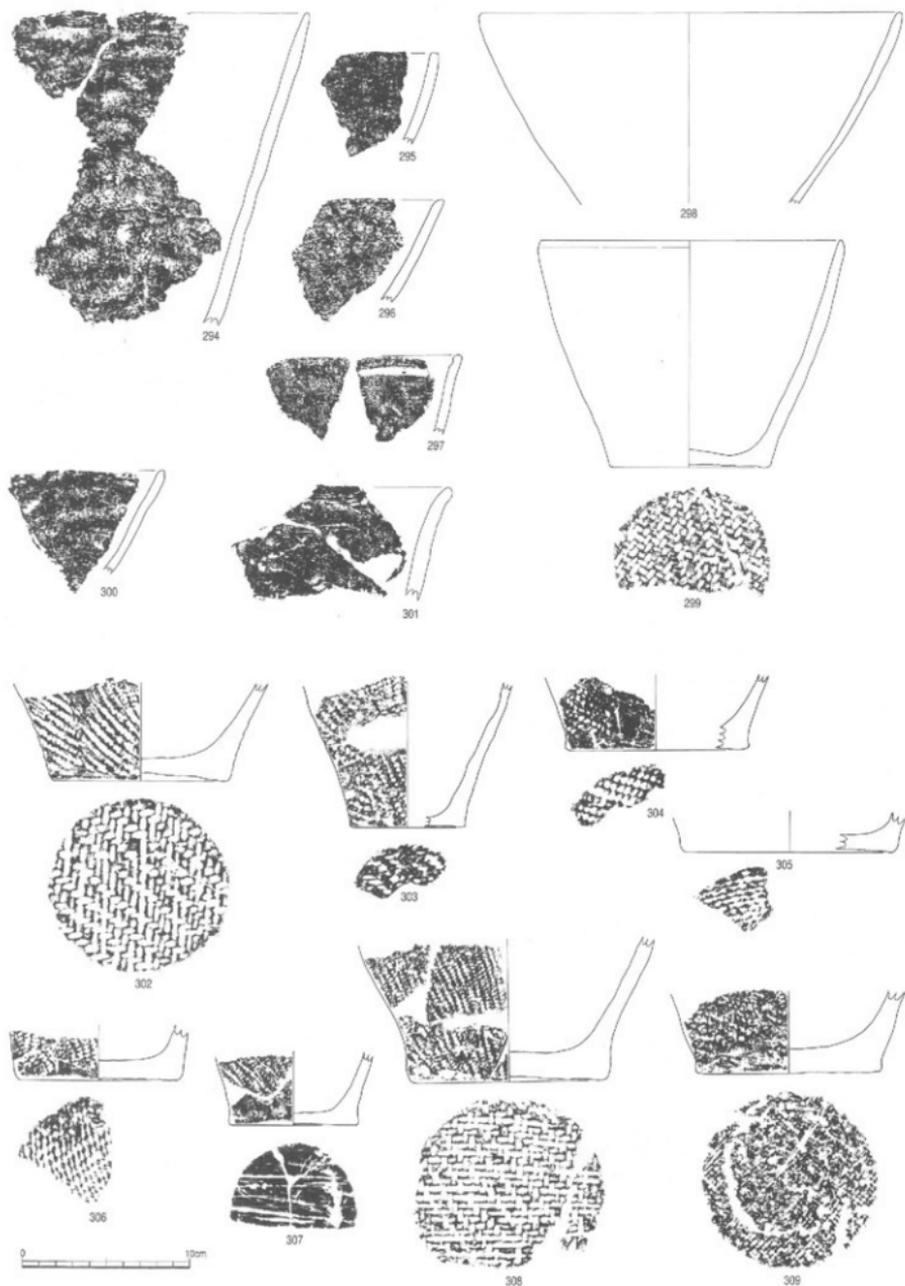
第21区 河邊S区下層上部 (265~276) 出土器 (1/3)



第22図 河道S区下層下部 (277~283) 出土土器 (1/3)



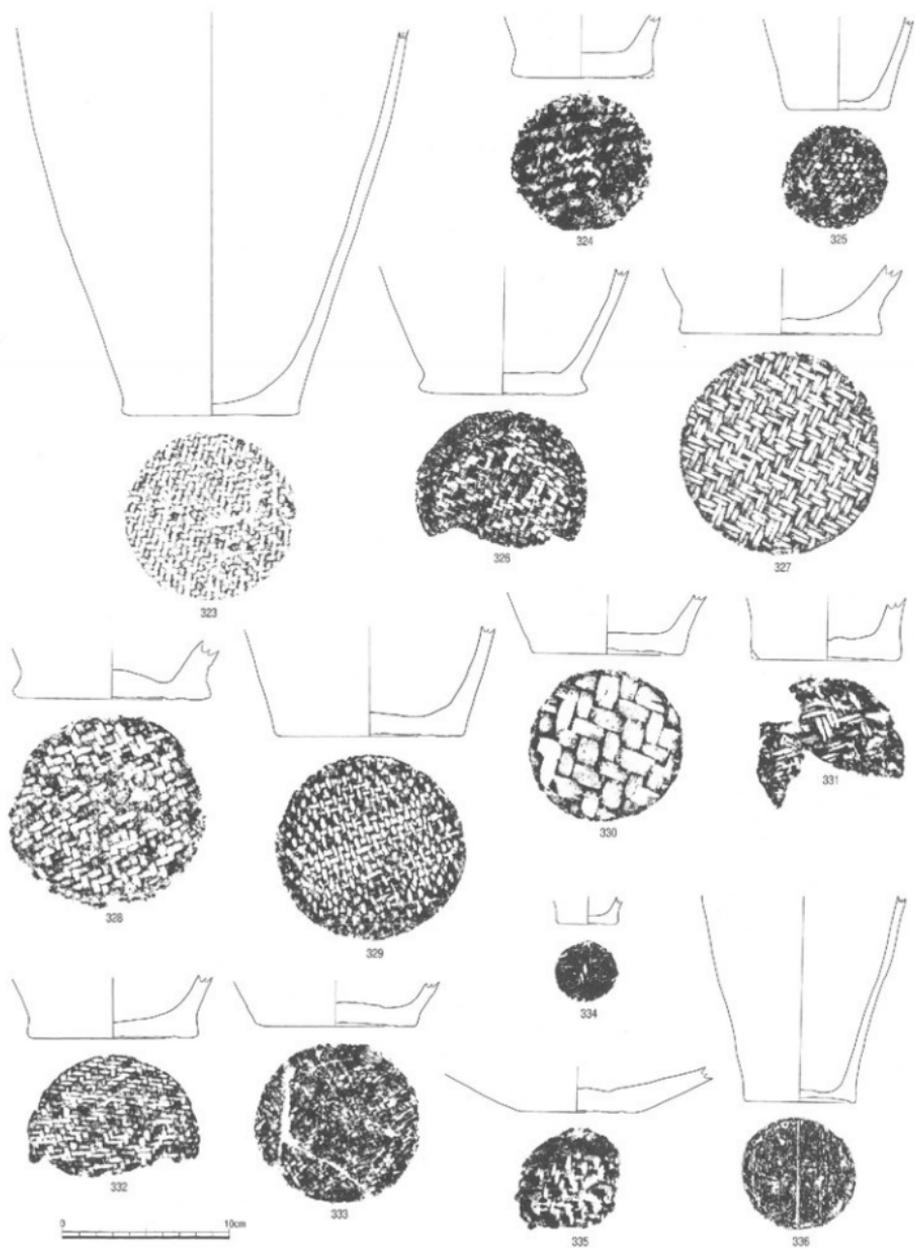
第23图 河道S区下層下部(284~293)出土土器(1/3)



第24図 河道S区下層下部(294~301)・中層(302~305)・下層上部(306~309)出土土器(1/3)



第25图 河道S区下層上部(310~319)・下層下部(320~322)出土土器(1/3)



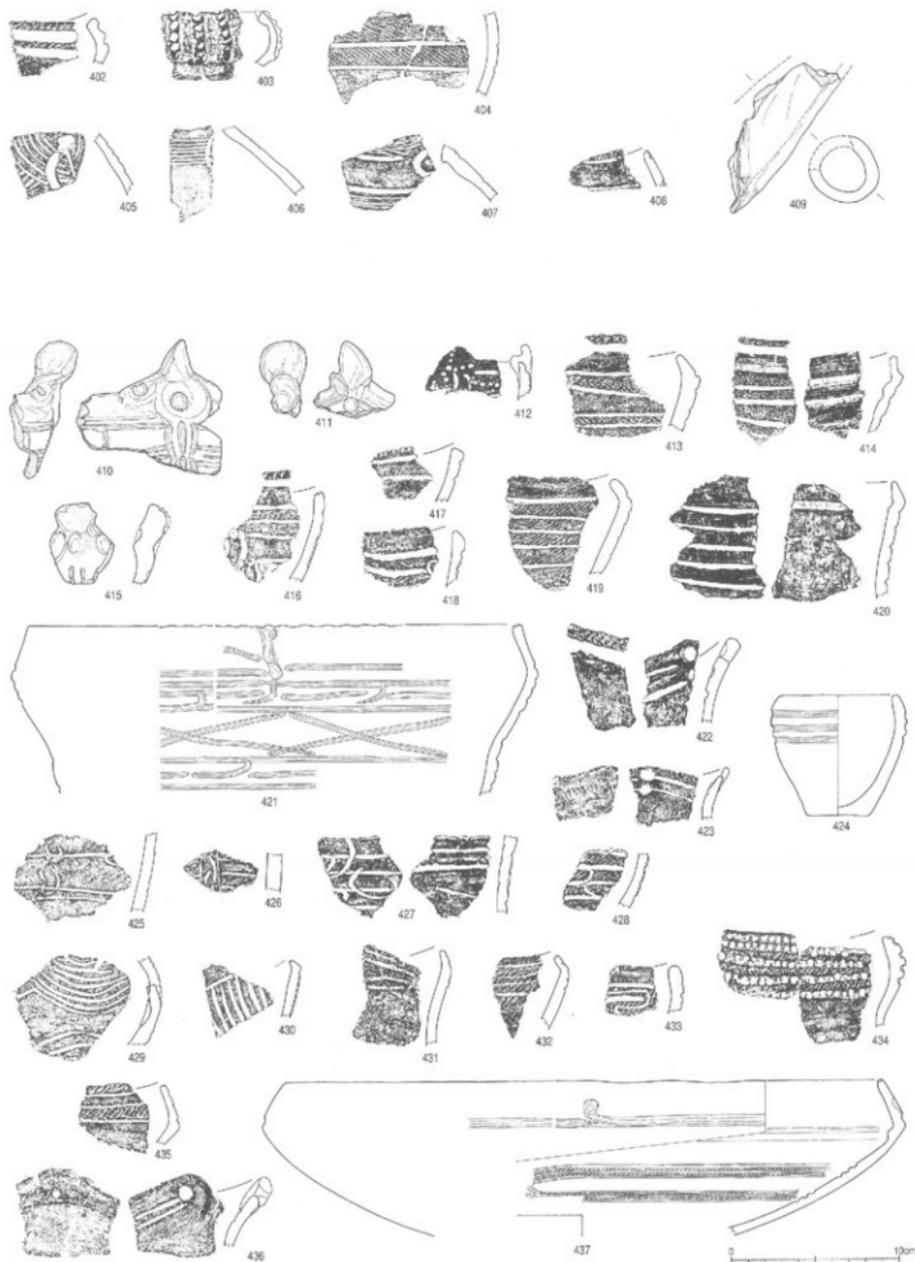
第26图 河道S区下层下部(323~336)出土土器(1/3)



第27図 調査区出土土器 (後期中葉・1/3)
 F区 (337~348)・A2区 (349~367)



第28図 調査区出土土器（後期中葉・1/3）
 A2区（368～381）・A3区（382～401）



第29図 調査区出土土器 (後期中葉・1/3)
 A3区 (402~409)・A4区 (410~437)



第30图 調査区出土土器(後期中葉・1/3)
 A4区(438~450)・A5区(451~476)



第31図 調査区出土土器(後期中葉・1/3)
 A5区(477~488)・A6区(489~492・494~509)・A7区(493)

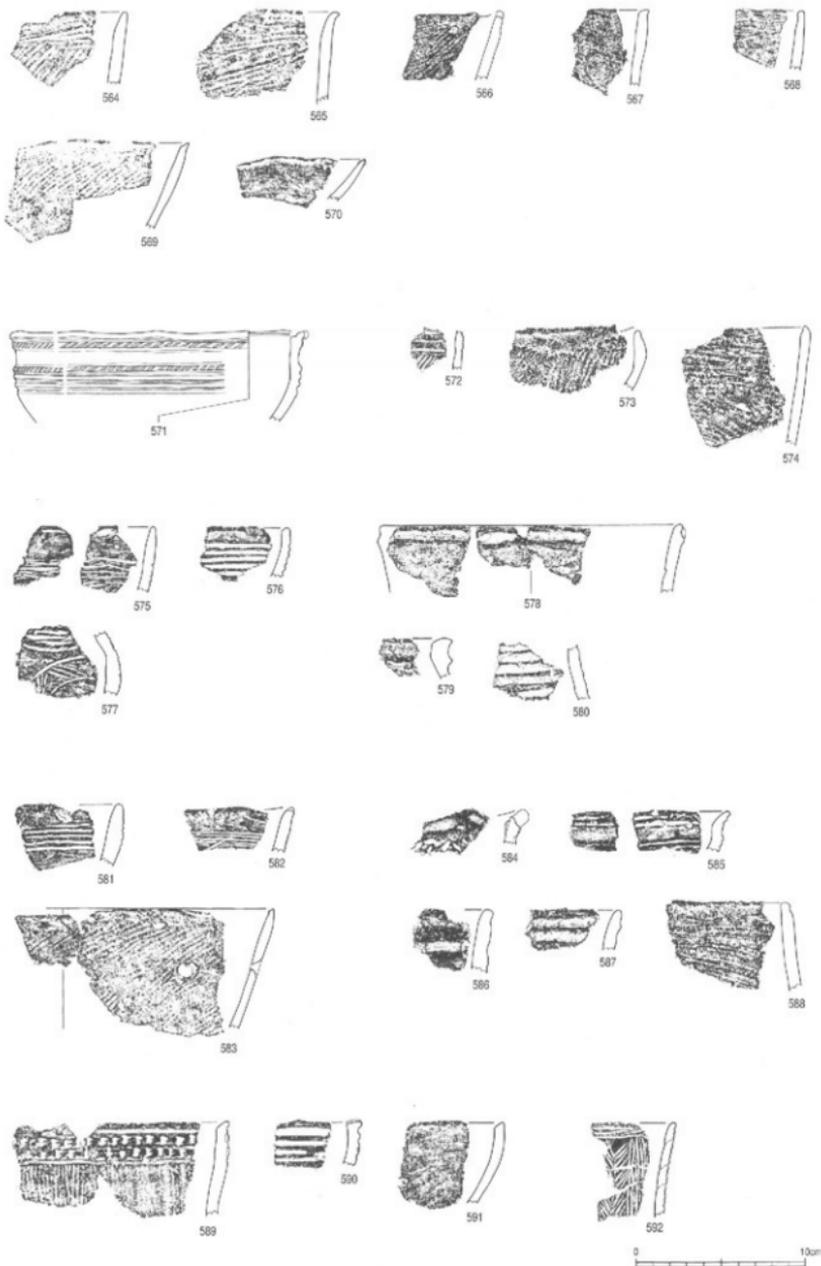


第32図 調査区出土土器 (後期中葉・1/3)
 B3区 (510~530)・C4区 (532~535)・C6区 (531)



第33図 調査区出土土器 (後期後葉以降・1/3)

B4区 (536)・C4区 (537・539)・A4区 (538・541)・A3区 (540)・A5区 (542)・B2区 (543~547)・B3区 (548~563)



第34図 調査区出土土器 (後期後葉以降・1/3)

B3区 (564~570)・B4区 (571・573・574)・A4区 (572)・B5区 (575~578)・A5区 (579・580)
 A6区 (581)・B6区 (582・583)・B7区 (584~588)・C5区 (589・591・592)・C6~7区 (590)

縄文～弥生前期土器一覧表
第7～34回

1段の幅文は小文字を用い、網代圧痕は越え一滞り一送りの順に表記した(単位は本)。
法量の()は推定値である。

番号	器種	法量mm・備考	番号	器種	法量mm・備考	番号	器種	法量mm・備考
1	深鉢(波状)		69	深鉢		136	深鉢か	
2	甕	口径114、頸径106、胴径271、弥生中期初頭か	70	深鉢		137	深鉢か	LR縄文
3	底部	底径88、条痕文、腰状圧痕	71	深鉢(波状)	RL縄文	138	鉢	口径302、胴径244、胴径276、LR縄文、沈壺内産鉢割突
4	浅鉢か		72	深鉢(波状)	LR縄文	139	浅鉢か	
5	浅鉢		73	深鉢	LR縄文	140	浅鉢か	LR縄文
6	粗製深鉢	条痕文	74	深鉢	L径87、底径61、器高132、LR縄文、網代圧痕2-2-1	141	浅鉢	
7	深鉢(波状)	無文	75	深鉢(波状)	3波状、L径190、RL縄文	142	浅鉢か	
8	粗製深鉢	L径(166)	76	深鉢(波状)		143	注口	条痕文
9	底部	底径47、内外面条痕調整	77	鉢か	RL縄文	144	注口	条痕文
10	底部	底径88、条痕文、網代圧痕2-2-1	78	深鉢	LR縄文	145	注口	条痕文
11	深鉢(波状)	LR縄文	79	深鉢(波状)	LR縄文	146	注口	LR縄文
12	深鉢(波状)	LR縄文	80	深鉢(波状)	RL縄文	147	注口	LR縄文、LR縄文
13	浅鉢		81	深鉢(波状)		148	注口	口径120、胴径204
14	浅鉢	LR縄文、33・140と同一個体	82	深鉢(波状)		149	注口	口径82、LR縄文
15	深鉢	LR縄文	83	突起		150	注口	口径96
16	深鉢か		84	突起		151	注口	
17	浅鉢		85	深鉢(波状)	LR縄文	152	注口	LR縄文
18	深鉢突起		86	深鉢(波状)	RL縄文	153	注口	LR縄文
19	深鉢突起		87	深鉢(波状)	3波状、口径235、胴径175、胴径196	154	注口突起	
20	突起		88	深鉢(波状)	3波状、口径199、胴径156、胴径187、RL縄文	155	注口	LR縄文
21	粗製深鉢	口径385、LR縄文	89	深鉢(波状)	88と同一個体	156	注口	LR縄文
22	深鉢(波状)	LR縄文	90	深鉢		157	注口	
23	鉢	LR縄文	91	深鉢		158	注口	LR縄文
24	深鉢		92	深鉢		159	注口	LR縄文
25	鉢か		93	深鉢(波状)	3波状、L径314、胴径233、胴径240、LR縄文	160	注口	LR縄文
26	浅鉢		94	深鉢(波状)	LR縄文	161	注口	LR結び目縄文
27	注口		95	深鉢(波状)		162	注口	LR縄文
28	深鉢突起		96	深鉢(波状)	LR縄文	163	注口	
29	突起		97	深鉢(波状)	LR縄文	164	注口	
30	深鉢	無文	98	深鉢(波状)	LR縄文	165	深鉢	口径(354)、条痕文、RL縄文
31	深鉢(波状)		99	深鉢(波状)	LR縄文	166	深鉢	条痕文、RL縄文
32	深鉢(波状)	条痕文	100	深鉢(波状)	LR縄文	167	深鉢(波状)	
33	浅鉢	LR縄文	101	深鉢(波状)		168	深鉢(波状)	3波状、L径285、底径111、器高371、胴径255(2本1単位)2-2-1
34	浅鉢か	RL縄文	102	深鉢(波状)	LR縄文	169	深鉢	口径(266)、RL縄文
35	深鉢	LR縄文	103	深鉢(波状)	LR縄文	170	深鉢	口径(266)、RL縄文
36	深鉢	RL縄文、肩隅のひねりを加えたものか	104	深鉢(波状)	LR縄文	171	深鉢	口径250、胴径240、胴径274、RL縄文
37	深鉢(波状)	LR縄文	105	深鉢(波状)	LR縄文	172	深鉢(波状)	LR縄文
38	深鉢(波状)		106	深鉢(波状)		173	深鉢(波状)	
39	深鉢		107	深鉢(波状)	LR縄文	174	深鉢(波状)	LR縄文
40	深鉢(波状)		108	深鉢(波状)	4波状、L径249、胴径172、胴径187、RL縄文	175	深鉢(波状)	
41	深鉢(波状)	LR縄文	109	深鉢	LR縄文	176	深鉢(波状)	
42	深鉢	LR縄文	110	浅鉢か	LR縄文	177	深鉢	L径201
43	注口	LR縄文	111	深鉢	口径76、胴径110	178	深鉢	口径(324)、LR縄文
44	深鉢か	RL縄文	112	深鉢		179	深鉢	LR縄文
45	深鉢か		113	深鉢		180	深鉢(波状)	LR縄文
46	注口		114	深鉢		181	深鉢(波状)	
47	注口		115	深鉢(波状)	4波状か、口径62	182	深鉢(波状)	3波状、LR縄文
48	注口	胴径(262)、RL縄文	116	深鉢(波状)	4波状、口径121	183	深鉢(波状)	3波状、LR縄文
49	注口	LR縄文	117	深鉢		184	深鉢(波状)	3波状、L径187、胴径146、胴径168
50	注口		118	深鉢		185	深鉢(波状)	3波状、L径297、胴径205、胴径279、LR縄文
51	注口		119	深鉢		186	深鉢(波状)	LR縄文
52	注口		120	深鉢		187	深鉢(波状)	3波状、L径205、胴径156、LR縄文
53	深鉢	条痕文	121	深鉢	胴径(112)、LR結び目縄文	188	深鉢	LR縄文
54	深鉢(波状)	LR縄文	122	深鉢	LR縄文、沈壺内産鉢割突	189	深鉢	RL縄文
55	深鉢(波状)	4波状か、L径284	123	深鉢	口径180、胴径159、胴径216、LR縄文、粘土貼付帯	190	深鉢	LR縄文
57	深鉢(波状)	3波状か、RL縄文	124	深鉢	粘土貼付帯	191	深鉢(波状)	LR縄文
58	深鉢(波状)		125	深鉢	LR縄文、粘土貼付帯	192	深鉢(波状)	LR縄文
59	深鉢	LR縄文	126	深鉢	粘土貼付帯	193	深鉢(波状)	LR縄文
60	深鉢(波状)	LR縄文	127	深鉢		194	深鉢(波状)	LR縄文
61	深鉢	LR縄文	128	深鉢	RL縄文	195	深鉢(波状)	LR縄文
62	深鉢(波状)	7波状、口径183、胴径145、胴径151	129	浅鉢か	L、R縄文	196	深鉢(波状)	LR縄文
63	深鉢	口径174	130	浅鉢	LR縄文	197	深鉢(波状)	LR縄文
64	深鉢(波状)	3波状、口径111、胴径79、胴径82、RL縄文	131	浅鉢(波状)		198	深鉢(波状)	LR縄文
65	深鉢(波状)	LR縄文	132	浅鉢	口径253、LR縄文	199	深鉢	LR縄文
66	深鉢(波状)	RL縄文	133	深鉢(波状)	沈壺内産鉢割突			
67	深鉢	胴径98、底径74、網代圧痕2-2-1	134	深鉢か				
68	深鉢(波状)	LR縄文	135	深鉢か	LR縄文			

番号	器種	法量mm・備考
200	深鉢	口径151、直径160、胴径210、LR編文
201	注口	胴径110、胴径184、LR編文
202	深鉢	LR編文
203	深鉢小	LR編文
204	小型土器	胴径85、底径48
205	深鉢(波状)	沈室内透射刺突
206	深鉢小	LR編文、沈室内透射刺突
207	深鉢(波状)	LR編文
208	深鉢(波状)	3波状、口径321、胴径260、胴径283、貼付漆帶
209	浅鉢	1口径(252)
210	浅鉢	底径104、LR編文、胴代圧痕2-1-1
211	浅鉢	底径104、LR編文、胴代圧痕
212	深鉢(波状)	LR編文
213	浅鉢小(波状)	LR編文
214	浅鉢小(波状)	LR編文
215	浅鉢小(波状)	貼付漆帶、沈室内刺突
216	鉢小(波状)	LR編文
217	深鉢	RL編文、沈室内刺突
218	深鉢	RL編文、沈室内刺突
219	注口	丸編文
220	注口	丸編文
221	注口	口径64、胴径85、LR編文、突起2単位
222	注口	口径64、胴径85、LR編文、突起2単位
223	注口突起	
224	注口突起	
225	注口	LR編文
226	注口	LR編文
227	注口	LR編文
228	注口	LR編文
229	注口	LR編文
230	注口	LR編文
231	注口	LR編文
232	注口	
233	注口	沈室内刺突、赤彩
234	注口	LR編文、沈室内刺突
235	注口	LR編文小、沈室内刺突
236	注口	
237	深鉢	無文
238	浅鉢	無文
239	粗製深鉢	RL編文
240	粗製深鉢	LR編文
241	深鉢	無文
242	粗製深鉢	口径(336)、LR編文
243	粗製深鉢	波状、LR編文
244	粗製深鉢	口径410、底径103、器高(496)、LR編文、胴代圧痕2-2-1
245	粗製深鉢	LR編文
246	粗製深鉢	口径(310)、RL編文
247	粗製深鉢	LR編文
248	粗製深鉢	LR編文
249	粗製深鉢	1口径(312)、LR編文
250	粗製深鉢	LR編文
251	粗製深鉢	LR編文
252	粗製深鉢	口径(315)、RL編文
253	粗製深鉢	RL編文
254	粗製深鉢	口径185、RL編文
255	粗製深鉢	LR編文
256	粗製深鉢	LR編文
257	粗製深鉢	口径368、胴径360、胴径376、RL編文
258	粗製深鉢	RL編文
259	粗製深鉢	RL編文
260	粗製深鉢	LR編文
261	粗製深鉢	LR編文
262	粗製深鉢	1口径304、RL編文
263	粗製深鉢	RL編文
264	粗製深鉢	RL編文
265	深鉢	無文

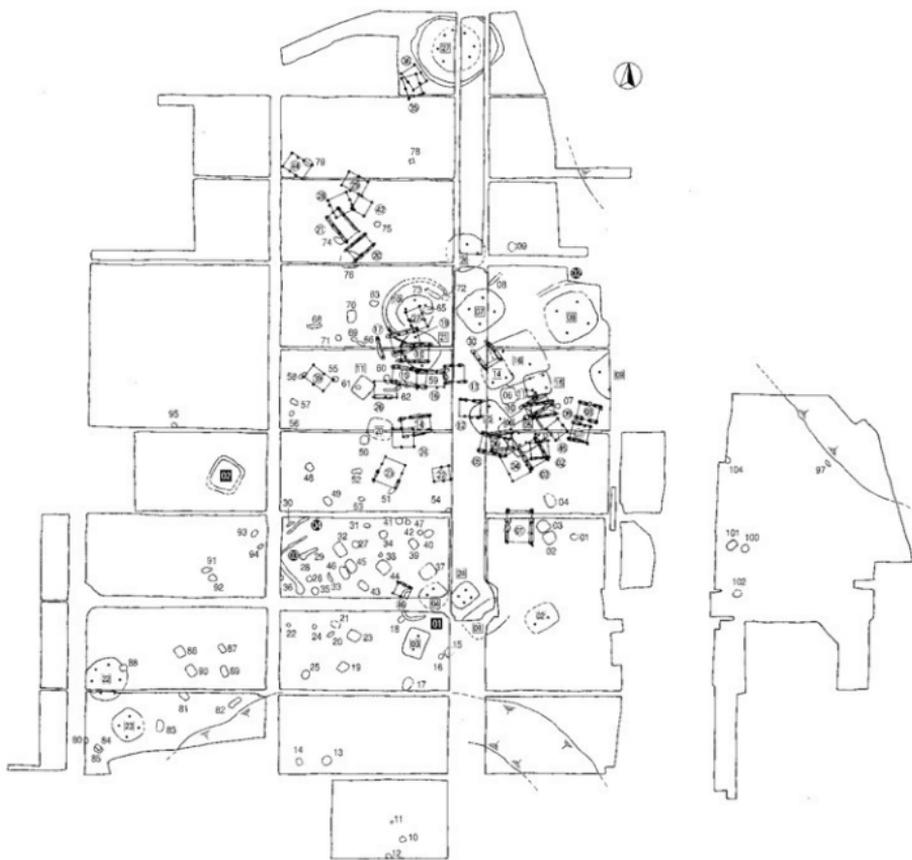
番号	器種	法量mm・備考
266	深鉢	口径98、無文
267	粗製深鉢	口径402、底径106、器高449、RL編文、胴代圧痕2-2-1
268	深鉢	口径326、LR編文
269	深鉢	口径(207)、無文
270	深鉢	無文
271	深鉢	無文
272	深鉢	口径190、胴径175、無文
273	深鉢小	無文
274	深鉢	無文
275	不明	無文
276	鉢	口径430、無文
277	粗製深鉢	口径364、底径114、器高445、LR編文、胴代圧痕2-2-1
278	粗製深鉢	LR編文
279	粗製深鉢	RL編文
280	粗製深鉢	LR編文
281	粗製深鉢	LR編文
282	粗製深鉢	口径254、LR編文
283	粗製深鉢	口径264、RL編文
284	粗製深鉢	口径234、底径84、器高225、RL編文、胴代圧痕1-1-1か
285	粗製深鉢	口径(344)、LR編文
286	粗製深鉢	RL編文
287	粗製深鉢	口径(346)、LR編文
288	粗製深鉢	LR編文
289	深鉢	小波状、口径(257)、無文
290	深鉢(波状)	無文
291	深鉢(波状)	無文
292	深鉢	口径(585)、無文
293	深鉢	口径260、無文
294	深鉢	口径(275)、無文
295	鉢小	口径(150)、無文
296	鉢	無文
297	鉢	無文
298	鉢	口径250、無文
299	深鉢	口径180、底径95、器高130、無文、胴代圧痕2-2-1
300	鉢	口径(197)、無文
301	深鉢	無文
302	底部	底径107、RL編文、胴代圧痕2-2-1
303	底部	底径68、RL編文、胴代圧痕2-2-1
304	底部	底径110、RL編文、胴代圧痕1-1-1
305	底部	底径(124)、無文、胴代圧痕1-1-1
306	底部	底径94、RL編文、胴代圧痕2-2-1
307	底部	底径78、RL編文、底状凹痕
308	底部	底径120、RL編文、胴代圧痕2-2-1
309	底部	底径109、RL編文、胴代圧痕2-2-1か
310	底部	底径90、無文、胴代圧痕1-1-1
311	底部	底径102、無文、胴代圧痕1-1-1
312	底部	底径71、無文、胴代圧痕(不明)
313	底部	底径54、無文、胴代圧痕1-1-1
314	底部	底径88、無文、胴代圧痕2-2-1
315	底部	底径72、無文、胴代圧痕1-1-1
316	底部	底径82、無文、胴代圧痕小
317	底部	底径77、無文か、胴代圧痕1-2-1
318	底部	底径68、無文、胴代圧痕2-2-1
319	底部	底径95

番号	器種	法量mm・備考
320	粗製深鉢	底径98、RL編文、胴代圧痕1-2-1
321	底部	底径114、RL編文、胴代圧痕2-2-1
322	底部	底径123、RL編文、胴代圧痕2-2-1
323	深鉢	底径105、無文、胴代圧痕2-2-1
324	底部	底径84、無文、胴代圧痕2-2-1
324	底部	底径60、無文、胴代圧痕2-2-1
326	底部	底径103、無文、胴代圧痕2-2-1
327	底部	底径126、RL編文、胴代圧痕(2本1単位)2-2-1
328	底部	底径118、RL編文、胴代圧痕2-2-1
329	底部	底径113、無文、胴代圧痕1-2-1
330	底部	底径90、編文不明、胴代圧痕2-2-1
331	底部	底径90、無文、胴代圧痕(2本1単位)2-2-1
332	底部	底径102、RL編文、胴代圧痕2-2-1
333	底部	底径98、無文、胴代圧痕2-2-1
334	底部	底径36、無文
335	浅鉢	底径70、無文、胴代圧痕2-2-1
336	深鉢	底径67、無文、管状圧痕
337	深鉢	条編文、RL編文
338	深鉢	LR編文
339	深鉢(波状)	LR編文
340	深鉢(波状)	LR編文
341	突起	
342	注口	
343	注口	
344	注口	LR編文、沈室内刺突
345	注口突起	
346	注口突起	
347	注口	
348	注口	
349	深鉢突起	
350	深鉢突起	LR編文
351	深鉢(波状)	LR編文
352	深鉢(波状)	LR編文
353	深鉢(波状)	RL編文
354	深鉢	LR編文
355	深鉢小	
356	深鉢(波状)	
357	深鉢	LR編文
358	深鉢(波状)	
359	深鉢小(波状)	RL編文
360	深鉢(波状)	
361	深鉢(波状)	LR編文
362	深鉢(波状)	RL編文か
363	深鉢(波状)	
364	深鉢(波状)	LR編文
365	深鉢(波状)	
366	深鉢	LR編文、沈室内刺突
367	深鉢小	
368	深鉢(波状)	
369	深鉢突起	沈室内刺突
370	深鉢	連続部位編文
371	深鉢小	條帯
372	深鉢(波状)	LR編文
373	深鉢(波状)	LR編文
374	深鉢(波状)	LR編文
375	鉢	LR編文
376	深鉢小	
377	注口小	

番号	器種	法量mm・備考
378	注口	細かな器系文
379	注口突起	LR縄文と刻目文
380	注口突起	
381	深鉢小	RL縄文
382	深鉢(波状)	LR縄文
383	深鉢(波状)	LR縄文
384	深鉢(波状)	
385	深鉢(波状)	
386	深鉢(波状)	
387	深鉢(波状)	LR縄文
388	深鉢(波状)	器系文
389	深鉢(波状)	
390	深鉢	
391	深鉢小	RL縄文
392	深鉢	
393	深鉢(波状)	LR縄文
394	深鉢(波状)	LR縄文
395	深鉢(波状)	LR縄文
396	深鉢小	
397	深鉢(波状)	
398	深鉢(波状)	RL縄文
399	深鉢小	LR縄文
400	深鉢(波状)	LR縄文
401	深鉢(波状)	RL縄文、押引連続刺突
402	深鉢(波状)	RL縄文
403	深鉢	截位刻み隆帯
404	深鉢小	RL縄文
405	注口	
406	注口	糸縄文
407	注口	糸縄文
408	注口	沈線内連続刺突
409	注口	
410	深鉢	
411	深鉢突起	
412	深鉢突起	
413	深鉢(波状)	RL縄文
414	深鉢(波状)	RL縄文
415	深鉢突起	
416	鉢小(波状)	LR縄文
417	深鉢(波状)	LR縄文
418	深鉢(波状)	
419	深鉢(波状)	LR縄文
420	深鉢(波状)	
421	深鉢	
422	深鉢(波状)	LR縄文
423	深鉢(波状)	RL縄文
424	深鉢(小型)	
425	深鉢	LR縄文
426	深鉢	
427	深鉢	
428	深鉢	RL縄文
429	深鉢(波状)	
430	深鉢	
431	深鉢(波状)	
432	深鉢(波状)	LR縄文
433	深鉢	LR縄文
434	深鉢(波状)	沈線内連続刺突、LR縄文
435	深鉢(波状)	LR縄文
436	深鉢(波状)	
437	浅鉢	LR縄文
438	浅鉢	
439	鉢	
440	深鉢(波状)	沈線内連続刺突、LR縄文
441	鉢小	
442	鉢小	沈線内連続刺突、LR縄文
443	注口	LR縄文
444	注口突起	
445	注口	R I 縄文
446	注口	RL縄文
447	注口	押引連続刺突、RL縄文
448	注口	RL縄文
449	注口	

番号	器種	法量mm・備考
450	注口小	
451	深鉢	糸縄文
452	深鉢	糸縄文
453	深鉢	糸縄文
454	深鉢突起小	
455	深鉢突起	
456	注口突起	
457	深鉢	
458	深鉢突起	
459	深鉢突起	
460	深鉢突起	
461	深鉢小突起	
462	深鉢	RL縄文
463	深鉢(波状)	LR縄文
464	深鉢	RL縄文
465	深鉢	LR縄文
466	深鉢	RL縄文
467	深鉢	蛇行隆帯
468	深鉢(波状)	
469	深鉢(波状)	
470	深鉢(波状)	
471	深鉢(波状)	
472	深鉢	
473	深鉢	
474	深鉢(波状)	
475	鉢小	
476	深鉢小	
477	深鉢	
478	深鉢小	押引連続刺突
479	深鉢	沈線内連続刺突、RL縄文
480	深鉢(波状)	隆帯、LR縄文
481	深鉢(波状)	LR縄文
482	浅鉢(波状)	LR縄文
483	浅鉢(波状)	
484	浅鉢	
485	浅鉢	
486	注口	LR縄文
487	注口	格子状刻み、LR縄文
488	注口	
489	深鉢	LR縄文
490	深鉢(波状)	LR縄文
491	深鉢(波状)	
492	深鉢(波状)	
493	深鉢	
494	深鉢突起小	
495	深鉢(波状)	
496	深鉢	LR縄文
497	深鉢	LR縄文
498	深鉢(波状)	RL縄文
499	深鉢(波状)	
500	深鉢(波状)	
501	鉢小	隆帯に列点文
502	鉢小	隆帯に列点文
503	浅鉢小	
504	浅鉢	LR縄文
505	注口	LR縄文
506	注口	LR縄文
507	注口	LR縄文
508	注口突起	
509	注口	沈線内連続刺突
510	深鉢(波状)	LR縄文
511	深鉢(波状)	
512	深鉢(波状)	
513	深鉢	
514	深鉢小	
515	深鉢(波状)	LR縄文
516	深鉢	
517	深鉢	
518	鉢	沈線内連続刺突、LR縄文
519	深鉢(波状)	LR縄文
520	深鉢(波状)	LR縄文
521	深鉢	沈線内連続刺突、LR縄文

番号	器種	法量mm・備考
522	深鉢小	
523	深鉢	LR縄文
524	注口	糸縄文
525	注口	LR縄文
526	注口	
527	注口	沈線内連続刺突
528	注口	
529	注口小	RL縄文
530	注口	LR縄文
531	深鉢(波状)	LR縄文
532	深鉢	RL縄文
533	深鉢	LR縄文
534	深鉢	LR縄文
535	注口	隆帯、RL縄文
536	深鉢	門線文
537	鉢	門線文
538	注口	門線文小
539	深鉢小	
540	鉢	
541	鉢	RL縄文
542	深鉢小	
543	深鉢	糸縄文
544	壺	
545	浅鉢	
546	浅鉢	
547	深鉢	糸縄文
548	深鉢	糸縄文
549	鉢	
550	鉢	
551	鉢	浮線網伏文
552	浅鉢	
553	鉢	
554	粗製深鉢	器系文
555	壺	赤彩、弥生前期柴山山村式
556	壺	弥生前期柴山山村式
557	壺	弥生前期柴山山村式
558	壺	赤彩、弥生前期柴山山村式
559	鉢	弥生前期柴山山村式
560	粗製深鉢	糸縄文
561	粗製深鉢	糸縄文
562	壺	弥生前期柴山山村式小
563	粗製深鉢	糸縄文
564	粗製深鉢	糸縄文
565	粗製深鉢	糸縄文
566	粗製深鉢	糸縄文
567	粗製深鉢	糸縄文
568	粗製深鉢	糸縄文
569	鉢	糸縄文、弥生前期柴山山村式
570	鉢	無文、弥生前期柴山山村式
571	浅鉢	
572	不明	赤彩、弥生前期柴山山村式
573	鉢	無文
574	粗製深鉢	糸縄文
575	鉢	
576	浅鉢	
577	壺小	
578	壺	赤彩、弥生前期柴山山村式
579	壺	弥生前期柴山山村式
580	壺	弥生前期柴山山村式
581	鉢	
582	鉢	
583	粗製深鉢	糸縄文、弥生前期柴山山村式
584	壺	
585	浅鉢	
586	壺	弥生前期柴山山村式
587	壺	赤彩、弥生前期柴山山村式
588	粗製深鉢	糸縄文
589	深鉢	粗製深鉢
590	鉢小	
591	鉢	無文
592	深鉢	



遺構番号

S1 - Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ-Ⅷ-Ⅷ

SB - ①-②-③-④-⑤-⑥-⑦-⑧-⑨-⑩-⑪

SK - 1~4・5~63・64~66・68~76・78~95・97・100~104 (104は弥生時代中期)

SX - ㊦・㊧

SD - ㊨・㊩



第35図 弥生時代後期～古墳時代前期主要遺構分布図 (1/1,000)

第3節 弥生時代後期～古墳時代前期

御経塚シンデン遺跡では最も遺構の密度が高く、また遺物の量も多い時期である。遺構は竪穴建物(SI)22棟、掘立柱建物(SB)36棟、土坑(SK)96基、方形区画溝(SX)2基、溝(SD)3条、古墳(ST)15基、ピット多数を検出している。古墳群の造営に先行して営まれた集落に関する主要遺構の分布は第35図に示した。土器については節木の一覧表を参照されたい。

1 竪穴建物

竪穴建物22棟(建替えを含めると29棟)は調査区中央やや西側の鞍部を避けて東西に分布する。大きく分けると西部(C2・3区)の1群、東部の3群(B10区、A3・4～B3・4区、A5～7・B6～8区)の合わせて4群が分布する。平面形が多角形ぎみとなり主柱5本以上の建物はSI09・10・22・27の4棟である。隅丸長方形で2本主柱の建物はSI01～03の3棟である。隅丸方形または方形に近い隅丸長方形を呈し4本主柱の建物は最も多く、SI04～08・14～16・21・23～26の13棟である。また主柱が不明なSI11・20がある。建替えも含めた29棟の床面積の規模は、30㎡以下の小型建物はSI02・03・04・11・14a・14b・15・20・24の9棟で、このうちSI11・20は10㎡代である。31～50㎡の中型建物はSI01・05・06b・07b・09b・10・23・25・26の9棟、中型でもやや大きい部類となる51～65㎡の建物はSI21・06a・08c・07a・22・09aの6棟、75～85㎡の大型建物はSI08a・08b・16a・16b・27の5棟である。

建替えが行われた竪穴建物はa・bなどを用いて区別している。形態及び規模は一覧表に譲り、ここでは建替えの状況や土器出土状況について説明を加えたい。出土地点が確定できる土器は、遺構図に土器番号を入れ位置を示し、ピット出土については文中で記した。

SI01 (第36・50図) 約1/3の検出で東側はST01周溝に切られている。SI02と同様に隅丸長方形の平面形で2本主柱の構造を探るものと推定している。土器8・10・18は床面から、6はP1から、他は覆土からの出土である。

SI02 (第36・51図) SI01の東側に近接する。ST01周溝・SD01に切られる。床面に壁溝と考えられる溝の残存から1回の建替えを想定するが詳細は不明である。土器20～26は覆土から出土した。

SI03 (第37・51図) SI01の西側に位置する。壁溝は幅が狭く深さは10cm前後である。P4は炭化物を多く含む覆土がみられた。土器27・41は床面から、36はP3から、他は覆土から出土した。

SI04 (第37・51図) 約1/2の検出であるが、平面形と主柱穴P1・2の位置から隅丸方形を呈した4本主柱構造を探るものであろう。深さは8cmと浅い。土器42・43は床面からの出土である。

SI05 (第38・52図) SI06および複合する掘立柱建物群を切る。壁溝の状況から1回の建替えが考えられるが、P1～4以外の主柱穴は不明である。床面中央部に厚さ2cmほどの炭化物分布が2箇所で見られた。P6は灰状の炭化物が詰まったピットで深さは床面から25cmを測る。土器45・50・54はP5から、他は覆土から出土した。

SI06 (第38・53図) bからaへと規模を大きくする1回の建替えが行なわれている。主柱穴はaがP1～4、bではP10～12を考えている。土器64はaの床面から、62はaの床面下から、他はaの覆土から出土した。

SI07 (第39・53～56図) bからaへと規模を大きくする1回の建替えが行われている。aの主柱穴はP1～4である。bの主柱穴はP1・2・5・6である。P1の1段浅い部分がbの主柱穴で、P2はa・bとが重複するものである。土器92・96・111・122はaの床面から、75・119はaの周溝から、87はP2から、115はP3から、99・100・105・114はP7から、65～70・72・78・80～83・86・97・98・101～104・107・108・110・116～118はaの覆土から出土した。93は東に接する土坑状遺構と周溝からのものが接合したものである。他はaの床面下から出土した。

SI08 (第40・56～58図) SI08は貼床と壁溝の検出状況から4回の建替えが想定できる複雑なもので、それぞれの壁溝と主柱穴や付属するピットのセット関係を明確にすることはできなかった。しかし主柱穴の状況からc→b→aの建替えは確認している。aの主柱はP6・9～11で主柱穴間のほぼ中点に副柱穴がみられる。特殊ピットP13がセッ

トとなろう。bの主柱はP5～8である。cの主柱はP1～4で主柱穴間のほぼ中点に副柱穴がみられる。特殊ビットP11はbまたはcとセットになろう。検出はaの床面で一旦記録し下層に進んだが貼床の状況は複雑で、先述のとおりa以前の床面は正確にとらえていない。このことから覆上出土の土器はaからのものまたはaの床面下のもの、壁溝からの土器は最も外側のaの溝からのものまたは内側の溝からのものに区分した。aの覆上から出土した土器は123・125・127・128・130・132・146・147・149・150・152・154・155・157・159・160・161・163である。aの壁溝から出土した土器は126・139・141である。内側の壁溝から出土した土器は133・137・145・148である。aの床面下から出土した土器は129・131・134・140・142・144・156・158・162である。土器135・153はP3から、138はP6から、136はP12から、143はP11から、151はP13から出土した。

SI09 (第41・59図) bからaへと規模を大きくする1回の建替えが行われる。aの上面は削平されており、竪穴の壁の残存は2～4cmと悪い。土器はすべてaからのもので164・165・167・169～171は床面から、166・168は壁溝から出土した。

SI10 (第41・59図) 平面形は隅丸六角形を呈するが主柱穴の配置は五角形となるもので、竪穴から2.5～3m離れる位置に外周溝が2条廻る。P1～5とP6～10の主柱穴が2組見られ、1回の建替えがあるものの新旧の関係は不明である。外周溝の径は12～13.5mを測り内側が先行する。2条の溝はいずれも幅26～50cm、深さ12cm前後を測る。溝底の標高差はみられない。土器172は壁溝から、181は壁溝の端部に重なるビットから出土した。173～176はP11から、177はP4から、178はP12から出土した。179は覆土から、180は内側の外周溝から出土した。

SI11 (第42・60図) 小型の竪穴建物と判断したもので、建物の北東辺には床面から深さ約20cmの溝を有する。P1・2が主柱穴になるかは不明である。土器183・184はP1の東側の溝状部分から、182は覆土から出土した。

SI14 (第42・60図) bからaへと規模を大きくする1回の建替えが行われ、竪穴の内側に壁溝が廻る。ST06周溝に中央部を切られ、複合するSI16は先行するものである。2段掘りの特殊ビットP3が南壁際中央部に位置する。土器185はaの床面から、187はaの覆土から、189はP2から、190はP3から、186・188はaの床面下から出土した。

SI15 (第42・60図) 複合するSI16や掘立柱建物を切るもので、竪穴の壁は削平されておりほとんど残存しない。土器191は壁溝から出土した。

SI16 (第43図) bからaへの建替えが行われる。aは南北方向にやや長辺となるがbでは東西方向を長辺としている。aの主柱はP1～3、bの主柱はP4・5である。出土土器は細片のため図示し得なかった。

SI20 (第45・60図) 小型の竪穴建物である。東半分はST10周溝によって大きく削られるが、東辺壁の一部はかろうじて残存した。主柱穴は不明である。土器192・193は覆土から出土した。

SI21 (第44・60～62図) B6・7区の掘立柱建物群と複合し、このなかで先行する建物はSB19である。壁溝は廻るが、南西辺の部分は主柱穴P2と重なるため拡張する建替えが行なわれたものと考えられる。建物の建替え後の南東辺はこの壁溝より80cmほど外側になるものであろう。土器195～198・202～205・207・210・217は床面から、194はP2から、199・214・215・218はP3から、212はP4から、213は壁溝から出土した。覆土からは200・201・206・211が、床面下からは208・209・216が出土した。

SI22 (第45・62図) 西微高地に位置し平面形は凹形ぎみの六角形を呈するものである。主柱穴P1～6は六角形に配置される。削平されており残存する壁の高さは2～4cmを測るにすぎない。中央部東南に2段掘りの特殊ビットP7が位置する。土器224・225は床面から、219・227・228・231はP2から、222はP7から、他は覆土から出土した。

SI23 (第46・62・63図) SI22の南に近接する焼失した建物である。建物の上面はSI23同様大きく削平されているものである。貼床面の南側には多くの炭化材が分布していた。炭化材は建物の垂木と屋根を葺いた茅状のものがああり、建物中央部では茅状の炭化材の上を焼土が覆う状況が見られた。焦上が茅状の炭化材を覆う様子は茅葺屋根の上を土を被せる土葺き屋根であったことを推測させるものである。土器232・233・236・237は覆土から、234はP5から、235はP3から出土した。

SI24 (第47・63図) 平面形は近接するSI02・03に類似した隅丸長方形を呈するが、4本主柱構造を採用する。方形に配置される上柱は南東辺側に偏り柱間も狭いものである。土器は244・245が床面から、他は覆土から出土した。

SI25 (第47・64図) 当初は方形周溝状遺構と想定していたが、ピットP1～3の方形配置からこれを主柱穴とし竪穴建物と判断した。視合するSI06に先行する建物である。土器は方形の溝状となる部分からの出土である。

SI26 (第48図) 弧状となる壁溝状の溝と柱穴P1・2によって竪穴建物と判断した。ST06・09の周溝に大きく切られている。出土土器は細片のため図示し得なかった。

SI27 (第49・64図) 調査区北端に位置する建物で、主柱穴はP1～7、P5の南に位置し弧状となる溝を壁溝の残存部と判断したものである。主柱穴の外側に約4～5m離れて隅丸長方形の平面形を呈する外周溝が廻る。外周溝の規模は溝の内側で東西15.9m、南北13.2mとなる。また幅40～140cm、深さ7～27cmを測る。図示した土器はすべて外周溝から出土したものである。

竪穴建物一覧表 ()内は測定値

遺構	地区	形状	主柱(本)	規模(m)	主柱間(m)	面積(m ²)	深さ(cm)	軸方位	備考	時期
SI01	A3-E4	隅丸長方形	(2)	不明×6.1		33以上	20～25	N50°E		II期
SI02	A3	隅丸長方形	2	(7×4.5)	3.0	(28)	22	N55°E	主柱穴P1-2、1回建替か	II期
SI03	B3	隅丸長方形	2	6.0×4.4	2.0	25.4	30	N15°E	主柱穴P1-2、P3は特殊ピットか	I期
SI04	B4	隅丸方形か	(4)	(5.2×5.2)	1.9	(24)	8	N43°W	主柱穴P1-2	I期
SI05	A5-6	隅丸方形	4	6.5×6.0	2.9-3.0	36.1	10	N53°E	主柱穴P1～4、SI06・SB02～06・09・10を切る。	IV期
SI06a	A5-6	隅丸方形	4	7.85×7.65	3.7-3.8-4.0	58.1	16～18	N50°E	主柱穴P6～10、bから建替えか。SI25を切る。	III期
SI06b	A5-6	隅丸方形	(4)	(7.1×6.9)	3.8-3.9	(47)	16～18	N50°E	主柱穴P10～12か	
SI07a	A7-E7	隅丸長方形	4	8.8×7.6	3.7-3.8	59.3	12	N47°W	主柱穴P1～4	IV期
SI07b	A7-E7	隅丸長方形	4	7.8×6.2	3.3-3.4-3.8	43.8	22	N50°W	主柱穴P1-2-3-6	
SI08a	A7	隅丸方形	4	9.8×9.6	5.0	83.7	13	N63°E	SI10は主柱穴からc→b→aと2回の建替えを確認しているが、貼床と壁溝の検出状況から3～4回の建替えの可能性もある。aは主柱穴P1～4、主柱間はほぼ中点に副柱。特殊ピットP11・13。	IV期
SI08b	A7	隅丸方形	4	(9.2×8.6)	4.4	(69)	20	N63°E	主柱穴P5～8、副柱、特殊ピットP12。	
SI08c	A7	隅丸方形	4	(8.1×7.3)	4.1-4.4	(58)	24	N63°E	主柱穴P6-9～11、副柱、特殊ピットP13。	
SI09a	A6	隅丸五角形	(5)	一辺6.2mか	4.0	(63)	2～4	(N13°)W	主柱穴P1-2、bから拡張し建替え	III期
SI09b	A6	隅丸五角形か	不明	一辺4.5mか		(33)	24	不明		
SI10	B7	隅丸六角形か	5	7.2×(6.5) 一辺3～4m	(P1～5) 2.5～3.0 (P6～10) 2.5～3.2	(39)	6	N16°W	2組の柱穴群から1回の建替えはあるも新旧は不明。竪穴から2.5～3m離れ外周溝が2条廻る	II期
SI11	B6	隅丸長方形	不明	4.1×3.4		13.8	4	N32°E		III期
SI14a	A6	隅丸方形	4	5.7×(5.4)	3.0	(30)	12～15	N27°W	主柱穴P1-2、特殊ピットP3、SI16を切る。	IV期
SI14b	A6	隅丸方形	不明	5.0×(4.6)		(23)	20	○		
SI15	A6	隅丸方形	4	5.2×4.8	2.65-2.7	23.5	2	N74°E	主柱穴P1～4、SI16・SB10-11を切る。	III期
SI16a	A6-7	長方形	4	9.2×(8.3)	4.6-5.0	(75)	7	N27°W	主柱穴P1～3	
SI16b	A6-7	長方形	4	(9.5)×8.1	4.5	(76)	7	N64°E	主柱穴P4-5	II期
SI20	B5.6	隅丸方形	無	(4.6×4.4)		(19)	40	N84°W		II期

遺構 地区	形状	主柱 (本)	規模 (m)	主柱間 (m)	面積 (㎡)	深さ (cm)	軸方位	備考	時期	
SI21	B6-7	隅丸方形	4	7.7×(7.7)	4.0-4.2	(53)	4~6	N60°W	主柱穴P1~3、特殊ビットP4、SB19を切る	Ⅲ期
SI22	C2-3	隅丸六角形	6	8.4×(8.4) 一辺 4~4.5m	2.6-29-3.8	(60)	2~4	N42°W	主柱穴P1~6、特殊ビットP7	Ⅰ期
SI23	C2	隅丸方形	4	6.4×6.3	3.0-3.2	34.4	12	N42°W	焼失家屋、主柱穴P1~4、特殊ビットP5	Ⅰ期
SI24	E4	隅丸長方形	4	5.5×4.5	1.4-1.7~2.0	21.6	30	N42°E	主柱穴P1~4	Ⅲ期
SI25	B6-E6	隅丸方形	4	(7.4)×6.7	3.3-3.8	(44)	0	N42°W	主柱穴P1~3	Ⅲ期
SI26	E7-8	隅丸方形	4	(7×7)	2.8	(47)	5~24	N46°W	主柱穴P1-2	不明
SI27	B10 E10 A10	楕円形か	(8)	(10×10)	2.0-2.2-2.6- 2.9-3.3-3.4	(75)	0	N10°W	柱穴P1~7、一部が残る壁溝から2.2~2.5m離れて外周溝が内側の規模東西15.9m、南北13.2mで廻る。幅40~140cm、深さ7~27cmを測るが、溝底の標高は南端が高く北が低い。	Ⅲ期

2 掘立柱建物 (遺構65~74図、遺物75~77図)

掘立柱建物36棟は竪穴建物と同じく鞍部を避けて調査区東部の微高地に分布し、5~6の群構成が想定できるものである。特に集中するA5・6区とB6・7区の2地区では複数の掘立柱建物や竪穴建物が複雑に複合している。掘立柱建物は基礎部分によって布堀の掘方とする方式(以下布堀式と略す)と通常の柱穴の方式(以下柱穴式と略す)に大別できる。

掘立柱建物36棟のうち布堀式をとるものは24棟を数える。このうち布堀溝の一部が途切れ、桁行方向に布堀溝が2つ列をなすもの(以下一間布堀式と仮称する)が8棟存在する。布堀式はSB01~03・05・06・09~11・15~18・20・21で、一間布堀式はSB04・07・08・12・13・14・19・23である。このように布堀式をとる掘立柱建物は通常のものとは布堀溝が一部途切れるものの2種に大別できるもので、詳細な分類については第4章を参照願いたい。

SB19bはSB17西布堀部を梁行とし復元したもので掘立柱建物のなかで最大規模となる。このSB17西布堀はSB19布堀と直角を成し、また柱穴の間隔も同一になる。SB19bはSB17の存在を否定するもので、この事例の判断がつかねることから可能性の提示にとどめるもので前述の棟数等には含めていない。

掘立柱建物一覧表

() 内は推定値

遺構	地区	桁×梁	規模 (m)	梁/桁	桁柱間 (m)	面積(㎡)	主軸方位	備考
SB01	A4-5	3×1	6.8×4.7	0.69	2.1~2.4	32.0	N2°W	布堀式、布堀長7.25m、布堀巾60~80cm、P1-2は東柱穴か。
SB02	A5	3×1	3.6×3.25	0.90	1.1~1.35	11.7	N79°E	布堀式、布堀長4.1m、布堀巾25~36cm、SB03を切る
SB03	A5	3×1	4.9×3.9	0.79	1.5~1.8	19.1	N34°W	布堀式、布堀長5.5m、布堀巾50~70cm
SB04	A5	3×1	5.3×4.1	0.77	1.7~1.9	21.7	N31°W	一間布堀式、布堀長2.8・(2.5)m、布堀巾60~85cm、SB03を切る
SB05	A5	4×1	5.5×3.4	0.62	(1.0~1.1)・ 1.6~1.9	18.7	N82°W	布堀式、布堀長6.1m、布堀巾40~70cm、SB06を切る
SB06	A5	3×1	4.5×3.5	0.78	1.5	13.5	N79°E	布堀式、布堀長(5.3m)、布堀巾54~66cm
SB07	A5-6	3×1	3.6×3.3	0.92	0.9~1.2・ 1.4~1.5	11.9	N79°W	一間布堀式、布堀長2.2-3.6m、布堀巾60~90cm
SB08	A6	3×1	4.2×3.3	0.79	1.2~1.3・ 1.7~1.8	13.8	N78°W	一間布堀式、布堀長1.8~2.0m、布堀巾60~86cm

道情	地区	桁×梁	規模 (m)	梁/桁	桁柱間 (m)	面積 (㎡)	主軸方位	備 考
SB09	A6	3×1	4.6×2.8	0.61	1.0・1.7～1.9	12.9	N76°E	布掘式、布掘長5.2m、布掘巾50～(80)cm
SB10	A6	3×1	5.1×2.7	0.53	1.6～1.8	13.8	N57°E	布掘式、布掘長6.4～(6.5)m、布掘巾50～(90)cm、SB09を切る
SB11	A6	1×1	1.2×1.7		1.2	2.0	N12°E	布掘式、布掘長1.7m、布掘巾50～70cm
SB12	E6	3×1	3.9×3.4	0.87	1.3	13.3	N88°W	一間布掘式、布掘長1.8m、布掘巾30～55cm
SB13	B6-E6	3×1	4.1×3.5	0.85	1.3～1.5	14.3	N82°E	一間布掘式、布掘長1.95m、布掘巾45～70cm
SB14	B5-6	3×1	6.3×3.5	0.56	1.6～2.6	14.3	N76°E	一間布掘式+柱穴、布掘長5.0m、布掘巾50～(60)cm
SB15	B6	4×1	7.0×3.4	0.49	1.6～2.0	23.8	N87°W	布掘式、布掘長7.5m、布掘巾60～90cm、SB16を切る
SB16	B6	3×1	6.0×3.3	0.55	1.4～1.9・2.5～2.6	19.8	N86°E	布掘式、布掘長6.6～(6.8)m、布掘巾68～78cm
SB17	B6-7	2×(1)	4.0×不明				N30°W	布掘式、布掘長4.7m、布掘巾65～110cm、SB19西梁行の可能性有り
SB18	B6-7	2×1	5.2×3.5	0.67	2.4～2.6	18.2	N85°E	布掘式、布掘長6.3～6.5m、布掘巾60～73cm
SB19a	B6-7	3×1	5.9×3.9	0.66	(1.5・2.2)	23.0	N70°E	一間布掘式、布掘長6.7m、布掘巾60～90cm
(SB19b)	◇	4×1	8.1×3.9	0.48	(1.5・2.2)・2.2	31.6	◇	SB17を西側の梁行とした場合
SB20	B8	3×1	4.6×2.8	0.61	1.4・1.5	12.9	N45°E	布掘式、布掘長5.5～5.6m、布掘巾40～64cm
SB21	B8	3×1	6.2×3.1	0.50	1.6～1.9	19.2	N45°W	布掘式+柱穴、布掘長6.0・7.0m、布掘巾50～64cm
SB22	B5	2×1	3.8×2.7	0.71	1.8・2.0	10.3	N74°E	柱穴径44～84cm、深さ63～82cm
SB23	B5	3×1	5.4×4.4	0.81	1.7・1.8	24.2	N20°E	一間布掘式、布掘長2.2・(2.3)m、布掘巾(45)cm、P1・2は東柱穴か。
SB24	B5-6	2×1	3.9×3.8	0.97	1.8～2.1	14.8	N87°E	柱穴径30～48cm、深さ40～54cm
SB26	B6	2×1	4.4×3.6	0.82	2.0～2.0・2.5	15.8	N84°E	柱穴径34～45cm、深さ52～74cm
B27	B7	3×1	4.7×3.0	0.64	1.4～1.7	14.1	N28°W	柱穴径40～70cm、深さ63～92cm
SB28	B8	3×1	4.0×4.0	1.00	1.2～1.25・1.6～1.65	14.1	N29°W	柱穴径33～80cm、深さ42～77cm
SB29	B8-9	2×1	4.5×3.5	0.78	2.1～2.4	15.7	N60°W	柱穴径26～70cm、深さ41～57cm
SB30	A6-7 E6-7	2×1	4.2×3.3	0.79	2.1	13.9	N41°W	布掘式、布掘長4.8m、布掘巾62～83cm
SB35	B10	2×1	4.2×3.1	0.74	2.1・2.2	13.0	N25°W	柱穴径31～56cm、深さ43～71cm
SB36	B10	2×1	4.3×3.3	0.76	2.0～2.2	14.2	N42°W	柱穴径32～60cm、深さ65～73cm
SB39	B6	2×1	4.8×3.2	0.67	2.4～2.6	15.3	N56°W	柱穴径35～52cm、深さ29～76cm
SB42	B8	1×1	3.0×3.0		3.0・3.1	9.0	N26°E	柱穴径70～82cm、深さ43～58cm
SB44	B9	3×1	4.6×3.5	0.76	1.4～1.7	16.1	N63°W	柱穴径36～70cm、深さ42～61cm
SB45	A5-6	2×1	3.3×3.0	0.91	1.5～1.6	9.9	N42°W	柱穴径32～64cm、深さ17～31cm
SB46	B4	2×1	3.0×2.5	0.83	1.4・1.5	7.5	N71°W	布掘式、柱穴径34～72cm、深さ24～58cm

掘立柱建物の構造と面積分布、棟数の関係について右の表にまとめてみた。桁行3間以上の構造となるものは圧倒的に布掘式建物が多く19/22棟の割合となり、桁行4間の建物では柱穴式のものは見られない。桁行2間の建物では柱穴式の建物の割合が8/11棟となる。やはり桁行2間から3間への建物では面積の増加傾向が見られるものの、桁行2間の布掘式建物と柱穴式桁行3間の建物の面積は16㎡が上限である。以上から、3間以上

掘立柱建物の構造と面積の関係表

区分	1×1間	2×1間	3×1間	4×1間	不明	合計
布掘式	1棟 2㎡	3棟 約10～16㎡	17棟 約12～24・32㎡	2棟 約19・24㎡	1棟	24棟
柱穴式	1棟 9㎡	8棟 約10～16㎡	3棟 約14～16㎡			12棟
合計	2棟	11棟	20棟	2棟	1棟	36棟

で面積が16㎡を超える建物は布帛式基礎を、桁行が2間で面積が16㎡以下の建物には柱穴式基礎を採用する傾向が顕著に見られるものである。

A4区北側の3×1間となるSB01は東柱と推定する柱穴P1・2を有する構造で、梁間を4.7mと長くする面積32㎡を測る最大の建物である。単独で位置し、ほぼ真北の方位を採る唯一の建物で、他の建物とは異質な印象を覚えるものである。また、B5区に位置するSB23もSB01と同じ構造を採り梁間が4.4mと長くなるものである。

3 土坑（土壌）（遺構78～86図、遺物87～106図）

土坑と判断したものは96基である。粗密の差はあるが調査区全般に分布する。とくにB3区を中心とする土坑の集中地区には、平面形を隅丸長方形や長楕円形とし長さ2m前後、幅1.5m前後の土壇墓と推定するもの（SK46・88など）が多数分布する。他に一辺2.5～3mほどで隅丸形状を呈し前述のものより幅の広がる土坑（SK32・44など）が存在する。これら土坑の軸方位は北西方向、北東方向、東西方向の3方向となる規則性をもつ。また平面形が略円形で掘方が円筒状となるもの（SK35・41など）が見られる。これらの土坑の性格については今後の課題とするが、このB3区を中心とする土坑集中地区は集落における墓域として位置づけておきたい。

土坑（土壌）一覧表 （ ）内は推定値

遺構名	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸-備考
SK01	A4	略円形	144×(140)	42～45	
SK02	A4	隅丸方形	266×244	36～43	N41°W
SK03	A4	隅丸方形	262×254	37～41	N41°W
SK04	A5	楕円形	不明	12～17	(N28°W)
SK06	A6	隅丸方形	328×304	23・45	N15°W
SK07	A6	略円形	106×96	40	
SK08	A7	溝状	不明×72	30～37	N41°E
SK09	A8	楕円形	210×(150)	5～12	N9°W
SK10	B1	楕円形	140×115	20～25	N94°W
SK11	B1	楕円形	72×50	10	N12°W
SK12	B1	楕円形	(150)×106	37～40	N42°W
SK13	B2	略円形	200×190	30～32	
SK14	B2	隅丸長方形	158×110	8～10	N23°W
SK15	B3	楕円形か	200×(150)	58	
SK16	B3	円形	径120	20	
SK17	B3	不整楕円形	260×130	12～47	N26°E
SK18	B3	楕円形	168×106	42	N35°E
SK19	B3	隅丸長方形	230×193	30～47	N35°E
SK20	B3	長楕円形	140×46	26	N47°E
SK21	B3	楕円形	(170)×124	9	N58°W
SK22	B3	略円形	84×76	33	
SK23	B3	隅丸長方形	264×218	22	N63°W
SK24	B3	楕円形	100×86	24	N4°W
SK25	B3	略円形	182×162	31	
SK26	B4	円形	径112	28	
SK27	B4	略円形	162×144	46～50	
SK28	B4	楕円形	132×(110)	14～18	N43°W
SK29	B4	溝状	(300)×65	13～20	N57°E
SK30	B4	長楕円形	164×50	10	N48°E
SK31	B4	略円形	(110)×96	11～13	

遺構名	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸-備考
SK32	B4	隅丸台形	306×200	38～41	N40°W
SK33	B4	楕円形	152×58	32～42	N22°W
SK34	B4	隅丸台形	150×150	50～58	N68°E
SK35	B4	略円形	152×136	61	
SK36	B4	略円形	72×62	7	
SK37	B4	隅丸長方形	305×280	21～25	N45°E
SK38	B4	楕円形	(100)×80	10	
SK39	B4	隅丸長方形	224×174	40～46	N41°W
SK40	B4	楕円形	200×150	54	N65°E
SK41	B4	略円形	径134	35	
SK42	B4	略円形	径100	24	
SK43	B4	隅丸長方形	230×145	10	N55°W
SK44	B4	隅丸長方形	290×240	26～35	N43°W
SK45	B4	隅丸長方形	270×190	24～30	N42°W
SK46	B4	隅丸長方形	264×140	22～32	N36°W
SK47	B4	隅丸長方形	106×92	28	N42°E
SK48	B5	楕円形	176×143	22	N35°W 2基複合か
SK49	B5	楕円形	156×102	33	N42°W
SK50	B5	隅丸方形	190×174	50～53	N10°W 壁溝廻る
SK51	B5	楕円形	(190)×100	15～27	N36°E
SK52	B5	楕円形	220×113	11～14	N80°E 2基複合
SK53	B5	楕円形	84×56	25	N76°E
SK54	B5	円形か	径120	45	
SK55	B6	略円形	130×112	60	壁溝廻る
SK56	B6	略円形	(90)×78	14	
SK57	B6	楕円形	114×87	15～18	N73°W
SK58	B6	楕円形	(200)×82	15	N50°E

遺構名	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸・備考
SK59	B6	楕円形	不明×70	10	N35° W
SK60	B6	楕円形	(150)×95	15	N23° W
SK61	B6	円形	径108	53	
SK62	B6	溝状	(260)×44	15~19	N81° E
SK63	B7	楕円形	170×116	22	N85° E
SK65	B7	楕円形	(220)×156	13	(N81° E)
SK66	B7	溝状か	不明×70	30	
SK68	B7	長楕円形	280×56	7~15	N77° E
SK69	B7	略円形	120×98	22	
SK70	B7	楕円形	250×125	35・64	N17° W 3基複合か
SK71	B7	略円形	113×108	32~36	
SK72	B7	楕円形	不明×108	11	S110周溝 を切る
SK73	B7	楕円形	不明×93	30~40	N54° W
SK74	B8	楕円形	216×128	25	N65° E S82° に切られる
SK75	B8	略円形	105×95	17	
SK76	B7・8	隅丸方形	360×(360)	22~35	N90° W
SK78	B9	楕円形	110×60	9	N65° W
SK79	B9	楕円形	(200)×133	21	N53° W
SK80	C2	楕円形	126×(80)	35	(N0° W)
SK81	C2	隅丸長方形	(220)×130	30	N45° W

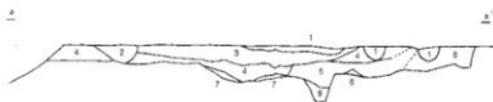
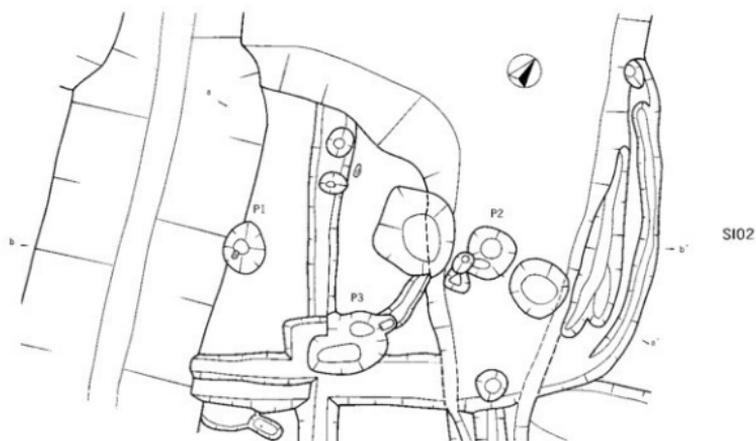
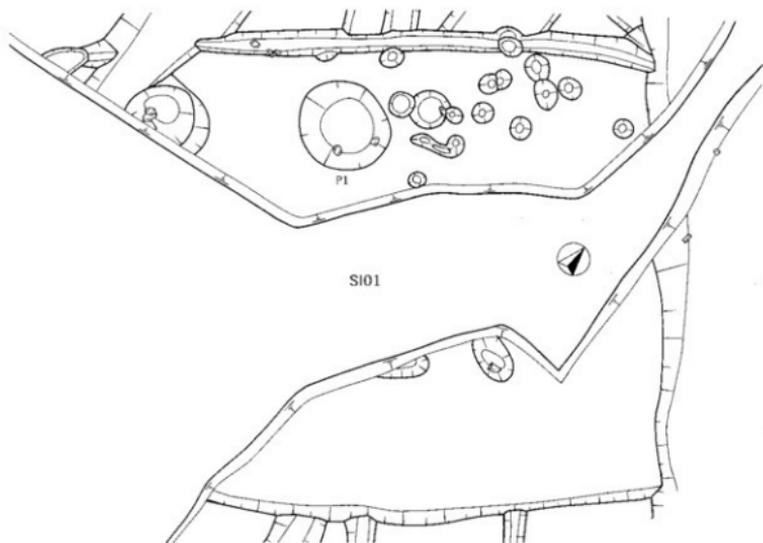
遺構名	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸・備考
SK82	C2	隅丸長方形	276×110	28	N46° E
SK83	C2	不整楕円形	(290)×154	10	N15° W 2基複合か
SK84	C2	隅丸長方形	125×100	28	N54° W
SK85	C2	隅丸長方形	170×104	15	N60° W
SK86	C3	隅丸長方形	(230)×186	27	N35° W
SK87	C3	隅丸長方形	195×123	36~43	N42° W
SK88	C3	略円形	径140	47	
SK89	C3	隅丸長方形	246×120	20~30	N30° W
SK90	C3	隅丸長方形	250×190	4~7	N39° W
SK91	C4	楕円形	220×115	20・55	N76° E 2基複合か
SK92	C4	楕円形	165×130	50	N81° W
SK93	C4	楕円形	160×107	10~14	N34° E
SK94	C4	楕円形	144×70	13	N44° E
SK95	C6	楕円形	不明×102	43	(N10° W)
SK97	F	楕円形	140×70	7	N51° W
SK100	F	略円形	径175	26	壁溝廻る
SK101	F	隅丸長方形	176×152	44	N44° E
SK102	F	略円形	径(150)	13	
SK104	F	楕円形か	不明×70	20	N42° W 弥生中期

4 方形区画溝・溝・その他の遺構（遺構107・108図、遺物109~120図）

ここではその他の遺構として方形区画溝（SX）、溝（SD）、鞍部、河道跡について一括して報告する。

SX01はB3・4区にまたがるが、北東側の状況は不明である。南北長は5.3m、溝は幅55~65cm、深さ7~25cmを測る。溝底は平坦とはならず段差がある。SX02はC5区に位置し、規模は5.8×5.0mである。溝は幅58~84cm、深さ40~50cmを測る。方位はN60° Wである。SX02はしっかりした区画溝をもつが古墳群に先立つ墳丘墓となるものかは不明である。SD02はA7区北東部に位置し幅30~60cm、深さ12cm前後である。SD03はB4区西端に位置する。ほぼ直角に屈折し長さ約16mを検出した。北側は浅く、南に向かって徐々に深くなって行き端部は水溜様となる。この端部付近から多数の土器が出土している。北側の溝は幅30cm、深さ10cm前後、南側は幅70~85cm、深さ46~62cmを測る。SD04はB4区に位置する。幅30~50cm、深さ10cmを測り、SD03の北側溝と同じ方向をもつ。

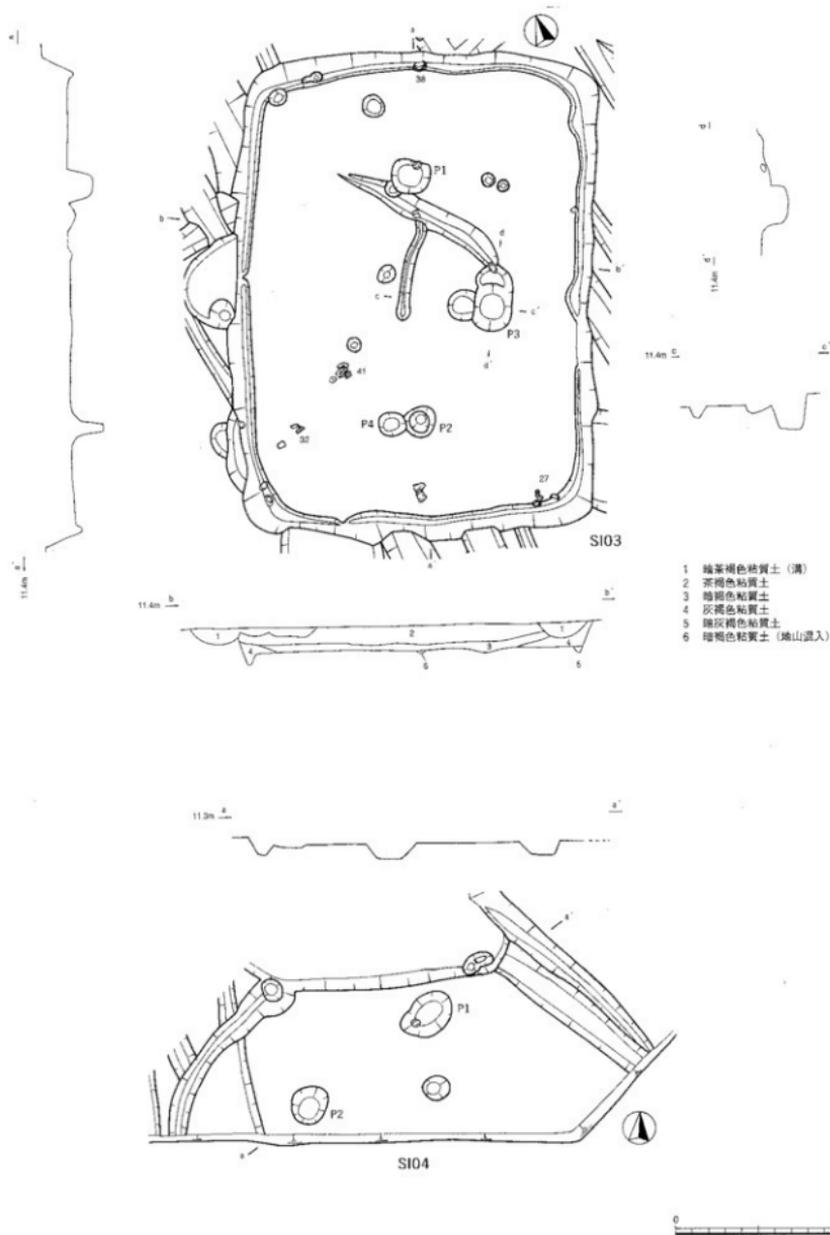
A2区鞍部から出土した土器は111~113図である。この鞍部は幅約10~12m、深さは30cm前後を測る。F区河道跡から出土した土器は113~120図である。河道跡の地区割や土器の出土状況については第2節1を参照願いたい。



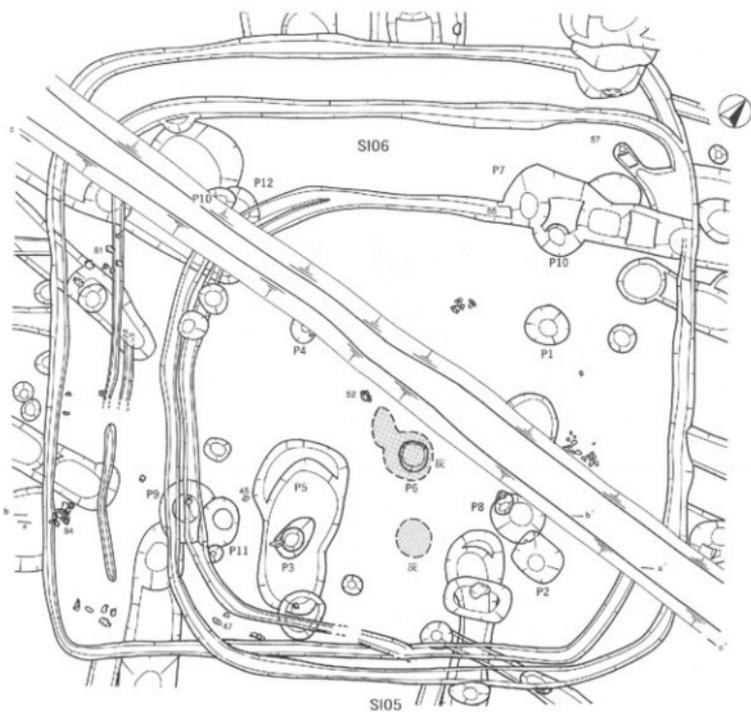
- | | |
|----------|-----------------|
| 1 灰色粘質土 | 6 淡明褐色粘質土 |
| 2 茶褐色粘質土 | 7 褐色粘質土 (地山混入) |
| 3 暗褐色粘質土 | 8 明褐色粘質土 (地山混入) |
| 4 褐色粘質土 | 9 暗褐色粘質土 (地山混入) |
| 5 明褐色粘質土 | |

0 2m

第36圖 SI01・02 遺構圖 (1/60)



第37圖 SI03・04 遺構圖 (1/60)



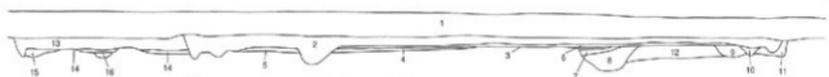
11.2m $\frac{a}{b}$



11.2m $\frac{b}{c}$



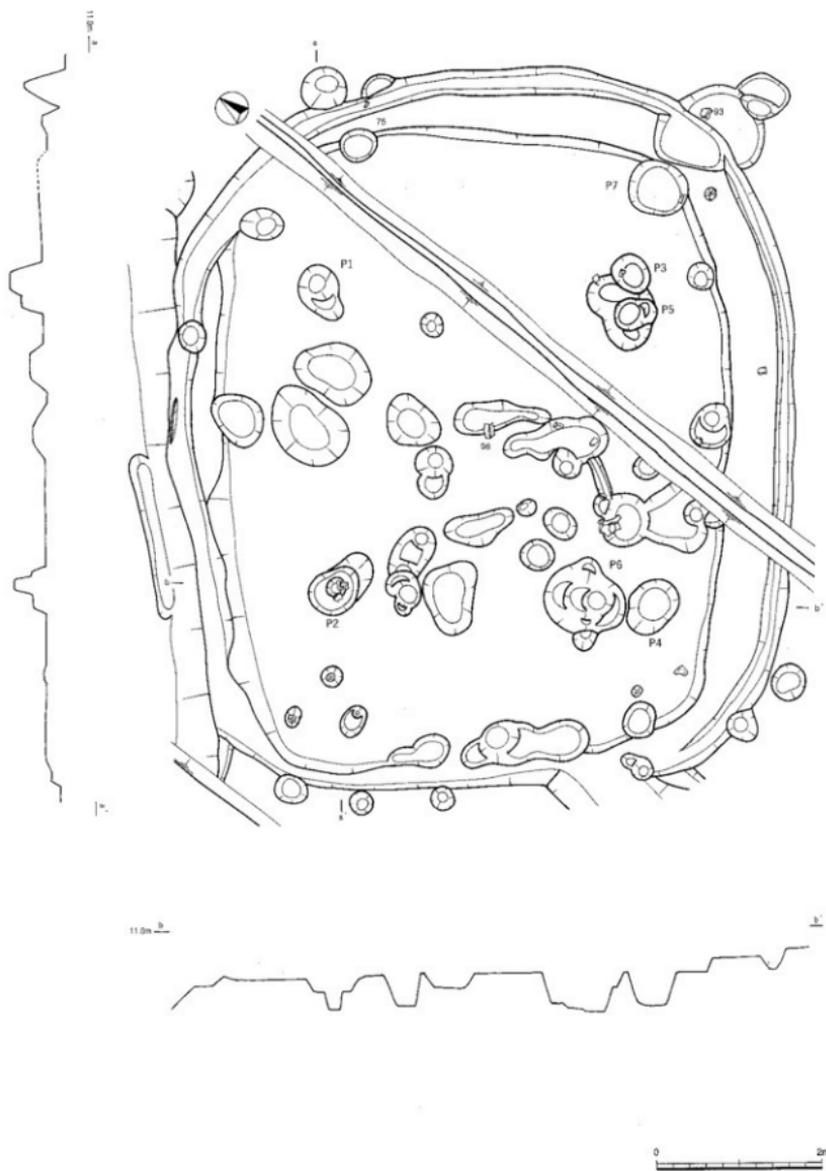
11.4m $\frac{c}{d}$



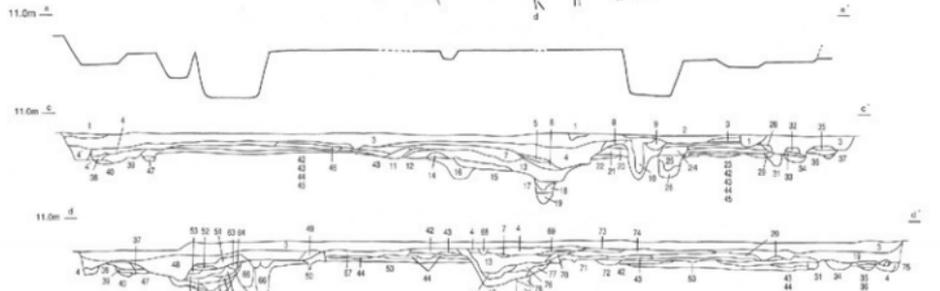
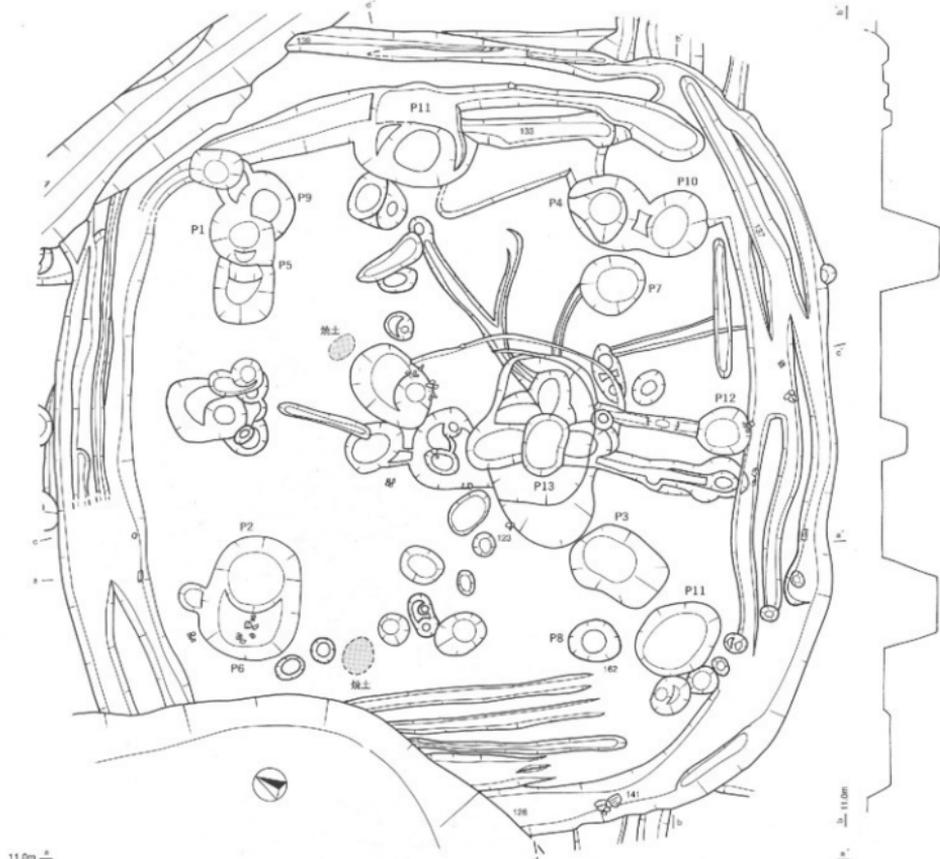
- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1 雑土 | 9 淡灰色シルト質土 |
| 2 暗灰褐色粘質土 | 10 暗灰色粘質土 |
| 3 粘土① | 11 淡黄灰色シルト質土 |
| 4 粘土② | 12 淡黄灰色シルト質土 (灰色土ブロック多量) |
| 5 粘土③ (やや灰色) | 13 暗灰色粘質土 |
| 6 淡黄灰色シルト質土 | 14 粘土④ |
| 7 暗灰黄色シルト質土 | 15 黄灰色粘質土 |
| 8 淡黄灰色シルト質 | 16 黑色粘質土 |

0 2m

第38図 SI05・06 遺構図 (1/60)

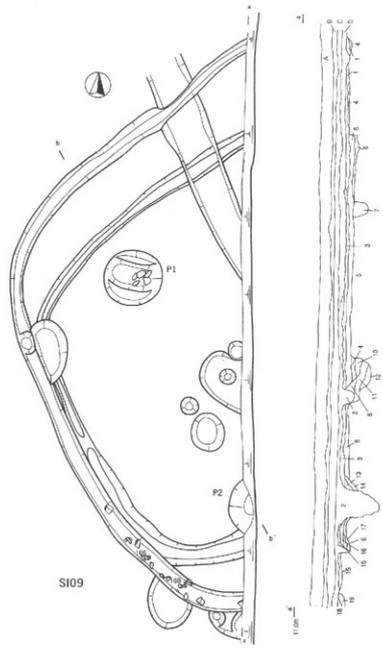


第39図 SI07 遺構図 (1/60)



- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色粘質土 | 17 (13土に鉄分含む) | 34 淡灰青色シルト質土 | 51 薄緑黄色粘質土 | 88 薄褐色粘質土 |
| 2 硬褐色粘質土 | 18 黄褐色シルト質土 | 35 (32土と同じ) | 52 黄褐色粘質土 | 89 薄緑黄色粘質土 (黄褐色ブロック部) |
| 3 硬褐色粘質土 | 19 黄褐色粘質土 | 36 淡灰褐色粘質土 | 53 灰緑色 | 70 薄緑黄色粘質土 |
| 4 硬灰褐色粘質土 (鉄分含む) | 20 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック多量) | 37 黄褐色シルト質土 | 54 薄緑黄色粘質土 | 71 淡灰黄色粘質土 (黄褐色ブロック多量) |
| 5 硬灰褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 21 黄褐色シルト質土 (黄褐色土ブロック多量) | 38 (32土と同じ) | 55 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック部) | 72 黄褐色シルト質土 (黄褐色土ブロック部) |
| 6 黄褐色粘質土 | 22 黄褐色粘質土 (鉄分含む) | 39 (32土と同じ) | 56 (54土と同じ) | 73 黄褐色粘質土 |
| 7 硬灰褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 23 硬褐色粘質土 | 40 (34土と同じ) | 57 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック部) | 74 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック部) |
| 8 硬灰褐色粘質土 (鉄分含む・塊山ブロック部) | 24 硬褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 41 (34土と同じ・やや硬い) | 58 薄緑黄色粘質土 | 75 薄緑黄色粘質土 |
| 9 硬灰褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 25 硬褐色粘質土 (鉄分含む・塊山ブロック部) | 42 灰褐色 | 59 薄緑黄色粘質土 (跡まる) | 76 薄緑黄色粘質土 |
| 10 硬灰褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 26 淡黄褐色シルト質土 | 43 灰褐色 | 60 硬灰褐色粘質土 (鉄分含む) | 77 薄緑黄色粘質土 (鉄分含む) |
| 11 黄褐色粘質土 | 27 黄褐色シルト質土 | 44 灰褐色 | 61 薄緑黄色粘質土 | 78 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック部) |
| 12 黄褐色粘質土 | 28 硬灰褐色粘質土 | 45 灰褐色 | 62 (52土と同じ・鉄分含む) | 79 硬褐色粘質土 (塊山ブロック部) |
| 13 黄褐色粘質土 | 29 淡黄褐色粘質土 | 46 硬灰褐色粘質土 (塊山ブロック部) | 63 硬褐色粘質土 | 80 薄緑黄色粘質土 |
| 14 黄褐色粘質土 | 30 (21土と同じ) | 47 淡黄褐色粘質土 (鉄分含む) | 64 硬褐色粘質土 | 81 薄緑黄色粘質土 |
| 15 黄褐色粘質土 (薄緑黄色土ブロック部) | 31 薄緑黄色粘質土 | 48 黄褐色粘質土 | 65 淡黄褐色シルト質土 | 82 黄褐色シルト質土 |
| 16 黄褐色粘質土 (鉄分含む・塊山ブロック部) | 32 薄緑黄色粘質土 (塊山ブロック部) | 49 淡黄褐色粘質土 (塊山ブロック多量) | 66 黄褐色粘質土 (黄褐色土ブロック多量) | 83 黄褐色粘質土 |
| | 33 硬灰褐色粘質土 | 50 硬灰褐色粘質土 | 67 黄褐色粘質土 | |

第40図 SI08 遺構図 (1/60)



SI09

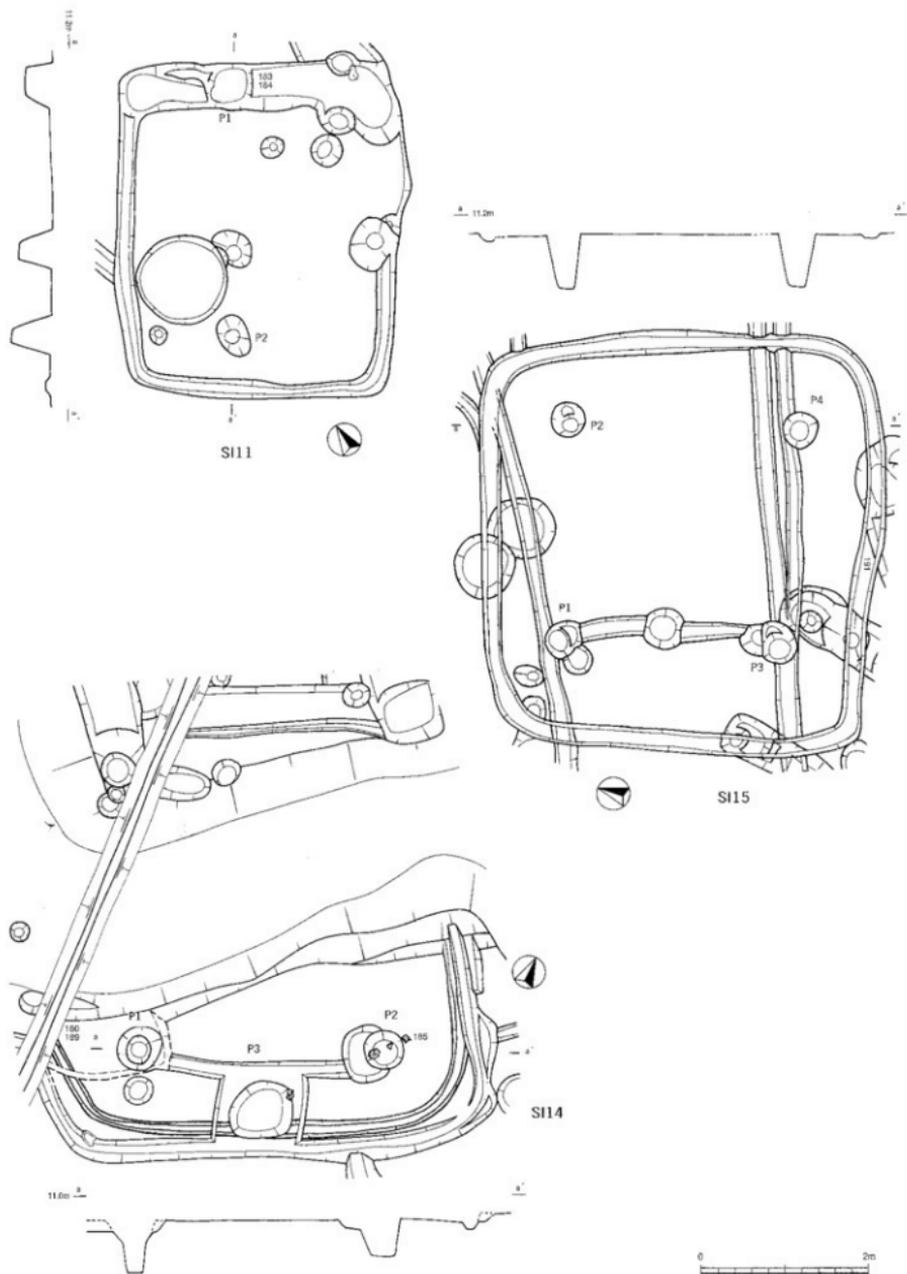
- | | |
|-----------------------|------------|
| A 粗砂礫土 | 9 濁黄色粘質土 |
| B 灰土 | 10 濁褐色粘質土 |
| C 粘土① | 11 黒色粘質土 |
| D 粘土② | 12 濁黄褐色粘質土 |
| 1 濁赤黄色粘質土 | 13 暗褐色粘質土 |
| 2 黒色粘質土 | 14 暗赤色粘質土 |
| 3 濁黄色粘質土 | 15 灰灰① |
| 4 濁黄色シルト質土 (黒色土ブロック面) | 16 灰灰② |
| 5 濁褐色粘質土 | 17 灰灰③ |
| 6 粘土① | 18 暗褐色粘質土 |
| 7 暗褐色粘質土 | 19 暗灰色粘質土 |
| 8 濁褐色粘質土 | |



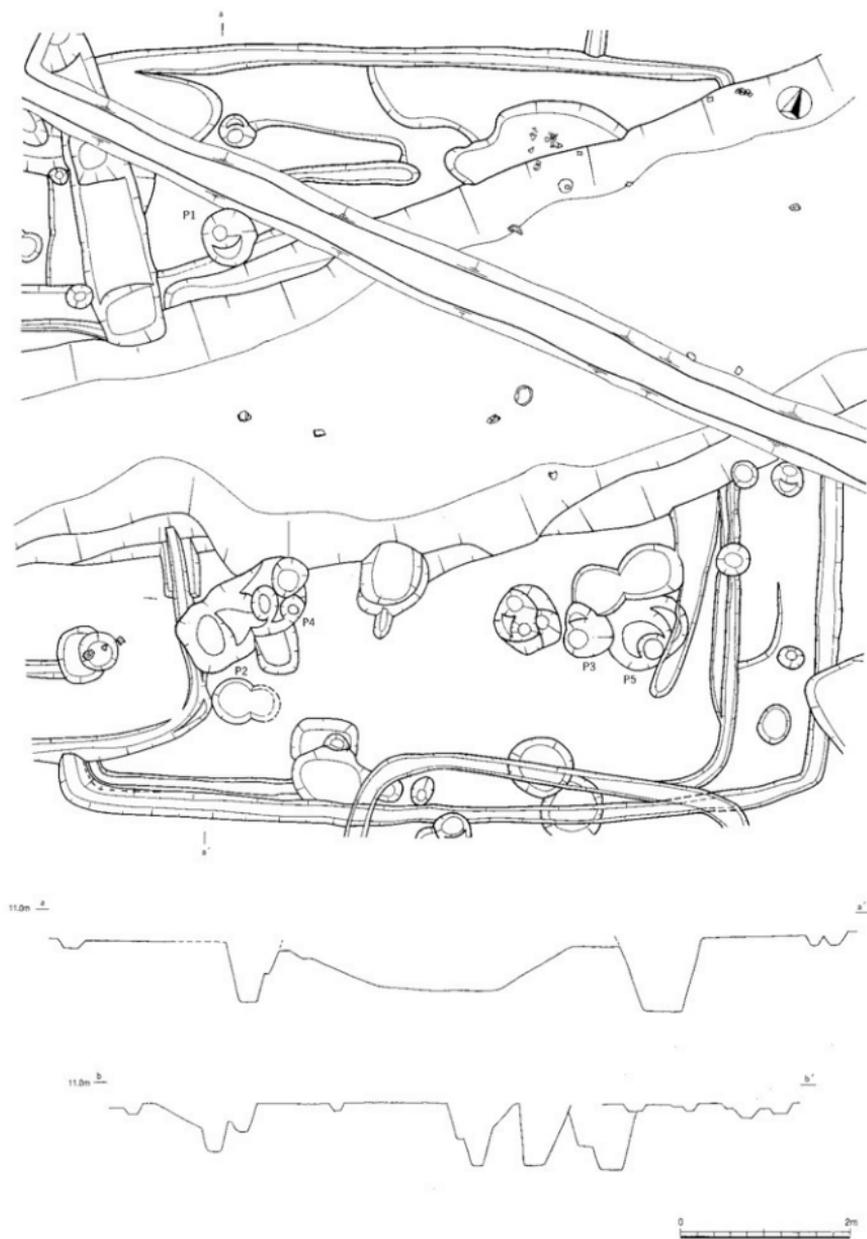
SI10



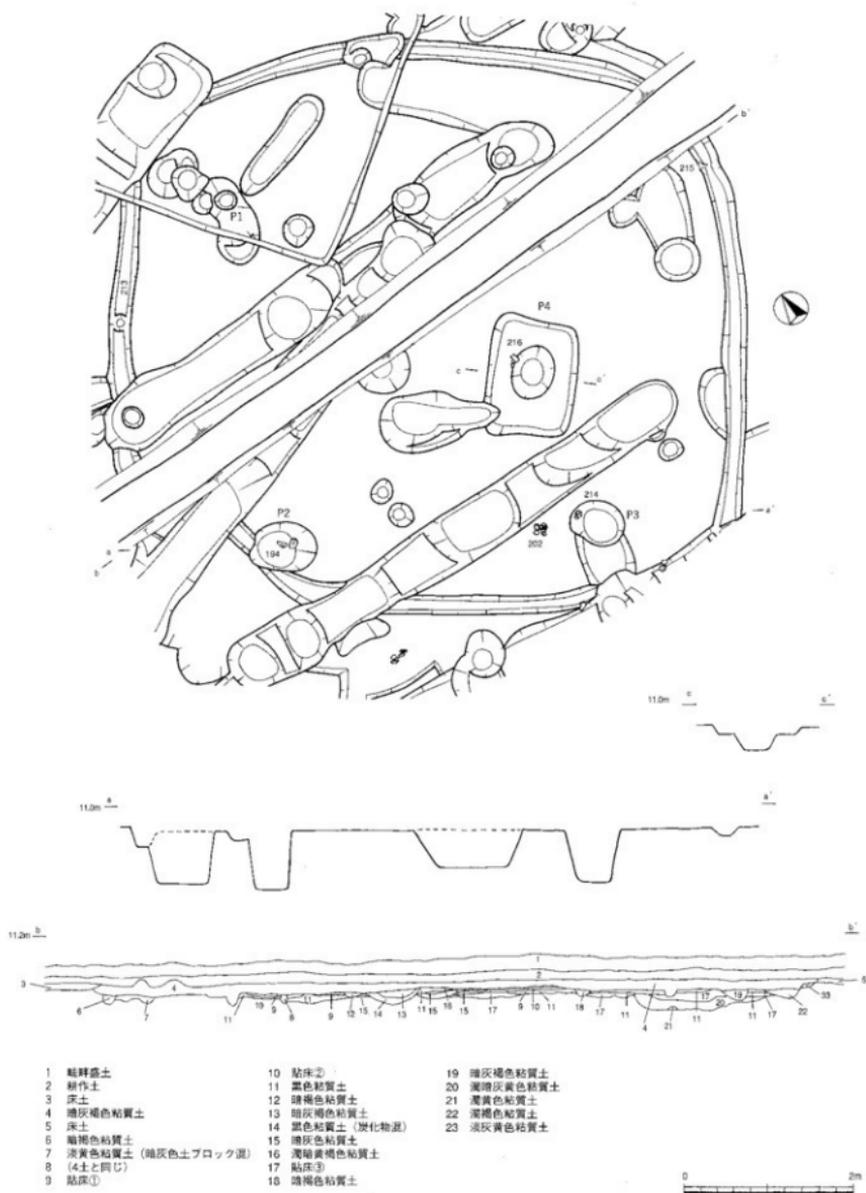
第41図 ST09・10 遺構図 (1/60)



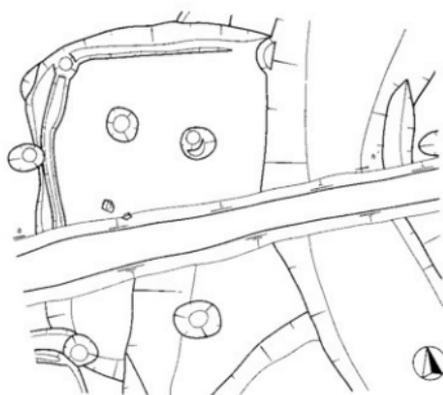
第42図 SI11・14・15 遺構図 (1/60)



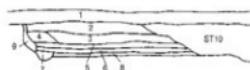
第43圖 SI16 遺構圖 (1/60)



第44図 SI21 遺構図 (1/60)

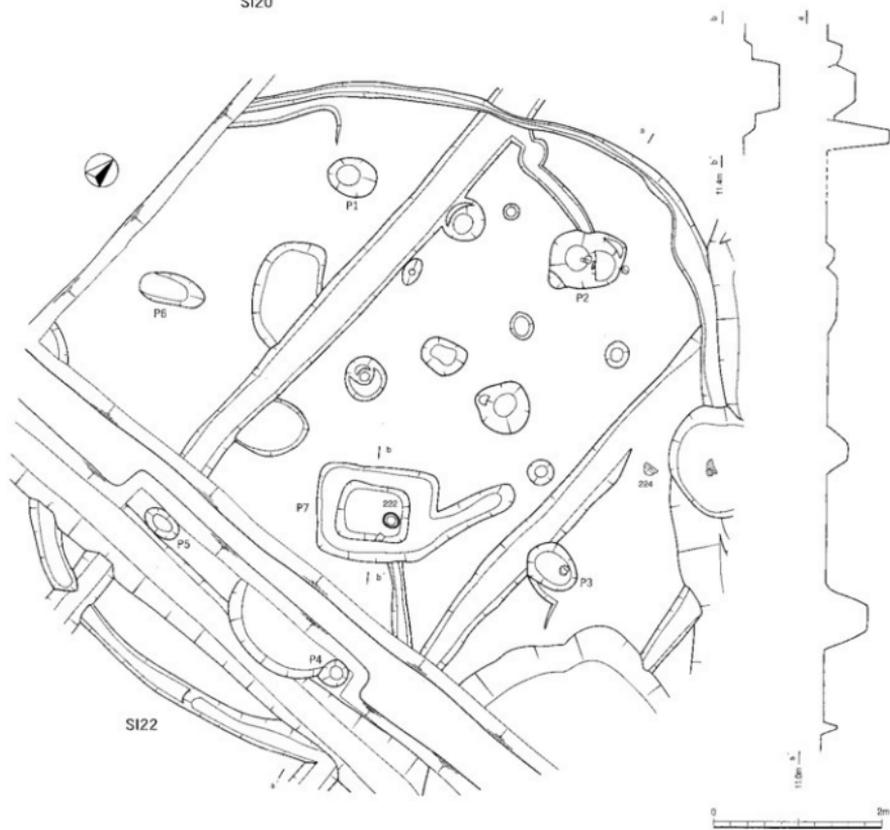


11.4m

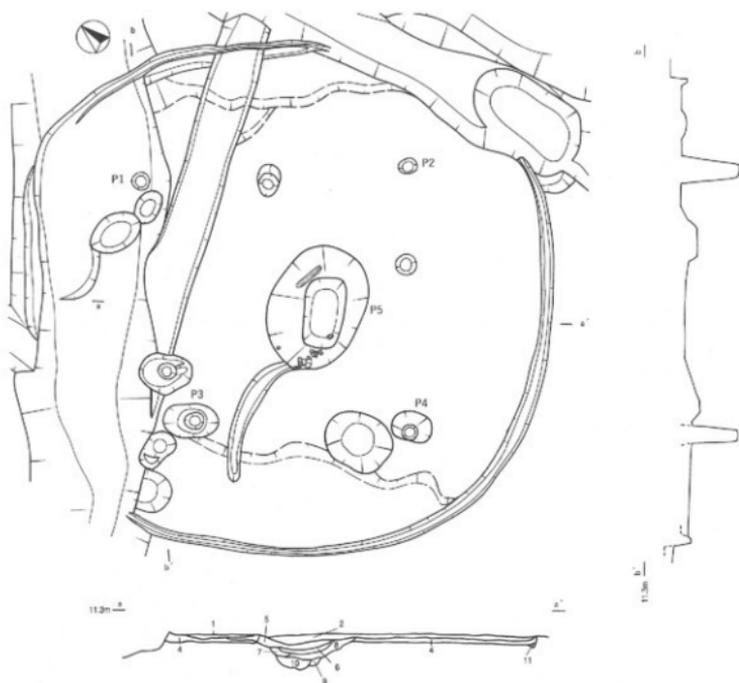


- 1 移作土
- 2 薄灰褐色粘質土
- 3 淡褐色粘質土
- 4 薄灰色シルト質土
- 5 薄黄色シルト質土 (珪灰土ブロック混)
- 6 粘床①
- 7 灰色シルト質土
- 8 粘床②
- 9 薄黄灰色粘質土

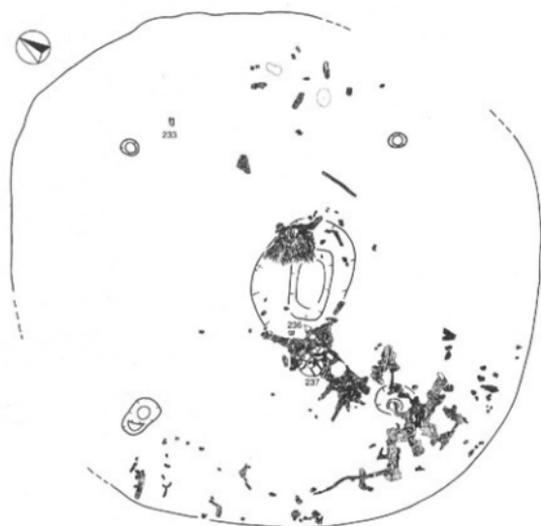
SI20



第45図 SI20・22 遺構図 (1/60)

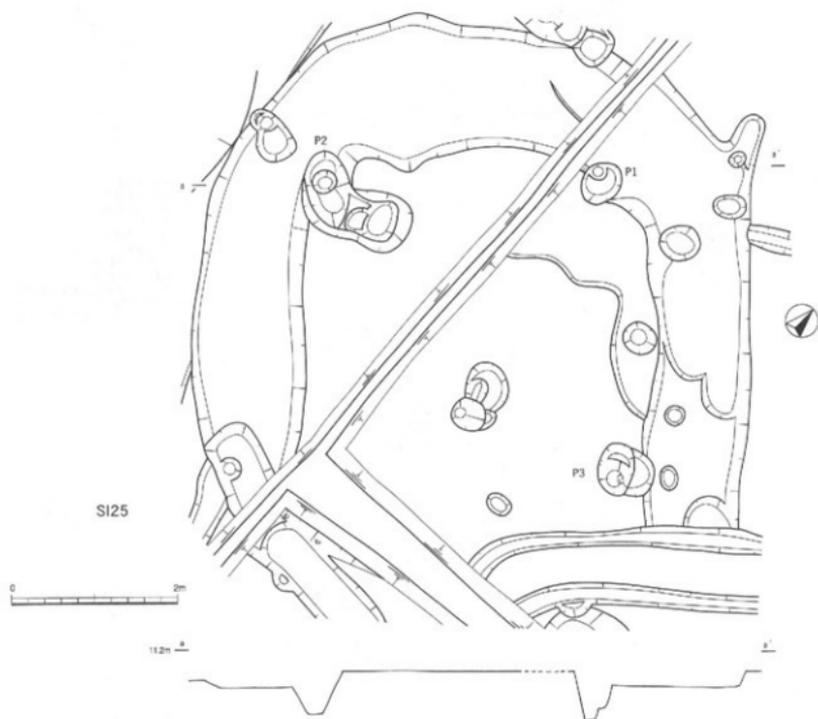
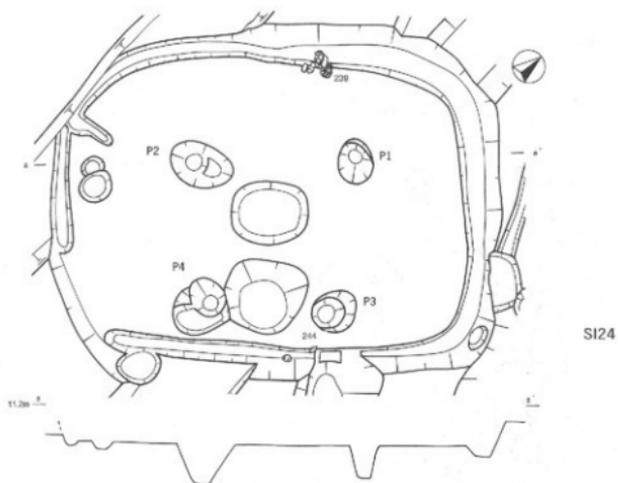


- 1 灰色粘質土
- 2 灰褐色粘質土
- 3 福灰色粘質土
- 4 黏床(1)
- 5 暗褐色粘質土
- 6 炭化物層
- 7 淡灰褐色粘質土
- 8 福灰色粘質土
- 9 黄色シルト質土 (福灰色土ブロック裏)
- 10 福灰色粘質土
- 11 暗灰色粘質土 (地山ブロック裏)

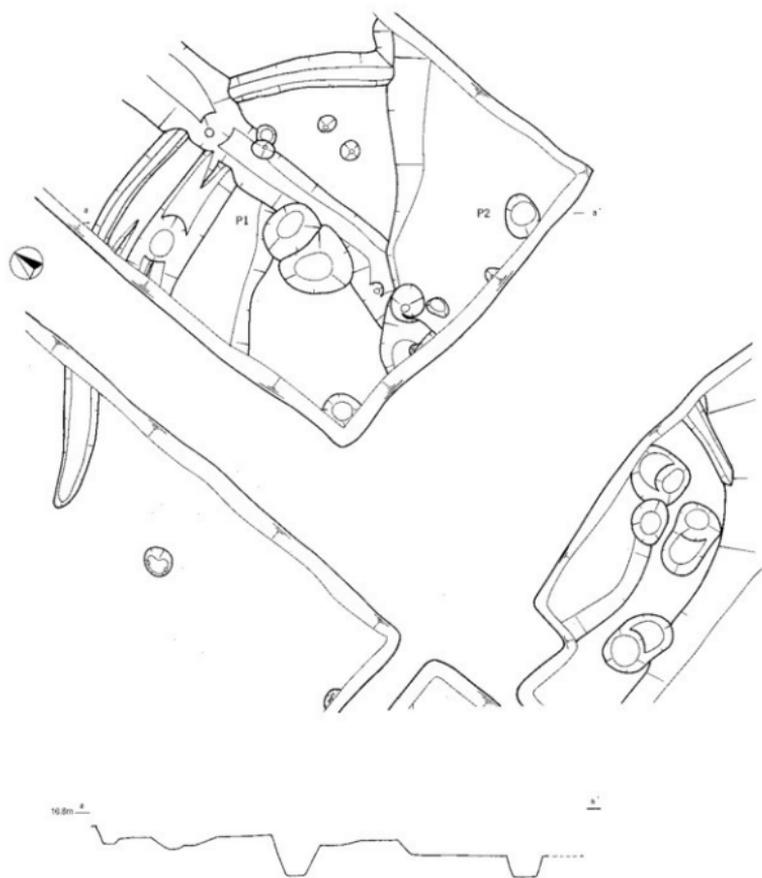


炭化材・土器出土状況

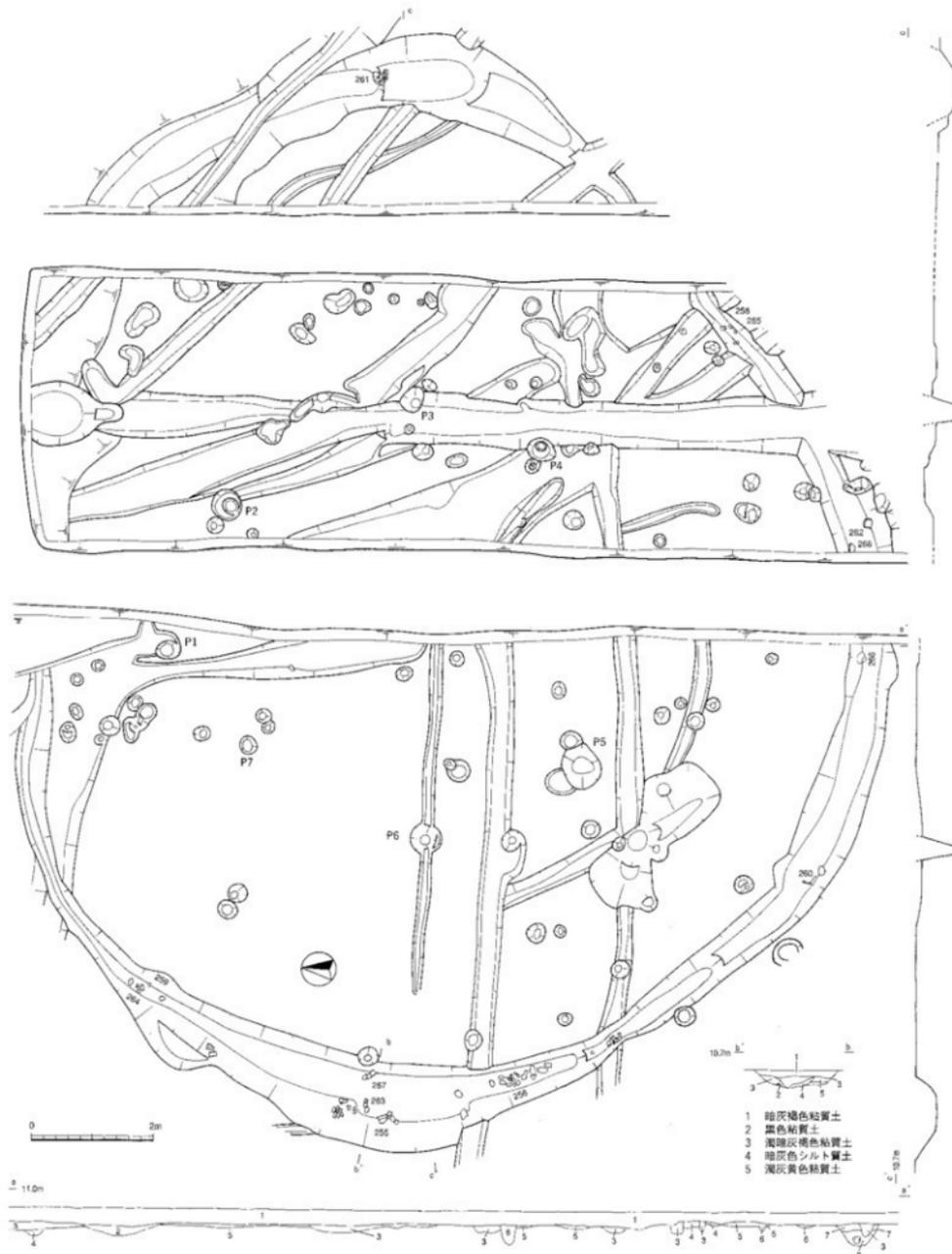
第46図 SI23 遺構図 (1/60)



第47図 SI24・25 遺構図 (1/60)



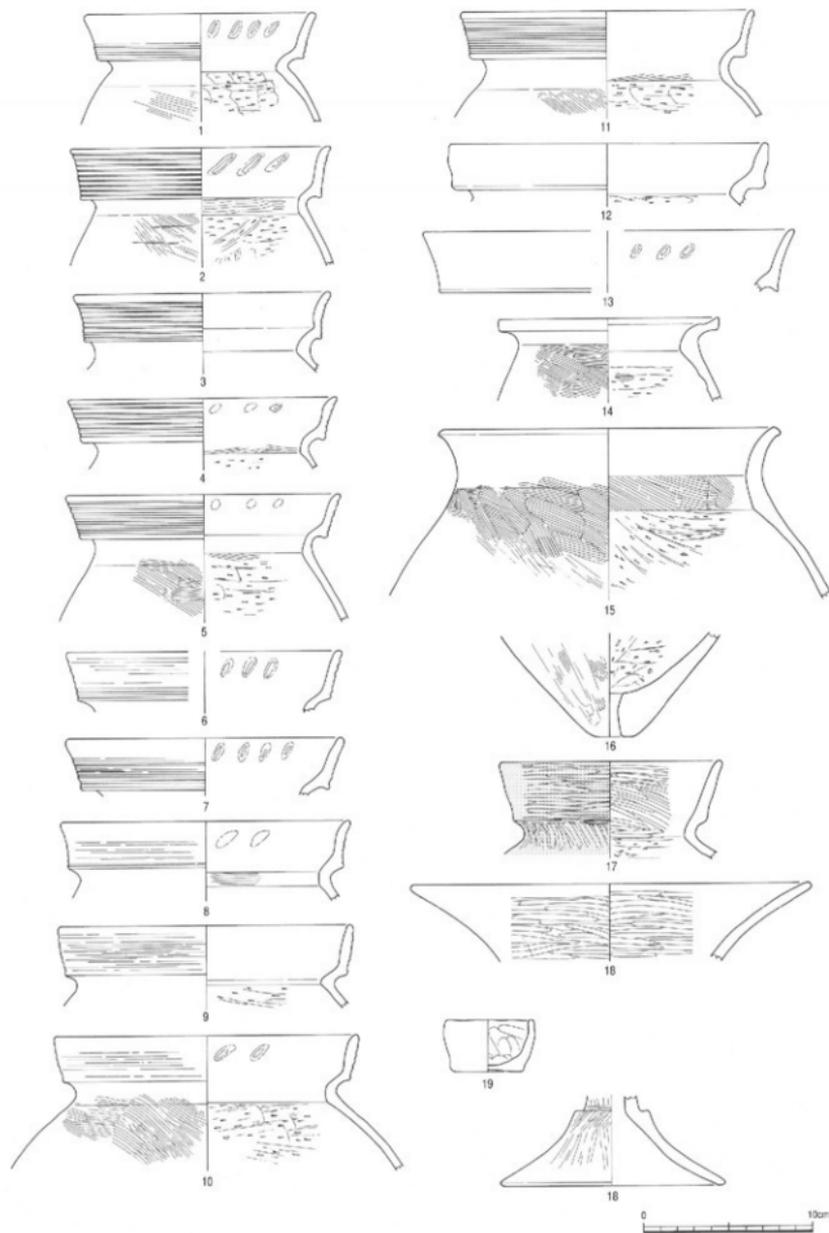
第48図 SI26 遺構図 (1/60)



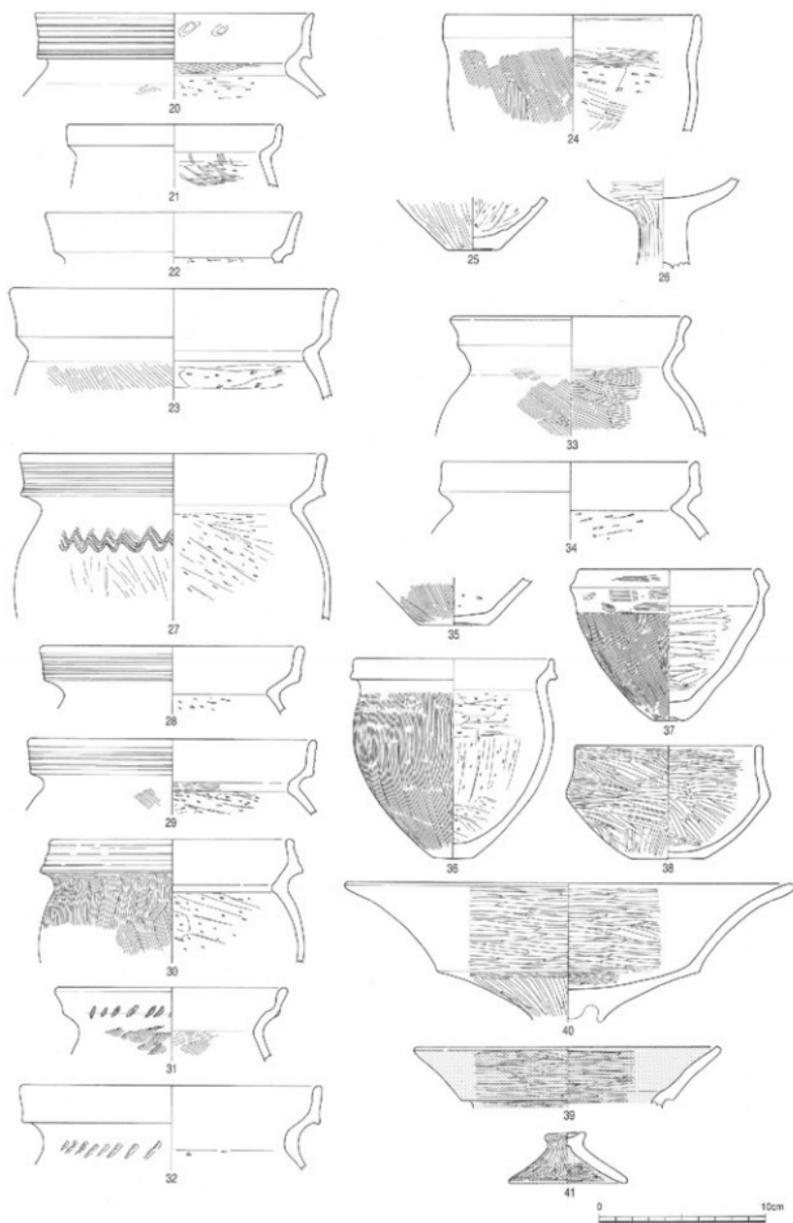
- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 黒色粘質土
- 3 濃褐灰褐色粘質土
- 4 暗灰色シルト質土
- 5 濃灰黄色粘質土

- 1 雜竹土
- 2 灰色粘質土
- 3 暗灰色粘質土
- 4 暗灰色シルト質土
- 5 濃暗灰色粘質土 (黄色土ブロック混)
- 6 淡灰黄色粘質土
- 7 灰褐色粘質土
- 8 暗灰色粘質土

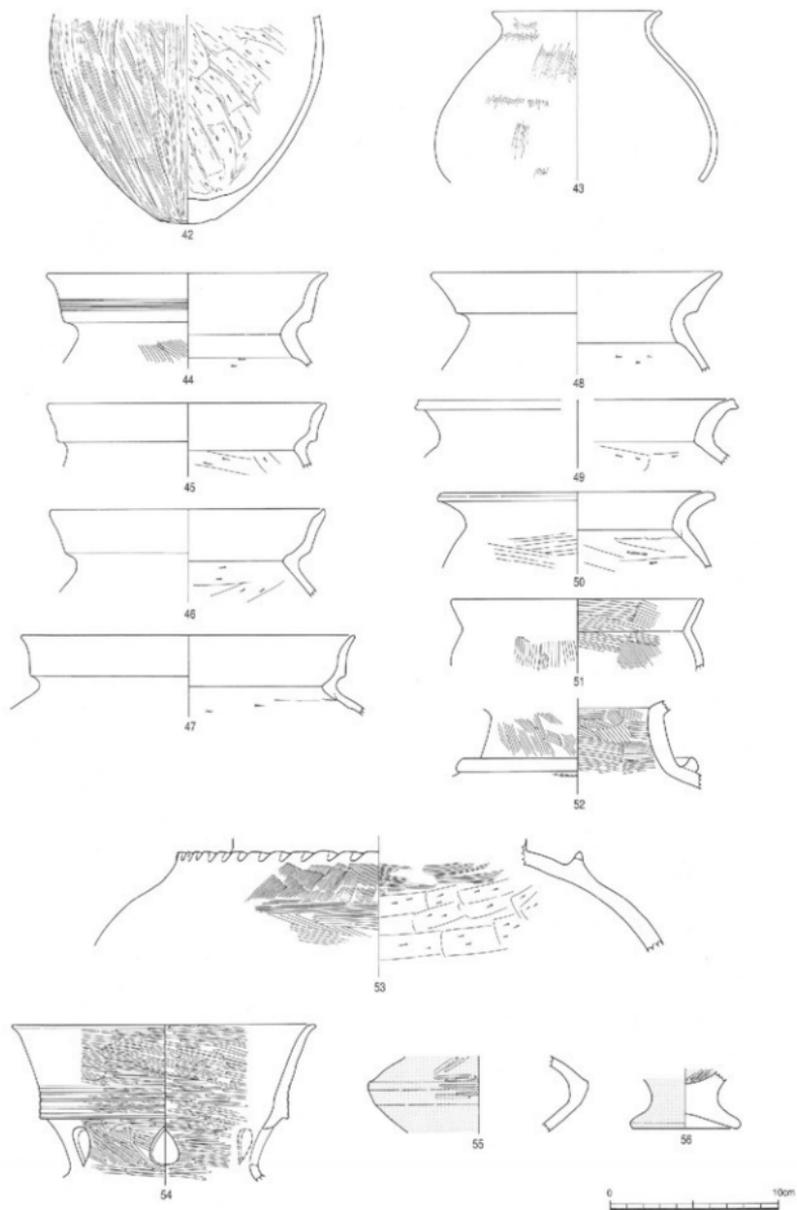
第49図 SI27 遺構図 (1/80)



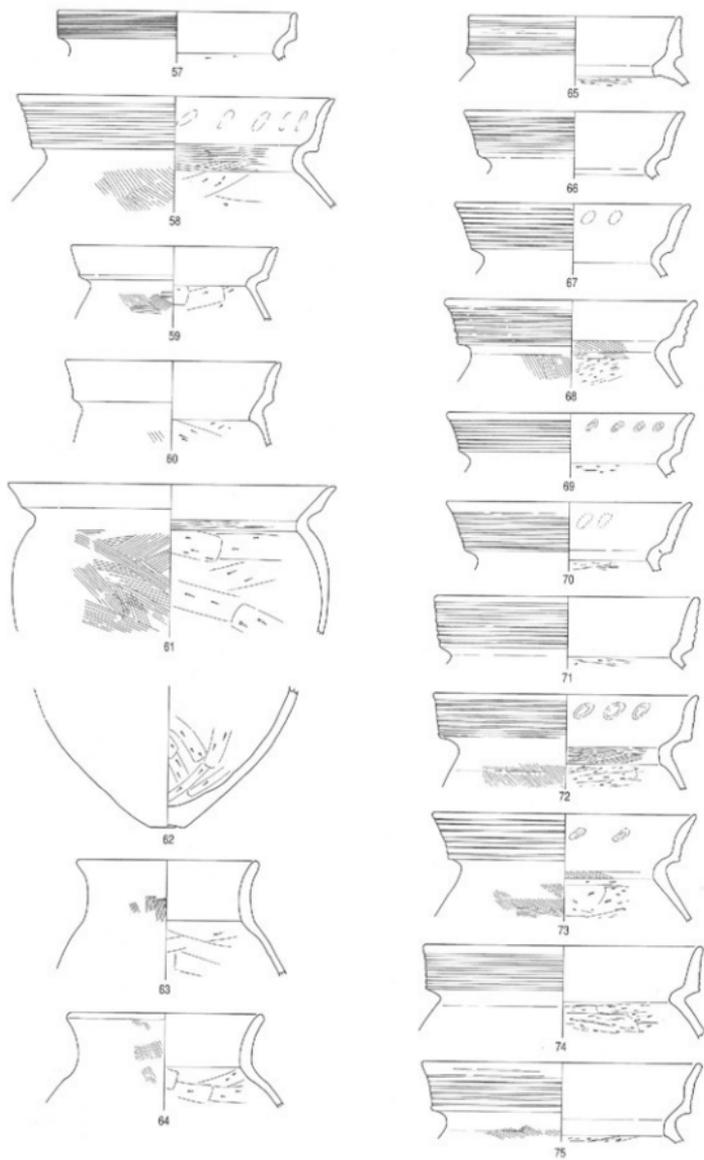
第50図 SI01 (1~19) 出土土器 (1/3)



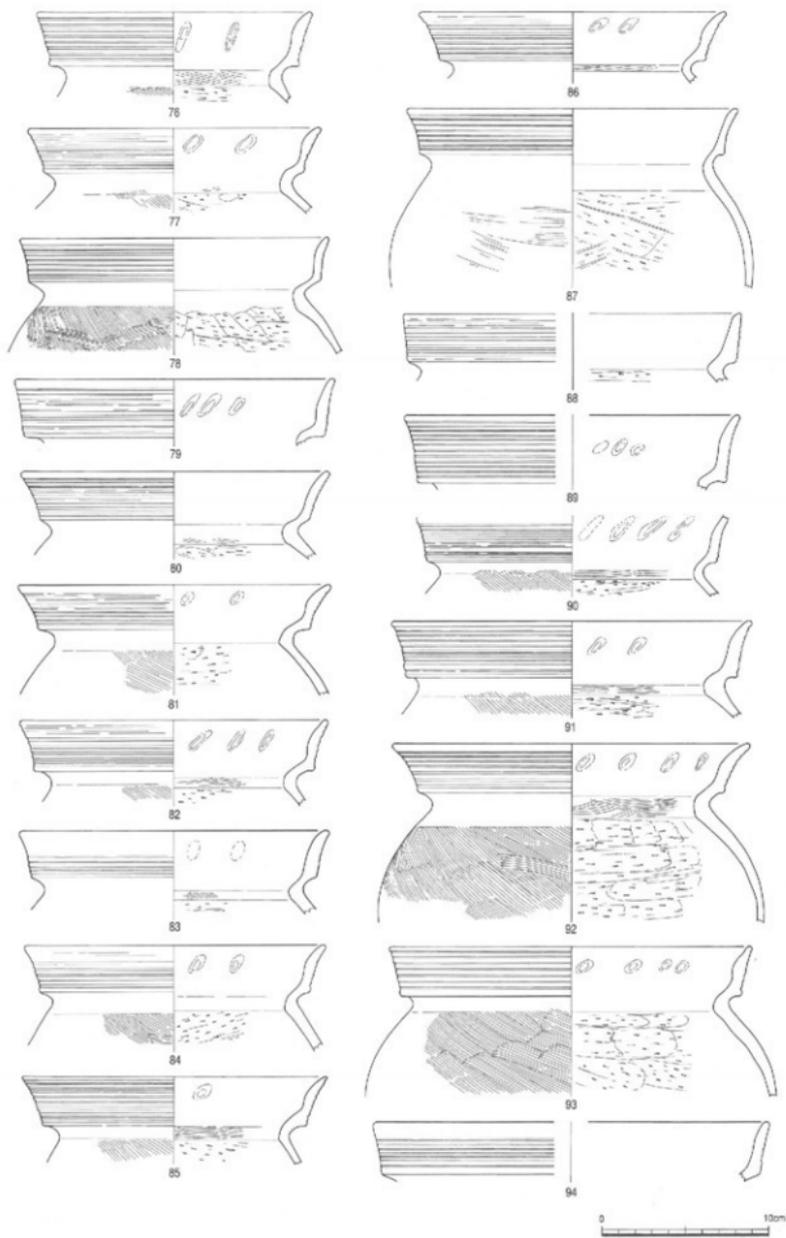
第51図 SI02 (20~26)・SI03 (27~41) 出土土器 (1/3)



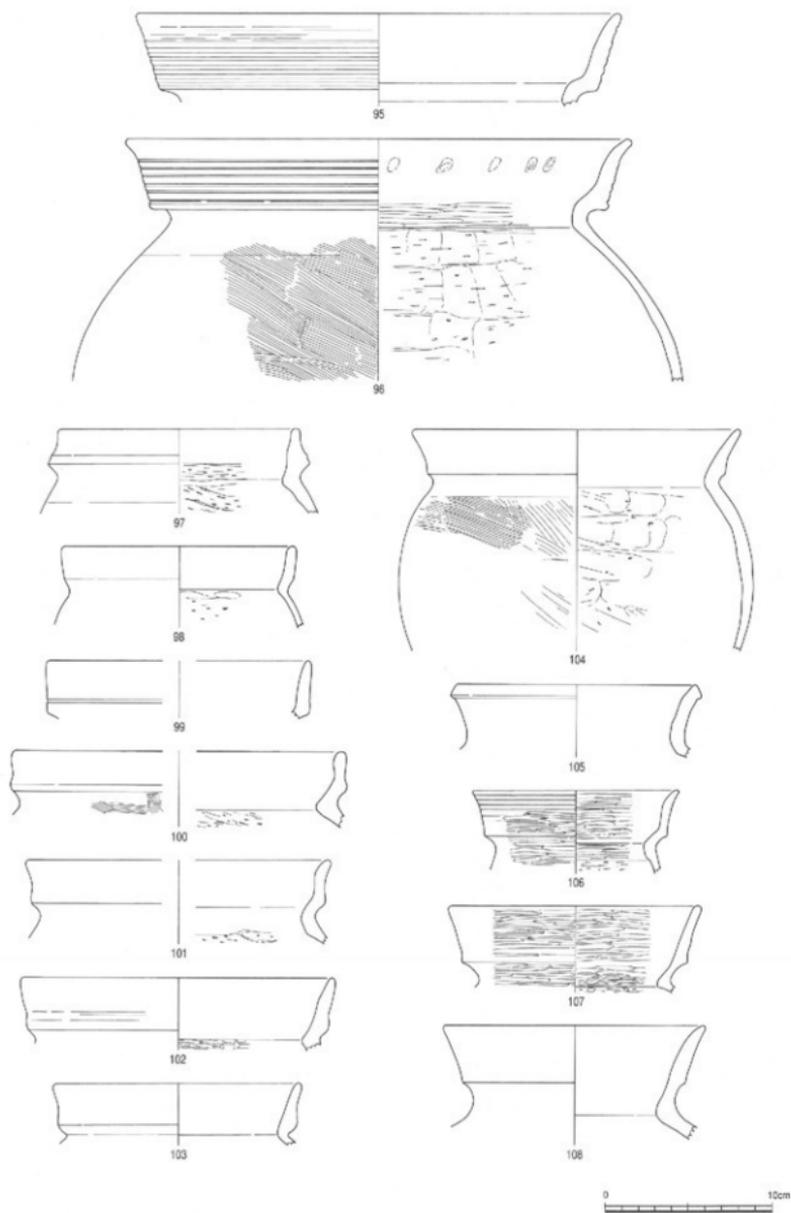
第52図 SI04 (42・43)・SI05 (44~56) 出土土器 (1/3)



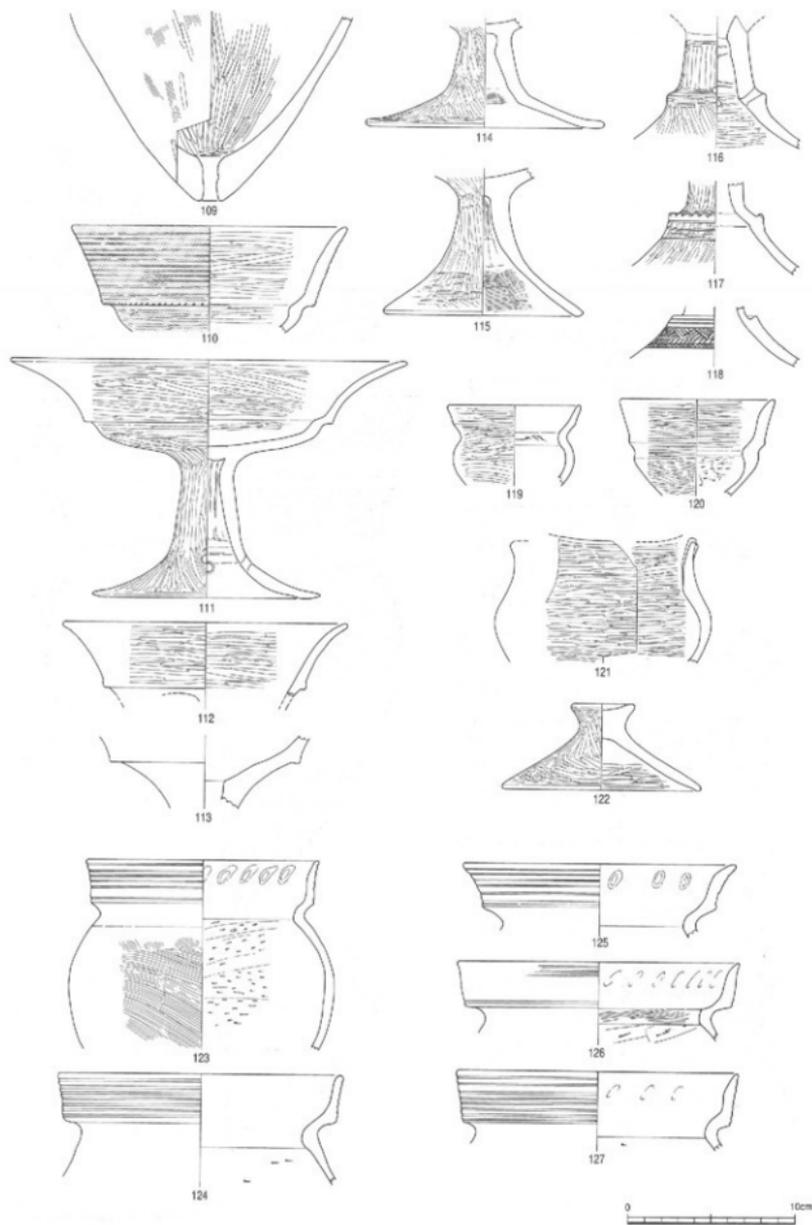
第53図 SI06 (57~64)・SI07 (65~75) 出土土器 (1/3)



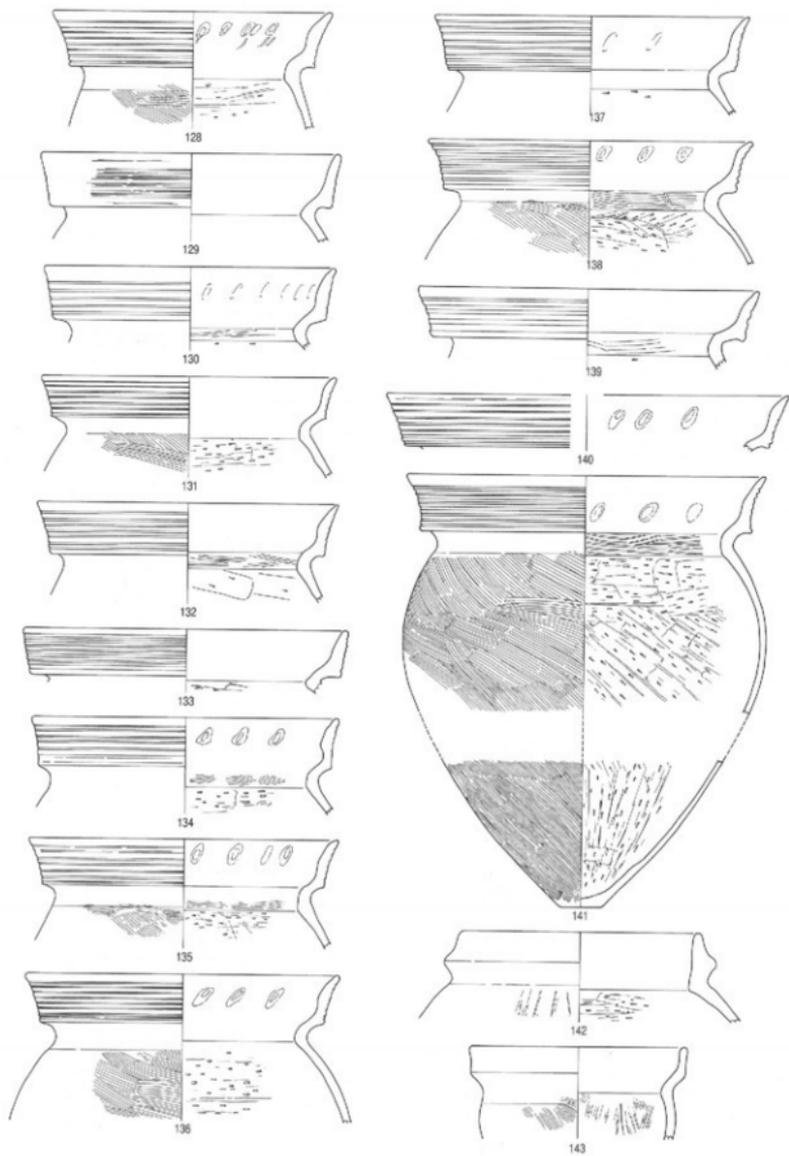
第54图 SI07 (76~94) 出土土器 (1/3)



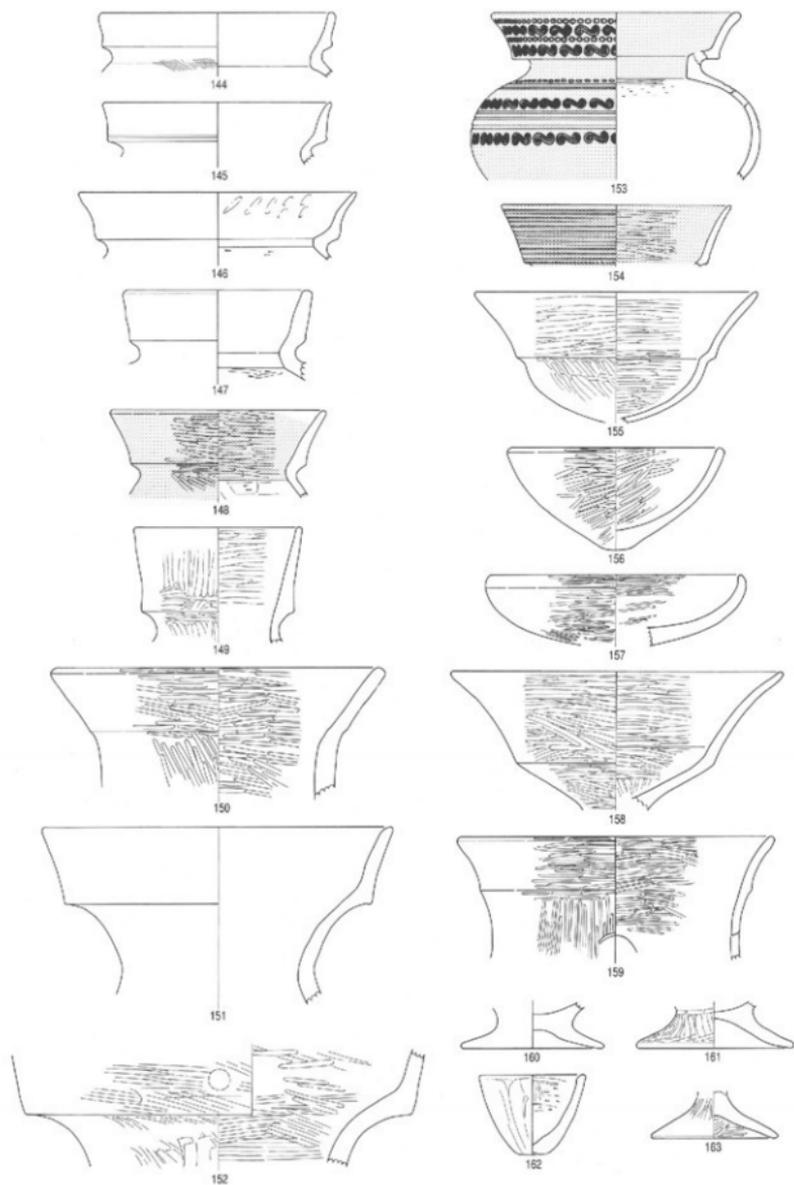
第55図 SI07 (95~108) 出土土器 (1/3)



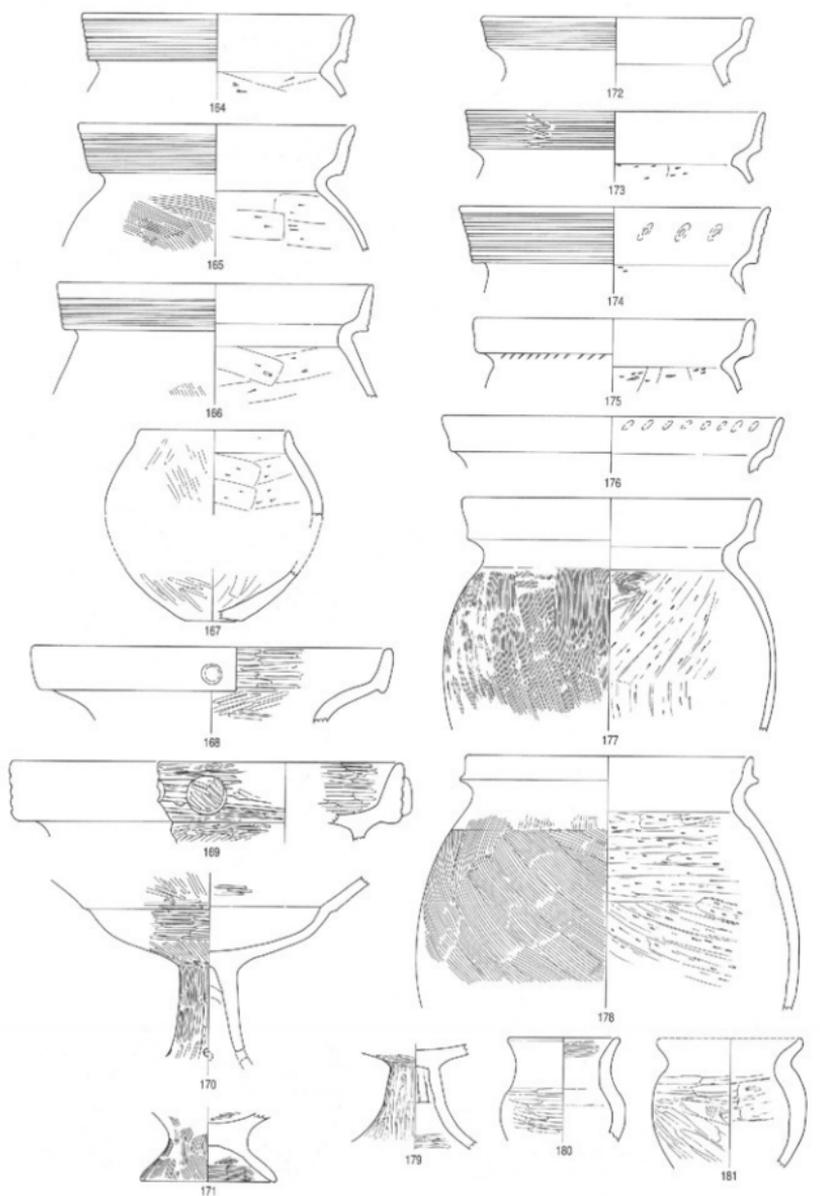
第56図 S107 (109~122)・S108 (123~127) 出土土器 (1/3)



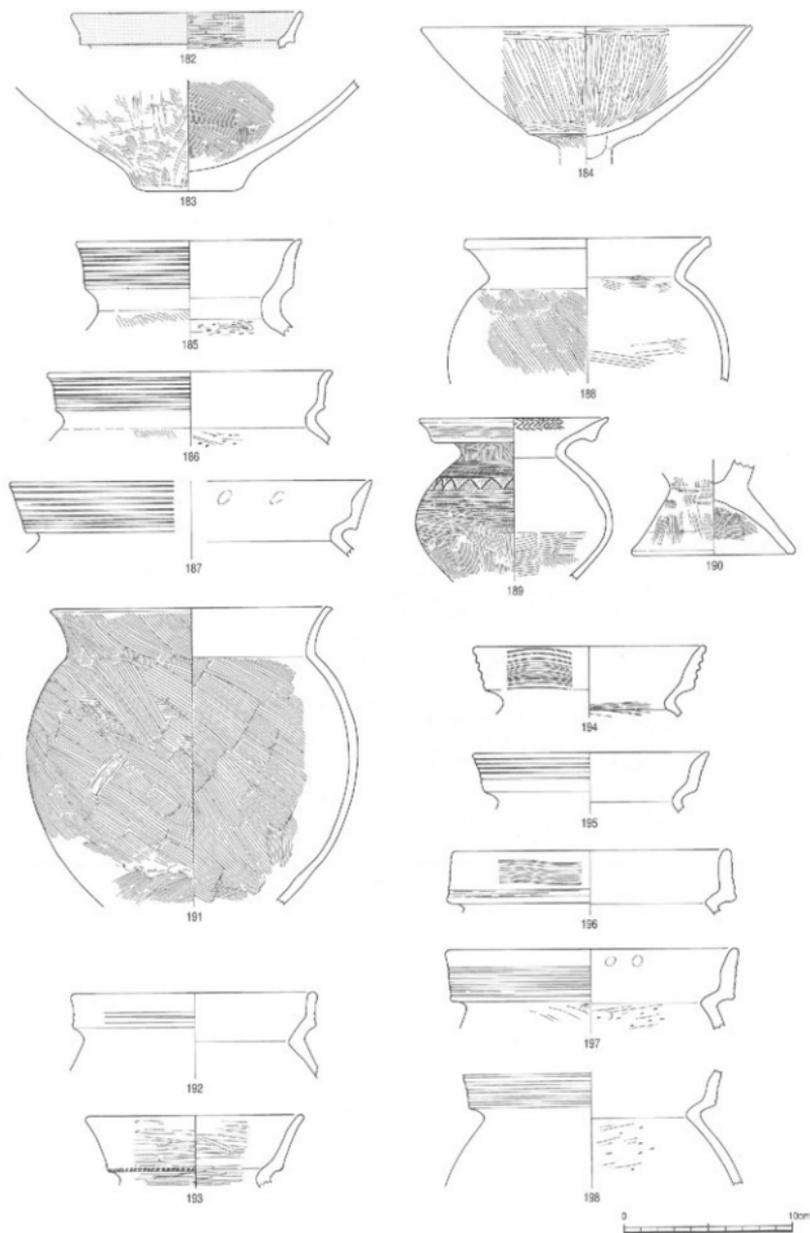
第57図 SI08 (128~143) 出土土器 (1/3)



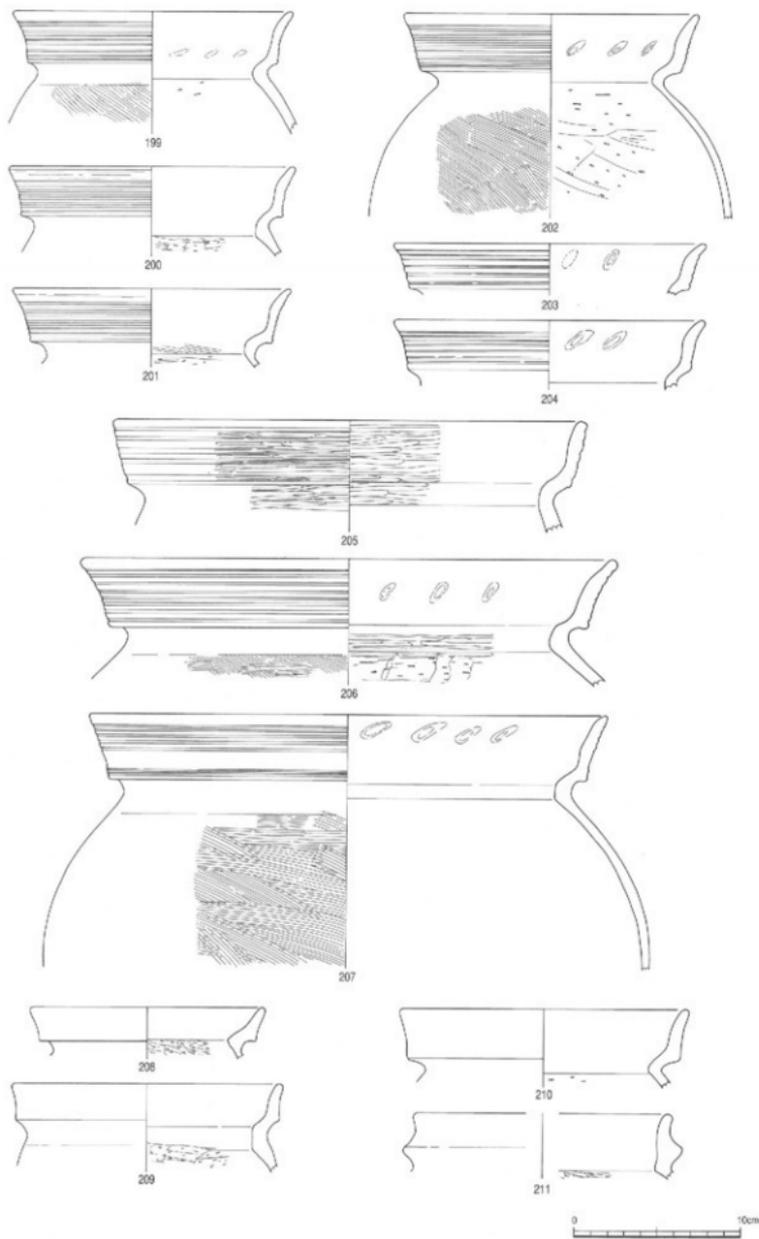
第58図 SI08 (144~163) 出土土器 (1/3)



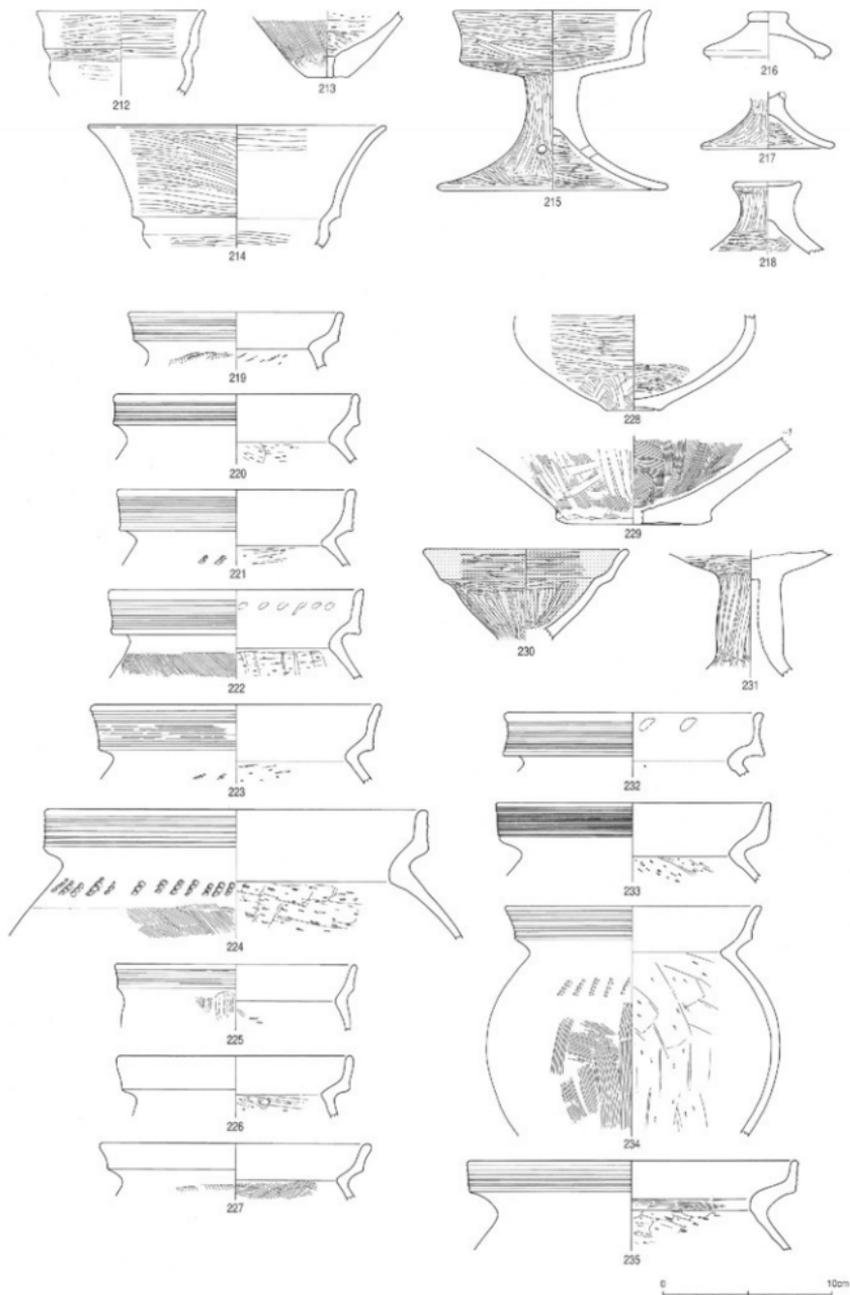
第59図 SI09(164~171)・SI10(172~181) 出土土器 (1/3)



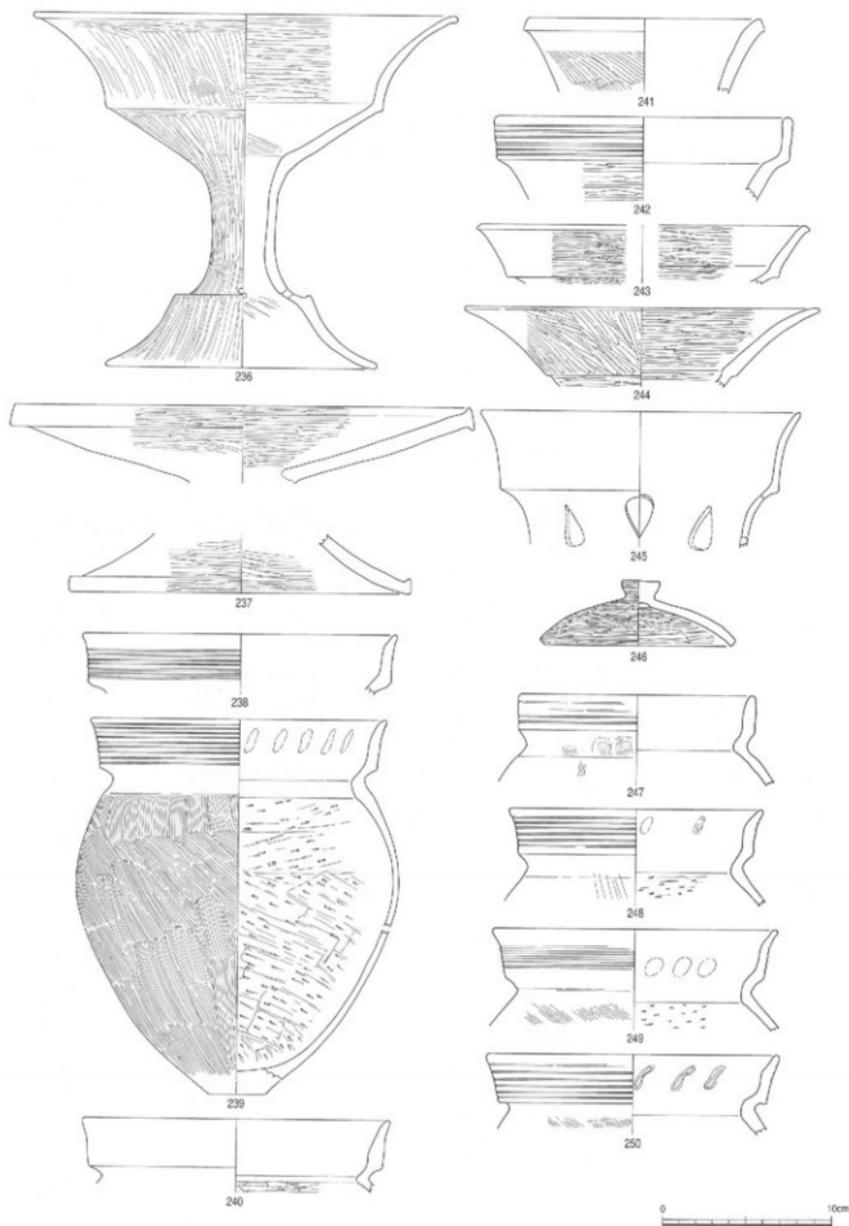
第60図 S111(182~184)・S114(185~190)・S115(191)
S120(192・193)・S121(194~198) 出土土器 (1/3)



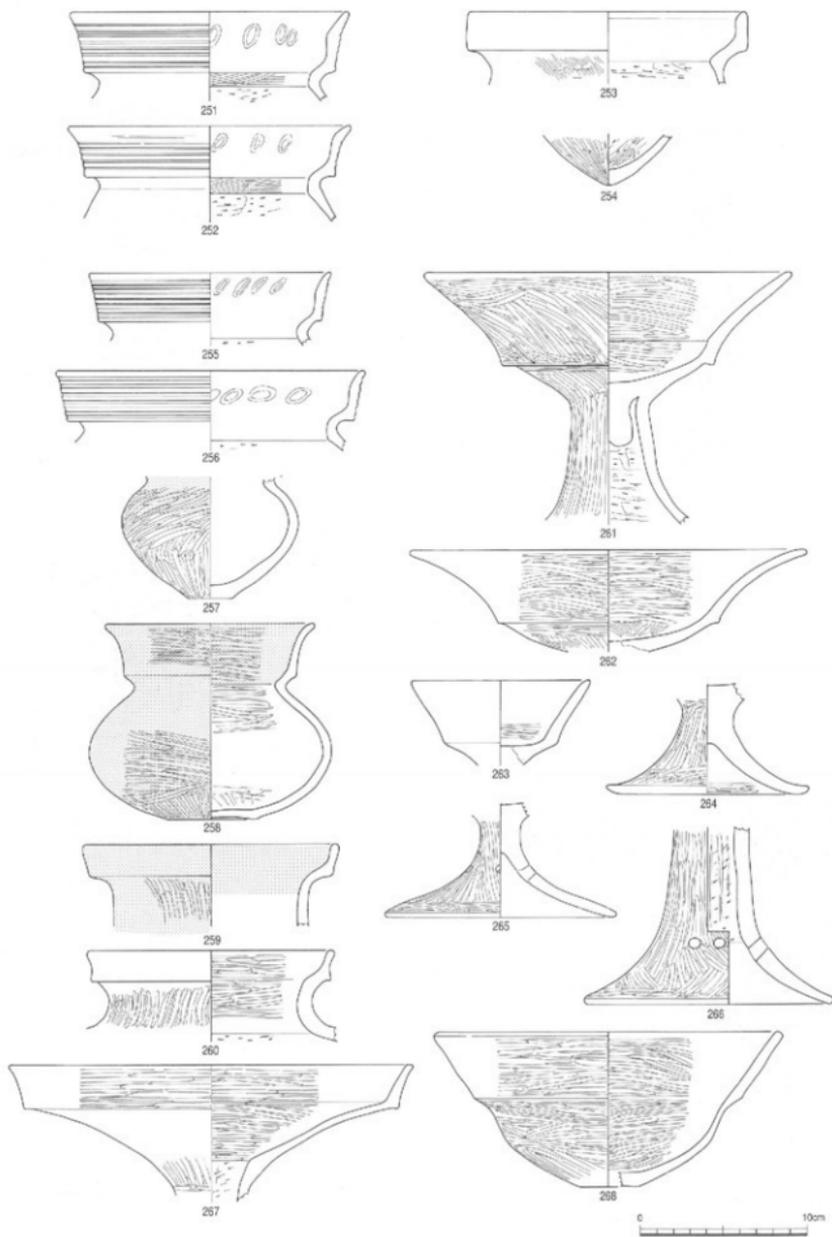
第61图 SI21(199~211)出土土器(1/3)



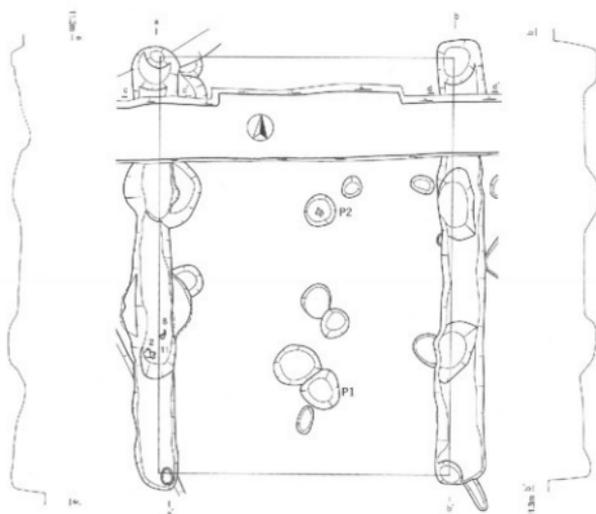
第62圖 SI21 (212~218)・SI22 (219~231)・SI23 (232~235) 出土土器 (1/3)



第63図 SI23 (236・237)・SI24 (238~246)・SI25 (247~250) 出土土器 (1/3)



第64図 SI25 (251~254)・SI27 (255~268) 出土土器 (1/3)



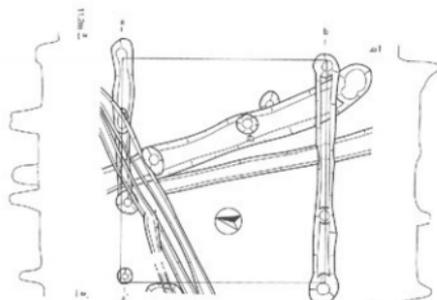
SB01



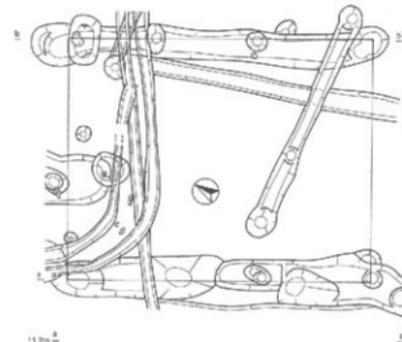
- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 濁灰黄色粘質土
- 3 濁緑灰色粘質土
- 4 濁緑灰色粘質土 (地山ブロック混入)



- 1 濁灰黄色粘質土
- 2 暗灰色粘質土
- 3 暗黄灰色粘質土
- 4 暗緑灰色粘質土
- 5 濁緑灰色粘質土
- 6 濁褐色粘質土
- 7 やや細かい土
- 8 黄褐色粘質土
- 9 覆土



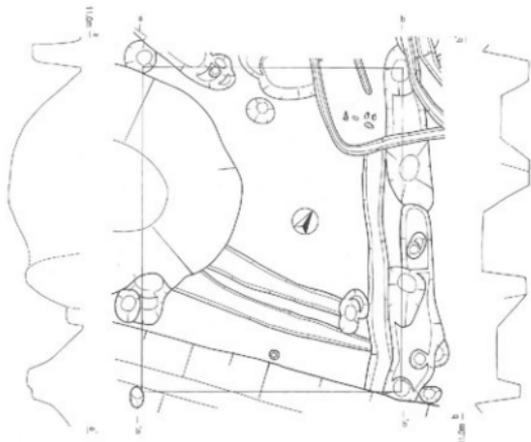
SB02



SB03



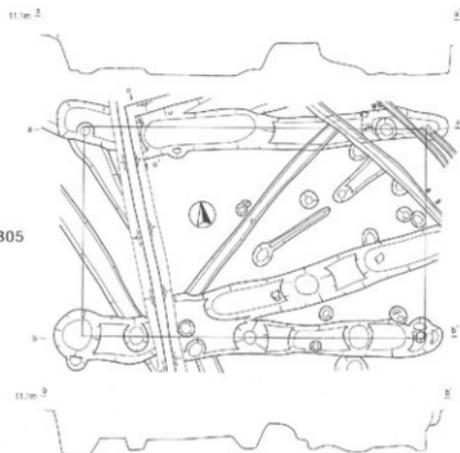
第65図 SB01~03 遺構図 (1/80)



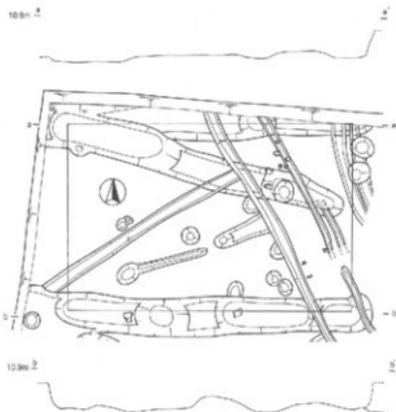
SB04

- 1 群土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 暗灰色粘質土
- 4 濃褐色粘質土 (地山ブロック多量)
- 5 濃褐色粘質土 (地山ブロック少量)
- 6 濃黄色粘質土 (SB06)

11.4m 縦

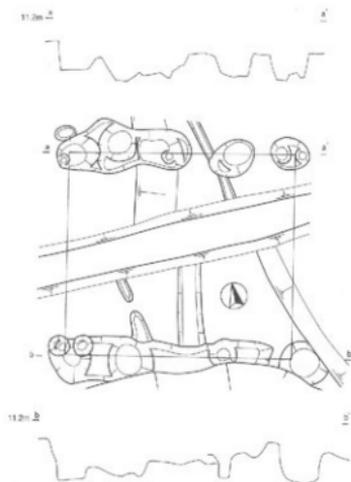


SB05

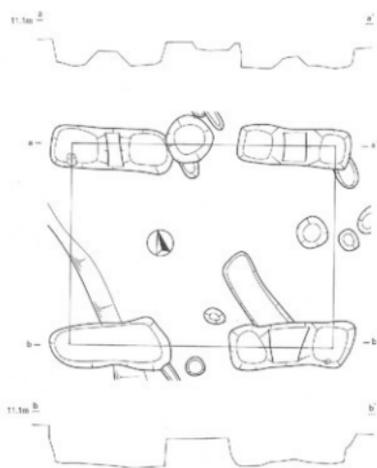


SB06

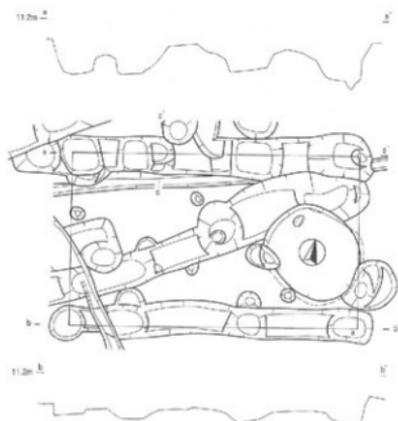
0 2m



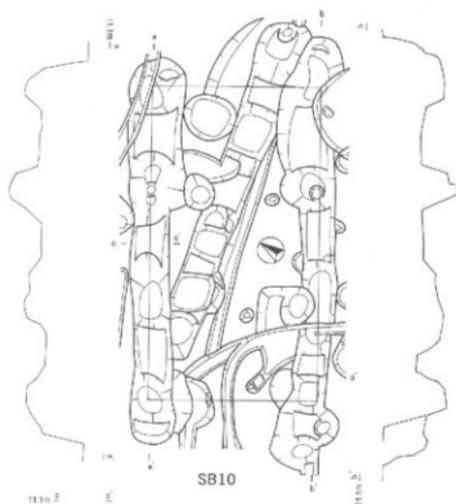
SB07



SB08



SB09



SB10

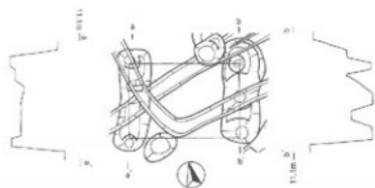


- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗黄褐色粘質土
- 3 暗灰色粘質土
- 4 暗灰色粘質土
- 5 黑色粘質土
- 6 灰褐色粘質土

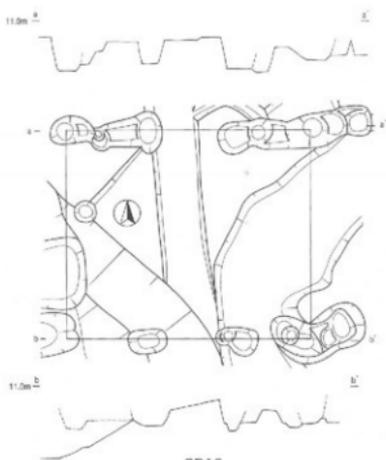


- 1 深褐色粘質土
- 2 深灰色粘質土
- 3 深暗灰色粘質土
- 4 深暗灰色粘質土 (堆山多量)
- 5 深黄褐色粘質土
- 6 暗灰色粘質土
- 7 暗色粘質土
- 8 深暗灰色粘質土
- 9 深暗灰色粘質土
- 10 深暗灰色粘質土 (堆山多量)
- 11 深黄褐色粘質土

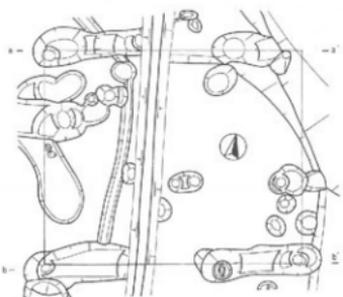
0 2m



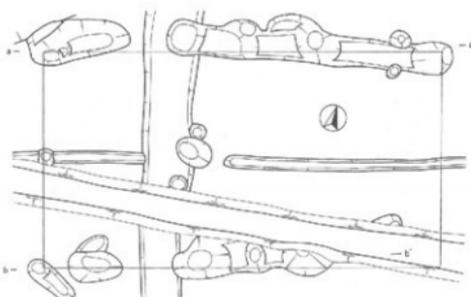
SB11



SB12

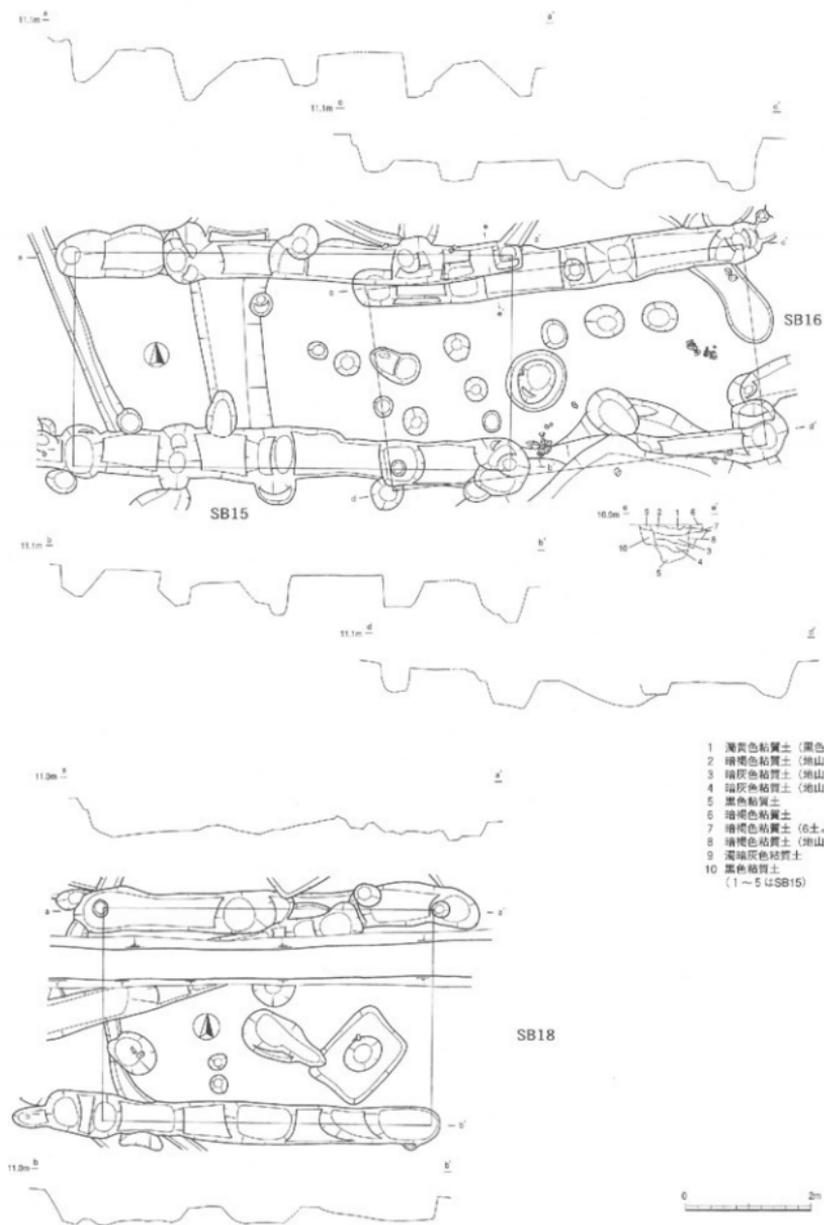


SB13



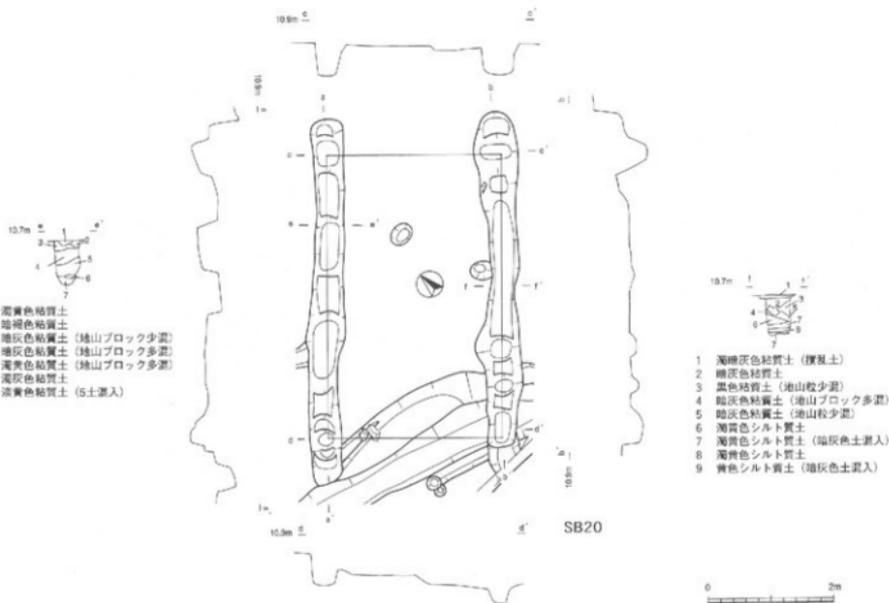
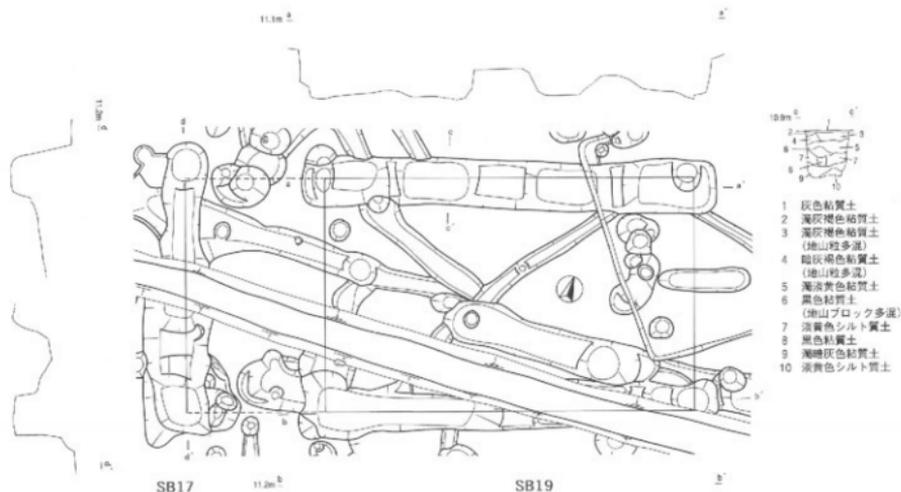
SB14



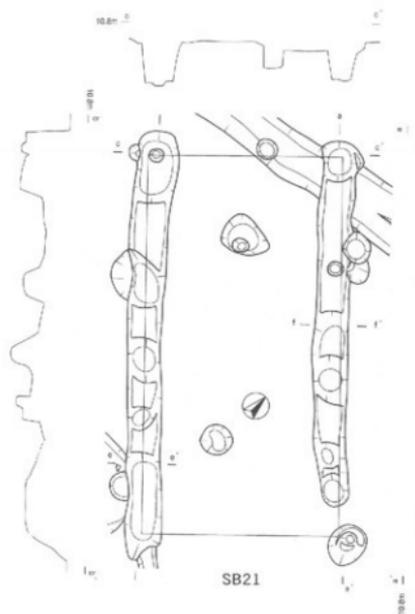


- 1 薄青色粘質土 (黒色土ブロック多量)
 - 2 暗褐色粘質土 (地山粒少量)
 - 3 暗灰色粘質土 (地山粒少量)
 - 4 暗灰色粘質土 (地山ブロック多量)
 - 5 黄褐色粘質土
 - 6 暗褐色粘質土
 - 7 暗褐色粘質土 (6土よりやや硬い)
 - 8 暗褐色粘質土 (地山粒少量)
 - 9 濃緑灰色粘質土
 - 10 黄褐色粘質土
- (1-5はSB15)

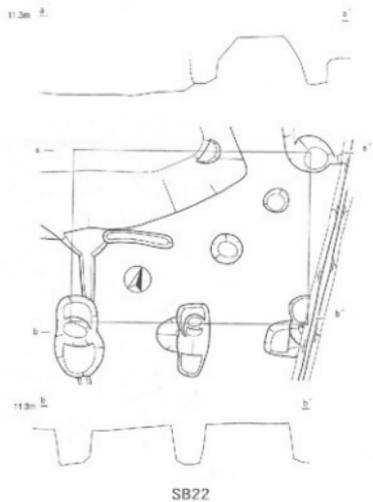
第69図 SB15・16・18 遺構図 (1/80)



第70図 SB17・19・20 遺構図 (1/80)



SB21



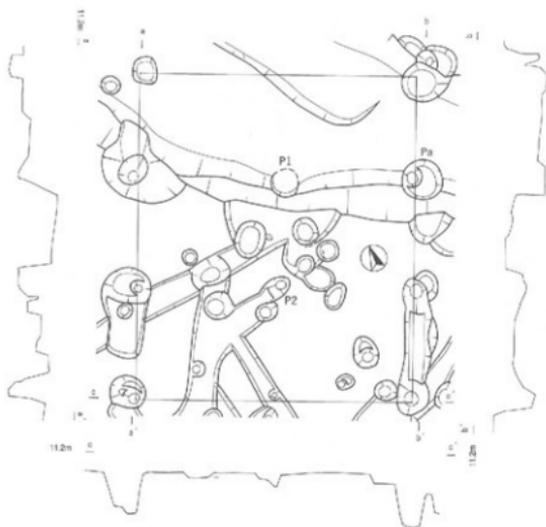
SB22



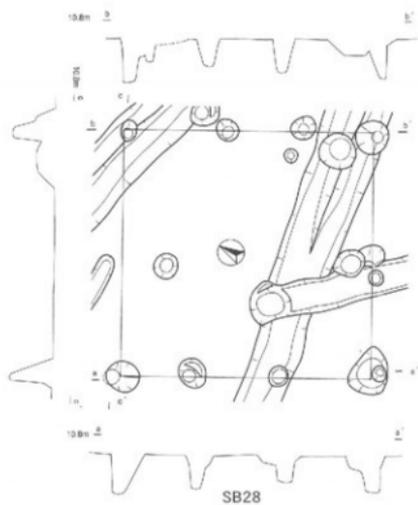
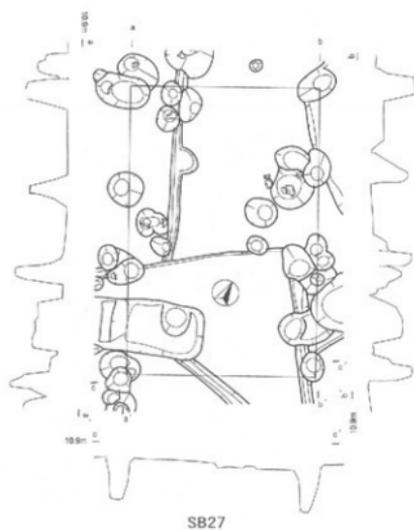
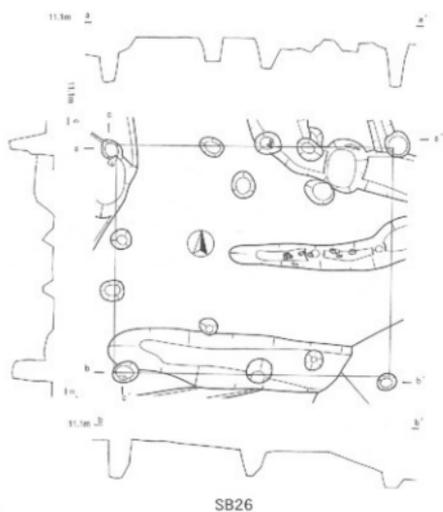
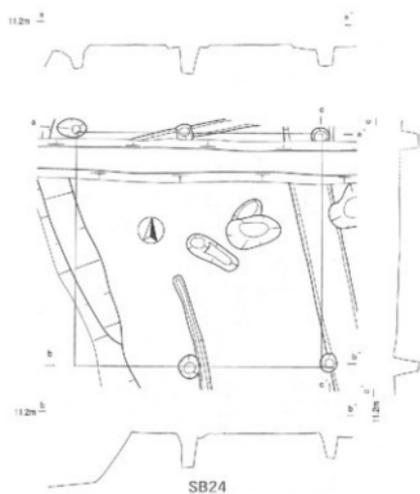
- 1 褐色粘質土
- 2 褐色粘質土
(地山粒混入)
- 3 暗灰色粘質土
- 4 灰色粘質土
- 5 濃褐色粘質土
- 6 淡黄色粘質土
(暗灰色土ブロック混入)
- 7 濃褐色粘質土
(地山ブロック多混)
- 8 淡黄色粘質土
(暗灰色土ブロック混入)
- 9 褐色粘質土
(地山粒混入)
- 10 褐色粘質土
- 11 淡褐色粘質土
(地山ブロック混入)

- 1 濃暗灰色粘質土
(地山ブロック混入)
- 2 濃暗灰色粘質土
- 3 濃黄色粘質土
(暗灰色土ブロック混入)
- 4 濃暗灰色粘質土
(地山ブロック多混)
- 5 黑色粘質土
(地山ブロック多混)
- 6 褐色粘質土
(地山粒混入)
- 7 濃灰色粘質土
(地山ブロック多混)
- 8 濃淡灰色粘質土
(地山ブロック多混)
- 9 灰色粘質土

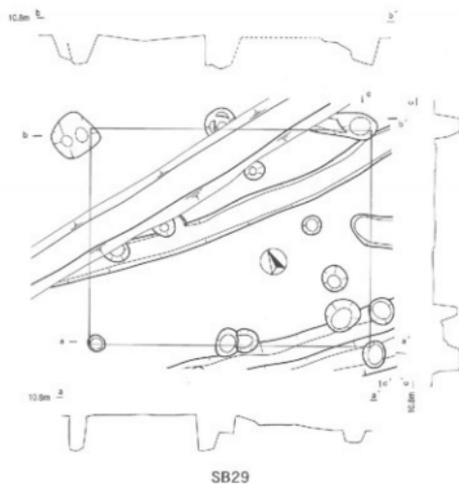
SB23



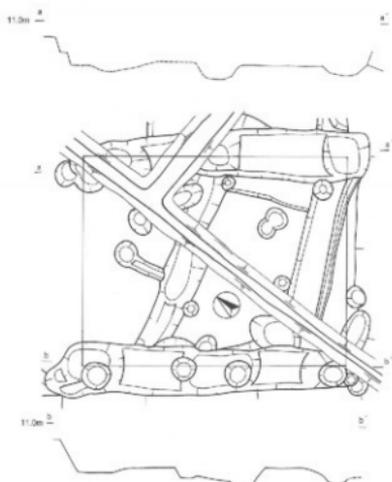
第71図 SB21~23 遺構図 (1/80)



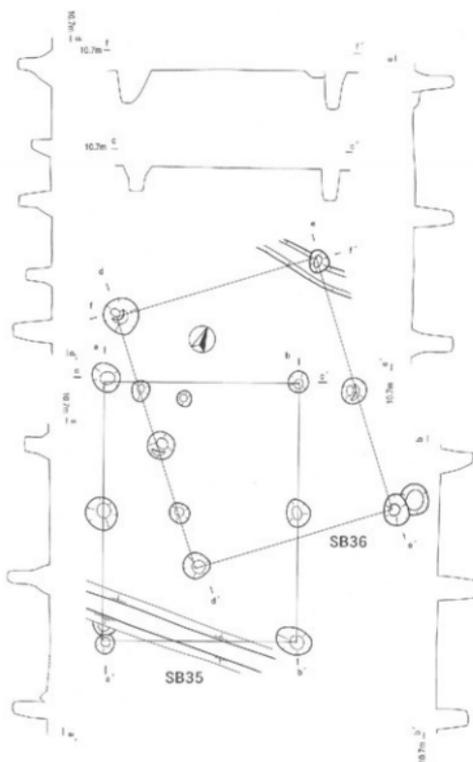
第72図 SB24・26~28 遺構図 (1/80)



SB29

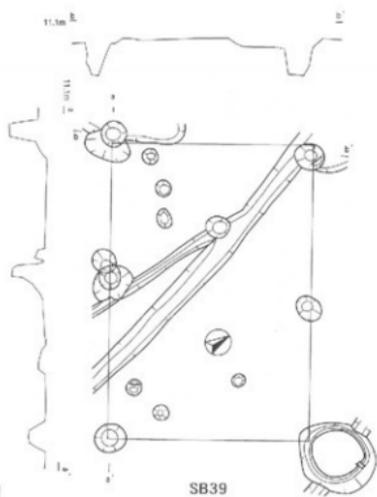


SB30



SB35

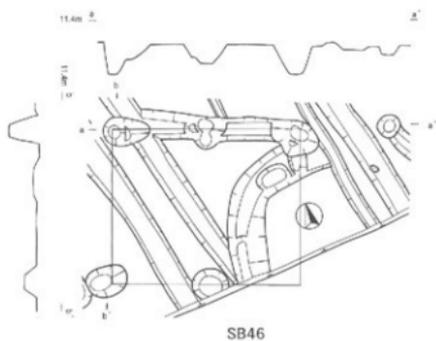
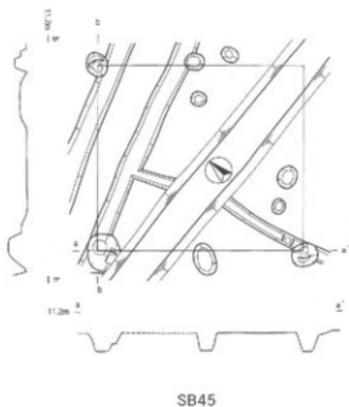
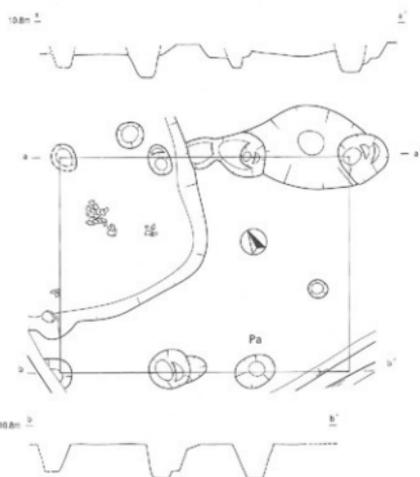
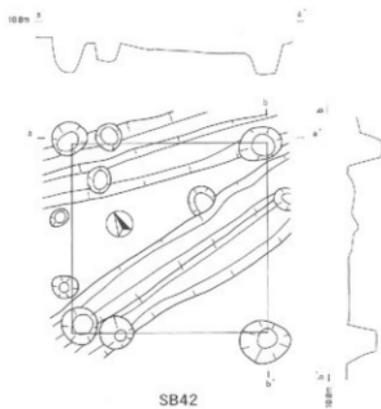
SB36



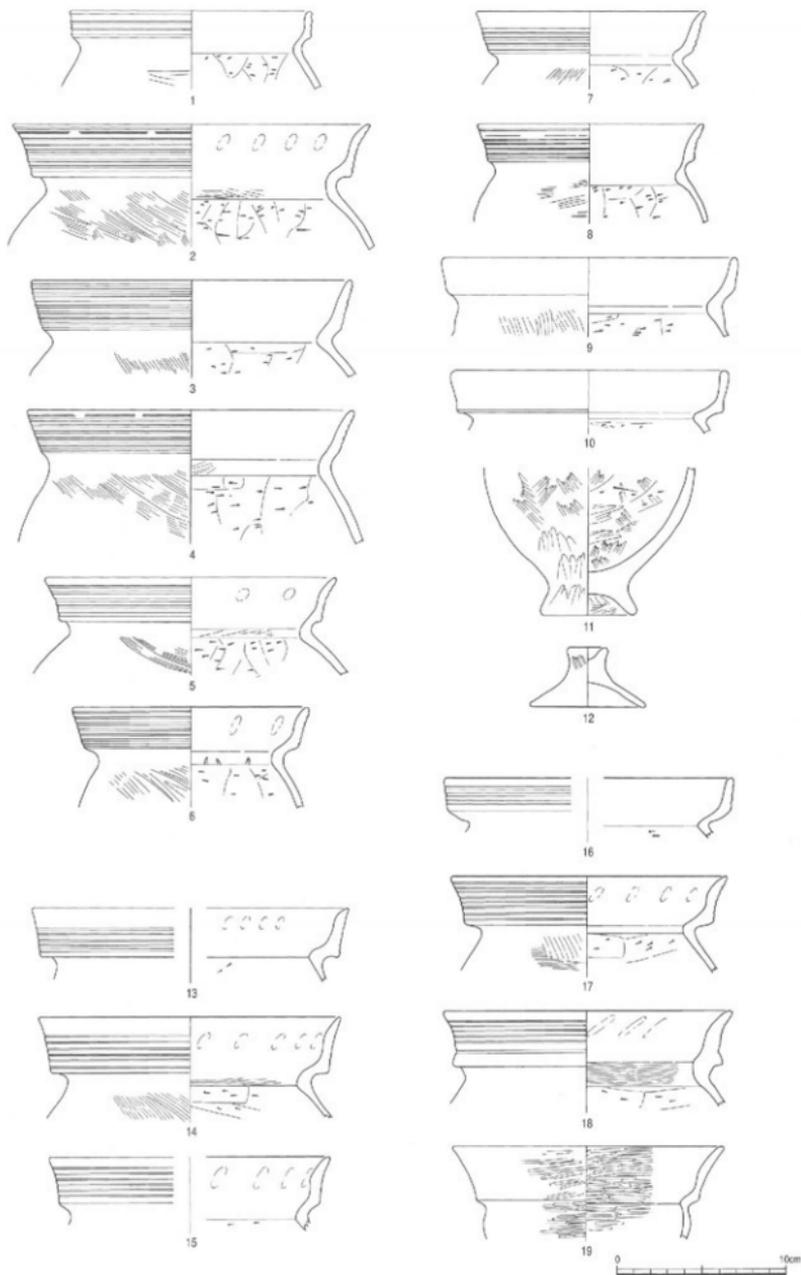
SB39



第73図 SB29・30・35・36・39 遺構図 (1/80)



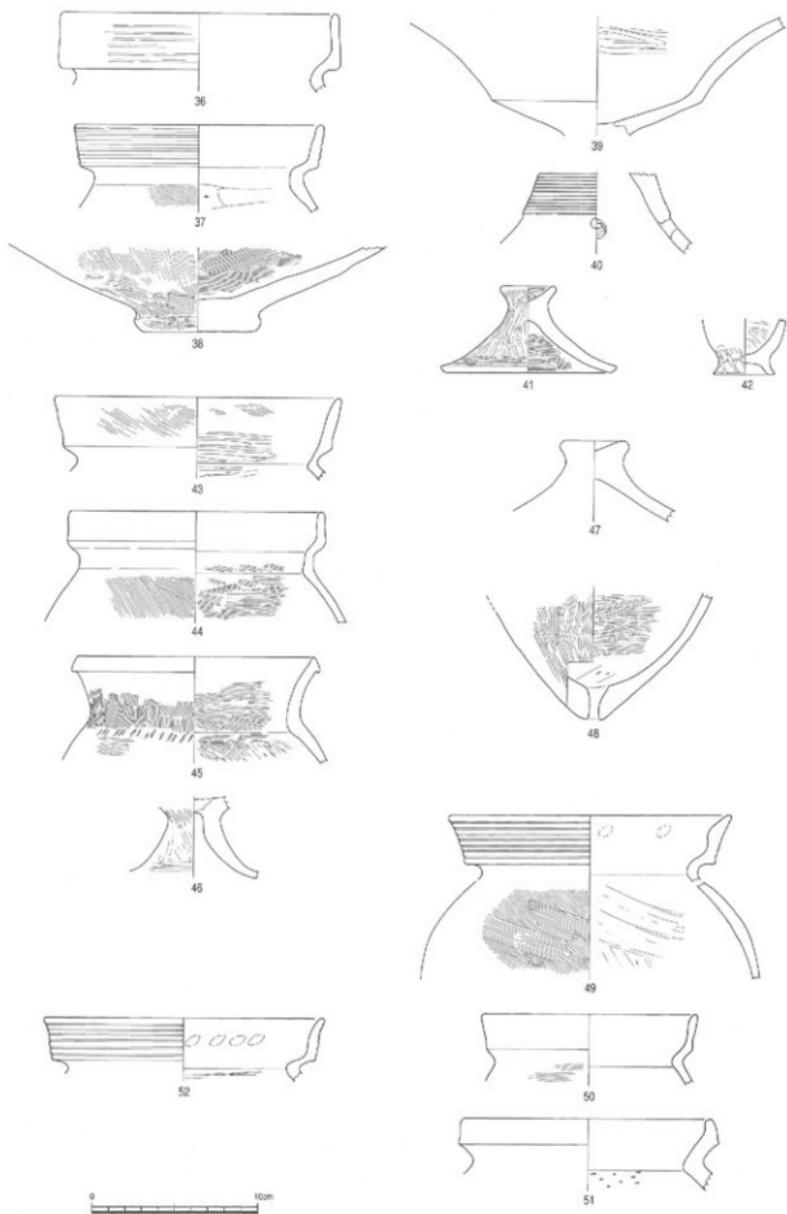
第74図 SB42・44~46 遺構図 (1/80)



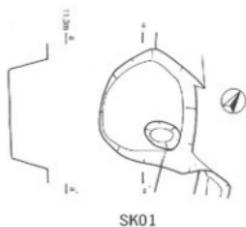
第75図 SB01 (1~12)・SB03 (13~15)・SB05 (16~19) 出土土器 (1/3)



第76図 SB06 (20)・SB10 (21)・SB12 (22・23)・SB14 (24~29)・SB15 (30~35) 出土土器 (1/3)



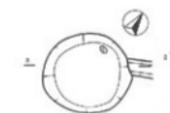
第77図 SB16 (36~42)・SB18 (43~46)・SB21 (47)・SB23 (48)
 SB30 (49~51)・SB44 (52) 出土土器 (1/3)



SK01



SK04

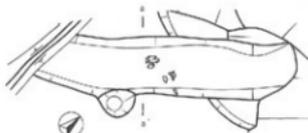
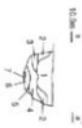


SK07

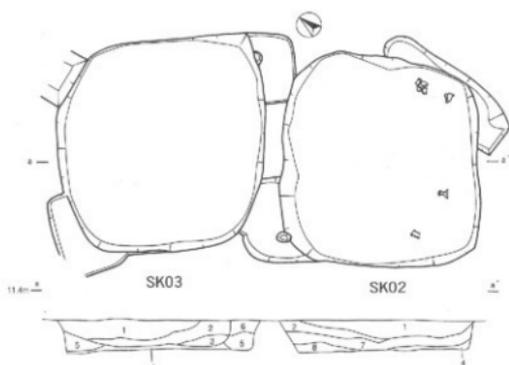


- 1 黒色粘質土
- 2 暗灰色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 凝灰色粘質土
- 5 濃茶色粘質土
- 6 濃褐色粘質土
- 7 濃暗灰色粘質土
- 8 濃黄色粘質土

- 1 暗灰色粘質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 茶褐色粘質土
- 4 暗褐色粘質土
- 5 濃黄色粘質土
- 6 黄褐色粘質土
- 7 褐色粘質土



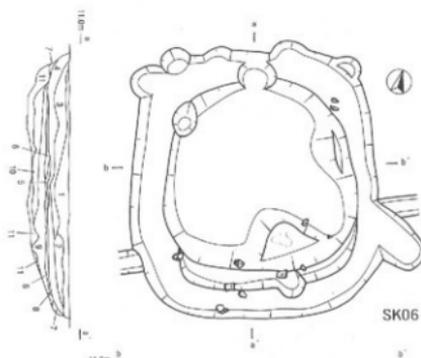
SK08



SK03

SK02

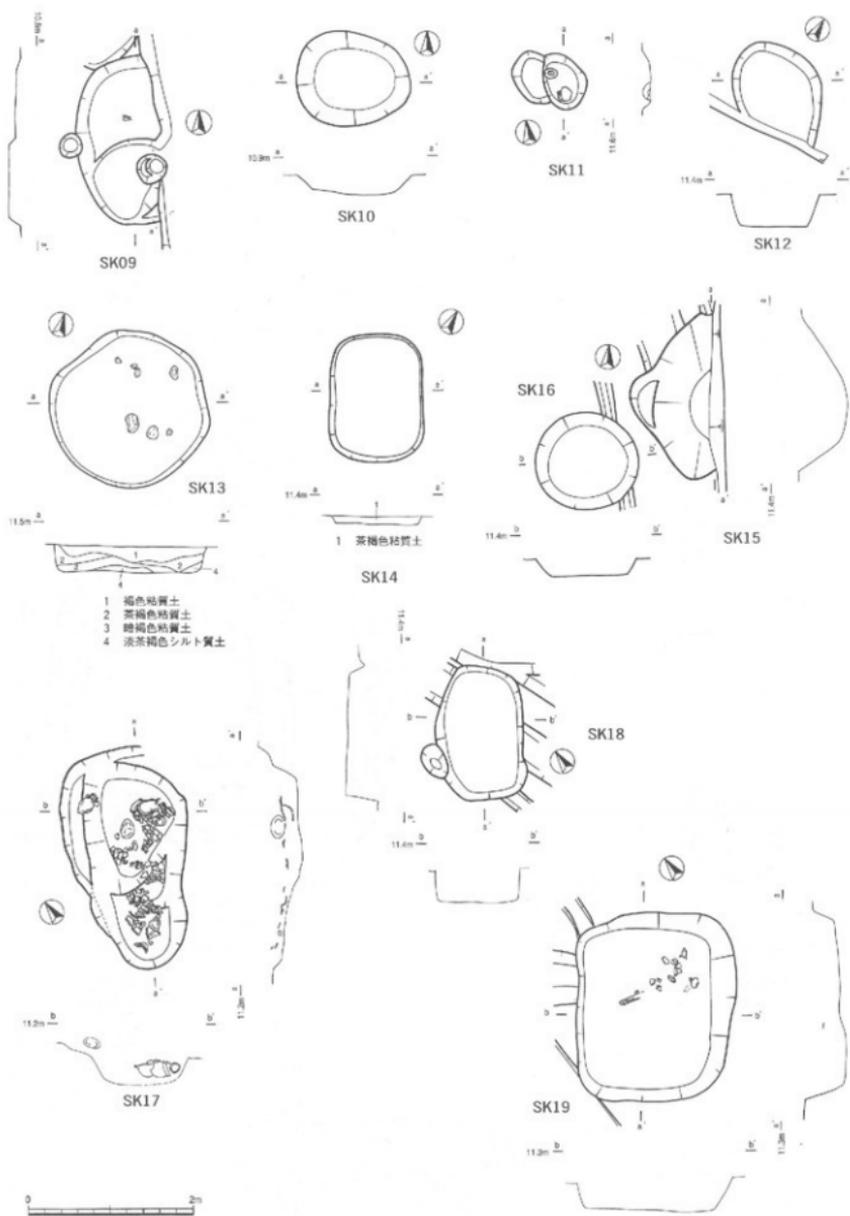
- 1 褐色粘質土 (地山源)
- 2 褐色粘質土 (地山少源)
- 3 茶褐色粘質土
- 4 灰褐色粘質土
- 5 黄褐色シルト質土
- 6 淡褐色粘質土
- 7 灰褐色粘質土 (地山源)
- 8 濃黄褐色シルト質土



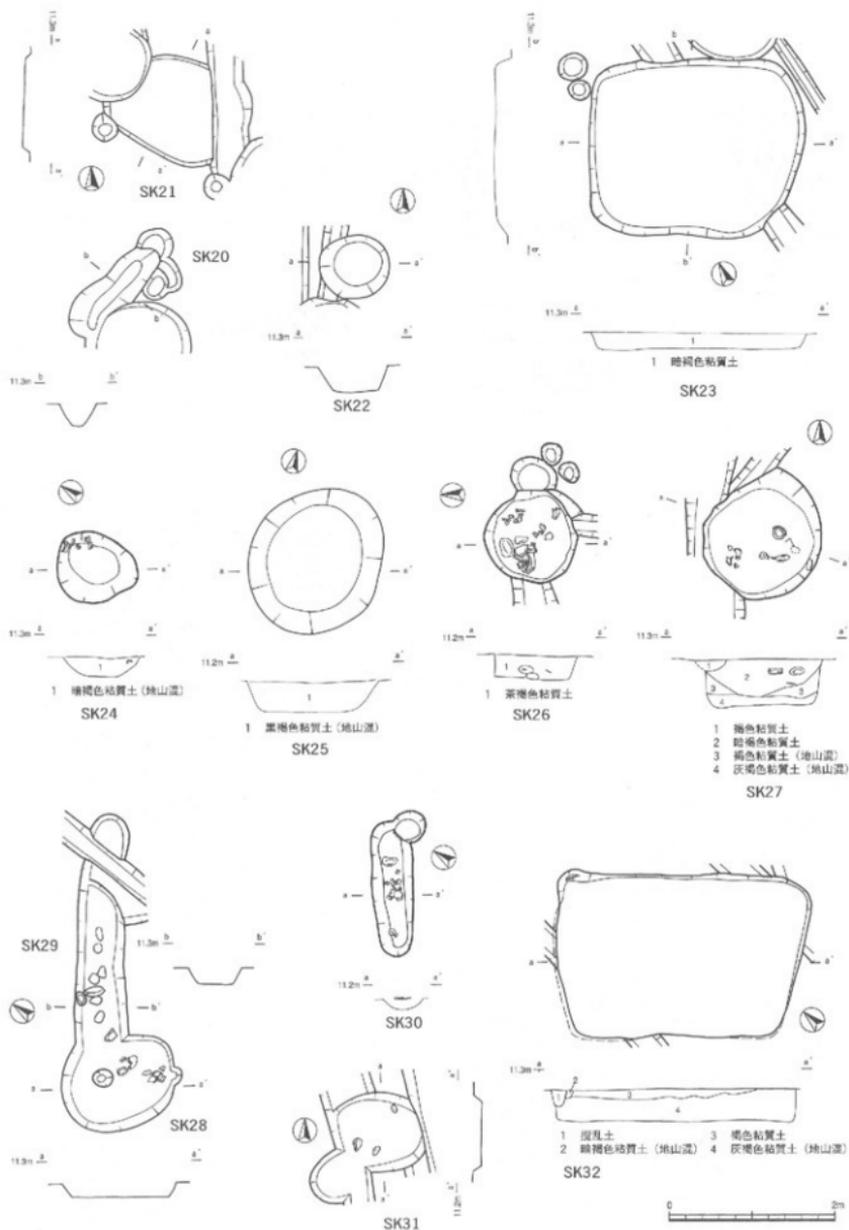
SK06

- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗灰色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 炭化物層
- 6 濃黄褐色粘質土 (熟床状)
- 7 暗灰色粘質土 (地山ブロック源)
- 8 黄褐色粘質土
- 9 濃暗灰色粘質土
- 10 暗暗灰色粘質土
- 11 暗灰色粘質土 (炭化物含む)





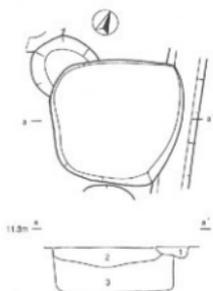
第79図 SK09~19 遺構図 (1/60)



第80圖 SK20~32 遺構圖 (1/60)

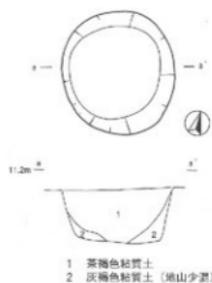


SK33



- 1 茶褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 黄灰褐色粘質土 (地山泥)

SK34

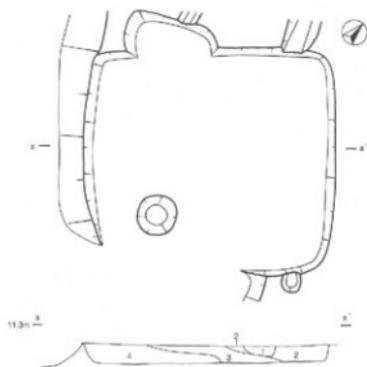


- 1 茶褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 (地山少泥)

SK35



SK36



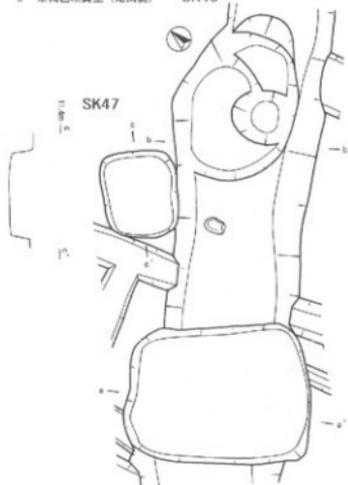
- 1 茶褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土 (地山泥)
- 3 暗褐色粘質土 (地山多泥)
- 4 暗褐色粘質土

SK37



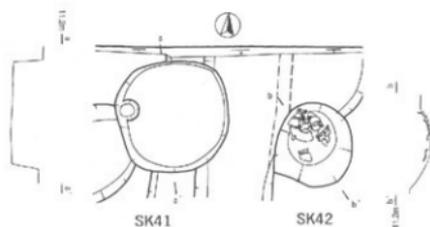
- 1 暗褐色粘質土 (ST05)
- 2 茶褐色粘質土 (ST05)
- 3 暗茶褐色粘質土
- 4 灰褐色シルト質土
- 5 茶褐色粘質土 (地山泥)

SK40



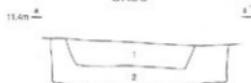
SK47

SK39

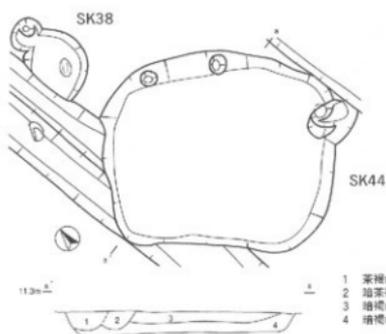


SK41

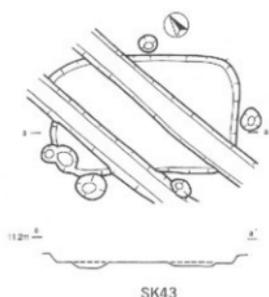
SK42



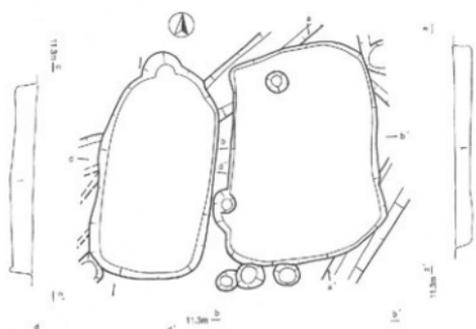
- 1 茶褐色粘質土 (ST05)
- 2 暗灰褐色粘質土 (地山泥)



- 1 茶褐色粘質土
- 2 暗茶褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 暗褐色粘質土 (地山混)



SK43

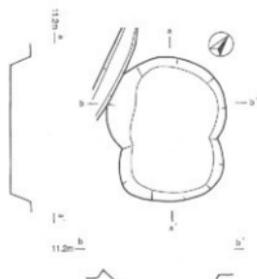


- 1 灰黄褐色粘質土

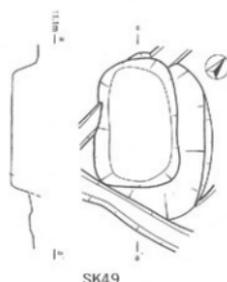
SK46

- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土

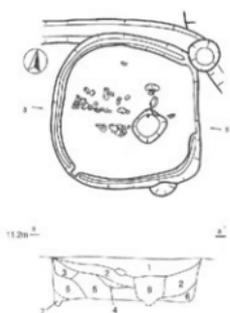
SK45



SK48



SK49



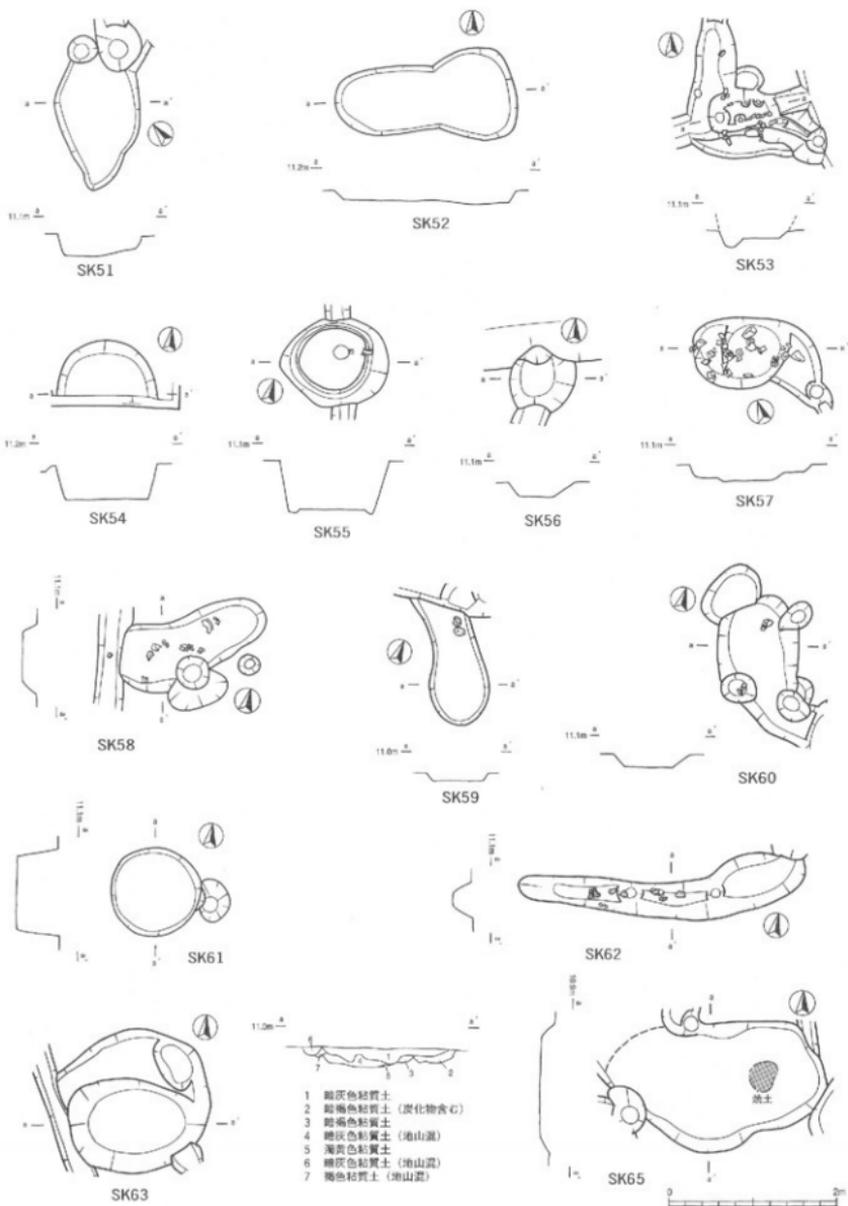
SK50



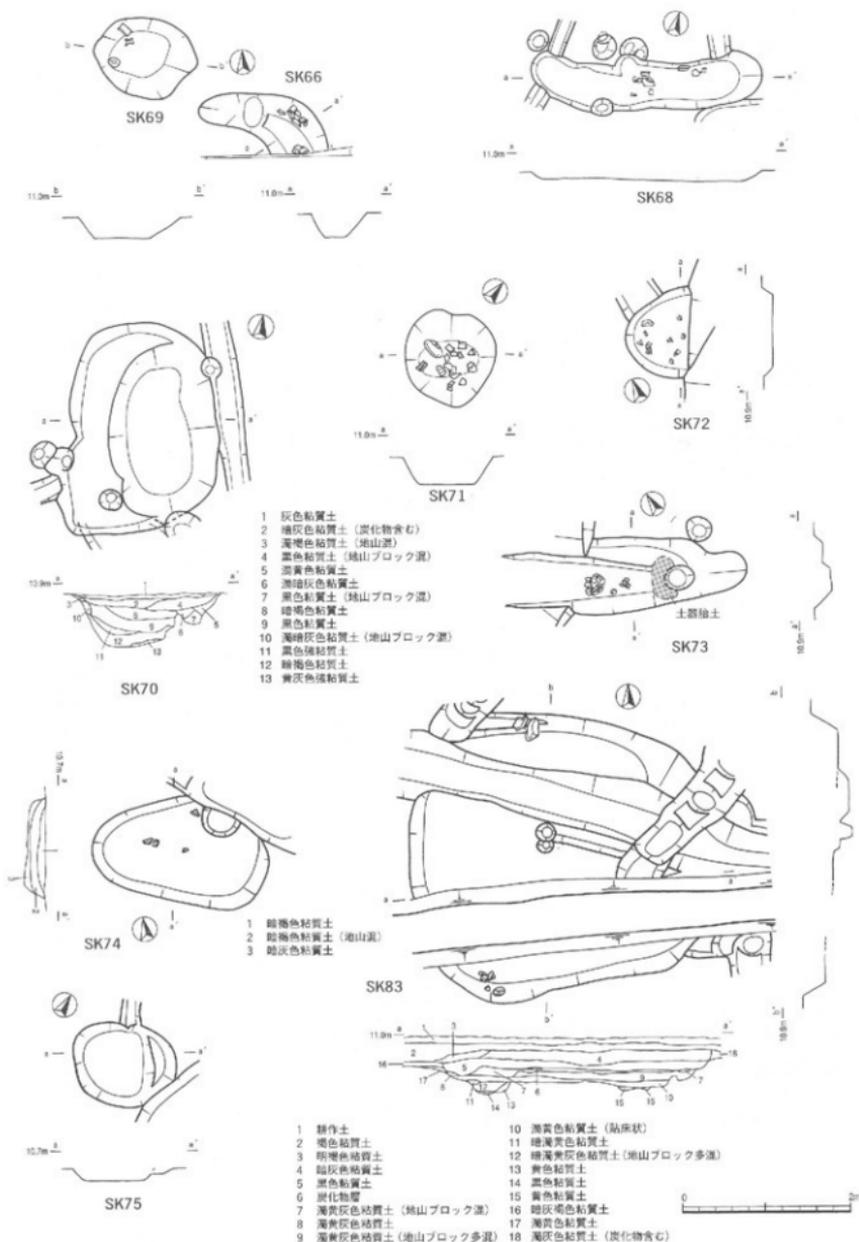
上層土層出土状況

- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土 (土部多量に含む)
- 3 暗灰色粘質土
- 4 薄暗灰色粘質土 (地山ブロック混)
- 5 濁黄色シルト質土 (暗灰色土ブロック多混)
- 6 濁灰色粘質土 (地山ブロック多混)
- 7 濁黄褐色シルト質土
- 8 黄褐色粘質土

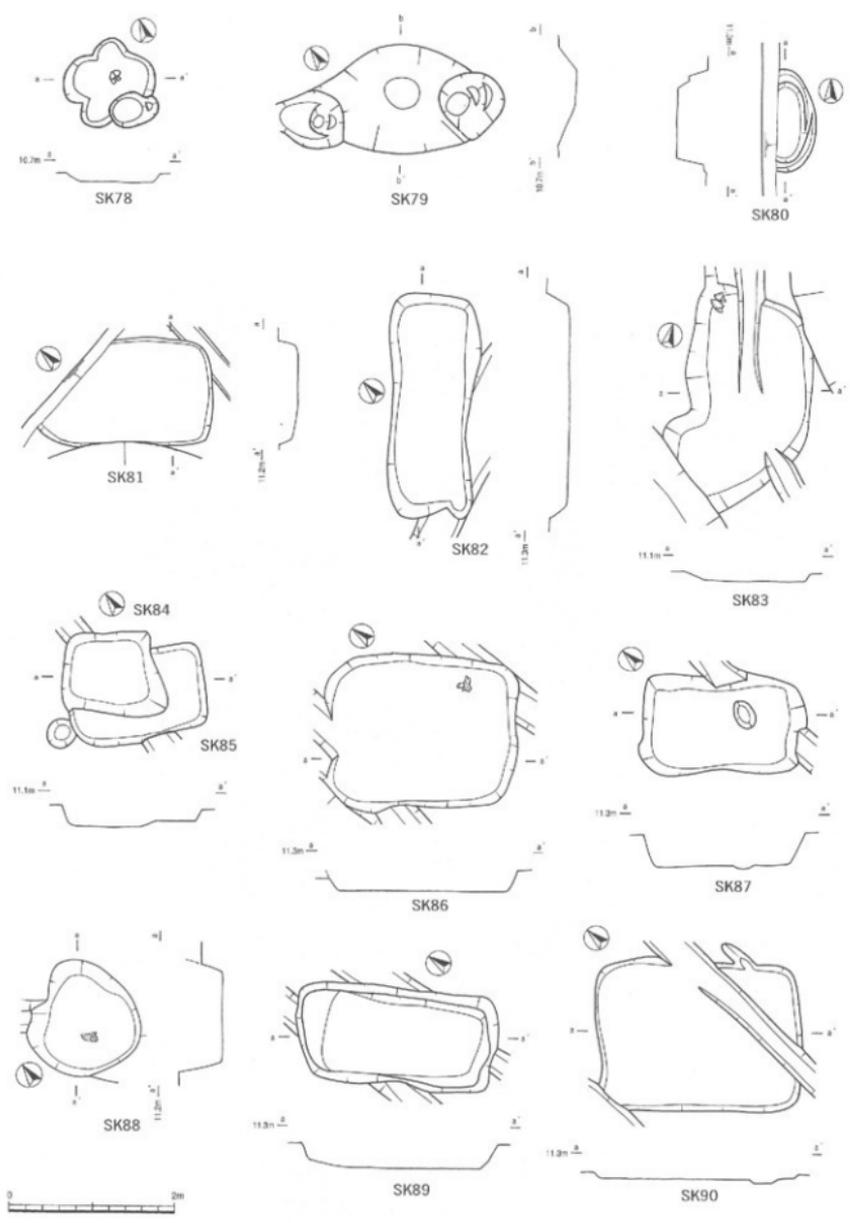




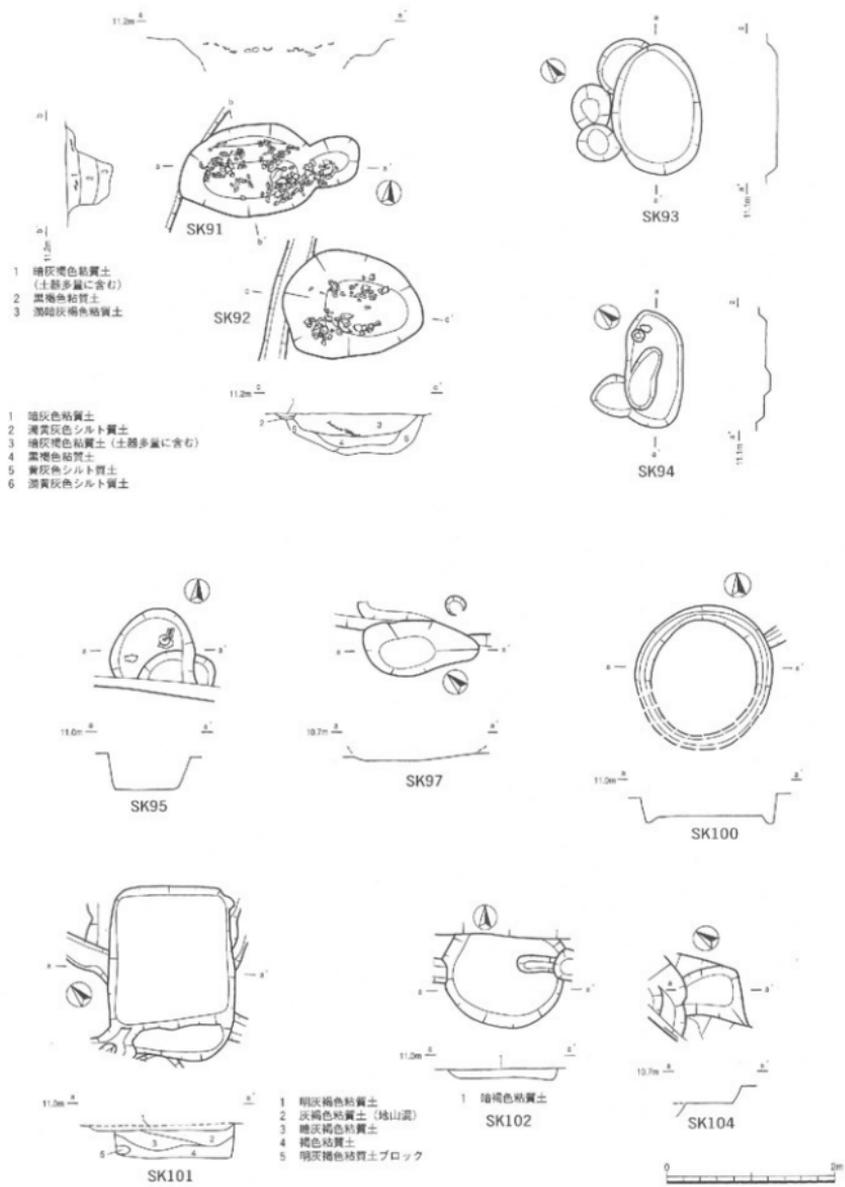
第83図 SK51~63・65 遺構図 (1/60)



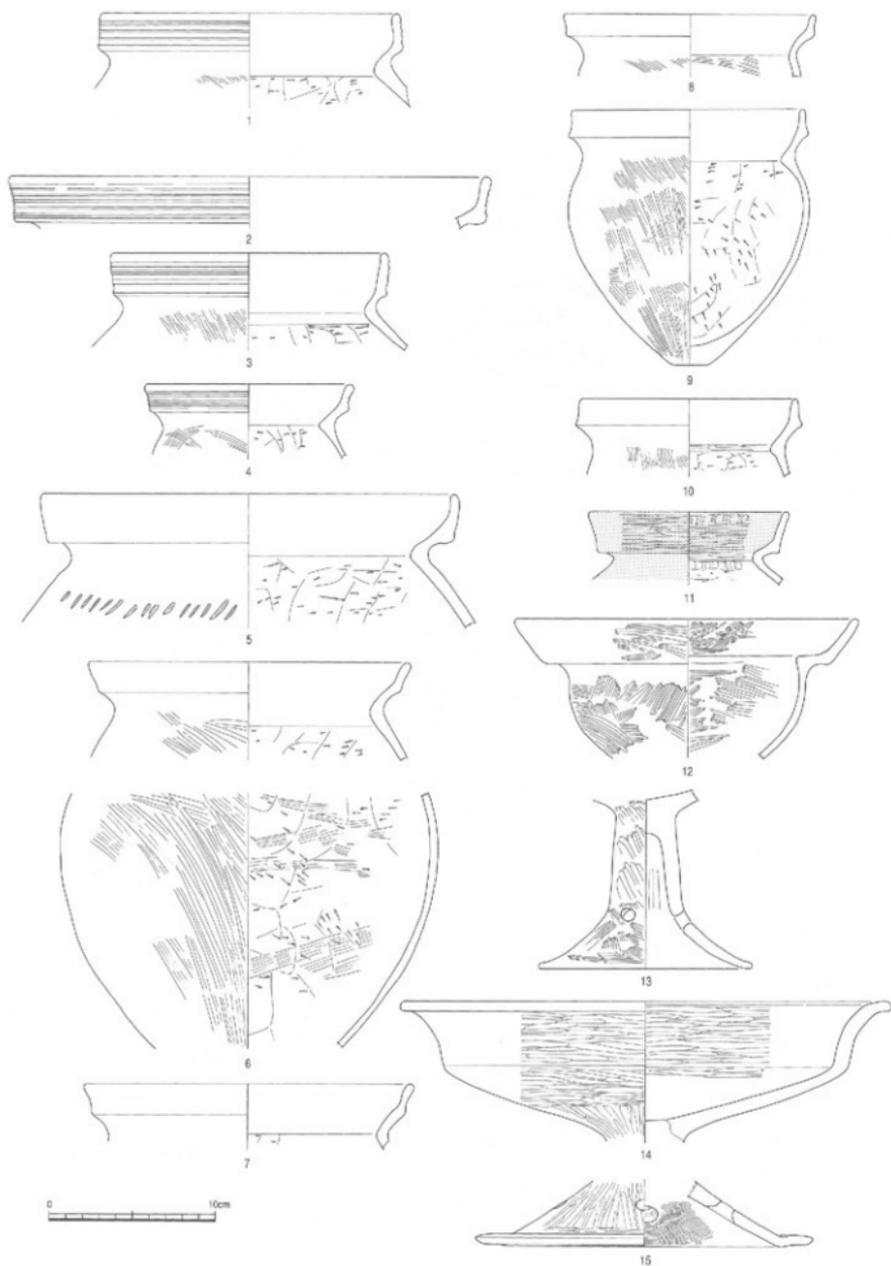
第84図 SK66・68～76 遺構図 (1/60)



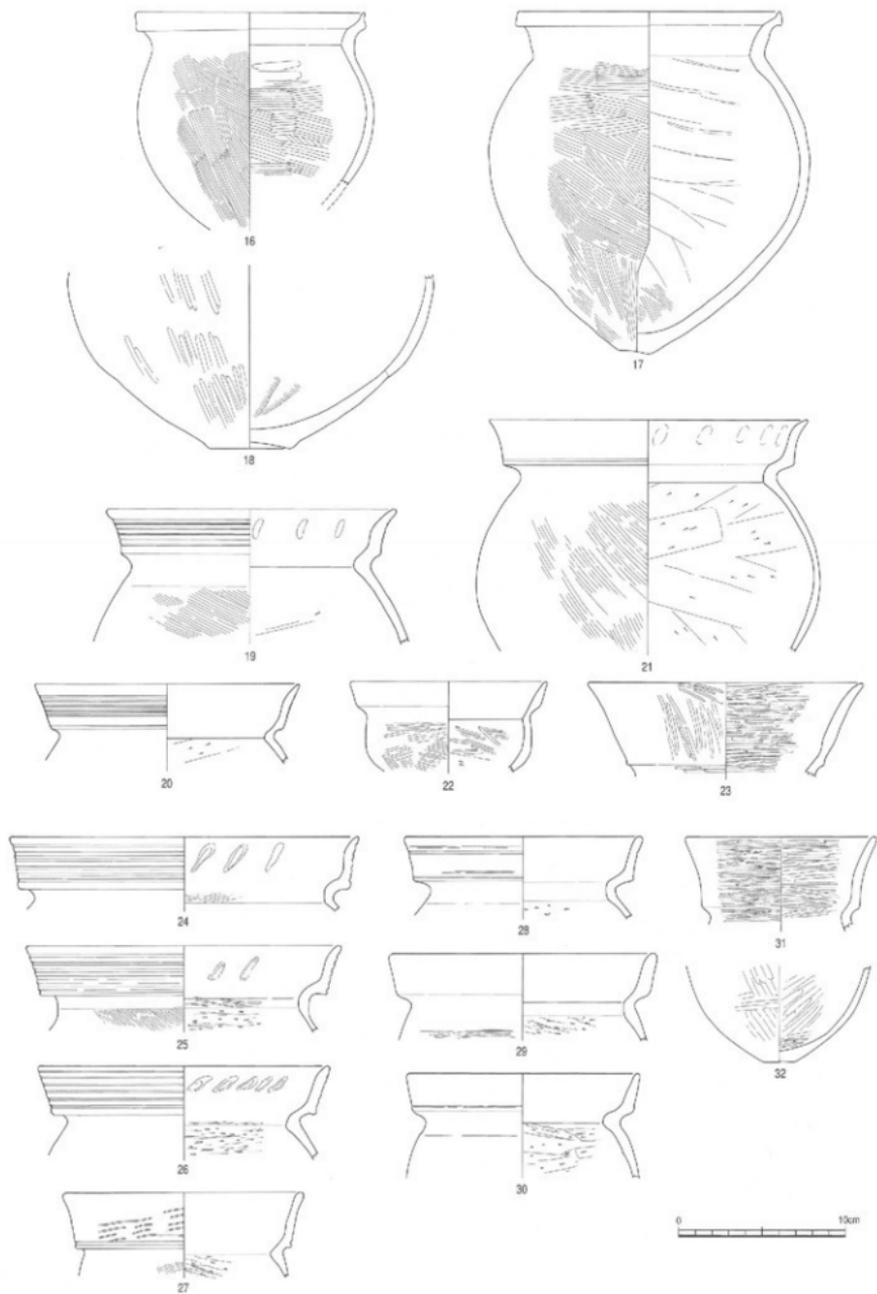
第85図 SK78~90 遺構図 (1/60)



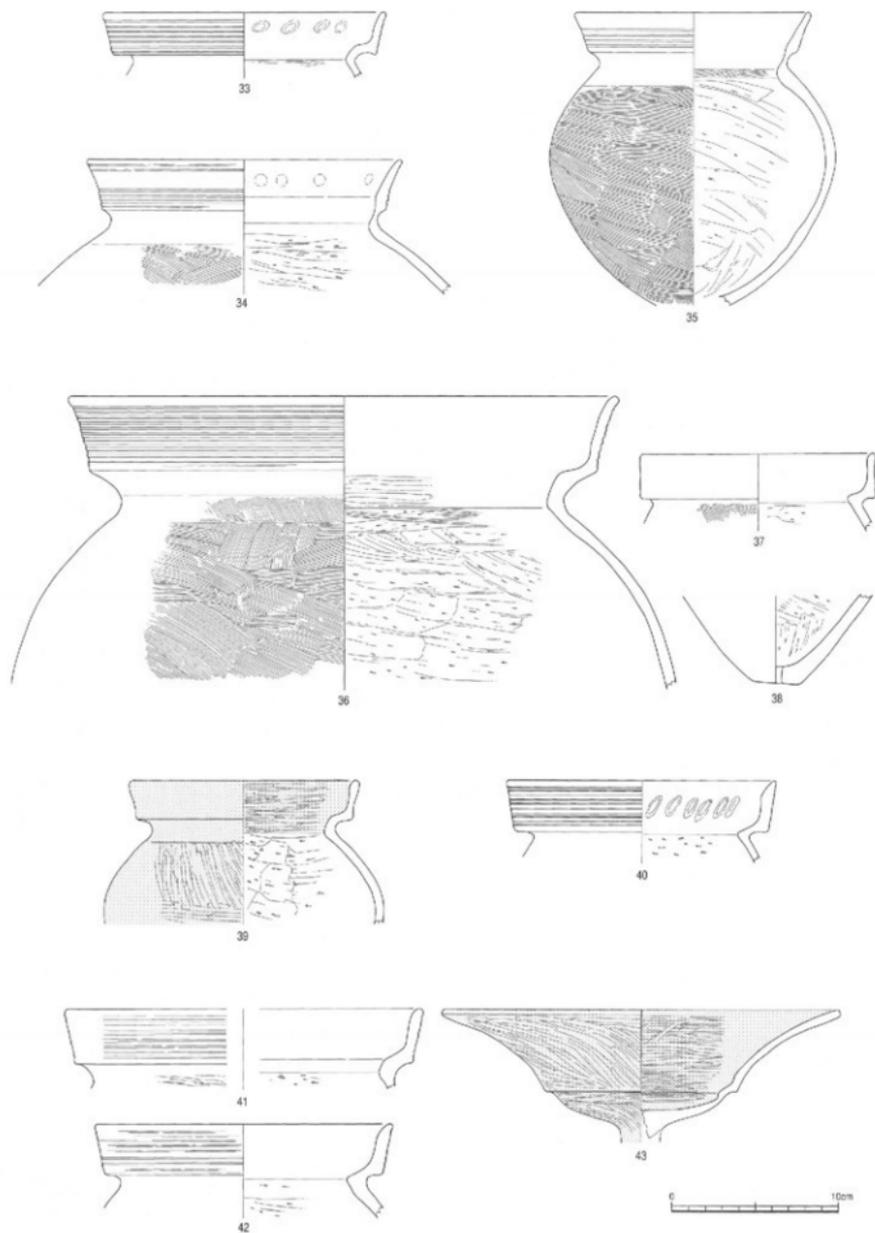
第86図 SK91~95・100~102・104 遺構図 (1/50)



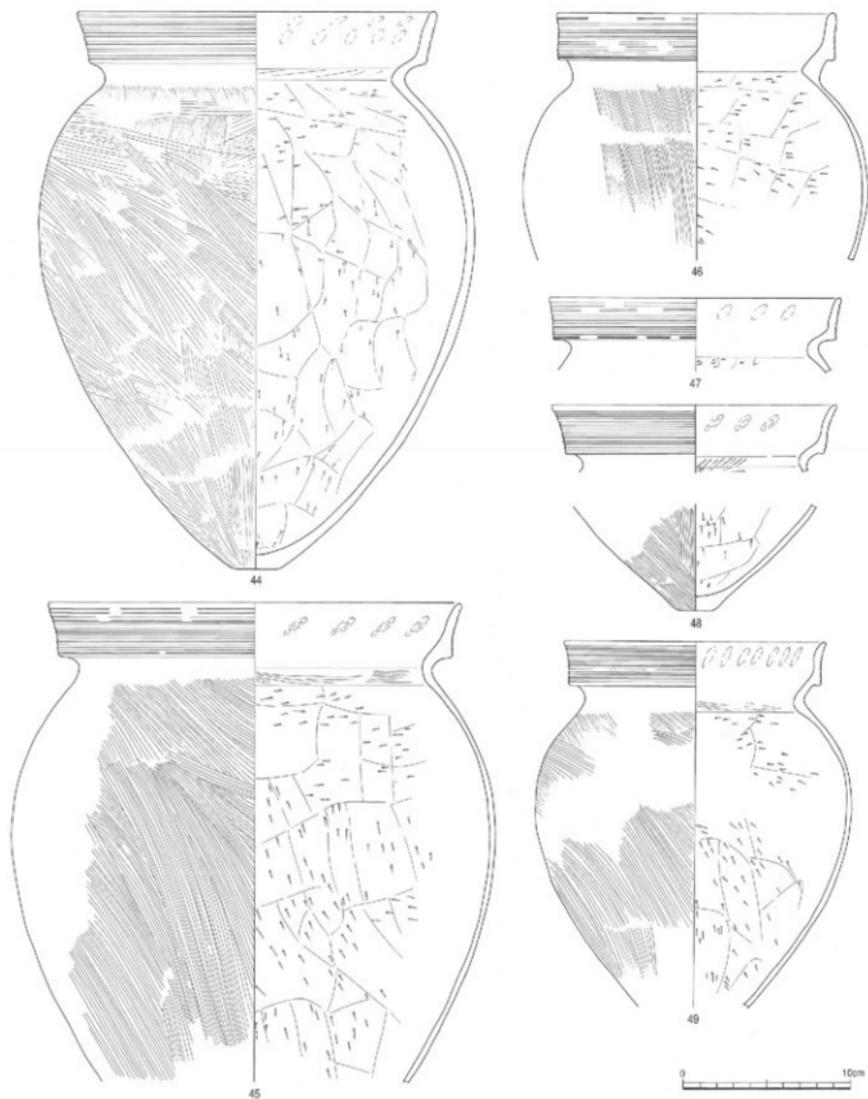
第87図 SK01 (1)・SK02 (2~15) 出土土器 (1/3)



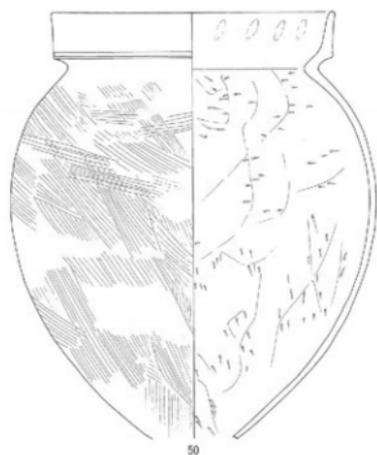
第88図 SK04 (16~18)・SK06 (19~23)・SK08 (24~32) 出土土器 (1/3)



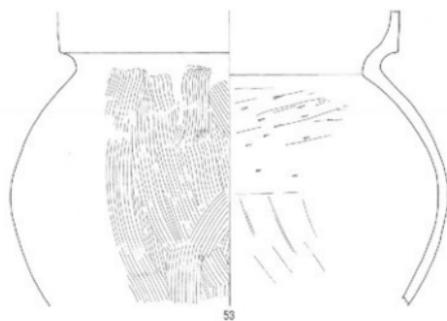
第89図 SK09 (33)・SK10 (34)・SK11 (35)・SK12 (36~38)
 SK13 (39)・SK15 (40)・SK16 (41~43) 出土土器 (1/3)



第90図 SK17 (44~49) 出土土器 (1/3)



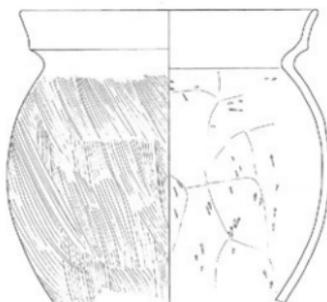
50



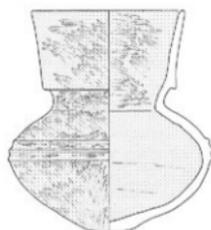
53



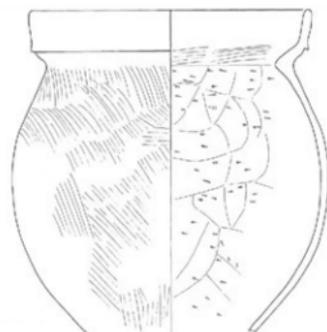
54



51



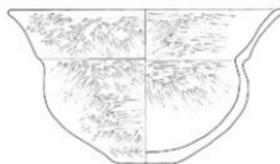
55



52



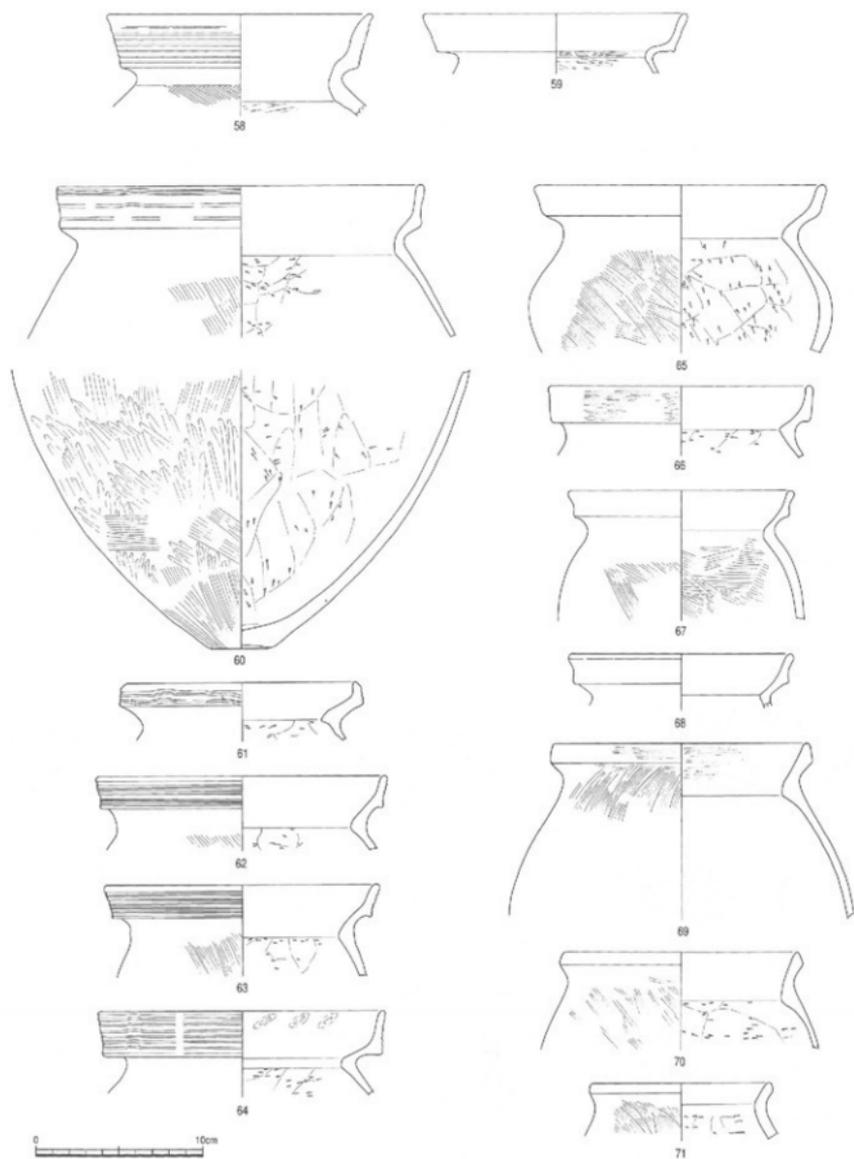
56



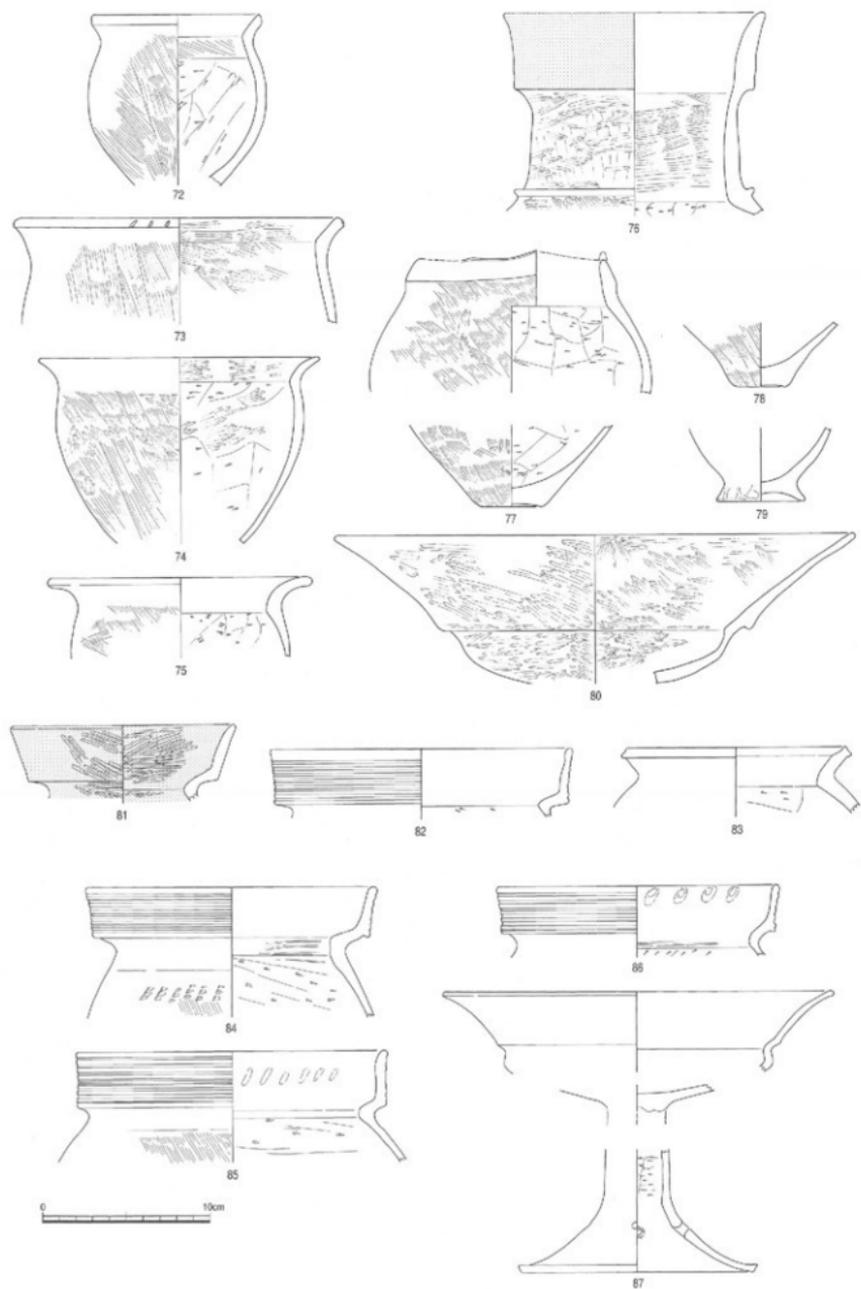
57



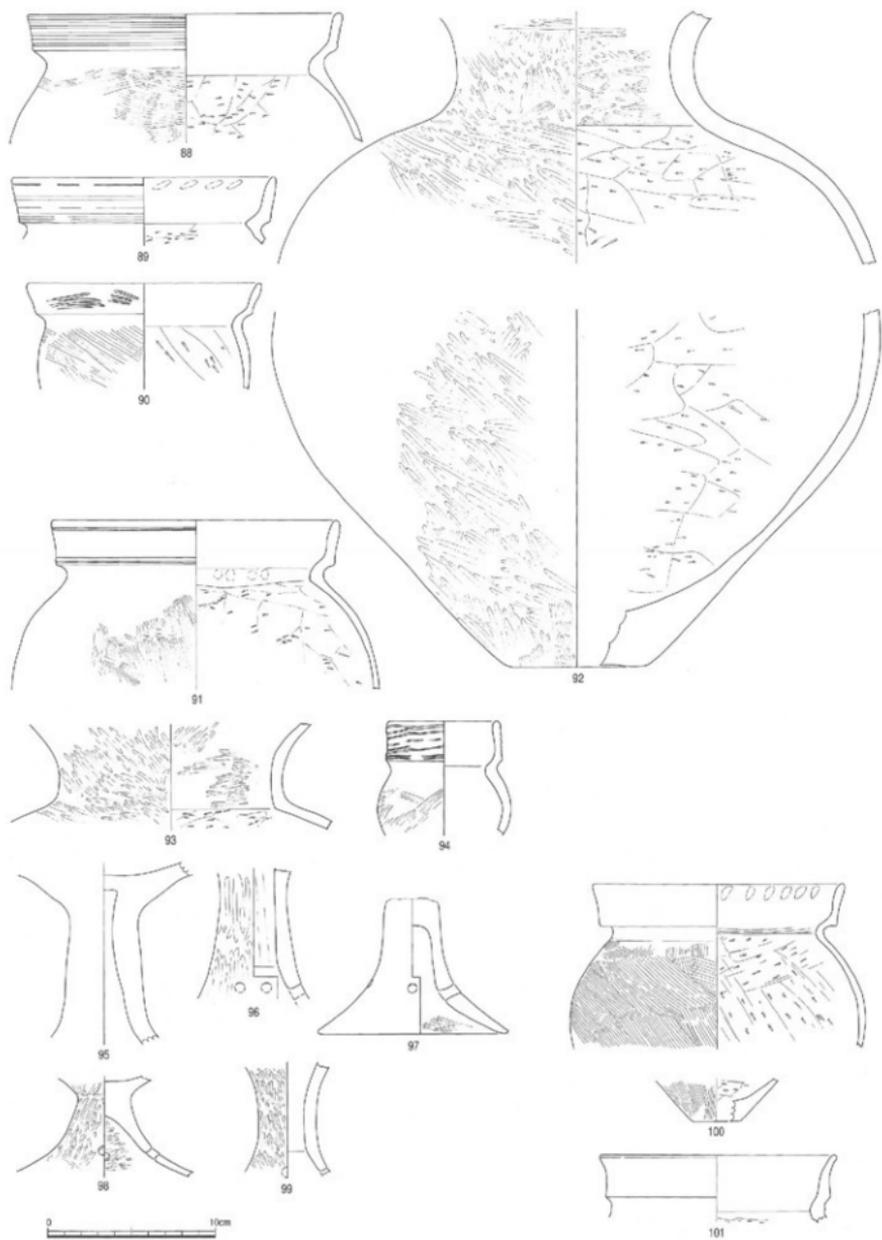
第91図 SK17 (50~57) 出土土器 (1/3)



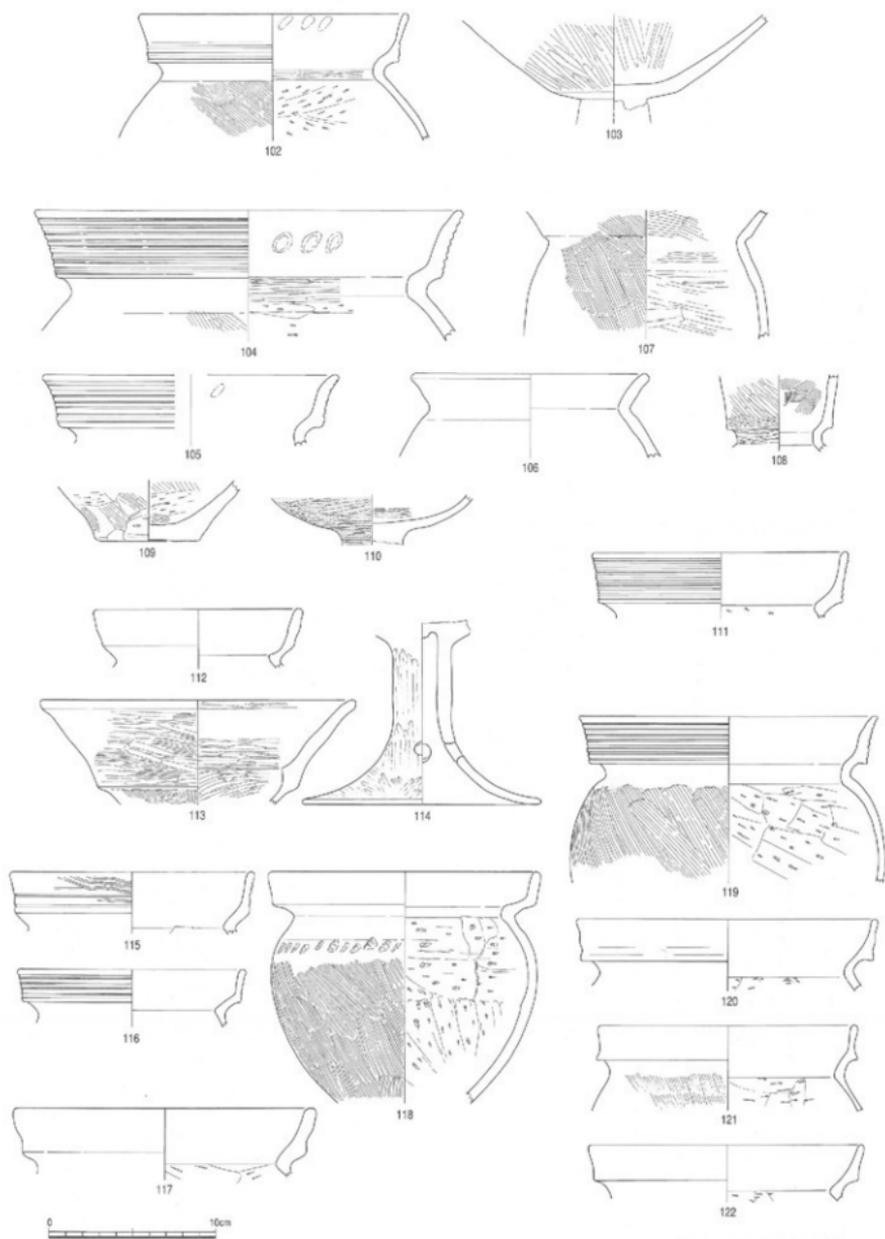
第92図 SK18(58・59)・SK19(60~71)出土土器(1/3)



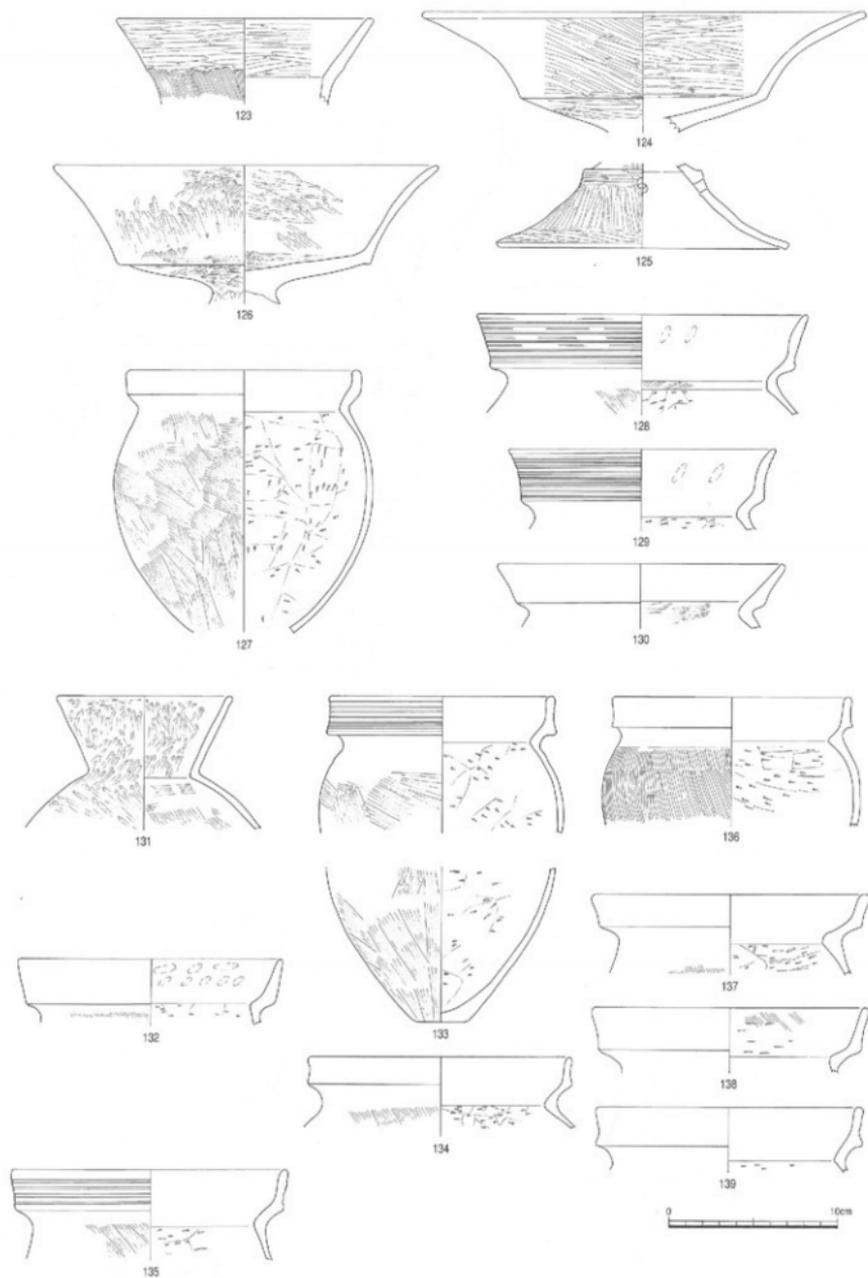
第93図 SK19 (72~80)・SK20 (81)・SK21 (82)・SK22 (83)・SK26 (84~87) 出土土器 (1/3)



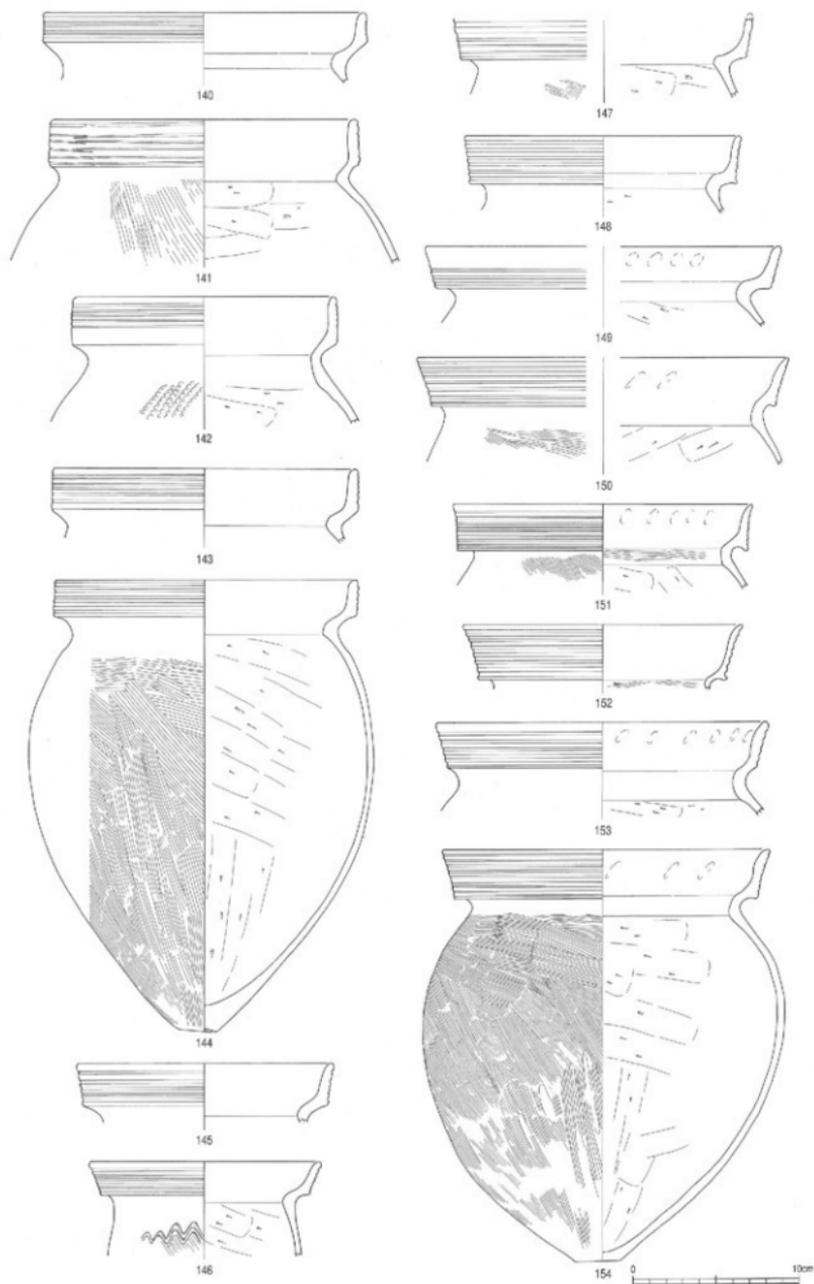
第94図 SK27 (88~99)・SK28 (100~101) 出土土器 (1/3)



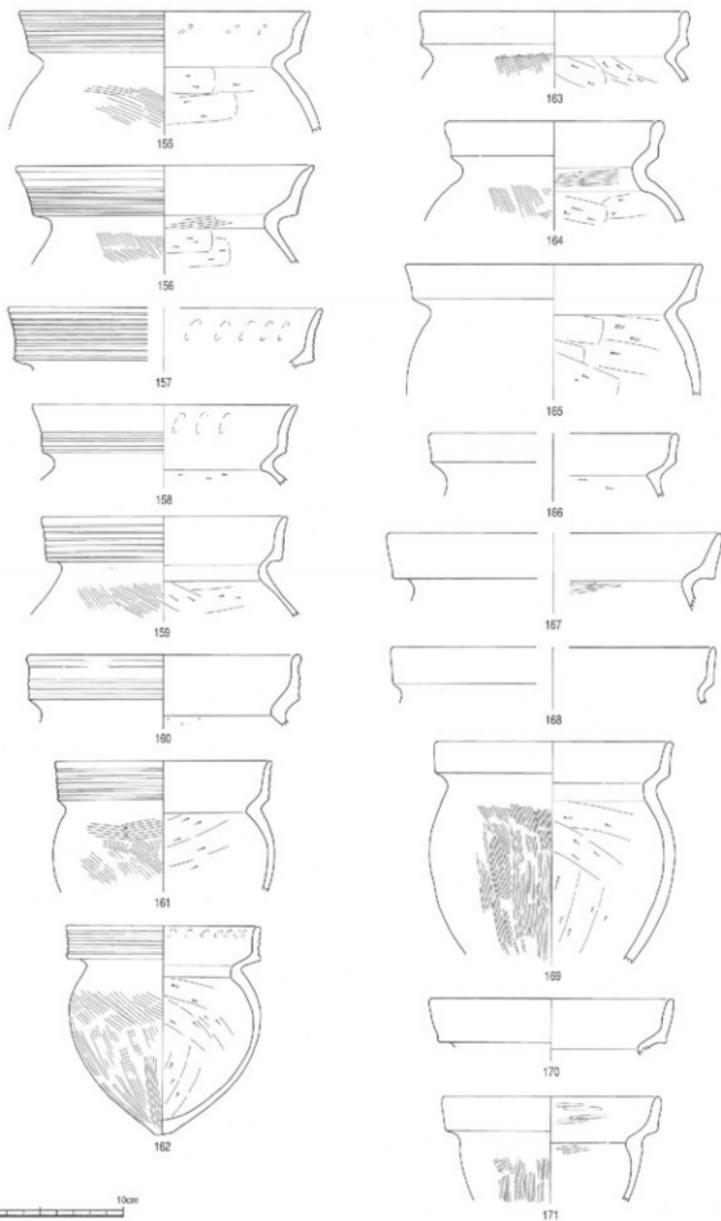
第95図 SK29 (102・103)・SK30 (104~110)・SK31 (111)・SK32 (112~114)
SK33 (115~118)・SK32 (119~122) 出土土器 (1/3)



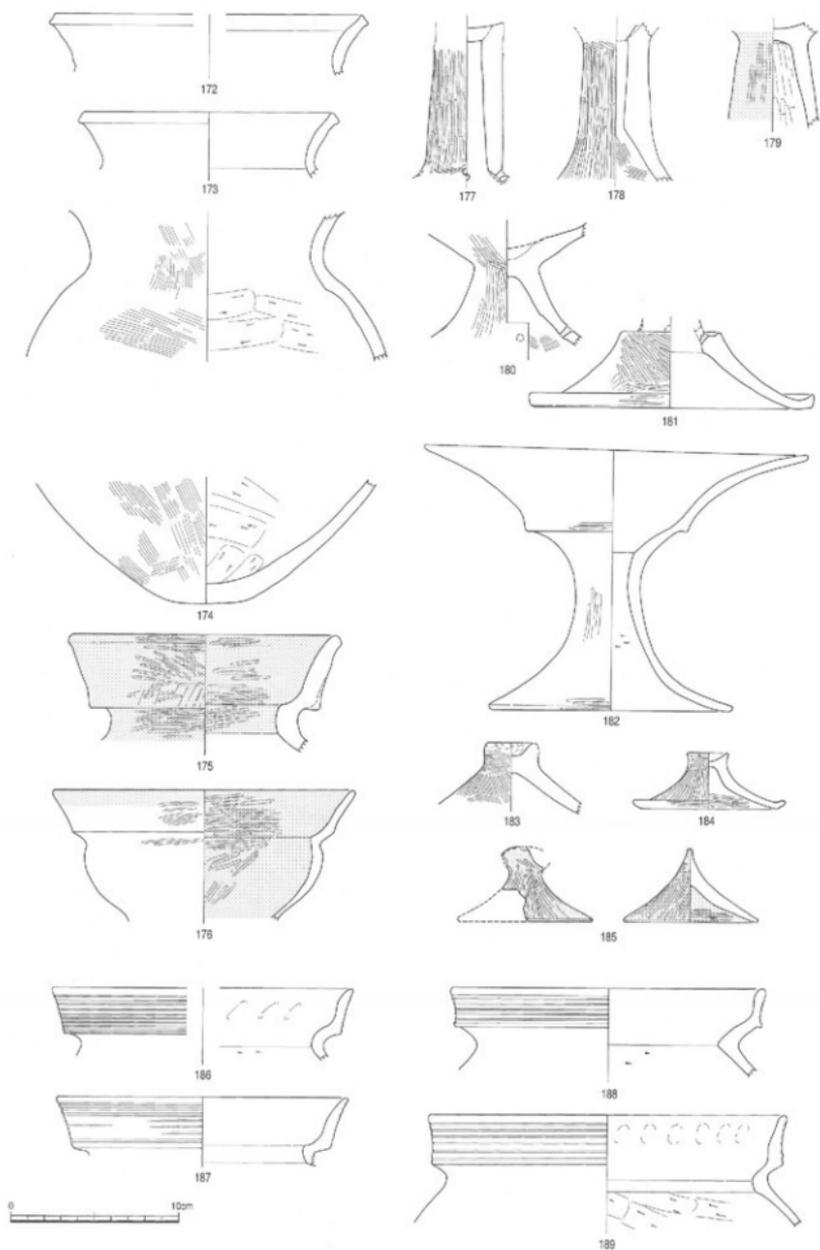
第96図 SK35 (123)・SK36 (124・125)・SK37 (126)・SK38 (127)・SK39 (128~130)・SK40 (131)
SK41 (132)・SK42 (133・134)・SK43 (135)・SK48 (136)・SK49 (137~139) 出土土器 (1/3)



第97图 SK50 (140~154) 出土土器 (1/3)



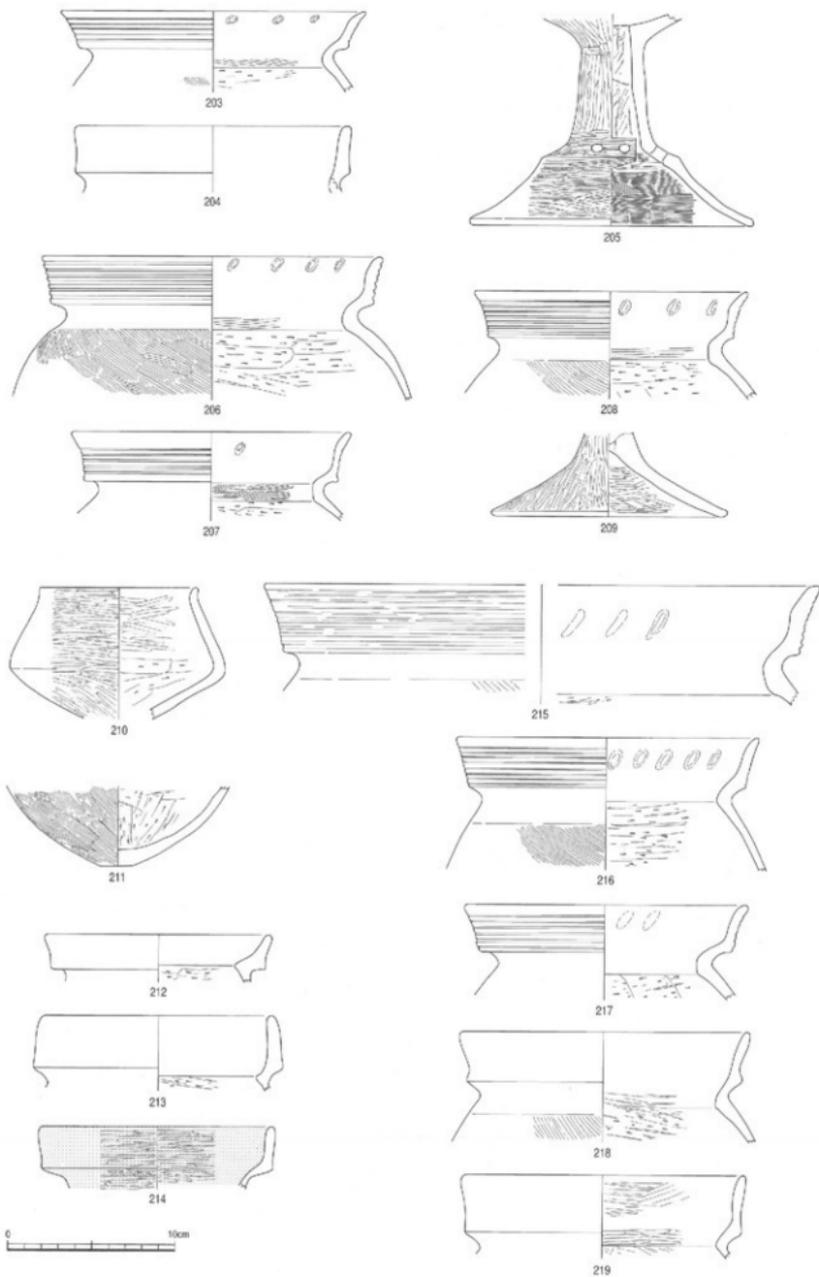
第98図 SK50 (155~171) 出土土器 (1/3)



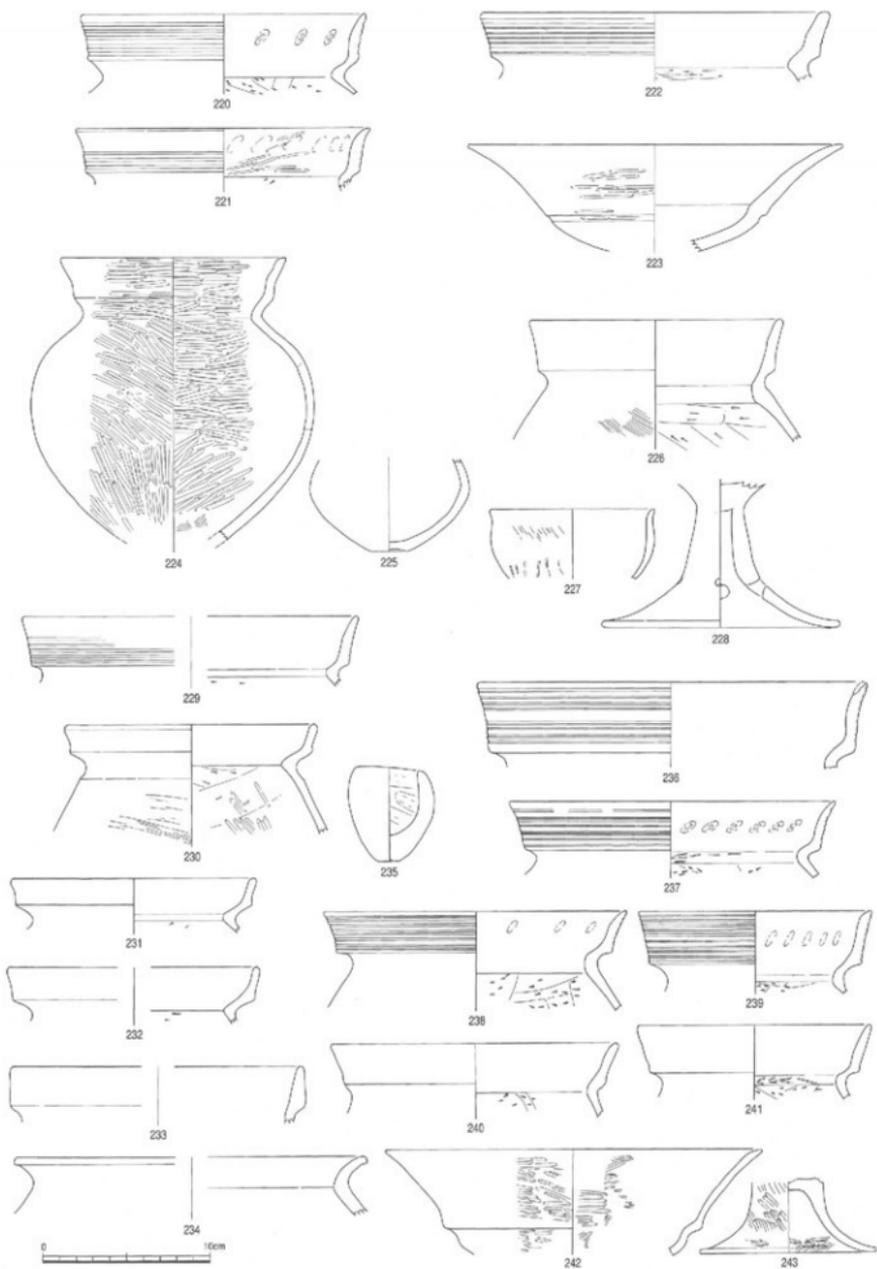
第99図 SK50 (172~185)・SK51 (186・187)・SK52 (188・189) 出土土器 (1/3)



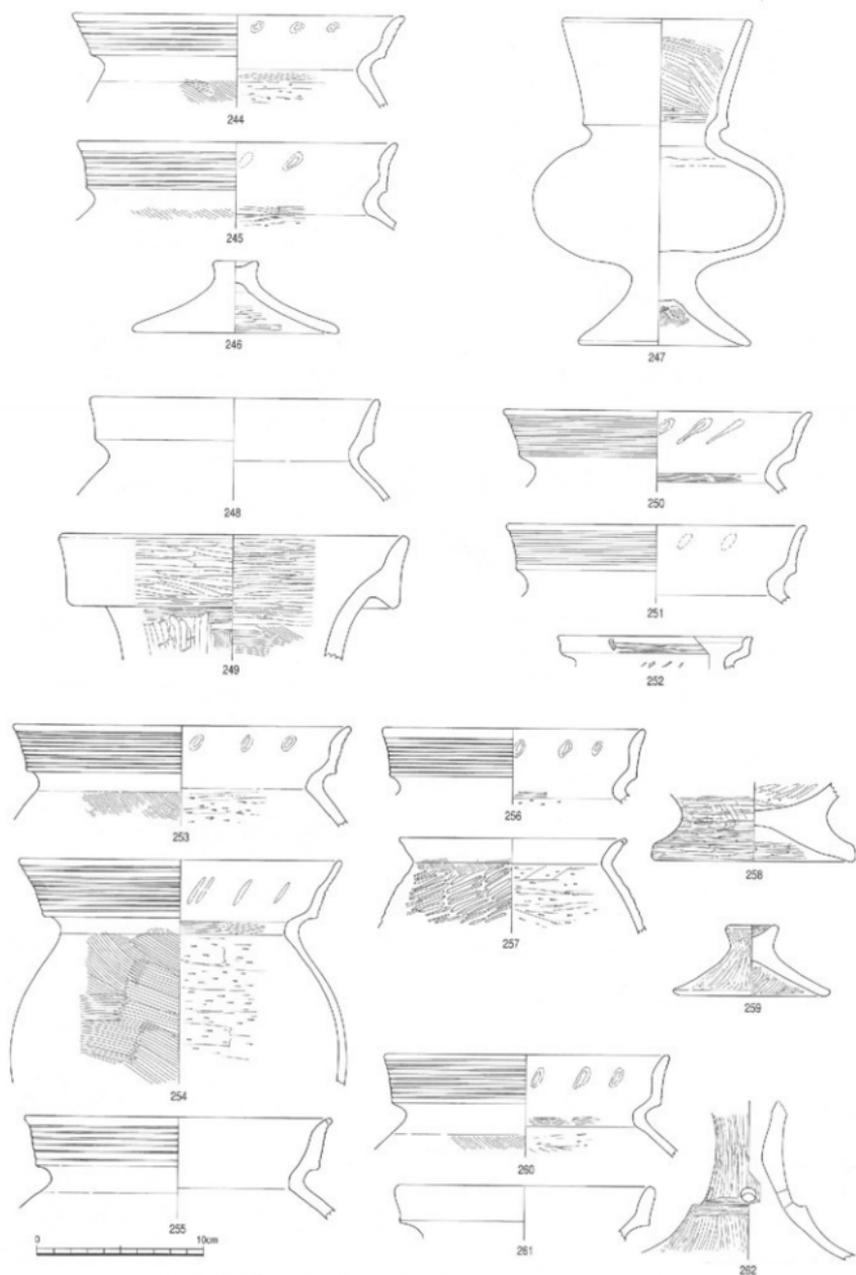
第100図 SK53 (190~196)・SK54 (197)・SK55 (198~202) 出土土器 (1/3)



第101図 SK56 (203・204)・SK57 (205)・SK58 (206~209)・SK59 (210)
SK60 (211)・SK61 (212~214)・SK62 (215~219) 出土土器 (1/3)



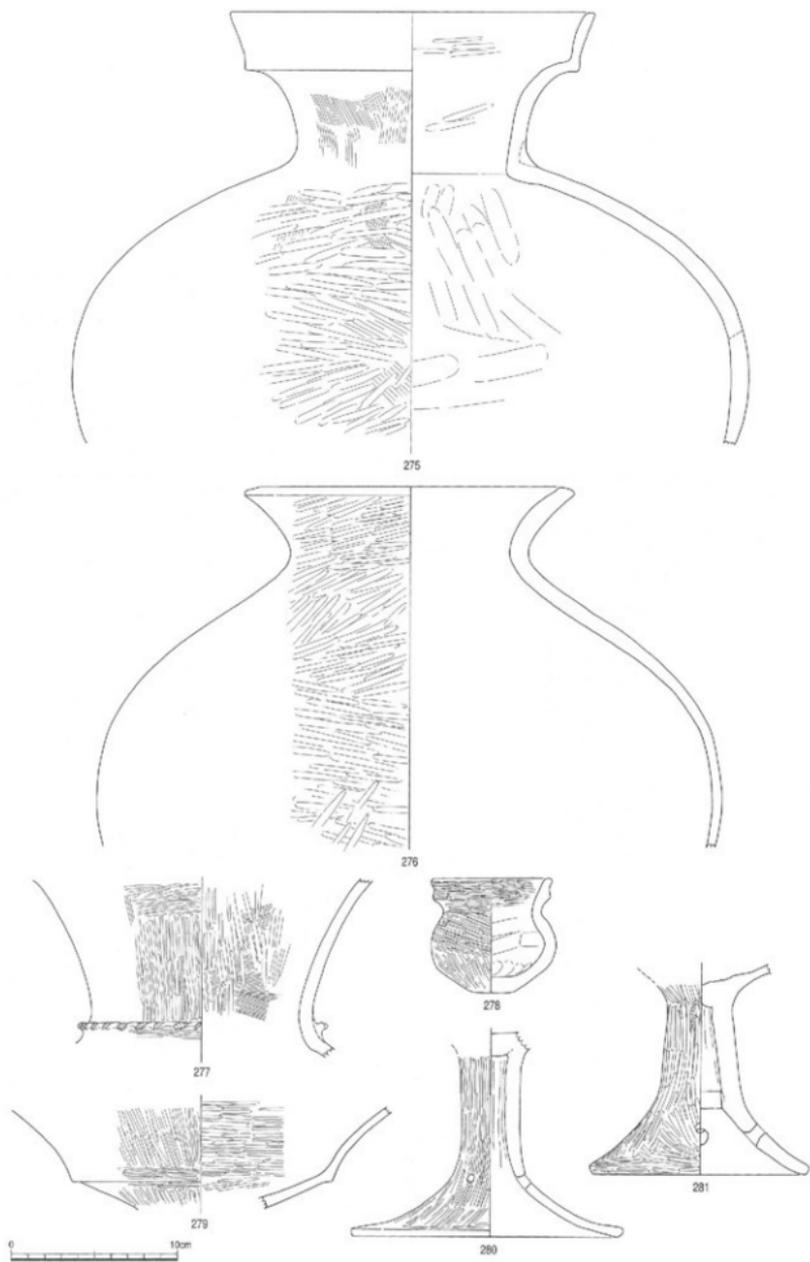
第102図 SK63 (220・221)・SK65 (222)・SK66 (223)・SK68 (224・225)
 SK69 (226~228)・SK70 (229~235)・SK71 (236~243) 出土土器 (1/3)



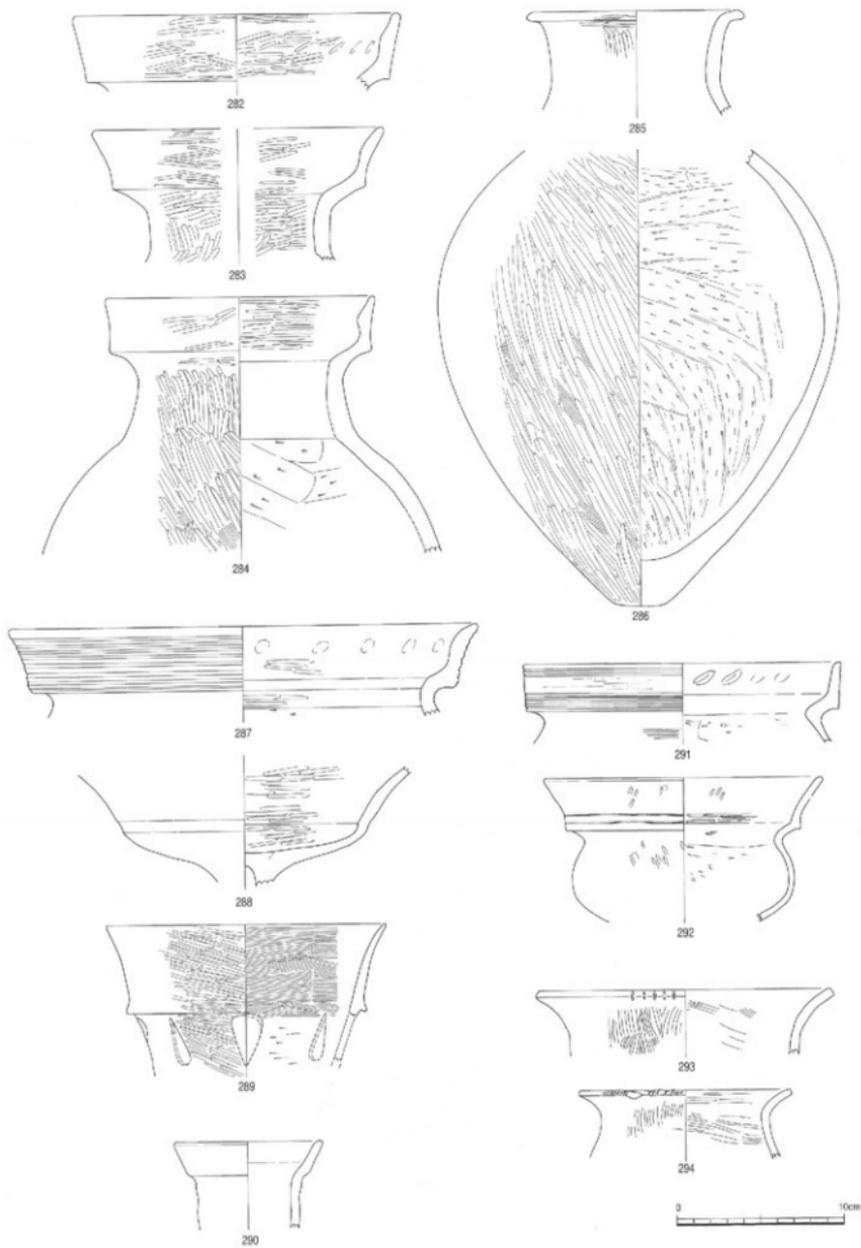
第103圖 SK72 (244~246)・SK73 (247)・SK74 (248・249)・SK75 (250~252)
SK76 (253~258)・SK78 (259)・SK79 (260~262) 出土土器 (1/3)



第104図 SK80 (263)・SK83 (264・265)・SK86 (266)・SK87 (267~269)
SK88 (270・271)・SK91 (272~274) 出土土器 (1/3)

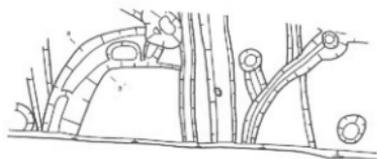


第105図 SK91 (275~281) 出土土器 (1/3)

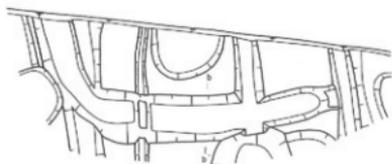


第106図 SK92 (282~286)・SK95 (287~289)・SK97 (290)・SK100 (291・292)・SK104 (293・294) 出土土器 (1/3)

11.30m
a

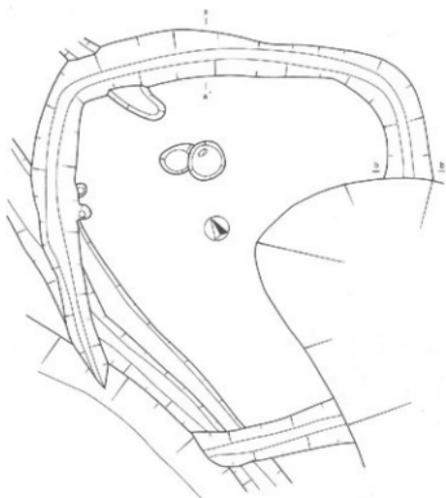


11.30m
a



SX01

11.30m
a

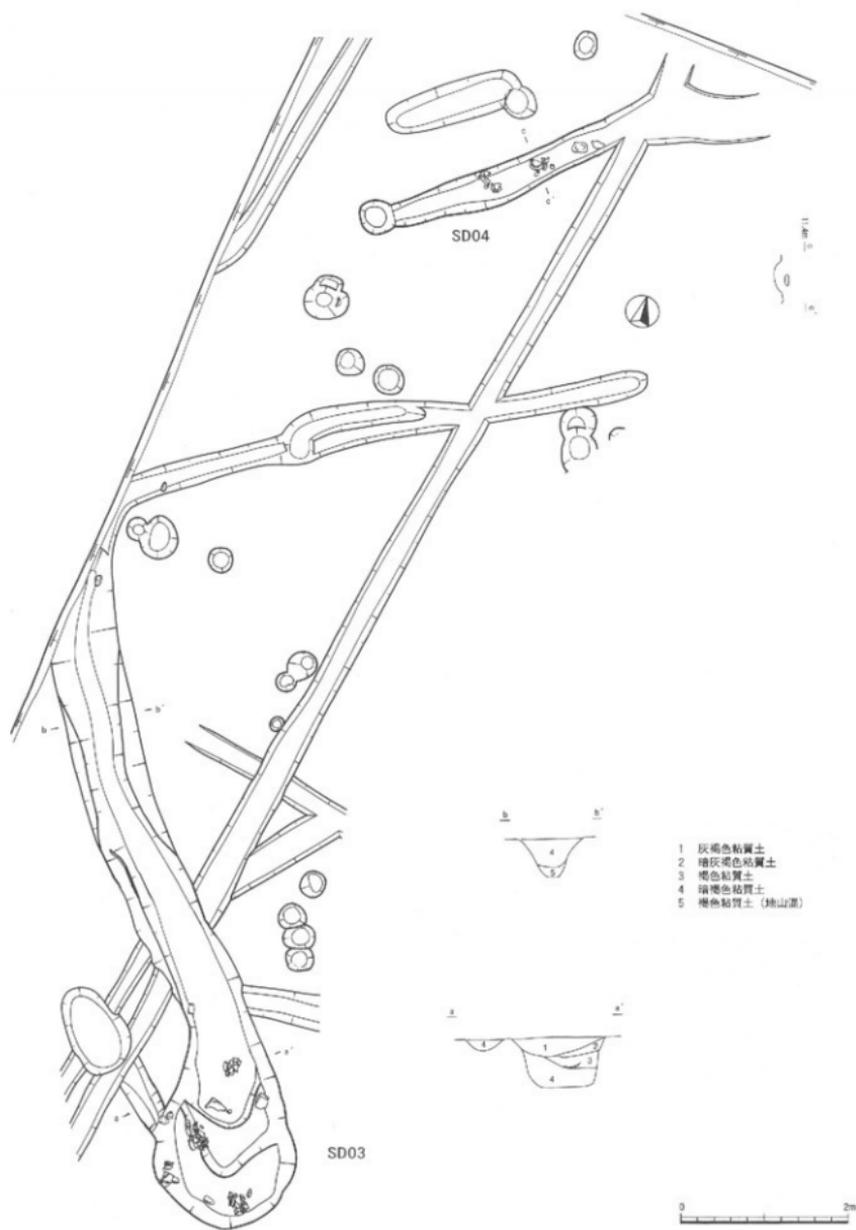


11.00m
a

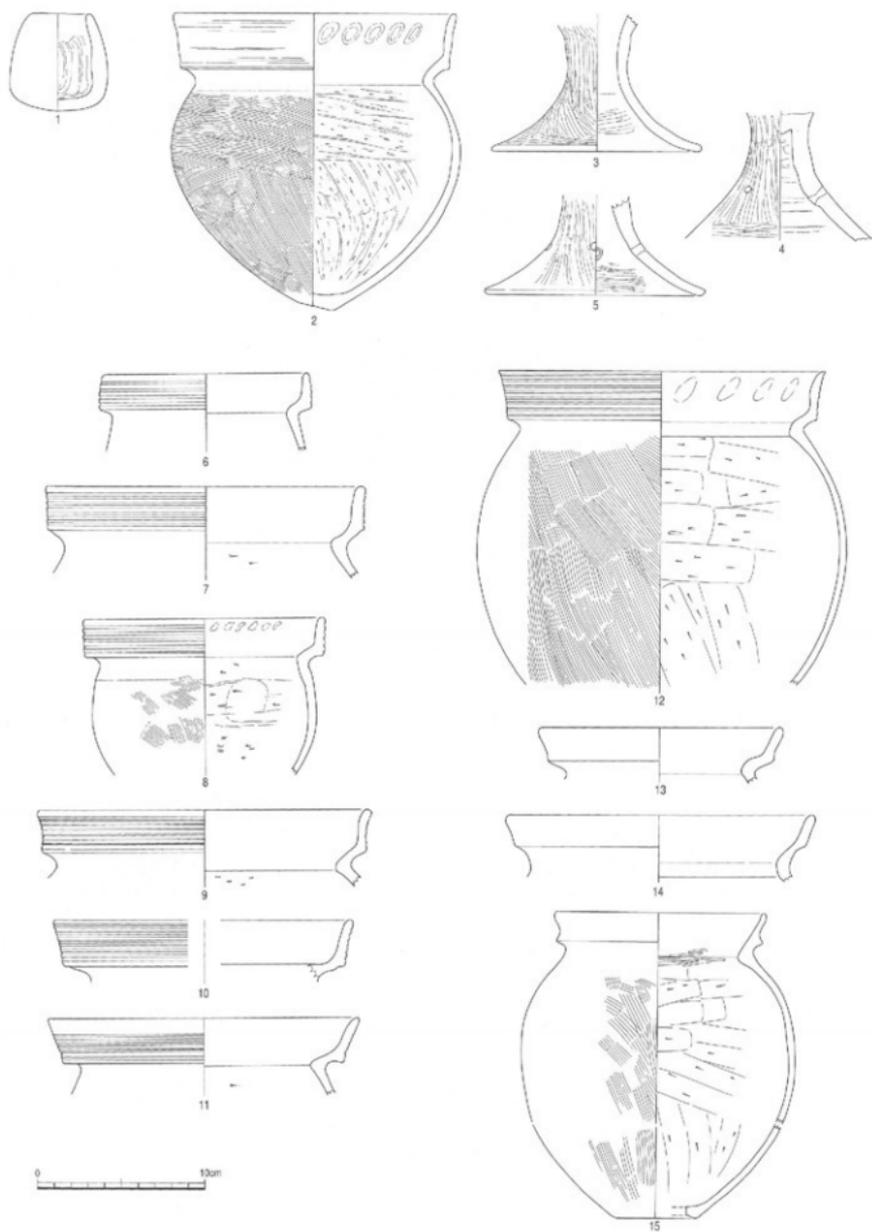
SX02



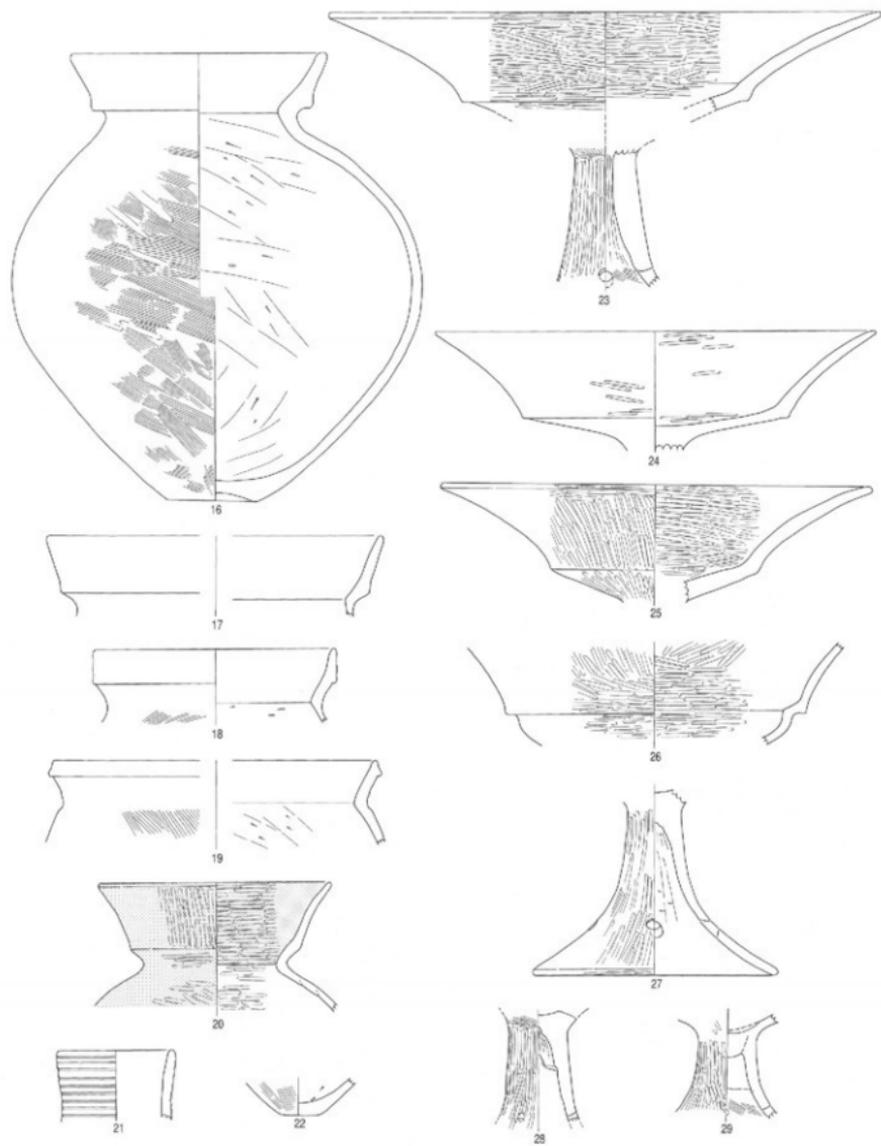
第107图 SX01·02 遺構図 (1/80)



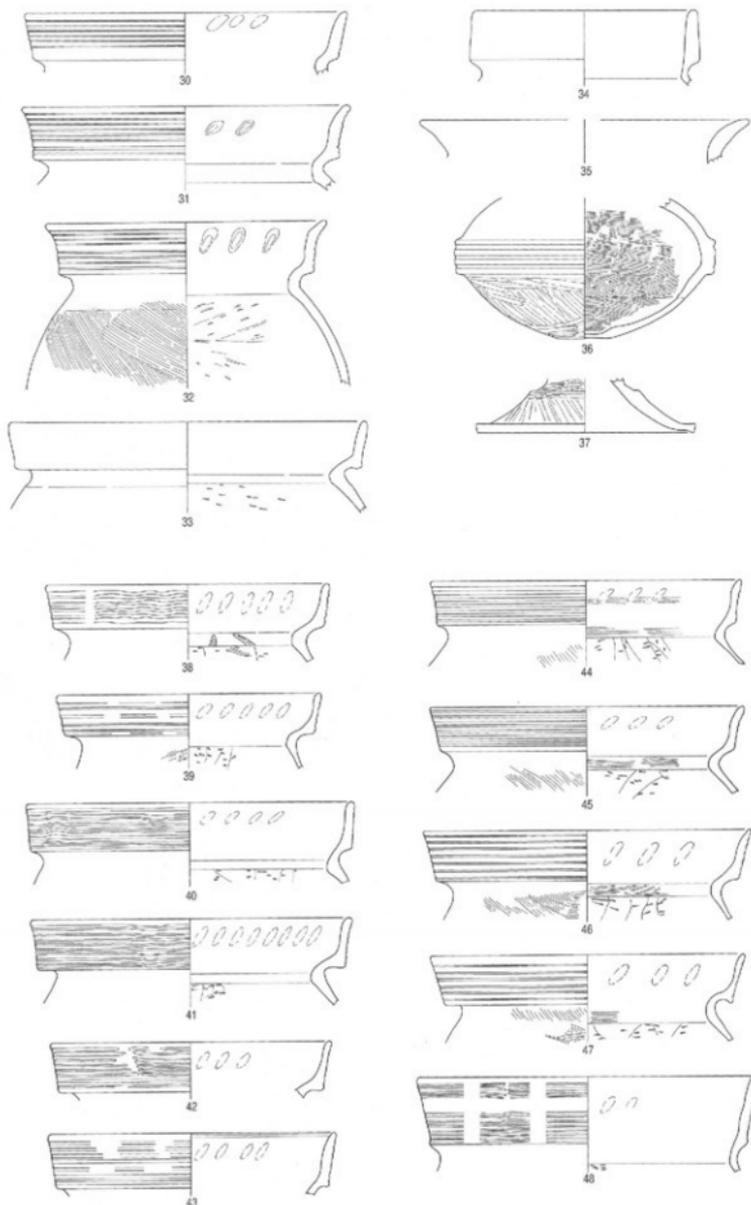
第108圖 SD03·04 遺構圖 (1/60)



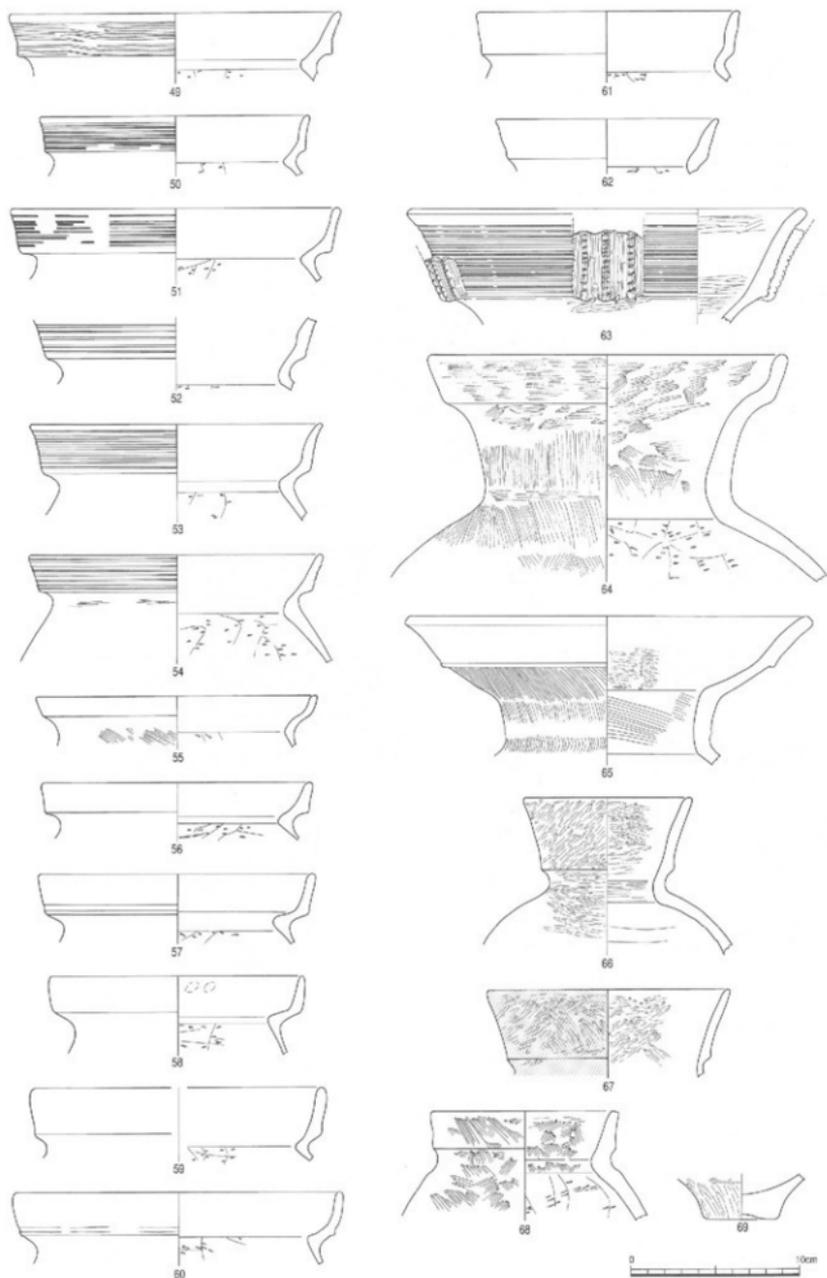
第109図 SX02 (1)・SD02 (2~5)・SD03 (6~15) 出土土器 (1/3)



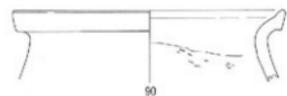
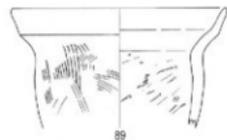
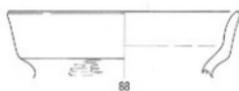
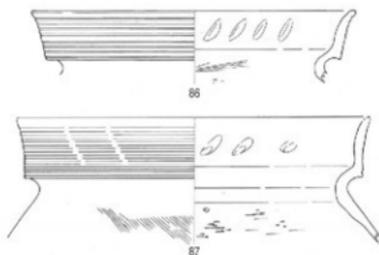
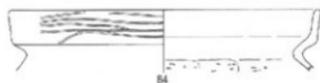
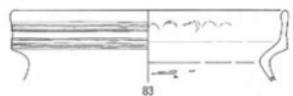
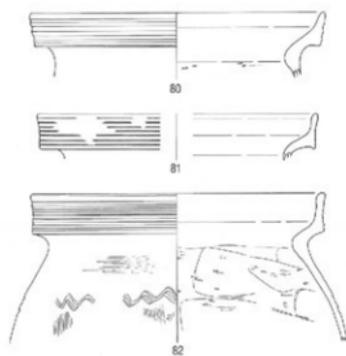
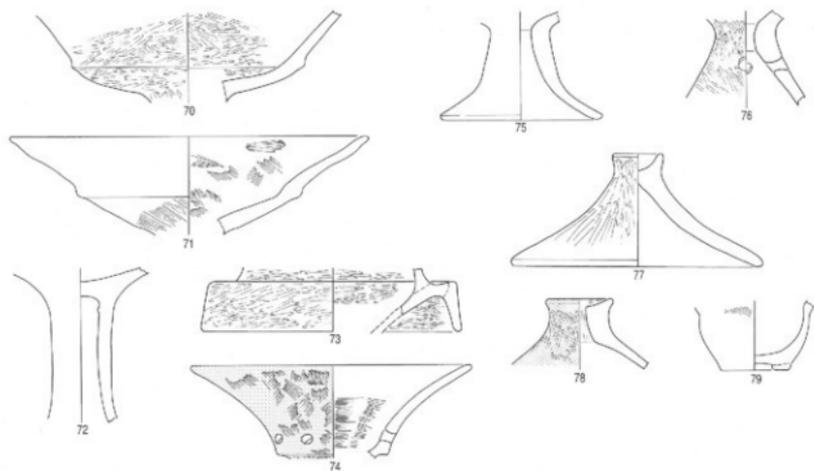
第110图 SD03 (16~29) 出土土器 (1/3)



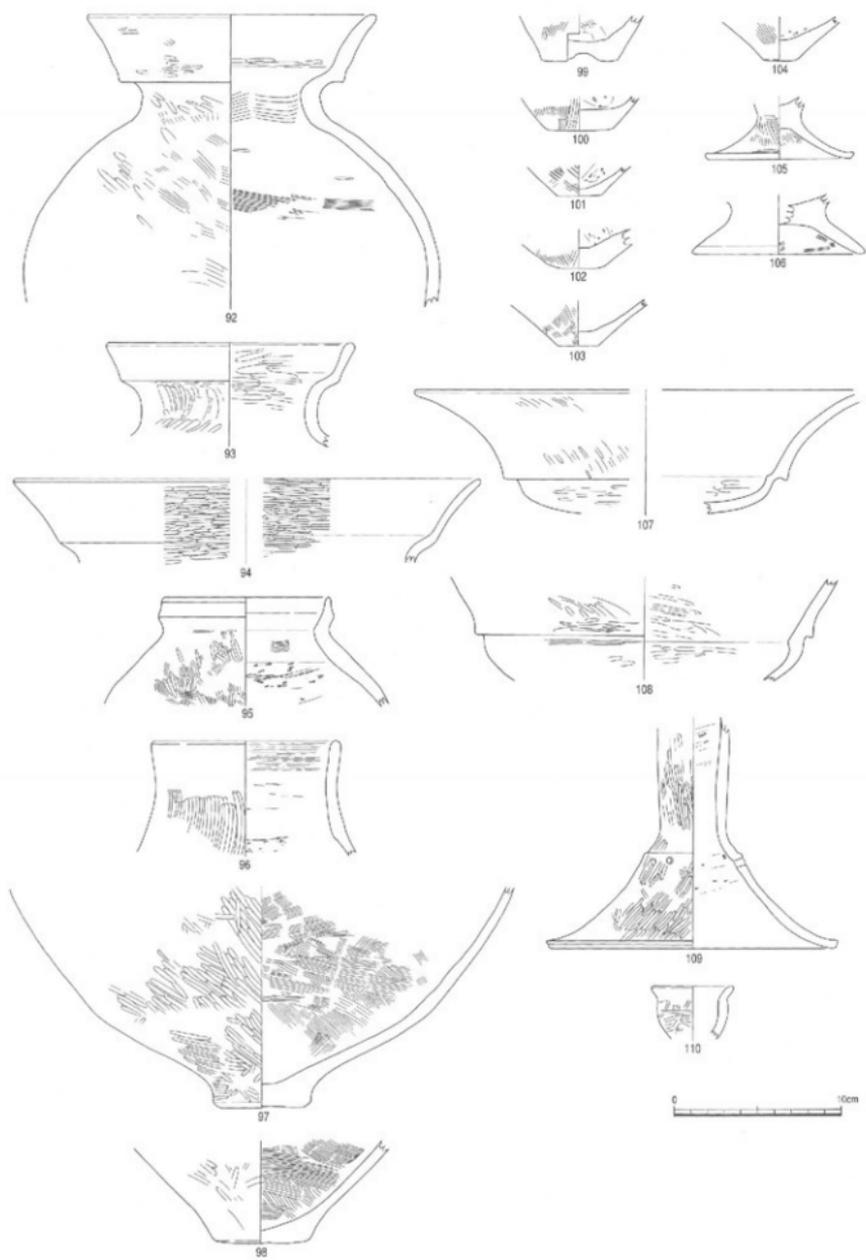
第111图 SD04 (30~37)·A2区鞍部 (38~48) 出土土器 (1/3)



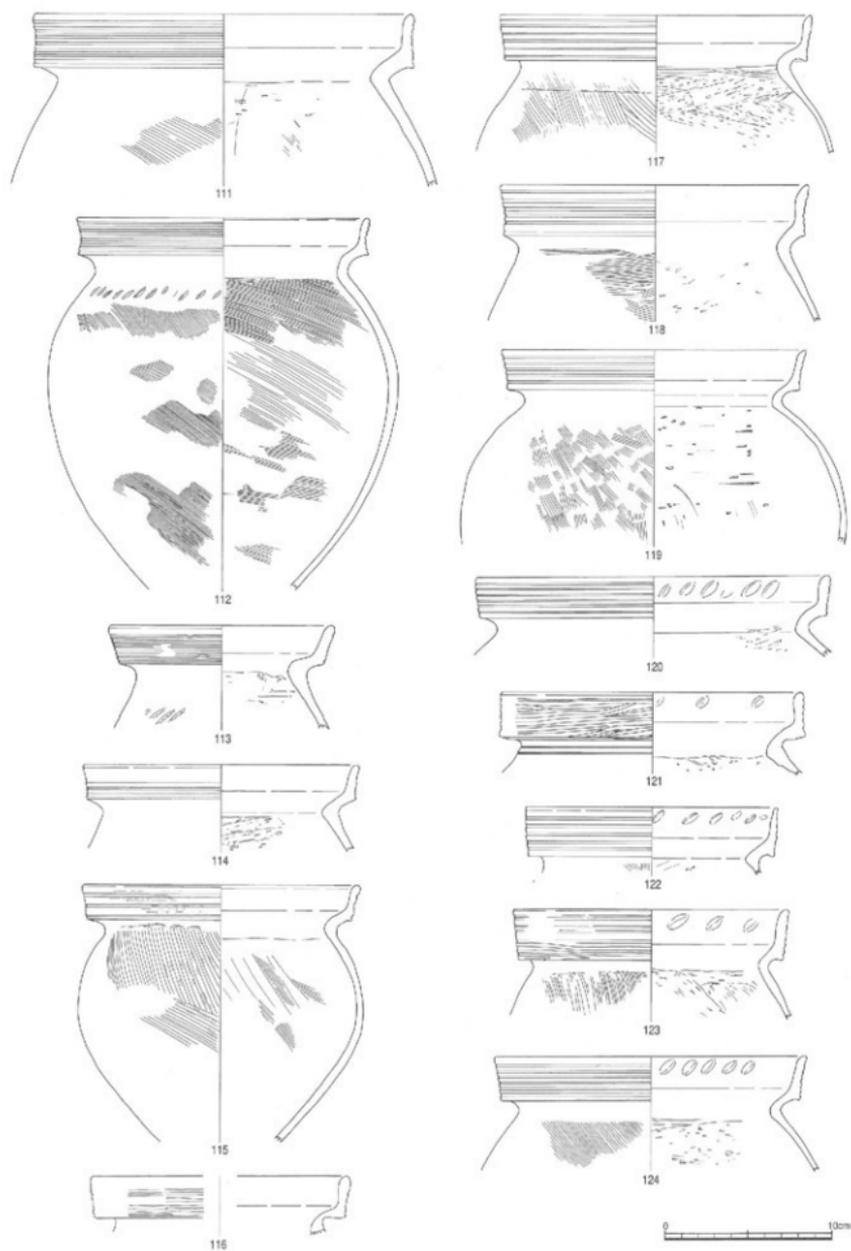
第112図 A2区鞍部 (49~69) 出土土器 (1/3)



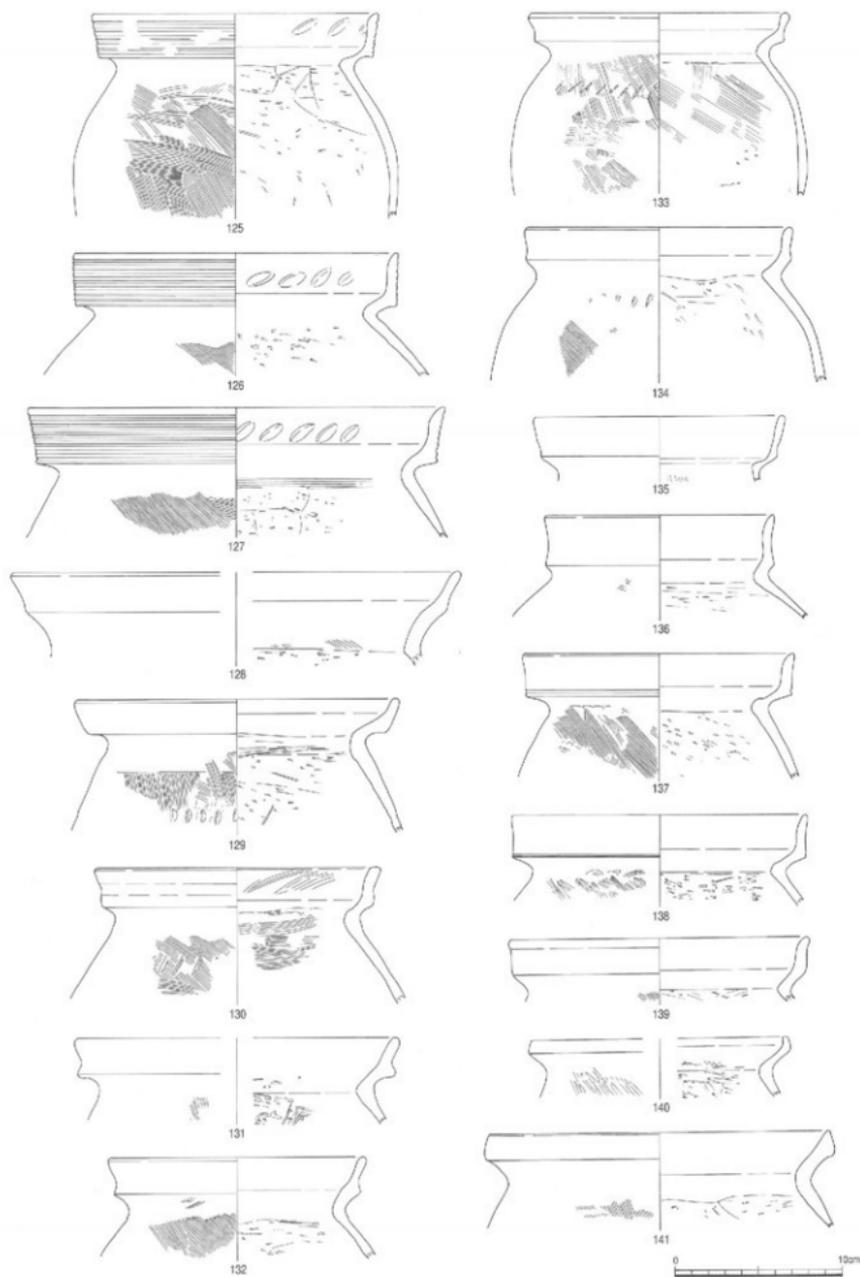
第113图 A2区鞍部(70~79)·河道N区(80~91)出土土器(1/3)



第114图 河道N区(92~110)出土土器(1/3)



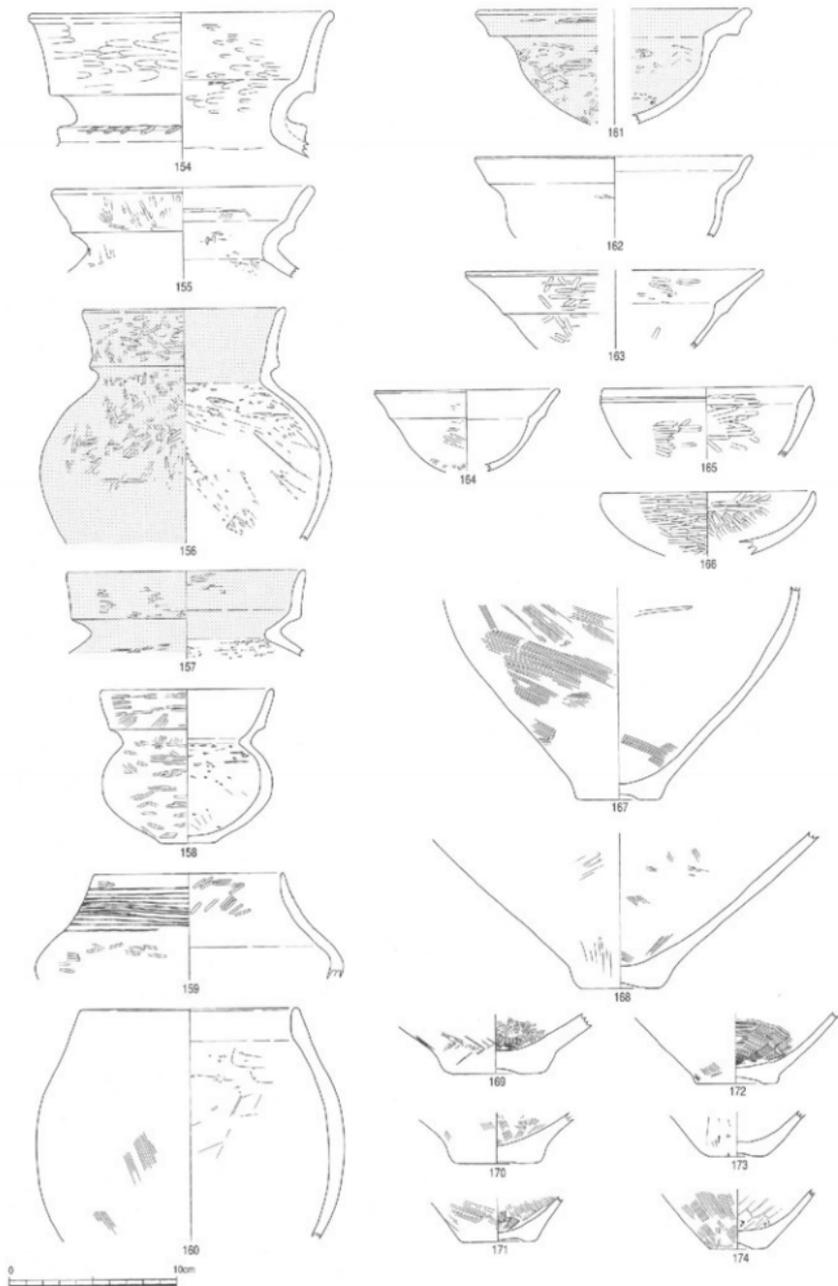
第115図 河道M区(111~124)出土土器(1/3)



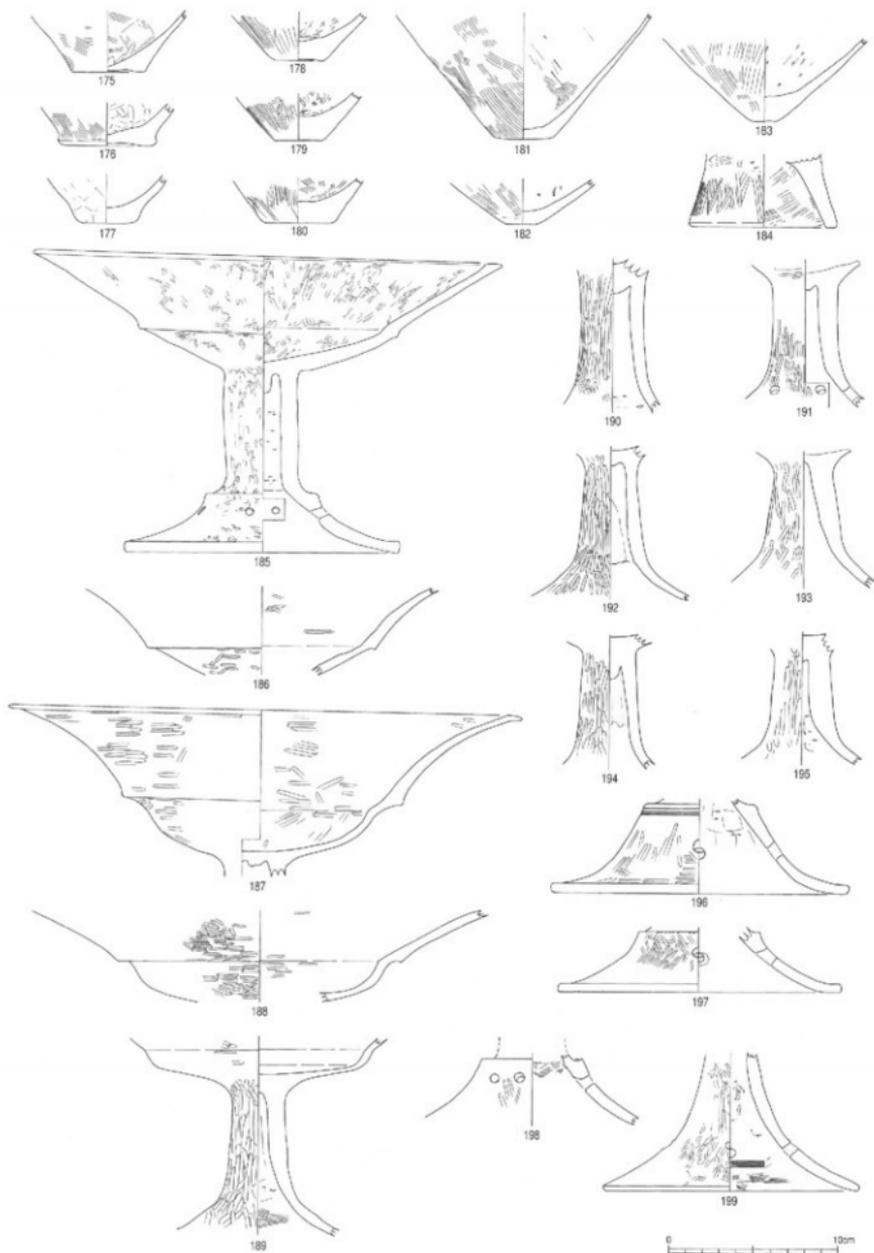
第116図 河道M区(125~141)出土土器(1/3)



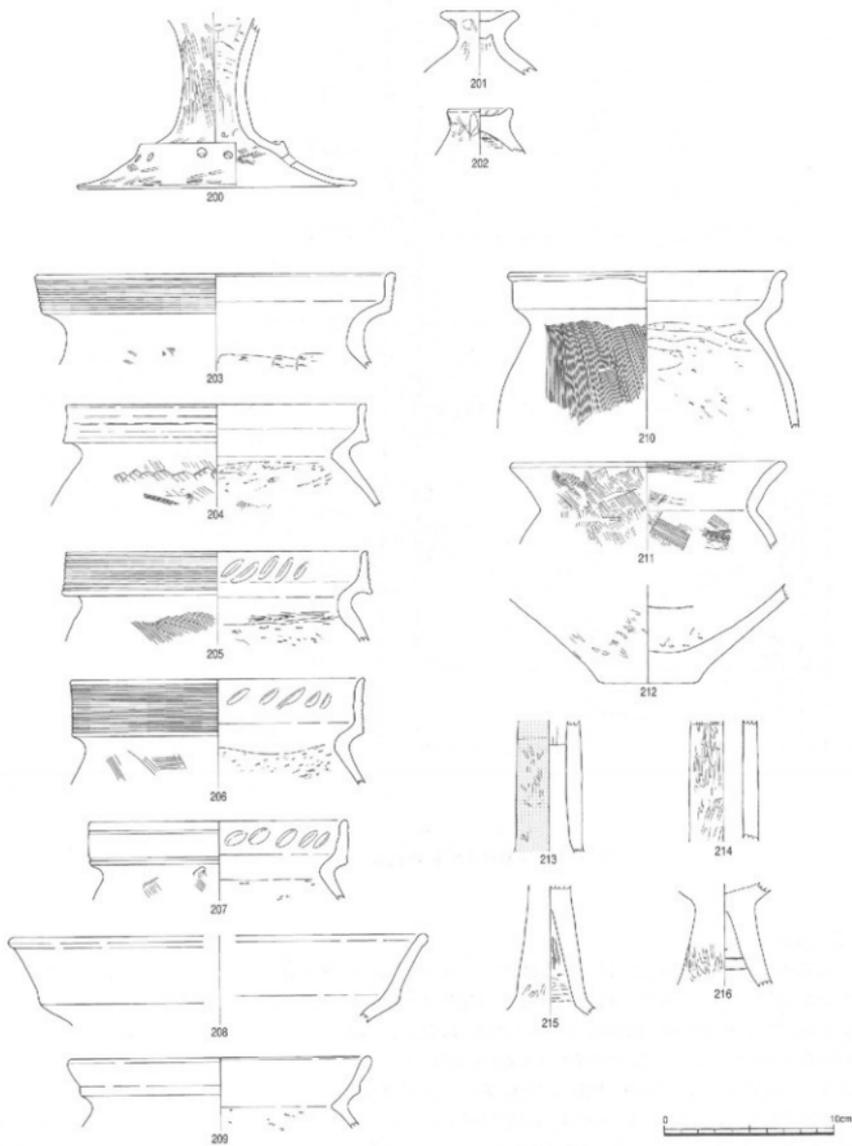
第117图 河道M区(142~153)出土土器(1/3)



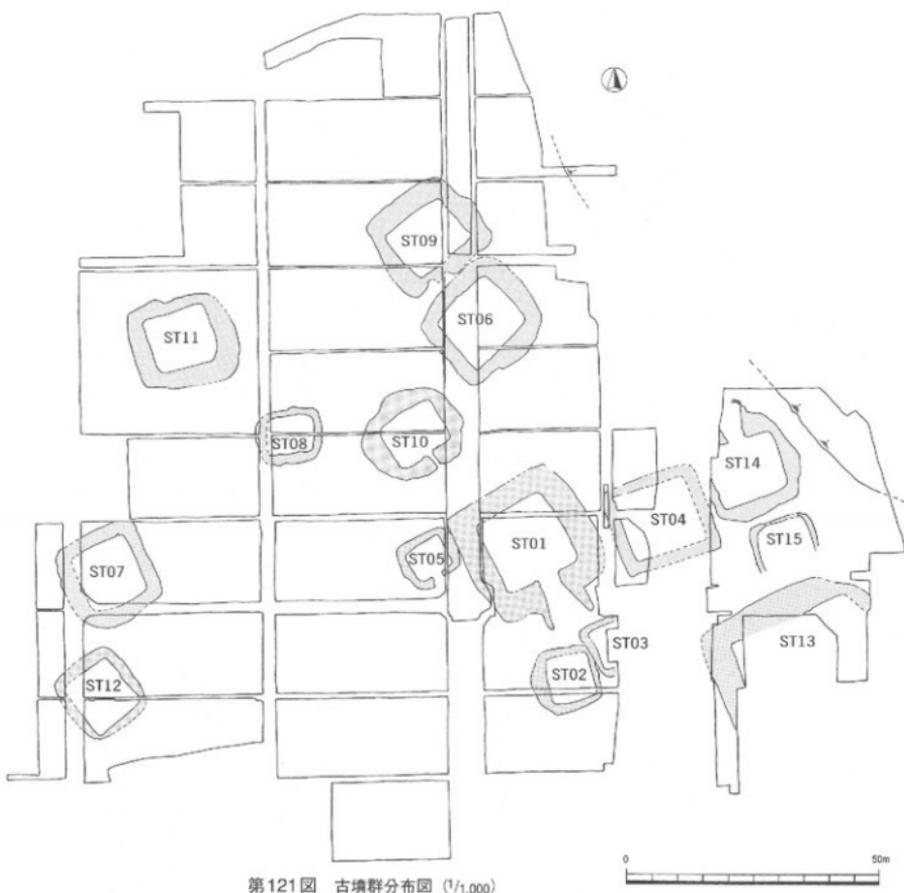
第118图 河道M区(154~174)出土土器(1/3)



第119图 河道M区(175~199)出土土器(1/3)



第120図 河道M区(200~202)・河道S区(203~216)出土土器(1/3)



5 古墳群

15基の古墳周溝を検出した(分布図第121図)。いずれも墳丘及び埋葬部は削平されており盛上の痕跡すら残存していない状況である。古墳は東微高地に11基、鞍部にかかる2基、西微高地に2基分布するが、このうち東微高地のST01と05、ST02と03、ST04と14、ST06と09、西微高地のST07と12が2基一対連接となつて造営されている。西微高地のST07・12の2基はやや離れるため少々疑問をもつものである。ST15はST13と対をなすものか不明である。他のST08・10・11は単独墳となろう。2基一対連接となる古墳の造営は、西北西へ2.6kmの距離を隔て位置し本古墳群に先行する松任市一塚墳墓・古墳群で確認されており、「墓地構造の2基一対連接への変化は月影式新相～白江式にかけての一連の動き」としてとらえられている(前田1995)。遺跡の分布に関しD2区から9区にかけて南北の試掘溝を設けて調査したが古墳周溝は確認していない。

古墳の形態及び規模(検出面での規模)は表に譲り、ここでは周溝と周溝からの土器出土状況について説明を加えたい。周溝は墳丘区画に平行となるものと溝の外側の掘方が弧状に張り出すものに大別でき、隅部の幅を狭くし

深さの浅いものがみられる。なお、出土地点が確定できる土器は遺構図に土器番号を記入し出土位置を示した。

ST01 (第122・137～140図) 前方後方墳である。後方部の周溝は4.5～5.6mと幅広く溝底は平坦である。ほぼ完形に復元できた壺40は北西隅部において溝底から9～12cm浮いて出土した。同じくほぼ完形の壺41は東溝北側で溝底から約15～25cm浮き出土した。双方とも周溝の墳丘側に近い位置で土器片の出土レベルも墳丘側が高くなる状況である。これは墳丘土の崩落によって周溝がやや埋まった段階に土器が墳丘から転がり落ちてきた状況を想定するものである。

ST02 (第123・141図) ST03と接する方墳である。周溝の重複部で切り合いを確認したが同様の褐色粘質土で埋まるため明確な判断はできていないもののST02がST03を切るように見受けられる。周溝は西溝外側が弧状に張り出して各隅部は狭くなるが、溝底は平坦である。壺73は西溝の底面から、壺72は溝底から約20cm浮き出土した。

ST03 (第123・142図) 約1/2の検出であるが方墳と判断した。周溝は墳丘部とほぼ平行し南西の隅部は狭く8cmほど浅くなる。77・78は北溝から出土した。

ST04 (第124・142・143図) 馬場川に分離されかろうじて約1/2が残り、周溝の規模から方墳と判断したもので、前方後方墳ST14に接する。墳丘部の規模14.2×推定14.0mは方墳の中では最大規模である。周溝は墳丘部と平行するが北西隅部は狭くなる。高環93は溝底から3～5cm浮き、同95は溝底から出土した。

ST05 (第125・143図) ST01の西側に接し、北東溝外側の掘方を同一線上に揃えている。古墳の形状は南東を向く開口部の規模と周溝西溝の開き方から前方後方墳と判断した。周溝の東溝と西溝の外側はやや弧状に張り出す。溝底の高さは東溝中央部が約10cm深く、北東隅部では約10cm高くなる。

ST06 (第125・143～146図) ST09と接する方墳である。墳丘部の平面形は平行四辺形にやや歪んでいる。北西溝と南西溝は墳丘部とほぼ平行するが北東溝と南東溝の外側はやや弧状に張り出す。溝底の高さは各4溝中央部が隅部より約10cm深くなる。甕134は周溝最下層から、壺141・146は下層から出土した。

ST07 (第126・147・148図) ST12と近接する方墳である。北西溝と北東溝は墳丘部とほぼ平行するが南西溝と南東溝の外側はやや弧状に張り出す。北西溝と北東溝の溝底は凹凸する。壺180は溝底から出土した。

ST08 (第127・148・149図) 最も小型の方墳と判断したもので、墳丘部の平面形は歪み、また主軸方位が違うなど他の古墳とはやや異質な印象をうけるものである。周溝外側は墳丘部と平行し、溝底は平坦である。

ST09 (第128・130・149～151図) ST06の北西に接する方墳である。周溝の北東溝と北西溝は墳丘部と平行するが、ST06と接する南隅部付近では溝の幅は不整となる。溝底はほぼ平坦であるが北東溝北側は約20cm深くなる。ほぼ完形の甕246は周溝南隅部の外側、掘方斜面に接するように出土した。

ST10 (第129・130・151～155図) 南側に開口部(陸橋部)をもつが、この幅は65～100cmと狭いため方墳と判断した。周溝は外側が大きく弧状に張り出して隅部での幅は狭くなり、全体の平面形は楕円状に近い形態となる。周溝の西隅部と南隅部は浅くなり、最も深い地点とのレベル差は30～35cmを測る。北西溝と南西溝では深い部分から約20cm高くなる段状部がみられ、周溝の掘削は一度段部まで掘り下げ、その後墳丘に接する部分を深くし溝底を整えたものと考えられる。完形に近い壺334・335は開口部西側の周溝端部の下層から溝底より約20cm浮き出土した。土器片の出土レベルから出土状況を推察すると開口部の方向(東)から落ちてきたか投入されたようで、墳丘からの可能性は低いものと考えられる。壺331・332、高環337・342は北西溝中央部から近接して出土した。壺331は溝底から約15cm浮き、壺332は331から50cm離れた地点で溝底から約7cm浮いた状態で出土した。高環337は溝底から54cm浮き、高環342は溝底から約20cm浮き出土した。この地点の周溝土層断面図は第130図b-b'で、10層から下の堆積状況は墳丘土が崩れて周溝を埋めたものと考えられる。壺331・332、高環342は7層から、高環337は10層からの出土である。C-C'上層断面図においても墳丘崩壊土や強粘質土が最下層にみられるなど同様な埋土状況が窺われる。

ST11 (第131・156・157図) 鞍部に造営された方墳である。周溝の溝底部は墳丘部とほぼ平行する。しかし、周溝外側の掘方断面はくの字状に屈折させるもので、北東溝と南東溝では上部の掘削幅を外側へ大きくとり弧状に張り出す形態となる。溝底のレベル差は約30cmあり、北隅部が最も高くまた周溝幅も狭い。残存の良好な土器は周溝の南隅部周辺から出土している。高環368は溝底から15cm浮き、高環369は溝底から8cm浮き、鉢372・373は溝底から約10cm浮き出土した。壺胴部366は南東部溝中央部のビット状落ち込みからと溝底から10cm浮く状態で出土した。周溝東隅部の溝底に土坑状の堀込がみられる。長さ215cm、幅60～65cmを測る。底面は3段構造となり深さは

周溝溝底からそれぞれ45・30・13cmである。

ST12 (第132・157図) ST07に近接する方墳である。周溝は北東溝と北西溝が墳丘部に平行するが他の部分の溝は幅が少し狭く外側が弧状となってやや張り出している。東西と南の隅部の周溝幅は狭くなり、また溝底も約20cm高くなる。周溝北東溝の北側の隅部付近に幅1m、深さ2～5cmを測る陸橋状の部分が見られる。壺378・379は南東溝中央部で溝底から約7cm浮いた状況で出土した。

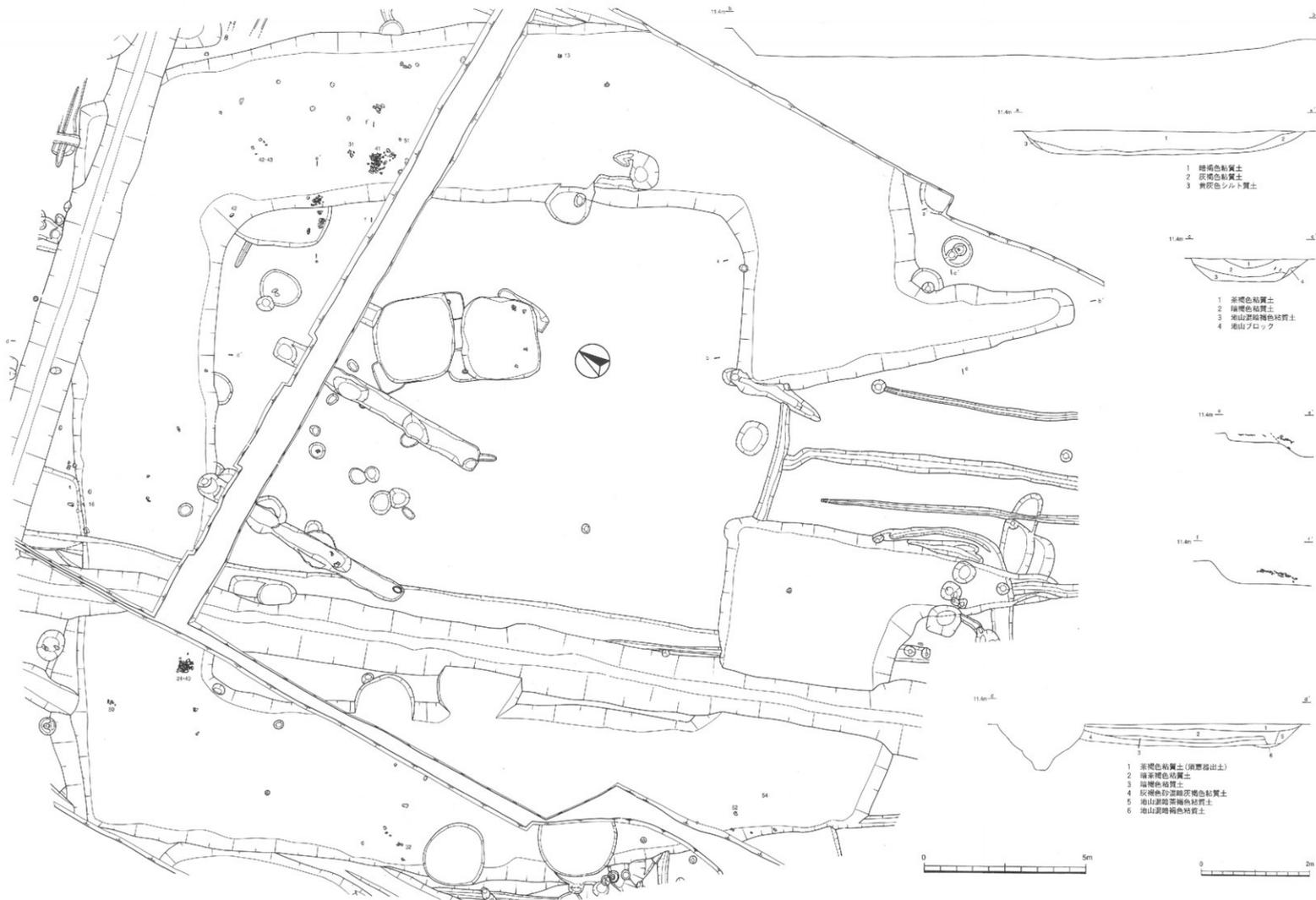
ST13 (第133・157～159図) 本古墳群のなかでは最も規模の大きいもので、周溝の形状や幅はST01と類似することから前方後方墳に推定するものである。周溝確認部の状況から後方部の規模は東西約26mとなる。ST01と同様の平面形態をとるものと仮定した場合は全長44mほどとなる。検出した部分での周溝は墳丘部と平行している。しかし、周溝確認部分では北溝外側が弧状に張り出しており北東隅部の幅が狭くなっている。土器382・406～409・418・422は溝底から、他の土器は溝底から浮く状態で出土した。ST13は御経塚町の町名の由来である経塚と複合する。経塚の西に近接する地点で墳丘部を一部検出したが、検出面まで削平されており盛土部分は確認できない。また、遺構確認部で中世期と推定される溝は経塚の下に潜り込むような状況が見られ、ST13の墳丘は経塚築造時には既に削平されていたものと考えられる。

ST14 (第134・135・159～161図) ST04と接して築造される前方後方墳である。前方部の方向はST01と180度異なる。前方部前面には幅40～70cm、深さ13cmほどの区西溝を一部検出した。周溝は外側が弧状に張り出し隅部の幅が狭くなるもので、前方部では平面形を三角形と小さな溝が短く突出する形態となる。この突出する溝は溝底から徐々に浅くなっていき、端部では溝底より20cm浅くなる。溝底はほぼ平坦であるが、溝底の深い部分より南隅部は25cm、南東隅部は15cm高くなる。南東溝中央部に土器の集中する地点がみられ、いずれも溝底から約10～15cm浮く状態で検出した。

ST15 (第136・161図) ST13とST14の間に位置する方墳である。周溝北溝は残存状態がとくに悪い。ST13に連接するものかは不明である。

古墳一覧表 () 内は推定値

遺構	地区	形状	規模(周溝含、m)	周溝内側規模(検出面、m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	主軸方向
ST01	A4・5	前方後方墳	31.0×27.3	全長26.5、前方部長10.5 前方部幅8.0、くびれ部幅4.0 後方部16.0×16.0	前方部1.2～2.1 後方部4.5～5.6	前方部20～50 後方部47～62	N31°W
ST02	A2・3	方墳	13.7×13.8	9.2×9.4	1.0～3.2	44～55	N16°W
ST03	A3	方墳	11.6×不明	8.8×不明	0.9～1.7	56～67	N30°W
ST04	A4・2・ A5・2・F	方墳	20.0×(18)	14.2×(14.0)	1.6～2.6	24～70	N22°W
ST05	B4	前方後方墳	10.7×12.2	全長9.2、前方部長2.2 前方部幅(2.7)、くびれ部幅2.2 後方部7.0×7.8	1.1～2.3	23・45	N32°W
ST06	A7・8 E7・8 B7・8	方墳	21.1×22.0	13.0×14.6	2.6～4.7	52～72	N43°W
ST07	C3・4D4	方墳	19.3×17.9	12.9×12.0	2.2～4.1	48～56	N27°E
ST08	B5・6 C5・6	方墳	11.6×13.5	7.7×(10.0)	1.4～2.1	40～55	N10°W
ST09	A7・8 E7・8 B7・8	方墳	19.0×22.5	11.5×13.7	0.6・2.4～5.0	20～58	N43°W
ST10	E5・6 B5・6	方墳	18.1×20.1	10.2×12.0	2.0～4.4	54～117	N35°W
ST11	C6・7	方墳	19.1×20.9	10.8×12.7	2.0～4.7	31～63	N22°W
ST12	C2・3 D2・3	方墳	16.1×(15.0)	11.7×11.0	0.7～2.7	21～54	N40°W
ST13	F	前方後方墳か	不明×(35.0)	後方部(26×26)か 全長20.2、前方部長(7.4) 前方部幅(6.0)、くびれ部幅3.7 後方部13.0×14.5	2.5・4.5～6.5 前方部0.7～1.0 後方部1.8～3.6・ 5.0	42～72 前方部 7・13～ 26、 後方部37～5	N24°W
ST14	F	前方後方墳	(24.7×21.0)	(10)×10.8	0.7～1.7	35～57	N22°W
ST15	F	方墳	(12)×13.2				N20°W

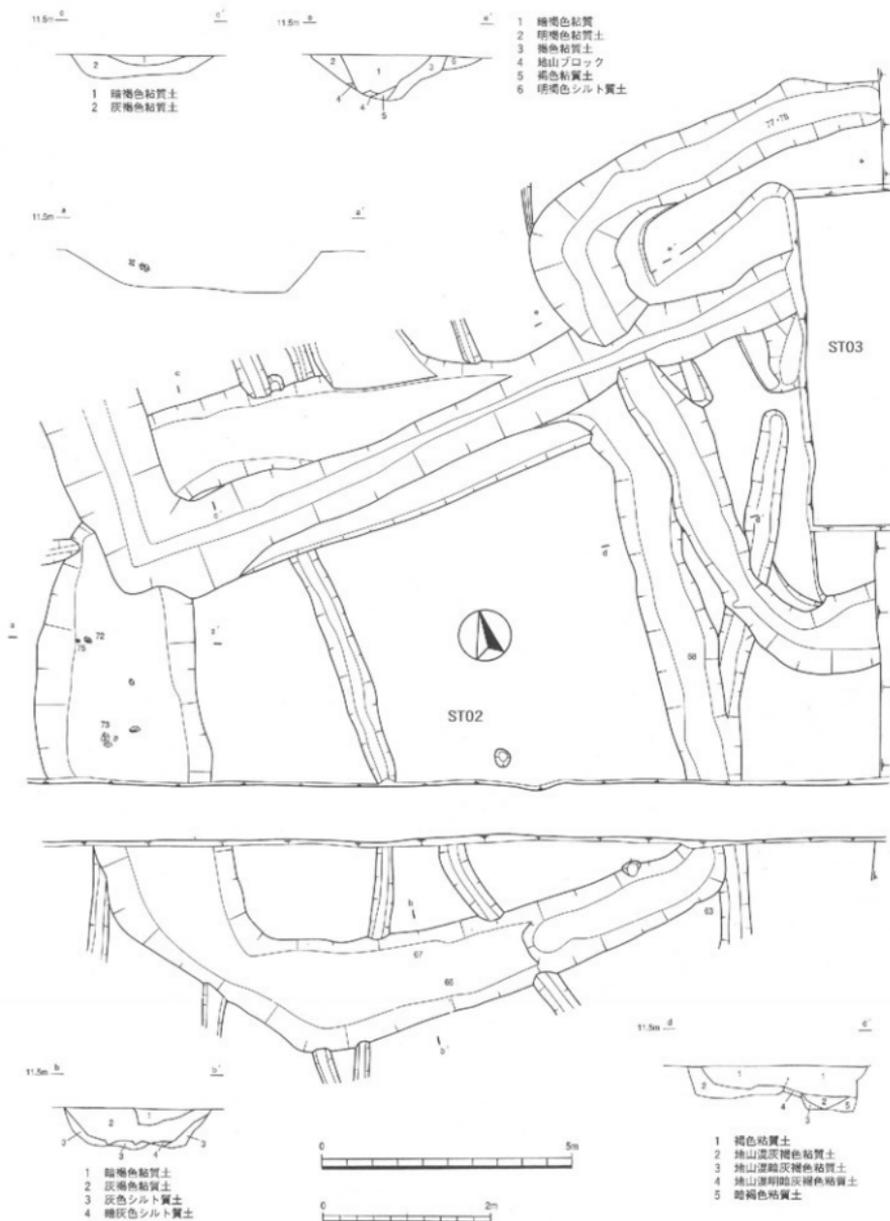


- 1 赭褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 黄灰色シルト質土

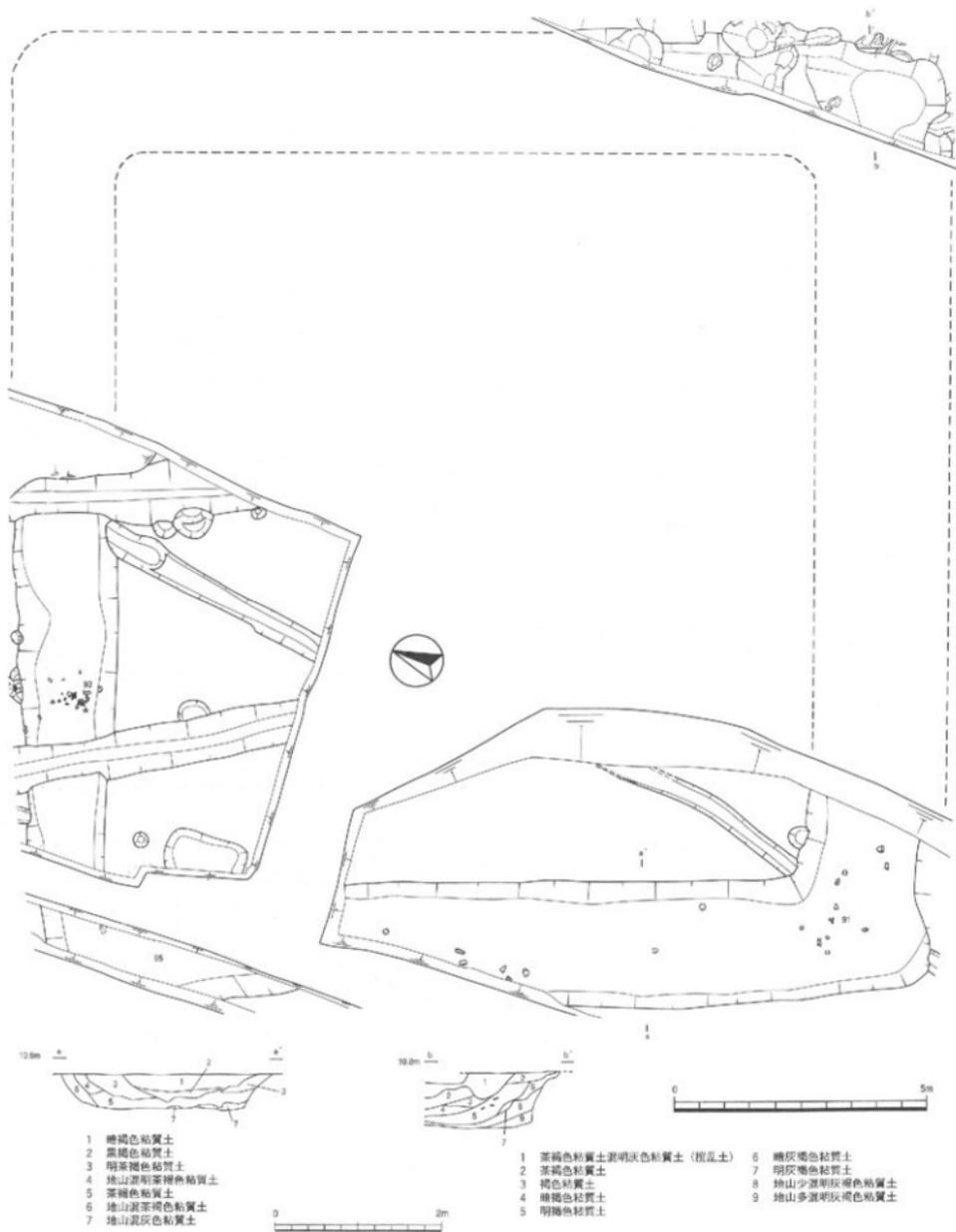
- 1 赤褐色粘質土
2 赭褐色粘質土
3 赤褐色斑状赤褐色粘質土
4 地山ブロック

- 1 赤褐色粘質土(須賀器出土)
2 赤褐色粘質土
3 赤褐色粘質土
4 灰褐色斑状赤褐色粘質土
5 赤褐色斑状赤褐色粘質土
6 赤褐色粘質土

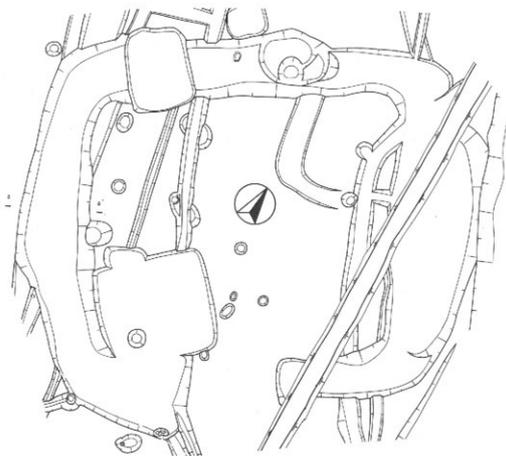
第122図 ST01 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



第123図 ST02・03 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



第124圖 ST04 平面圖 (1/100)・断面圖 (1/60)



ST05

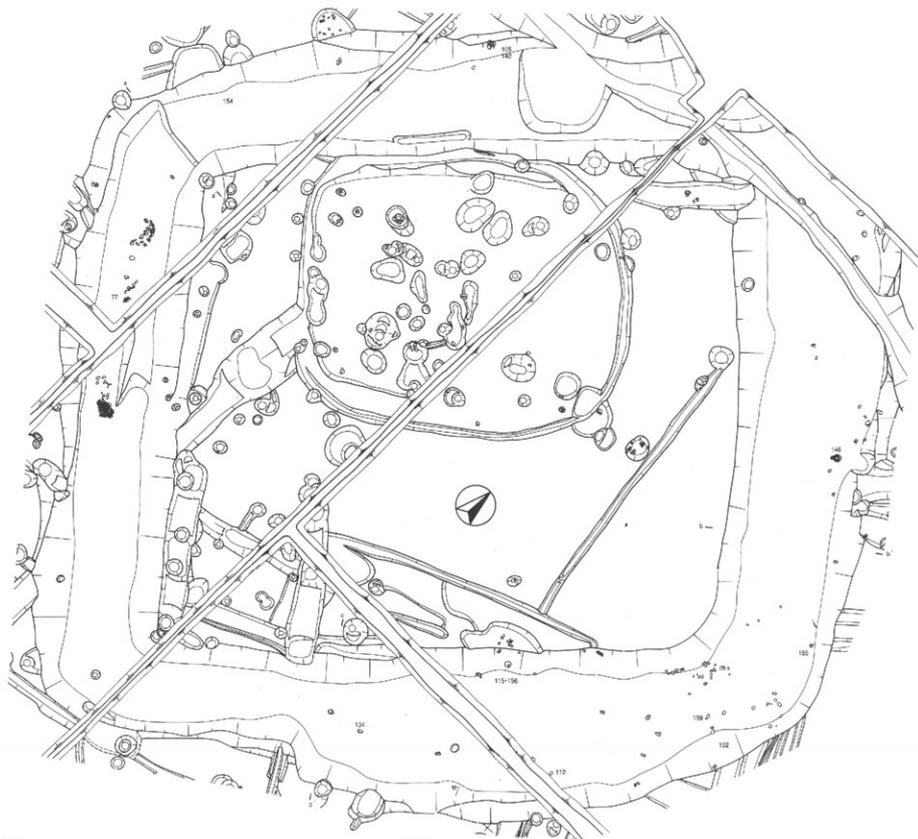
11.6m 北 南



- 1 灰褐色粘質土 (近世期以降遺SD18)
- 2 淡褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土



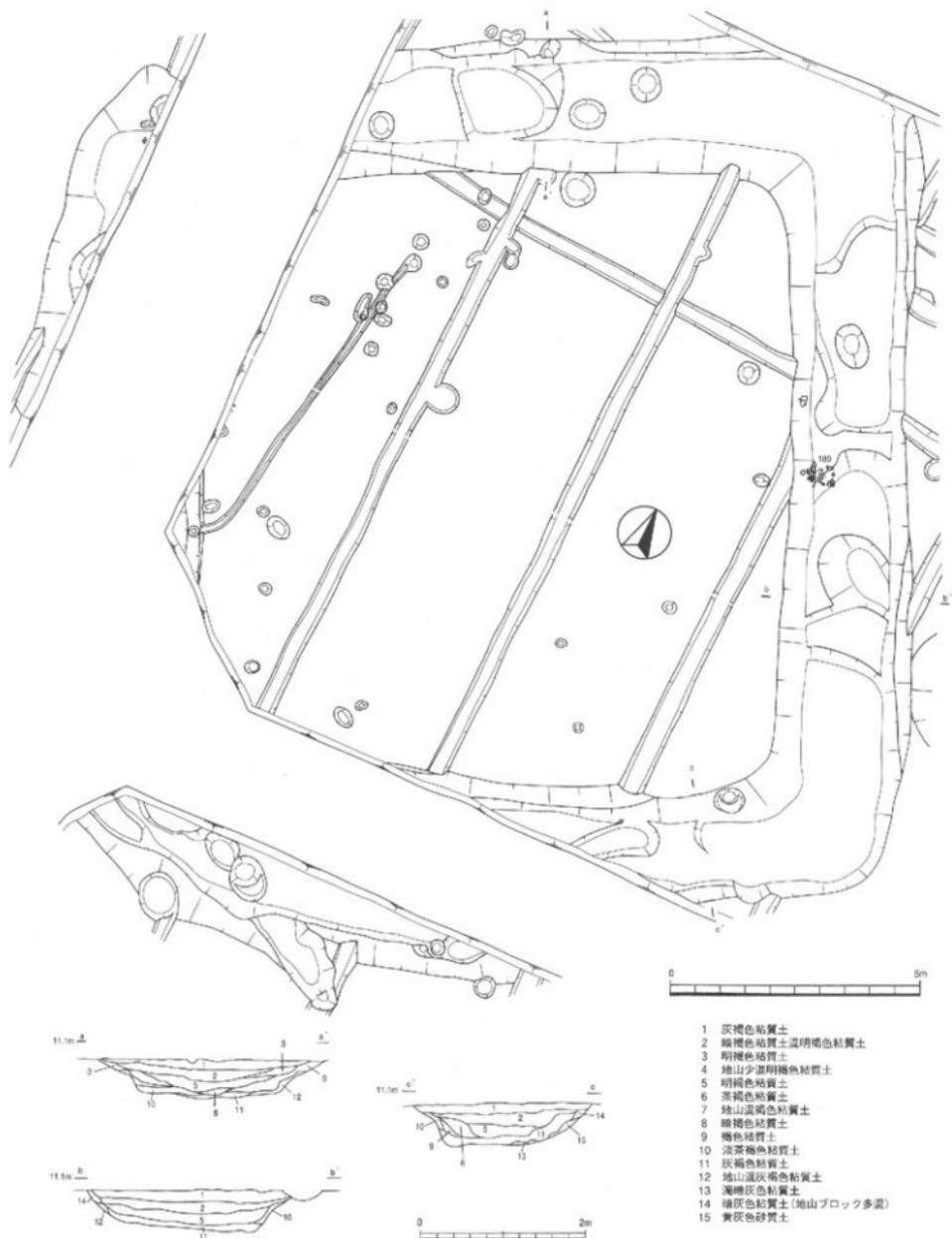
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 淡灰褐色粘質土 | 9 淡灰褐色粘質土 |
| 2 淡灰褐色粘質土 | 10 淡灰黄色粘質土 |
| 3 暗灰褐色粘質土 (地山ブロック混入) | 11 淡黄灰色粘質土 |
| 4 暗灰褐色粘質土 | 12 暗灰黄色粘質土 (地山ブロック混入) |
| 5 暗灰色粘質土 | 13 黄褐色粘質土 |
| 6 黄褐色粘質土 | 14 黄灰色粘質土 (地山粘土) |
| 7 暗灰黄色粘質土 | 15 黄褐色粘質土 |
| 8 暗褐色粘質土 | |



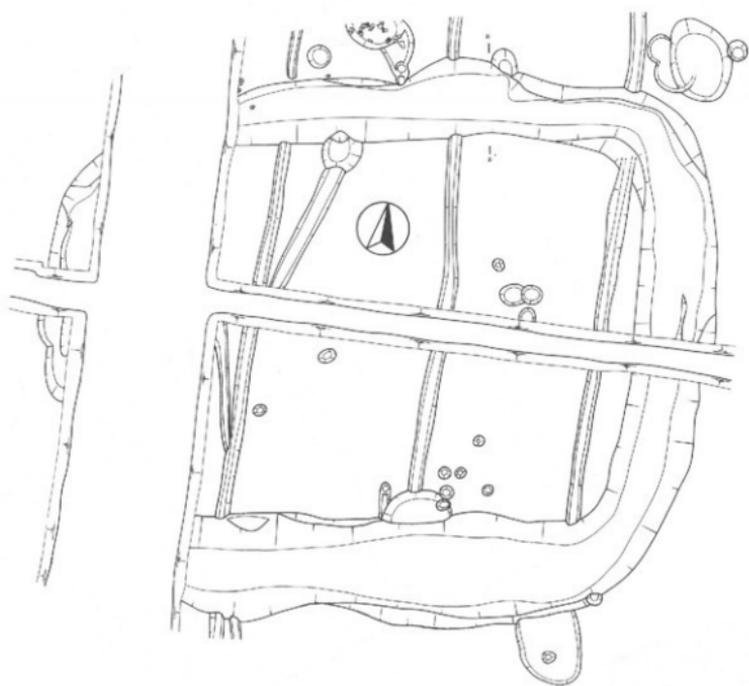
ST06

0 5m

0 2m



第126図 ST07 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



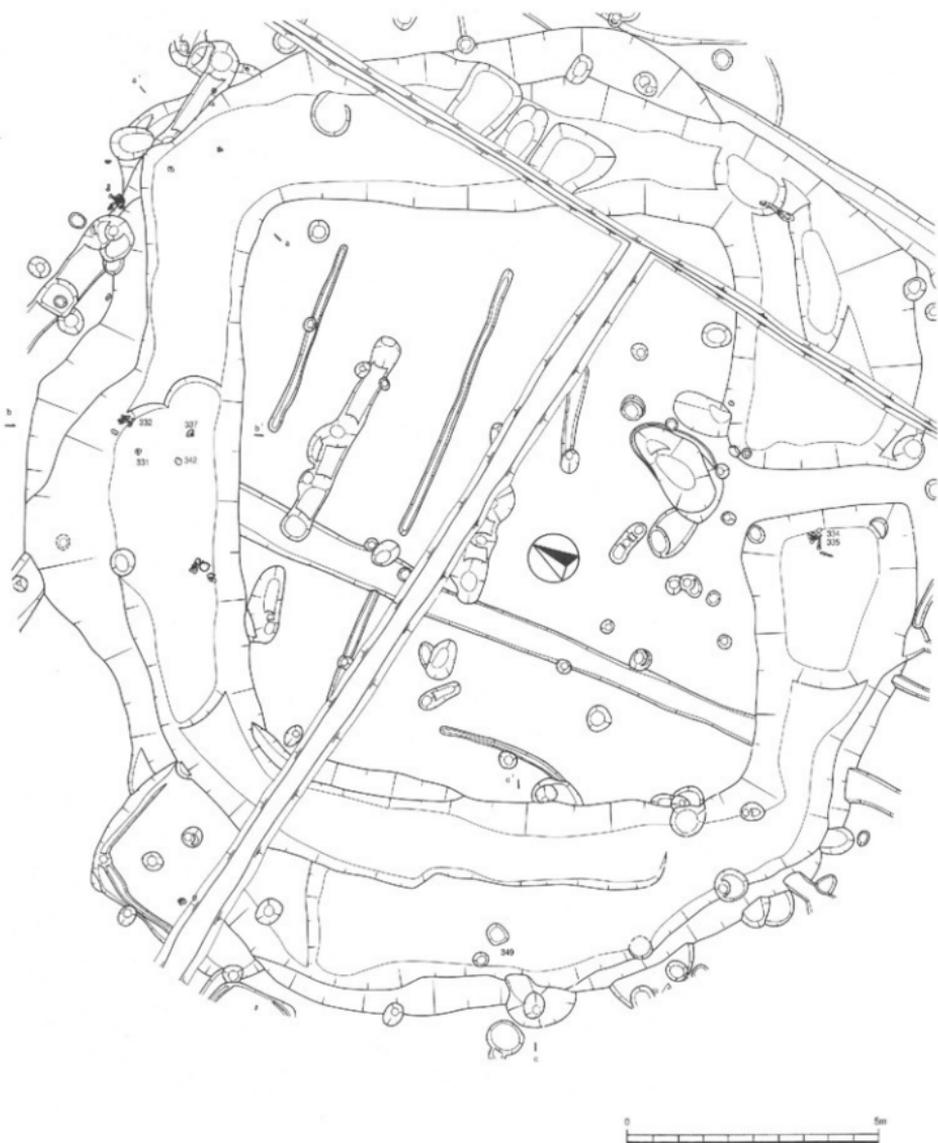
- 1 雜灰色粘質土
- 2 淡雜灰色粘質土
- 3 綠褐色粘質土
- 4 藍褐色粘質土
- 5 淡黃色粘質土
- 6 黃色土塊混3土
- 7 淺黃色粘質土
- 8 黑色土塊混7土
- 9 深黃灰色粘質土



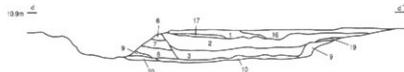
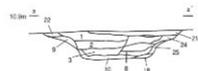
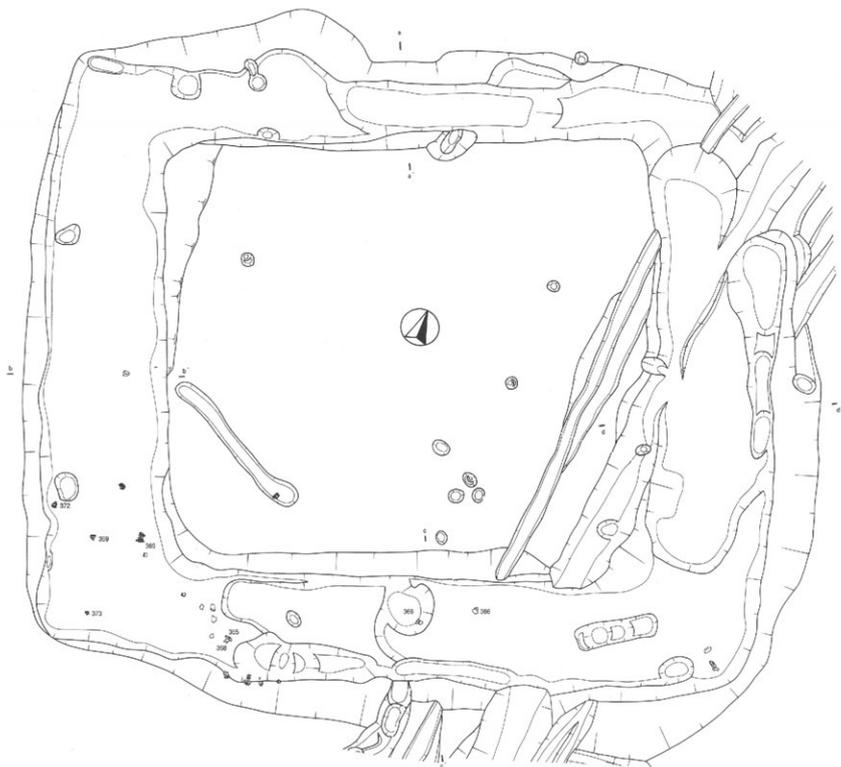
第127圖 ST08 平面圖 (1/100) · 断面圖 (1/60)



第128图 ST09 平面图 (1/100)



第129图 ST10 平面图 (1/100)



- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 褐色粘質土 | 14 灰色粘質土 |
| 2 黄褐色粘質土 | 15 黄褐色シルト質土 |
| 3 褐色粘質土 | 16 灰白色粘質土 (近母堀以降遺) |
| 4 黄褐色粘質土 | 17 黄褐色粘質土 |
| 5 灰褐色粘質土 | 18 黄褐色粘質土 (城山粘遺) |
| 6 暗褐色粘質土 | 19 黄褐色粘質土 |
| 7 暗褐色粘質土 | 20 黄褐色シルト質土 |
| 8 赤褐色粘質土 | 21 暗褐色粘質土 |
| 9 褐色粘質土 | 22 褐色粘質土 |
| 10 黄褐色粘質土 | 23 褐色粘質土 |
| 11 黄褐色シルト質土 | 24 暗褐色粘質土 |
| 12 黄褐色粘質土ブロック | 25 黄褐色シルト質土 |
| 13 黄褐色粘質土 | |

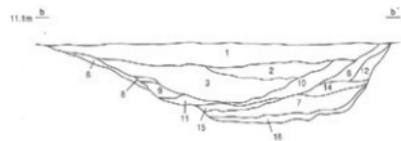
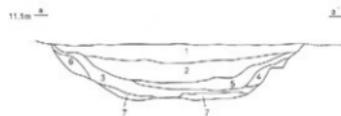


第130図 ST11 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)

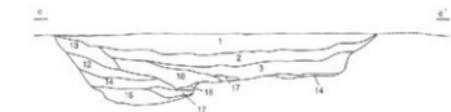


- 1 灰褐色粘質土 (近世期以降)
- 2 淡褐色粘質土 (近世期以降)
- 3 褐色粘質土
- 4 褐色粘質土
- 5 褐色粘質土
- 6 海相灰色粘質土
- 7 濁褐色粘質土
- 8 濁黄泥シルト質土
- 9 濁暗褐色粘質土
- 10 濁黄褐色粘質土
- 11 海相灰色粘質土 (地山ブロック多混)

ST09



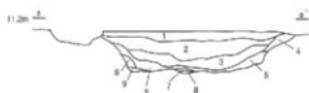
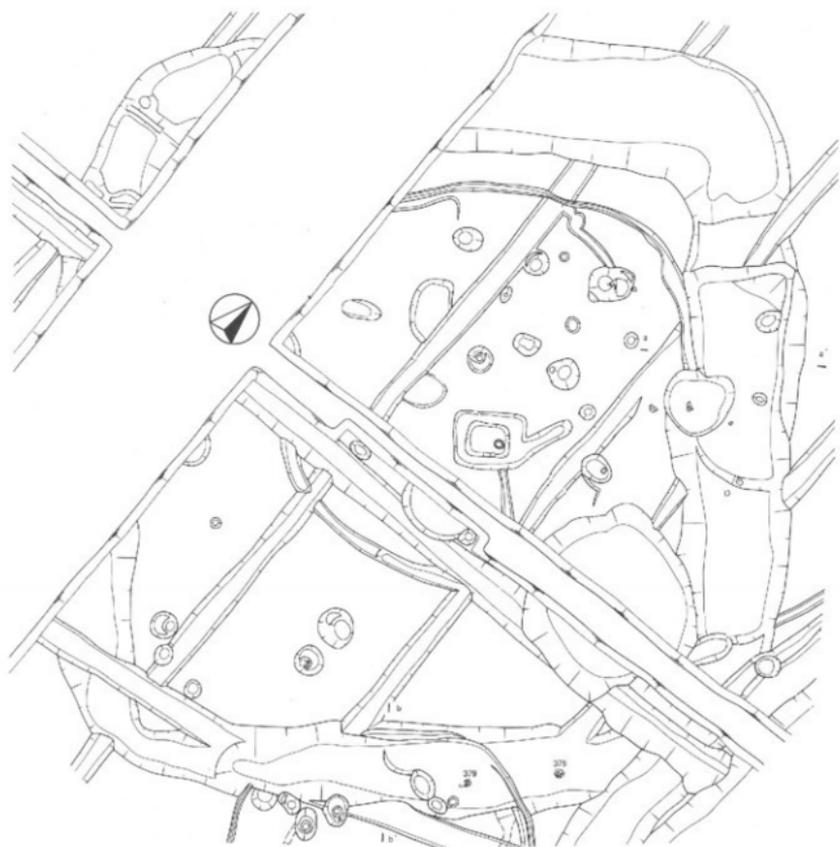
- 1 暗褐色粘質土
- 2 黒褐色粘質土
- 3 黒色粘質土
- 4 淡暗灰色粘質土 (地山粒混入)
- 5 淡暗褐色粘質土 (地山粒混入)
- 6 淡黄灰色シルト質土
- 7 淡黄泥シルト質土 (暗灰色粘質土ブロック混)
- 8 淡灰色粘質土
- 9 濁淡褐色粘質土
- 10 灰褐色粘質土
- 11 灰色粘質土
- 12 海相灰色シルト質土
- 13 濁黄泥褐色粘質土
- 14 黄褐色砂質土
- 15 濁灰色粘質土
- 16 濁暗灰色粘質土 (地山ブロック多混)
- 17 暗灰色粘質土
- 18 濁灰色粘質土
- 19 黒色粘質土 (地山粒混)



ST10



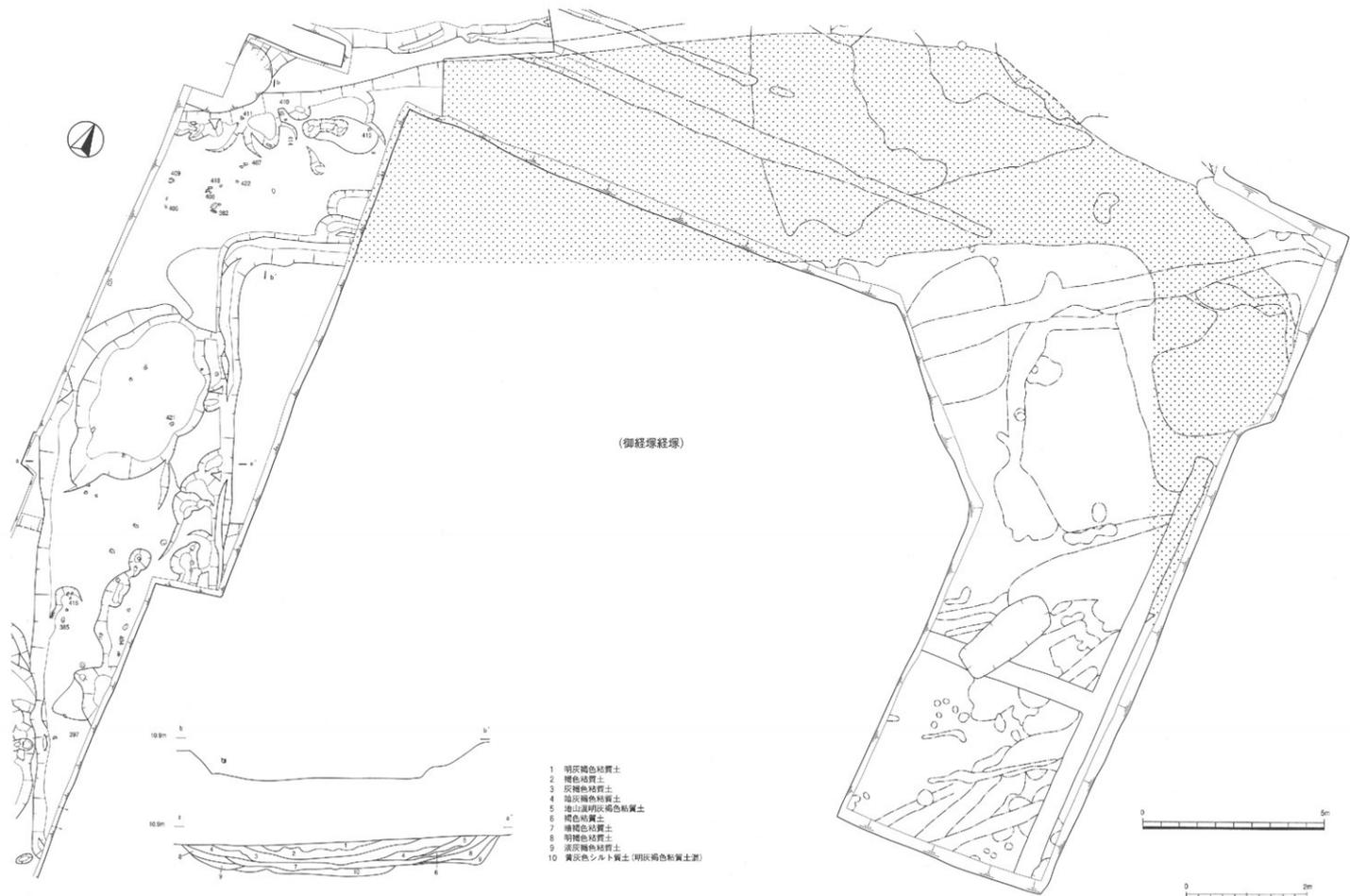
第131図 ST09・10 断面図 (1/60)



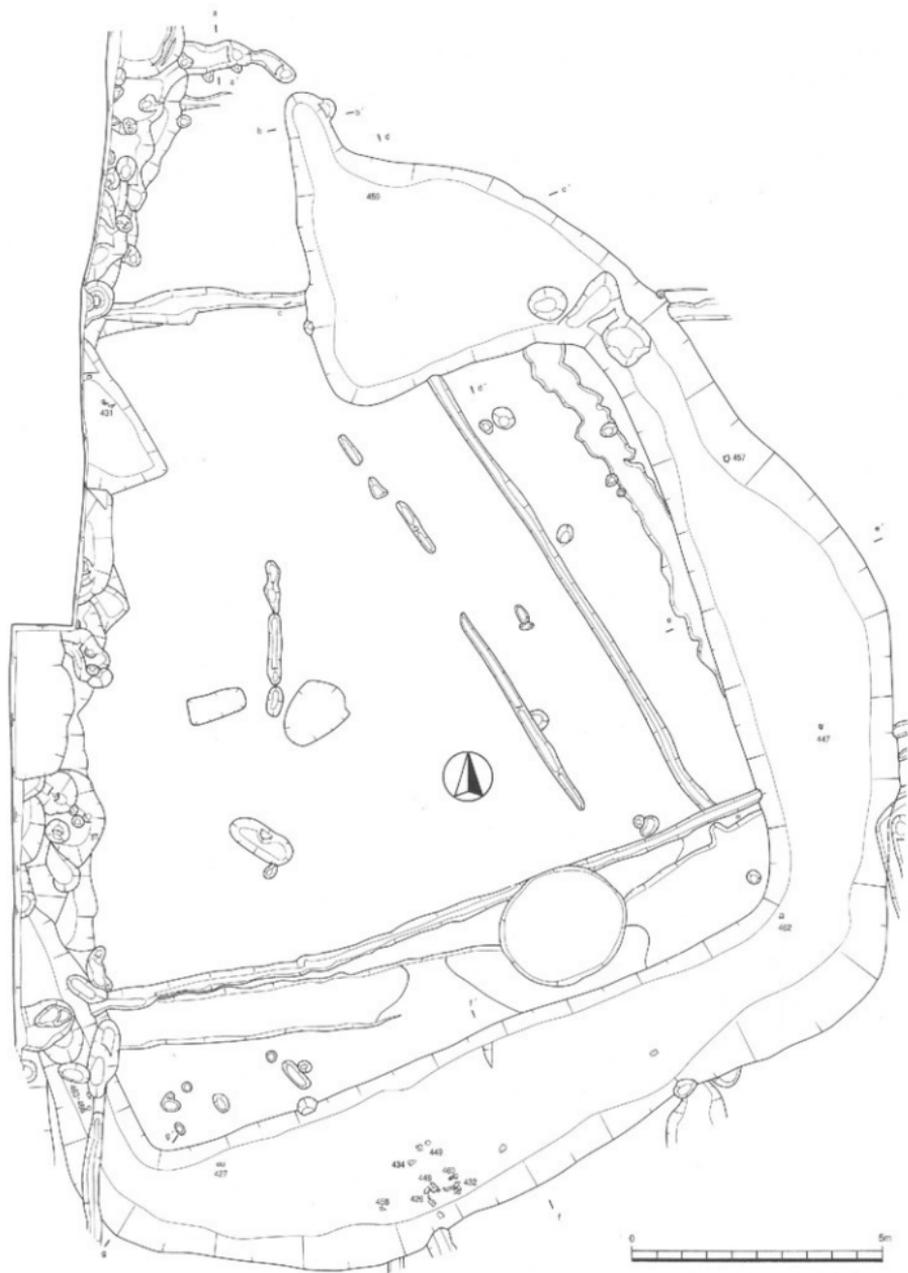
- 1 暗褐色粘質土
- 2 褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 地山混褐色粘質土
- 5 褐色粘質土
- 6 地山混暗褐色粘質土
- 7 地山混灰褐色粘質土
- 8 灰褐色粘質土
- 9 地山多混7土



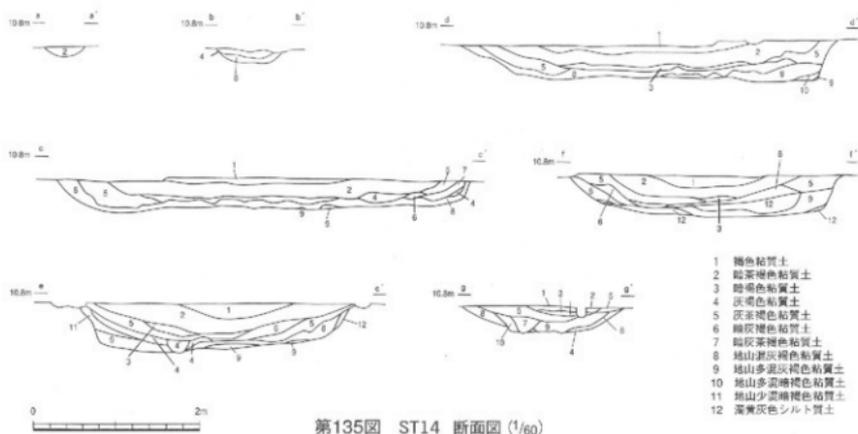
第132図 ST12 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



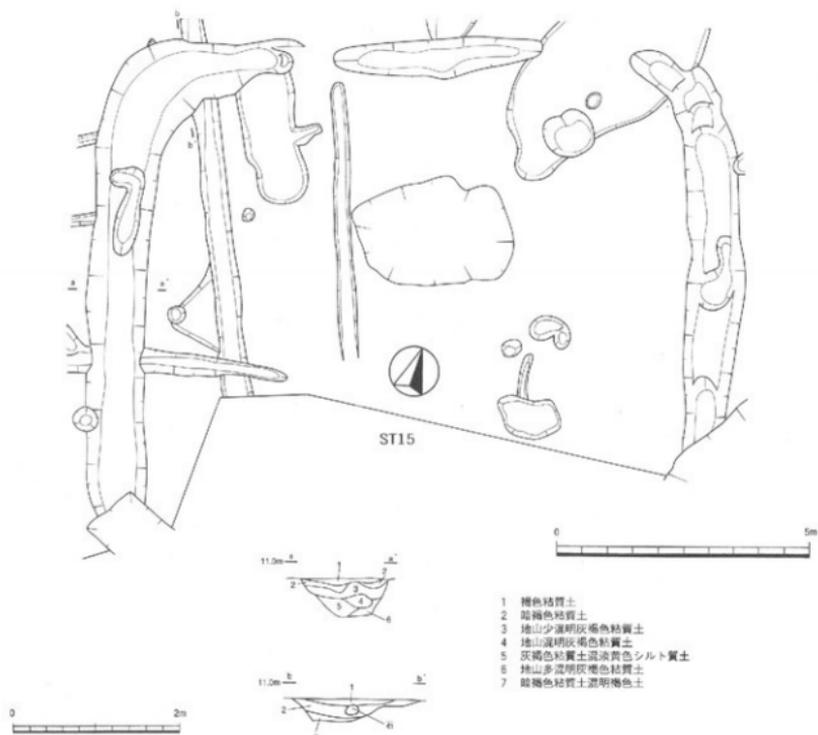
第133図 ST13 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



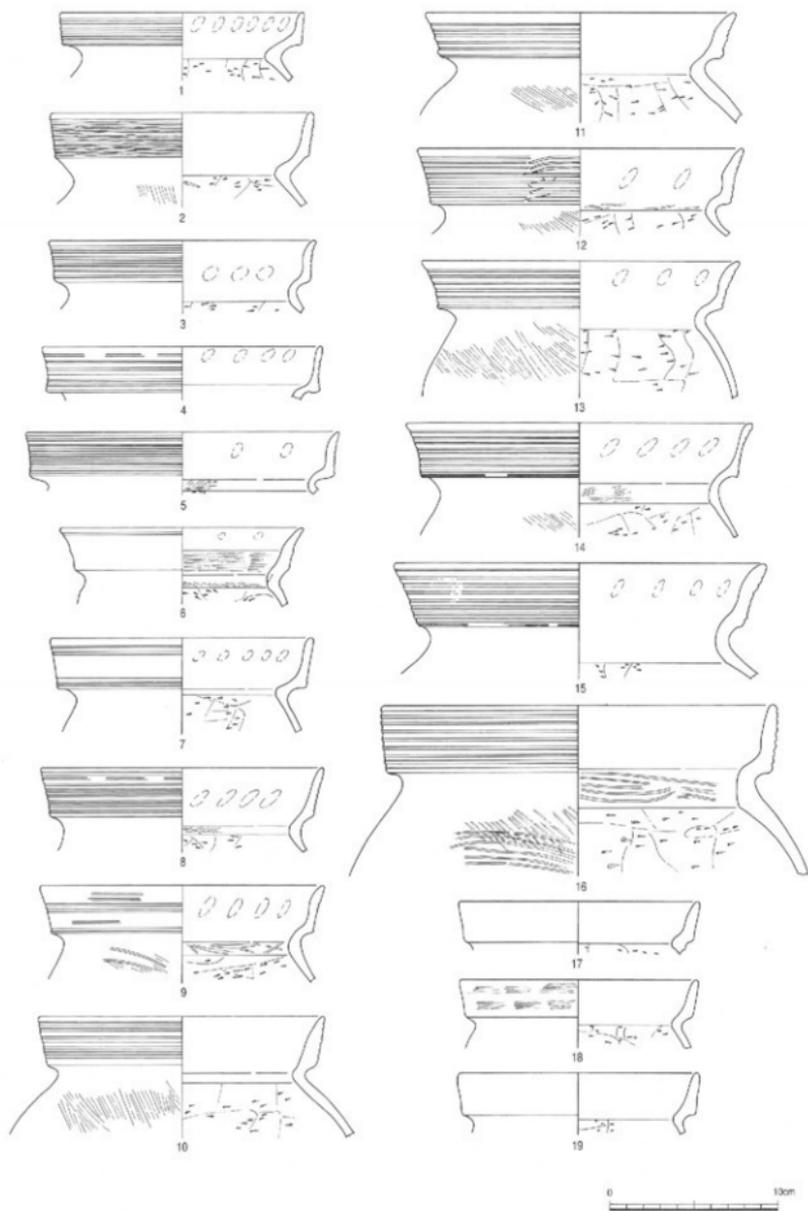
第134图 ST14 平面图 (1/100)



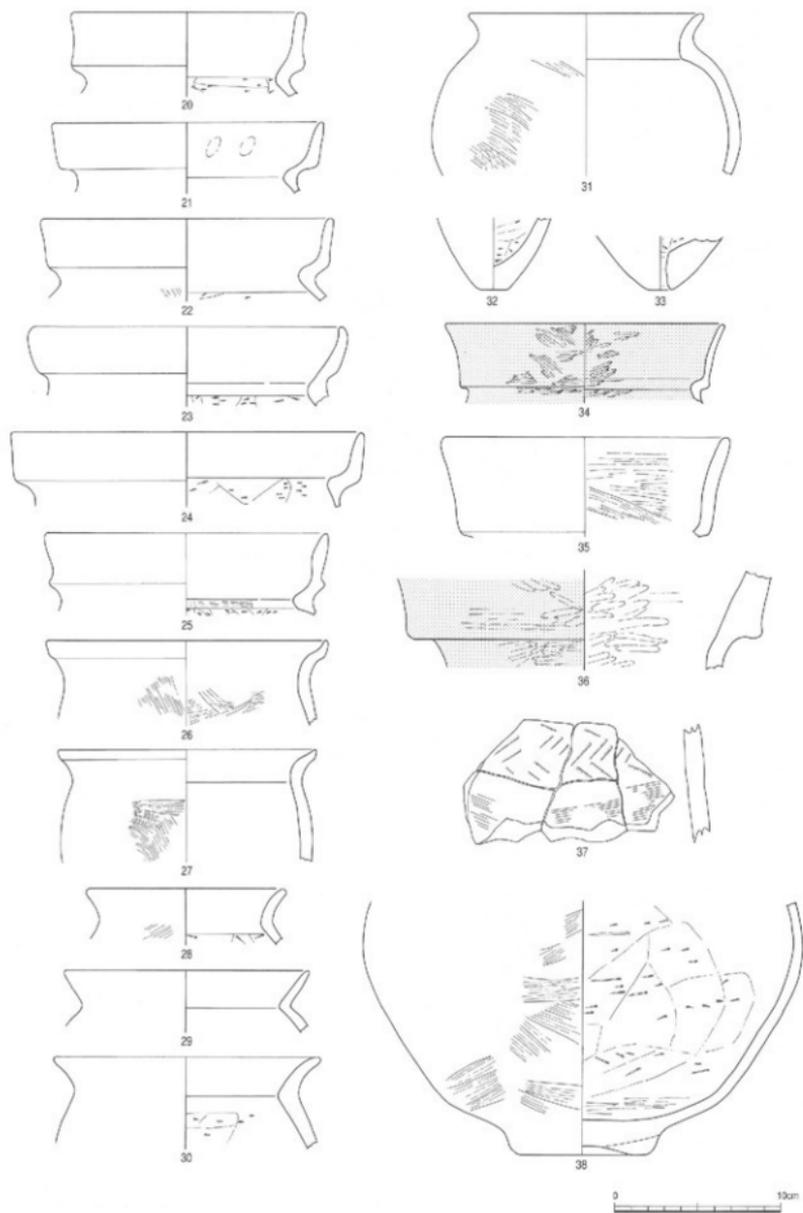
第135図 ST14 断面図 (1/60)



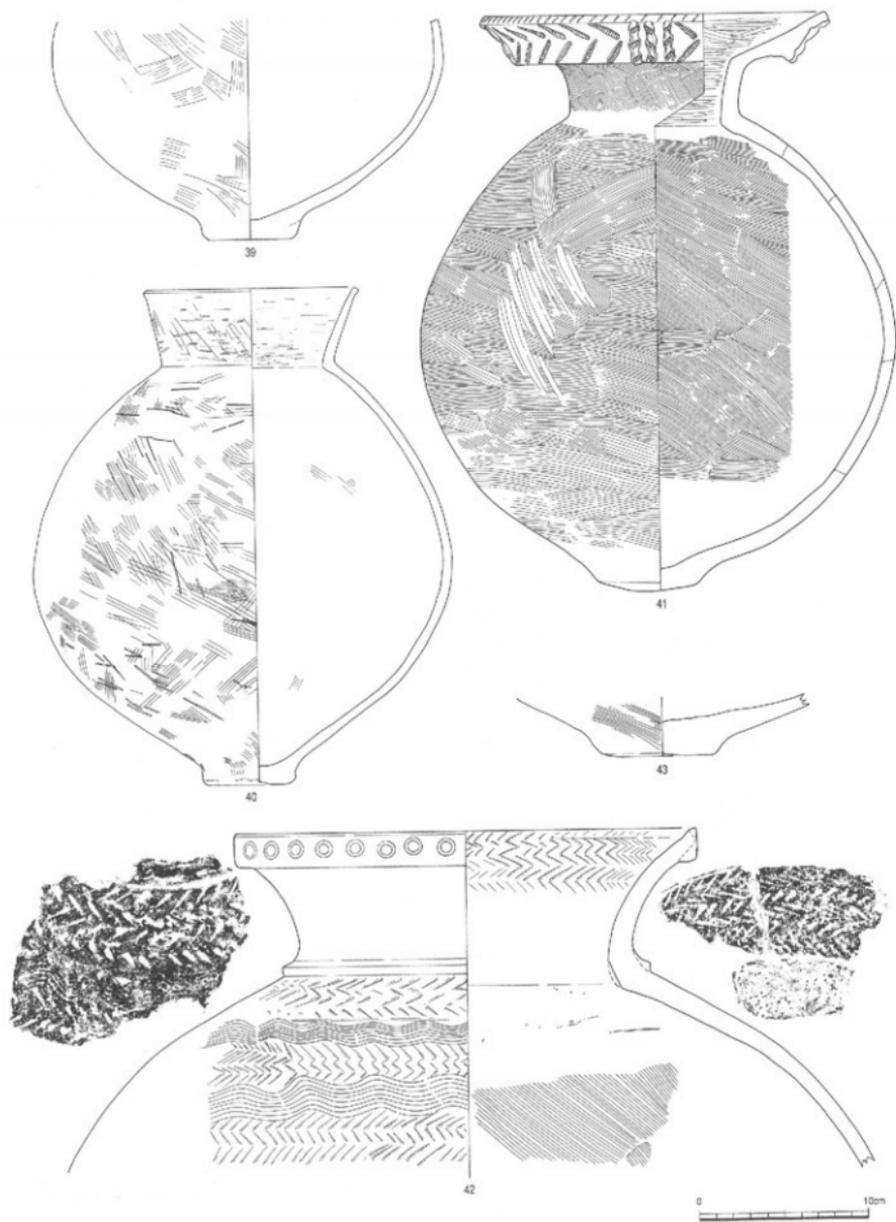
第136図 ST15 平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



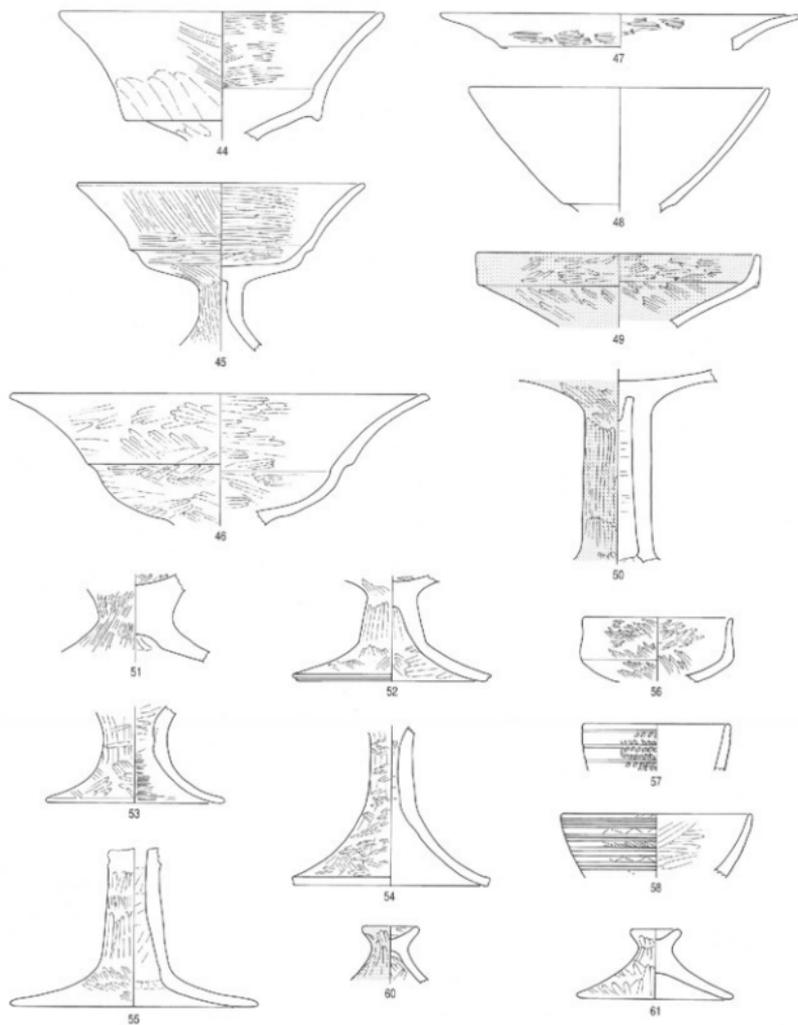
第137图 ST01(1~19)出土土器(1/3)



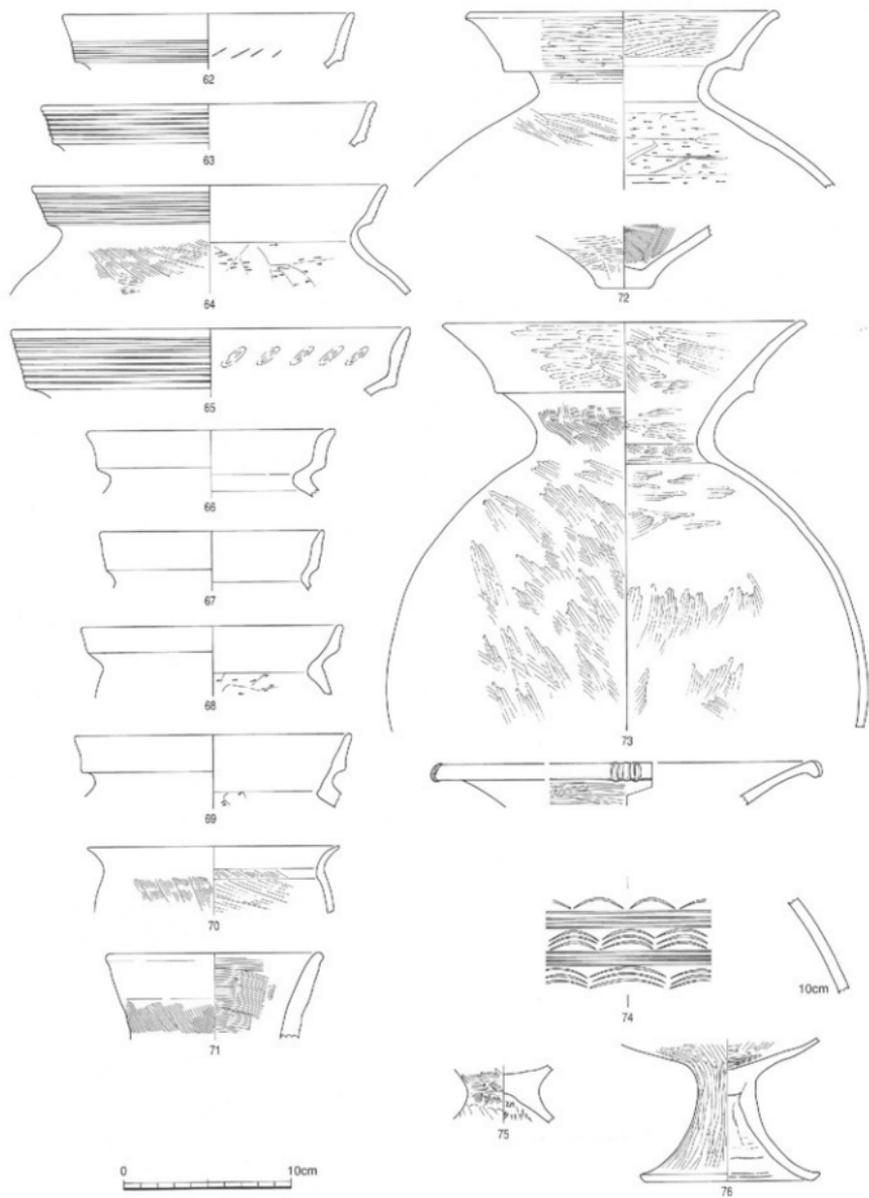
第138圖 ST01 (20~38) 出土土器 (1/3)



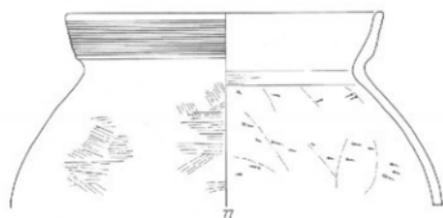
第139图 ST01 (39~43) 出土土器 (1/3)



第140図 ST01 (44~61) 出土土器 (1/3) (96次集)



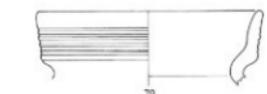
第141图 ST02 (62~76) 出土土器 (1/3)



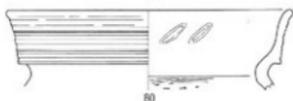
77



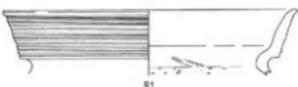
78



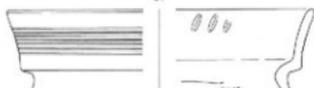
79



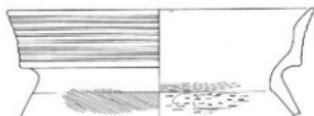
80



81



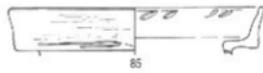
82



83



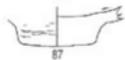
84



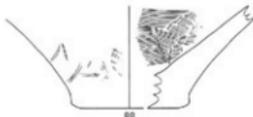
85



86



87



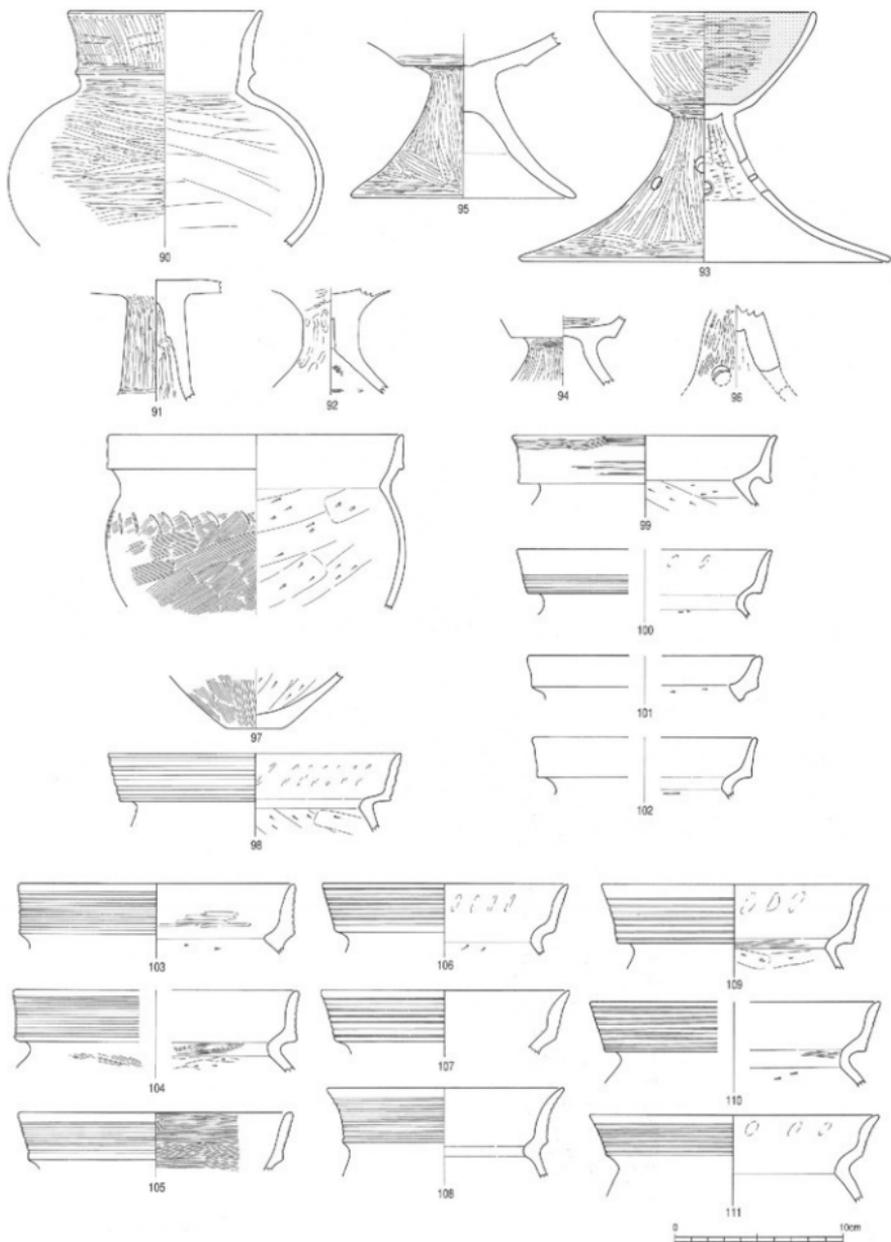
88



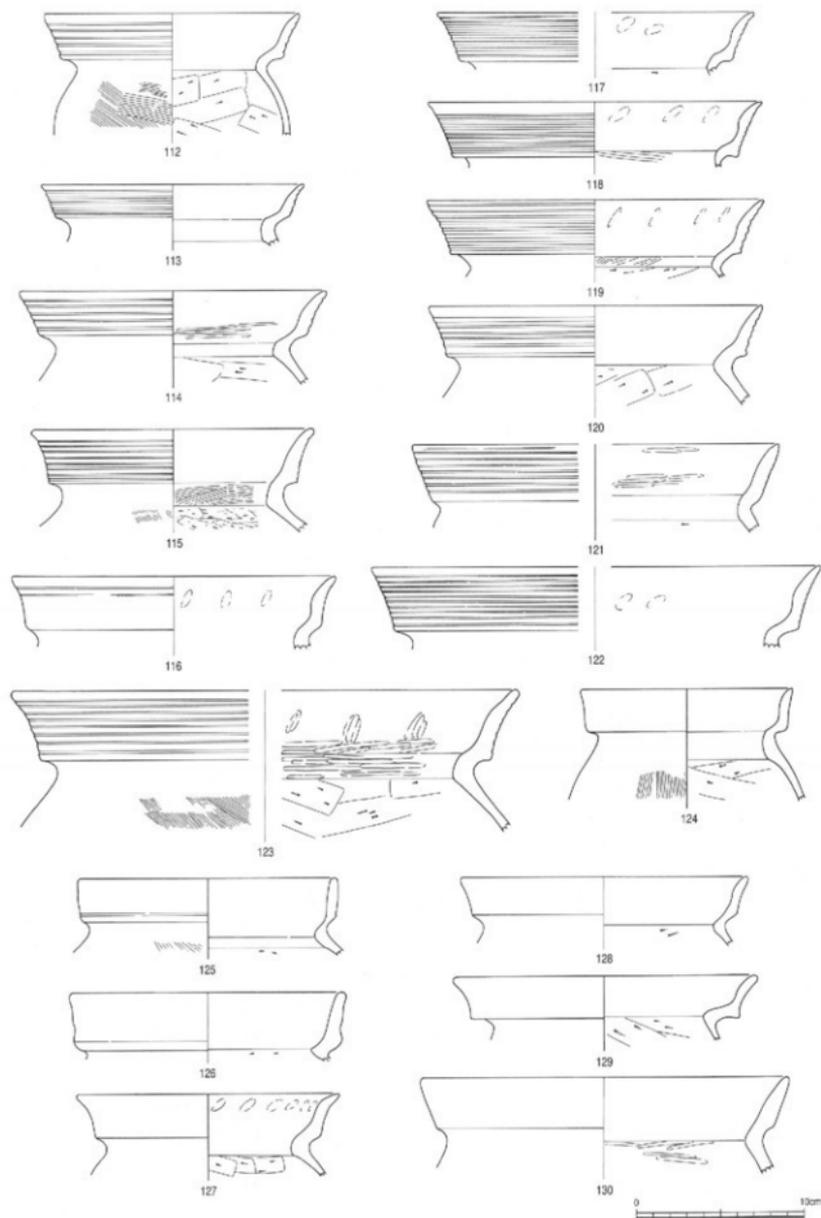
89



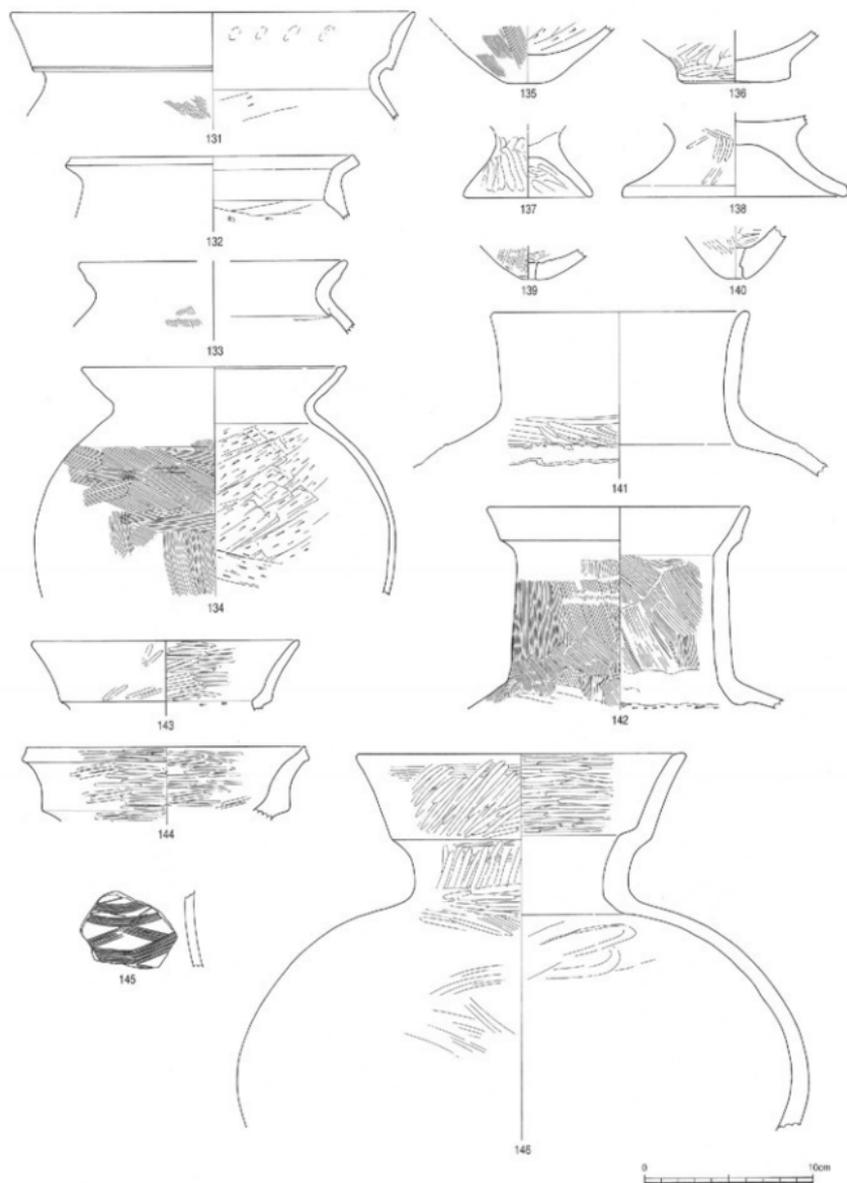
第142図 ST03 (77~78)・ST04 (79~89) 出土土器 (1/3)



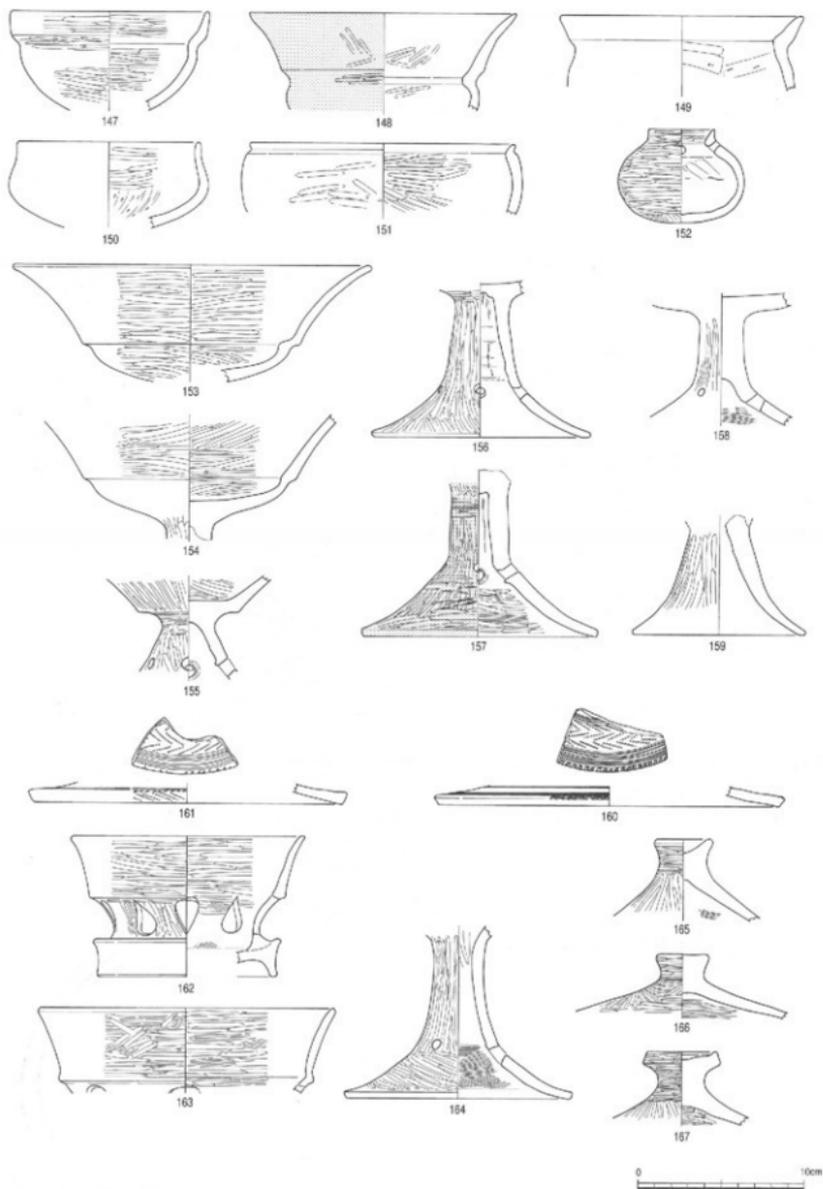
第143图 ST04 (90~96) · ST05 (97~102) · ST06 (103~111) 出土土器 (1/3)



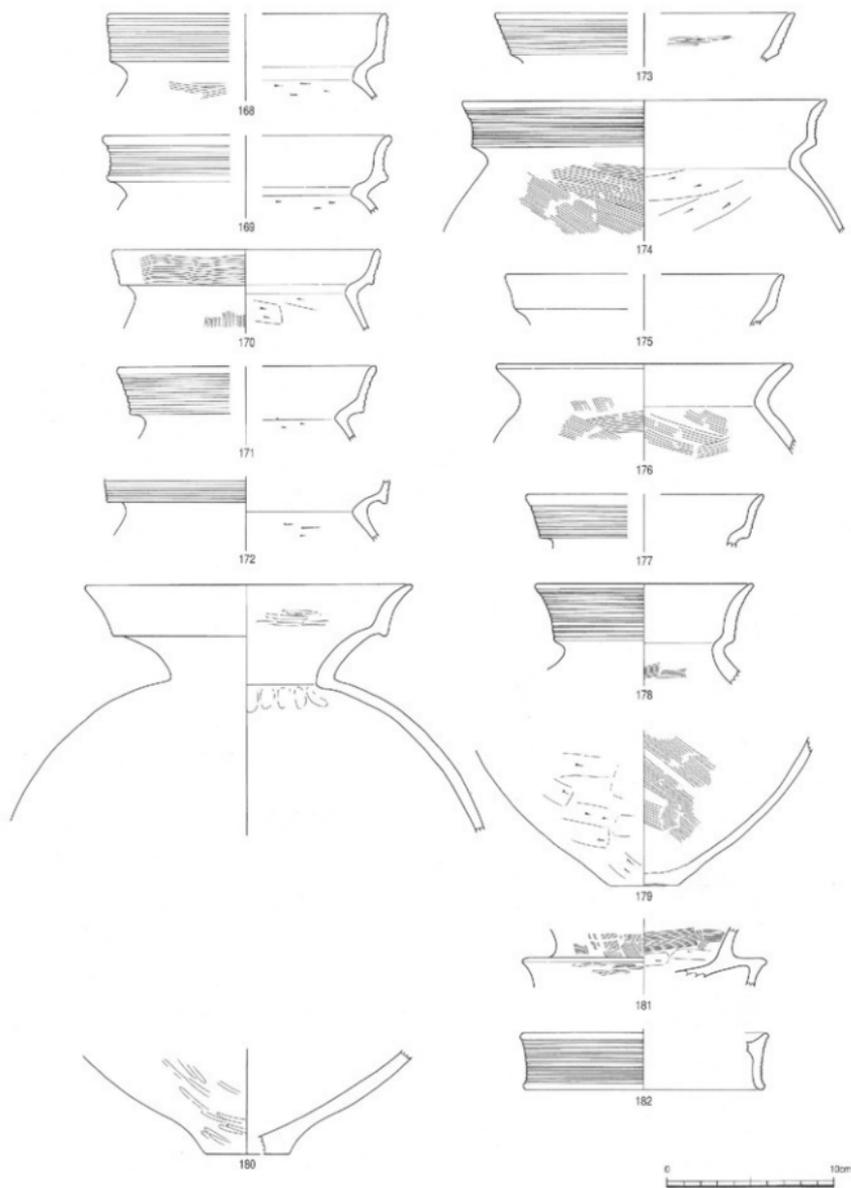
第144図 ST06 (112~130) 出土土器 (1/3)



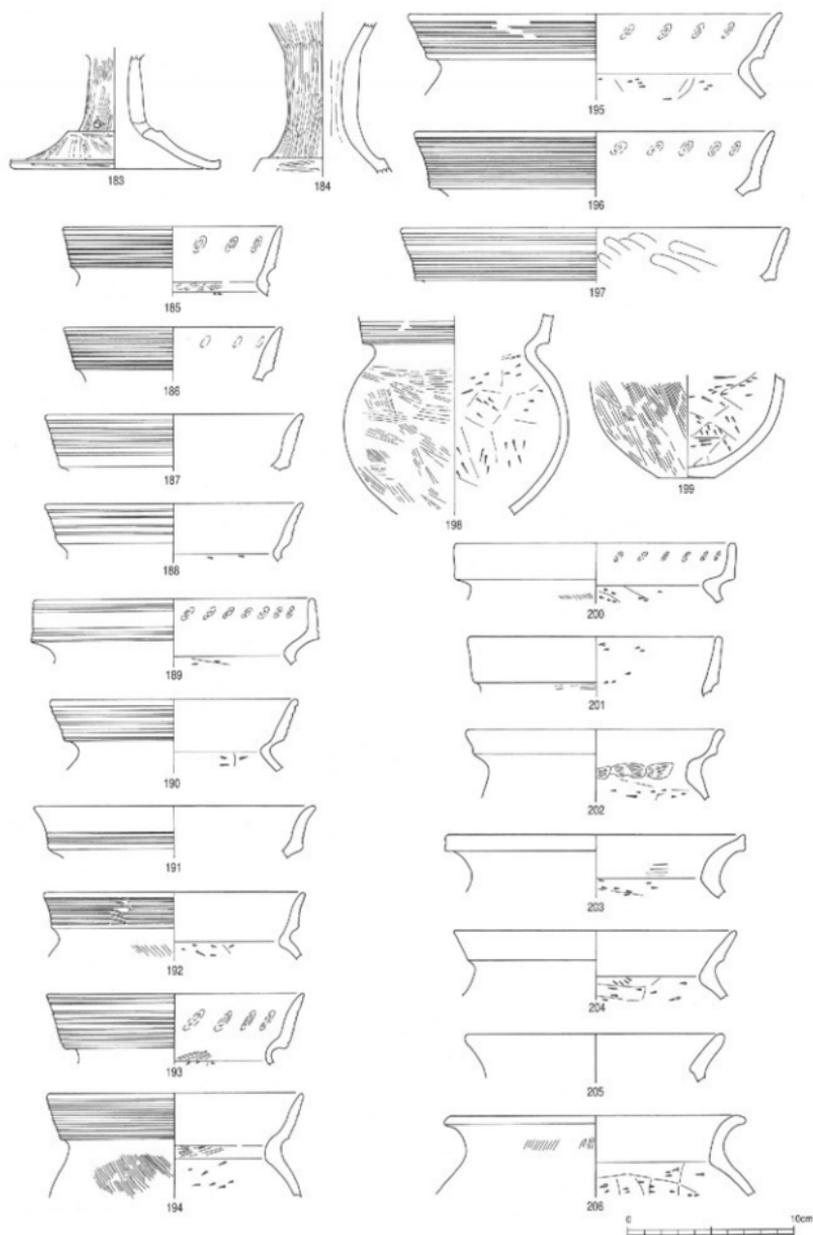
第145図 ST06 (131~146) 出土土器 (1/3)



第146圖 ST06(147~167)出土土器 (1/3)



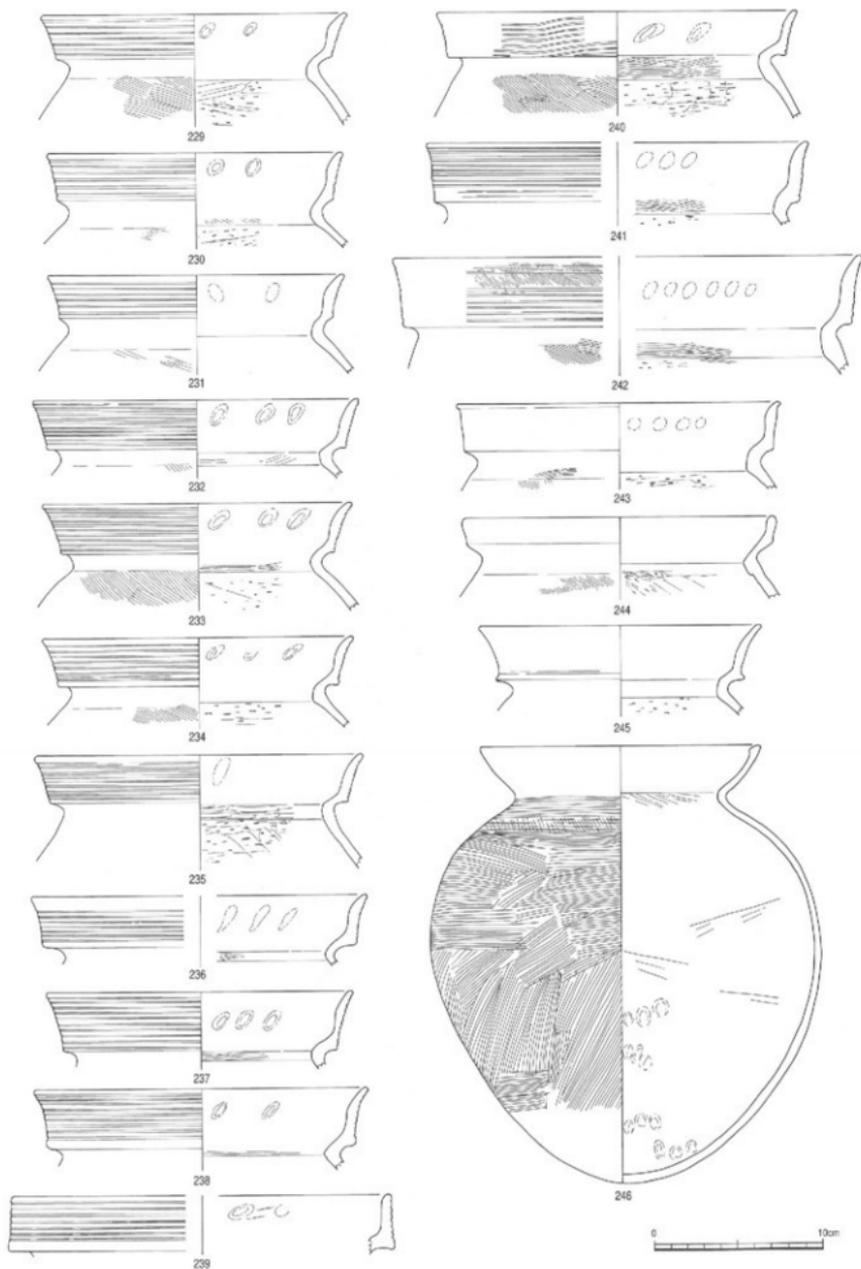
第147図 ST07 (168~182) 出土土器 (1/3)



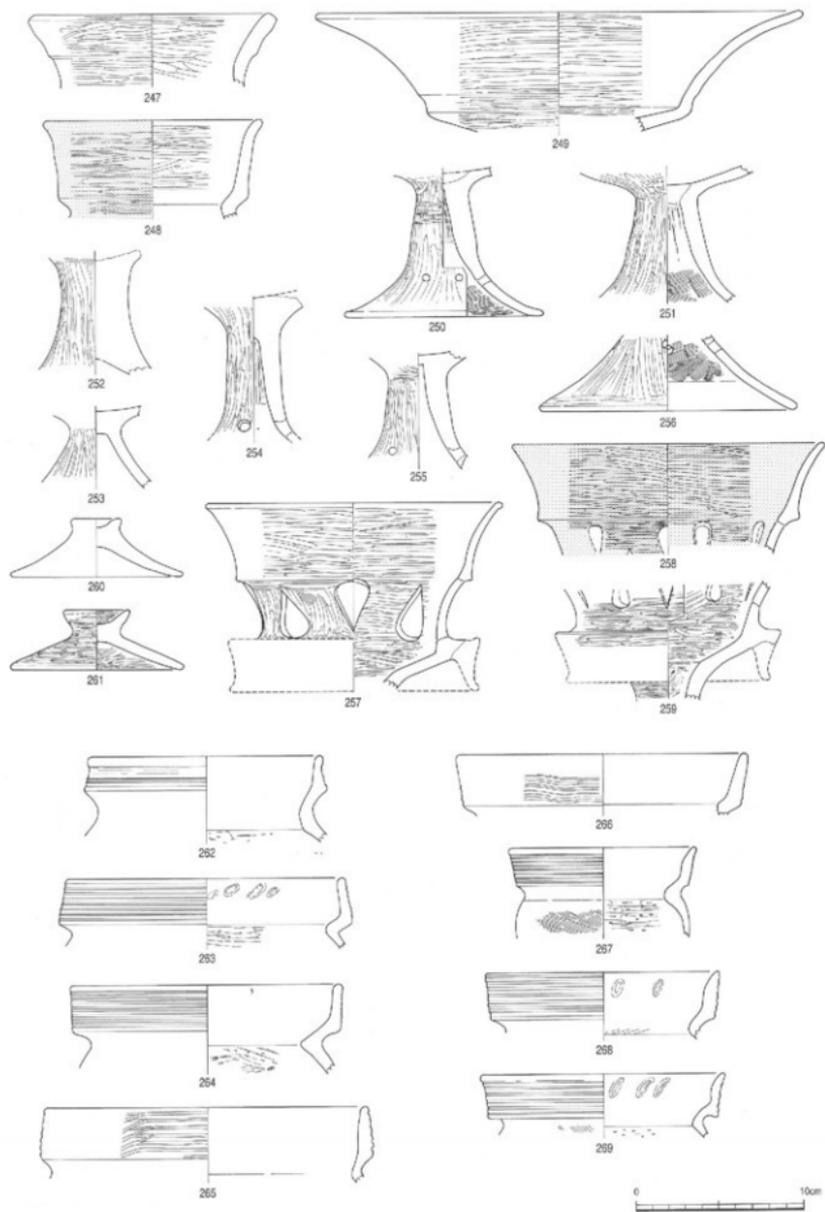
第148図 ST07(183・184)・ST08(185~206)出土土器(1/3)



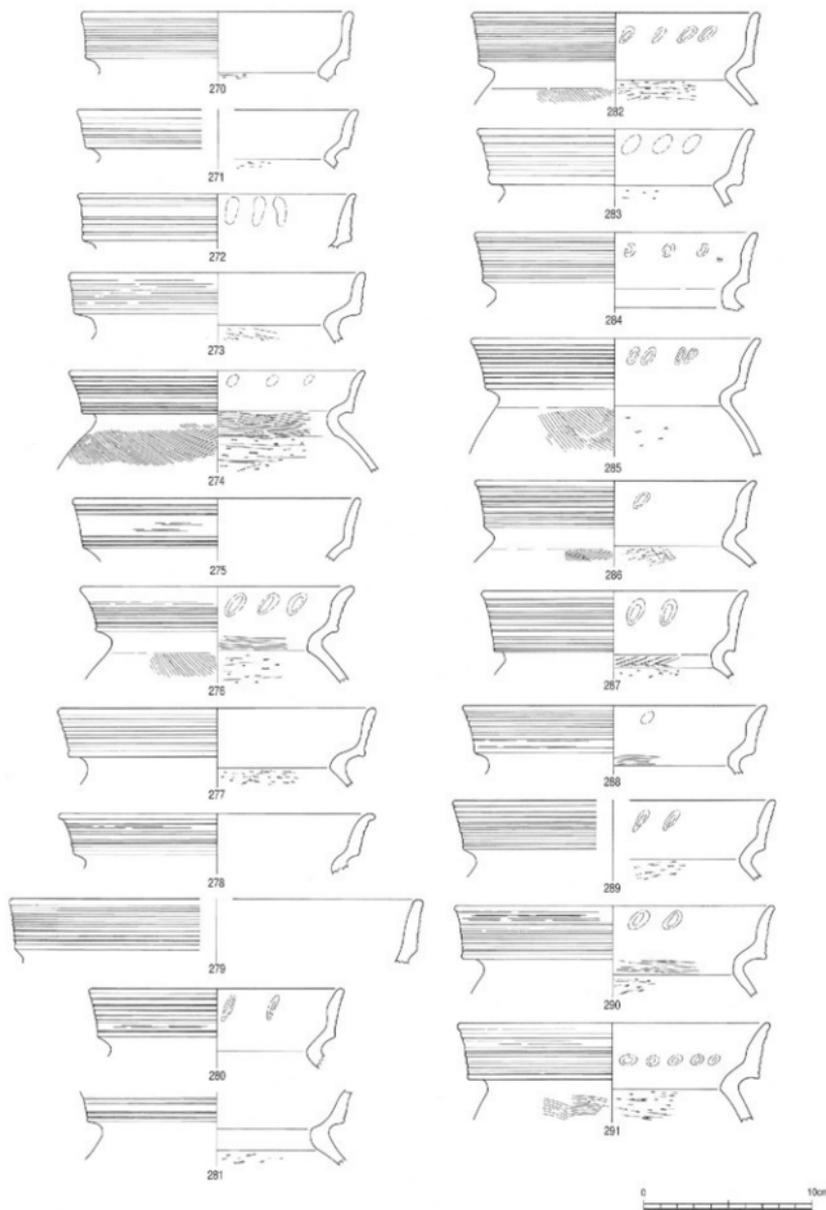
第149図 ST08 (207~220)・ST09 (221~228) 出土土器 (1/3)



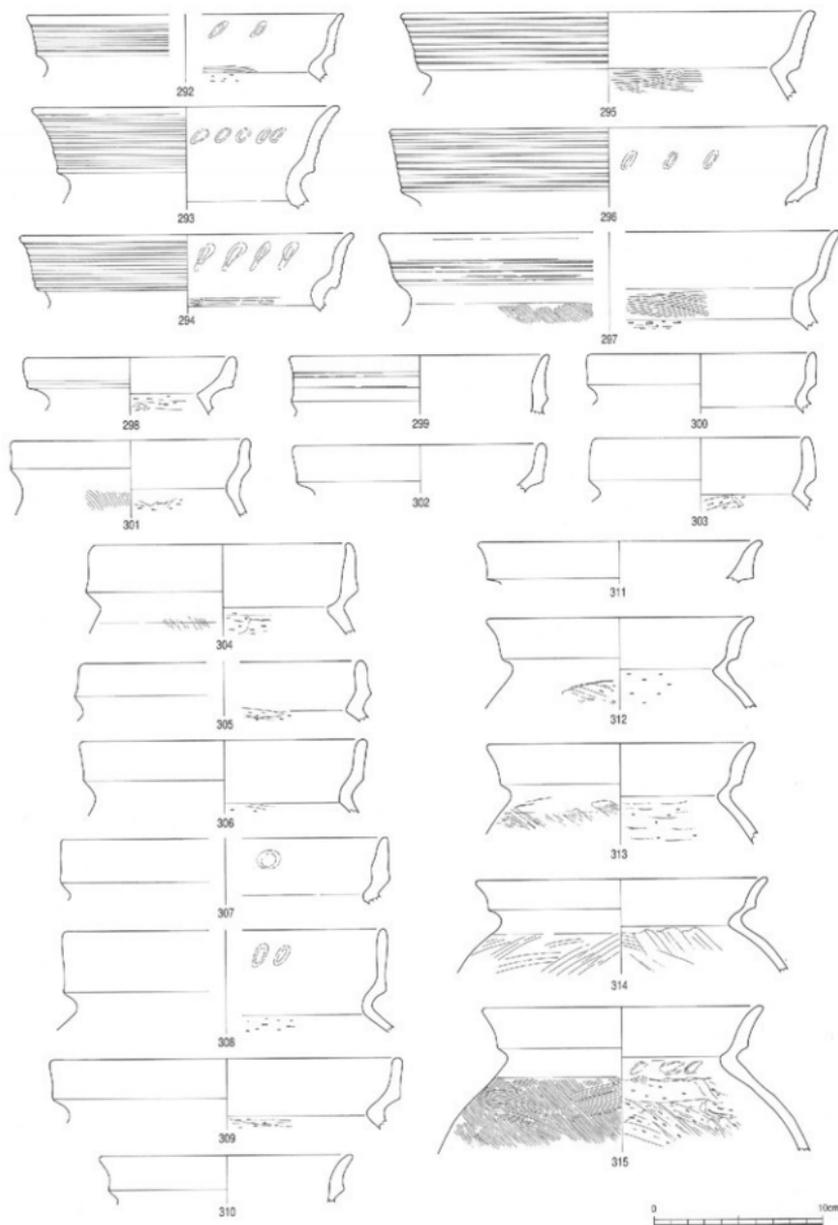
第150図 ST09 (229~246) 出土土器 (1/3)



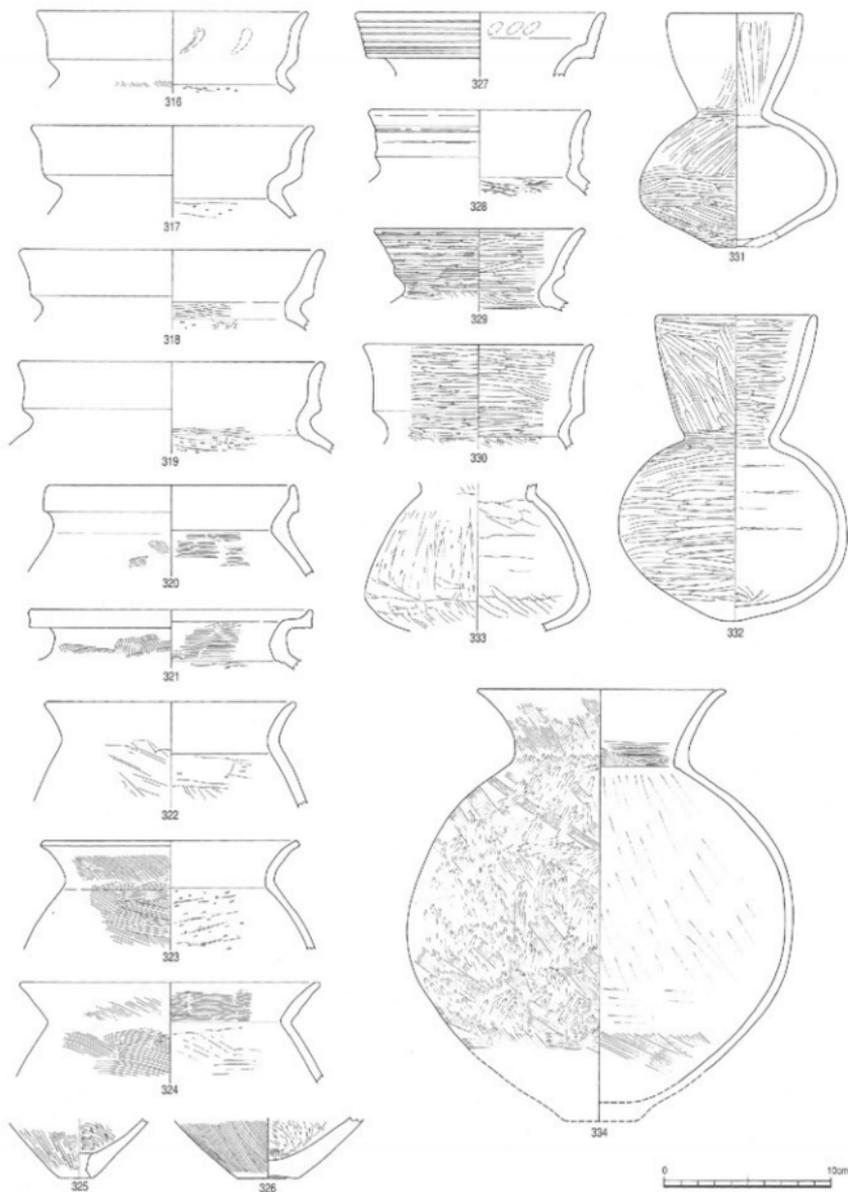
第151図 ST09 (247~261)・ST10 (262~269) 出土土器 (1/3)



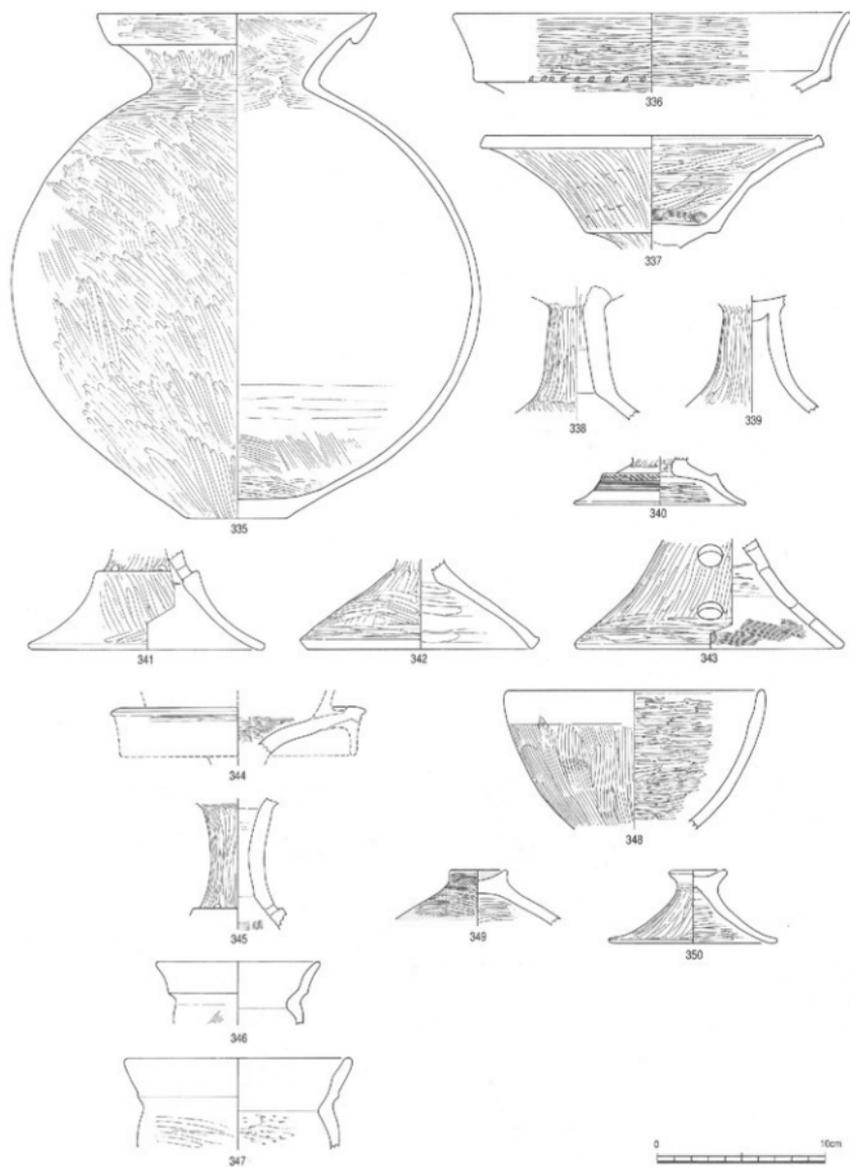
第152図 ST10 (270~291) 出土土器 (1/3)



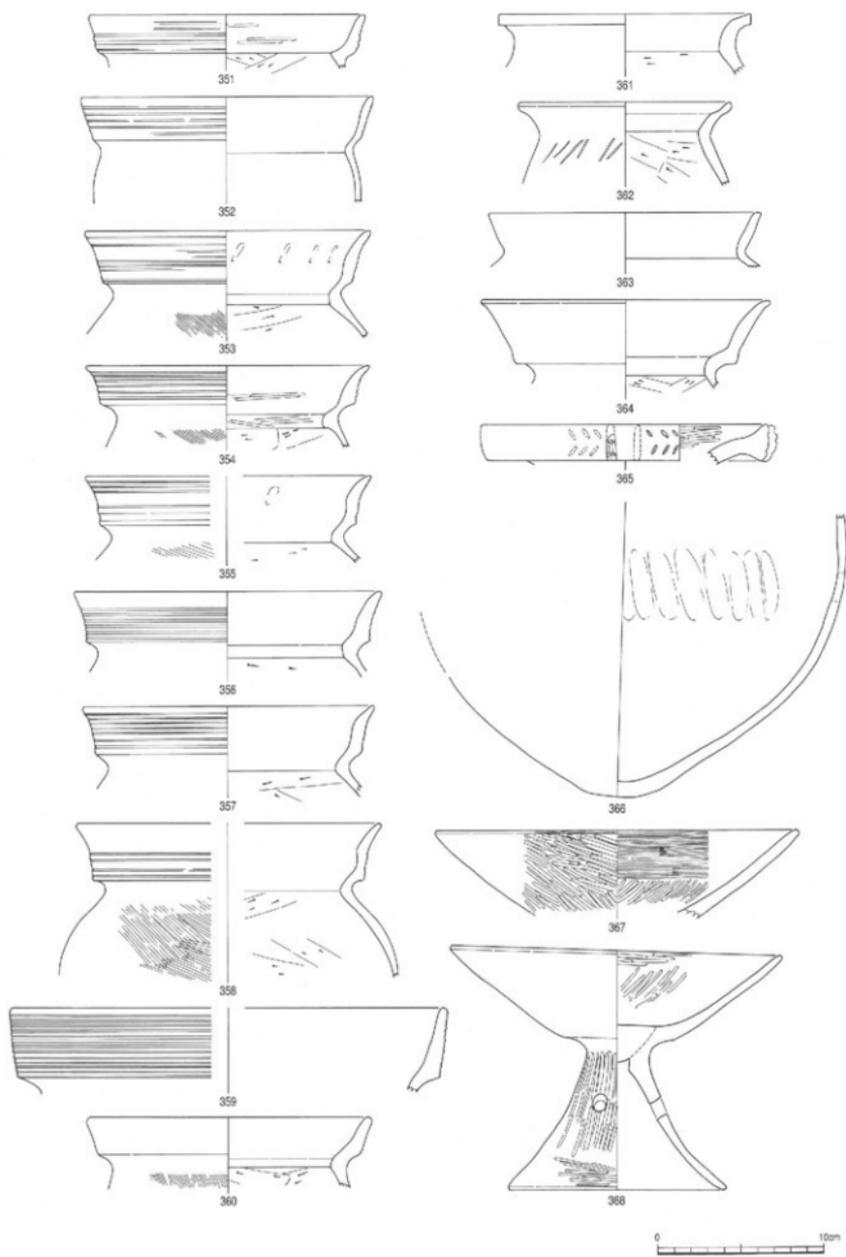
第153図 ST10(292~315) 出土土器 (1/3)



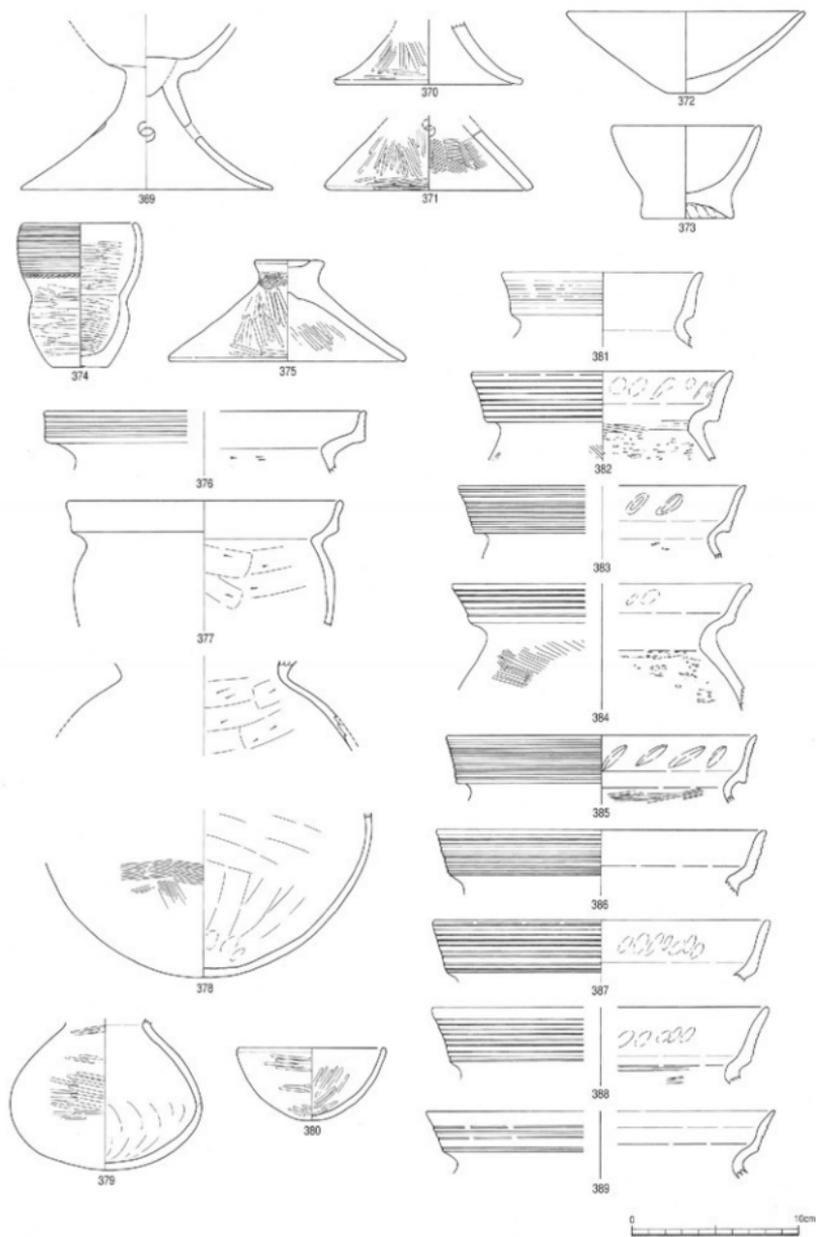
第154図 ST10 (316~334) 出土土器 (1/3)



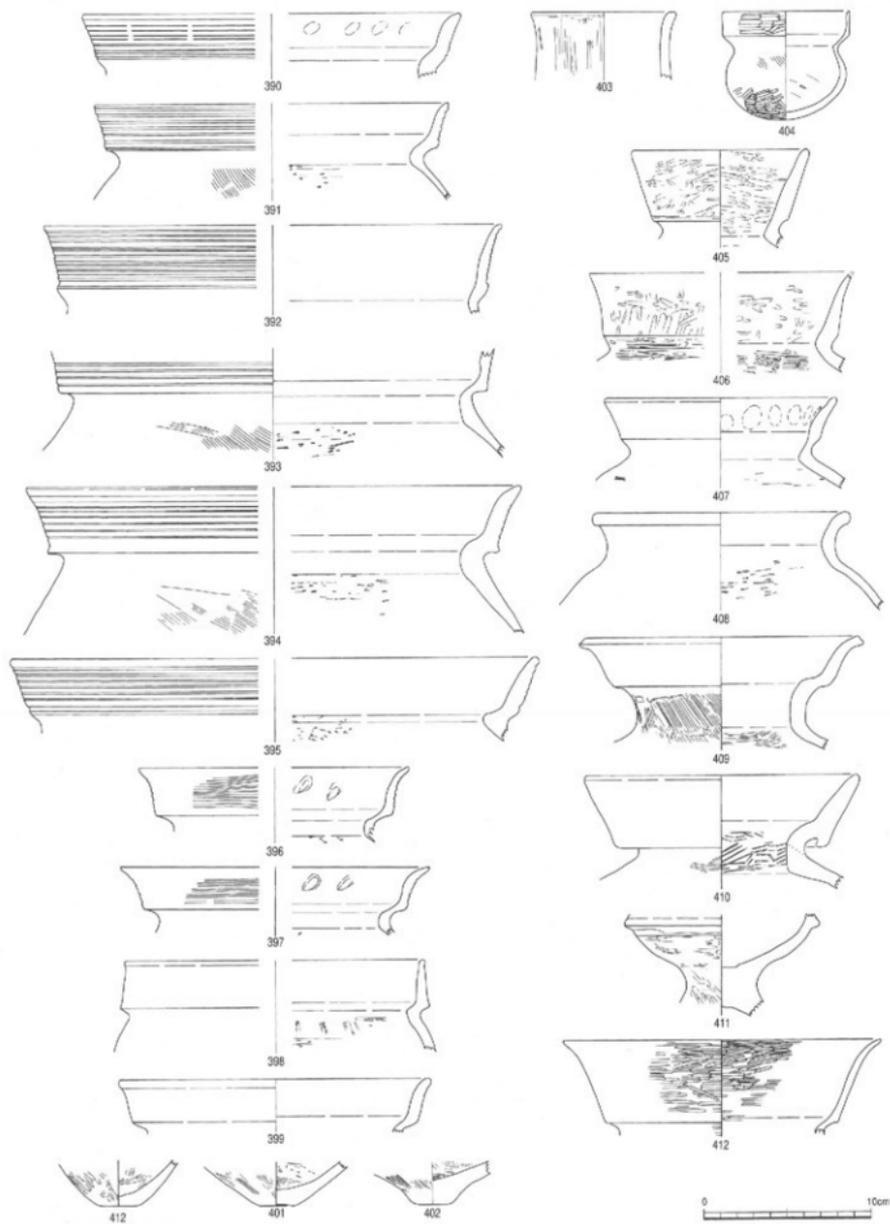
第155圖 ST10 (335~350) 出土土器 (1/3)



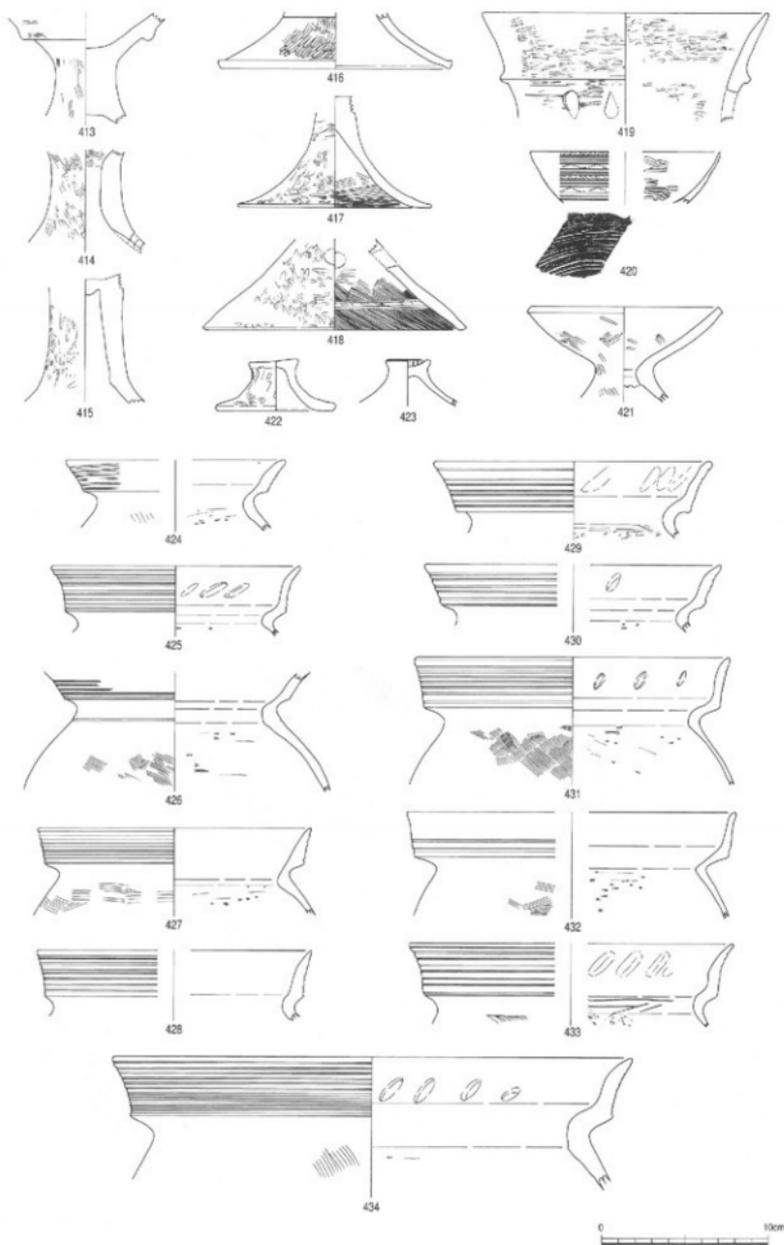
第156図 ST11 (351~368) 出土土器 (1/3)



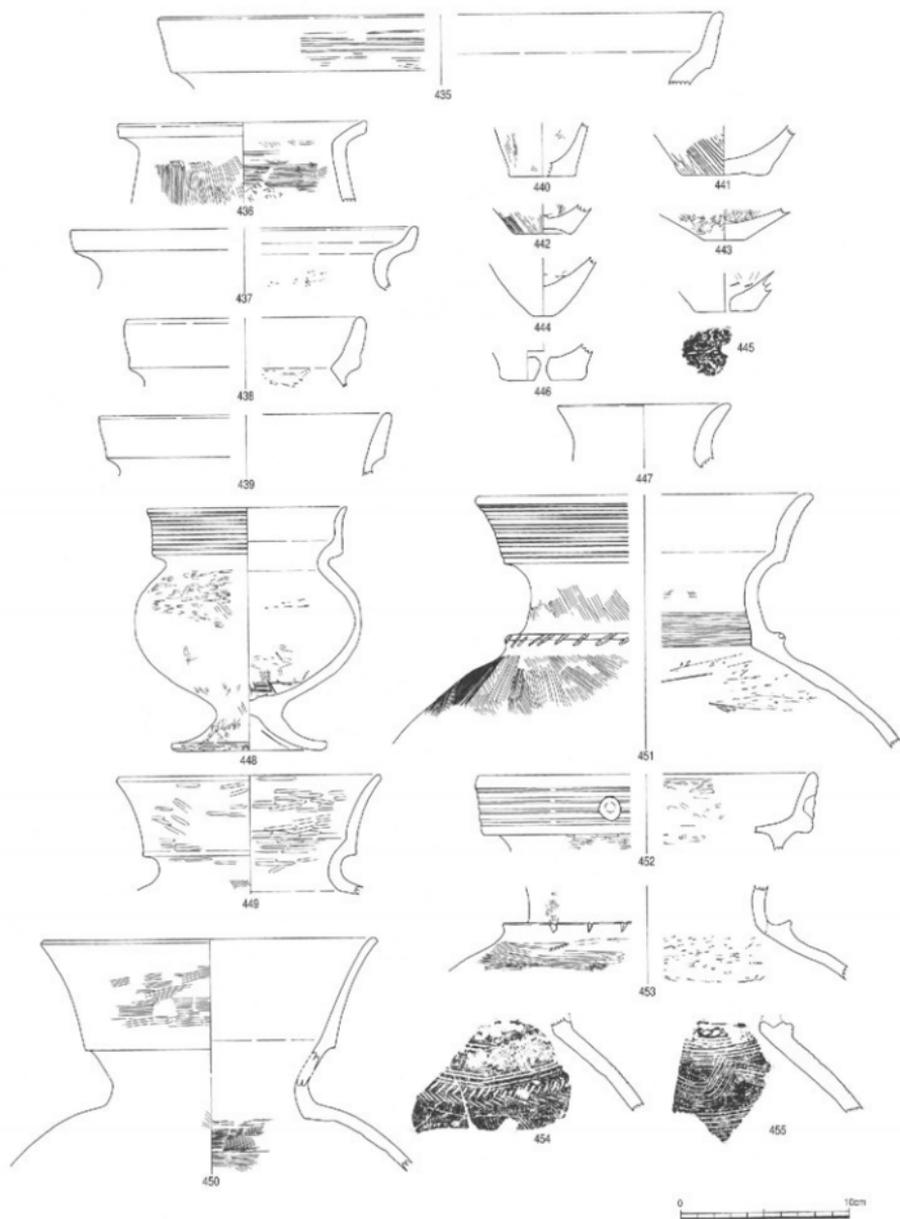
第157图 ST11 (369~375)·ST12 (376~380)·ST13 (381~389) 出土土器 (1/3)



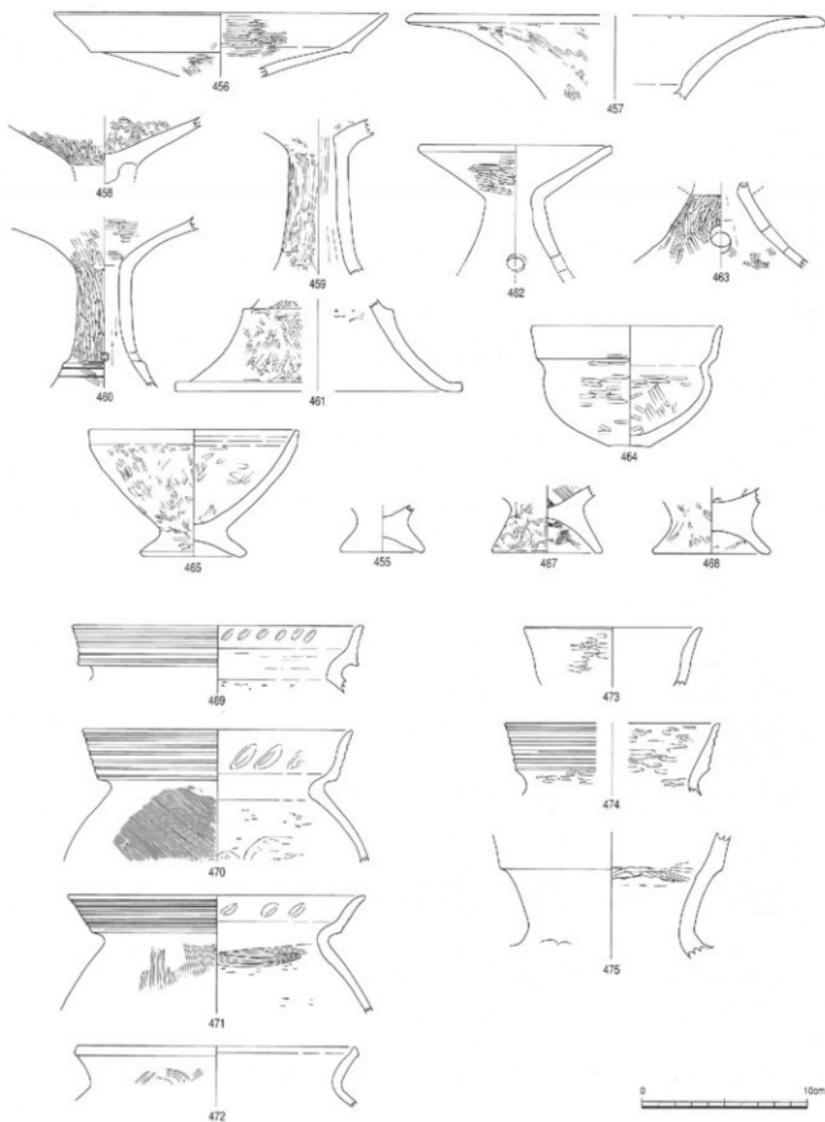
第158図 ST13 (390~412) 出土土器 (1/3)



第159図 ST13 (413~423)・ST14 (424~434) 出土土器 (1/3)



第160图 ST14 (435~455) 出土土器 (1/3)



第161图 ST14(456~468)·ST15(469~475) 出土土器 (1/3)

弥生時代後期・古墳時代前期土器一覽表

番号	遺物	通番	図様	法曹 (cm)	色調 (外・内面)	遺存	備考
1	S01	壺	口径135 胴径108	淡褐色	灰褐色	1/4	製田器2、指環付着
2	S01	甕	口径154 胴径127	褐色	灰褐色	1/4	製田器9、指環付着
3	S01	甕	口径157 胴径130	褐色	灰褐色	1/4	製田器8
4	S01	甕	口径159 胴径127	灰褐色	灰褐色	1/6	製田器7、指環付着
5	S01	甕	口径163 胴径130	灰褐色	灰褐色	1/3	製田器7、指環付着、外周縁付着
6	S01	甕	口径164	灰褐色	灰褐色	小片	製田器2、指環付着
7	S01	甕	口径165	1/6	指環付着	1/6	指環付着
8	S01	甕	口径172 胴径151	淡茶褐色	淡茶褐色	1/8	指環付着
9	S01	甕	口径175 胴径155	灰褐色	灰褐色	1/6	外周縁付着
10	S01	甕	口径182 胴径157	淡黄褐色	淡黄褐色	1/3	指環付着
11	S01	甕	口径188 胴径162	淡黄褐色	淡黄褐色	1/6	指環付着
12	S01	甕	口径191 胴径168	淡褐色	淡褐色	小片	指環付着
13	S01	甕	口径192 胴径175	淡褐色	淡褐色	1/6	指環付着
14	S01	甕	口径193 胴径168	淡褐色	淡褐色	1/6	指環付着
15	S01	甕	口径198 胴径183	淡褐色	淡褐色	1/3	外周縁付着
16	S01	甕	口径165 胴径151	淡褐色	淡褐色	1/8	製田器7、指環付着
17	S01	甕	口径177 胴径117	淡褐色	淡褐色	1/7	外周縁付着
21	S02	甕	口径153	淡褐色	淡褐色	1/4	外周縁付着
22	S02	甕	口径182 胴径175	淡褐色	淡褐色	1/6	外周縁付着
23	S02	甕	口径192 胴径175	淡褐色	淡褐色	1/6	外周縁付着
24	S02	甕	口径182	淡褐色	淡褐色	1/6	口蓋
25	S02	甕	底径30	淡褐色	淡褐色	1/6	灰田ナシ
26	S02	甕	底径30	褐色	褐色	全周	全周
27	S03	甕	口径181 胴径157	褐色	褐色	全周	製田器6、外周縁付着、肩部に櫛状具痕並ぶ状文
28	S03	甕	胴径190	褐色	褐色	全周	具痕並ぶ状文
28	S03	甕	口径155 胴径129	褐色・新灰褐色	褐色・新灰褐色	1/8	製田器5、外周縁付着
29	S03	甕	口径170 胴径153	淡褐色	淡褐色	1/3	製田器5、外周縁付着
29	S03	甕	口径143 胴径140	褐色	褐色	1/3	外周縁付着、口縁部強いナデによる浅い凹線
30	S03	甕	胴径160	褐色・新灰褐色	褐色・新灰褐色	1/2	外周縁付着、口縁ハケ状工具の遺跡相合
31	S03	甕	口径137 胴径111	褐色	褐色	1/6	外周縁付着
32	S03	甕	口径179 胴径154	淡褐色	淡褐色	全周	肩部に櫛状具の連続斜交文
33	S03	甕	口径140 胴径121	淡褐色・新灰褐色	淡褐色	1/6	外周縁付着
34	S03	甕	口径157 胴径141	褐色	褐色	1/3	外周縁付着
35	S03	甕	底径40	茶褐色・新灰褐色	茶褐色・新灰褐色	1/2	外周縁付着
36	S03	甕	口径118 胴径112 胴径121 底径23 胴径123	茶褐色・新灰褐色	茶褐色・新灰褐色	1/2	内外縁付着

番号	遺物	通番	器種	容量 (ml)	色調 (外・内面)	遺存	備考
37	S03	鉢	口径108 胴径92	淡灰褐色・新灰褐色	淡灰褐色	ほぼ全周	外周縁付着、内面黒面による心丸ナシ
38	S03	鉢	口径113 胴径123	褐色	褐色	完	
39	S03	鉢	口径154 胴径127	淡褐色	淡褐色	1/2	内外縁部
40	S03	鉢	口径182	淡褐色	淡褐色	1/2	
41	S03	甕	口径71 胴径31 口径62 胴径23	赤褐色	赤褐色	完	外周縁部、内面に赤影
42	S04	甕	口径164 底径34	茶褐色	茶褐色	全周	
43	S04	甕	口径170 胴径90	褐色・灰褐色	褐色・灰褐色	1/4	外周縁付着
44	S05	甕	口径166 胴径132	灰褐色	灰褐色	1/7	
45	S05	甕	口径166 胴径144	淡褐色	淡褐色	小片	外周縁付着
46	S05	甕	口径161 胴径154	灰褐色	灰褐色	1/7	外周縁付着
47	S05	甕	口径200 胴径178	淡褐色	淡褐色	1/4	外周縁付着
48	S05	甕	口径174 胴径130	淡褐色	淡褐色	1/3	外周縁付着
49	S05	甕	口径193 胴径164	淡褐色	淡褐色	小片	内面黒褐色付着
50	S05	甕	口径160 胴径134	灰褐色	灰褐色	1/8	
51	S05	甕	口径150 胴径138	淡褐色	淡褐色	1/7	
52	S05	甕	口径106	淡褐色	淡褐色	全周	
53	S05	甕	口径189	淡褐色	淡褐色	1/6	
54	S05	甕	口径182	淡褐色	淡褐色	1/6	漆液残さし
55	S05	甕	口径133	淡褐色	淡褐色	1/3	外周縁部
56	S06	甕	口径142 胴径128	淡褐色	淡褐色	1/5	製田器7-8、外周縁付着
57	S06	甕	口径193 胴径154	淡褐色	淡褐色	1/5	製田器6、外周縁付着、指環付着
58	S06	甕	口径124 胴径100	淡褐色	淡褐色	1/5	口縁内面に指環
59	S06	甕	口径228 胴径108	淡褐色	淡褐色	1/6	外周縁付着
60	S06	甕	口径196 胴径164	暗灰褐色・淡灰褐色	暗灰褐色	1/6	
62	S06	甕	口径21	褐色	褐色	全周	外周縁付着、内面黒褐色付着
63	S06	甕	口径102 胴径100	淡褐色	淡褐色	全周	黒痕
64	S06	甕	口径114 胴径104	淡褐色・新灰褐色	淡褐色	1/3	黒痕
65	S07	甕	口径236 胴径120	褐色	褐色	1/8	製田器5、外周縁付着
66	S07	甕	口径200 胴径98	褐色	褐色	1/5	製田器8、外周縁付着
67	S07	甕	口径140 胴径105	淡灰褐色	淡灰褐色	1/7	製田器9、指環付着、外周縁部
68	S07	甕	口径149 胴径119	灰褐色	灰褐色	1/6	製田器6、外周縁付着
69	S07	甕	口径147 胴径130	褐色	褐色	1/8	製田器8、外周縁付着
70	S07	甕	口径158 胴径127	淡褐色	淡褐色	1/5	製田器7、指環付着、外周縁付着
71	S07	甕	口径156 胴径138	茶褐色	茶褐色	1/8	製田器8、外周縁付着、指環付着
72	S07	甕	口径157 胴径123	淡褐色	淡褐色	1/6	製田器7、指環付着
73	S07	甕	口径166 胴径147	褐色	褐色	1/8	製田器6、外周縁付着
74	S07	甕	口径163 胴径137	淡褐色	淡褐色	1/5	製田器8、指環付着
75	S07	甕	口径163 胴径129	褐色	褐色	1/8	製田器8、指環付着
76	S07	甕	口径174 胴径112	淡褐色	淡褐色	1/8	製田器7、指環付着

番号	遺構	塔様	法台 (m)	色調(外面/内面)	遺存	備考
78	S107	礎	口径184 直径156	黄褐色	1/3	御巴帳5
79	S107	礎	口径190	淡褐色	1/5	御巴帳9、外周壁付着
80	S107	礎	口径183 直径148	灰褐色	1/8	御巴帳9、外周壁付着
81	S107	礎	口径187 直径143	褐色	1/8	御巴帳6~8、指頭正座、外周壁付着
82	S107	礎	口径182 直径147	淡褐色	1/7	御巴帳5~7、指頭正座、外周壁付着
83	S107	礎	口径184 直径155	褐色	1/5	御巴帳5、外周壁付着、法台小尖塔
84	S107	礎	口径179 直径147	淡褐色	1/8	御巴帳5、指頭正座
85	S107	礎	口径183 直径138	赤褐色	1/6	御巴帳10、指頭正座、外周壁付着
86	S107	礎	口径182 直径142	褐色	1/4	御巴帳6、指頭正座
87	S107	礎	口径196 直径169	赤褐色、灰褐色	1/7	御巴帳8、外周壁付着
88	S107	礎	口径(301) 直径(181)	褐色	小片	御巴帳12、外周壁付着
89	S107	礎	口径(199)	褐色	小片	御巴帳8~、指頭正座、外周壁付着
90	S107	礎	直径157	褐色	1/7	御巴帳8、指頭正座
91	S107	礎	口径215 直径184	淡褐色	小片	御巴帳5、指頭正座
92	S107	礎	口径218 直径166	赤褐色	1/2	御巴帳7、外周壁付着、指頭正座
93	S107	礎	口径216 直径190	赤褐色	1/4	御巴帳7、外周壁付着、指頭正座
94	S107	礎	口径(285)	赤褐色	小片	御巴帳7、外周壁付着
95	S107	礎	口径287	赤褐色	1/8	御巴帳8、外周壁付着
96	S107	礎	口径300 直径259	褐色	1/7	御巴帳6、指頭正座
97	S107	礎	口径141 直径145	淡灰褐色	小片	御巴帳7、外周壁付着、指頭正座
98	S107	礎	口径138 直径131	赤褐色	1/6	御巴帳7、外周壁付着、指頭正座
99	S107	礎	口径(156)	赤褐色	小片	御巴帳7、外周壁付着
100	S107	礎	口径197 直径(91)	褐色	小片	御巴帳1、外周壁付着
101	S107	礎	口径(181) 直径(165)	淡褐色	小片	外周壁付着
102	S107	礎	口径186 直径171	灰褐色	小片	外周壁付着
103	S107	礎	口径147 直径133	赤褐色	1/7	外周壁付着
104	S107	礎	口径194 直径171	黄褐色	1/5	外周壁付着
105	S107	礎	口径143 直径131	褐色	1/8	御巴帳6~、外周壁付着
106	S107	礎	口径125 直径97	褐色	1/8	御巴帳6~、外周壁付着
107	S107	礎	口径148 直径115	褐色	1/6	御巴帳6~、外周壁付着
108	S107	礎	口径156 直径122	赤褐色	1/3	御巴帳6~、外周壁付着
109	S107	礎	直径15	淡灰褐色	元	底座穿孔、外周壁付着
110	S107	礎	口径163	赤褐色	1/4	御巴帳12、外周壁付着
111	S107	礎	口径216 直径31	赤褐色	元	穿孔4
112	S107	礎	口径136 直径146	褐色	1/4	袈裟器台、外周壁付着
113	S107	礎	口径169	淡褐色	1/2	基部
114	S107	礎	口径112	淡灰褐色	1/2	基部
115	S107	礎	口径116 直径30	淡灰褐色	1/2	穿孔1(直径3分)
116	S107	礎	直径?	赤褐色	1/2	へう状具の四角3、第5目
117	S107	礎	直径?	灰褐色	1/3	へう状具の四角3、第5目
118	S107	礎	台上部径 50	淡褐色	1/3	

番号	遺構	塔様	法台 (m)	色調(外面/内面)	遺存	備考
119	S107	礎	口径78 直径63	褐色	1/7	
120	S107	礎	口径93 直径75	淡灰褐色	1/2	
121	S107	礎	口径110 直径130	淡褐色	1/4	土線跡成状か
122	S107	礎	直径118 径径525	黄褐色		柱状窓
123	S107	礎	口径132 直径122	淡灰褐色	1/6	御巴帳1、御巴帳6
124	S108	礎	口径170 直径112	淡褐色	1/7	御巴帳7
125	S108	礎	口径161 直径116	灰褐色、淡褐色	1/5	御巴帳5、御巴帳6
126	S108	礎	口径168 直径136	灰褐色	1/4	外周壁付着、指頭正座付着
127	S108	礎	口径168 直径146	淡褐色	1/7	外周壁付着、御巴帳7~8
128	S108	礎	口径165 直径129	黒褐色、淡灰褐色	1/4	外周壁付着、指頭正座、御巴帳8
129	S108	礎	口径178 直径149	淡褐色	1/6	基付着、御巴帳10~12
130	S108	礎	口径174 直径146	淡褐色	1/8	御巴帳5、外周壁付着、指頭正座
131	S108	礎	口径175 直径146	淡褐色	1/8	御巴帳7
132	S108	礎	口径164 直径149	淡褐色	1/7	外周壁付着、御巴帳7
133	S108	礎	口径192	淡褐色	小片	外周壁付着、御巴帳7
134	S108	礎	口径182 直径161	淡灰褐色	1/6	指頭正座、御巴帳5、外周壁付着
135	S108	礎	口径184 直径151	淡灰褐色	1/8	指頭正座、御巴帳7
136	S108	礎	口径186 直径151	淡灰褐色、淡褐色	1/3	指頭正座、御巴帳8
137	S108	礎	口径190 直径151	灰褐色、淡褐色	1/7	外周壁付着、御巴帳8、指頭正座少し現る
138	S108	礎	口径191 直径155	淡褐色	1/6	指頭正座、御巴帳8
139	S108	礎	口径202 直径162	淡褐色	1/5	外周壁付着、御巴帳4
140	S108	礎	口径(224)	灰褐色	小片	御巴帳8、外周壁付着、指頭正座
141	S108	礎	口径213 直径178	灰茶褐色	柱状窓	外周壁付着、指頭正座、御巴帳8
142	S108	礎	口径143 直径154	淡褐色	小片	
143	S108	礎	口径129 直径115	赤褐色	1/5	
144	S108	礎	口径139 直径136	淡褐色	1/8	外周壁付着
145	S108	礎	口径136 直径112	赤褐色	1/4	全体の1部程
146	S108	礎	口径166 直径132	淡灰褐色	1/5	
147	S108	礎	口径110 直径154		柱状窓	
148	S108	礎	口径128 直径94	赤褐色	1/7	内外基部
149	S108	礎	口径99 直径74	淡褐色	1/5	基部痕
150	S108	礎	口径182 直径140	淡褐色	1/7	
151	S108	礎	口径210 直径116	淡褐色	1/7	内外周壁付着
152	S108	礎		灰褐色	1/5	
153	S108	礎	口径147 直径174	赤褐色	1/3	外周基部、内面は扉部まで赤彩、S
154	S108	礎	口径138	赤褐色	1/3	字はS形状と有書文
155	S108	礎	口径169	淡褐色	1/4	内外周壁、御巴帳12

番号	遺構	遺構	遺存	備	号
156	S108	鉢	淡灰褐色	1/3	
157	S108	茶杯?	赤褐色	2/5	内面滑潤
158	S108	鉢台	赤灰褐色	1/2	
159	S109	鉢台	茶褐色	1/7	外面滑潤
160	S108	鉢台	赤褐色	完	全面滑潤
161	S108	鉢台	淡灰褐色	ほぼ完	
162	S108	鉢	淡褐色	1/2	
163	S108	蓋	黒褐色	1/2	内外面つのある黒褐色
164	S109	蓋	淡褐色	1/3	黒凹縁6-7、外面窪付
165	S109	蓋	淡青褐色	1/4	黒凹縁8
166	S109	蓋	淡褐色	1/3	黒凹縁6-7、外面窪付
167	S109	蓋	赤外褐色	2/3	赤部外面窪付
168	S109	壺	淡青褐色	1/8	円形浮文
169	S109	壺	淡褐色	小片	円形浮文、凹縁
170	S109	小片	赤褐色	1/3	凹部の浅心欠
171	S109	片状	赤褐色	完	
172	S110	蓋	淡褐色	1/4	黒凹縁5、外面窪付
173	S110	蓋	淡褐色	1/8	黒凹縁6
174	S110	蓋	淡褐色	小片	黒凹縁7、指面片状
175	S110	蓋	赤褐色	1/6	窪付
176	S110	蓋	暗褐色	1/6	指面窪、窪付
177	S110	蓋	淡褐色	1/2	外面窪付
178	S110	蓋	淡褐色	1/2	外面窪付
179	S110	茶杯	淡褐色	ほぼ完	
180	S110	小壺蓋?	淡褐色	1/3	
181	S110	蓋	淡褐色	1/2	
182	S111	蓋	赤褐色/赤褐色	小片	内外面に赤形、ていねいなミガキ
183	S111	底部	赤褐色/赤褐色	1/2	新瓶の 高直
184	S111	茶杯	淡褐色	ほぼ完	内外面に「ていねいなミガキ」
185	S114	蓋	赤褐色/赤褐色	ほぼ完	
186	S114	蓋	茶褐色	1/5	黒凹縁7、外面窪付
187	S114	蓋	淡褐色	小片	外面窪付
188	S114	蓋	淡褐色	1/3	窪付
189	S111	壺	赤外褐色	ほぼ完	口内凹縁上部外面に貝殻模文
190	S114	台座	淡灰褐色	ほぼ完	

番号	遺構	遺構	遺存	色調(外面/内面)	遺存	備考
191	S115	壺	茶褐色	口径170 高さ190 胴径200	ほぼ完	
192	S120	壺	赤褐色	口径146 胴径134	1/6	黒凹縁2カ
193	S120	壺	暗褐色	口径130 胴径91	1/5	口縁下部縮こへう状の痕み
194	S121	壺	灰褐色	口径138 胴径103	1/8	黒凹縁4
195	S121	壺	淡褐色	口径142 胴径112	1/4	黒凹縁5~
196	S121	壺	赤灰褐色	口径164 胴径152	1/8	黒凹縁5、
197	S121	壺	淡灰褐色	口径173 胴径150	1/8	黒凹縁6、内面窪付、外面片着
198	S121	壺	黄褐色	胴径130	1/4	口縁窪付、黒凹縁7、外面窪付
199	S121	壺	茶褐色	口径166 胴径138	1/4	黒凹縁7、外面窪付
200	S121	壺	茶褐色	口径169 胴径141	1/8	黒凹縁9-10、外面窪付
201	S121	壺	褐色	口径165 胴径126	1/6	黒凹縁8-9、外面窪付、
202	S121	壺	茶褐色	口径174 胴径135	1/5	黒凹縁10、外面窪付、指面窪
203	S121	壺	淡褐色	口径186	1/6	黒凹縁6、指面窪
204	S121	壺	赤外褐色	口径184 胴径136	1/8	黒凹縁7、指面窪
205	S121	壺	淡褐色	口径281 胴径285	1/6	黒凹縁7、指面窪、黒凹縁8、指面窪
206	S121	壺	淡褐色	口径320 胴径266	1/7	黒凹縁8、指面窪
207	S121	壺	淡褐色	口径309 胴径270 胴径365	1/5	黒凹縁7、指面片状
208	S121	壺	褐色	口径139 胴径114	1/6	
209	S121	壺	茶褐色	口径161 胴径145	1/6	外面窪付
210	S121	壺	褐色	口径171 胴径142	1/8	外面窪付
211	S121	壺	淡灰褐色	口径152 胴径153	小片	
212	S121	壺	淡灰褐色	口径190 胴径86	1/6	
213	S121	壺	茶褐色	丸底部 胴径24	ほぼ完	外面窪付
214	S121	壺	淡褐色	口径178	1/3	外面窪付
215	S121	壺	茶褐色	口径118 高さ30 胴径138 高さ110	完	
216	S121	壺	暗褐色	高さ76 つまみ径22	1/3	上唇燻火
217	S121	壺	淡褐色	高さ78	1/2	つまみ部燻火、
218	S121	壺	淡褐色	つまみ径39	ほぼ完	
219	S122	壺	淡褐色	口径126 胴径105	1/6	外面窪付
220	S122	壺	淡褐色	口径144 胴径131	1/8	黒凹縁6、外面窪付
221	S122	壺	淡褐色	口径111 胴径120	1/6	黒凹縁7、指面窪、外面窪付
222	S122	壺	淡褐色	口径132 胴径126	完	外面窪付
223	S122	壺	淡褐色	口径172 高さ209	小片	黒凹縁8、赤状具の刺文
224	S122	壺	赤外褐色	口径227 胴径209	1/4	黒凹縁6
225	S122	壺	暗褐色	口径144 高さ135	1/6	黒凹縁3カ溝いナマカ
226	S122	壺	暗褐色	口径140 胴径120	1/6	黒凹縁4カ溝いナマカ
227	S122	壺	暗褐色	口径162 胴径137	1/5	外面窪付
228	S122	壺	淡褐色	胴径144 高さ33	1/2	指面
229	S122	壺	赤部	高さ94	1/2	外面窪
230	S122	壺	赤味褐色	台径122	1/2	内外面に赤形

独立柱建物 第75~77図 通橋の()内は右橋の位置

番号	遺構	形態	法長 (m)	色調 (外/内面)	遺存	備考
1	S801 (西)	礎	口径146 直径133	茶褐色	1/6	欄間礎3, 外面扉付着
2	S801 (西)	礎	口径214 直径174	淡褐色	1/6	欄間礎4, 外面扉付着
3	S801 (西)	礎	口径194 直径158	茶褐色	1/5	欄間礎3, 外面扉付着
4	S801 (西)	礎	口径198 直径146	淡褐色	1/5	欄間礎7
5	S801 (西)	礎	口径176 直径146	淡褐色	1/6	欄間礎5, 外面扉付着, 指頭圧痕
6	S801 (西)	礎	口径144 直径112	茶褐色	1/2	欄間礎7, 外面扉付着
7	S801 (西)	礎	口径138 直径111	茶褐色	小片	欄間礎7, 外面扉付着
8	S801 (西)	礎	口径136 直径114	淡褐色	小片	欄間礎7, 外面扉付着
9	S801 (西)	礎	口径167 直径149	茶褐色	1/6	外面扉付着
10	S801 (西)	礎	口径158 直径137	淡褐色	ほぼ完全付着	
11	S801 (西)	礎	口径170 直径27	淡褐色	1/2	内外扉付着
12	S801 (西)	礎	口径160 直径146	淡褐色	小片	欄間礎5まで残存, 欄内扉縁調整
13	S803 (東)	礎	口径190 直径169	淡褐色	1/7	外面扉付着, 欄内扉縁調整
14	S803 (南)	礎	口径182 直径146	淡褐色	小片	外面扉付着, 欄内扉縁調整
15	S803 (南)	礎	口径180 直径144	淡褐色	小片	欄間礎6
16	S805 (南)	礎	口径172 直径140	茶褐色	小片	欄間礎3, 外面扉付着
17	S806 (北)	礎	口径164 直径128	淡褐色	小片	欄間礎8, 指頭圧痕, 外面扉付着
18	S806 (北)	礎	口径172 直径146	淡褐色	1/6	欄間礎6, 口内扉工具痕
19	S806 (北)	礎	口径160 直径122	茶褐色	小片	
20	S806 (南)	台石	口径117 直径76	淡褐色	2/3	脚台部分欠損
21	S810 (南)	礎	口径172 直径161	淡褐色	1/8	
22	S812 (北)	礎	口径170 直径156	淡褐色	小片	
23	S812 (北)	礎	口径152 直径134	淡褐色	小片	
24	S813 (北)	礎	口径188 直径154	淡褐色	1/7	欄間礎6, 指頭圧痕, 外面扉付着
25	S814 (北)	礎	口径177 直径145	淡褐色	1/8	欄間礎7, 指頭圧痕, 外面扉付着
26	S814 (南)	礎	口径148 直径103	褐色	小片	外面扉付着, ヘラ状具のナガ
27	S814 (北)	礎	口径178 直径135	淡褐色	1/8	
28	S814 (南)	礎	口径128 直径99	淡褐色	1/3	指頭圧痕, 小型丸痕
29	S814 (南)	礎	口径175	乳白褐色	1/4	裝飾磨石, 欄口部の磨石に要れる 帯状6磨石
30	S815 (北)	礎	口径176 直径119	淡褐色	1/4	欄間礎7, 指頭圧痕
31	S815 (北)	礎	口径170 直径131	淡褐色	1/6	欄間礎8, 指頭圧痕
32	S815 (南)	礎	口径181 直径153	淡褐色	1/6	
33	S815 (南)	礎	口径159 直径132	淡褐色	1/7	外面扉付着
34	S815 (北)	台付礎	直径260	淡褐色	1/6	
35	S815 (北)	台付礎	直径193	淡褐色	1/3	

番号	遺構	形態	法長 (m)	色調 (外/内面)	遺存	備考
231	S822	高木	脚台径40	褐色	1/2	外面扉付着
232	S823	礎	口径152 直径133	茶褐色	1/3	欄間礎7, 内面扉縁調整, 外面扉付着
233	S823	礎	口径162 直径133	茶褐色	1/5	欄間礎13
234	S823	礎	口径152 直径131	茶褐色	2/3	欄間礎6, 外面扉付着, 指頭圧痕
235	S823	礎	口径196 直径161	淡褐色	1/7	其の直縁削ぎ
236	S823	礎	口径253 直径238	淡褐色	1/2	脚石部に穿孔孔
237	S823	礎	口径162 直径216	淡褐色	1/2	
238	S824	礎	口径275 直径204	茶褐色, 茶褐色	1/6	欄間礎7
239	S824	礎	口径187	茶褐色, 茶褐色	1/6	欄間礎9, 指頭圧痕
240	S824	礎	口径172 直径132	茶褐色, 茶褐色	1/8	
241	S824	礎	口径191 直径200	淡褐色	1/6	口唇部は直取り
242	S824	礎	口径140	淡褐色	1/7	欄間礎6
243	S824	礎	口径175	淡褐色, 淡褐色	小片	口唇部は直取り
244	S824	礎	口径193	淡褐色, 淡褐色	1/2	
245	S824	礎	口径118 直径100	茶褐色, 茶褐色	1/5	裏面部直火は算定5単位加
246	S824	礎	口径222 直径113 高さ40	淡褐色, 茶褐色	完	
247	S825	礎	口径140 直径133	茶褐色	1/6	欄間礎4寸
248	S825	礎	口径151 直径130	淡褐色	1/7	欄間礎6, 外面扉付着
249	S825	礎	口径169 直径142	淡褐色	1/6	欄間礎5, 指頭圧痕
250	S825	礎	口径174 直径148	淡褐色	1/6	欄間礎6, 靴状具の圧痕?
251	S825	礎	口径165 直径132	淡褐色	1/6	欄間礎8, 指頭圧痕
252	S825	礎	口径167 直径132	淡褐色	1/7	欄間礎5-6, 欄間戸框, 外面扉付着
253	S825	礎	口径161 直径139	淡褐色	1/5	
254	S825	礎	口径143 直径116	淡褐色	ほぼ完全	
255	S827周溝	溝	口径113 直径116	淡褐色	1/4	欄間礎9, 指頭圧痕
256	S827周溝	溝	口径183 直径151	淡褐色	1/3	欄間礎6, 指頭圧痕
257	S827周溝	溝	口径106 直径78	淡褐色	ほぼ完全	外木彫痕
258	S827周溝	溝	口径121 直径91 脚径145 底径54 高さ120	小褐色	1/2	口縁外縁と外面扉部に赤錆
259	S827周溝	溝	口径150 直径117	淡褐色	1/6	内外扉付着
260	S827周溝	溝	口径146 直径122	淡褐色	1/2	
261	S827周溝	溝	口径218 脚径89	淡褐色	ほぼ完全	
262	S827周溝	溝	口径247	淡褐色	1/3	
263	S827周溝	溝	口径105	淡褐色	1/2	
264	S827周溝	溝	口径110	淡褐色	1/2	
265	S827周溝	溝	脚径135 脚径23	淡褐色	1/4	口唇部は直取り
266	S827周溝	溝	脚径146	淡褐色	完	
267	S827周溝	溝	口径242	淡褐色	ほぼ完全	
268	S827周溝	溝	口径205 直径134	淡褐色	1/3	
269	S827周溝	溝	直径95	淡褐色	1/3	

番号	遺構	位置	法量 (m)	色調(外側/内側)	遺存	備考
36	SD16 (北)	礎	口径103 高さ148	黒褐色	1/7	かすかに残る黒曜石6
37	SD16 (北)	礎	口径147 高さ125	褐色	1/5	黒曜石6
38	SD16 (北)	基礎	高さ68	褐色/灰褐色	1/2	
39	SD16 (北)	高坏	高さ136	淡褐色	1/3	外面赤影線、穿孔1、沈蝕10
40	SD16 (北)	台石跡	高さ68	淡褐色	1/3	
41	SD16 (北)	礎	つまみ径32	淡褐色	1/2	
42	SD16 (北)	小石置	高さ100 高さ53	淡褐色	1/2	
43	SD19 (南)	礎	合形底径底径35	淡褐色	1/2	
44	SD19 (北)	礎	口径170 高さ114	褐色	1/6	
45	SD19 (北)	礎	口径151 高さ140	褐色	1/2	外面腐付着
46	SD19 (北)	礎	口径142 高さ135	褐色	1/2	外面腐付着、外面腐層はハナ状具の黒曜石文
47	SD21 (南)	礎	つまみ径36	淡褐色	ほぼ完全	
48	SD23 - Pa	底版	底径10	淡褐色	1/2	
49	SD30 (南)	礎	口径168 高さ129	淡褐色	完	底版穿孔、穿孔径8-9mm
50	SD30 (南)	礎	口径127 高さ112	淡褐色	1/3	黒曜石7、かすかに黒曜石正板
51	SD30 (南)	礎	口径143 高さ139	淡褐色	1/7	外面腐付着
52	SH44 - Pa	礎	口径167 高さ140	褐色	小片	黒曜石6、外面腐付着、かすかに正板

土坑(土溝)第87~106区

番号	遺構	位置	法量 (m)	色調(外側/内側)	遺存	備考
1	SK01	礎	口径180 高さ168	淡褐色	1/6	黒曜石6、外面腐付着
2	SK02	礎	口径202	淡褐色	小片	黒曜石6、外面腐付着
3	SK03	礎	口径166 高さ132	茶褐色	1/2	黒曜石4、外面腐付着
4	SK02	礎	口径126 高さ104	茶褐色	1/3	黒曜石4分、外面腐付着
5	SK02	礎	口径252 高さ216	淡褐色	1/5	へつ状工具の列石、外面腐付着
6	SK02	礎	口径194 高さ162	茶褐色	1/6	外面腐付着
7	SK02	礎	口径200 高さ168	茶褐色	1/4	外面腐付着
8	SK02	礎	口径152 高さ128	茶褐色	1/2	外面腐付着
9	SK02	礎	口径140 高さ127	茶褐色	ほぼ完全	外面腐付着
10	SK02	礎	口径129 高さ115	淡褐色	1/7	15上層一断体少
11	SK02	礎	口径117 高さ88	赤褐色	1/6	穿孔1
12	SK02	林	口径206	黒褐色/褐色	1/3	外面腐付着
13	SK02	高坏	高さ128	淡褐色	ほぼ完全	遺欠3
14	SK02	高坏	口径202	粉白色	1/4	15上層一断体少
15	SK02	高坏	高さ250	粉白色	1/4	穿孔1
16	SK04	礎	口径136 高さ121	粉白色/茶褐色	ほぼ完全	外面腐付着
17	SK04	礎	口径157 高さ139 高さ193 高さ199 高さ208	粉白色/茶褐色	完	外面全体に腐付着

番号	遺構	位置	法量 (m)	色調(外側/内側)	遺存	備考
18	SK04	瓦部	側径50 高さ220	淡褐色	完	
19	SK06	礎	口径178 高さ143	粉褐色	1/3	黒曜石6、外面腐付着
20	SK06	礎	口径152 高さ130	淡褐色	1/6	黒曜石6、外面腐付着
21	SK06	礎	口径190 高さ158	粉褐色	ほぼ完全	外面腐付着、外面腐付着寸方
22	SK06	礎	高さ206	淡褐色	1/5	
23	SK06	高坏	口径118 高さ100	淡褐色	1/4	
24	SK06	礎	口径164	淡褐色	1/8	黒曜石6、外面腐付着
25	SK08	礎	口径187 高さ151	淡褐色	1/6	黒曜石6、外面腐付着、外面腐付着
26	SK08	礎	口径174 高さ120	淡褐色	1/4	黒曜石6、外面腐付着
27	SK08	礎	口径141 高さ112	淡褐色	1/7	黒曜石6、外面腐付着
28	SK08	礎	口径157 高さ135	淡褐色	1/4	外面腐付着
29	SK08	礎	口径159 高さ118	淡褐色	1/3	
30	SK08	礎	口径114 高さ84	褐色	1/4	内外一面に腐付着
31	SK08	底版	底径20	淡褐色	1/2	
32	SK08	礎	口径168 高さ152	灰白褐色	1/6	黒曜石7、外面腐付着
33	SK09	礎	口径187 高さ153	淡褐色	1/5	黒曜石6、外面腐付着
34	SK10	礎	口径140 高さ113	茶褐色	1/2	黒曜石4、内外面に腐付着
35	SK11	礎	側径172 側径207	褐色	1/5	黒曜石10、外面腐付着
36	SK12	礎	口径138 高さ126	淡灰褐色	1/8	
37	SK12	底版	底径28	淡灰褐色	ほぼ完全	
38	SK12	礎	口径134 高さ109	赤褐色/茶褐色	1/2	内面口縁と外面全体に赤影
39	SK13	礎	側径168	粉褐色	1/3	黒曜石10、外面腐付着
40	SK15	礎	口径159 高さ128	粉褐色	小片	腐付着、外面腐付着のナデ
41	SK16	礎	口径177 高さ148	淡褐色	1/8	外面腐付着
42	SK16	礎	口径238	淡褐色	1/3	赤影(内外面)
43	SK16	高坏	口径216 高さ179	淡褐色	完	外面腐付着、外面腐付着
44	SK17	礎	側径263 高さ215	淡褐色	1/2	外面腐付着、黒曜石8、外面腐付着
45	SK17	礎	口径172 高さ134	淡褐色	小片	外面腐付着、黒曜石8、外面腐付着
46	SK17	礎	側径168 高さ149	茶褐色	1/3	外面腐付着、黒曜石8
47	SK17	礎	口径176 高さ148	淡褐色	1/4	外面腐付着、黒曜石7、外面腐付着
48	SK17	礎	口径172 高さ134 底径24	淡褐色	1/2	外面腐付着、黒曜石8、外面腐付着
49	SK17	礎	口径158 高さ132 側径190	茶褐色	1/2	外面腐付着、黒曜石8、外面腐付着
50	SK17	礎	口径170 高さ150 側径220	淡褐色	ほぼ完全	外面腐付着、外面腐付着
51	SK17	礎	口径180 高さ150 側径195	淡褐色	1/5	外面腐付着

番号	造形	口径 (mm)	法量 (mm)	色調(外内内面)	造形	備考
52	SK17	丸	口径170 胴径148 底径190	茶褐色	丸 外面磨付着	
53	SK17	変	胴径185 胴径262	淡褐色	1/3 赤銅肌(外環、内面口頸部)	
54	SK17	変	口径124 胴径100	赤褐色/灰褐色	1/2 赤銅肌(外環、内面口頸部)	
55	SK17	変	口径95 胴径63 胴径124 底径26	赤褐色~黒褐色	丸 赤銅肌(外環、内面口頸部)	
56	SK17	無蓋	口径90 (82, 72) 胴径1175	淡褐色	丸	
57	SK17	鉢	口径166 胴径120 底径42	淡褐色	口縁心	
58	SK18	変	口径156 胴径122	淡褐色	口縁心 胴径7	
59	SK18	変	口径155 胴径116	褐色	1/3 外面磨付着	
60	SK19	変	口径222 胴径196 底径28	茶褐色	1/2 外面磨付着	
61	SK19	変	口径139 胴径118	褐色	1/4 胴口縁3、外面磨付着	
62	SK19	変	口径170 胴径150	淡褐色	1/8 外面磨付着、胴口縁6	
63	SK19	変	口径166 胴径131	淡褐色	1/4 外面磨付着、胴口縁6	
64	SK19	変	口径171 胴径137	褐色	小片 外面磨付着、胴口縁9、胴口正装	
65	SK19	変	口径175 胴径141 胴径182	淡褐色	小片 外面磨付着	
66	SK19	変	口径160 胴径138	淡褐色	1/6 外面磨付着	
67	SK19	変	口径136 胴径112	茶褐色	1/8 外面磨付着	
68	SK19	変	口径132 胴径108	灰褐色	1/4	
69	SK19	変	口径156 胴径142	淡褐色	1/2 外面磨付着	
70	SK19	変	口径140 胴径156	淡褐色	1/2	
71	SK19	変	口径110 胴径103	黒褐色	1/8 外面磨付着	
72	SK19	変	口径102 胴径92	黒褐色/赤褐色	口縁心/4 外面磨付着	
73	SK19	変	口径198 胴径178 口径170 胴径146	茶褐色	1/5 外面磨付着	
74	SK19	鉢	口径150 胴径130	褐色	1/2 外面磨付着	
75	SK19	変	口径160 胴径122	茶褐色	1/5 外面磨付着	
76	SK19	変	口径158 胴径126	淡褐色	1/7 外面磨付着	
77	SK19	変	口径112 胴径127 胴径170 底径38	煙褐色	口縁心/4 外面磨付着	
78	SK19	変	底径31	茶褐色	丸 外面磨付着	
79	SK19	変	底径32	灰褐色	1/2 外面磨付着	
80	SK19	変	口径314	茶褐色	1/2 外面磨付着	
81	SK20	変	口径132 胴径88	淡褐色	1/4 内外面赤砂	
82	SK21	変	口径130 胴径156	淡褐色	1/4 胴口縁7	
83	SK22	変	口径172 胴径118	灰褐色/灰褐色	1/2 外面磨付着	
84	SK26	変	口径172 胴径137	灰褐色/灰褐色	1/2 胴口縁7、胴口縁8のキズミ	
85	SK26	変	口径185 胴径172	淡褐色/淡褐色	1/3 胴口縁8、かすかな磨面状痕有り	
86	SK26	変	口径167 胴径145	黄褐色/黄褐色	1/3 胴口縁6、磨面状	

番号	造形	口径 (mm)	法量 (mm)	色調(外内内面)	造形	備考
87	SK26	変	口径223 胴径139 口径140	煙褐色/煙褐色	1/2 丸	
88	SK27	変	口径180 胴径166	淡褐色	丸 外面磨付着	
89	SK27	変	口径160 胴径140	褐色	1/7 外面磨付着	
90	SK27	変	口径142 胴径118	淡褐色	1/8 胴口縁	
91	SK27	変	口径174 胴径154	淡褐色	1/2 細口直	
92	SK27	変	胴径113 胴径366 底径90	淡褐色	1/2 外面磨付着	
93	SK27	変	口径140	淡褐色	1/4 外面磨付着	
94	SK27	小丸	口径68 胴径62 胴径80	茶褐色	1/4 外面磨付着	
95	SK27	変	胴径45	淡褐色	丸 全体に磨肌	
96	SK27	変	口径16	淡褐色	小片 穿孔口縁位	
97	SK27	変	口径116	淡褐色	小片 穿孔口縁位	
98	SK27	変	口径116	淡褐色	小片 穿孔、3位位	
99	SK27	変	口径148 胴径126	褐色~粉褐色	小片 穿孔、車位不明	
100	SK28	変	胴径177	褐色	丸 胴口縁	
101	SK28	変	口径139 胴径127	淡褐色/淡褐色	1/8	
102	SK29	変	口径168 胴径133	淡褐色/淡褐色	1/4 胴口縁3、胴口正装	
103	SK29	変	口径251 胴径213	茶褐色/茶褐色	1/3	
104	SK30	変	口径175 胴径138	灰褐色/茶褐色	1/8 胴口縁8、胴口正装	
105	SK30	変	口径138 胴径121	灰褐色/灰褐色	小片 胴口縁8、胴口正装	
106	SK30	変	胴径118 胴径147	緑褐色/灰褐色	1/4 外面口縁は濃いナゲ、磨跡	
107	SK30	変	胴径51	緑褐色	1/8	
108	SK30	変	底径62	茶褐色/灰褐色	1/4	
109	SK30	変	口径150 胴径130	淡褐色/淡褐色	1/8 外面赤砂	
110	SK30	変	口径123 胴径99	茶褐色/茶褐色	1/8 胴口縁8	
112	SK32	変	口径167	淡褐色/淡褐色	1/2 穿孔3	
113	SK32	変	口径144	淡褐色	1/8	
114	SK32	変	口径141 胴径124	淡褐色/淡褐色	1/8 胴口縁5	
115	SK33	変	口径135 胴径113	淡褐色/褐色	1/8 胴口縁6	
116	SK33	変	口径180 胴径154	茶褐色	1/8 外面磨付着	
117	SK33	変	口径160 胴径132 胴径160	茶褐色/茶褐色	1/4 胴口縁7、胴口縁8の痕跡はあるが不明確につき表示せず	
118	SK33	変	口径178 胴径147	淡褐色/淡褐色	1/4	
119	SK34	変	口径182 胴径152	褐色	1/5 外面磨付着	
120	SK34	変	口径156 胴径140	茶褐色	1/2 外面磨付着	
121	SK34	変	口径166 胴径138	褐色	1/4 外面磨付着	
122	SK35	変	口径153	淡褐色/煙褐色	1/4 SD03出口と同一個体	
123	SK36	変	口径254	淡褐色/淡褐色	ほぼ丸	

番号	遺構	部材	法量 (cm)	色調 (外面/内面)	遺存	備考
125	SK36	高木	胴径123	淡褐色/淡褐色	ほぼ完全	香孔4
126	SK37	柱状	口径232	灰褐色	1/6	
127	SK38	梁	胴径196	茶褐色	ほぼ完全	外部腐付著
128	SK39	梁	口径200 胴径162	茶褐色	小片	胴径10
129	SK39	梁	口径162 胴径128	茶褐色	小片	外部腐付著、指頭正直
130	SK39	梁	口径173 胴径134	茶褐色	1/8	外面腐付著
131	SK40	梁	口径106 胴径66	淡褐色	完	口縁部取り
132	SK41	梁	口径160 胴径132	茶褐色	1/6	外面腐付著、指頭正直
133	SK42	梁	口径136 胴径118	淡褐色	ほぼ完全	胴径6.6、外面腐付著
134	SK42	梁	口径160 胴径140	褐色	1/3	外面腐付著
135	SK43	梁	口径180 胴径140	褐色	1/8	外面腐付著、胴径4
136	SK48	梁	口径140 胴径132	黒褐色/黒褐色	1/5	黒染
137	SK49	梁	口径162 胴径133	茶褐色/茶褐色	1/7	
138	SK49	梁	口径162 胴径129	茶褐色/淡褐色	1/8	
139	SK49	梁	口径155 胴径139	茶褐色/茶褐色	1/3	
140	SK50	梁	口径190 胴径168	淡褐色	1/8	胴径6
141	SK50	梁	口径180 胴径174	淡褐色	1/3	胴径6
142	SK50	梁	口径150 胴径140	灰褐色	小片	胴径6
143	SK50	梁	口径182 胴径166	淡褐色	1/7	外面腐付著、胴径6
144	SK50	梁	胴径208 胴径222 胴径277	淡褐色	ほぼ完全	胴径5.5、外面腐付著
145	SK50	梁	口径134 胴径122	灰褐色	1/8	胴径5.5、外面腐付著
146	SK50	梁	口径138 胴径110	灰褐色/灰褐色	1/6	胴径6.6、指頭に灰状文
147	SK50	梁	口径170 胴径151	淡褐色	小片	胴径6.6、指頭正直で5~6
148	SK50	梁	口径164 胴径140	淡褐色	小片	外面腐付著
149	SK50	梁	口径210 胴径170	淡褐色	小片	指頭正直
150	SK50	梁	口径222 胴径192	淡褐色	小片	梁付著、胴径8
151	SK50	梁	口径178 胴径151	淡褐色	1/5	梁付著、胴径9、指頭正直
152	SK50	梁	口径166 胴径130	淡褐色	1/2	胴径7.7、梁付著
153	SK50	梁	口径196 胴径172	淡褐色	1/2	外面腐付著、胴径6.6、口縁内面腐
154	SK50	梁	口径195 胴径160 胴径217 胴径260 胴径252	淡褐色	ほぼ完全	胴径9.9、外面腐付著、指頭正直
155	SK50	梁	口径173 胴径144	淡褐色	1/8	胴径7.7、梁付著、指頭正直
156	SK50	梁	口径178 胴径136	淡褐色	1/4	外面腐付著、胴径7
157	SK50	梁	口径1(88)	淡褐色	小片	胴径9.9、指頭正直
158	SK50	梁	口径158 胴径132	淡褐色	1/8	外面腐付著、口縁内面腐付著、指頭3
159	SK50	梁	口径146 胴径124	淡褐色	1/5	胴径5.5~6

番号	遺構	部材	法量 (cm)	色調 (外面/内面)	遺存	備考
160	SK50	梁	口径162 胴径148	淡褐色	1/8	梁付著、胴径5
161	SK50	梁	口径139 胴径118 胴径134	淡褐色	ほぼ完全	胴径5
162	SK50	梁	口径116 胴径94 胴径115 胴径11	淡褐色	完	胴径4、外面腐付著、口縁内面腐付著
163	SK50	梁	口径160 胴径146 胴径178	淡褐色	1/2	外面腐付著
164	SK50	梁	口径126 胴径110	淡褐色	1/2	
165	SK50	梁	口径176 胴径138 胴径178	褐色	1/8	外面腐付著
166	SK50	梁	口径146 胴径128	淡褐色	小片	
167	SK50	梁	口径200 胴径168	淡褐色	小片	外面腐付著
168	SK50	梁	口径184 胴径182	淡褐色	小片	外面腐付著、外面腐付著
169	SK50	梁	口径140 胴径125 胴径147	淡褐色/灰褐色	完	外面腐付著
170	SK50	梁	口径144	淡褐色	1/5	外面腐付著
171	SK50	柱	口径126	淡褐色	1/3	外面腐付著、内面淡褐色/灰褐色
172	SK50	梁	口径183 胴径160	茶褐色	小片	外面腐付著
173	SK50	梁	口径148 胴径126	淡褐色	1/6	
174	SK50	梁	胴径140	淡褐色/灰褐色	小片	
175	SK50	柱	口径158 胴径112	灰褐色	完	内外とも赤形、口縁下腐付著の痕跡
176	SK50	高木	口径190 胴径140	淡褐色	1/8	内面赤形、外周も赤形小
177	SK50	高木		淡褐色	完	
178	SK50	高木		灰褐色	1/2	
179	SK50	高木		灰褐色	完	胴部、外面赤形
180	SK50	高木		淡褐色/灰褐色	完	指頭かし孔4、存跡5mm
181	SK50	高木	胴径152	淡褐色	1/7	指頭かし孔4、径8mm
182	SK50	高木	口径230 胴径144 胴径160	淡褐色	完	内面赤形
183	SK50	高木	胴径80 つまみ径275	淡褐色	完	
184	SK50	高木	胴径80 つまみ径34	淡褐色	ほぼ完全	初江系小
185	SK50	高木	胴径80 胴径46	淡褐色	約1/2	内面赤形
186	SK51	梁	口径168 胴径146	淡褐色	小片	胴径10.0、外面腐付著、指頭正直
187	SK51	梁	口径174 胴径135	淡褐色	1/8	胴径7~8
188	SK52	梁	口径186 胴径138	淡褐色	1/6	胴径6
189	SK52	梁	口径212 胴径194	淡褐色/茶褐色	胴径差	1/7
190	SK53	梁	口径126 胴径130	淡褐色	1/8	外面腐付著
191	SK53	梁	口径108 胴径140	灰褐色	1/5	外面腐付著
192	SK53	梁	口径159 胴径120	茶褐色	1/5	外面赤形、胴部は赤形による
193	SK53	柱	胴径170 胴径37	淡褐色	ほぼ完全	備文
194	SK53	柱	胴径140	淡褐色	1/5	

番号	遺構	跡種	法量 (m)	色澤 (外周/内面)	遺存	備考
195 SK33	灰環			淡肉褐色	完	外部と脚部との接合部に爪痕の痕跡
196 SK33	灰環			褐色	欠	通かし孔4、径5-6cm
197 SK34	瓦	L径138 胴径138		茶褐色	1/8	外周深付着
198 SK35	瓦	口径149 胴径127		褐色/暗褐色	1/8	脚部縁6、指部正瓦
199 SK35	瓦	口径163 胴径139		淡褐色/淡褐色	1/8	脚部縁5
200 SK35	瓦	口径156 胴径132		褐色/褐色	1/8	
201 SK55	瓦	口径166 胴径140		茶褐色/褐色	1/7	
202 SK55	瓦	口径107 胴径102 胴径194 底径55 動径214		褐色/暗褐色	完	口径部は面取りナナリ、外底部はハケナナリ
203 SK56	瓦	口径182 胴径144		淡褐色/淡褐色	1/6	脚部縁5、指部正瓦
204 SK56	瓦	口径162 胴径153		暗褐色/暗褐色	1/6	
205 SK57	灰環	脚部径41 胴径162		淡褐色/淡褐色	ほぼ完	2脚1群の存孔3
206 SK58	瓦	口径200 胴径174		褐色/外褐色	1/3	指部正瓦
207 SK58	瓦	口径166 胴径136		淡褐色/淡褐色	1/4	指部正瓦、脚部縁5
208 SK58	瓦	口径162 胴径133		黄褐色/黄褐色	1/2	指部正瓦、脚部縁7
209 SK58	凸片	胴径136		茶褐色/淡褐色	1/2	
210 SK59	鉢	L径53 胴径129		淡褐色/淡褐色	3/4	外底全体に茶色の付着物有り(黒漆か)
211 SK60	底面	底径18		灰褐色	1/2	
212 SK61	瓦	口径133 胴径111		淡肉褐色/淡褐色	1/8	
213 SK61	瓦	口径137 胴径133		灰褐色/灰褐色	小片	皿底
214 SK61	瓦	口径133		赤褐色/赤褐色	小片	内外周に赤粉、ていびいなきミダナ
215 SK62	瓦	口径(32) 胴径(20)		褐色	小片	脚部縁10、指部正瓦
216 SK62	瓦	口径179 胴径150		淡褐色	1/2	脚部縁8、指部正瓦、外周深付着
217 SK62	瓦	口径167 胴径128		淡褐色	1/6	脚部縁6、かすかに指部正瓦
218 SK62	瓦	口径171 胴径148		淡褐色	1/6	
219 SK62	瓦	口径167 胴径148		淡褐色	1/4	
220 SK63	瓦	口径172 胴径116		淡褐色	1/5	脚部縁5、指部正瓦、深付着
221 SK63	瓦	口径176 胴径151		淡茶褐色/赤褐色	1/2	脚部縁314形跡、指部正瓦
222 SK65	瓦	口径200 胴径182		褐色	1/8	
223 SK66	凸片	L径222		淡黄褐色	1/2	外周深付着
224 SK68	瓦	口径134 胴径108 胴径170		茶褐色	1/4	外周深付着、底部加熱による茶色化
225 SK68	底面	胴径96 底径22		淡褐色	底面25	内外周筋
226 SK69	瓦	L径150 胴径130		暗褐色	1/8	外周深
227 SK69	瓦	口径110 胴径10		褐色	1/6	無筋面かし孔4コ
228 SK69	凸片	底径136		淡褐色	無筋面	外周深付着
229 SK70	瓦	口径(300) 胴径(178)		淡褐色	小片	
230 SK70	瓦	口径150 胴径126		淡褐色	1/2	外周深付着
231 SK70	瓦	口径140 胴径122		淡褐色	1/5	外周深付着
232 SK70	瓦	口径(150) 胴径(122)		淡褐色	小片	外周深付着、内外周深筋割着
233 SK70	瓦	口径(174) 胴径(164)		淡褐色	小片	

番号	遺構	跡種	法量 (m)	色澤 (外周/内面)	遺存	備考
234 SK70	瓦	口径(210) 胴径(190)		暗灰褐色	小片	
235 SK70	瓦	L径30 胴径51 底径12		褐色	ほぼ完	内外周とも筋付
236 SK71	瓦	口径236 胴径20		茶褐色	小片	脚部縁8カ、深付着
237 SK71	瓦	口径196 胴径162		淡黄褐色	1/8	脚部縁8カ、指部正瓦
238 SK71	瓦	口径184 胴径148		淡褐色	1/5	脚部縁8、指部正瓦、深付着
239 SK71	瓦	口径14 胴径104		褐色	小片	脚部縁10、深付着、指部正瓦
240 SK71	瓦	口径174 胴径148		茶褐色	1/7	
241 SK71	瓦	口径14 胴径11		褐色	小片	深付着
242 SK71	灰環	底径226		暗褐色	1/2	
243 SK71	灰環	底径104		暗褐色	1/2	
244 SK72	瓦	口径197 胴径160		淡褐色	1/8	脚部縁6、指部正瓦
245 SK72	瓦	口径190 胴径170		淡褐色	1/7	脚部縁7、指部正瓦
246 SK72	瓦	口径123 胴径44 つまみ部25		淡褐色	1/2	
247 SK73	凸片	口径110 胴径131 底径100 胴径169		淡褐色	ほぼ完	外周は丁寧なきミガキ・ナナリ
248 SK74	瓦	口径171 胴径130		灰褐色	1/5	深付着
249 SK74	瓦	口径206		淡黄褐色	1/4	
250 SK75	瓦	口径176 胴径143		褐色	1/8	脚部縁6、指部正瓦、外周深付着
251 SK75	瓦	口径182 胴径144		淡灰褐色	1/8	脚部縁8
252 SK75	瓦	口径114 胴径94		淡黄褐色	1/6	脚部縁2-4と脚部帯見も、脚部縁小口
253 SK76	瓦	口径200 胴径171 L径192 胴径144		淡黄褐色	1/6	脚部縁10、底径見の正瓦
254 SK76	瓦	脚部正瓦		淡黄褐色	1/3	
255 SK76	瓦	口径182 胴径153		褐色	1/8	脚部縁6
256 SK76	瓦	L径156 胴径136		淡黄褐色	小片	脚部縁9、指部正瓦
257 SK76	瓦	L径135 胴径121		灰茶褐色	1/5	外周深付着
258 SK76	凸片	底径121		淡褐色	完	
259 SK78	瓦	つまみ部23 蓋径87 蓋径43		淡褐色	1/2	
260 SK79	瓦	口径169 胴径144		淡黄褐色	1/6	脚部縁9、脚部正瓦
261 SK79	瓦	口径153 胴径123		淡褐色	1/7	
262 SK79	凸片	脚部縁40 小径67		褐色	1/2	骨孔2、全体で5カ、外周深筋のみ付着。
263 SK80	瓦	口径144 胴径126		淡黄褐色	1/8	
264 SK83	瓦	口径190 無径178		暗褐色	2/3	外周深付着、脚部縁5、胴部下半平ミ(儀状具か)
265 SK83	凸片	口径298		淡黄褐色	2/5	
266 SK86	凸片	口径230 胴径202		暗褐色	1/2	
267 SK87	瓦	口径170 胴径149		淡褐色	1/5	外周深付着
268 SK87	瓦	口径140 胴径118		褐色	1/7	
269 SK87	瓦	口径175 胴径138		淡褐色	1/8	

溝・その他新109～120区

番号	通帯	器種	口径	量 (mm)	色調 (外面/内面)	遺存	備	考
1	S202	小口壺	11径36	高60	淡褐色	ほぼ完	無胎型	
2	S202	甕	胴径167	高142	淡褐色	1/2	外面全体に黒付着	
3	S202	砂舟	口径20	高124	乳白褐色	ほぼ完		
4	S202	高杯	口径34	高148	赤褐色	ほぼ完	穿孔3	
5	S202	高杯	口径130	高112	赤褐色	ほぼ完	外面磨光、穿孔4	
6	S203	甕	口径122	胴径112	赤褐色	1/7	新田層4、外新田層	
7	S203	甕	口径190	胴径170	灰褐色	1/3	新田層6-7、外新田層	
8	S203	甕	口径142	胴径120	赤茶褐色/赤茶褐色	1/3	新田層	
9	S203	甕	口径198	胴径177	出褐色/赤褐色	1/8	新田層6	
10	S203	甕	口径176	胴径138	茶褐色	小片	新田層7、外面黒付着	
11	S203	甕	口径186	胴径148	茶褐色	1/8	外面黒付着、新田層6、新田層7	
12	S203	甕	口径196	胴径170	暗褐色	1/3	新田層8、外面黒付着、新田層	
13	S203	甕	口径142	胴径113	新褐色/灰褐色			
14	S203	甕	口径182	胴径155	灰褐色/赤褐色	1/3		
15	S203	甕	口径162	胴径147	茶褐色	1/2	外面全体黒付着	
16	S203	甕	口径159	胴径115	淡褐色	完	全体的に磨理、体部ト平直	
17	S203	甕	口径246	高135	淡褐色	小片		
18	S203	甕	口径189	胴径166	淡褐色/淡褐色	1/8	外面 (口縁) 黒付着	
19	S203	甕	口径194	胴径184	褐色	小片		
20	S203	甕	口径138	胴径89	淡褐色	1/7	外面赤影、口縁内面に赤影	
21	S203	甕	口径68	高108	淡褐色/淡褐色	1/8	口径9	
22	S203	甕	口径25	高25	淡褐色	完	外面黒付着、外面/小片	
23	S203	高杯	口径200	高200	淡褐色	新田層2	新田層4、新田層新田層	
24	S203	高杯	口径262	高262	淡褐色	新田層8	外新田層	
25	S203	高杯	口径256	高256	淡褐色	1/4	口径ミガキ	
26	S203	高杯	口径144	高144	淡褐色	1/8		
27	S203	高杯	口径144	高144	淡褐色	新田層6	新田層新田層、新田層内面に黒	
28	S203	高杯	口径169	高169	淡褐色	完	無胎型	
29	S204	甕	口径190	胴径169	茶褐色/灰褐色	1/8	新田層6	
30	S204	甕	口径193	胴径164	黄褐色/黄褐色	1/8	新田層8、新田層	
31	S204	甕	口径166	胴径136	淡褐色/赤褐色	1/8	新田層8、新田層	
32	S204	甕	口径212	胴径188	淡褐色/赤褐色	1/8	新田層8、新田層	
33	S204	甕	口径130	胴径123	淡褐色/淡褐色	1/8	新田層	

番号	遺帯	器種	口径	量 (mm)	色調 (外面/内面)	遺存	備	考
270	SK88	甕	口径182	胴径147	淡褐色	1/3	新田層7、新田層、外面黒付着	
271	SK88	甕	口径136	胴径116	乳白褐色	1/5	新田層7、新田層	
272	SK91	甕	口径22	高282	淡褐色	1/3	外面黒付着、新田層10	
273	SK91	甕	口径108	胴径172	淡褐色	4/5	新田層7、口内面新田層	
274	SK91	甕	口径182	胴径160	淡褐色	1/5	新田層8、	
275	SK91	甕	口径218	胴径138	淡褐色	2/3		
276	SK91	甕	口径182	胴径144	淡褐色	完	内面全体割割磨理、	
277	SK91	甕	口径134	高176	淡赤褐色	1/2	新田層新田層	
278	SK91	甕	口径70	胴径50	淡褐色	ほぼ完		
279	SK91	高杯	口径160	高160	淡褐色	1/2		
280	SK91	高杯	口径128	高128	淡褐色	1/3	透かし乳3	
281	SK92	甕	口径194	胴径156	淡褐色	完	透かし乳4	
282	SK92	甕	口径170	胴径168	淡褐色	1/6	新田層新田層に成る	
283	SK92	甕	口径160	胴径122	淡褐色	小片		
284	SK92	甕	口径122	胴径102	淡赤褐色	1/2		
285	SK92	甕	口径241	高240	粉色	4/5	内外面磨理新磨	
286	SK92	甕	口径280	高280	淡褐色	ほぼ完	外面黒付着	
287	SK95	甕	口径168	高168	淡褐色	1/7	新田層8	
288	SK95	高杯	口径108	高108	淡褐色	1/3		
289	SK97	甕	口径90	高90	淡褐色/淡褐色	1/8	淡褐色/淡褐色	
290	SK100	甕	口径192	高192	淡褐色/褐色	1/6	新田層、新田層	
292	SK100	甕	口径168	高168	粉褐色/淡褐色	1/3	新田層、新田層	
293	SK104	甕	口径180	高180	淡褐色/淡褐色	1/12	新田層新田層	
294	SK104	甕	口径128	高128	淡褐色/淡褐色	1/3	口径新田層	

番号	業種	品種	法量 (m)	色調 (外・内面)	遺存	備考
35	SD04	美	口径196 胴径164	灰褐色/灰褐色	小片	
36	SD04	美	胴径157 法量30	淡褐色/灰褐色	口径12	体部剥落等による破損、風産
37	SD04	美	胴径129	褐色/褐色	1/4	
38	A2幹部	美	口径172 胴径142	淡褐色	1/8	胴口縁5、胴内面工場の比置
39	A2幹部	美	口径160 胴径129	褐色	1/6	胴口縁5、指部圧痕、内外面腐付着
40	A2幹部	美	口径196 胴径176	茶褐色	1/4	胴口縁8、指部圧痕、内外面腐付着
41	A2幹部	美	口径194 胴径160	茶褐色	1/4	胴口縁9、指部圧痕、外周腐付着
42	A2幹部	美	口径170 胴径134	淡褐色	1/8	胴口縁8、指部圧痕
43	A2幹部	美	口径176	淡褐色	1/8	胴口縁7、指部圧痕
44	A2幹部	美	口径180 胴径166	淡褐色	1/7	胴口縁6、指部圧痕、内面口縁工具のナメ、内外面腐付着
45	A2幹部	美	口径190 胴径160	褐色	1/7	胴口縁7、指部圧痕、内外面腐付着
46	A2幹部	美	口径198 胴径162	淡褐色	小片	胴口縁7、指部圧痕
47	A2幹部	美	口径190 胴径152	淡褐色	1/6	胴口縁6、外周腐付着
48	A2幹部	美	口径204 胴径178	褐色	小片	胴口縁11かぶ、指部圧痕、外周腐付着
49	A2幹部	美	口径200 胴径170	茶褐色	小片	胴口縁7かぶ、外周腐付着
50	A2幹部	美	口径164 胴径146	淡褐色	小片	胴口縁8、指部圧痕
51	A2幹部	美	口径200 胴径168	褐色	小片	胴口縁9かぶ
52	A2幹部	美	胴径136	淡褐色	1/7	胴口縁5かぶ、内外面腐付着
53	A2幹部	美	口径170 胴径140	茶褐色	1/4	胴口縁8
54	A2幹部	美	底径170 胴径148	淡褐色	1/8	
55	A2幹部	美	口径170 胴径142	淡褐色	1/8	内外面腐付着
56	A2幹部	美	口径164 胴径140	褐色	1/6	外周腐付着
57	A2幹部	美	口径168 胴径136	褐色	小片	外周腐付着
58	A2幹部	美	口径150 胴径124	茶褐色	小片	
59	A2幹部	美	口径180 胴径158	茶褐色	小片	
60	A2幹部	美	口径200 胴径170	淡褐色	小片	
61	A2幹部	美	口径158 胴径140	茶褐色	1/5	外周腐付着
62	A2幹部	美	口径134 胴径108	茶褐色	1/5	胴口縁16、3本ノボリ酸化還元による錆
63	A2幹部	美	口径240	淡褐色	1/4	
64	A2幹部	美	底径218 胴径148	淡褐色	1/4	
65	A2幹部	美	口径246 胴径122	褐色	1/2	外周腐付着
66	A2幹部	美	口径102 胴径70	褐色	1/2	外周腐付着
67	A2幹部	美	口径146 胴径112	半白色/黄色	1/3	外周面剥落
68	A2幹部	美	底径114 胴径104	淡褐色	1/4	外周面剥落
69	A2幹部	美	底径46	淡褐色	1/2	外周腐付着
70	A2幹部	美	胴径216	淡褐色	小片	外周腐付着
71	A2幹部	美	胴径156	淡褐色	1/7	外周腐付着
72	A2幹部	美	胴径170	淡褐色	口径12	
73	A2幹部	美	胴径180	淡褐色	1/3	外周面剥落、透穴6(3個)
74	A2幹部	美	胴径170	淡褐色	1/3	外周面剥落
75	A2幹部	美	胴径98	茶褐色	3/4	透穴孔3
76	A2幹部	美		茶褐色	小片	

番号	業種	品種	法量 (m)	色調 (外・内面)	遺存	備考
77	A2幹部	美	口径152 胴径69 つまみ径30	淡褐色	1/4	
78	A2幹部	美	つまみ径40	赤褐色/淡褐色	1/2	外周面剥落
79	A2幹部	美	小片18 底径40	淡褐色	1/2	
80	HN区上層	美	口径171 胴径146	暗褐色/淡褐色	1/7	
81	HN区上層	美	口径167	淡茶褐色	1/8	
82	HN区上層	美	口径178 胴径155	褐色/淡褐色	1/5	胴口縁6
83	HN区上層	美	胴径202	淡黄褐色	1/7	
84	HN区上層	美	口径164 胴径144	淡黄褐色	1/7	内外面一部腐付着、胴内縁4、外周面剥落
85	HN区上層	美	口径188 胴径165	淡黄褐色/褐色	1/7	
86	HN区上層	美	口径148 胴径123	淡黄褐色	3/4	
87	HN区上層	美	口径190 胴径136	淡黄褐色	全周	胴口縁8、指部圧痕
88	HN区上層	美	口径206 胴径184	淡黄褐色	1/7	
89	HN区上層	美	口径140 胴径105	黄褐色	2/3	内外面剥落し、指部圧痕、黄色化
90	HN区上層	美	口径128 胴径99	黄褐色/淡茶褐色	1/5	
91	HN区上層	美	胴径101	淡褐色	1/5	
92	HN区上層	美	口径164 胴径141	淡褐色	1/10	
93	HN区上層	美	口径170 胴径139	淡黄褐色/淡褐色	1/10	
94	HN区上層	美	口径174 胴径106	淡黄褐色	体部1/5	
95	HN区上層	美	胴径249	淡黄褐色	1/7	内面腐付著しい
96	HN区上層	美	口径128 胴径99	黄褐色/茶褐色	1/5	
97	HN区上層	美	胴径101	淡褐色	1/5	
98	HN区上層	美	口径164 胴径141	淡褐色	1/10	
99	HN区上層	美	口径170 胴径139	淡黄褐色/淡褐色	1/10	
100	HN区上層	美	口径174 胴径106	淡黄褐色	体部1/5	
101	HN区上層	美	胴径249	淡黄褐色	1/7	内面腐付著しい
102	HN区上層	美	口径128 胴径99	黄褐色/茶褐色	1/5	
103	HN区上層	美	胴径101	淡褐色	1/5	
104	HN区上層	美	口径164 胴径141	淡褐色	1/10	
105	HN区上層	美	口径170 胴径139	淡黄褐色/淡褐色	1/10	
106	HN区上層	美	口径174 胴径106	淡黄褐色	体部1/5	
107	HN区上層	美	胴径249	淡黄褐色	1/7	内面腐付著しい
108	HN区上層	美	口径128 胴径99	黄褐色/茶褐色	1/5	
109	HN区上層	美	胴径101	淡褐色	1/5	
110	HN区上層	美	口径164 胴径141	淡褐色	1/10	
111	HN区上層	美	口径170 胴径139	淡黄褐色/淡褐色	1/10	
112	HN区上層	美	口径174 胴径106	淡黄褐色	体部1/5	
113	HN区上層	美	胴径249	淡黄褐色	1/7	内面腐付著しい

番号	産地	品種	法重 (mm)	色調 (外周/内周)	遠在	備	号
114	河川区上層	栗	口径164 胴径141	淡褐色	1/6	無糖	
115	河川中層	栗	口径167 胴径139	褐色	7/8	外国一部産物者、無糖3	
116	河川区上層	栗	口径154 胴径161	淡茶褐色	全周	外国産物者	
117	河川区上層	栗	口径188 胴径161	淡茶褐色	1/3	外国黒栗、無糖5、片外糖付き者	
118	河川区上層	栗	口径186 胴径162	淡茶褐色	全周	しい	
119	河川区上層	栗	口径183 胴径154	淡褐色	1/2	無糖5	
120	河川区上層	栗	口径213 胴径186	褐色	1/7	外国産物者、無糖6、指頭圧痕	
121	河川区上層	栗	口径182 胴径156	淡茶褐色/褐色	1/5	無糖5、指頭圧痕	
122	河川区上層	栗	口径182 胴径129	褐色/淡茶褐色	1/4	無糖5、指頭圧痕	
123	河川区上層	栗	口径166 胴径141	褐色	1/3	外国産物者、無糖7、指頭圧痕	
124	河川区上層	栗	口径187 胴径156	淡茶褐色	1/4	外国産物者	
125	河川区上層	栗	口径172 胴径145	淡茶褐色/淡褐色	1/6	無糖6、指頭圧痕、赤色斑痕	
126	河川区上層	栗	口径195 胴径169	淡褐色	1/3	外国黒栗、産物者、無糖8、霉托	
127	河川区上層	栗	口径252 胴径213	淡褐色	1/2	赤しい、内周黒栗、指頭圧痕	
128	河川区上層	栗	口径177 胴径192	淡茶褐色	1/8	外国産物者	
129	河川区上層	栗	口径195 胴径154	淡褐色	1/3	外国産物者	
130	河川区上層	栗	口径172 胴径146	淡褐色	1/4	外国産物者	
131	河川区上層	栗	口径192 胴径169	褐色	1/10	外国産物者	
132	河川区上層	栗	口径156 胴径129	淡茶褐色	4/5	外国産物者	
133	河川区上層	栗	口径154 胴径131	淡褐色	全周	無糖7	
134	河川区上層	栗	口径161 胴径147	淡茶褐色	1/7	外国産物者	
135	河川区上層	栗	口径180 胴径121	淡茶褐色	1/7	外国産物者	
136	河川区上層	栗	口径138 胴径130	淡茶褐色	1/6	外国産物者	
137	河川区上層	栗	口径163 胴径131	淡茶褐色/淡褐色	1/5	外国産物者	
138	河川区上層	栗	口径176 胴径154	淡茶褐色	1/5	外国産物者	
139	河川区上層	栗	口径178 胴径166	淡褐色/淡茶褐色	1/4	外国産物者	
140	河川区上層	栗	口径184 胴径135	淡褐色	小片		
141	河川区上層	栗	口径240 胴径180	淡茶褐色/淡褐色	1/6	内外同糖付き者	
142	河川区上層	栗	口径138 胴径141	淡茶褐色	1/5		
143	河川区上層	栗	口径137 胴径122	茶褐色	1/3	外国産、炭化物付着	
144	河川区上層	栗	口径131 胴径106	茶褐色/淡褐色	1/3	外国産物者	
145	河川区上層	栗	口径190 胴径158	淡茶褐色/淡褐色	1/2		
146	河川区上層	栗	口径169 胴径133	淡茶褐色	1/4		
147	河川区上層	栗	口径138 胴径121	暗褐色/茶褐色	完		
148	河川区上層	栗	胴径133 胴径133	暗褐色/茶褐色	完		
149	河川区上層	栗	口径136 胴径122	暗褐色/茶褐色	1/5		

番号	産地	品種	法重 (mm)	色調 (外周/内周)	遠在	備	号
149	河川区上層	栗	口径102 胴径140	淡褐色	小片		
150	河川区上層	栗	口径134 胴径106	淡茶褐色	1/2		
151	河川区上層	栗	口径161 胴径106	淡茶褐色	完		
152	河川区上層	栗	口径162	淡茶褐色	出は全周		
153	河川区上層	栗	口径146 胴径115	淡茶褐色/褐色	1/3	外国一部産物者	
154	河川区上層	栗	口径184 胴径125	淡褐色	1/3		
155	河川区上層	栗	口径154 胴径113	淡褐色	1/4		
156	河川区上層	栗	口径120 胴径103	淡茶褐色	全周		
157	河川区上層	栗	口径142 胴径113	淡褐色	1/5	内外同糖付き者、外国全体赤形	
158	河川区上層	栗	胴径106 胴径33	褐色	1/3		
159	河川区上層	栗	口径112 胴径184	赤形赤栗、新糖色	1/4		
160	河川区上層	栗	口径182 胴径185	淡褐色	1/2	内外黒一部圧痕、外国産物者しい	
161	河川区上層	栗	口径135 胴径125	淡茶褐色	1/8	内外赤形	
162	河川区上層	栗	口径167 胴径134	暗褐色	1/7	内外赤形者しい	
163	河川区上層	栗	口径179	淡茶褐色/暗褐色	1/8		
164	河川区上層	栗	口径111	淡茶褐色	1/2	内外同糖付き者しい	
165	河川区上層	栗	口径124	淡茶褐色	1/4		
166	河川区上層	栗	口径126	淡茶褐色	1/5		
167	河川区上層	栗	胴径19	褐色	全周	外国産、炭化物付着	
168	河川区上層	栗	胴径48	赤褐色/淡褐色	全周	くほみ成	
169	河川区上層	栗	胴径92	淡褐色/暗褐色	全周	外：黒栗	
170	河川区上層	栗	胴径52	黒褐色、淡茶褐色	全周		
171	河川区上層	栗	胴径44	赤色	全周		
172	河川区上層	栗	胴径43	褐色	全周		
173	河川区上層	栗	胴径36	暗褐色/褐色	全周	くほみ成	
174	河川区上層	栗	胴径34	黒褐色、褐色	全周		
175	河川区上層	栗	胴径44	暗褐色/淡褐色	全周		
176	河川区上層	栗	胴径60	暗褐色/淡褐色	全周		
177	河川区上層	栗	胴径34	淡褐色	全周		
178	河川区上層	栗	胴径28	淡茶褐色/淡褐色	2/3		
179	河川区上層	栗	胴径30	淡茶褐色	全周		
180	河川区上層	栗	胴径40	淡茶褐色	全周		
181	河川区上層	栗	胴径25	淡茶褐色	全周	内外同糖付着	
182	河川区上層	栗	胴径18	淡茶褐色/暗褐色	全周		
183	河川区上層	栗	胴径13	淡茶褐色/暗褐色	1/2		
184	河川区上層	栗	胴径88	淡茶褐色	全周	無糖	

古墳 第137～161図

番号	遺構	跡層	法長 (m)	色層 (外周/内面)	遺存	層	考
185	河川区上層	高塚	口径282 直径164 径高178	赤褐色	遺かし孔は偶つち1個、径6～8mm	1/3	
186	河川区上層	高塚	口径300	赤褐色	環部	3/4	
187	河川区上層	高塚		赤褐色、淡褐色	環部	1/5	
188	河川区上層	高塚		淡褐色、暗褐色	胴部全周、環部は小片 (1/4)	全周	
189	河川区上層	高塚		赤褐色	脚部	全周	
190	河川区上層	高塚		淡褐色、赤褐色	胴部、遺かし孔3残存	全周	
191	河川区上層	高塚		淡褐色	胴部	全周	
192	河川区上層	高塚		淡褐色	胴部	全周	
193	河川区上層	高塚		淡茶褐色、暗褐色	全周	全周	
194	河川区上層	高塚		赤褐色、暗褐色	胴部	2/3	
195	河川区上層	高塚	直径180	赤褐色	胴部、遺かし孔1残存	1/3	
196	河川区上層	高塚	直径170	赤褐色	胴部、遺かし孔15残存	全周	
197	河川区上層	高塚	直径136	赤褐色	内外同一部厚度	全周	
198	河川区上層	高塚	直径169	赤褐色	遺かし孔4、径6～7mm	全周	
199	河川区上層	高塚		赤褐色	胴部	1/2全周	
200	河川区上層	高塚		赤褐色	外縁排頭正気	部分全周	
201	河川区上層	高塚	つまみ柄55	淡赤褐色、淡黄褐色	淡赤褐色 (少)	全周	
202	河川区上層	高塚	直径208	淡褐色	淡赤褐色	1/7	
203	河川区上層	高塚	直径217 直径179	淡褐色	外周工具によるキズ3個	全周	
204	河川区上層	高塚	直径180 直径161	淡茶褐色	外周厚付着	全周	
205	河川区上層	高塚	直径189 直径162	黄褐色	外周厚付着、環部正気	1/7	
206	河川区上層	高塚	直径179 直径159	黄褐色	外周厚付着、環部正気	1/7	
207	河川区上層	高塚	直径157 直径149	淡褐色	環部	1/6	
208	河川区上層	高塚	口径 (357)	淡褐色	環部	1/11	
209	河川区上層	高塚	直径184 直径154	茶褐色	外縁一部厚付着、	1/4	
210	河川区上層	高塚	直径167 直径140	茶褐色	外周厚付着	1/5	
211	河川区上層	高塚	直径163 直径129	赤褐色	外周厚付着	1/2	
212	河川区上層	高塚	直径60	淡褐色	環部	1/2	
213	河川区上層	高塚		赤褐色	全周	全周	
214	河川区上層	高塚		赤褐色	全周	全周	
215	河川区上層	高塚		赤褐色	全周	全周	
216	河川区上層	高塚		淡褐色	全周	全周	

番号	遺構	跡層	法長 (m)	色層 (外周/内面)	遺存	層	考
1	ST01	壘	口径248 直径120	赤褐色	壘	1/6	環部5、高部正気、環部正気
2	ST01	壘	口径160	赤褐色	壘	1/4	環部9
3	ST01	壘	口径162 直径138	赤褐色	壘	1/5	環部7、指部正気
4	ST01	壘	口径170	赤褐色	壘	1/8	環部67、外周厚付着
5	ST01	壘	口径190 直径160	赤褐色	壘	1/7	環部8、外周厚付着、指部正気
6	ST01	壘	口径148 直径118	赤褐色	壘	1/4	環部12、指部正気
7	ST01	壘	口径160 直径130	赤褐色	壘	小片	環部27、指部正気、外周厚付着
8	ST01	壘	口径172 直径144	赤褐色	壘	1/6	環部87、外周厚付着、指部正気
9	ST01	壘	口径172 直径144	赤褐色	壘	1/4	環部66、環部正気
10	ST01	壘	口径174 直径150	赤褐色	壘	1/2	環部66、環部正気
11	ST01	壘	口径198 直径164	赤褐色	壘	1/6	環部8、環部正気
12	ST01	壘	口径192 直径168	赤褐色	壘	1/5	環部8、環部正気、指部正気
13	ST01	壘	口径208 直径180	赤褐色	壘	小片	環部9、指部正気
14	ST01	壘	口径236 直径180	赤褐色	壘	1/8	環部9、指部正気
15	ST01	壘	口径240 直径212	赤褐色	壘	1/8	環部8
16	ST01	壘	口径146	赤褐色	壘	1/8	外周厚付着
17	ST01	壘	口径144 直径124	赤褐色	壘	1/4	外周厚付着
18	ST01	壘	口径146 直径126	赤褐色	壘	1/5	外周厚付着
19	ST01	壘	口径112 直径122	赤褐色	壘	1/6	外周厚付着
20	ST01	壘	口径164 直径132	赤褐色	壘	1/8	外周厚付着
21	ST01	壘	口径176 直径154	赤褐色	壘	1/8	外周厚付着
22	ST01	壘	口径186 直径168	赤褐色	壘	1/6	外周厚付着
23	ST01	壘	口径214 直径184	赤褐色	壘	1/8	外周厚付着
24	ST01	壘	口径172 直径152	赤褐色	壘	1/7	外周厚付着
25	ST01	壘	口径170 直径148	赤褐色	壘	1/8	外周厚付着
26	ST01	壘	口径166 直径138	赤褐色	壘	1/7	外周厚付着
27	ST01	壘	口径156 直径138	赤褐色	壘	1/7	外周厚付着
28	ST01	壘	口径122 直径104	赤褐色	壘	1/4	環部正気
29	ST01	壘	口径148 直径126	赤褐色	壘	1/5	環部正気
30	ST01	壘	口径162 直径136	赤褐色	壘	1/8	環部正気
31	ST01	壘	口径142 直径128	赤褐色	壘	1/2	環部正気
32	ST01	壘	直径16	赤褐色	壘	全周	小樽正気
33	ST01	壘	直径16	赤褐色	壘	全周	小樽正気
34	ST01	壘	直径168 直径140	赤褐色	壘	1/8	内外環赤影痕
35	ST01	壘	口径174	赤褐色	壘	1/3	内外環赤影痕
36	ST01	壘	直径182	赤褐色	壘	小片	外周厚付着
37	ST01	壘	直径86	赤褐色	壘	小片	環部正気
38	ST01	壘	直径56	赤褐色	壘	1/2	環部正気
39	ST01	壘	直径105 直径105 直径105	赤褐色	壘	全周	環部正気
40	ST01	壘	直径300 直径300	赤褐色	壘	1/2	内外環と6、一部赤影痕

番号	型番	図様	法京 (mm)	色調 (外側/内側)	透 存	備 考
41	ST01	鉄製衝 型径283底径59 器高354	口径309 器径102	茶褐色、 淡茶褐色/褐色	ほぼ完 成	4段口縁
42	ST01	壺	口径280 器径220	淡茶褐色/褐色	1/2	口縁部に外文
43	ST01	底皿	口径70	淡茶褐色/褐色	1/6	42と同一図様
44	ST01	高杯	口径186	茶褐色	1/4	
45	ST01	高杯	口径170	淡茶褐色	全周	
46	ST01	高杯	口径254	淡茶褐色	1/4	
47	ST01	高杯	口径116	茶褐色	1/4	
48	ST01	高杯	口径182	茶褐色	1/7	内外両面彫文、面取り
49	ST01	高杯	口径177	淡茶褐色	1/4	外周赤彩痕
50	ST01	高杯		茶褐色	全周	台付き鉢状
51	ST01	高杯	口径120	褐色	1/3	
52	ST01	高杯	口径106	淡茶褐色	全周	脚盤部
53	ST01	高杯	口径120	淡茶褐色	全周	
54	ST01	高杯	口径120	淡茶褐色	全周	
55	ST01	高杯	口径150	淡茶褐色	全周	脚盤のみ全周
56	ST01	高杯	口径82	淡茶褐色	1/2	
57	ST01	高杯	口径87	茶褐色	小片	脚縁面に節目文様
58	ST01	高杯	口径114	淡茶褐色	1/8	新しい成跡面に器底具の刺突痕状文様
59	ST01	差	口径25 器高43	茶褐色	全周	外周赤彩痕
60	ST01	差	口径95 器高43	淡茶褐色	全周	つまみ足31
61	ST01	差	口径176	茶褐色	1/8	脚縁部4、底状注痕
62	ST02	差	口径198	茶褐色	1/4	脚縁部5、外周赤彩痕
63	ST02	差	口径214 器径178	茶褐色	1/8	脚縁部6
64	ST02	差	口径242	褐色	小片	器底彫文、脚縁部
65	ST02	差	口径146 器径120	淡茶褐色	1/4	外周赤彩痕
66	ST02	差	口径133 器径116	淡茶褐色	1/6	
67	ST02	差	口径138 器径132	茶褐色	1/7	外周赤彩痕
68	ST02	差	口径168 器径142	茶褐色	1/8	底状工具のナズ
69	ST02	差	口径132 器径132	褐色	1/8	底状工具のナズ
70	ST02	差	口径127	淡茶褐色	1/3	
71	ST02	差	口径183 器径102	茶褐色/淡茶褐色	全周	
72	ST02	差	口径220 器径106	淡茶褐色/褐色	全周	
73	ST02	差	口径200	淡茶褐色	全周	
74	ST02	差	口径286	茶褐色	1/3	口縁部に器高3本、赤彩痕4、9、 脚部に沈線4、外周赤彩痕
75	ST02	高杯		茶褐色	全周	
76	ST02	高杯	口径100	茶褐色	全周	
77	ST02	高杯	口径192	茶褐色	1/3	脚縁部5、外周赤彩痕
78	ST03	差	口径226 底径51	茶褐色	全周	
79	ST04	差	口径132 器径114	淡茶褐色	1/5	脚縁部5

番号	型番	図様	法京 (mm)	色調 (外側/内側)	透 存	備 考
80	ST04	差	口径168 器径111	淡茶褐色	1/5	脚縁部7、底状具の爪痕少 外面赤彩痕、外周赤彩痕多い、脚 縁部赤彩痕不明
81	ST04	差	口径177	茶褐色	1/7	
82	ST04	差	口径183	淡茶褐色	小片	
83	ST04	差	口径183 器径146	淡茶褐色	1/6	
84	ST04	差	口径194	淡茶褐色	小片	
85	ST04	差	口径151	淡茶褐色/褐色	1/7	内周赤彩痕、脚縁部1-2、器底 正痕
86	ST04	底皿	口径30	褐色/褐色	全周	外周赤、底状物、くぼみ痕
87	ST04	底皿	口径46	褐色	全周	
88	ST04	底皿	口径70	褐色/淡茶褐色	1/3	
89	ST04	高杯	口径110	茶褐色/褐色	1/4	外周一部赤彩痕、脚縁部6
90	ST04	差	口径115 器径101	茶褐色	1/2	外周正痕
91	ST04	高杯	口径38	淡茶褐色	全周	外周面に正痕
92	ST04	高杯	口径38	淡茶褐色/褐色	全周	脚部
93	ST04	高杯	口径132 器径220	茶褐色	ほぼ完 成	
94	ST04	高杯	口径52	淡茶褐色	全周	
95	ST04	高杯	口径133	茶褐色	全周	
96	ST04	高杯	口径182 器径164	淡茶褐色	1/2	外周赤彩痕
97	ST05	差	口径176 器径38	淡茶褐色	1/5	脚縁部5、外周赤彩痕
98	ST05	差	口径176 器径142	淡茶褐色	1/5	脚縁部5、外周赤彩痕
99	ST05	差	口径158 器径107	淡茶褐色	1/5	脚縁部5、外周赤彩痕
100	ST05	差	口径164 器径120	淡茶褐色	小片	脚縁部→ナズ、脚縁部正痕
101	ST05	差	口径140 器径120	淡茶褐色	小片	
102	ST05	差	口径134 器径106	淡茶褐色	小片	外周赤彩痕
103	ST06	差	口径166 器径132	淡茶褐色	1/7	脚縁部7
104	ST06	差	口径170 器径150	茶褐色	小片	脚縁部8
105	ST06	差	口径182	淡茶褐色	1/6	脚縁部6
106	ST06	差	口径140 器径96	茶褐色	1/7	脚縁部8
107	ST06	差	口径150 器径113	淡茶褐色	1/7	脚縁部7
108	ST06	差	口径142 器径114	茶褐色	1/4	脚縁部8、器底外周赤彩痕
109	ST06	差	口径166 器径118	淡茶褐色	1/6	脚縁部7、脚縁部正痕
110	ST06	差	口径174 器径137	淡茶褐色	小片	
111	ST06	差	口径172 器径138	茶褐色	1/5	脚縁部7、脚縁部正痕、全体の1層厚
112	ST06	差	口径152 器径114	茶褐色	1/4	脚縁部5
113	ST06	差	口径158 器径125	淡茶褐色	1/7	脚縁部5
114	ST06	差	口径182 器径142	茶褐色	1/7	脚縁部3、外周赤彩痕
115	ST06	差	口径167 器径133	淡茶褐色	全周	脚縁部8
116	ST06	差	口径194 器径164	淡茶褐色	1/8	脚縁部正痕
117	ST06	差	口径190 器径140	淡茶褐色	小片	脚縁部8、脚縁部正痕
118	ST06	差	口径202 器径151	淡茶褐色	1/8	脚縁部9

番号	遺構	法量 (m)	位置 (外/内/面)	遺存	備	考
119	ST06	口径200 胴径150	淡褐色	1/6	胴門縁6、胎面片巻、胴部付着	
120	ST06	口径200 胴径164	淡褐色	1/5		
121	ST06	口径220 胴径187	赤褐色	小片	胴口縁8	
122	ST06	口径270 胴径200	茶褐色	小片	胴口縁10	
123	ST06	口径304 胴径220	茶褐色 磨褐色	小片	胴口縁8	
124	ST06	口径246 胴径166	磨褐色	1/7	外面片付着	
125	ST06	口径154 胴径144	磨褐色	1/3		
126	ST06	口径164 胴径146	磨褐色	1/7	外面片付着	
127	ST06	口径158 胴径123	黒茶褐色	1/3	外面片付着、胎面片巻	
128	ST06	口径172 胴径146	淡褐色	1/7	外面片付着	
129	ST06	口径180 胴径134	淡褐色	1/7	外面片付着	
130	ST06	口径220 胴径188	淡褐色	1/8		
131	ST06	口径242 胴径202	淡褐色	1/8	胎面片巻、内外面片巻	
132	ST06	口径170 胴径156	磨褐色	1/7	外面片付着、内外面片巻	
133	ST06	口径160 胴径142	淡褐色	1/8	胴口縁9	
134	ST06	口径138 胴径120	淡褐色	1/2		
135	ST06	胴径218	淡褐色	全周		
136	ST06	底径66	淡褐色	全周		
137	ST06	底径75	磨褐色	全周		
138	ST06	胎口部 底径130	淡褐色	1/6	全体的に磨許す寸心	
139	ST06	底径12	淡褐色	全周	穿孔径5mm	
140	ST06	底径13	淡褐色	全周	穿孔径11mm	
141	ST06	口径152 胴径143	淡褐色	1/3	胎面片巻、胎面	
142	ST06	口径154 胴径128	赤褐色	全周		
143	ST06	口径160	淡褐色	1/7		
144	ST06	口径168	淡褐色	1/3	外面片巻具の文様	
145	ST06		淡褐色	小片		
146	ST06	口径196 胴径130	磨褐色	全周		
147	ST06	口径119	淡褐色	1/2		
148	ST06	口径160	淡褐色	1/6	全体的に磨許す寸心	
149	ST06	口径144 胴径128	赤褐色	1/7		
150	ST06	口径108	磨褐色	1/5		
151	ST06	口径158	淡褐色	1/3	内面片巻	
152	ST06	口径39 胴径76 底径20 胎高57	磨褐色	完	胴部に穿孔2	
153	ST06	口径213	磨褐色	1/4		
154	ST06	口径11	赤褐色	1/2	外面片巻	
155	ST06	口径4	赤褐色	1/2	穿孔1	
156	ST06	胴径130	磨褐色	全周	穿孔1	
157	ST06	胎口部 底径140	赤褐色	全周	穿孔1	
158	ST06	胎口部 底径27	磨褐色	全周	穿孔3	
159	ST06	口径103	赤褐色	1/2		

番号	遺構	法量 (m)	位置 (外/内/面)	遺存	備	考
160	ST06	胴径205	淡褐色	小片	胎口部	胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
161	ST06	胴径185	淡褐色	小片	胎口部	胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
162	ST06	口径139 胴径116 胎口部底径23	淡褐色	1/3		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
163	ST06	口径177	磨褐色	1/4		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
164	ST06	口径135 胴径130	淡褐色/磨褐色	全周		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
165	ST06	つまみ部底径32	磨褐色	全周		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
166	ST06	つまみ部底径29	赤褐色	1/2		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
167	ST06	磨褐色	磨褐色	全周		胎面片巻、胎面片巻、胎面片巻
168	ST07	口径166 胴径144	淡褐色	小片	胎口縁7	
169	ST07	口径170 胴径146	淡褐色	小片	胎口縁6	
170	ST07	口径160 胴径134	淡褐色 磨褐色	1/6	胎口縁5-6	
171	ST07	口径154 胴径123	淡褐色	小片	胎口縁7	
172	ST07	底径144	淡褐色	小片	胎口縁6 (赤気不明)	
173	ST07	口径180 胴径137	淡褐色 磨褐色	1/2	胎口縁9	
174	ST07	口径216 胴径188	磨褐色	小片	胎口縁7	
175	ST07	口径166 胴径138	淡褐色	1/5	胎口縁12	
176	ST07	口径178 胴径150	淡褐色	1/4	胎口縁外周片巻	
177	ST07	口径142 胴径110	赤褐色	1/5	胎口縁12	
178	ST07	口径130 胴径96	淡褐色	1/2	胎口縁12	
179	ST07	底径42	赤褐色	1/2	胎口縁外周片巻	
180	ST07	口径197 胴径99	磨褐色	14ヶ所		
181	ST07	胎口部 底径148	淡褐色	1/5	胎口縁外周片巻	
182	ST07	胎口部 胎口部底径140	淡褐色	1/5	胎口縁外周片巻	
183	ST07	胎口部 底径120	淡褐色	1/3	胎口縁外周片巻	
184	ST07	胎口部 胎口部底径44	磨褐色	全周	胎口縁外周片巻	
185	ST08	口径132 胴径112	磨褐色	1/4	胎口縁7、底径巻、胎面片巻	
186	ST08	口径132	磨褐色	1/6	胎口縁8、底径巻、胎面片巻	
187	ST08	口径156	磨褐色	1/8	胎口縁6	
188	ST08	口径156 胴径128	淡褐色	1/6	胎口縁6	
189	ST08	口径170 胴径141	磨褐色	1/3	胎口縁4	
190	ST08	口径150 胴径114	磨褐色	1/8	胎口縁4	
191	ST08	口径170 胴径114	磨褐色	1/8	胎口縁3、底径巻	
192	ST08	口径158 胴径116	赤褐色	1/6	胎口縁7、底径巻	
193	ST08	口径156 胴径115	赤褐色	小片	胎口縁9	
194	ST08	口径134 胴径118	赤褐色	1/8	胎口縁8、底径巻	
195	ST08	口径226 胎口部底径184	淡褐色	1/8	胎口縁7、胎面片巻	
196	ST08	口径218	磨褐色	1/8	胎口縁10、胎面片巻	
197	ST08	口径236	淡褐色	1/8	胎口縁6	
198	ST08	口径197 胴径136	淡褐色	1/4	胎口縁4	

番号	遺構	器種	法相 (mm)	色調 (外面/内面)	遺存	備考	号
199 ST08	底部	胴径118 底径34		紫褐色	1/2		
200 ST08	胴	口径170 胴径150		紫褐色	1/8	胴部瓦葺	
201 ST08	胴	口径154		紫褐色	1/6		
202 ST08	胴	口径156 胴径128		紫褐色	1/8		
203 ST08	胴	口径180 胴径150		紫褐色	1/6		
204 ST08	胴	口径170 胴径144		紫褐色	1/8		
205 ST08	胴	口径156		紫褐色	1/6		
206 ST08	胴	口径182 胴径155		紫褐色	1/8	胴部瓦葺	
207 ST08	大底蓋	口径110		紫褐色	1/6	(小型及底蓋)	
208 ST08	蓋	口径152		紫褐色	1/8		
209 ST08	蓋	口径110		紫褐色	1/8	(小径及底蓋か?)	
210 ST08	蓋	口径148 胴径112		紫褐色	1/6		
211 ST08	蓋	口径160 胴径138		紫褐色	小片		
212 ST08	蓋	胴径92		紫褐色	1/4		
213 ST08	台部	底径69		淡黄褐色	全周		
214 ST08	沖杯	口径214		赤紫色	1/4	赤紫色	
215 ST08	沖杯	口径164		淡紫褐色	1/4		
216 ST08	沖杯	口径200		紫色	1/4		
217 ST08	沖杯	口径106		紫褐色	全周		
218 ST08	鉢杯			淡紫褐色	全周		
219 ST08	鉢杯			赤褐色	全周		
220 ST08	蓋	口径33		暗褐色	全周		
221 ST09	蓋	口径163 胴径130		淡褐色	1/7	胴部瓦葺	
222 ST09	蓋	口径175 胴径141		淡紫褐色	小片	胴部瓦葺8~9、胴部瓦葺	
223 ST09	蓋	口径167 胴径137		淡紫褐色	1/3	胴部瓦葺、指部瓦葺	
224 ST09	蓋	口径162 胴径140		紫褐色	1/7	胴部瓦葺、外周部瓦葺	
225 ST09	蓋	口径182 胴径158		紫褐色	1/7	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
226 ST09	蓋	口径180 胴径145		淡紫褐色	小片	胴部瓦葺0、外周部瓦葺、指部瓦葺	
227 ST09	蓋	口径189 胴径137		淡紫褐色	小片	胴部瓦葺0、外周部瓦葺	
228 ST09	蓋	口径187 胴径156		淡褐色	1/4	胴部瓦葺、外周部瓦葺	
229 ST09	蓋	胴径229		紫褐色	小片	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
230 ST09	蓋	口径182 胴径150		紫褐色	小片	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
231 ST09	蓋	口径175 胴径151		淡褐色	1/8	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
232 ST09	蓋	口径177 胴径153		紫褐色	1/6	胴部瓦葺、指部比表か?、全体に赤	
233 ST09	蓋	口径194 胴径163		灰褐色	1/5	胴部瓦葺0、外周部瓦葺、指部瓦葺	
234 ST09	蓋	口径184 胴径149		淡紫褐色	1/6	胴部瓦葺0、外周部瓦葺、指部瓦葺	
234 ST09	蓋	口径186 胴径132		黄褐色	1/6	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
235 ST09	蓋	口径198 胴径163		紫色	1/5	胴部瓦葺	
236 ST09	蓋	口径201 胴径162		乳白褐色	小片	胴部瓦葺0、指部瓦葺	
237 ST09	蓋	口径182 胴径149		淡紫色	1/8	胴部瓦葺0、指部瓦葺	
238 ST09	蓋	口径200 胴径168		淡紫褐色	1/8	胴部瓦葺0、指部瓦葺	
239 ST09	蓋	口径227		淡紫褐色	小片	胴部瓦葺0、指部瓦葺	

番号	遺構	器種	法相 (mm)	色調 (外面/内面)	遺存	備考	号
240 ST09	蓋	口径214 胴径186		淡灰褐色	1/6	胴部瓦葺、指部瓦葺	
241 ST09	蓋	口径226 胴径194		淡灰褐色	小片	胴部瓦葺、指部瓦葺	
242 ST09	蓋	口径279 胴径251		淡褐色	小片	胴部瓦葺、指部瓦葺、1段外周か? 目のこぼ	
243 ST09	蓋	口径193 胴径171		淡褐色	1/7		
244 ST09	蓋	口径185 胴径166		紫褐色	1/3		
245 ST09	蓋	口径168 胴径130		紫褐色	1/6	外周部瓦葺	
246 ST09	蓋	口径170 胴径128		淡褐色	1/6	指部瓦葺、外周部瓦葺	
247 ST09	蓋	口径141		淡褐色	1/2		
248 ST09	蓋	口径129 胴径99		淡褐色	1/2	外周部赤紫色	
249 ST09	鉢杯	口径200		淡褐色	1/4	鉢部	
250 ST09	沖杯	口径118		紫色	1/2	脚部、穿孔2箇所1対で2段	
251 ST09	沖杯	口径108		淡褐色	1/2	脚部	
252 ST09	沖杯	胴径40		褐色	全周	脚部	
253 ST09	沖杯	胴径33		淡褐色	全周	脚部、穿孔3か?	
254 ST09	沖杯	胴径33		淡褐色	全周	脚部、穿孔1か?	
255 ST09	蓋	胴径152		褐色	1/3	脚部、穿孔4か?	
257 ST09	蓋	口径176		淡褐色	1/2	蓋部器台、蓋部器台か1穴 (4組8穴)	
258 ST09	器台	口径186		赤褐色	1/6	蓋部器台、内外面赤紫色、蓋部器台、蓋部器台か1穴 (径218か)	
259 ST09	器台	全周径136		淡褐色	全周	蓋部器台、蓋部器台か1穴 (径10か)	
260 ST09	蓋	つまみ径28 口径102		乳白褐色	1/2	全体に赤土	
261 ST09	蓋	つまみ径138 口径102		褐色	1/2		
262 ST10	蓋	口径138 胴径129		褐色	1/6	外周部瓦葺	
263 ST10	蓋	口径167 胴径139		褐色	小片	胴部瓦葺、指部瓦葺	
264 ST10	蓋	口径161 胴径139		淡褐色	1/8	胴部瓦葺	
265 ST10	蓋	口径193		淡褐色	小片	胴部瓦葺	
266 ST10	蓋	口径173		淡褐色	小片	胴部瓦葺	
267 ST10	蓋	口径112 胴径94		淡紫褐色	1/2	胴部瓦葺	
268 ST10	蓋	口径140 胴径117		淡紫褐色	1/7	胴部瓦葺、指部瓦葺	
269 ST10	蓋	口径146 胴径129		淡紫褐色	1/8	胴部瓦葺、外周部瓦葺、指部瓦葺	
270 ST10	蓋	口径160 胴径141		淡褐色	1/8	胴部瓦葺	
271 ST10	蓋	口径167 胴径141		淡褐色	小片	胴部瓦葺	
272 ST10	蓋	口径165		淡灰褐色	小片	胴部瓦葺、外周部瓦葺	
273 ST10	蓋	口径176 胴径146		淡褐色	1/8	胴部瓦葺	
274 ST10	蓋	口径176 胴径146		褐色	1/2	胴部瓦葺、指部瓦葺	
275 ST10	蓋	口径171		淡褐色	1/7	胴部瓦葺6~8	
276 ST10	蓋	口径163 胴径127		褐色	1/6	胴部瓦葺、指部瓦葺	
277 ST10	蓋	口径190 胴径156		淡褐色	1/8	胴部瓦葺	
278 ST10	蓋	口径188 胴径157		淡褐色	1/5	胴部瓦葺	

番号	造機	口径 (mm)	色調 (外側/内側)	遺存	備考
279	ST10	美	口径137 胴径128	小片	銀白緑色、外部黒付着
280	ST10	美	口径152 胴径137	1/8	銀白緑色、指頭圧痕
281	ST10	美	口径165 胴径137	1/6	銀白緑色、指頭圧痕、外部黒付着
282	ST10	美	口径170 胴径145	1/6	銀白緑色、指頭圧痕
283	ST10	美	口径164 胴径133	1/3	銀白緑色、外部黒付着、指頭圧痕、全体に磨耗
284	ST10	美	口径187 胴径143	小片	銀白緑色、指頭圧痕、外部黒付着
285	ST10	美	口径177 胴径139	1/4	銀白緑色、指頭圧痕、外部黒付着
286	ST10	美	口径167 胴径145	小片	銀白緑色、指頭圧痕
287	ST10	美	口径138 胴径131	1/8	銀白緑色、指頭圧痕
288	ST10	美	口径181 胴径151	小片	銀白緑色、指頭圧痕
289	ST10	美	口径191 胴径165	小片	銀白緑色、指頭圧痕
290	ST10	美	口径190 胴径156	1/8	銀白緑色、指頭圧痕
291	ST10	美	口径186 胴径151	1/5	銀白緑色、指頭圧痕、外部黒付着
292	ST10	美	口径189 胴径166	小片	銀白緑色、指頭圧痕
293	ST10	美	口径183 胴径139	1/4	銀白緑色、指頭圧痕
294	ST10	美	口径200 胴径165	1/6	銀白緑色、指頭圧痕
295	ST10	美	口径246 胴径214	1/6	銀白緑色、外部黒付着
296	ST10	美	口径261	1/7	銀白緑色、外部黒付着
297	ST10	美	口径275 胴径239	小片	銀白緑色、指頭圧痕、外部黒付着
298	ST10	美	口径24 胴径97	1/7	銀白緑色、指頭圧痕
299	ST10	美	口径154	1/6	銀白緑色、2
300	ST10	美	口径134 胴径125	1/8	外部黒付着
301	ST10	美	口径41 胴径130	1/8	外部黒付着
302	ST10	美	口径48	1/8	外部黒付着
303	ST10	美	口径128 胴径122	1/8	外部黒付着
304	ST10	美	口径154 胴径147	1/8	外部黒付着
305	ST10	美	口径170 胴径169	小片	外部黒付着
306	ST10	美	口径171 胴径155	1/8	外部黒付着
307	ST10	美	口径195 胴径186	小片	外部黒付着
308	ST10	美	口径192 胴径178	小片	外部黒付着
309	ST10	美	口径208 胴径189	1/6	外部黒付着
310	ST10	美	口径192 胴径131	1/8	外部黒付着
311	ST10	美	口径168	1/8	外部黒付着
312	ST10	美	口径138 胴径129	1/2	外部黒付着
313	ST10	美	口径159 胴径133	1/5	外部黒付着
314	ST10	美	口径173 胴径145	1/2	全体に磨耗
315	ST10	美	口径167 胴径138	全周	外部黒付着
316	ST10	美	口径162 胴径137	1/8	外部黒付着
317	ST10	美	口径168 胴径136	1/6	外部黒付着
318	ST10	美	口径180 胴径156	1/7	外部黒付着
319	ST10	美	口径182 胴径167	1/8	外部黒付着
320	ST10	美	口径148 胴径141	1/5	外部黒付着

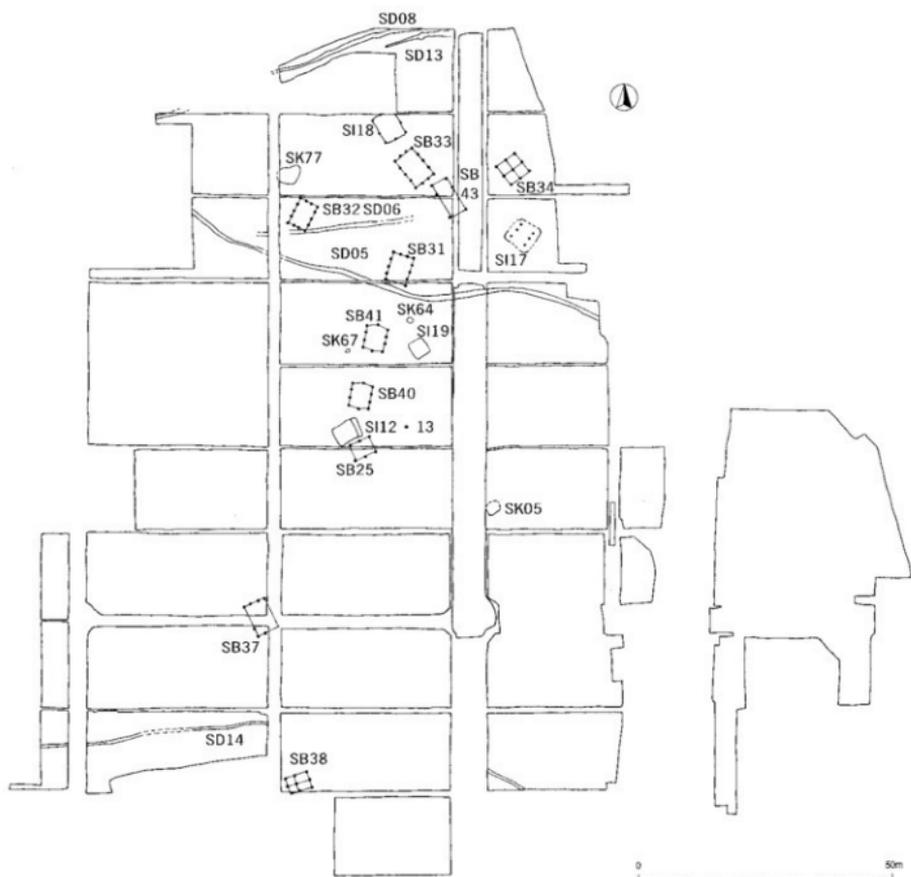
番号	造機	口径 (mm)	色調 (外側/内側)	遺存	備考
321	ST10	美	口径160 胴径140	1/5	淡灰褐色
322	ST10	美	口径140 胴径127	1/4	淡灰褐色
323	ST10	美	口径154 胴径131	1/2	外部黒付着
324	ST10	美	口径170 胴径147	1/2	淡褐色 (灰石と思われるもの混入)
325	ST10	美	口径19 胴径19	全周	穿孔
326	ST10	美	口径37 胴径37	1/4	淡褐色
327	ST10	美	口径148	1/6	淡褐色
328	ST10	美	口径132 胴径129	1/4	淡褐色
329	ST10	美	口径126 胴径90	1/5	銀白緑色
330	ST10	美	口径136 胴径110	1/4	淡灰褐色
331	ST10	美	口径78 胴径119 器高143 胴径36	完	裏面緑に穿孔1
332	ST10	美	口径95 胴径138 器高188	完	
333	ST10	美	口径136	全周	淡灰褐色
334	ST10	美	口径159 胴径222 器高242	完	淡褐色
335	ST10	美	口径168 胴径279 器高310 胴径60	完	淡褐色
336	ST10	美	口径237	1/6	褐色
337	ST10	美	口径201	全周	環部
338	ST10	美	口径201	全周	淡灰褐色
339	ST10	美	口径201	1/2	淡灰褐色
340	ST10	美	口径102	1/4	褐色
341	ST10	美	口径140	1/5	淡褐色
342	ST10	美	口径135	全周	淡褐色
343	ST10	美	口径158	1/2	褐色
344	ST10	美	口径154 (154)	全周	褐色
345	ST10	美	口径32	1/3	淡褐色
346	ST10	美	口径76 胴径76 口径79	全周	淡褐色
347	ST10	美	口径134 胴径115	1/7	淡褐色
348	ST10	美	口径153	1/3	褐色
349	ST10	美	口径31 胴径31 口径45	1/2	茶褐色、褐色
350	ST10	美	口径98 胴径98 口径45	褐色	はげけ
351	ST11	美	口径164 胴径142	1/4	淡褐色、暗褐色
352	ST11	美	口径171 胴径152	1/4	暗褐色、灰褐色
353	ST11	美	口径170 胴径136	1/2	淡褐色
354	ST11	美	口径170 胴径136	1/6	淡褐色
355	ST11	美	口径170 胴径140	小片	淡褐色
356	ST11	美	口径184 胴径156	1/6	茶褐色

番号	遺構	法量 (m)	色調 (外面/内面)	遺存	備考
357 ST11	礎	口径 74 高さ 16	淡褐色	1/7	腰凹縁、外面残存者
358 ST11	礎	口径 180 高さ 148	茶褐色	小片	外面残存者
359 ST11	礎	口径 360 高さ 228	灰褐色	小片	腰凹縁
360 ST11	礎	口径 68 高さ 12	淡褐色	1/6	
361 ST11	礎	口径 50 高さ 13	淡褐色	1/4	
362 ST11	礎	口径 26 高さ 102	淡赤褐色	1/6	
363 ST11	礎	口径 62 高さ 144	暗褐色	1/6	階層に剥きのキズ
364 ST11	礎	口径 72 高さ 108	淡赤褐色	1/6	
365 ST11	礎	口径 72	淡褐色	1/7	有段山縁装飾、口径に垂直文字
366 ST11	底瓦	階径 270	灰褐色	全周	内外面装飾部割着
367 ST11	高杯	口径 38	灰褐色	2/3	高杯杯縁
368 ST11	高杯	口径 190 高さ 128 器高 147	淡橙褐色 灰褐色	1/2	胴部の穿孔 3ヶ所
369 ST11	高杯	階径 52	灰褐色	全周	高杯脚部、胴部の穿孔 4ヶ所
370 ST11	脚部	階径 112	暗褐色	全周	
371 ST11	脚部	階径 108	暗褐色	1/3	
372 ST11	鉢	口径 142 高さ 21 器高 90	淡橙褐色	1/2	外周縁付着、全体に摩耗
373 ST11	鉢	口径 88 高さ 33 器高 37	淡橙褐色	ほぼ完	小笠土部、全体に磨耗、外底装飾 顕存
374 ST11	鉢	口径 68 高さ 38 高さ 32	褐色	ほぼ完	腰凹縁、斜方向の傷み
375 ST11	壺	高さ 142 器高 62 つまみ径 42	淡褐色	1/5	
376 ST12	壺	口径 192 高さ 56	淡橙褐色	小片	
377 ST12	壺	口径 164 高さ 42	淡褐色	1/3	
378 ST12	壺	高さ 100	赤褐色	全周	丸底
379 ST12	壺	階径 52 高さ 116	赤褐色	全周	全体に滑磨
380 ST12	鉢	口径 88 高さ 45	橙褐色	ほぼ完	小笠土部
81 ST13	壺	口径 120	褐色	1/4	磨耗が強い
382 ST13	壺	口径 154	淡黄褐色	1/5	腰凹縁、指痕正直
383 ST13	壺	口径 (73)	淡褐色、 淡橙褐色 淡黄褐色	小片	指痕付着、腰凹縁
384 ST13	壺	口径 (80)	褐色	小片	指痕正直
385 ST13	壺	口径 186	灰褐色、暗赤褐色/ 黄褐色、暗褐色	1/3	腰凹縁、指痕正直
386 ST13	壺	口径 198	赤褐色	1/7	腰凹縁
387 ST13	壺	口径 201	赤褐色	1/7	腰凹縁、指痕正直
389 ST13	壺	口径 (210)	淡赤褐色、淡褐色	小片	腰凹縁、指痕正直
390 ST13	壺	口径 (210)	淡赤褐色	小片	外面残存者
391 ST13	壺	口径 (225)	褐色/淡褐色	1/8	腰凹縁、指痕正直
391 ST13	壺	口径 (212)	淡黄褐色	小片	腰凹縁
392 ST13	壺	口径 (274)	淡黄褐色	小片	腰凹縁

番号	遺構	法量 (m)	色調 (外面/内面)	遺存	備考
393 ST13	壺	口径 300	淡褐色/暗褐色	1/6	外周縁付着
94 ST13	壺	口径 (300)	褐色/淡黄褐色	小片	腰凹縁
395 ST13	壺	口径 (300)	褐色	小片	腰凹縁
396 ST13	壺	口径 (162)	暗褐色/赤褐色	小片	腰凹縁、指痕正直
397 ST13	壺	口径 (186)	淡褐色	小片	腰凹縁、指痕正直
398 ST13	壺	口径 (178)	淡褐色	小片	
399 ST13	壺	口径 188	淡黄褐色	1/7	
400 ST13	底瓦	底径 22	淡黄褐色	全周	
401 ST13	底瓦	底径 23	褐色	全周	
402 ST13	底瓦	底径 23	淡黄褐色/褐色	1/4	
403 ST13	壺	口径 86	淡黄褐色	1/3	
404 ST13	小皿上蓋	口径 76 高さ 62 器高 66	淡黄褐色、 淡褐色/淡褐色	1/2	
405 ST13	壺	口径 105	淡褐色	1/6	
406 ST13	壺	口径 158	淡橙褐色	1/7	
407 ST13	壺	口径 138	淡褐色	1/4	指痕正直
408 ST13	壺	口径 150	褐色	1/7	
409 ST13	壺	口径 165	淡褐色	胴部全周	口径部は小片
410 ST13	壺	口径 163	淡黄褐色	1/3	
411 ST13	台付鉢		淡黄褐色	全周	
412 ST13	高杯	口径 191	淡黄褐色/暗褐色、 淡褐色	1/5	
413 ST13	高杯脚部	階径 36	淡褐色	全周	
414 ST13	高杯脚部	階径 42	淡橙褐色/淡赤褐色	全周	
415 ST13	高杯脚部	階径 48	淡黄褐色/褐色	全周	
416 ST13	高杯脚部	階径 138	淡黄褐色	1/6	
417 ST13	高杯脚部	階径 117	淡黄褐色	1/2	
418 ST13	脚部	階径 160	淡褐色	1/4	通かし孔、残存
419 ST13	台付	口径 172	淡黄褐色	1/7	
420 ST13	台付	口径 (115)	淡黄褐色	小片	
421 ST13	台付	口径 114	淡黄褐色、 黄褐色/淡褐色	1/6	
422 ST13	壺	つまみ径 29 高さ 69	淡黄褐色	ほぼ完	
423 ST13	壺	高さ 28	暗褐色	全周	
424 ST14	壺	口径 (132)	赤褐色/赤褐色	小片	腰凹縁
425 ST14	壺	口径 148	淡赤褐色/淡橙褐色	1/6	腰凹縁、指痕正直、外面残存者
426 ST14	壺		黄褐色、 暗褐色/暗褐色	1/4	
427 ST14	壺	口径 164	暗褐色	1/3	腰凹縁
428 ST14	壺	口径 (166)	暗褐色/淡橙褐色	小片	腰凹縁
429 ST14	壺	口径 150	淡褐色	1/5	外周一部残存者、腰凹縁、指痕正直
430 ST14	壺	口径 (178)	暗褐色	小片	腰凹縁、指痕正直、外面残存者

番号	規格	数量 (mm)	色澤 (外周/内周)	通存	備考
431	ST14	口径187	黒褐色/暗褐色	1/4	裏面緑、指環位置、外面保存者
432	ST14	口径 (106)	紫褐色	小片	外面保存者
433	ST14	口径 (194)	淡褐色	小片	裏面緑8、指環位置、外面保存者
434	ST14	口径311	紫褐色/淡褐色	1/4	裏面緑11、指環位置
435	ST14	口径 (340)	淡褐色	小片	
436	ST14	口径148	淡褐色	1/5	
437	ST14	口径 (208)	淡褐色	小片	
438	ST14	口径 (141)	淡褐色	小片	
439	ST14	口径 (179)	淡褐色	小片	
440	ST14	底径40	淡褐色/褐色	1/3	
441	ST14	底径35	淡褐色/褐色	1/2	内面保存者
442	ST14	底径50	褐色	1/3	
443	ST14	底径24	紫褐色	全周	
444	ST14	底径10	淡褐色/褐色	全周	
445	ST14	底径 (38)	淡褐色/暗褐色	1/2	
446	ST14	底径44	淡褐色(一部黒面)	1/2	底径穿孔径10mm
447	ST14	口径120 器高150	紫褐色	全周	
448	ST14	口径92	褐色	1/6 (底径 口径全周)	裏面緑9
449	ST14	口径156	淡褐色	1/2	
450	ST14	口径199	淡褐色/紫褐色/紫褐色	1/4	
451	ST14	口径 (200)	淡褐色	1/8	裏面緑13
452	ST14	口径 (200)	淡褐色	小片	内文1、裏面緑4
453	ST14	口径 (200)	淡褐色(一部赤)	1/6	
454	ST14	口径 (200)	淡褐色/褐色	小片	
455	ST14	口径 (200)	淡褐色/褐色	小片	
456	ST14	口径202	淡褐色	1/5	
457	ST14	口径 (256)	紫褐色	全周	
458	ST14	口径 (256)	淡褐色	全周	
459	ST14	口径398	淡褐色	全周	
460	ST14	口径394	紫褐色、 淡褐色/紫褐色	全周	透かし孔が残存
461	ST14	口径 (175)	黒褐色/淡褐色	小片	
462	ST14	口径115	淡褐色	柱状部分	
463	ST14	口径115	紫褐色/淡褐色、 紫褐色	全周	透かし孔+孔
464	ST14	口径114 底径25 器高73	紫褐色/淡褐色	口径全周	
465	ST14	口径128 底径65 器高78	淡褐色	1/2	

番号	規格	数量 (mm)	色澤 (外周/内周)	通存	備考
466	ST14	口径351	淡褐色	1/4	透かし孔
467	ST14	口径66	褐色	全周	
468	ST14	口径70	紫褐色/褐色	1/2	
469	ST15	口径177	褐色	1/5	外面緑、高化特付者、裏面緑5、指環位置
470	ST15	口径164	淡褐色/褐色	1/7	外面緑付着、裏面緑7、指環位置
471	ST15	口径181	淡褐色/暗褐色	1/7	裏面緑8、指環位置、赤色皮、薄層
472	ST15	口径173	紫褐色/褐色	1/7	外面緑付着
473	ST15	口径108	淡褐色/暗褐色	1/5	外面緑面
474	ST15	口径131	淡褐色	1/8	裏面緑6
475	ST15	口径131	淡褐色	1/7	内面一部保存者



第162図 古墳時代後期主要遺構分布図 (1/1,000)

第4節 古墳時代後期

検出した主要な遺構は、竪穴建物(SD) 5棟、掘立柱建物(SB) 10棟、土坑(SK) 4基、溝(SD) 5条、ピットなどである。遺構の分布は調査区の北部と南部の2群に分かれる。当該期に関する主要遺構の分布については第162図に示した。各遺構の規模等については遺構の一覧表を、土器については節末の一覧表を参照されたい。

1 竪穴建物

5棟の竪穴建物には、住居と推定する面積約17㎡のSI12・13と面積約30㎡前後のSI17・18がみられ、SI19は面積が約13㎡となる小屋的な建物と考えられる。

SI12・13 (第163・171図) 調査区中央部のB6区に位置する小型の竪穴建物でSI13→SI12の建替えを推察するものである。壁溝が東と南辺の一部にみられ、幅20cm、深さ5～10cmである。床面の北東側で焼上の分布を2箇所確認した。東側の焼土はSI13のもので推定している。竪1・2はSI12の覆土から出土した。

SI17 (第163・171図) 調査区北東A8区に位置する。主柱穴はP1～4で浅いP5・6は副柱と考えられる。竪穴中央部には炭化物の分布があり、この上面には鉢3が口縁部を上にする状態で自然石と砥石(第194図294)に扶まれ出土した。

SI18 (第164図) 調査区北部B9区に位置する。桁行主柱穴P1～3・6・7は壁溝に接して竪穴の外側に配置されるものでいわゆる壁柱の構造となる。棟持ち柱となる柱穴P4・5は壁溝内に位置する。P5の位置はP3～7ラインの外側となる。壁溝の幅は南東辺部が50cmと広く他の辺では20～30cmである。壁溝の深さは約10cmである。土器は細片のため図示し得なかった。

SI19 (第164・171図) B7区に位置する小型のもので壁溝が一部にみられることから竪穴建物と判断した。器種不明の須恵器4、製埴土器5は覆土から出土した。

竪穴建物一覧表

() 内は推定値

地区	地区	形状	主柱(本)	規模(m)	主柱間(m)	面積(㎡)	深さ(cm)	主軸方位	備考
SI12	B6	方形	無	4.4×4.1		17.4	6～10	N55° E	SI13を切る。
SI13	B6	方形	無	(4)×4.1		(16)	6～10	(N65° E)	
SI17	A8	隅丸方形	4	5.7×5.4	2.9～3.1	30.1	2～5	N34° E	主柱P1～4、副柱P5・6。中央には炭化物が分布し、鉢が置かれる。地床炉か。
SI18	B9	長方形	8	6.0×4.6	2.1～2.4・3.0	27.2	3	N35° W	主柱(壁柱) P1～8
SI19	B7	方形	無	3.8×3.5		13.2	6～8	N38° W	

2 掘立柱建物 (第165～169・171図)

10棟の掘立柱建物の内訳は住居と推定するSB31～33・37・40～41の7棟、倉と推定するSB34・38の2棟、小屋と推定するSB25の1棟である。

住居と推定したSB31～33・37・40～41の面積は約19～32㎡に分布し、内訳は20㎡級のもの3棟、25㎡級のものの2棟、30㎡級のものの2棟となる。20㎡級はSB32・40・41である。SB32は桁行4間、梁行3間の構造で柱間は1.2～1.4mと小さいものである。SB40・41は桁行3間、梁行2間として棟持ち柱が屋外に位置する構造となる。この建物2棟は規模や構造がほぼ同一であり、規格性が窺われる。25㎡級はSB31・43である。SB31は桁行4間、梁間3間の構造となるが、SB43は桁行4間、梁間1間となり梁行の柱間はSB31より大きくなるもので、構造と柱間寸法に違いがみられる。30㎡級はSB33・37で桁行4間、梁間3間の同じ構造となるが、SB37の柱間は揃うもののSB33は不揃いである。柱穴規模はSB37が一回り大きい。またSB33の北梁間の柱穴2基は柱筋から外に突出するもので加賀市永町ガマノマガリ遺跡に類例がみられる(田嶋ほか1987)。

SB34・38は梁行と桁行が2間×2間となる総柱の構造から倉庫と判断するものである。平面形が方形となるSB34は面積が21.2㎡で柱間寸法がほぼ揃うものであるが、柱穴の深さにはばらつきがみられる。SB38は平面形が長方形となるもので中央の南北梁行が西にやや偏る。柱穴の規模はSB34より一回り大きいものが多いが、面積は15.6㎡でやや小さい。小屋的な建物と位置づけたSB25は古墳ST10の周溝覆土を掘り込むことから当該期と推定した建物である。

掘立柱建物一覧表

遺構	地区	桁×梁	規模(m)	桁柱間(m)	梁柱間(m)	面積(㎡)	主軸方位	柱穴平面形・規模
SB25	B5・6	2×1	4.6×3.6	2.2・2.3・2.5		16.5	N66° E	略円形・柱穴径45～80cm、深さ56～62cm
SB31	B7・8	4×3	5.8×4.4	1.3～1.6	1.0・1.7	25.5	N13° E	略円形・柱穴径30～48cm、深さ28～52cm
SB32	B8	4×3	5.4×3.9	1.2～1.4	1.2～1.4	21.1	N13° E	略円形・柱穴径30～48cm、深さ28～52cm
SB33	B9	4×3	7.0×4.6	1.4・1.6～2.1	1.4・1.6～1.7	32.2	N42° W	略円形・柱穴径37～60cm、深さ25～60cm
SB34	A9	2×2(縦)	4.6×4.6	2.1～2.3		21.2	N41° W	略円形・柱穴径34～60cm、深さ19～45cm
SB37	C3・4	4×3	6.6×4.5	1.7	1.5	29.7	N28° W	略円形・柱穴径54～76cm、深さ48～72cm
SB38	A9	2×2(縦)	4.6×3.4	2.0～2.1・2.5～2.7	1.7・1.8	15.6	N69° E	略円形・柱穴径55～97cm、深さ28～41cm
SB40	B6	3×2	4.7×4.1	1.4～1.65	2.0・2.1	19.3	N7° E	略円形・柱穴径35～66cm、深さ30～53cm
SB41	B7	3×2	4.5×4.2	1.4～1.6	2.05・2.25	18.9	N9° E	略円形・柱穴径38～67cm、深さ44～70cm
SB43	B8・9	4×1	7.8×3.4	2.1～2.2		26.5	N33° W	略円形・柱穴径42～70cm、深さ40～51cm

3 土坑・溝・その他

(1) 土坑 (第170・171図)

4基を検出した。分布はA4区1基、B7区2基、B9区1基である。B9区のSK77は平面形が不整形な台形状をているもので、2基の土坑が複合したものとも考えられる。

土坑一覧表

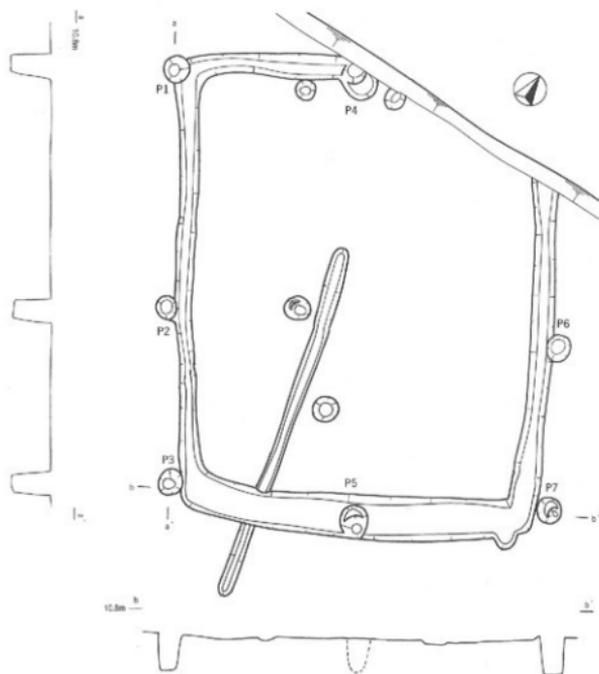
遺構	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸・備考
SK05	A5	隅丸方形	?×260	22	(N27° W)
SK64	B7	楕円形	135×106	36	N62° W
SK67	B7	略円形	66×?	12～16	
SK77	B9	隅丸台形か	410×(400)	30～42	N20° E

(2) 溝

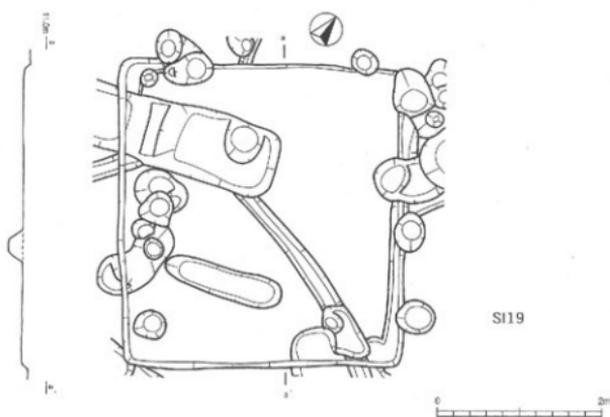
溝は緩く蛇行し東西方向の流路をもつもので、SD05・06・13・14の4条を当該期のものと判断した。遺物については第172図に掲載した。遺構については第162図及び巻末の全体図を参照頂きたい。SD05はA7区からC8区に位置する。上幅は90～120cm、溝底幅は約30cmで一定を保つ。深さは50～60cmであるが溝底のレベルは一定である。SD06はB7区に位置するが、C8区での流路は不明となる。SD06の東側流路はA9区SB34の南に位置する溝に連なるものであろう。溝幅は50～70cm、深さは13～20cmを測る。溝底のレベルはB7区中央部が高く東西両方向へ徐々に低くなる。SD08はSD05と同規模の溝で調査区北端B10区・C9区に位置する。断面くの字状の掘方となり、溝底は幅約30cmで一定するが、上面幅は90cmを標準とするが一定とはならない。深さはほぼ50cmを保ち、溝底のレベル差はほぼ一定である。SD13はB10区に位置し検出部分ではSD08と流路が平行となる。溝幅は約50cm、深さは10cm前後である。SD14はC2・D2区に位置しA2区へ連なるものである。溝の幅は60～70cm、深さ15～20cmで溝底のレベルは一定である。SD05・08・14は検出部分での溝底レベルはほぼ一定となり流水方向は不明であるが、地形から判断すると西方へ流れていたものと考えられよう。

(3) その他

古墳周溝ST01・06・09・10から土師器や須恵器が一定量出土(第173～175図)している。この状況について若干説明を加えたい。これらの土器は周溝中央部で周溝と平行する状態で最上層から出土した。当該期において各古墳の周溝はまだ25～30cmの溝状間地をとどめており、この間地部へ土器を廃棄したのと考えられる。

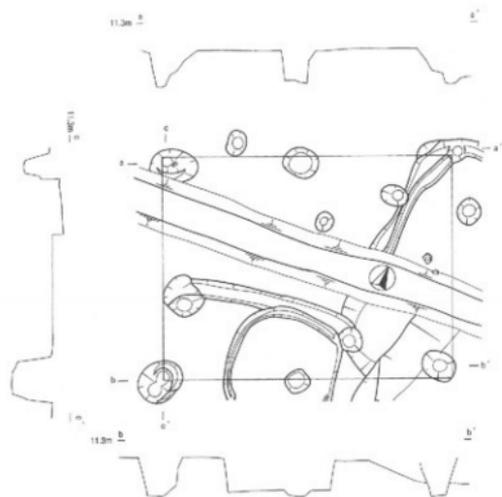


SI18

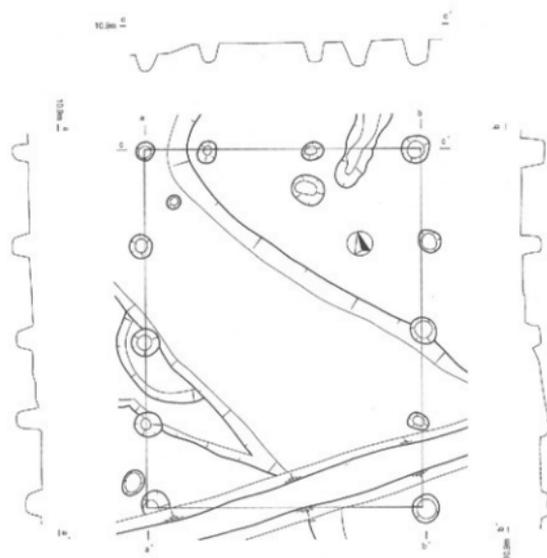


SI19

第164図 SI18・19 遺構図 (1/50)

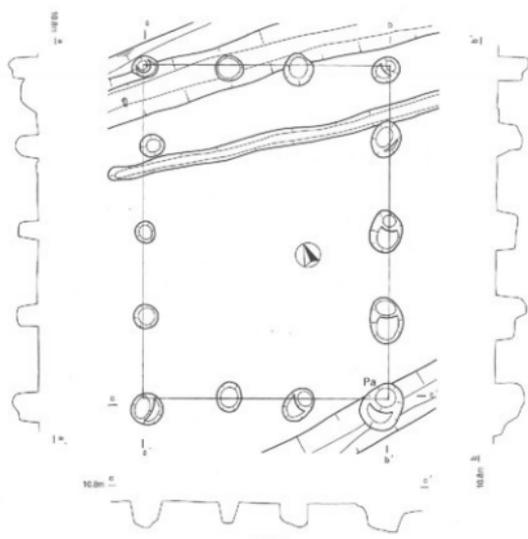


SB25

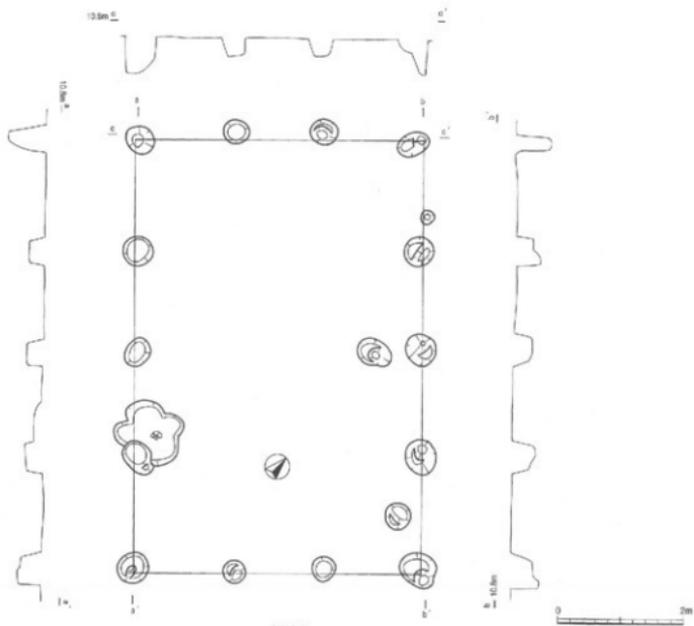


SB31





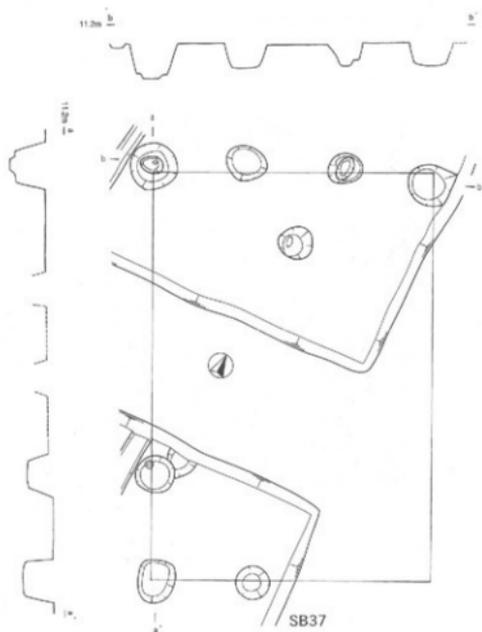
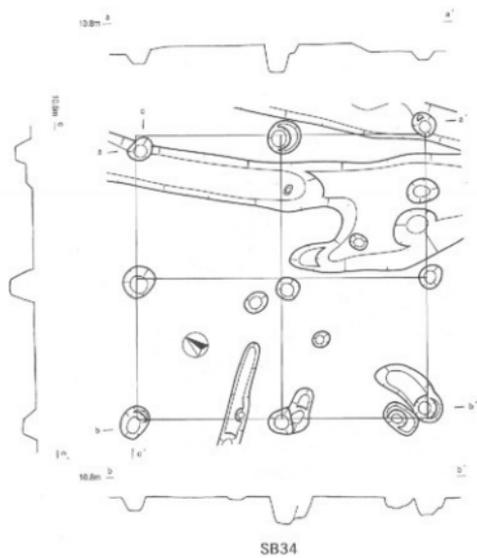
SB32



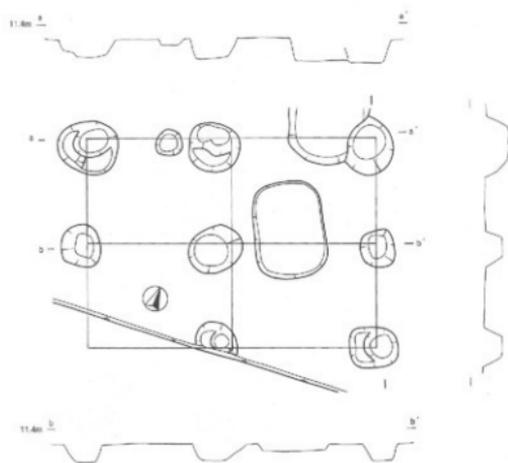
SB33



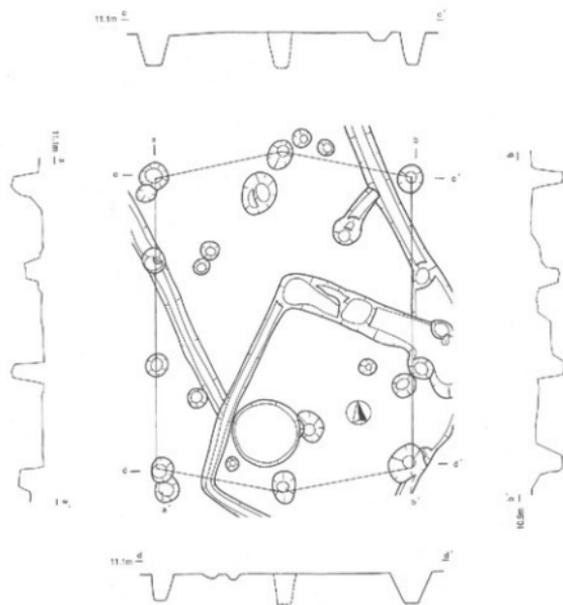
第166図 SB32・33 遺構図 (1/80)



第167図 SB34・37 遺構図 (1/60)



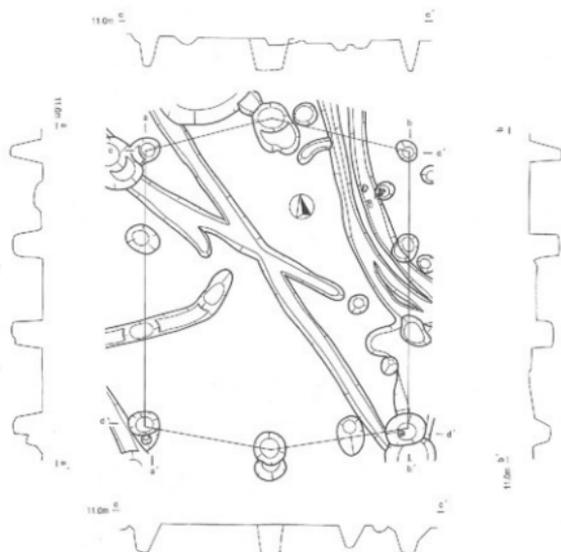
SB38



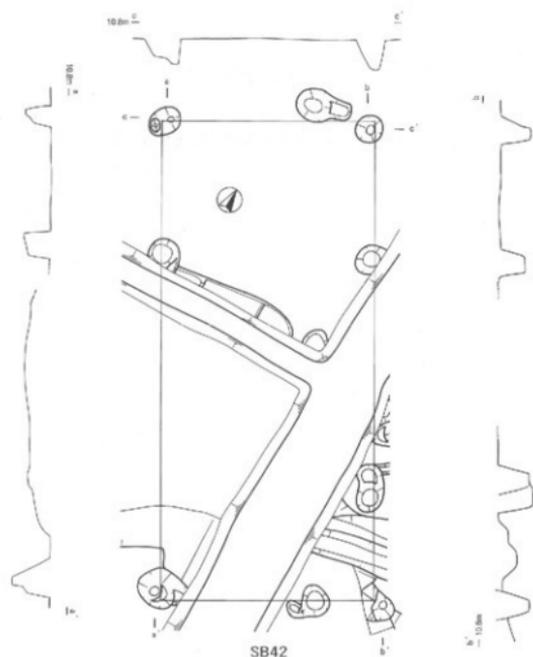
SB40



第168図 SB38・40 遺構図 (1/80)

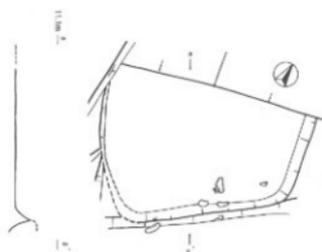


SB41

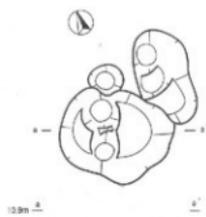


SB42

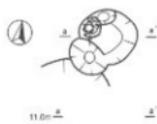
第169圖 SB41・42 連構圖 (1/80)



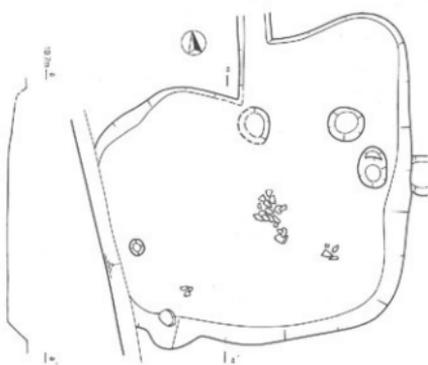
SK05



SK64



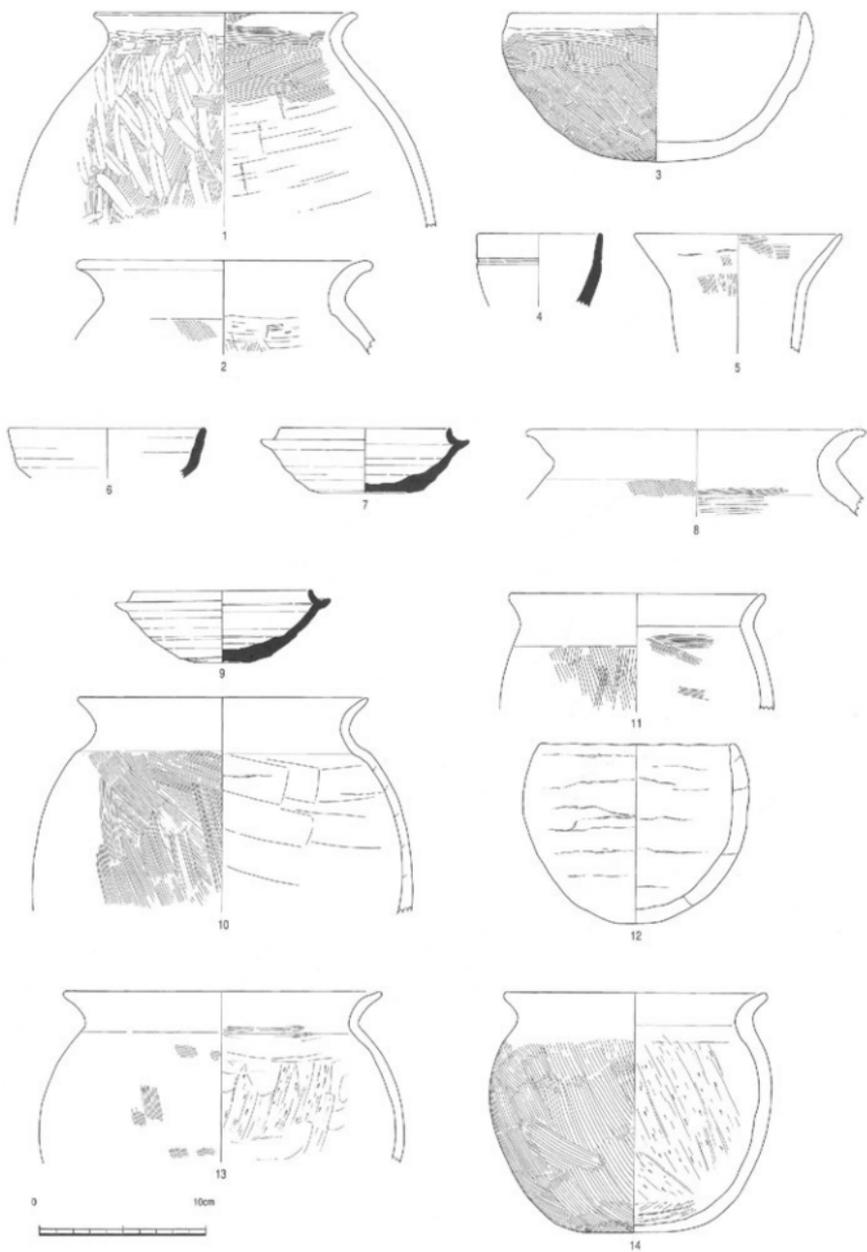
SK67



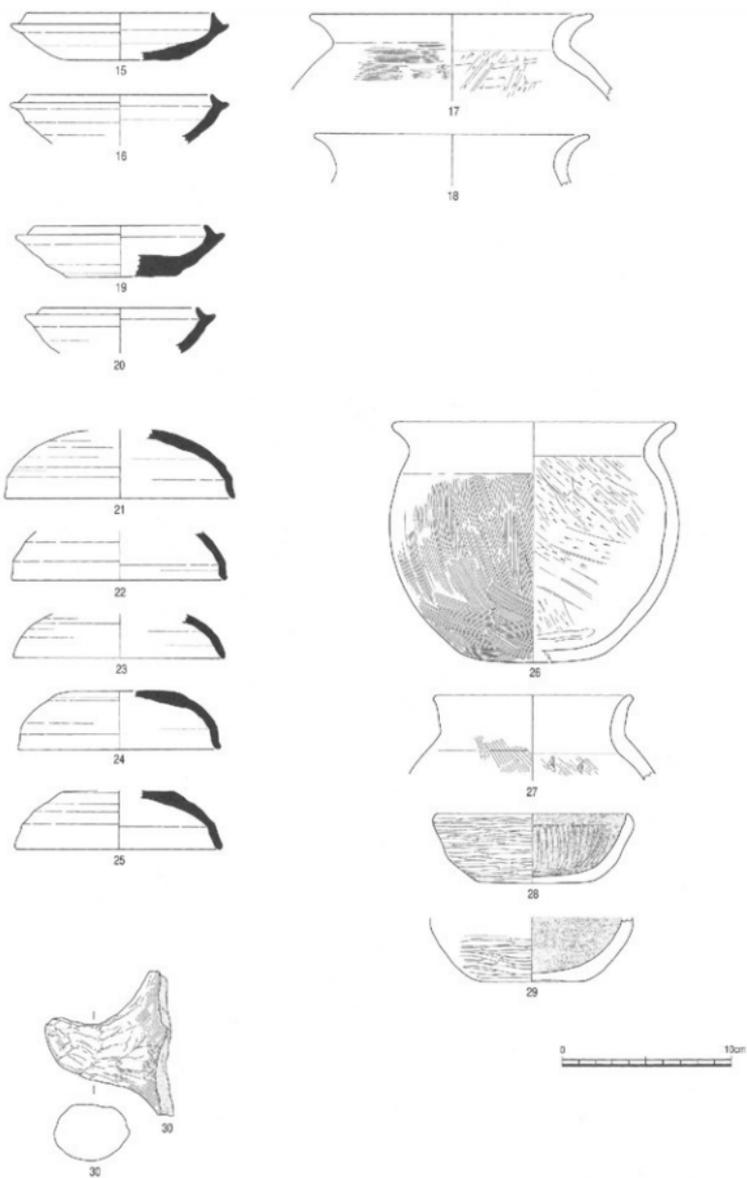
SK77



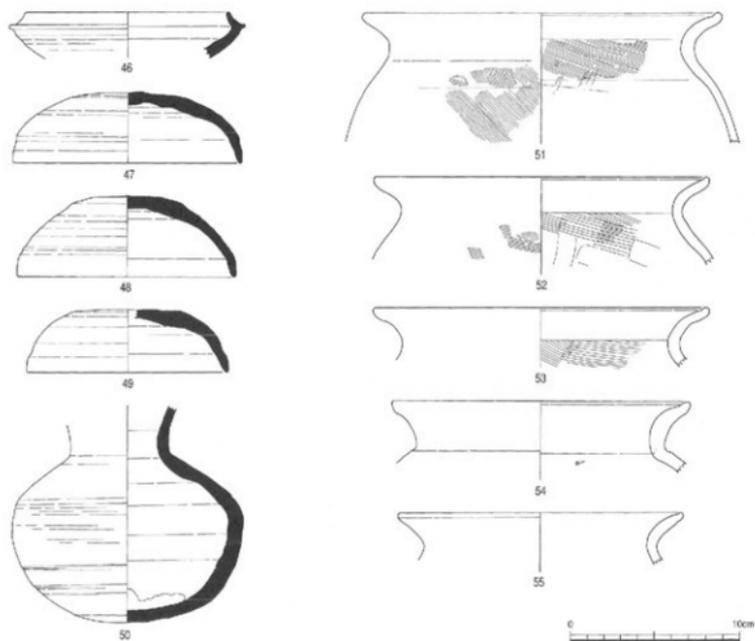
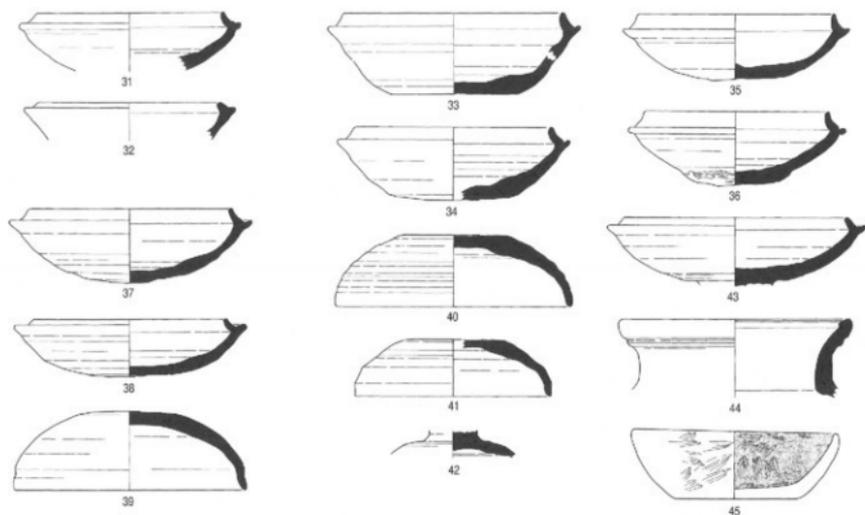
第170図 SK05・64・67・77 遺構図 (1/60)



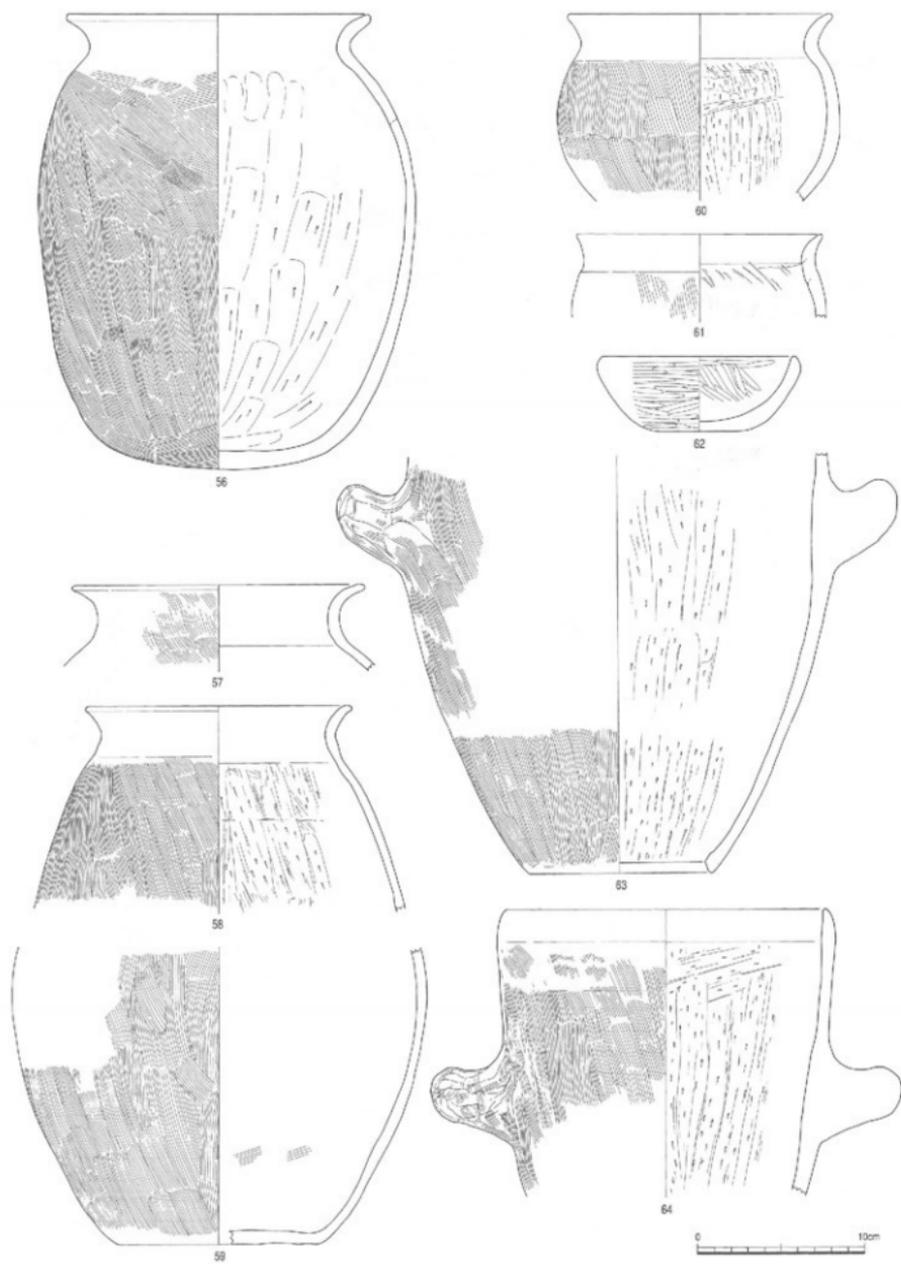
第171図 SI12 (1・2)・SI17 (3)・SI19 (4・5)・SB32Pa (6)・SK05 (7)
SK64 (8)・SK67 (9~12)・SK77 (13・14) 出土土器 (1/3)



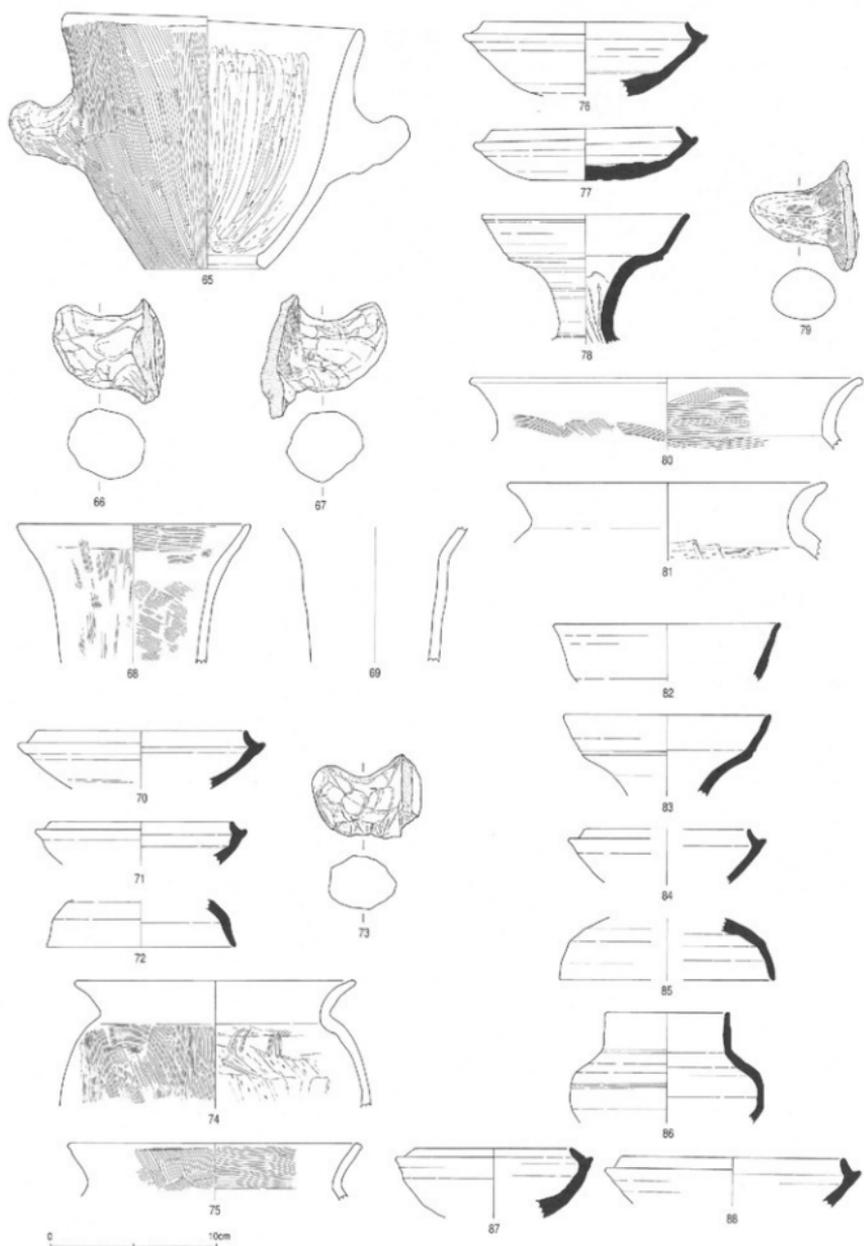
第172図 SD05(15~18)・SD06(19・20)・SD08(21~29)・SD13(3) 出土土器(1/3)



第173図 SI07 (31・32)・ST01 (33~45)・ST06 (46~55) 出土土器 (1/3)



第174図 ST06 (56~64) 出土土器 (1/3)



第175図 ST06 (65~69)・ST09 (70~75)・ST10 (76~81)・B3区 (82・83)
 B7区 (84~86)・C7区 (87)・C8区 (88) 出土土器 (1/3)

土器—覧表 古墳時代後期 第180～184図

図号	遺構	器種	法量	色調	遺存	備考
1	SL12	甕	土師器 口径155 頸径140	茶褐色/ 褐色	1/4	
2	SL12	甕	土師器 口径173 頸径145	淡褐色/ 灰褐色	1/4	
3	SL17	鉢	土師器 口径177 器高92 底径60	褐色	完	火熱を受ける
4	SL19	平飯か	須恵器 口径74	暗灰色	1/4	
5	SL19	平飯土器	土師器 口径124	淡褐色	1/2	
6	SE29	坏か	須恵器 口径117	淡灰色	1/8	
7	SK05	坏	須恵器 口径102 受部径126 器高40	灰色	1/2	底面くし状ナデ
8	SK64	甕	土師器 口径200 頸径169	褐色	1/5	外面残付着
9	SK67	坏	須恵器 口径107 受部径130 器高44	灰色	面取	底面くし状ナデ
10	SK67	甕	土師器 口径174 頸径152 頸径230	淡褐色	1/3	外面残付着
11	SK67	甕	土師器 口径152 頸径140	赤褐色/ 暗赤褐色	1/2	
12	SK67	鉢	土師器 口径115 頸径136 底径25 器高110	淡褐色	1/2	
13	SK77	甕	土師器 口径189 頸径164 頸径220	淡赤褐色/ 灰褐色	1/4	
14	SK77	甕	土師器 口径156 頸径141 頸径170 底径65 器高146	乳白褐色	完	外面残付着
15	SD05	坏	須恵器 口径112 受部径131 器高29	淡灰色	1/2	底面くし状ナデ
16	SD05	坏	須恵器 口径112 受部径132	淡灰色	1/4	
17	SD05	甕	土師器 口径166 頸径142	淡褐色	1/6	
18	SD05	土師器	口径163 頸径139	淡褐色	1/4	
19	SD06	坏	須恵器 口径103 受部径125 器高32	淡灰色	1/7	
20	SD06	坏	須恵器 口径94 受部径113	青灰色	1/7	
21	SD08	甕	須恵器 口径137	灰色	1/5	
22	SD08	甕	須恵器 口径128	暗青灰色	1/4	
23	SD08	甕	須恵器 口径126	青灰色	1/8	
24	SD08	甕	須恵器 口径120	淡灰色	1/4	
25	SD08	甕	須恵器 口径124	青灰色	1/5	
26	SD08	甕	土師器 口径182 頸径151 頸径174 底径80 器高148	灰赤褐色	1/2	
27	SD08	甕	土師器 口径117 頸径111	淡褐色	1/5	
28	SD08	甕	土師器 口径115 底径70 器高43	淡褐色/ 黒褐色	面取	内面黒色、内面通 部に1段のナデ
29	SD08	甕	土師器 底径60	茶褐色/ 黒褐色	1/2	内面黒色
30	SD13	瓶把手	土師器 口径111 受部径132	淡褐色	1/6	
31	SH07	坏	須恵器 口径109 受部径125	淡黄褐色	1/6	
33	ST01	坏	須恵器 口径131 受部径149 器高50	灰色	1/4	体下部底面 くし状ナデ
34	ST01	坏	須恵器 口径117 受部径138 器高44	灰色	1/2	底面くし状ナデ
35	ST01	坏	須恵器 口径117 受部径135 器高41	暗灰色/ 灰色	1/2	
36	ST01	坏	須恵器 口径109 受部径128 器高45	青灰色	1/2	
37	ST01	坏	須恵器 口径122 受部径141 器高45	灰褐色	1/2	
38	ST01	坏	須恵器 口径116 受部径138 器高35	黄褐色	1/2	底面へらケズリ

図号	遺構	器種	法量	色調	遺存	備考
39	ST01	甕	須恵器 口径137 器高48	淡黄灰 褐色	1/2	
40	ST01	甕	須恵器 口径141 器高43	淡灰色	1/4	
41	ST01	甕	須恵器 口径117 器高35	灰赤褐色	1/2	
42	ST01	高坏か	須恵器	灰色	1/2	
43	ST01	高坏	須恵器 口径133 坏高38	受部径151 青灰色	1/4	
44	ST01	甕	須恵器 口径137 頸径115	灰色	1/2	
45	ST01	坏	土師器 口径124 器高43	茶褐色/ 黒褐色	1/2	内面黒色、内面 通部に1段のナデ
46	ST06	坏	須恵器 口径122 受部径143	灰色	1/5	
47	ST06	甕	須恵器 口径136 器高43	暗灰色	面取	
48	ST06	甕	須恵器 口径130 器高49	青灰色	1/4	体下部いかへ らケズリ
49	ST06	甕	須恵器 口径120 器高38	淡黄褐色	1/2	
50	ST06	甕	須恵器 口径60 頸径139	灰色～ 暗灰色	面取	
51	ST06	甕	土師器 口径212 頸径183	淡褐色	1/4	
52	ST06	甕	土師器 口径200 頸径170	茶褐色	小片	体部残付着
53	ST06	甕	土師器 口径200 頸径168	淡褐色	1/8	全体的に摩耗 すずむ
54	ST06	甕	土師器 口径178 頸径150	淡黄褐色	1/6	
55	ST06	甕	土師器 口径170 頸径142	淡褐色	1/5	
56	ST06	甕	土師器 口径180 頸径156 頸径226 底径118	淡褐色	完	外面全体残付着
57	ST06	甕	土師器 口径173 頸径146	淡褐色	1/2	
58	ST06	甕	土師器 口径160 頸径141	灰褐色	1/2	外面残付着
59	ST06	甕	土師器 底径130		全面	
60	ST06	甕	土師器 口径157 頸径142 器高170	灰褐色	1/3	外面残付着
61	ST06	甕	土師器 口径146 頸径140	灰赤褐色	1/4	外面残付着、底部 内面工具痕
62	ST06	坏	土師器 口径115 底径50 器高46	暗褐色	1/3	
63	ST06	甕	土師器 底径110 頸径260	淡黄褐色	1/2	
64	ST06	甕	土師器 口径193	淡黄褐色	1/2	
65	ST06	甕	土師器 口径178 底径72 器高15	褐色	完	
66	ST06	瓶把手	土師器	淡黄褐色	面取	
67	ST06	瓶把手	土師器	淡黄褐色	面取	
68	ST06	甕	土師器 口径139	淡黄褐色	1/3	
69	ST06	甕	土師器 口径88	淡黄褐色	1/2	
70	ST09	坏	須恵器 口径127 受部径150	淡黄褐色	1/3	
71	ST09	坏	須恵器 口径110 受部径130	淡黄褐色	1/3	
72	ST09	甕	須恵器 口径113	淡黄褐色	小片	
73	ST09	甕	須恵器 口径129	褐色	完	器ナデとハケ調整
74	ST09	甕	土師器 口径167 頸径139	淡褐色	1/2	
75	ST09	甕	土師器 口径173 頸径153	淡灰褐色	1/8	
76	ST10	坏	須恵器 口径124 受部径148	灰色	1/3	
77	ST10	坏	須恵器 口径113 受部径136 器高32	灰色	完	底面くし状ナデ
78	ST10	甕	須恵器 口径124 頸径32	淡灰色	1/2	
79	ST10	瓶把手	土師器	淡褐色	完	ハケ仕上げ
80	ST10	甕	土師器 口径236 頸径206	暗赤褐色	1/6	外面残付着
81	ST10	甕	土師器 口径191 頸径164	淡褐色	1/4	
82	B3	坏	須恵器 口径137	暗灰色	1/6	
83	B3	甕	須恵器 口径124	灰色	1/4	
84	B7	坏	須恵器 口径100 受部径120	青灰色	小片	
85	B7	甕	須恵器 口径129	淡黄褐色	小片	
86	B7	甕	須恵器 口径74 頸径117	暗青灰色	1/4	
87	C7	坏	須恵器 口径95 受部径118	淡灰褐色	小片	
88	C8	坏	須恵器 口径135 受部径154	淡灰色	1/8	

第5節 中世以降 (第176～180図)

中世期の遺構は東微高地上に、竪穴状遺構3基、土坑2基、台形区西溝1基、溝7条が分布する。数的に少ないため一括して報告する。遺構からの土器は皆無のものが多く、出土しても極めて細片であった。中世期への時期所属判断の多くは分布状況や遺構の覆土から行ったものである。

SK96の埋土は幾層もの炭化物層が

堆積するもので、一部には焼土塊を含み、骨片の出土から火葬土坑と判断したものである。SK98の遺存状態は悪いがSK105と同規模となる竪穴状遺構の可能性をもつ。

竪穴状遺構・土坑一覽表

遺構	地区	形状	規模(cm)	深さ(cm)	主軸・備考
SK96	E9	隅丸台形	230×200	53・67	火葬土坑、骨片出土、N70°E
SK98	F	隅丸方形	(650)×480	7・17	竪穴状遺構、N26°W
SK99	F	不整隅丸長方形	(470)×370	4	竪穴状遺構か、N33°W
SK103	F	略円形	260×230	37	N20°E
SK105	F	長方形	950×435	10・27	竪穴状遺構、北側が1段低い。N25°W

台形区西溝SD01が区画する規模は、東辺推定31m、西辺37.5m、東溝～西溝間31mを測り、面積は推定約1062m²(321坪)である。溝は断面V字状で溝底幅は10cm前後である。上面幅は約1.5～2m、深さは0.6～1.0mであるが、削平されているため溝は、幅2m深さ1m以上の規模を有していたものと考えられる。溝SD01bは東溝内側の区画内に存在するが、併存したものかは不明である。西溝の方位はN25°Wで、SK98・105と軸線が揃っている。溝から土師質土器第180図1・2が出土した。14世紀後半代の所産であろう。SD07は調査区北部A9～C8区に位置する東西方向の溝で、掘り直されているため一部で段状となる。幅約60cm、深さ15～25cmを測る。溝は溝底のレベルから東流するものと判断できる。A8区からB10区にかけて平行して北流する溝SD09・11・12と東西方向に平行するSD09・10が見られ、東西溝のSD07と接続するものであろう。SD09は北流しE10区で西へ向きを変えるものである。各溝の幅は30～50cm、深さ10cm前後である。北流するSD09とSD12の間隔は約2.5m、東西方向に平行するSD09とSD10の間隔は1.8mを測る。この状況は遺状遺構の存在を推定するものである。SD11はやや幅の広い溝でSD09と並行するが先後関係は不明である。SD07出土の珠洲焼播鉢3、SD12出土の同播鉢4は14世紀中葉頃の所産と考えられる。SD18はF区東部に位置し北流する溝で、幅1.4～2m、深さ20cm前後である。F区南端のSD19はSK105の南に近接する溝に繋がり、南から流水していたものである。流路は蛇行が顕著で他の溝とは異質な感がある。溝幅は2m前後で深さ50～60cmを測る。SD19の流路は隣接する御経塚緑塚を意識しているものであろうか。

調査区中央から南部一帯ににかけて約3～4mの間隔を取り平行する溝群を検出している。溝は幅約30cm深さ10～15cmである。この溝群は畑作に関する耕作溝と考えられるが今回は検討できなかった。溝の一部から珠洲焼小片の混入がみられたことや溝の方向性から中世期に相当するものであろう。

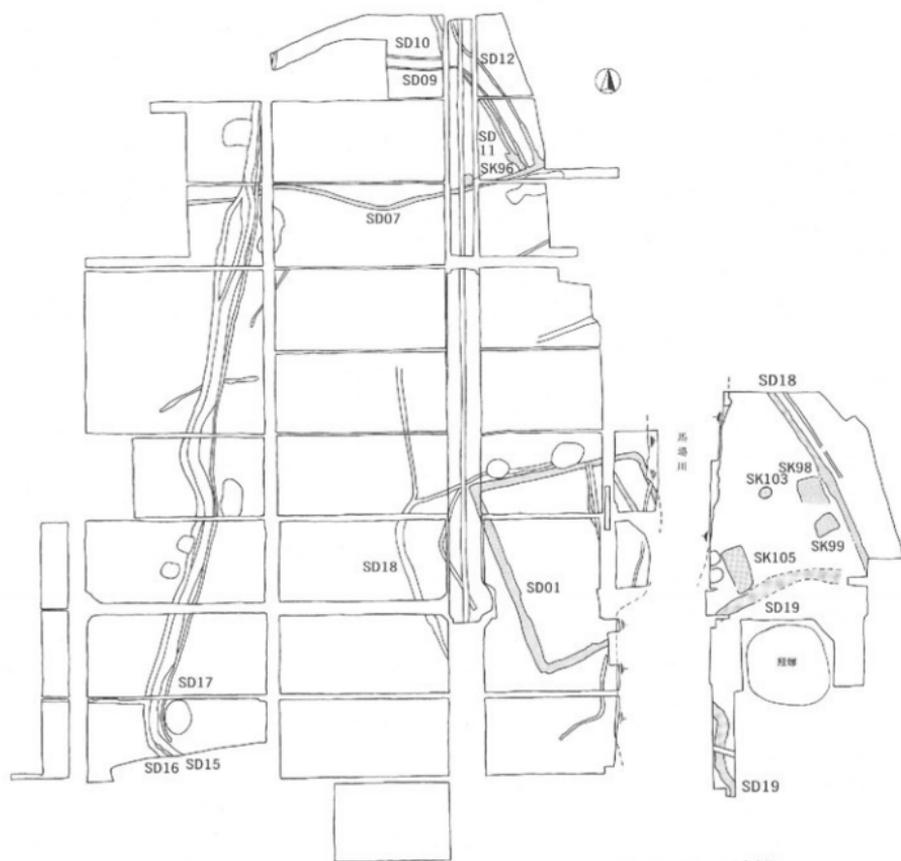
中世の遺構は地形の制約を受けているが、方位はほぼ同じ北西方向なるもので、分布状況に意図性が窺われるため少し触れたい。SD07の東部と台形区西溝SD01の北溝は距離60m(50間)を隔ててほぼ平行となる。SD07の北側に火葬土坑が位置する。台形区西溝SD01とSD18との空間に竪穴状遺構が東西に分かれて分布する。耕作溝群はSD01西溝の延長線上の西に分布しSD07から北には見られない。以上よりSD07から北の地区、SD01西溝ラインから西の地区と東の地区の3地区に大別することが可能であろう。出土土器は少量で時期の判断できるものは限られるが、中世期の遺構は14世紀中葉～後半頃に所属するものであろう。

台形区西溝SD01の性格は不明であるが、溝の規模と経塚に隣接することから区画内には宗教的な建物の存在を推定するものである。また周辺には「天台の古刹真願寺」の伝承(日置1936)や耕地整理の時に「でかい手水鉢を埋めた」との逸話が御経塚町に伝わっていることを付記しておく。

近世以降としたSD13・15は明治時代前期の地籍図に用水路として見られる溝である。また溝に接し楕円形や略円形のもの土坑状を呈するものである。

土器一覽表 (第180図) ()内は推定値

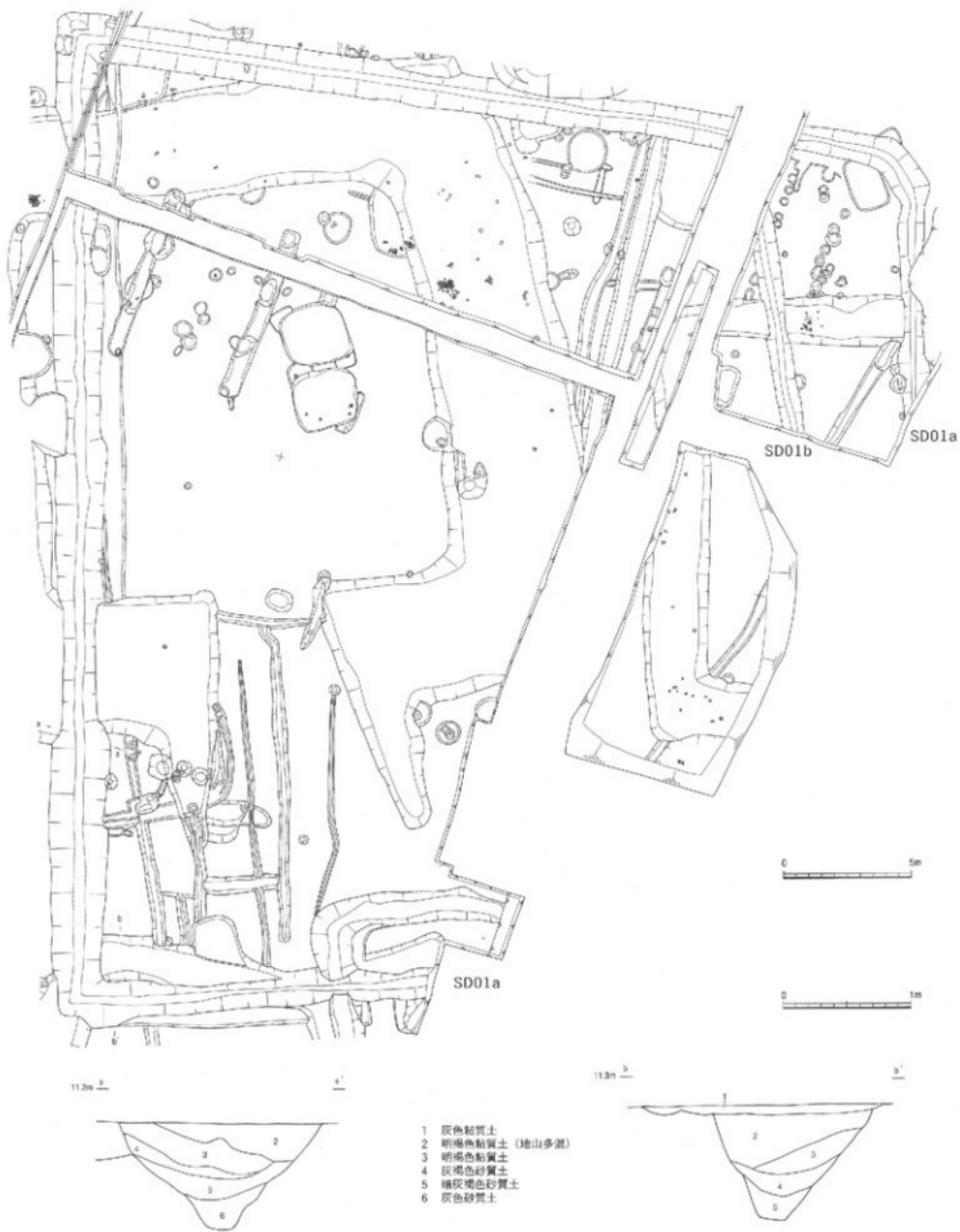
番号	遺構	器種	法量(mm)	色調	遺存	備考
1	SD01	土師器	口径142 器高40	淡褐色	1/6	内面、黒褐色付着物
2	SD01	土師器	口径72 器高16	橙褐色	1/4	油煤痕
3	SD12	播鉢	口径(240)	青灰色	小片	珠洲焼
4	SD07	播鉢	口径322	灰色	1/8	珠洲焼



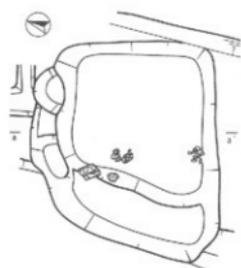
※スクリーントーンは中世期
魚は近世以降

第176図 中世以降主要遺構分布図 (1/1,000)

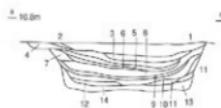




第177图 SD01 (区画沟) 平面图 (1/200)·断面图 (1/40)

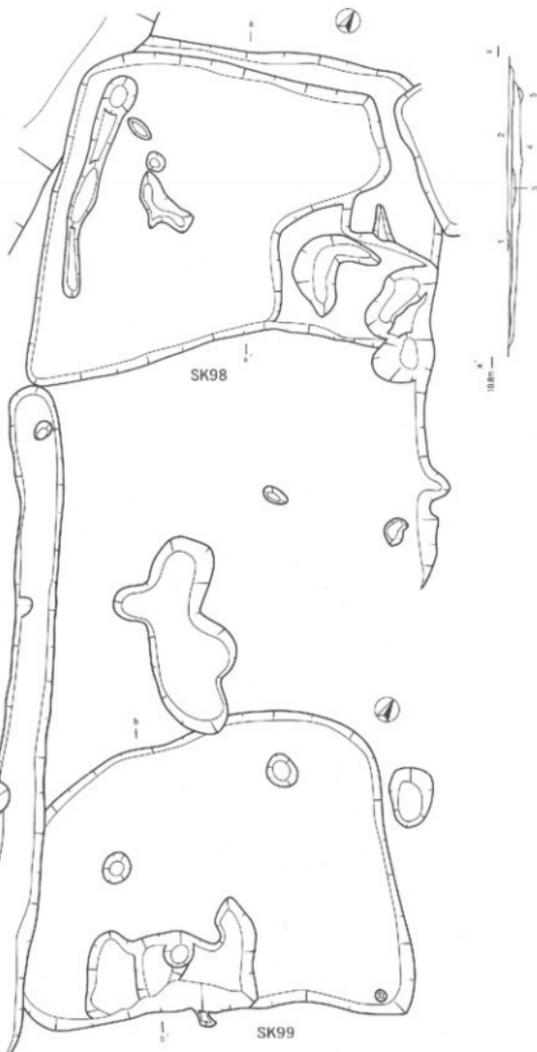


SK96



- 1 暗灰色粘質土 (炭粒含む)
- 2 炭化物層
- 3 炭化物層
- 4 (3と同じ、焼土塊・炭化物多量)
- 5 (3と同じ、焼土塊・1ブロック含む)
- 6 (2と同じ)
- 7 (1と同じ)
- 8 (4と同じ)
- 9 (3と同じ、炭化物多量)
- 10 (3と同じ)
- 11 黄色粘質土
- 12 (3と同じ)
- 13 (1と同じ)
- 14 (1と同じ、炭粒多量)

- 1 灰色粘質土 (耕作土)
- 2 暗褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土 (黒土と粘土)
- 4 暗褐色粘質土 (造山泥)
- 5 暗褐色粘質土

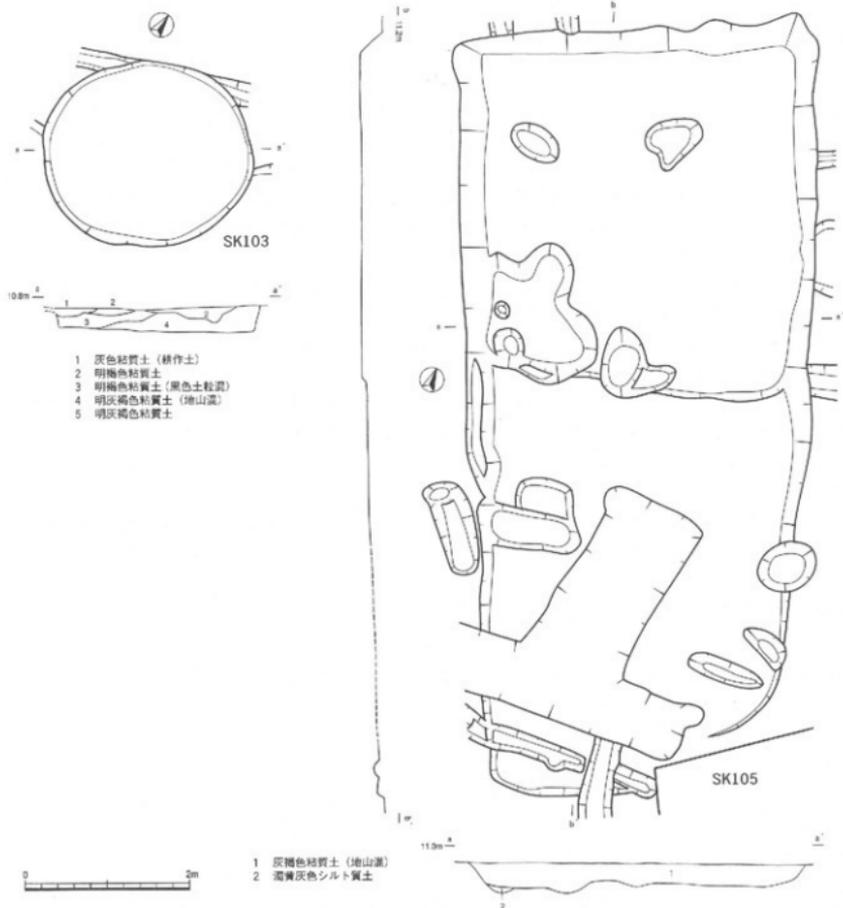


SK98

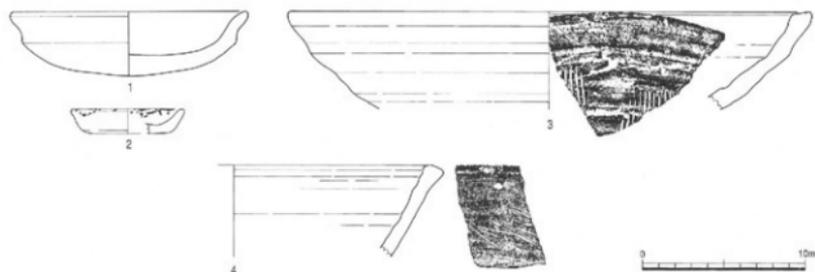
SK99



第178図 SK96・98・99 遺構図 (1/60)



第179図 SK103・105 遺構図 (1/60)



第180図 SD01a (1・2)・SD07 (3)・SD12 (4) 出土土器 (1/3)

第6節 石器・石製品・その他

1 石器

各器種の報告点数と出土点数()内の内訳は、打製石斧64点(147点)、磨製石斧12点(12点)、敲石38点(55点)、磨石60点(62点)、石皿16点(28点)、石錘27点(28点)、石鏃34点(40点)、石鏃12点(12点)、石匙8点(8点)、砥石43点(50点)、不明石器4点(8点)であり、出土点数の合計は450点である。

石器は河道跡出土(第181~183図)と調査区出土(第183~195図)に分けて掲載した。石器のなかで河道S区下層から出土した石器群は上器の様相から縄文時代後期中葉期の限られた時間幅に帰属する良好な資料と言える。大きさと石質及び出土地点については一覽表を参照されたい。

河道跡出土の打製石斧は上層出土(1~4)と下層出土(6~14)では、側縁部の括れの有無と大きさに明らかな差異が認められる。下層出土のものは側縁部の括れは無く、大きさは長さ105~141mm、幅41~72mmに収まるものである。また石錘は下層からに限られ、いずれも両端を打ち欠くもので、切目石鏃が一量みられる調査区の状態に対して下層の場合は偏った印象を受ける。

砥石273~315は縄文期から中世期までの時期幅を持つ。このなかで鉄製品を研いだものと推定し得る砥石は平面や断面形が四角形を呈すものである。黄褐色の砂岩製の砥石は279・286・288・292・304・309~313である。緑色系となる泥岩製の仕上げ砥石は276・295・305・307・308である。また竪穴建物からの292・276・292・298は、出土状況から弥生時代後期の砥石と判断できるものである。

不明石器とした316は環状の形態に復元できるものである。317・318は全体に削痕がみられる。319は全体が磨られ各面に敲打痕を有する磨石に類似するものである。

2 石製品・その他

石棒4点(報告3点)、紡錘車1点、石製玉類5点、ガラス玉2点が出土した(第195図)。石棒321は砲弾状の形態で裝飾は施されていない。玉325は未製品と考えられるものである。327は穿孔されていることから玉類に含めたが不整な形状を呈し特異な印象のものである。

石器・石製品一覽表 ()内は推定値
(第181~197図)

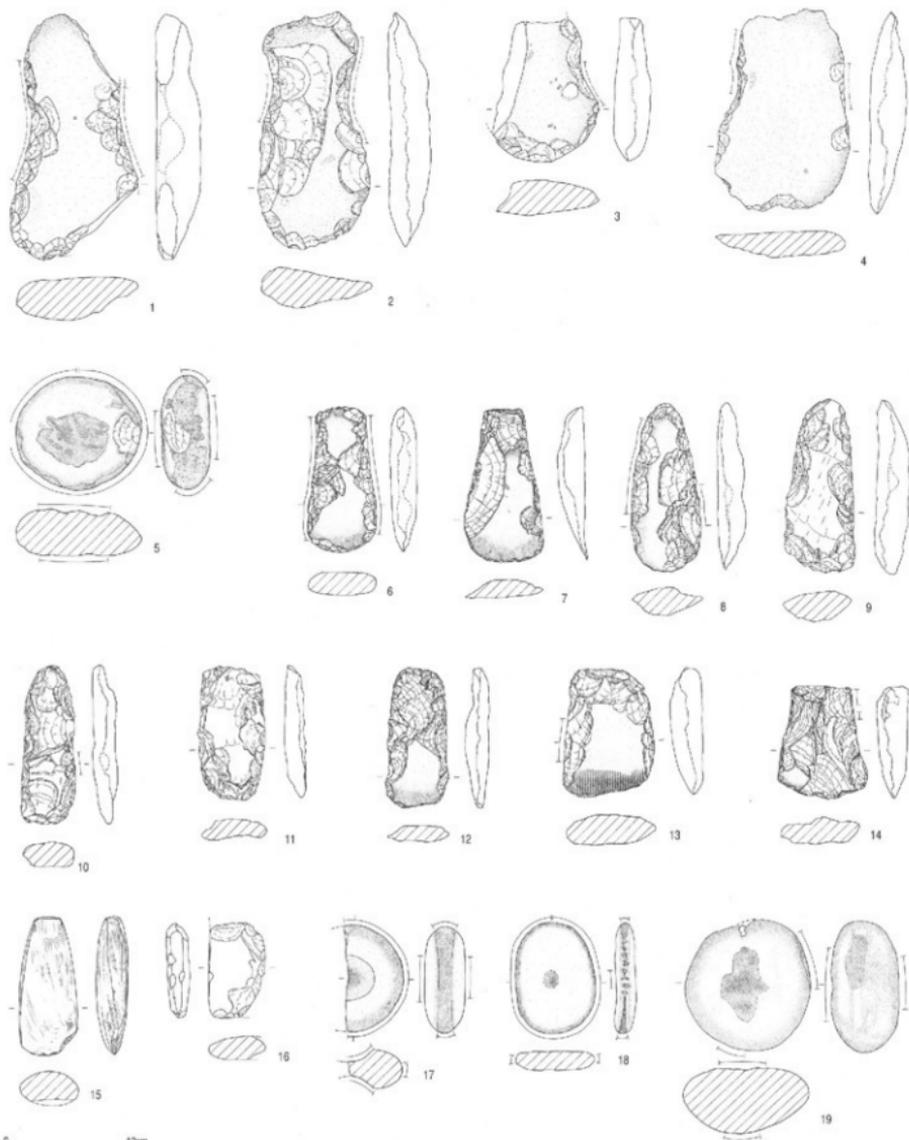
番号	器種	地区/出土地点	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備考・石質
1	打製石斧	F河川 上層	200	98	34	830	火山礫凝灰岩
2	打製石斧	F河川 上層	192	88	32	620	火山礫凝灰岩
3	打製石斧	F河川 上層	(115)	(82)	28	(329)	火山礫凝灰岩
4	打製石斧	F河川 上層	165	130	23	325	火山礫凝灰岩
5	敲石	F河川 上層	101	93	29	496	閃石・粗粒砂岩
6	打製石斧	F河川 S区下層	119	56	21	180	緑色凝灰岩
7	打製石斧	F河川 S区下層	125	62	21	185	緑色凝灰岩
8	打製石斧	F河川 S区下層	136	56	23	220	凝灰岩
9	打製石斧	F河川 S区下層	141	55	29	231	緑色凝灰岩
10	打製石斧	F河川 S区下層	130	41	20	135	凝灰岩
11	打製石斧	F河川 S区下層	108	52	17	109	凝灰岩
12	打製石斧	F河川 S区下層	115	49	19	140	緑色凝灰岩
13	打製石斧	F河川 S区下層	105	72	25	240	緑色凝灰岩
14	打製石斧	F河川 S区下層	(92)	71	24	(195)	凝灰岩
15	磨製石斧	F河川 S区下層	113	47	25	225	凝灰岩
16	磨製石斧	F河川 S区下層	(78)	(44)	18	(107)	凝灰岩
17	敲石	F河川 S区下層	87	(48)	32	(140)	閃石・粗粒砂岩
18	敲石	F河川 S区下層	90	63	16	145	閃石・粗粒砂岩
19	敲石	F河川 S区下層	108	100	52	739	閃石・凝灰岩
20	敲石	F河川 S区下層	95	110	46	648	閃石・粗粒砂岩
21	敲石	F河川 S区下層	87	82	34	282	緑色凝灰岩
22	敲石	F河川 S区下層	91	56	45	306	閃石・中粒砂岩
23	敲石	F河川 S区下層	117	92	66	1025	閃石・凝灰岩
24	敲石	F河川 S区下層	94	84	55	595	閃石・粗粒砂岩
25	敲石	F河川 S区下層	90	94	32	465	閃石・中粒砂岩
26	敲石	F河川 S区下層	102	92	35	724	閃石・粗粒砂岩
27	敲石	F河川 S区下層	142	54	40	480	閃石・粗粒砂岩
28	敲石	F河川 S区下層	133	68	31	450	閃石・粗粒砂岩
29	敲石	F河川 S区下層	110	51	22	175	閃石・粗粒砂岩
30	敲石	F河川 S区下層	(110)	60	35	(340)	閃石・粗粒砂岩
31	敲石	F河川 S区下層	(54)	55	35	(166)	粗粒砂岩
32	敲石	F河川 S区下層	(110)	(62)	(18)	(175)	粗粒砂岩
33	磨石	F河川 S区下層	81	64	49	338	閃石・中粒砂岩
34	磨石	F河川 S区下層	98	74	37	400	閃石・粗粒砂岩
35	磨石	F河川 S区下層	96	91	64	720	粗粒砂岩
36	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	73	74	26	215	粗粒砂岩
37	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	87	74	18	200	粗粒砂岩
38	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	71	59	26	(145)	凝灰岩
39	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	(75)	60	22	(135)	緑色凝灰岩
40	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	66	63	14	110	凝灰岩
41	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	60	58	20	105	緑色凝灰岩
42	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	67	55	15	95	中粒砂岩
43	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	62	49	17	80	細粒砂岩
44	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	(45)	55	15	(55)	細粒砂岩
45	石鏃(打欠)	F河川 S区下層	(44)	(48)	14	(37)	凝灰岩
46	石皿	F河川 S区下層	320	(180)	50	(2920)	緑色凝灰岩
47	打製石斧	F	172	63	20	341	緑色凝灰岩
48	打製石斧	F ST13	153	52	13	169	凝灰岩
49	打製石斧	F ST14	121	49	27	220	凝灰岩
50	打製石斧	A2	154	53	37	432	緑色凝灰岩
51	打製石斧	A2 鞍部	145	58	23	186	凝灰岩
52	打製石斧	A2 鞍部	153	58	28	214	凝灰岩
53	打製石斧	A2	101	45	20	118	緑色凝灰岩
54	打製石斧	A2 鞍部	1304	608	206	295	緑色凝灰岩

番号	標稱	地区山出地点	長さm	幅m	厚さcm	重量g	備考・石質
56	打製石斧	A2 ST02	104	70	21	121	凝灰岩
57	打製石斧	A4 ST01	131	51	23	167	凝灰岩
57	打製石斧	A4 ST01	86	34	16	50.1	緑色凝灰岩
58	打製石斧	A4	141	61	29	299	凝灰岩
59	打製石斧	A4 ST01	140	80	28	305	緑色凝灰岩
60	打製石斧	A4-2 ST04	134	72	38	392	中粒砂岩
61	打製石斧	A4 ST04	105	55	17	110	緑色凝灰岩
62	打製石斧	A3 S I 05	135	69	29	299	凝灰岩
63	打製石斧	A5 SD01	120	55	21	161	凝灰岩
64	打製石斧	A5 SD01	132	69	33	291	凝灰岩
65	打製石斧	A5 S I 05	101	46	30	214	中粒砂岩
66	打製石斧	A5 ST01	94	44	14	65	凝灰岩
67	打製石斧	A5 ST01	171	128	42	890	角閃石安山岩
68	打製石斧	A6 S I 09	154	73	21	220	火山礫凝灰岩
69	打製石斧	A6 S I 09	139	69	30	548	石美安山岩
70	打製石斧	A7	142	85	41	520	火山礫凝灰岩
71	打製石斧	E8 ST07	95	56	15	84	緑色凝灰岩
72	打製石斧	B2	126	66	20	251	凝灰岩
73	打製石斧	B3	111	54	16	146	緑色凝灰岩
74	打製石斧	B3 S I 03	110	88	36	277	緑色凝灰岩
75	打製石斧	B3 S I 03	160	86	37	536	火山礫凝灰岩
76	打製石斧	B4	(145)	(87)	31	(438)	火山礫凝灰岩
77	打製石斧	B4	136	104	37	490	安山岩
78	打製石斧	D4	(143)	(83)	27	(386)	凝灰岩
79	打製石斧	B5 SK50	190	103	28	709	表裏磨き小、火山礫凝灰岩
80	打製石斧	B5 SK50	201	98	40	920	火山礫凝灰岩
81	打製石斧	B7	133	80	28	314	凝灰岩
83	打製石斧	B10	115	60	26	106	凝灰岩
83	打製石斧	C2	148	78.5	31	462	中粒砂岩
84	打製石斧	C3 ST07	(189)	(116)	38	(845)	凝灰岩
85	打製石斧	C3	109	61	19	144	凝灰岩
86	打製石斧	C4 SK32	196	93	30	(512)	中粒砂岩
87	打製石斧	C4 ST07	(143)	82	25	(370)	石美安山岩
88	打製石斧	C5	131	30	22	161	緑色凝灰岩
89	打製石斧	C5 SD15	136	91	28	416	安山岩
90	打製石斧	C6	153	32	35	365	緑色凝灰岩
91	打製石斧	C6 ST11	123	73	33	335	火山礫凝灰岩
92	打製石斧	C6	210	113	33	840	火山礫凝灰岩
93	打製石斧	C8 SD15	166	90	33	475	火山礫凝灰岩
94	打製石斧	C8 SD15	178	93	33	592	凝灰岩
95	打製石斧	C9 SD15	184	67	35	423	安山岩
96	打製石斧	C9 SD15	122	49	17.5	91	凝灰岩
97	打製石斧	不明	141	86	31	340	緑色凝灰岩
98	磨製石斧	F ST04	(37)	(27)	19	(50)	凝灰岩
99	磨製石斧	F ST13	(61)	(37)	22	(60)	凝灰岩
100	磨製石斧	A2 ST02	(63)	(36)	25	(71)	安山岩
101	磨製石斧	A2 ST02	(72)	(60)	28	(151)	緑色凝灰岩
102	磨製石斧	A4 ST01	89	47	20	121	凝灰岩
103	磨製石斧	A7 S I 07	(42)	(32)	21	(48)	凝灰岩
104	磨製石斧	B5	(81)	(54)	19	(172)	輝石安山岩
105	磨製石斧	B10 S I 27	41	33	12	28	凝灰岩
106	磨製石斧	C6	(84)	44	28	(162)	緑色凝灰岩
107	磨製石斧	C9 SD15	75	46	27	140	表裏磨き小
108	礫石	F	82	75	40	390	凹石・中粒砂岩
109	礫石	F	90	75	52	475	凹石・凝灰岩
110	礫石	F SD19	114	84	64	884	凹石・粗粒砂岩
111	礫石	A2 藤部	100	95	62	795	凹石・粗粒砂岩
112	礫石	A2 藤部	74	66	46	244	凹石・凝灰岩
113	礫石	A2 藤部	97	72	42	383	凹石・粗粒砂岩
114	礫石	A3	93	63	49	435	中粒砂岩
115	礫石	B4 ST01	(115)	(65)	36.5	(416)	凹石・中粒砂岩
116	礫石	A5 ST01	120	117	38	1061	凹石・粗粒砂岩
117	礫石	A5-2 ST04	111	91	69	702	凹石・凝灰岩
118	礫石	A5	94	77	54	470	凹石・凝灰岩
119	礫石	A5 ST01	94	62	47	290	凹石・粗粒砂岩
120	礫石	A5	79	68	35	225	凹石・凝灰岩
121	礫石	A7 S I 08	161	75	55	900	粗粒砂岩
122	礫石	B3	79	76	39	330	凹石・中粒砂岩
123	礫石	B4	89	77	57	620	凹石・粗粒砂岩
124	礫石	RS SR22	96	82	48	525	凹石・粗粒砂岩
125	礫石	C3	84	81	55	320	凹石・粗粒砂岩

番号	標稱	地区山出地点	長さm	幅m	厚さcm	重量g	備考・石質
126	礫石	C5	116	60	47	506	凹石・粗粒砂岩
127	礫石	C6	81	37	32	143	凝灰岩
128	礫石	C6	160	38	30	275	凝灰岩
129	礫石	F ST13	114	38	34	365	凹石・中粒砂岩
130	礫石	F ST13	112	70	39	430	粗粒砂岩
131	礫石	A2 藤部	109	90	46	628	粗粒砂岩
132	礫石	A2	98	75	38	410	凹石・粗粒砂岩
133	礫石	A2 藤部	81	61	41	376	凹石・粗粒砂岩
134	礫石	A2 藤部	70	63	41	216	凹石・凝灰岩
135	礫石	A2 ST02	88	86	25	356	凝灰砂岩
136	礫石	A2 藤部	75	65	38	245	中粒砂岩
137	礫石	A2 藤部	51	54	28	104	緑色凝灰岩
138	礫石	A3	101	80	37	410	凹石・粗粒砂岩
139	礫石	A3	88	85	70	697	凹石・粗粒砂岩
140	礫石	A3 SD01	85	68	39	335	石美安山岩小
141	礫石	A3 ST03	51	38	23	58	凝灰岩
142	礫石	A4-2 ST04	131	111	52	935	凹石・粗粒砂岩
143	礫石	A4 ST01	102	86	50	625	粗粒砂岩
144	礫石	A4 ST01	92	77	61	606	粗粒砂岩
145	礫石	A4-2 ST04	81	71	36	290	凹石・中粒砂岩
146	礫石	A4	80	62	30	210	凹石・中粒砂岩
147	礫石	A4 ST01	63	55	35	169	凹石・粗粒砂岩
148	礫石	A4 ST01	88	68	51	431	凹石・粗粒砂岩
149	礫石	A4 ST01	132	58	27	288	粗粒砂岩
150	礫石	A4 ST01	96	85	21	200	粗粒砂岩
151	礫石	A4	92	66	24	210	粗粒砂岩
152	礫石	A5 SD01	146	84	62	1065	凹石・粗粒砂岩
153	礫石	A5 ST01	133	102	36	679	火山礫凝灰岩
154	礫石	A5 ST01	104	94	38	730	粗粒砂岩
155	礫石	A5	82	77	38	339	粗粒砂岩
156	礫石	A5	80	64	51	372	凹石・粗粒砂岩
157	礫石	A5 S I 06	112	72	49	544	凹石・中粒砂岩
158	礫石	A6	99	75	50	501	凹石・中粒砂岩
159	礫石	A6 SB10	91	55	24	186	中粒砂岩
160	礫石	A7 ST06	182	94	65	139	凹石・凝灰岩
161	礫石	B3	127	116	54	1065	粗粒砂岩
162	礫石	B3	92	82	51	510	凹石・粗粒砂岩
163	礫石	B3	174	117	60	1068	凹石・凝灰岩
164	礫石	B3	(154)	96	47	(980)	凹石・中粒砂岩
165	礫石	B3	98	67	42	350	凹石・粗粒砂岩
166	礫石	D3	104	55	44	365	粗粒砂岩
167	礫石	B4	87	63	31	265	中粒砂岩
168	礫石	B4	90	39	41	250	中粒砂岩
169	礫石	B5 SK50	(81)	97	37	(330)	中粒砂岩
170	礫石	B6	113	101	50	780	凹石・中粒砂岩
171	礫石	D6	90	78	44	420	凹石・粗粒砂岩
172	礫石	B6 ST10	104	84	28	335	粗粒砂岩
173	礫石	B6	182	121	61	1071	中粒砂岩
174	礫石	B6 SK14	(64)	57	30	(165)	中粒砂岩
175	礫石	C1	108	97	53	735	中粒砂岩
176	礫石	C5	98	76	19	215	粗粒砂岩
177	礫石	C8	96	82	63	670	凹石・中粒砂岩
178	礫石	C5 SD15	121	94	51	877	中粒砂岩
179	礫石	C6 ST08	208	90	34	470	中粒砂岩
180	礫石	C6	301	82	54	634	粗粒砂岩
181	礫石	C6	98	88	30	370	凝灰岩
182	礫石	C6	80	66	50	390	中粒砂岩
183	礫石	C6	74	65	31	265	中粒砂岩
184	礫石	C6	134	66	41	600	凝灰岩
185	礫石	不明	117	99	48	759	凹石・粗粒砂岩
186	礫石	不明	117	92	51	810	粗粒砂岩
187	石皿	F ST04	(134)	(110)	41	(650)	粗粒砂岩
188	石皿	A3 ST02	187	118	51	1560	凝灰砂岩
189	石皿	A4-2 ST04	160	(76)	34	(500)	粗粒砂岩
190	石皿	A5 ST01	(92)	174	45	(1150)	粗粒砂岩
191	石皿	A5 ST01	(103)	(130)	(18)	(460)	凝灰岩
192	石皿	A6 S I 14	225	141	70	2860	緑色凝灰岩
193	石皿	A6 S I 09	(80)	(153)	(76)	(1300)	粗粒砂岩
194	石皿	A7 S I 08	229	(117)	100	(3160)	灰石小・粗粒砂岩
195	石皿	B3	(257)	(112)	56	(1075)	火山礫凝灰岩
196	石皿	H4	365	(180)	38	(2110)	凝灰岩

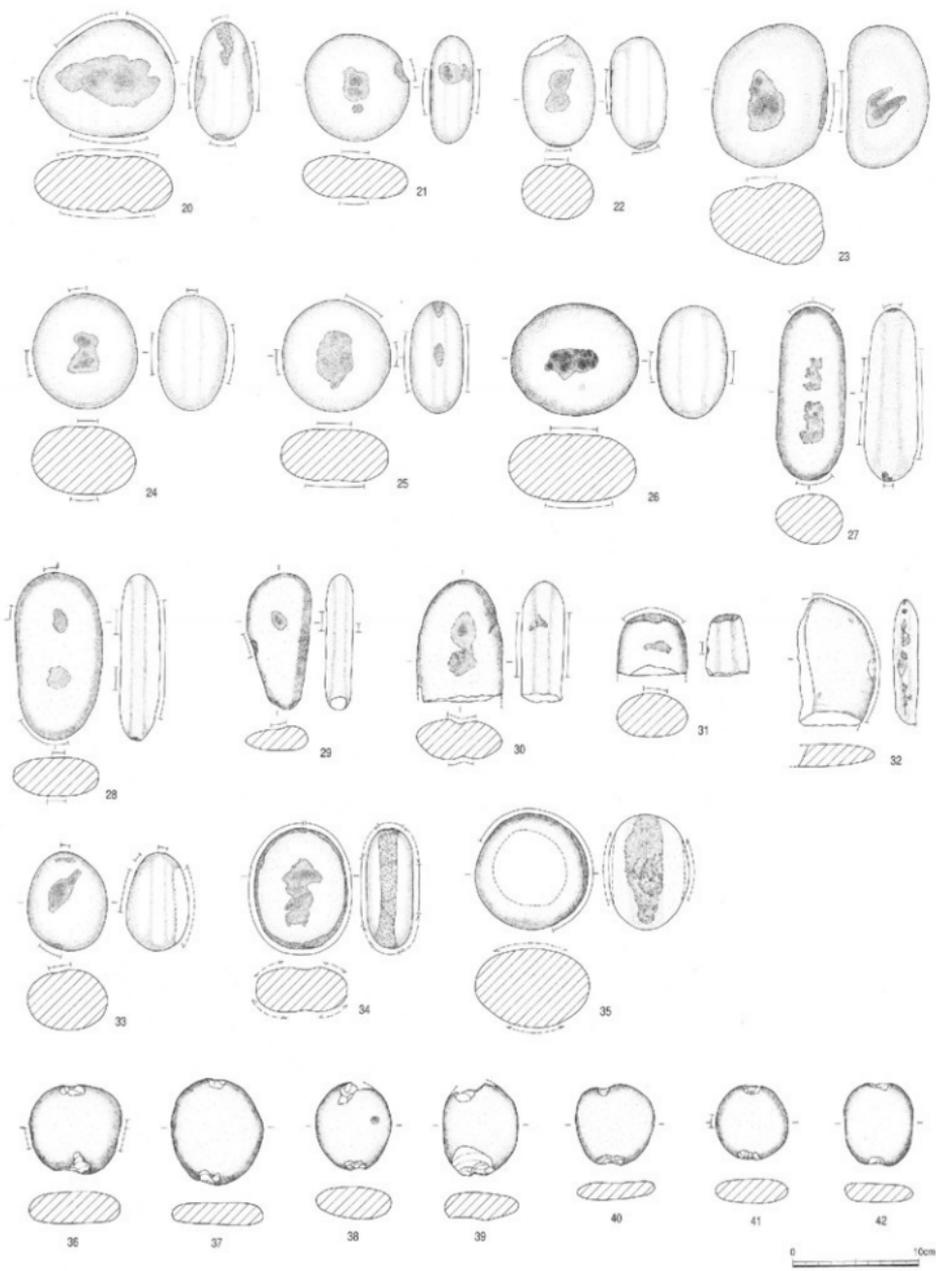
番号	器種	地区/出地点	長さ m	幅 cm	厚さ m	重さ g	備考・石質	
197	石皿	B4	169	(152)	44	(1690)	中粒砂岩	
198	石皿	B4	236	212	52	2980	凝灰岩	
199	石皿	B5	(162)	(125)	25	(710)	凝灰岩	
200	石皿	B7 SD05	146	(103)	59	(1070)	中粒砂岩	
201	石皿	C2 SD16	169	(123)	41	(1800)	粗粒砂岩	
202	石鉢(打欠)	F SD19	87	75	24	260	中粒砂岩	
203	石鉢(打欠)	F ST13	72	58	19	135	凝灰岩	
204	石鉢(打欠)	F SD19	(68)	53	19	(100)	中粒砂岩	
205	石鉢(打欠)	A2	96	57	28	228	敲打板、粗粒砂岩	
206	石鉢(打欠)	A3	72	61	21	101	火山岩	
207	石鉢(打欠)	A1	ST01	70	61	27	147	凝灰岩
208	石鉢(打欠)	A4-2	ST04	65	53	22	118	粗粒砂岩
209	石鉢(打欠)	A5	SD01	87	67	22	162	火山輝緑凝灰岩
210	石鉢(打欠)	A5	ST01	72	62	26	159	中粒砂岩
211	石鉢(打欠)	A5	SB02	53	40	28	48	凝灰岩
212	石鉢(打欠)	C6	76	74	27	201	中粒砂岩	
213	石鉢(切目)	A3	82	58	20	134	中粒砂岩	
214	石鉢(切目)	A5	ST01	62	66	21	119	中粒砂岩
215	石鉢(切目)	A5	ST01	56	66	14	90	輝石火山岩
216	石鉢(切目)	A5	ST01	62	57	18	80	打欠・切目、輝石火山岩
217	石鉢(切目)	A7	76	82	20	158	凝灰岩	
218	石鉢(切目)	B7	S I 10	72	73	16	123	凝灰岩
219	石皿	F SD19	18.5	(13.3)	3.5	(0.7)	輝石火山岩	
220	石皿	F	ST14	17.5	2.5	0.5	輝石火山岩	
221	石皿	F		21.4	(11)	3.3	(0.4)	凝灰岩
222	石皿	F	ST14	(25.7)	17.8	4.9	(1.7)	輝石火山岩
223	石皿	F	ST14	22.1	18.6	3.3	1.3	輝石火山岩
224	石皿	F		(25.2)	12.4	3.3	(1.0)	凝灰岩
225	石皿	F		(23.2)	16.2	3.5	(0.8)	フリント
226	石皿	A2		19.0	13.5	2.5	0.4	輝石火山岩
227	石皿	A4-2	ST04	28.5	17.5	5.0	2.6	輝石火山岩
228	石皿	A4	ST01	23.0	14.0	3.5	0.8	輝石火山岩
229	石皿	A4-2	ST04	44.5	(23)	4.5	(4.1)	輝石火山岩
230	石皿	A4	ST01	26.0	19.0	4.0	1.4	輝石火山岩
231	石皿	A4	ST01	23.0	15.0	3.3	0.7	輝石火山岩
232	石皿	A4	ST01	18.0	14.0	3.2	0.6	輝石火山岩
233	石皿	A5	ST01	21.5	15.0	3.0	0.7	輝石火山岩
234	石皿	A5	ST06	20.5	13.0	2.5	0.6	凝灰岩
235	石皿	A5	ST01	19.5	14.0	4.0	0.8	輝石火山岩
236	石皿	A5	ST01	16.0	15.0	2.7	0.7	未製品、輝石火山岩
237	石皿	A5	ST01	24.5	21.5	5.3	1.7	凝灰岩
238	石皿	A5	ST01	(26)	15.0	3.0	(1.0)	フリント
239	石皿	A6	S I 16	23.0	(18)	4.0	(1.2)	輝石火山岩
240	石皿	A6	SD10	(18)	17.0	3.7	0.9	輝石火山岩
241	石皿	A6	S I 06	26.5	15.5	3.5	0.9	フリント
242	石皿	A6	ST06	23.0	15.0	2.7	0.6	フリント
243	石皿	A6	ST06	(28)	17.5	3.0	0.7	フリントか
244	石皿	A6	S I 06	(19.5)	15.0	3.5	0.7	フリント
245	石皿	A7	S I 08	17.5	13.0	3.8	0.6	フリント
246	石皿	B1	(16)	(12)	(25)	(0.5)		輝石火山岩
247	石皿	B3	S I 03	(22.5)	16.0	5.6	(1.9)	フリント
248	石皿	B3		23.0	16.5	4.0	1.1	未製品、輝石火山岩
249	石皿	B4		21.5	(16.8)	3.3	(0.9)	輝石火山岩
250	石皿	B4		25.2	17.3	3.0	1.1	輝石火山岩
251	石皿	B5	ST10	29.0	11.5	4.7	1.1	輝石火山岩
252	石皿	C3	SK86	18.5	17.3	4.0	1.4	輝石火山岩
253	石皿	F	SD19	36.8	11.1	7.0	2.4	輝石火山岩
254	石皿	F	(56.3)	24.0	7.5	(7.0)		凝灰岩
255	石皿	A2	幹部	(34.5)	(13.7)	(11.5)	(4.2)	輝石火山岩
256	石皿	A4	ST01	32.5	27.0	7.7	1.0	輝石火山岩
257	石皿	A4	ST01	(34.5)	18.5	4.8	(2.0)	輝石火山岩
258	石皿	A5	ST01	30.0	23.8	7.0	3.9	輝石火山岩
259	石皿	A6	S I 05	(38)	13.5	7.7	(3.4)	輝石火山岩
260	石皿	A8	(41.5)	19.3	10.2	(7.1)		輝石火山岩
261	石皿	B3		30.0	20.0	8.5		輝石火山岩
262	石皿	B4		33.0	12.0	7.0	2.5	輝石火山岩
263	石皿	B7	S I 10	30.5	11.0	7.0	2.4	輝石火山岩
264	石皿	C6	ST11	(27.5)	22.5	8.0	(4.1)	輝石火山岩

番号	器種	地区/出地点	長さ m	幅 cm	厚さ m	重さ g	備考・石質	
265	石皿	A2	ST02	49.5	72.5	7.1	23.8	輝石火山岩
266	石皿	A3	ST03	46.5	33.5	5.7	7.7	輝石火山岩
267	石皿	A4	ST01	53	71	15.7	45.9	輝石火山岩
268	石皿	E4	ST01	(26.0)	(27.8)	8.7	(5.3)	輝石火山岩
269	石皿	B6		60	102.5	18.8	80.7	輝石火山岩
270	石皿	B7		42	57	16	19.9	安山岩
271	石皿	B8		(50.0)	(26.0)	12	(12.9)	安山岩質
272	石皿	C6	ST11	29	47	10.5	12.2	輝石火山岩
273	砥石	F	SD19	(67)	(62)	41	(289)	中粒砂岩
274	砥石	F		(63)	52	38	(165)	中粒砂岩
275	砥石	F	ST13	130	132	98	2190	火山輝緑凝灰岩
276	砥石	A3	S I 02	86	30	19	(85)	泥岩
277	砥石	A3	ST03	(58)	(53)	(21)	(47)	細粒砂岩
278	砥石	A4	ST01	101	49	35	275	粗粒砂岩
279	砥石	A4	ST01	(26)	25	13	(12)	凝灰岩
280	砥石	A4-2	ST04	(62)	36	8	(24)	中粒砂岩
281	砥石	E4	ST01	(46)	(52)	(41)	(130)	細粒砂岩
282	砥石	A5	ST04	(30)	(35)	(8)	(11)	凝灰岩
283	砥石	A5		(134)	(79)	69	(394)	細粒砂岩
284	砥石	E5		(103)	(61)	45	(945)	細粒砂岩
285	砥石	A5	S I 06	60	21	21	41	泥岩
286	砥石	A5	SD01	(54)	40	26	(97)	凝灰岩
287	砥石	A5		(65)	(56)	17	(80)	中粒砂岩
288	砥石	A5	ST01	(47)	(33)	46	(75)	凝灰岩
289	砥石	A6	S I 06	(72)	(87)	(21)	(171)	凝灰砂岩
290	砥石	D6		139	50	32	440	緑色凝灰岩
291	砥石	A7	SD05	(116)	52	43	(308)	粗粒砂岩
292	砥石	B7	S I 07	(57)	35	21	(60)	塚付凝灰、凝灰岩
293	砥石	A9		(89)	37	31	(97)	粗粒砂岩
294	砥石	A8	S I 17	(161)	(99)	41	(780)	黄白質付着、粗粒砂岩
295	砥石	B8	ST09	(42)	(26)	(18)	(15)	泥岩
296	砥石	A10		(36)	34	34	(62)	粗粒砂岩
297	砥石	B3		123	95	33	392	中粒砂岩
298	砥石	B3	S I 03	(82)	(28)	(18)	(38)	泥岩
299	砥石	B3	SK03	(29)	(30)	(31)	(35)	中粒砂岩
300	砥石	B4		(68)	52	30	(170)	暗緑石帯赤褐色、緑色凝灰岩
301	砥石	B4		180	184	116	5310	中粒砂岩
302	砥石	B4	ST05	251	173	60	3750	中粒砂岩
303	砥石	B5	ST10	(82)	(68)	(25)	(73)	泥岩
304	砥石	B5		(53)	25	17	(28)	凝灰岩
305	砥石	B6	ST10	(31)	(34)	5	(7)	泥岩
306	砥石	B7	ST09	(103)	69	40	(275)	細粒砂岩
307	砥石	B7		(55)	(45)	8	(22)	泥岩
308	砥石	B7	SK08	33	33	18	54	泥岩
309	砥石	B7	SK16	(41)	(33)	(24)	(36)	粗粒砂岩
310	砥石	B7	S I 10	(32)	(34)	33	(82)	凝灰岩
311	砥石	C4	SD15	(40)	38	14	(28)	凝灰岩
312	砥石	C5	SD15	(72)	45	41	(195)	凝灰岩
313	砥石	C5	SD15	(65)	60	17	(42)	凝灰岩
314	砥石	C6		137	(127)	107	(2200)	粗粒砂岩
315	砥石	C6		(30)	38	23	(45)	粗粒砂岩
316	不明	A3	ST03	105	(74)	30	(340)	輝石火山岩
317	不明	A5		67	55	45	200	全体にキズ、中粒砂岩
318	不明	C6		92	67	27	247	全体にスリキズ、中粒砂岩
319	不明	A7	S I 07	83	74	56	632	赤石中、中粒砂岩
320	石棒	A2		(71)	27	26	(85)	片岩
321	石棒	A3	SD10	208	26.7	27.5	257	緑色頁岩
322	石棒	B7	SD05	(73)	29	23	(85)	紅色頁岩
323	柄杓	A4	SD01	53.8	27	8.2	123	粗粒砂岩
324	菅玉	A5	S I 05	(57.7)	7.3	6.7	(0.3)	緑色凝灰岩
325	釜	A6	ST06	13	5.9	5.8	0.7	未製品、緑色凝灰岩
326	玉	B1		14.6	径15.6		4.9	石質不明
327	玉	B7		22.5	16	12.5	4	凝灰岩
328	菅玉	C8	SD16	34.2	8.3	7.7	3.1	緑色凝灰岩
329	ガラス玉	A7	S I 08	5.2	5.5	4.6	0.2	濃褐色
330	ガラス玉	B7	ST06	6.8	7.5	3.7	0.19	濃褐色

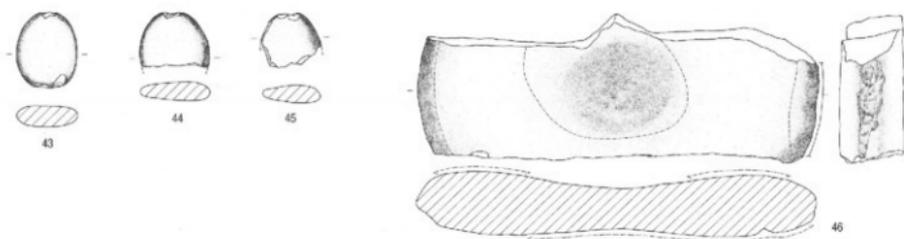


打製石斧 (1~4・6~14)・磨製石斧 (15・16)・礫石 (5・17~19)

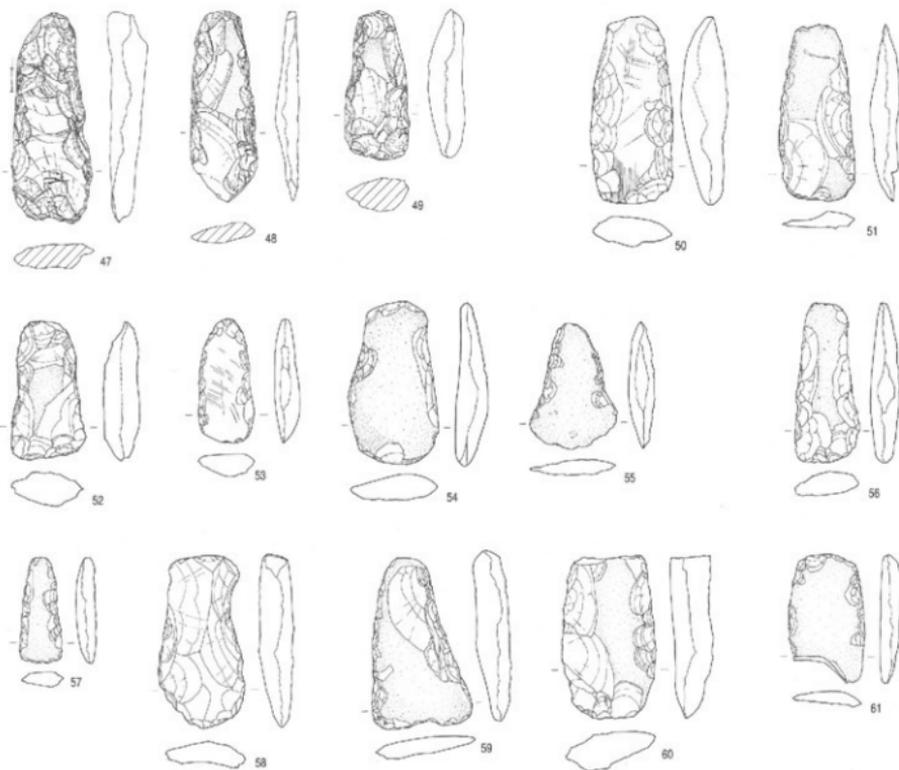
第181图 河道上层出土石器 (1~5)・河道S区下层出土石器 (6~19) (1/4)



第182图 河道S区下層出土石器(20~42)(1/4) 敲石(20~32)・磨石(33~35)・石錘(36~42)



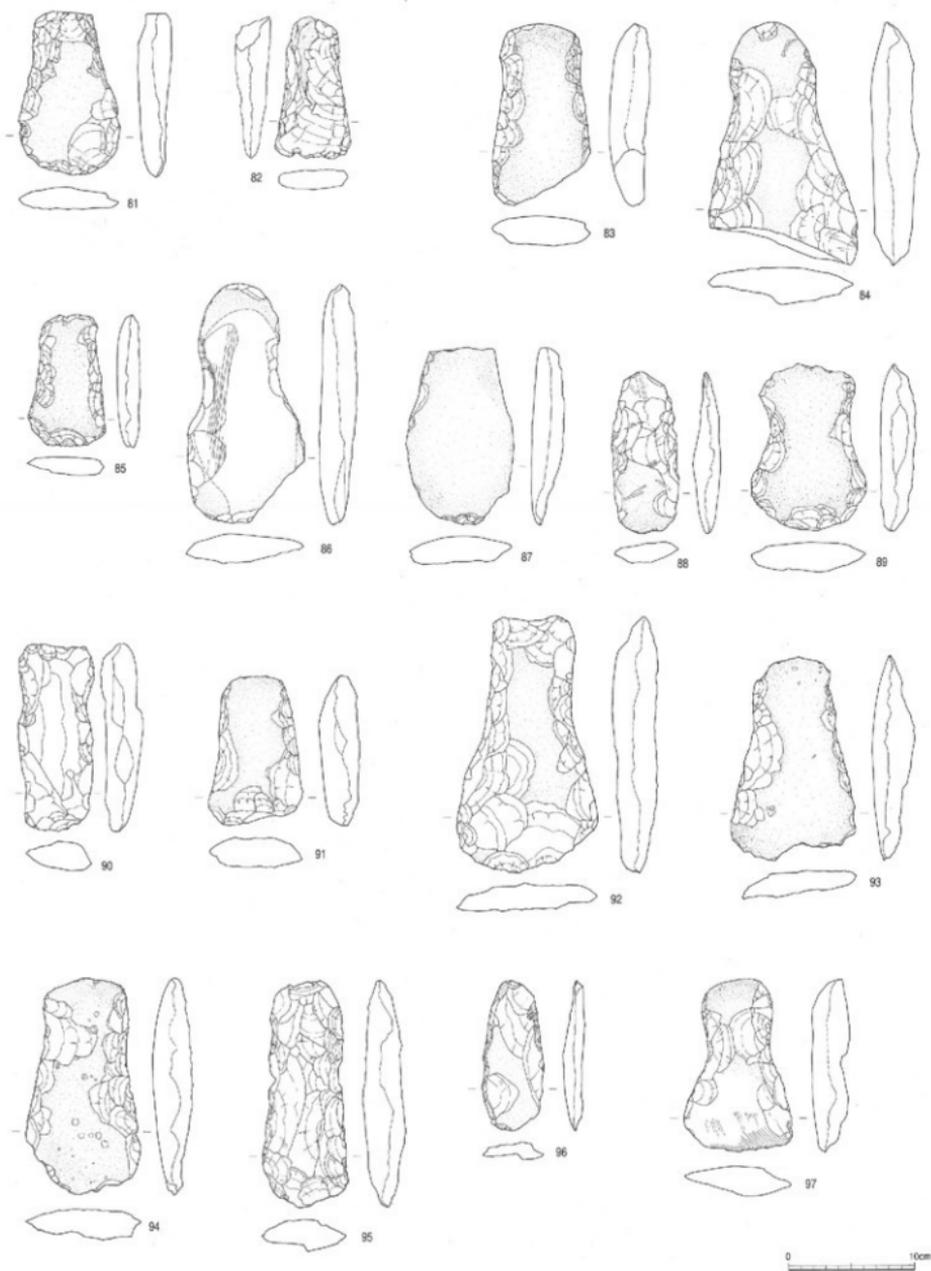
第183图 河道S区下層出土石器(43~46) (1/4) 石錘(43~45)・石皿(46)



第184图 打製石斧(47~61) (1/4) F区(47~49)・A2区(50~55)・A4区(56~61)



第185图 打製石斧(62~80)(1/4) A5区(62~67)·A6区(68·69)·A7区(70)·E8区(71)
B2区(72)·B3区(73~75)·B4区(76~78)·B5区(79~80)



第186图 打製石斧(81~97)(1/4) B7区(81)·B10区(82)·C2区(83)·C3区(84·85)·C4区(86·87)
C5区(88·89)·C6区(90~92)·C8区(93·94)·C9区(95·96)·不明(97)

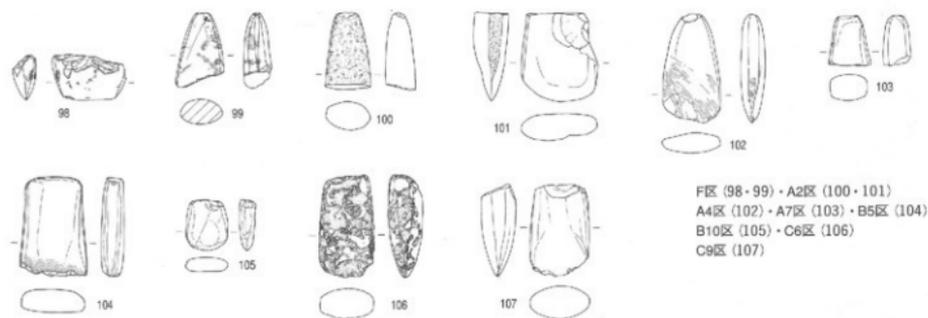
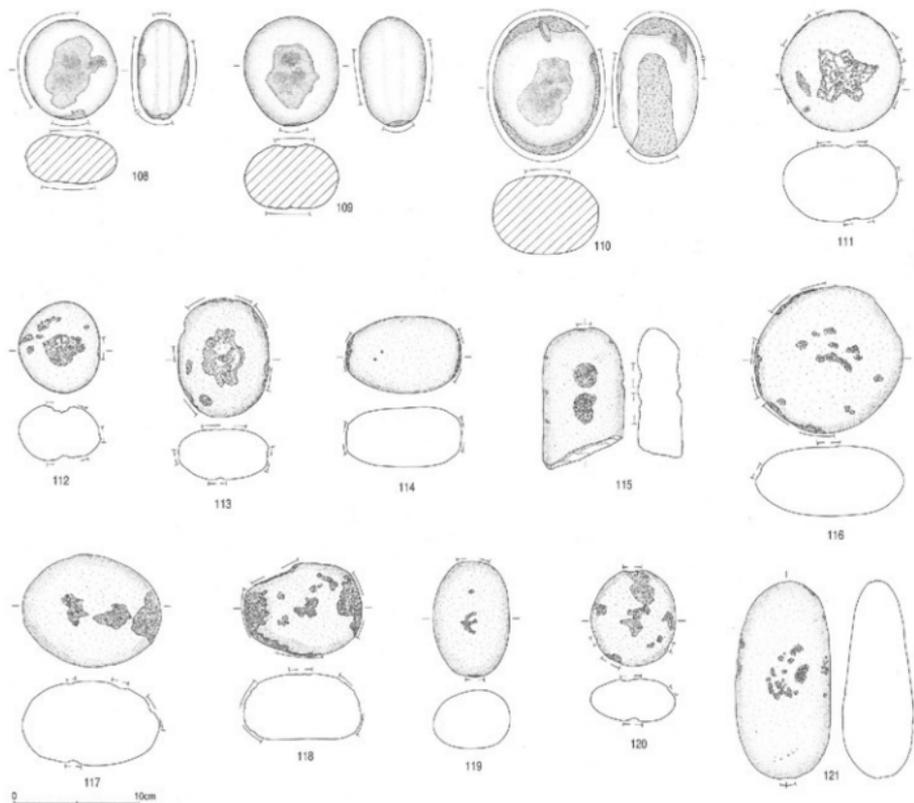
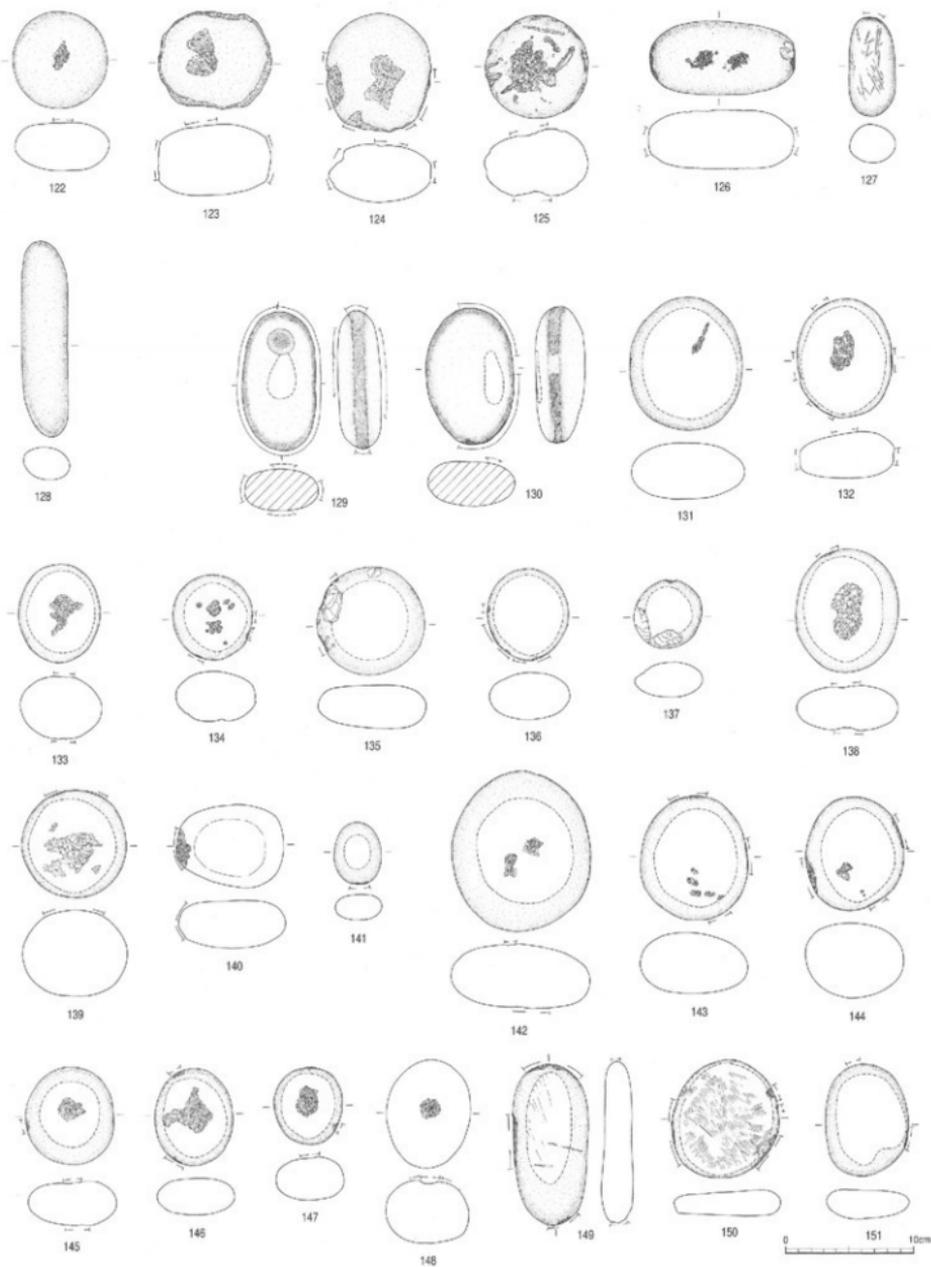


FIG (98-99)・A2区 (100・101)
 A4区 (102)・A7区 (103)・B5区 (104)
 B10区 (105)・C6区 (106)
 C9区 (107)

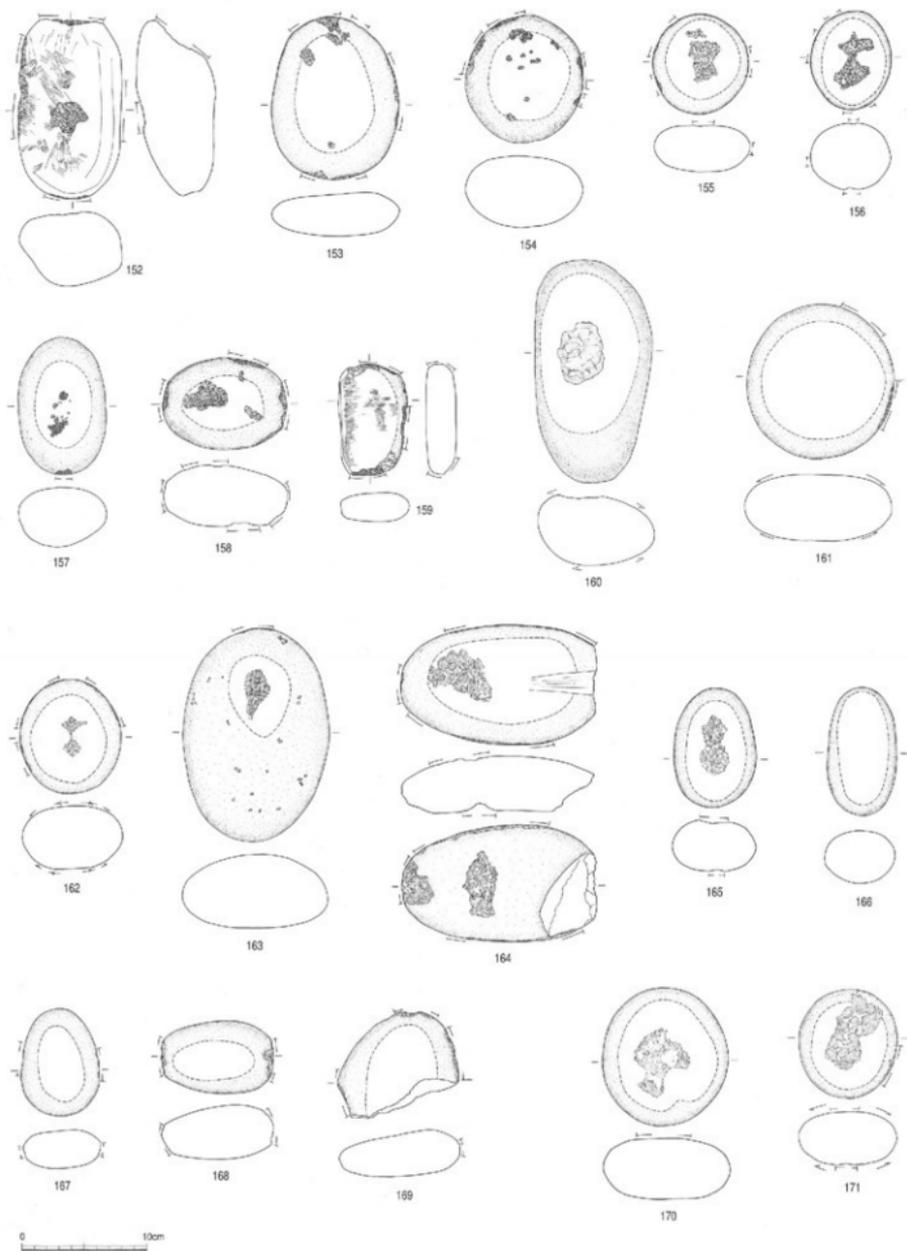


第187图 磨製石斧 (98~107)・敲石 (108~121) (1/4)

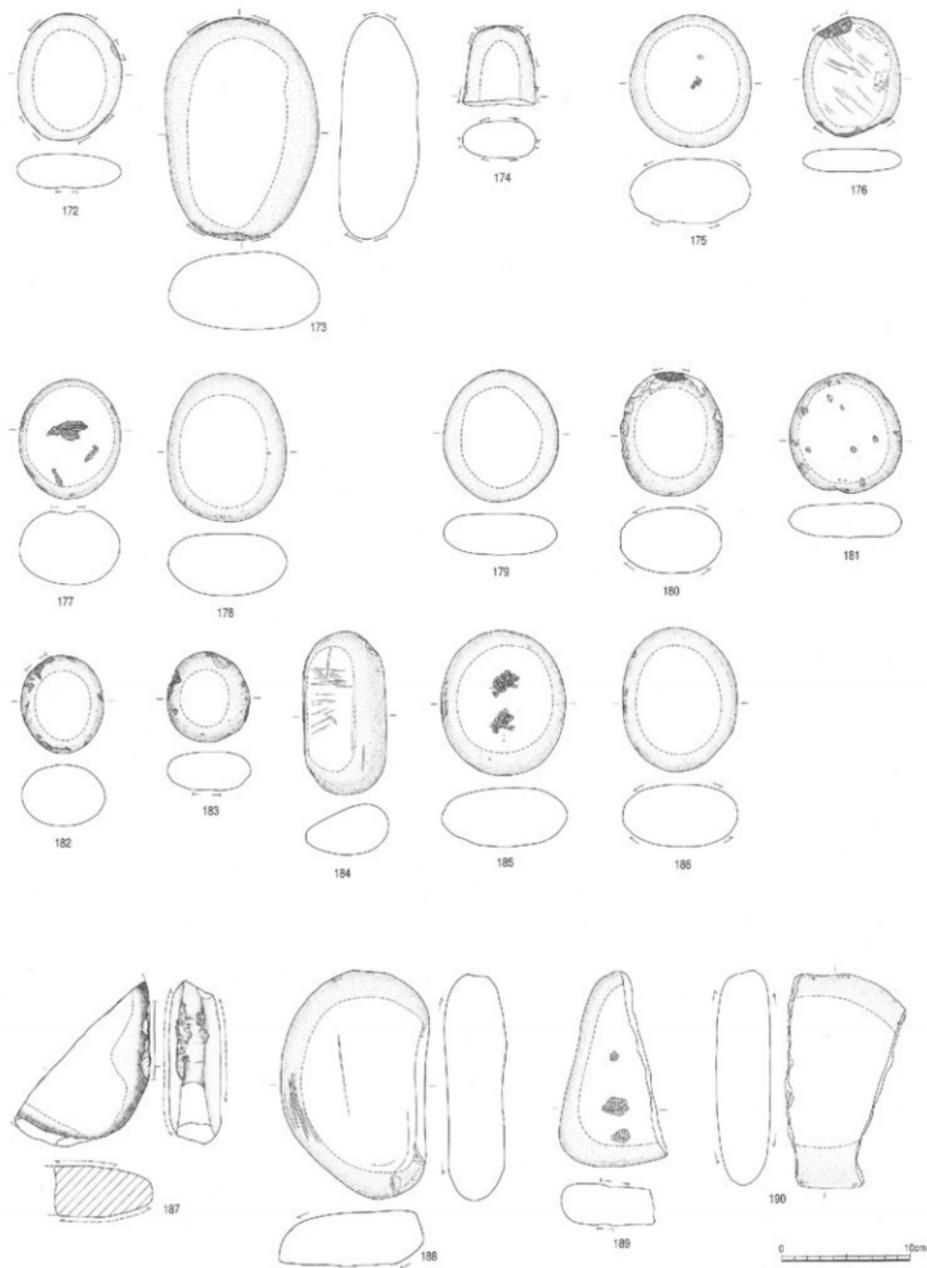
FIG (108~110)・A2区 (111~113)・A3区 (114)
 A4区 (115)・A5区 (116~120) A7区 (121)



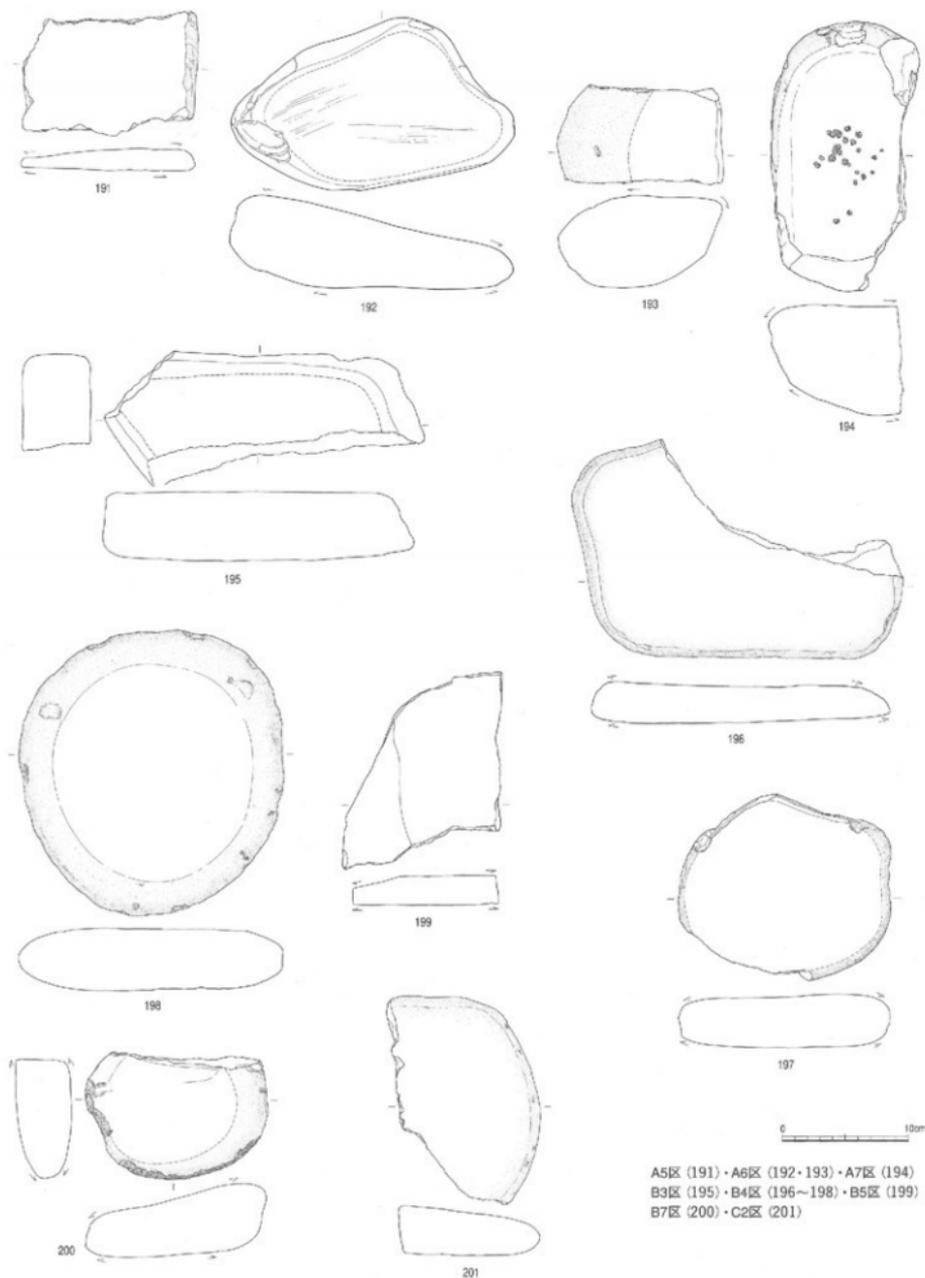
第188图 敲石 (122~128) (1/4) B3区 (122)·B4区 (123)·B5区 (124)·C3区 (125)·C6区 (126~128)
磨石 (129~151) (1/4) F12区 (129·130)·A2区 (131~137)·A3区 (138~141)·A4区 (142~151)



第189图 磨石 (152~171) (1/4) A5区 (152~156)·A6区 (157~159)·A7区 (160)·B3区 (161~166)
B4区 (167·168)·B5区 (169)·B6区 (170·171)

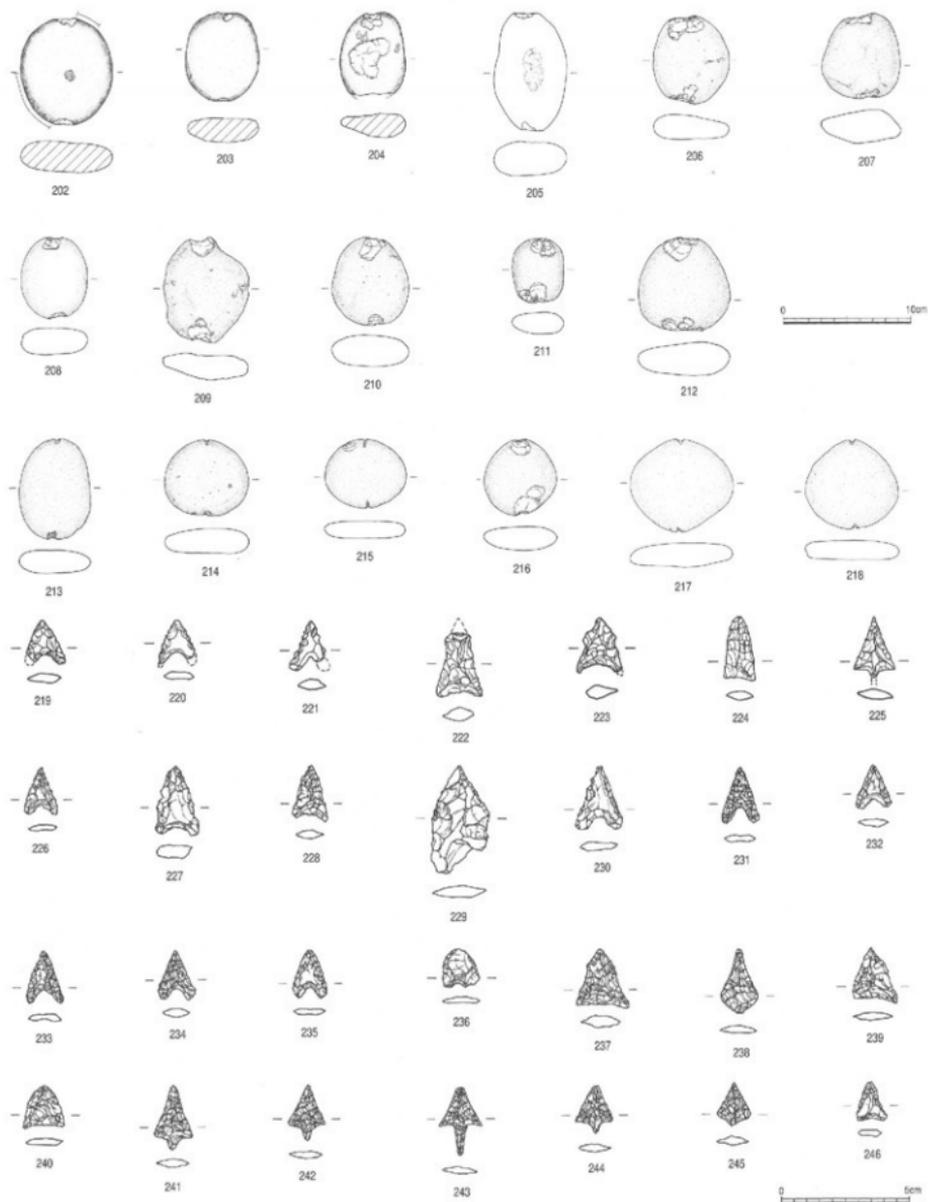


第190圖 磨石 (172~186) (1/4) B6区 (172~174)・C4区 (175~176)・C5区 (177~178)・C6区 (179~184)・不明 (185~186)
 石皿 (187~190) (1/4) F区 (187)・A3区 (188)・A4区 (189)・A5区 (190)

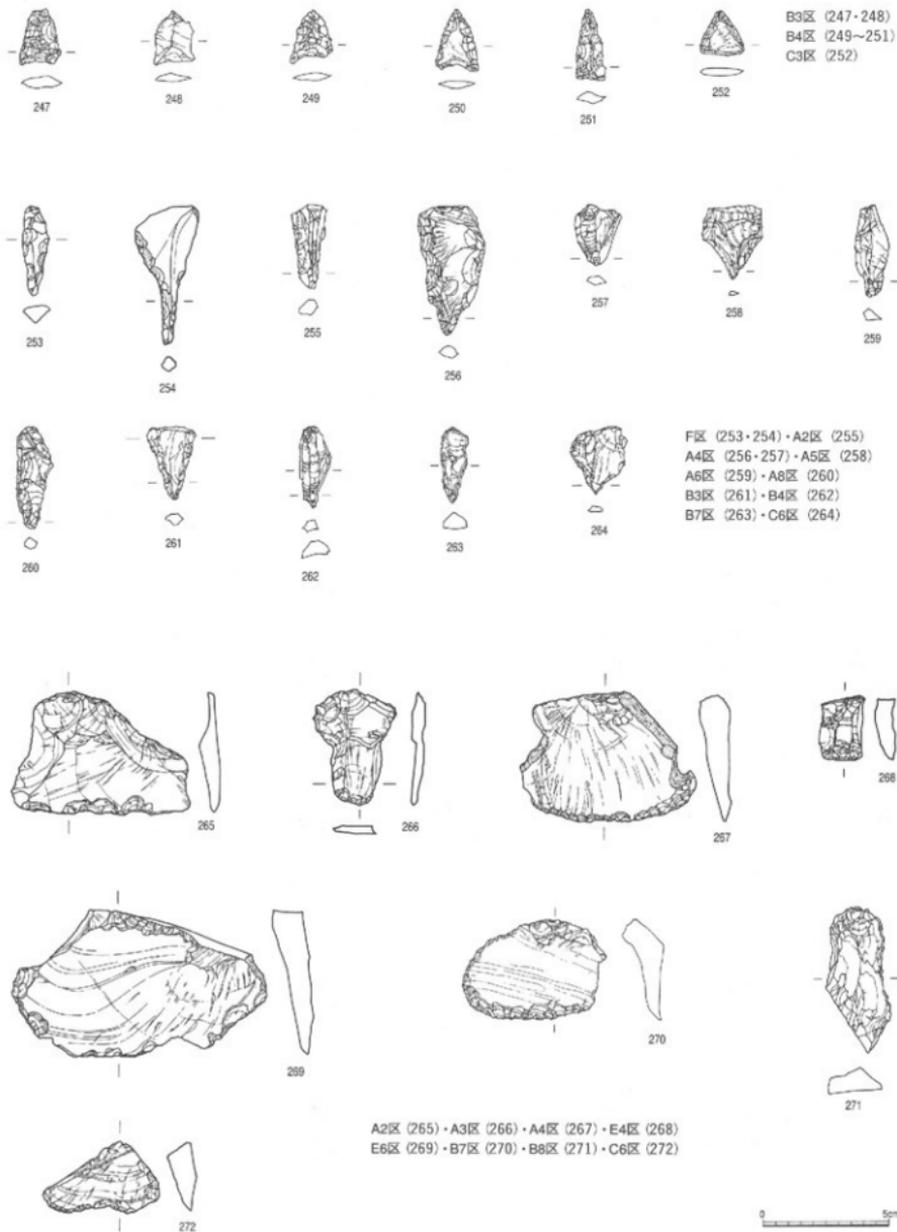


A5区 (191)・A6区 (192-193)・A7区 (194)
 B3区 (195)・B4区 (196-198)・B5区 (199)
 B7区 (200)・C2区 (201)

第191図 石皿 (191~201) (1/4)



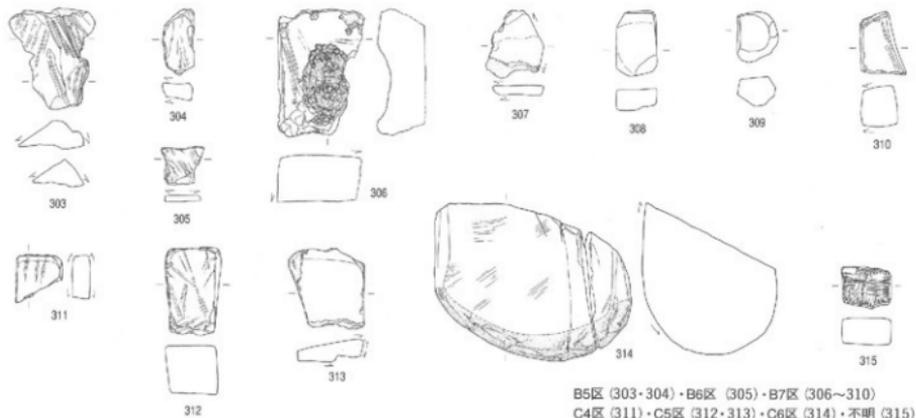
第192図 石錘 (202~218) (1/4) F区 (202~204)・A2区 (205)・A3区 (206・213)・A4区 (207・208)
 A5区 (209~211・214~216)・C6区 (212) A7区 (217)・B7区 (218)
 石鏃 (219~246) (1/2) F区 (219~225)・A2区 (226)・A4区 (227~232)・A5区 (233~238)
 A6区 (239~244)・A7区 (245)・B1区 (246)



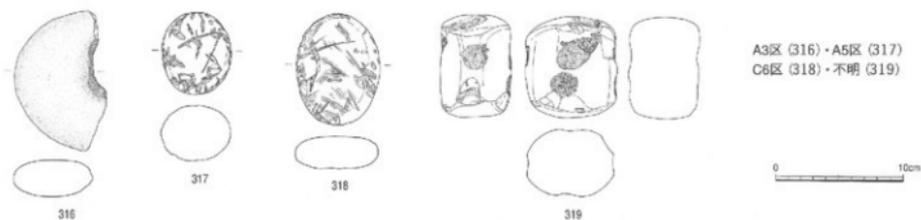
第193圖 石鏃(247~252)・石錐(253~264)・石匙(265~272)(1/2)



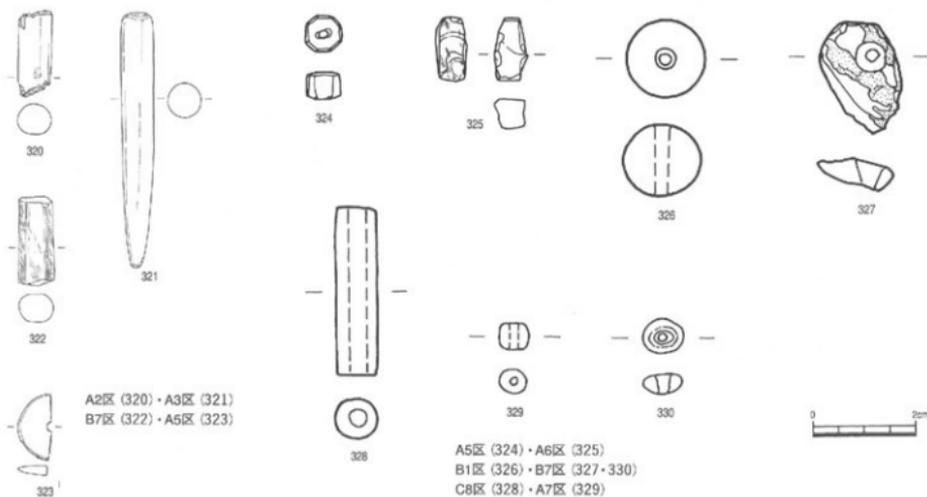
第194図 砥石 (273~302) (1/4) F区 (273~275)・A3区 (276・277)・A4区 (278~280)・E4区 (281)・A5区 (282~288)・A6区 (289~290)・A7区 (291~293)・A8区 (294~295)・A10区 (296)・B3区 (297~299)・B4区 (300~302)



B5区 (303-304)・B6区 (305)・B7区 (306~310)
C4区 (311)・C5区 (312-313)・C6区 (314)・不明 (315)



A3区 (316)・A5区 (317)
C6区 (318)・不明 (319)



A2区 (320)・A3区 (321)
B7区 (322)・A5区 (323)

A5区 (324)・A6区 (325)
B1区 (326)・B7区 (327-330)
C8区 (328)・A7区 (329)

第4章 ま と め

第1節 縄文時代後期中葉土器群の概観

県内における後期中葉の土器群の様相は、近年、調査の増加とともに明らかになりつつある。特に検出例の少なかった加賀地域では、加賀市横北遺跡（湯尻他1977）、野々市町御経塚遺跡（高畑他1983）、鶴来町白山町遺跡（西野他1985）、金沢市米泉遺跡（西野他1989）、金沢市馬替遺跡（南1993）の調査から資料の蓄積は高まってきた。しかし、前代の気屋2式や続く加曾利B1式古段階の資料は少ないため酒見式への過程となる中葉前半の様相ははっきりしない状況と言えよう。ここでは本遺跡の土器群の様相を概観するため、分類を行った後で他の遺跡の類別を参照し簡略ながら考慮してみた。

1 土器の分類

本遺跡の土器群は、東日本に広く分布する加曾利B式に類似する土器群といわゆる西日本の緑帯文土器の影響を受けた土器群が混在し、これらに少量の在地系土器が伴う北陸地方中央域の地域性が見られるものである。このため土器図版は出土状況によって作成し、各地区の客観的様相の提示を意図したものである。分類は、土器群を東西の系統に大別して文様の理解しえる土器を抽出したもので、深鉢を中心にを行った。

深鉢の東西系統の大別は、器形と文様帯の構成から判断している。東日本系の土器は口縁部に文様帯をもつもので、形態は胴部で括れる例は少ない。西日本系の土器は頸部で括れ胴の張る形態が特徴となり、ほとんどは無文帯を挟み口縁部文様帯と胴部文様帯をもつ。しかし小片が多いことから分類は、西日本系の土器では胴部文様を、東日本系では口縁部の横位沈線を区画する文様で判断したものが多く、また、注口土器は東西系統の認識がはっきりしていないこと、類別の不明なものは省略したこと、東西系統への分離判断には文様や形態に東西間の交差現象を生じていると思われる土器の存在から曖昧なものがあることを断っておきたい。

(1) 東日本系・在地系の土器

深鉢

形態

深鉢A 平縁を呈し、口縁部は外反するもの。

深鉢B 波状口縁を呈し、口縁部は外反するもの。

深鉢C 3単位の波状口縁を呈する形態と考えられる、加曾利B式的な土器。口縁部は直線的で外傾するものや、緩く内湾するものがある。波状の単位数は不明のものが多く、

I 波頂部に突起が認められるもの。

II 波頂部に突起のないもの。

III 波底部の破片。

深鉢D 平縁を呈し、口縁部は内湾や内屈するもの。

深鉢F その他の深鉢。器形の不明なものを含めた。

文様

1類 条線文を施すもの。

a 沈線を伴わない条線文をほどこすもの。

b 沈線間に条線文を施すもの。

2類 人組弧線文をもつもの。

a 単独の人組弧線文をもつもの。

b 縦に連続する人組弧線文をもつもの。

- 2類 入組弧線文をもつもの。
 3類 蛇行沈線文をもつもの。
 4類 沈線間の弧線や「し」字状の沈線によって長楕円状の区画をつくるもの。
 a 波頂部位で1段の長楕円形区画を対向させるもの。
 b 長楕円形の区画をチドリになるもの。沈線が大きく折り返されるようになるかは不明である。
 c b（チドリ）とはならない長楕円形の区画をもつもの。
 d 「し」字状の沈線で長楕円形風の区画をもつもの。
 e 単独の長楕円形の区画をもつもので、区画は上下に2個が対となる。
 5類 「逆の」字状文をもつもの。
 6類 「(↓)」状文をもつもの。
 7類 「(○)」状文をもつもの。
 8類 「S」字状・「逆S」字状文をもつもの。
 9類 押圧や短沈線による単位文や区切文を施すもの。
 a 2個一対や3個一対の短沈線を下へ行くにつれずらして施すもの。
 b 2個一対の押圧や短沈線はずれずに上下に連なるもの。押圧が1個単独のものもある。
 10類 2本組の横位対弧線文を施すもの
 11類 「X」字状文を施すもの。
 12類 その他の文様のもの

深鉢突起

左右非対称の偏向突起（18・19・28・441など）と左右対称の突起（342・415・461・458～460）に区分できる。

浅鉢

浅鉢の形態は下記の2種に大別できるが、文様構成のわかるものは少ない。浅鉢Aでは内面に文様を施すものと施さないものがある。文様から一部は下表に上器番号を挿入した。

浅鉢A 「く」の字状に内屈する口縁部をもつもの。（25・33・130・131・132・209・210・437）

浅鉢B 内湾する口縁部をもつもの。（23）

注口土器

口縁部と体部が接合し器形全体を窺えるものは無い。口縁部の形態から下記の2種に大別できる。

注口A 内屈する口縁部をもち頸部で括れるもの。（147・151・221・222・379・443・443・526・527）

注口B 無頸となるもの。（148・152・505・506）

口縁部の文様は平行沈線を2から4本施し、上下を縄文帯とし中央部を無文帯とするものが多い。また、沈線間に連続して刻みを施すものがある。体部の文様は条線文が施されるものも多く、単位文をもたない46・143と、単位文を有する47・144・146・219・220などがある。一部は文様によって下表に土器番号を挿入した。

東日本系・在地土器分類表

区 分	深鉢A (外反)	深鉢B (外反)	深鉢CI (有突起)	深鉢CII (無突起)	深鉢CIII (波底部片)	深鉢D (内湾・内屈)	深鉢F その他	浅鉢	注口
1類a(条線文)	165・166								
1類b	337・451	53							46・143
2類a(入組弧線文)		56							
2類b			167・168	463	186				
3類(蛇行沈線文)	36・171		354	474	65・66・169		69		27

区 分	深鉢A (外反)	深鉢B (外反)	深鉢CI (有突起)	深鉢CII (無突起)	深鉢CIII (波底部片)	深鉢D (内湾・内屈)	深鉢F その他	浅鉢	注 記
4類 a (長楕円区画)			340	72				437?	
4類 b	128				173・181				
4類 c	63				39・172	74			
4類 d			75						
4類 e	517					489			
5類 (「逆」字状文)				495					144・147? 148?
6類 (「()」状文)			410	499	12・493		355	130・210	486
7類 (「()」状文)		359	349		58・467				
8類 (「S」字状文)			64		338				47・219・220
9類 a (押圧文)			57		22・31	177			
9類 b		62・515	11・54・55 175	95・176・207	60・71・174 385・386・512				
10類 対弧線文				390	68・464				
11類 X字状文						421			
12類 その他		360		96	76		353		

(2) 西日本系・東海系の土器

深鉢

口縁部の形態と文様構成

深鉢A 波状口縁を呈し口縁部は内湾するもので、同様の形態と考えられるものを含む。

Ⅰ 波頂部には2から4本束の沈線で三角形の区画を描くもの。3単位の波状口縁となるものが多い。

Ⅱ Ⅰにみられる三角形の区画は無く、3単位の波状口縁となるかは不明。

Ⅲ 破片のため文様構成が不明なもの

深鉢B 振幅の大きい4単位の波状口縁を呈し、口縁部がくの字状に内屈するもので波頂部に円形の突起がつくもの。

深鉢C 波状口縁を呈し、口縁部は「く」の字状に内屈するもの。

深鉢D 平縁を呈するもの。

深鉢E その他の深鉢。器形の不明なものを含めた。

文 様

1類 縦連「((()))」状文をもつもの。

2類 「((()))」状文をもつもの。

3類 入組弧線文をもつもの。

4類 蛇行沈線文をもつもの。

5類 波頂部に単位文をもたないもの。

6類 粘土貼付隆帯によって文様を構成する東海地方系の土器とされるもの。

7類 「(|)」状文や「| |」状文をもつもの。

8類 沈線間に弧線によって長楕円状の弧線区画をつくるもの。

9類 口縁部に2本または1本の横位沈線を施すもの。

10類 口縁部に3本の横位沈線を施すもの。

11類 沈線内連続刺突・列点文・結び目文を施すもの。

浅鉢

浅鉢の形態は下記の2種に大別できるが、器形全体を窺えるものや文様構成のわかるものは少ない。また、口縁部の破片だけでは器種の判断がつかないものがある。一部は文様から下表に土器番号を挿入した。

浅鉢A 内湾する口縁部をもつもの。(129・375・439・441)

浅鉢B 口縁部が外反し頸部で括れ胴の張るもの。(133・138・518)

注口土器

口縁部と体部が接合し器形全体を窺えるものは無い。東日本系の土器と同様に口縁部の形態から下記の2種に大別できる。また、体部の形態は球体に近いものと算盤玉形になるものが認められる。

注口A 内屈する口縁部をもち頸部で括れるもの。(149・378・445・535)

注口B 無頸となるもの。(50・161)

注口Aの口縁部には平行沈線を2本施し、上下や沈線間に縄文を施す例がみられる。体部が球体に近いものには磨消縄文となる2本対の沈線によって円形状の文様を描くものが多く、156・160・226・228などが該当する。沈線で三角形風に区画する49・344や、対弧線文と特徴的な結び目縄文を施す161などがある。沈線の末端が刺突されるものは見当たらない。注口土器の一部は文様によって下表に土器番号を挿入した。

西日本系・東海系土器分類表

(ゴシック数字は沈線内連続刺突をもつ個体である)

区 分	深鉢A I (三角区画)	深鉢A II	深鉢A III (小片)	深鉢B (4波状)	深鉢C (くの字状)	深鉢D (平縁)	深鉢E (その他)	浅 鉢	注 口
1類 (縦走「()」状文)	183・87・40								
2類 「()」状文	85・184 192・194		86・134・190 212・430・440					439	225
3類 (入組弧線文)	185		519						
4類 (蛇行沈線文)	88・187・394	93・193				67?			
5類 (単位文なし)	94・195								
6類 「()」・「 」状文		207・361 498							
7類 (粘上貼付産帯)	208					123～125 370・371 403			
8類 (長楕円状区画)						111・200	112～114 532		149・378
9類 (対弧線文・弧線文)							116	133・138 518	48・161
10類 (口縁部3本沈線)					105・435・480	424	101・115・197	375	
11類 (口縁部2本沈線)	431	41?・42 102?		107・108	24・368・400				
12類 (沈線内刺突・列点文・ 結び目縄文)	205	363	366・434 121			217・218			122・206 234・344 447・527

2 土器群の概観

ここでは東西の系統に大別した深鉢について他の遺跡との比較から様相や編年の位置づけについて気のついた点や私見を述べて概観したい。

(1) 東日本系・在地系の土器

深鉢には条線文が施される一群と加曾利B式の影響を受けた一群があり、土器量では後者が圧倒している。前者の深鉢A 1類165・166などは、気屋2式からの継続が窺える口縁部の外反する形態となることから在地色の強いもので、加曾利B 1式期に特徴的な土器とされているものである。この1類の文様には入組蛇行風や渦巻風の施文は見られず、451は74に類似する意匠の楕円状区画が認められることから加曾利B 1式でも後半期と考えられようか。波状口縁となるものの同様に外反する器形となるB 2 a類の56は、能都町真駒遺跡(米沢1986)や門前町道下元町遺跡(市塚1985)、富山県滑川市本江遺跡(小島1978)・同朝日町境A遺跡(酒井他1991)に類例がみられ、酒井氏は加曾利B 1式期内で先行する土器からの変遷を示され(酒井1992)、類似する例は最後の段階に位置づけられている。また、2 a類の独立した入組弧線文と同様な施文がみられる馬替遺跡の西日本系土器(第28図24)や米泉遺跡の深鉢(第68図387)との関連に留意したい。

深鉢Cは加曾利B式的な土器群である。なかでも3単位の波状口縁となり突起を有するC I類はその影響を色濃く受けたものである。深鉢Cは県内で散発的に出土が確認されていたものであるが、本遺跡の西南3.7kmに位置する馬替遺跡でまとまった数量が検出されている。

馬替遺跡では、口縁部文様帯の上下に2または3条の平行沈線を配置し中央の幅を広くする例が多く、平行沈線の間隔が一定となるものが多い本遺跡とは様相に違いがみられる。C I 2 b類の連続する入組弧線文を用いて区画する例に167・186がある。なお、蛇行沈線文に見える168の区画文は簡略しつつも入組弧線を意識して施文されている。少数例であるが本遺跡では2類の連続入組文から3類の蛇行沈線文へ文様変遷がたどれるものと想定している。

長楕円状区画とした4類は分類のとおり多種多様である。馬替遺跡にも類例を認めるが、全般的には境A遺跡に近似する例が多い。平縁を呈する74は胴上部の無文部に僅かな屈曲があり、全体的に近似する馬替遺跡の第139図109や同26図15にも見られる。同様の屈曲は57にも認められるもので、注意したい特徴である。左右対称の突起をもち3単位波状の75は、「し」字状の沈線で楕円状区画とするものであるが、沈線には関西の乗式K式に特徴的とされる連続刺突が施されている。文様に東西系統の交差現象を生じているのもで、加曾利B 2式期に位置づけられよう。

馬替遺跡で「()」状文を施すものは、「逆の」字状文風に近く上部が接し円状となる描き方となっているものがあるが、本遺跡の6類では縦連部が接している12・410や、直線化した493、中の短線が繋がった499など簡略化した傾向がみられるものである。「S」字状の区画文が施される3単位波状の64は、左右対称の突起をもち胴上部で折れる形態から、加曾利B 2式に属するものと考えられる。

本遺跡でまとまった量がある押圧や短沈線による区画文の9類は、馬替遺跡からの出土は少量である。2個一対の短沈線を下へ行くにつれずらして施す9類aに57・177があるが点数は少ない。57の文様は、関東では加曾利B 1式に認められる鍵状沈線の鍵の部分、短沈線へ変化したものとして捉えられてB 1式の後半期に位置づけられている。また、押圧や短沈線がずれない9類bは後出段階とされている。なお、短沈線で区切る手法は新潟県の三仏生式との関連が窺えるものである。9類bのなかでも82・512は短沈線が縦に長くなり、2から3本の平行沈線を同時に区切っており後出的な印象を受けるものである。82は7単位の小さな波状口縁となり、口縁部が外反する在地系の土器と考えられるもので馬替・米泉遺跡に類例がある。加曾利B 2式期に属しよう。

平縁で「く」の字状に内屈するものに421・489があるが、県内での類例を知らないものである。胴上部でさらに括れる421には「X」字状文が施され、この上下の「し」字状区画文は楕円状区画文が崩れてきた感じがするものでB 2式期と考えられる。また、形態から489は421に先行し、類似する文様の長楕円状区画に沈線を入れる517は後出するものであろう。

深鉢C IIに含めた96・98・390は波頂部が肥厚し突起のみられないもので、B 2式期の所産と考えられる。

東日本系・在地系の深鉢は、加曾利B 1式～B 2式期併行の酒見式を含まない時期と考えられるものである。

(2) 西日本系・東海系の土器

本遺跡の土器群は県下での出土例は限られたもので、馬替遺跡では一定量が見られるものの、道下元町遺跡、白山町遺跡、横北遺跡で少数の類例が知られる。まとまった量は県外に探さずにはなく、福井県福井市曾万布遺跡(木下1986・中司1990)、同県永平寺町鳴鹿手島遺跡(工藤他1988)、京都府舞鶴市桑畑下遺跡(渡辺他1975)、大阪府岬町淡輪遺跡(渡辺他1981・藤永1987)、和歌山県北山村下尾井遺跡(小野山・清水編1979)などがあげられる。

深鉢A I類から概観を進めることにする。1類の総述「((()))」状文では、入組弧線文を芯としてもつ183が古相を呈するものと思われ、87や40は単純な「((()))」状になることや縄文の施文が見られないなど簡略化した段階と考えられ、内面に2条の幅広い沈線がある40はさらにその感の強いものであろう。この文様1類例は県内での出土例はなく、鳴鹿手島遺跡や遠く淡輪遺跡に類例があるが細部に違いが見られる。破片資料であるが440は口縁部に連続刺突を施す1条の沈線が暈るものである。

2類の「((()))」状文では底部を欠くかほぼ全体の器形を窺える184があり、同類として馬替遺跡の第27図23をあげられるが、184では「つ」状沈線の先端が「ノ」字状の押圧になることや、施文全体が崩れた雰囲気をもち馬替遺跡例より後出的な印象をうける土器である。県外での曾万布遺跡、下尾井遺跡の類例が近似している。また、「((()))」状文から短く蛇行沈線が短く垂れる様子は、淡輪遺跡Ⅷ(藤永1987)第11図17例や鳴鹿手島遺跡第61図3～5例の縦連渦巻文の変化した形態になるものであろうか。同じ2類の192は波頂部三角形区画の上下が狭くなり、また胴部文様帯上端に段をもつもので、同様な段は108・111・533に見られる。111の沈線内連続刺突文や533の横に長い対弧する弧線文は一乗寺K式期の文様とされており、この胴部文様帯上端の段は新しい要素の一つと考えられよう。

3類の入組弧線文を施す185では、2本組の弧線を縦に連続して入り組ませている。系列を異にするが、鳴鹿手島遺跡の条線文が施される第8群深鉢第57図6・27例の区画文に類似する。一本の入組弧線となる463・519や蛇行沈線文を施す4類の88・394・187は後出的要素であろうか。波頂部を欠くが93は波頂部三角形区画が崩れた段階の文で、胴部文様も184からの変化が考えられるものである。沈線内連続刺突文をもつ12類の205は小型の深鉢で一乗寺K式期併行とされるものである。

波頂部に三角形区画をもたないものを深鉢A IIとしている。必然的に口縁部の文様帯は帯状となり、沈線は2本や3本単位のものがみられる。2本沈線の間隔が広がるものでは沈線間に文様を施す42、「(|)」状文で区画する361、「||」状文の207・498があり、一乗寺K式に近い様相と考える。

振幅の大きな4単位の波状口縁となる深鉢Bの107・108は、金沢市松村遺跡(米沢1969)、福井県鳴鹿手島遺跡第59図5に類例がある。108は胴部文様帯の幅も狭く上端には段をもつもので、その文様も鳴鹿手島遺跡例が崩れて変化した段階と考えられるもので、この胴部文様の崩れる様子は93とも類似している。108と93の個体は同時期と考えられるもので、一乗寺K式段階か。小波片でしか検出していない「く」の字状に内屈する深鉢C類は一乗寺K式期に比定され、土器群のなかでも新相に位置づけられるものである。

深鉢D 8類の楕円状区画をもつ111と200は、筒状に立上る口縁と胴の張る体部が特徴的な器形で他の類例を知らないものであるが、文様的には71と74、200と75のように東日本系の土器との共通性が見られる。深鉢D 12類の217・218は、口縁部の平行沈線に連続刺突を施しており一乗寺K式期に比定されるものである。

深鉢A IとDにおいて、粘土貼付隆帯が施される7類は東海系の土器である。A I 7類の208は波状部も大きく胴部区画文は蛇行状となるもので、一乗寺K式併行期とされた馬替遺跡例や塚塚Ⅲ式の静岡県塚塚遺跡例(麻生1962)より先行するものであろう。平縁の深鉢D 7類には123～125・370・371・403がある。123の下に開く弧線隆帯を連続させる様子と連結部の円形押圧は、大森貝塚で著名な肩部が算盤玉状に張る深鉢の弧線文を想い浮べさせたもので加曾利B 2式併行期か。なお、弧線間の口縁端部にみられる小さな貼付突起は上方から円形押圧を加えており、208と同様の手法となる。124は馬替遺跡、岐阜県室屋遺跡(新村編1978)に類例がある。縦位の隆帯を連続して施す125・307などは一乗寺K式併行期とされている。深鉢Eその他とした3本束の沈線を施す10類の一群

は、馬替遺跡と同様に組成の一つとして本遺跡でも存在している。

深鉢AⅠの波頂上部は丸味となるものが多いが、AⅡでは三角状の尖り気味となる傾向が見られる。また、一乗寺K式につながる沈線内連続刺突文が施されるものは、深鉢AⅠでは205の1例が認められるだけで、他はAⅡと考えられるものと口縁部の沈線や磨消縄文帯が帯状となる217・218に認められる。波状を呈す深鉢は概ねAⅠ→AⅡ→Cへの変化傾向を想定するもので、和歌山県海南市且来Ⅰ遺跡（前田・千葉1999）では、溝から沈線内連続刺突文を施す深鉢AⅡ・Cに類似する深鉢と対弧弧線文の浅鉢が共伴しており、深鉢AⅠが伴わないこの出土状況例からも看取されるものであろう。

一方、東日本系の土器と共通する文様の入組弧線文、蛇行沈線文、長楕円状区画や「()」状文の施文は、東西両系の共伴関係を示す一つの要素と考えられ、胴の張らない187・198の形態と併せ東西系統の交差現象を生じている事例であろう。

西日本系の土器群は、関西の北白川上層式3期～一乗寺K式期に併行関係を求めることができ、少量ではあるが東海系の土器も同様な時期幅となるものと考えられる。

3 小 結

馬替遺跡の報告で南氏は、東日本系と在地系の土器様相をもとにして、酒見式に特徴的に認められる羽状縄文様式の土器群や外反器形で2条沈線間の縦線をもつ土器が見られないことから、「少数のものを除けば、出土遺物は加曾利B2式以前、加曾利B1式併行期にほぼ限定されていると考えられることになる。」とし、先行する気屋2式と後続する酒見式との隙間の有無については不明とされた。

本遺跡の様相でも羽状縄文様式の土器群が認められないなど馬替遺跡に近い傾向を示すものである。しかし、東日本系の土器では加曾利B1式期と考えられる時期のものに後出的要素があることや、9類bが目立つ状況とB2式期が一定量存在していること、西日本系の深鉢AⅠ類や沈線内連続刺突文を施す土器の割合が高いなど馬替遺跡とは異なる一面が窺われる。一方、酒見式土器群を中葉の主体とする米泉遺跡では、西日本系の沈線内連続刺突文土器の検出例が皆無である様相を見ることができ、酒見式の始まりがB2式併行期とされていることと、米泉遺跡の様相から本遺跡の後出的土器群はB2式のなかでも前半期頃に相当するものと考えられよう。

本遺跡の主体となる後期中葉の土器群は、加曾利B1式後半頃からB2式期前半頃にかけての比較的時期幅の短い土器群として位置づけ、遺跡間における主体土器群の関係では、馬替遺跡と酒見式の間、馬替遺跡と米泉遺跡の間に位置する土器群を含むものと理解しておきたい。

後期中葉前半期の土器群に関しては、報告者が見通しを持っていないことと、型式間における過渡的な土器群を含むことに加えて多系統の土器が併存する複雑な様相が想定されることから、土器の概観は深鉢に限る単発的な提示に止まり、東西系統の併行関係や型式への包括など詳細は不明なものとなってしまった。東西系統の併行関係は類似する文様の共通性からある程度理解できるものもあるが、各文様系統の相互間での併行関係や土器系列を捉えるまでには至らなかったものである。加曾利B1式併行期の多くは河道下層から出土していること、河道下層上部の土器には下部より新しい様相のものが認められること、加曾利B2式期は河道以外の調査区において主体的に見受けられること、以上の地区別での土器出土状況の検討と併せて型式期への帰属や詳細な吟味は今後の課題としたい。

北陸における近年の編年研究では、木下1991・1994・1999、酒井1992、鈴木1999、内野1989・1999、南1995・1999の各論考があるものの、担当者の理解不足から内容は不十分となった。このことを深くお詫びするとともに今後のご教示をお願いする次第である。

第2節 弥生～古墳時代初頭の集落

1. はじめに

御経塚シンデン遺跡は平地に残る古墳時代初頭の大古墳群として注目を集めたが、その直前の弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけて営まれた集落跡としても良好な資料を提供している。確認された遺構は6世紀以降のものを除けば竪穴建物28棟（建替え含む）、掘立柱建物37棟（内布掘式23棟）、土坑96基等であり、該期の他集落に比べて竪穴建物に対する掘立柱建物（特に布掘式）の比率が高いことが目を引く。このような在り方は近隣の金沢市上荒塚遺跡A期西群（出越1995）にも見られることであり、本遺跡の東400mに位置する御経塚ツカダ遺跡（吉田1984）とは大きく趣が異なるものである。前者は、本遺跡が集落跡から古墳群を造営し始める墓域へと変質を遂げた段階以降も一定期間継続して営まれたものであり、後者は本遺跡が集落跡としての機能を終えるよりもやや早い段階で一旦廃絶されている。周辺の御経塚オツツ遺跡（吉田1998）や、未報告ではあるが御経塚遺跡デト地区でも御経塚ツカダ遺跡と同時期もしくはやや早い時期に廃絶されており、上荒塚遺跡において「新たに複数以上の村落編成が行われた可能性」（出越1995）は、遺跡分布の現状を見る限りさらに蓋然性を増したものと考えられる。

2. 集落の様相と変遷

本遺跡での建物構成は出越分類Ⅱb類（出越1995）に当たるものであり、このことは集落が営まれた法仏期～白江期までを通して比率の大小はあれ一貫した状況である。ここでは比較的遺物が豊富で時期的変遷の捉え易い竪穴建物を中心に集落変遷の解析を試みるものとするが、同一器種同士の個体間差異の比較には限界があるため、一定の器種を揃え時期的様相を窺えるものを基本軸に据えた上で調査所見（切り合い等）も参考に間隙を埋める手法を取った。このことは遺物の少ない掘立柱建物の分類に特に顕著であり、少々不安も残すが全体での流れの中での一時期の様相としてご理解いただきたい。なお、上記手法でも時期の特定不能なものについては残念ながら今回は対象より除外している。以下、その状況を表に示す（表-1）。

これによると、本遺跡での集落の変遷は重複はあるもの下記のとおりほぼ4期に分類できる可能性を見出すことができる。なお、ここでの土坑の帰属はそれぞれの出土遺物より判断し補完したものである。

I期・・・法仏期～月影Ⅰ式期

S I-03・04・22・23、S B-09・18

S K-01～04・13・16・19～21・31～33・36～38・41～43

48～51・53～55・57・59・61・65・70・79・83・87・88

Ⅱ期・・・月影Ⅰ式期～Ⅱ式期

S I-01・02・10・16・20・27

S B-10・13・14・16・19・27・28・44

S K-09・15・52・56・60・66・91

Ⅲ期・・・月影Ⅱ式期

S I-06・09・11・15・21・24・25

S B-01・03・06・21・23・30・39

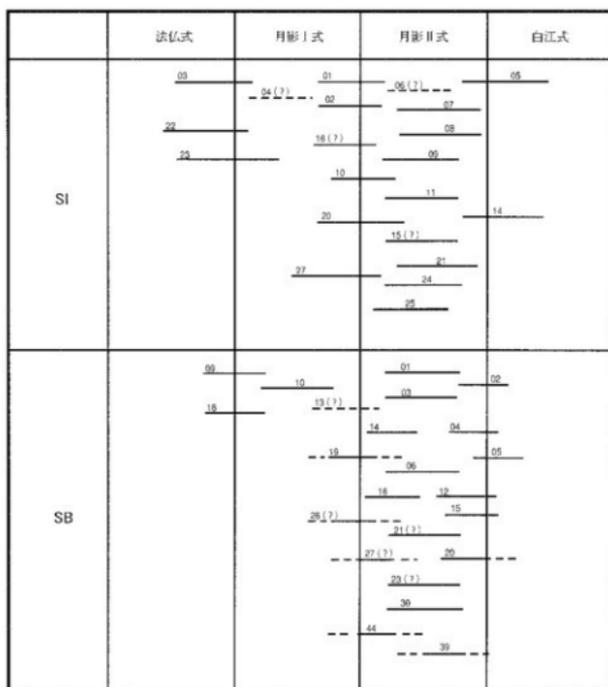
S K-06・08・12・18・28・30・34・39・40・58・63・69・71～73・75・78・92・95・100

Ⅳ期・・・月影Ⅱ式期～白江期

S I-05・07・08・14、S B-02・04・05・12・15・20

S K-10・11・17・27・29・62・68・74・76

これらを図に示したものが第196図～199図である。これによると、同時期としたものについても重複・建て替えが見られるが、ここでは各期の中でのさらに細かな移動の例として考えておきたい。以下、それぞれの様相につ



表一 主要遺構時期別推移表

いて若干の解説を加えることとし、集落変遷のまとめに代えたい。

シンデンⅠ期 (第196図)

2本主柱の長方形住居 (S I-03)、略円形の多角形住居 (S I-22) が見られる。一見調査区全域に広がっているように見えるが、B区南側よりC区北西側にかけて伸びている弱い鞍部 (標高差25cm程度) を挟んで対峙するように展開し、中央の鞍部については墓域として利用している。遺物は確認していないが、C-3区のSK-86・87・90あたりもこの時期の墓坑としてよいものと思われる。掘立柱建物は東西棟の布掘式2棟が見られるが、時期不明のものも考慮すると若干増加する可能性もある。東側ブロックに付随するものと思われ、住居域との間に35m程度の距離を隔てている。また、西側ブロックの2棟はS I-22が火災住居であることからS I-22→23と推移する可能性も考えられる。南西約200mに展開する同時期の御経塚オツ遺跡と同系譜の集落として捉えられるものであろう。

シンデンⅡ期 (第197図)

集落の主体は鞍部東側に移動し南東～北西に伸びる微高地上に展開しているものの、依然として鞍部を墓域として利用している痕跡が見られる。竪穴建物は南側に位置する長方形2本主柱のS I-01・02と、北側に位置し外

周溝を持つ多角形住居のS I-10・27、小型の副塚的存在のS I-20に分化する。隅丸方形を呈するやや大型のS I-16も見られるが、遺物の確認がなく周囲での切り合い状況から判断したものであり、プラン的にはⅢ期のS I-15若しくはⅣ期のS I-14直前あたりに位置付けた方が良いものかもしれない。掘立柱建物は居住域との区別が曖昧になり、布掘を持たないS B-28・44が他の布掘式建物に比べ異質な遺地を見せており、機能的な差異の存在を窺わせる。倉庫と思われる布掘式建物は東西棟の3×1間を主体としている。中心部の重複状況からさらに2時期程度に細分される可能性を残しており、同時に存在したのは最大でも4棟程度と考えられる。いずれも北側ブロックに属するものと思われ、Ⅰ期を通して法仏色の強い住居形態を採用する集団(家族)にはあまり浸透していなかったかのような印象を受ける。

シンデンⅢ期(第198図)

竪穴建物は中央部分(A・B-6区)に集中する傾向が見られ、隅丸方形の4本主柱形態に統一される。一辺7m前後を測るやや大型のS I-06・09・21・25と、5m以下のS I-15・24、4m以下で明確に主柱痕の確認されていない小型のS I-11が見られるが、在り方が錯綜しておりそれぞれのセット関係を追える状況にはない。重複状況からさらに2時期ほどに細分できる可能性があり、やはり微高地西側の鞍部を墓域として利用している。一部居住域の北側にも土坑が見られるが、確実に墓坑と思われるものは存在しない。掘立柱建物はやはり3×1間の布掘式を主体とし、Ⅱ期に比べて梁行が若干広くなる傾向にある。建物の配置は特に決まった向きを指向せず、居住域に対して外側から中央を向く傾向が看取される。後に掘り込まれた古墳の周溝より出土した該期の土器の膨大な量と併せ、本遺跡が集落として最も盛行した時期と考えられる。

シンデンⅣ期(第199図)

竪穴建物、掘立柱建物ともに前段にも増して微高地中央に集中する傾向が見られる。竪穴建物は一辺9m前後を測る大型のS I-07・08と、6m前後の中型住居S I-05・14に整理され、それぞれが一定の距離を保って有機的に存在する。ただ、S I-05については重複・隣接するS B-02・04・05との位置関係から一時期に存在したのではなく、再考を要するものである。掘立柱建物については居住域との区別がなくなり、全体として非常に狭い範囲に固まって存在している。布掘式の3×1間を主体とするが、S B-02・12のような一廻り小型のものも存在し、概して布掘部の意匠の崩れが顕著である。また、この頃までには周辺の御経塚遺跡デト地区・御経塚ツカダ遺跡ともに廃棄されていることを考えると、集落構成に係る家族単位は非常に少ないと言わざるを得ない。近隣の上荒屋遺跡の様相を見る限り、現状の理解ではシンデンⅣ期とは時間列の中で縦並びで継続こそすれ同時期に存在したとは言い難い隔たりが存在し、その間の人々の移動の足跡は、冒頭で述べたごとくいずれは上荒屋遺跡において再編されるとしてもある空白の時間が存在しているように見える。上荒屋地区、御経塚地区はいずれも土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の分布把握がほぼ完了しており、今後は隣接する松任市や新たに施行される野々市町北西部土地区画整理事業施行区域に存在する集落遺跡の動向にも注意を払う必要がある。

3. 布掘式掘立柱建物について

本遺跡で特徴的に見られる布掘式掘立柱建物については、延べにして竪穴建物に匹敵するほどの棟数が確認されており、その在り方の特異性から関係各位の注目を集めていたところである。筆者としても、以前に布掘式掘立柱建物を題材として若干の問題提起をおこなったことがあり(横山1991)、今回新たに時期的な問題も含め再整理を試みるものである。

a. 布掘式掘立柱建物の類型と時期区分

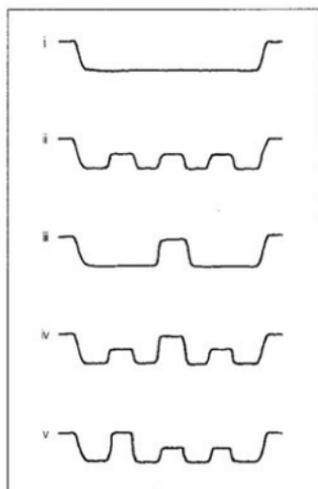
本遺跡で確認されている布掘式掘立柱建物は、一部の例外を除きほぼ3×1間の桁行4本柱で占められており、それらを掘り繋げた布掘部の形態より下記の5類型に大別される。

- i 桁行全体を平坦な溝のように掘り下げたもの。
- ii 桁行全体を掘り下げ、柱部分の4箇所を更に掘り下げて柱を据えるもの。
- iii 桁行の柱2本分ずつを平坦に掘り下げ、細長い土坑を2つ並べたように見えるもの。中央部分が遺構検出面と同一レベルのものやや低いものが見られる。
- iv 上記の柱部分を更に2本ずつ別個に掘り下げて柱を据えるもの。
- v 上記のいずれにも属さない不定形のもの。

上記の類型を模式的に図に示したものが第200図である。これにより本遺跡で確認された布掘式掘立柱建物を分類すると、

- i・・・03、06、18、30
- ii・・・01、02、05、09、10、15、16、17、20、21
- iii・・・08、19
- iv・・・04、07、12、13
- v・・・14 (※S B-11は全容不明のため除外)

となり、ii類が際立って多いことがわかる。また、これ以外にもプランは共通であるが、布掘部を持たない通常の掘立柱建物も数棟存在する。これらを再度本遺跡での時期区分にあてはめたものが表-2である。



第200図 布掘部掘り方模式図

(その他については布掘部を持たないもの)

	i類	ii類	iii類	iv類	v類	その他
I期	18	09				
II期		10・16	19	13	14	27・28・44
III期	03・06・30	01・21				23・39
IV期		02・05・15・20		04・12		

表-2 布掘式掘立柱建物分類表

これによると、一見して布掘部の掘り方と時期的差異の間に相関関係は求められないことがわかるが、各期を通してii類が普遍的に認められる。調査段階ではi類から布掘部を持たないものへの簡略化の方向性に対するイメージを抱いていただけにやや残念な結果であるが、このことは掘立柱建物の時期区分自体がその僅少さ故に遺物による主体的な分類によらず、他遺構との重複等の相対的な分類に多くを依存していることから派生した可能性の存在も否めない。その場合、前述の集落全体の変遷に及ぼす影響の大きさも危惧されるところであるが、現時点で検証される事実として提示しておく。はなはだ中途半端なまとめであり、大方の期待に沿うことのできなかった点は今後の反省材料として、こと布掘式掘立柱建物の問題については、機会を改めて他遺跡の成果も検証しつつ再度挑戦したいと考えている。



遺構番号

S1 - 88・84・85・86

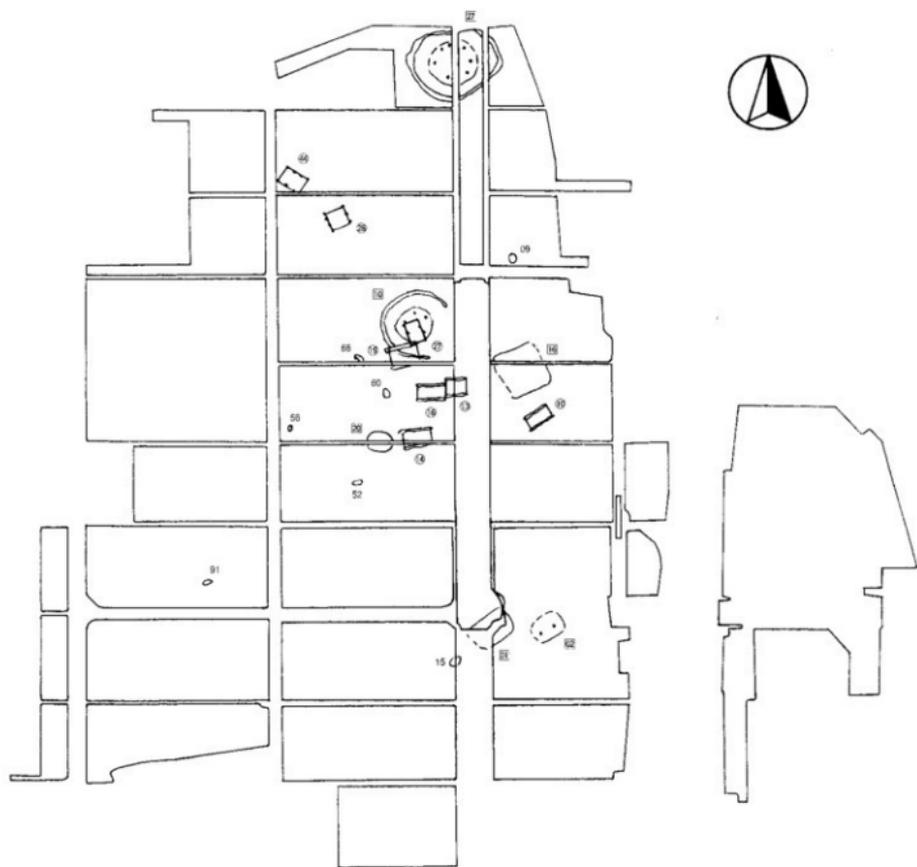
SB - 89・90

SK - 01~04・13・16・19~21・31~33・36~38・41~43

48~51・53~55・57・59・61・65・70・79・83・87・88



第196図 シンデンI期遺構図

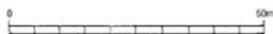


道構番号

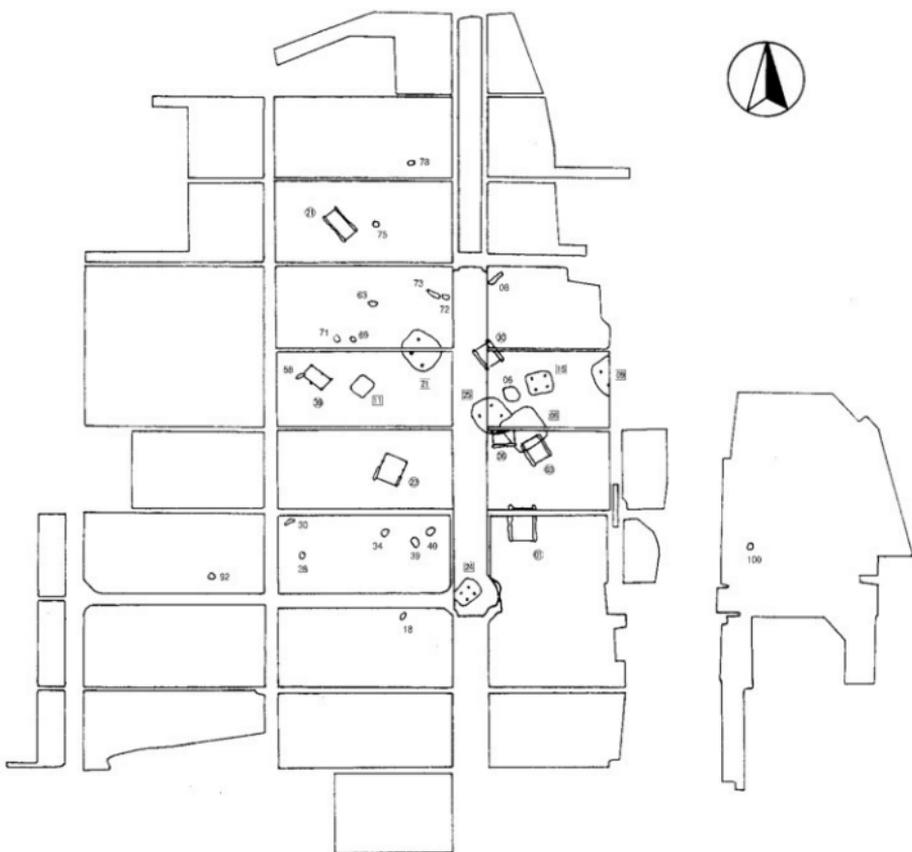
SI - 81・82・83・84・85

SB - 50・51・52・53・54・55・56

SK - 09・15・52・56・60・66・91



第197図 シンデンⅡ期遺構図



遺構番号

S1 - Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

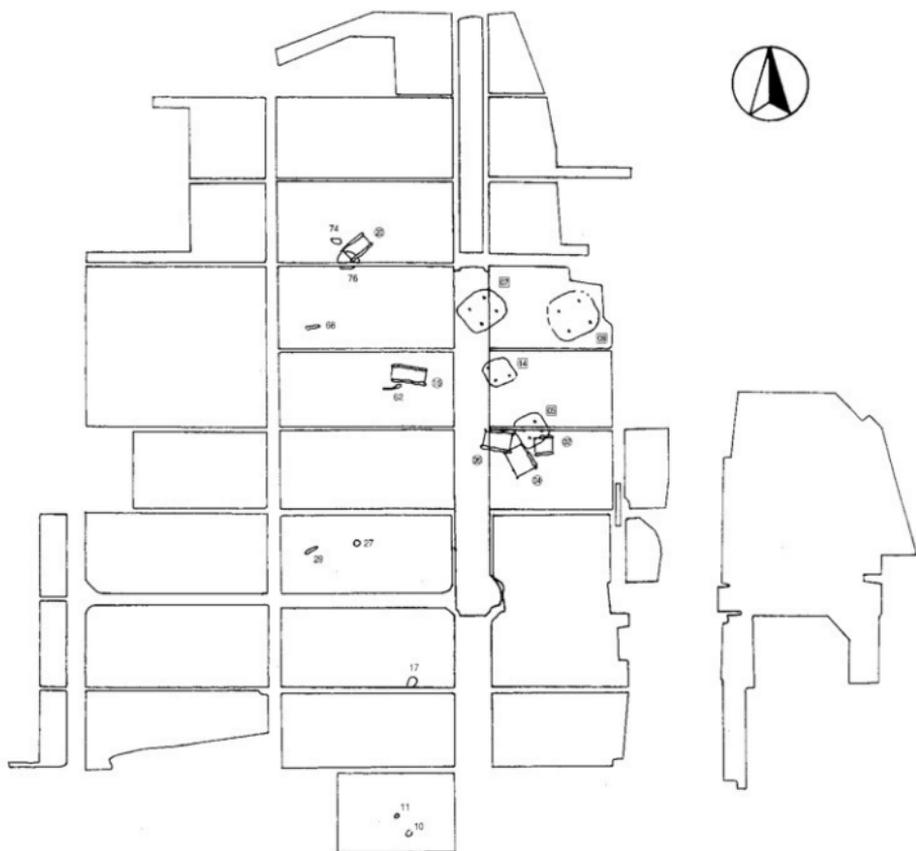
SB - ①・②・③・④・⑤・⑥

SK - 06・08・12・18・26・30・34・39・40・58・63・69

71~73・75・78・92・95・100



第198図 シンデンⅢ期遺構図

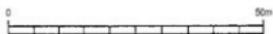


遺構番号

S1 一 四・四・四・五

SB 一 四・六・六・七・八・九・一〇

SK 一 一〇・一一・一七・二七・二九・六二・六六・七四・七六



第199図 シンデンⅣ期遺構図

第3節 古墳群の様相

1. はじめに

御経塚シンデン遺跡は、前述の弥生時代後期後半～古墳時代初頭の良好な集落跡であると同時に、その直後より造営を開始する古墳時代前期の古墳群としての側面も併せ持っている。昭和61年度～63年度、平成4年度の4次に亘る調査で確認された古墳は15基に及び、松任市教育委員会が調査を実施し、山陰地方との密接な関係を示す四隅突出墳を始めとする多くの古墳（墳墓）群を確認した旭道跡群（前田他1995）の成果と共に、扇状地の平野部における前期古墳の立地・分布の理解に新たな見識を開ききっかけとなったものとして評価される。

2. 遺構・遺物の特質と土器群の抽出法

本古墳群に伴うと考えられる遺物は、調査時点で主体部を含む地上部分が完全に失われていたこともあり、そのすべてが周溝より出土した土器によって占められる。また、直前まで営まれた集落の影響もあって大半が月形式そのもの或いはその系譜下にあるもので構成されており、古墳という遺構の特質から離れて出土量の多い変形土器に特にその傾向が強い。これらの出土状況については、2次的堆積による混入品ということもあって層位的に分類することは適わないものであるため、ここでは溝底資料及び個別におこなう個体識別によって土器群の抽出を試みるものとする。なお、ここで用いる分類については、遺跡の立地が近く、集落廃絶後も密接な関係にあったと見られる上荒屋遺跡での分類（出越1995）を準用することとし、小地域間での様相差の整合も併せて試みるものとする。なお、以下の文中での表記については各見出し以外での「○形土器」という記述を省略し、通称を用いて論を進めるものとする。

3. 土器群の抽出

各古墳に確実に伴うと思われるものを抽出する。なお、古相段階のものについては各器種において時期的に依然として残るものを欠落させる可能性もあるが、そもそも在地種については個体間に小時期差を見出すことはほぼ不可能に近く、主に外来器種の動向に主眼を置きその他は通常の編年概念によるものとする。

ST-01（第137図～140図）

甕形土器 「く」の字口縁C類が4点見られる。胴部の形状を窺えるものが少なく判然としませんが、29はC2類に、28・30はC4類に属するものであろう。31については強く外反する短い口縁部に球状の胴部が付くC4類とC6類の折衷形のような形体である。また、25は外面段部に山陰系の影響らしきものが見えるが、細部について意匠が異なる。他はすべて月影系若しくは能登系のもので占められる。

壺形土器 36・39は決め手に欠き分類を保留する。37についても形体不明であるが、肩部上側に羽状文を持つ。42と同種のものであろうか。38についても形体は不明であるが、胴部の形体及び整形・調整よりD類粗製壺と思われる。40はD3類に分類されよう。問題は41・42である。41は形体そのものはC3類に当たるものであるが、口縁部に東海柳ヶ坪系の影響と思われる羽状文が巡り、さらに4ヶ所に3本一組の棒状浮文を持つ。畿内系C類と東海系E類の影響のもと、当地で生み出された折衷形と思われる。42はくの字口縁に粘土を盛り付け、折り返し口縁風に見せる狭い口縁部に円形スタンプ文を巡らせ、内面にはやはり柳ヶ坪系の羽状文を施す。頸部以下は外面屈曲部に突帯が巡り、以下肩部にかけて弛緩した羽状文と波状文を交互に施している。やはり当地で生み出された折衷形であろう。ともに上荒屋遺跡でも見られない特異なものである。

高環形土器 44はD2類の変形かと思われるが、口縁部が強く外反して伸びており、判断に苦慮する。48は磨耗が激しく調整を確認することはできないが、E2類であろう。

その他の土器 器台については保留する。56は若干口縁部が外反するものの、東海系B類の影響を受けた高環である可能性がある。57・58もその影響下にある小型の鉢であろう。

ST-02 (第141図) 甕形土器については特に見るべきものはない。

甕形土器 72はC3類である。73については頸部より強く外傾して伸びる口縁部内面の段が認められず、外面段部も形骸化している印象を受けるが、やはりC類の範疇で考えて良いものであろう。74は強く外傾する口縁端部を若干折り返して形成した狭い口縁帯に、4ヶ所の3本一組棒状浮文を配する。肩部に平行線文及び円弧文を交互に巡らせており、東海系E類の影響下にあるものと思われる。

ST-03 (第142図) 出土遺物が僅少であり、僅かに壺78が見られるのみである。球胴を呈し、内外面に丁寧なミガキを施した精製壺であるが、口縁部を欠き形体は不明である。ここでは分類を保留する。

ST-04 (第142図～143図)

高坏形土器 95は上部を欠くもののE類と思われる。93は形体こそB1類であるが、口径13.4cm、器高15.4cmを測る大型品であり、他に類例を見ない。その他、94・96も東海系のもので占められる。

ST-05 (第143図) 該当するものは見られない。出土量は少ないものの、すべて月影系で占められる。昭和63年度の調査では、上層観察よりST-01に先行することが確認されており、意匠・規模共に前方後方墳の形態を示すものの他の古墳とは大きな隔りがある。本古墳群における初現的なものと理解される。

ST-06 (第143図～146図)

甕形土器 僅かに能登系甕を含むものの大半が月影系甕で占められる。該期のものとしてはC6類の133、D3類の134が見られる。134は本遺跡では初現の布留式甕である。

甕形土器 中型壺143と大型壺146はいずれも在地系A2類に属するものである。144は厚い口縁部が強く外反し、端部を外に向けて面取りしたものであり、古府クルビ遺跡第1次調査C区などに類例がある。

その他の土器 155は法量が不明であるが東海系有稜高坏の中型品D1類であろう。それ以外のものについてはほぼ前段階若しくはその系譜上にあるものであり、鉢・小型土器の中には一部並存するものも含んでいると思われる。

ST-07 (第147図～148図) 甕176は端部を丸く仕上げられておりC2類に、壺180は図上復元ではあるが球状の体部を持つものと思われ、畿内系のC1類に分類される。外反する口縁帯がやや短い。

ST-08 (第148図～149図) 遺跡地全体で見ると鞍部に当たる場所を占地しており、規模も他の古墳に比べて一回り小さい。周溝も細く主軸も他に反してほぼ磁北を向くため、異質な古墳との印象を抱く。

甕形土器 「く」字口縁壺2点が見られる。能登系甕の系譜にある203はC1類に、206はC4類に分類されるものである。205については形態を特定し難く保留する。他はすべて月影式の範疇で捉えられるものであり、形骸化した有段口縁の204等が見られる。

その他の土器 壺207・208については全体が知れず定かではないが、D類に含まれるものであろうか。207についてはその内湾度合いより東海系瓢壺に類似しているようにも見える。高坏についても全形を知ることのできる資料はないが、215はD類若しくはE1類に、216はE2類に、217はD2類あたりに分類されよう。

ST-09 (第149図～151図) 遺跡推定地の北端に位置しており、調査結果より周溝の掘削に際してST-06の周溝を避けた意図が確認されている。

甕形土器 近江系受口口縁甕の影響下にあると思われる244はF類に、山陰系有段口縁の245はB1類に分類されるが、後者の口縁部の伸びと端部の仕上げは月影式の意匠を強く残している。ほぼ完形に復元される246は、定形化した段階の布留甕であり、D3類に分類される。淡灰白色を呈する器肌は在地の土器とは明確に異なっており、他地域からの搬入品と思われる。

その他の土器 甕形土器247・248は全体がわからず不明である。他の器種は概ね前段階の範疇にあるものであり、僅かに高坏形土器253において東海系B類の可能性を感じさせる。

ST-10 (第151図～155図)

甕形土器 「く」字口縁の甕322～324が見られる。322は肩部以下を欠き胴部最大径の位置が定かではないが、C6類に分類されるものであろう。323は口縁部外面にハケ調整を施し、端部を平縁に仕上げている。C3類とも

思われるが、口縁部の外反度合いよりやはりC 6類の可能性もある。324はC 2類に分類されよう。出土量が多いものの、他はすべて月形式またはそれ以前の範疇で考えられるものである。

壺形土器 327～330はいずれも月形式の系譜下にあるA類であり、327はA 1類に、その他はA 2類に分類される。「くの字」状口縁壺として一括される331・332は共にD 6類に分類されるものであろう。333は口縁部の形状が明らかでないが、下膨れの胴部を持つ。334はD 2類と思われ、緩やかに外反する口縁部の端部をやや外へ縮み出して仕上げる。335は非常に端正な作りの壺であり、頸部屈曲部下に横ハケ調整を施している。口縁端部を折り返して仕上げており、E 5類に分類されると思われるが、頸部の屈曲が明瞭であり、ほぼ球状の胴部を持つ。336は外面段部に刻み目を巡らす有段口縁の壺であり、古府クルビ遺跡C・D区下層などに類例がある。包含層資料であるが、東海系E類等と伴出している。

その他の土器 337は受部中位で鋭く外へ屈曲する畿内系の高環であり、端部を面取りし軽く上方に縮み上げている。下有稜部が軽く下方へ突出しており、東海系D 2類の影響を窺わせる。343は東海系の高環もしくは器台の脚裾部である。

ST-11 (第156図～157図) 壺については能登系の361、垂種の362の他は端部を面取りぎみに仕上げるもののC 2類と思われる363がある。壺については在地系A 2類の364、東海系E 4類の365が見られるが、いずれも個体数が少なく量比を計るには及ばない。また、高環では東海系の367・368 (E 1類)、369 (B 1類)が見られ、脚裾部も同系譜で占められる。その他、小型(鉢形?)土器の374がある。

ST-12 (第157図) 出土量が少なく判然としない。下膨れの直口壺と思われるD 6類の379がある。

ST-13 (第157図～159図) 壺については見るべきものはない。内屈する398は従前の系譜上にあるものである。

壺形土器 中・小型の405～407はA 2類に属する。大型の409・410については畿内系の影響のもと派生した在地種と思われ、ここではやはりA 2類に分類しておくが、409の頸部形態にその影響を強く感じさせる。その他、台付結合壺411はA 3類である。

その他の土器 高環・器台の高脚器種は図示したものの大半が在地系であるが、外来種としてはほぼ東海系で占められている。418はD類若しくはE類の脚裾部であり、421はD 1類に分類される。420は碗形の受部外面に平行線及び櫛状刺突文で施文する。

ST-14 (第159図～161図)

壺形土器 有段口縁擬凹線壺については、段部がかなり弛緩したのも見られる。「くの字」口縁436は古代に属するものである。437は在来種の終焉と見るか、近江系の影響と見るかは極小片のため判断に苦慮するが、本遺跡では他に近江系の影響を受けたと思われる明確な個体は看取されない。

壺形土器 中・大型の449・450は共にA 2類に、頸部下端に突帯を巡らせハケ状具による刺突文を施す451はA 1類に分類されるが、遺存状態が悪く除外した方が良いかも知れない。452は東海系の影響を受け在地で生み出された折衷形と思われるが、段部内面に水平に伸びる意匠の収束が不明である。段部外面中央より下方へ伸びる方が頸部につながる形態である。その他、頸部下端に突帯を巡らせキザミを入れる453、肩部に直線文及び羽状文を施す454、直線文と弧状文を組み合わせた455がある。

その他の土器 外来種としてはD 1類の器台462、C類若しくはD類と思われる脚裾部463がある。大きく外反する口縁を持つ高環457は在地系であろう。畝田・寺中遺跡に類例が見られる。

ST-15 (第161図) 出土量が少なく、目だた個体は抽出できない。壺472は胴部がなく判然としないが、C 6類であろうか。端部を外に向かって軽く面取りする。その他、壺474はA 1類に分類される。

4. 抽出した土器群の整理

次に、上記で抽出した土器群についてその様相を器種ごとに簡条書きでまとめる。

ST-01

甕・・・「くの字」口縁C類が主体となり、能登系甕も含む。山陰の影響を窺わせるものもあるが定型ではなく確認がない。

壺・・・小型は在地系A2類で占められる。中型については畿内D類が一定量認められ、その他畿内C類+東海E類の折衷形や東海の影響下に在地で誕生したものがある。後者は出土状況より古墳祭祀において重要な位置を占めていたものと思われる。

高坏等・外来種については東海系で占められる。在来種についてはどの個体が明確に伴うかは定かではないが、従前の形をほぼ保って併用されていたものと思われる。

ST-02

壺・・・中型ではかなり忠実な畿内系C類(72)やその影響下にあるものが見られる。また、東海系E類の影響を受けたと思われるものも小片ではあるが確認される。小型については在地系A3類と思われるものが見られる。

ST-03

個体数が少なく判断できない。壺78はST-02のC類73に胎土が似ている。畿内系のC類若しくはD類であろうか。

ST-04

壺90は月影系のものであるが遺存状態より本期まで残るのであろうか。高坏等の小型祭式土器は東海系が中心となり、大型品93を生み出す。

ST-05

特筆すべき事項はないが、ST-01との切り合い関係から確実に先行することが確認されている。前方後方墳の形態をとることから本古墳群における初現的な首長墓と考えられる。

ST-06

甕・・・大半が月影系だが能登系及び「くの字」系C類が各1点見られる。布留(傾向)甕134は隣接するST-09出土のものより口縁部の造作がやや甘い。

壺・・・小型は在地系A2類であり、中型もやはり在地系A2類の範疇であろう。直口壺141については帰属がわからない。D3類であろうか。

高坏等・大半は在地月影系で考えられるものであり、外来種としては唯一東海系D1類の155のみである。ここでも明確な伴出関係は特定できないが、小型祭式土器については在地系主体であったと考えざるを得ない。

ST-07

甕・・・「くの字」口縁C2類1点のみ。他は月影系で占められる。

壺・・・小型については在地種A1類が2点見られる。中型については畿内系C1類がある。

高坏等・出土量僅少であるが、外来種は見られない。

ST-08

甕・・・能登系C1類及び「くの字」口縁C4類が各1点見られる。202の帰属については保留する。

壺・・・207・208については全体がわからず判然としないが、畿内D類か。前者については東海系の影響下にある可能性も残す。

高坏等・ほぼ東海系で占められる。在地系214あたりは残存するのかもしれない。

ST-09

甕・・・大半は在地月影系だが、近江系の影響を受けた可能性のある244、形態は在地そのものであるが、やはり山陰系の影響を匂わせる245がある。特筆すべきは完形に復元された布留甕246であり、ほぼ定型化した形態を示す。胎土も他の土器とは異なり灰白色を呈する。

壺・・・資料が少なく積極的にには言えないが、小型品として在地種A2類が見られ、外来種の影響は看取されな

い。

高坏等・外来種が認められず在地月影系で占められる。同じく布留甕が出土したST-06と近い在り方である。

ST-10

甕・・・出土量は各古墳中で一番多いが、立地が以前の集落の最も集中した地点に当たるためと思われる。能登系1点の他「くの字」口縁C類が一定量認められる。

壺・・・小型品は在地種A1・A2類が見られ、これに畿内系D6類が加わる。333については東海系のものであろう。中型品については畿内系D2類及び東海+畿内の折衷型と思われるものがある。

高坏等・個体数が少ないが、畿内系の影響を受けたと思われる337・342や東海系の343がある。

ST-11

甕・・・目だったものはないが、能登系及び「くの字」口縁C2類が見られる。

壺・・・数は少ないが小型品はA2類、中型品は東海系E4類がある。畿内系は見られない。

高坏等・小型祭式土器は東海系B1・E1類で占められる。在地系は見られない。

ST-12

資料数が少なく判然としない。小型壺379は畿内系D6類であろう。

ST-13

甕・・・確実に伴うものは認められない。大型品も在地月影系である。

壺・・・小型品についてはすべて在地系A2・A3類で占められる。中型品については基本的に在地系A2類と思われるが、畿内系のニュアンスを強く感じさせる。

高坏等・外来種は定型化した器台D1類など東海系で占められる。在地系も一定量残存したのであろう。

ST-14

甕・・・目だったものはない。437については保留する。

壺・・・形態が明確なものとしては小型品はA2類、中型品は確実なものとしてA2類がある。452は形態が不明であるが、東海系E類の影響下にあるものであろう。その他、同じく東海系の影響と思われる施文された肩部片2点がある。

高坏等・定型化した東海系462・463がある。その他、在地種456・457も並存であろう。

ST-15

個体数が少なく積極的な記述は避ける。「くの字」口縁の甕C類、在地種の小型壺A1類が見られる。

以上、各古墳の様相を端的にまとめてみた。これらを総合して本古墳群から読み取れることは、まず系譜的には在地系・東海系・畿内系の3つを柱としており、該期の他遺跡に見られる近江・山陰系の確実な影響及び定型化したものが見られないということである。このことは、絶対数自体が少ないことと併せ遺構が古墳であるという特質上遺物のほとんどが祭式土器であり、該期において日常土器として波及することの多い後者については抽出が適わなかったものと考えられる。そのため、甕については伴出すると思われるものほとんどが前段より増加し、該期には普遍的なものとして定着するC類で占められており、確実な布留式甕を伴うものはST-06・09の2基のみである。また、庄内系の甕については確認されていない。壺については小型品のほとんどが在地種のA類であり、一部の古墳で畿内系D類を伴い僅かではあるが東海系の影響を受けている可能性を残すものもある。中型品についてはやはり在地種A類が基本であるが、東海系・畿内系の影響を窺わせるものも多く見られる。また、外来系で忠実な姿を保っているものは畿内系に若干見られ、東海系については影響力そのものは畿内系に勝るがそのほとんどが在地系若しくは畿内系との折衷型として表出しているように見える。また、高坏等の小型祭式土器では外来系はほぼ東海系のみ限定され、定型化した忠実な形態を保ったものが大半を占める。該期の特質として、依然として従前の形態を保った在来種が衰退、消滅して行くことは他遺跡の例からも明らかであり、特に小型の壺A類としたものの動向に注目されるが、一部の遺跡間の様相差として並存する可能性も皆無と断言訳ではない。ただ、復元され

た土器の遺存状態を見る限り積極的に残存していたと言えないことも事実である。本古墳群の出土状況からは、冒頭で述べたとおり確実に相伴すると思われる個体の抽出が不可能であり、このことが在り地土器との量比により当時の古墳祭祀の復元を試みようとした場合に大きな障害となっている。

5. 古墳群の推移

本古墳群は、その検出面が浅く耕作土直下であったため調査段階ですでに大きく削平を受けており、周溝も当初の形態を保っているとは言い難いほど浅いものが数基見られた。そのため、出土した土器も当初の器種構成すべてを備えているとは言い切れず、壺や高坏等の当然あるべき祭式土器を欠落している古墳も存在する。先に抽出、整理した土器群については概ね出越編年1期新相～2期（上荒屋Ⅰ期～Ⅱ期・出越1995）の範疇に納まるものと思われるが、全体の中での各古墳の推移（築造順）に係る小時期差については、東海・畿内系の影響が錯綜した状況下で、どの要素をどのように評価するかによって大きく異なるものとなる。高坏・器台等の小型祭式土器については、各古墳とも東海系のもので占められているため、ここでは（中型）壺に現れた外来色の評価が鍵となろう。また、旭遺跡群で見られた旭4期から5期にかけての2基一対連接（前田1995）の在り方も、該期でも継承される造墓意識としての普遍性が認められるとすれば大いに参考となるものである。本古墳群でもそのような状況は看取され、調査時の所見及び遺物の比較より①・・・ST-03→ST-02、②・・・ST-04→ST-14、③・・・ST-07→ST-12、④・・・ST-06→ST-09というパターンが想定される（①～④の序列は時間的推移を示すものではない）。この内、②については採用された墳形が異なるが、より上位にある前方後方墳を採用している点が注目される。他の3パターンについては旭遺跡群で見られたようにほぼ同一規格の連接となっている。

本古墳群の内、ST-01・05・14は前方後方墳であり、ST-13も調査担当者の所見では前方後方墳である可能性が高いという。これらはその墳丘規模よりST-05が前田分類Ⅰ型（前田1997）に、他の3基が同Ⅱ型（ST-13については推定）に当たるものであり、狭・中域に展開した首長墓の系列であると考えられ、群全体として見ればそれらを核として展開した同族墓的古墳群であると思われる。この内、ST-05については周溝より出土した土器群に見るべきものがなく、また規模も著しく異なることからここでの評価は避けるが、他の3基の動向については本古墳群における首長権の継承を示しているものと見るべきであろう。全体での時系列の中では、対象とする土器群の構成はなほは心許ないが、表-3のように大別し得るものとする。これによると、本古墳群の造営に当たっては前出の前方後方墳の動向を核としながら大まかに5期の段階が設定可能である。具体的にその流れを考察すると、以下のようにまとめることができよう。

1期・・・東側の尾根上にまず大型の首長墓ST-13が作られ、ほぼ時を同じくして北側にST-04が作られる。その後、やや遅れて西側に小規模墳ST-03が作られ、東側に北流する河川による自然堤防上に首長墓ST-13を核に三角形を成すように展開する。

2期・・・鞍部を挟んだ西側の尾根上にST-07が、鞍部内に主軸方位、意匠ともやや異質な小規模墳ST-08が作られ、東側尾根上の更に北側にST-10が作られる。前2基については墓域の遷地を大きく違えており、東側尾根筋を占地する首長権継承家系の垂流と思われる。後者については次に予想される首長墓ST-01造営のための空間を意識しているものと考えられ、近親者の古墳であろう。

3期・・・若干先行して西側尾根上の北側にST-11が作られる。その後やや時を隔ててやはり西側尾根上にST-12が、東側尾根上に首長墓ST-01が作られる。ST-12については前述のようにST-07との連接と見られ、垂流同一家系での世代交代が想定される。

深編年	古墳NO.
6群	04 13 05
7群	07 08 10 11 01 02 06 14 09
8群	

表-3 古墳時期別推移表(ST05・15は除外)

4期・・・東側尾根上にST-03と接続するST-02が、北側に本遺跡における布留甕初現のST-06が作られる。また、東端河川際に首長墓ST-14が作られるが、他2基の前方後方墳とは向きが逆になっている。想像の域を出ないが、先行する方墳ST-04との世代交替的接続が認められるとすれば、先行するST-01の造営をもって従前の首長権継承家系が絶え、方墳を採用するものの最も規模が大きく、近い関係にあったと推察されるST-04造営家系が首長権を継いだのではあるまいか。向きが逆になっていることも、後代にその事実を伝え、区別する意図があったものと理解すれば説明がつく。

5期・・・東側尾根上の北端に定型化した布留甕を持つST-09が作られ、本古墳群の終焉を迎える。

以上、本古墳群の推移に対する一試論をまとめてみた。土器群の検証についてはまだ心許なく少々強引な面もあるかも知れないが、本遺跡内で最も地勢の優れた東側尾根筋上に首長権継承家系が掌握していたことは古墳群の在り方を見る限り間違いない。また、墳丘の規模もその集団内における被葬者の地位を如実に示しているものと思われ、その意味でも本古墳群に見られる接続の意識もほぼ首肯されるものと考えている。西側の尾根上に占地した家系も並流ではあるが本古墳群の形成家系であり、首長権継承家系とは程度の差こそあれそう遠くない血族集団と思われ、全体として同族墓的な様相をもって推移したのであろう。

6. 古墳群の性格

本古墳群は上述の限られた時間幅（出處編年1期新相～2期）の中で、漆編年（田嶋1986）では遅くとも6群期後半から7群期を中心とし8群期にかけての中で造営された古墳群であり、解体された内包的弥生首長権を継承しながら、畿内を主体とした東海系の影響の下に再編された傍系在地首長層の墓域と考えられる。このことは本古墳群が「前方後方」という墳墓形態を採用した当初から小型祭祀土器に代表される東海系古墳祭祀を受容し、直前まで営まれた集落を排除してまでこの地を墓域に選定したことに如実に示されている。祭祀の主体となる中型甕に見られるように、東海系の影響を強く受けながら忠実なものを持たず、実は畿内系の影響をその根底に色濃く見せる在り方もその傍証となろう。東海→畿内という影響力の凶式がある程度在地首長層を容認した緩やかなものであったのかどうかは当地については確証がないが、畿内系に統一されて行く次の第2波では更に強い影響力が働いたものと思われる。現状で本古墳群の造墓集団である可能性が高いと思われる上荒屋遺跡では、続く上荒屋3期には一旦集落としての空白期を迎え、同4期には村落構造を大きく転換した集落として再編されている。同3期は東海色が払拭され畿内・山陰系の土器に齎一化されて行く時期に当たり、新たな社会秩序（政治的・社会的）をもって集落そのものが解体・再編された事実を具象化した現象と言えよう。それに呼応するように、本古墳群でも「方」の概念を貫いた（貫かされた？）傍系首長墓の造営を終え、未解明ではあるが新たな墓域を求めて移動を余儀なくされたものと思われる。そこには前述のごとく西日本（畿内）を主体とする強大な政治的勢力の介入が想定され、この後当地に居住した傍系首長層が中枢政権の一部に組み込まれ、さらに広域に展開する首長へと成長して行くのか、それとも脱落して行くのかは現状の遺跡分布の理解からは不明と言わざるを得ない。

第4節 古墳時代後期の集落について

古墳時代後期の集落は遺物からおおむね6世紀末葉～7世紀前半頃の比較的短い時期幅に営まれた集落と想定している。主要遺構として竪穴建物5棟、掘立柱建物10棟、土坑4基、溝5条を検出している。掘立柱建物は例に漏れず柱穴からの検出遺物が少ないため遺構の時期を特定することはできないが、遺跡全体での遺物の様相と構造の類例や遺構の切り合いから当該期に属するものと判断している。竪穴建物からも遺物が散発的であることと併せ、当該期の集落遺跡は検出事例の少ない時期にあたるため、ここではまず建物を主軸方位によって整理し、次に遺物の検討を若干加えるものである。

建物は北東軸群と北西軸群に大別し、軸を同じくするものをまとめて次頁の表を作成した。溝は流路の方向と切

り合い関係から判断して対応させたも**主要遺構関係表**（第162図参照）

である。

北東軸群のなかではSI17ひとつが①群と②群の間となり軸を違えている。北西軸群のSI19の方位は③群とも④群のどちらにも採れ判断は保留したい。細分すぎるくらいはあるが軸方向から4群が想定できるものである。主柱配置が確認できる竪穴建

方位		竪穴建物	掘立柱建物	溝
北東軸群	①群 (N55~70°E)	SI12・13	SB25・38	SD08
	①' (N34°E)	SI17		
	②群 (N7~13°E)		SB31・32・40・41	SD05
北西軸群	③群 (N28~35°W)	SI18	SB37・43	
	④群 (N38~42°W)	SI19?	SB33・34	SD06

物では外周主柱のSI18と竪穴内に柱穴を配置するSI17の2種があり、前者の構造は御経塚遺跡ツカダ地区80-5号住居に類似する新しい要素と考えられる。4×3間構造の掘立柱建物では桁行柱間の最小値の長さが、SB31・32→SB33→SB37・43の順に増大している。当該期の掘立柱建物は柱間寸法の増大に伴い柱穴数が減少化へ向かうとされ（川畑1994）、②群→④群→③群の変遷を想定するものである。

次に出土土器と本遺跡の東方500mを隔てる御経塚遺跡ツカダ地区において田嶋編年（田嶋1988）I 2期の良好な資料を検出した80-5号住居の遺物と比較し集落の時期を検討したい。

当該期の須恵器環は時期が降るにつれ縮小する傾向から、一定量の出上がある有反環と蓋の法量分布をみることにした。有反環の口径は94~135mm、器高は29~50mmに分布する。蓋の口径は113~141mm、器高は35~49mmに分布している。80-5号の環は口径100mm代、器高35~40mmを測りさきの分布数値内に収まるものである。本遺跡の環は、80-5号より小さい90mm代の口径のもの、口径120mmを超える大きいものがあり、身の深いものが多い傾向である。蓋の法量も環と同様な分布が窺える。環と蓋は大・中・小となる3段階の法量が確認できることと小片ではあるが無反環がみられることから、80-5号の時期及びその前後の時間幅があるものと理解したい。全体的な様相から古墳時代後期の集落は、田嶋編年の4様式末葉~古代I期（6世紀末葉から7世紀前半）に相当するものであろう。

土器についても須恵器環の様相から同様な時期幅を想定するものであるが、遺構においては須恵器との共伴例が少ないものもあり比定には不安の残るものである。

遺構出土のSI12の土師器甕1やSD08の内面黒色処理を施した境28・29は外面にミガキ調整を施すもので80-5号住居に先行する段階の調整と考えられる。また内面にハケ調整を施すものや平底ぎみとなる土師器がやや目立っている。須恵器環の出土状況では80-5号とほぼ同じ法量のものと同口径10cm以下の小型のものがSD06でみられ、口径12cm以上となる大きめのはST01・06・09の古墳周溝上部から出土している。

以上からあえて遺構の変遷を想定すると表の①群→②群→④群→③群となるものであろう、しかし土師器と須恵器の共伴関係には不明の点が多いため資料の増加を待ち今後の検証課題としたい。

古墳群造営以降、周辺地域では空白期が続いていたが、7世紀初頭を前後する時期に、扇状地端部の本地区と野々市町南部地区の扇央部において小規模の集落が開始することは留意したい事例である。ところがII期以降も継続し大集落に成長する南部地区の集落（横山2000）とは大きな違いをみせる。本遺跡の小集団は近接する御経塚遺跡ツカダ・あすなろ地区の集落に吸収されたとも推定される。

最後に造営後約300年を経過した古墳時代後期における古墳群の状態について触れたい。ST01・06・09・10の周溝上層から当該期の遺物が出土しており、周溝は深さ20~30cmの溝状の状態で痕跡を残していた状況を窺いすることができる。ST09の墳丘部では掘立柱建物SB31・43が複合しており、墳丘の削平が行われたと考えられる。

方、他の建物群は墳丘部と周溝部を避けるような分布状況を認めることができ、SD05の流路はST09とST06間を縫うようにして周溝部を通り抜けている。この状況は当該期に古墳群の墳丘が残存していたことを如実に物語るもので、SB31・43とST09との複合個所も周溝部と墳丘縁辺部に限られており、墳丘を一気に削平したものではなく

一部分を崩して整地する段階に留まっていたものと考えられる。樹木の生い茂る墳丘の隣に小集落が営まれる風景を想像させるもので、古墳群全体の削平は調査区西部に分布する小溝群の時期である中世期まで降るものであろう。

〈引用・参考文献〉

- 麻生 優 1962 「第6 土器」『鯉塚遺跡 総括編』浜松市教育委員会
- 我孫子昭二 1988・89 「加曾利B様式土器の変遷と年代 上・下」東京考古学第6・7号
- 我孫子昭二 1998 「I 加曾利B式土器資料」『奈良国立文化財研究所史料 第49冊 縄文後期加曾利B式・中国地方の陶棺・下総国分寺・尼寺資料』奈良国立文化財研究所
- 泉 拓良 1981 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器Ⅱ』雄山閣
- 泉 拓良 1989 「緑帯文土器様式」『縄文土器大観』小学館
- 市塚元一 1985 「縄文時代の遺物」『門前町道下元町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 大塚達朗 1983 「縄文時代後期加曾利B式土器の研究(1)」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要 第2号』
- 小野山節・清水芳裕編 1979『和歌山県北山村下尾井遺跡』北山村教育委員会
- 金山弘明 1995 「松任市横江古屋敷遺跡Ⅱ」松任市教育委員会
- 川畑 誠 1994 「石川県内の古代・中世の掘立柱建物の推移」第4回村落研究会レジュメ
- 北野博司他 1993 「戸水C遺跡」石川県立埋蔵文化財センター
- 木下哲夫 1986 「34 曾万布遺跡」『福井県史 資料編13 考古』福井県
- 木下哲夫 1991 「酒見式について—北陸西部域に於ける縄文後期中葉の展開—」『縄文時代第2号』縄文時代文化研究会
- 木下哲夫 1994 「3単位波状口縁深鉢形土器」『季刊考古学第48号』雄山閣0
- 木下哲夫 1999 「酒見式土器成立の構成要件—土器型式内部に於ける波及と受容の様相について—」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集』縄文セミナーの会・六一書房
- 工藤俊樹他 1988 「鳴鹿手鳥遺跡」福井県教育庁埋蔵文化財センター
- 楠 正勝・宮本哲郎 1984 「金沢市南新保三枚田遺跡」金沢市教育委員会
- 紅村 弘編 1978 「東海先史文化の諸段階 資料編Ⅱ」
- 越坂一也・橋本英道・北野博司 1992 「第3章 昭和62年度の調査(東相川遺跡)」『石川県松任市相川遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター
- 小島俊彰 1978 「本江遺跡」『滑川市史考古資料編』滑川市
- 酒井重洋他 1991 「後期以降」『北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編6 境A遺跡 土器編』富山県教育委員会
- 酒井重洋 1992 「2 縄文時代後期中葉から晩期の土器群について」『北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編7 境A遺跡 総括編』富山県教育委員会
- 鈴木正博・加津子ほか 1979・81 「取手と先史文化(上)・(下)」取手市教育委員会
- 鈴木正博・加津子ほか 1980『大田区史(資料編) 考古学Ⅱ』東京都大田区
- 鈴木正博 1999 「『酒見式』への途—山内清男の鈍行列車に乗って北陸先史土器の旅を楽しむための行進曲—」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集』縄文セミナーの会・六一書房
- 高橋由知 1993 「松任市横江古屋敷遺跡Ⅰ」松任市教育委員会
- 高橋由知 1999 「松任市横江古屋敷遺跡Ⅳ」松任市教育委員会
- 田嶋明人他 1986 「漆町遺跡Ⅰ」石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田嶋明人 1996 「北陸地方の古墳時代土器」『日本土器辞典』雄山閣

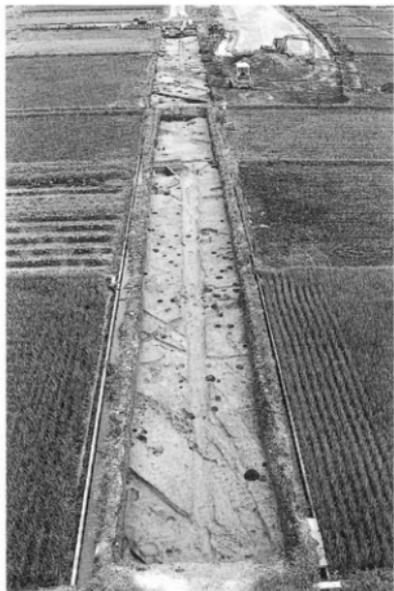
- 出越茂和 1985 『金沢市松寺遺跡』金沢市教育委員会
- 出越茂和 1986 『金沢市近岡ナカシマ遺跡』金沢市教育委員会
- 出越茂和 1995 『上荒屋遺跡Ⅰ』金沢市教育委員会
- 栃木英道他 2000 『金沢市戸水C遺跡・戸水C古墳群(第9・10次)』(財)石川県埋蔵文化財センター
- 中司照世 1990 『曾万布遺跡』『福井市史 資料編1 考古』福井市
- 西田泰民 1989 『堀之内・加曾利B土器様式』『縄文土器大観4』小学館
- 西野秀和他 1989 『金沢市米泉遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 西野秀和他 1985 『鶴来町白山遺跡・白山町墳墓遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 西野秀和 1999 『14 米泉遺跡』『金沢市史 資料編19 考古』金沢市
- 日本考古学協会 1993 『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会新潟大会実行委員会
- 橋本澄夫 1975 『金沢市高富遺跡』金沢市教育委員会
- 橋本澄夫他 1975 『金沢市古府クルビ遺跡』『北陸自動車道関係調査報告書Ⅲ』石川県教育委員会
- 日置 謙 1936 『加賀志薇 下編』石川県図書館協会
- 藤永正明 1987 『淡輪遺跡発掘調査概要報告書・Ⅱ』大阪府教育委員会
- 前田清彦 1995 『旭遺跡群』松任市教育委員会
- 前田清彦 1997 『松任市横江古屋敷遺跡』松任市教育委員会
- 前田敬彦・千葉 豊 1999 『海南市且来Ⅰ遺跡出土の縄文土器』『古代文化 第51巻3号』(財)古代学協会
- 増山 仁他 1986 『金沢市二口六丁遺跡Ⅱ』金沢市教育委員会
- 増山 仁他 1990 『金沢市下安原遺跡』金沢市教育委員会
- 南 久和・栃木英道他 1983 『金沢市二口六丁遺跡』金沢市教育委員会
- 南 久和他 1987 『金沢市押野西遺跡』金沢市教育委員会
- 南 久和 1993 『金沢市馬替遺跡』金沢市教育委員会
- 南 久和 1999 『15 馬替遺跡』『金沢市史 資料編19 考古』金沢市
- 宮本哲郎他 1981 『金沢市南新保D遺跡』金沢市教育委員会
- 望月精司 1999 『考察』『林タカヤマ窯跡』小松市教育委員会
- 湯尻修平他 1977 『加賀市横北遺跡発掘調査報告書』石川県教育委員会
- 横山貴広 1991 『御経塚シンデン遺跡』『弥生時代の掘立柱建物』資料編 埋蔵文化財協会
- 横山貴広 2000 『上林新庄遺跡・上林古墳・上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡』野々市町教育委員会
- 吉岡康嶋 1991 『日本海城の土器・陶磁』『古代編』六興出版
- 吉岡康嶋・河村好光・前田清彦他 1997 『加賀 能美古墳群』寺井町教育委員会
- 吉田 淳 1984 『御経塚ツカダ遺跡(御経塚B遺跡)発掘調査報告書Ⅰ』野々市町教育委員会
- 吉田 淳 1998 『御経塚オッソ遺跡』『長池・二日市・御経塚遺跡群』野々市町教育委員会
- 米沢義直 1969 『金沢市松村縄文遺跡概観』『石川考古学研究会会誌第12号』
- 米沢義光 1986 『第16群土器 加曾利BⅠ式並行期』『真摺遺跡』能都町教育委員会
- 渡辺 誠他 1975 『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』平安博物館
- 渡辺昌宏他 1981 『淡輪遺跡発掘調査概要・Ⅲ』大阪府教育委員会



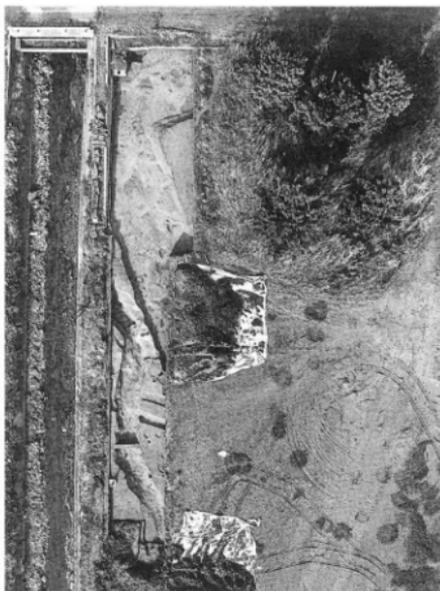
第1次調査区近景(1986年・上空から・↑北)



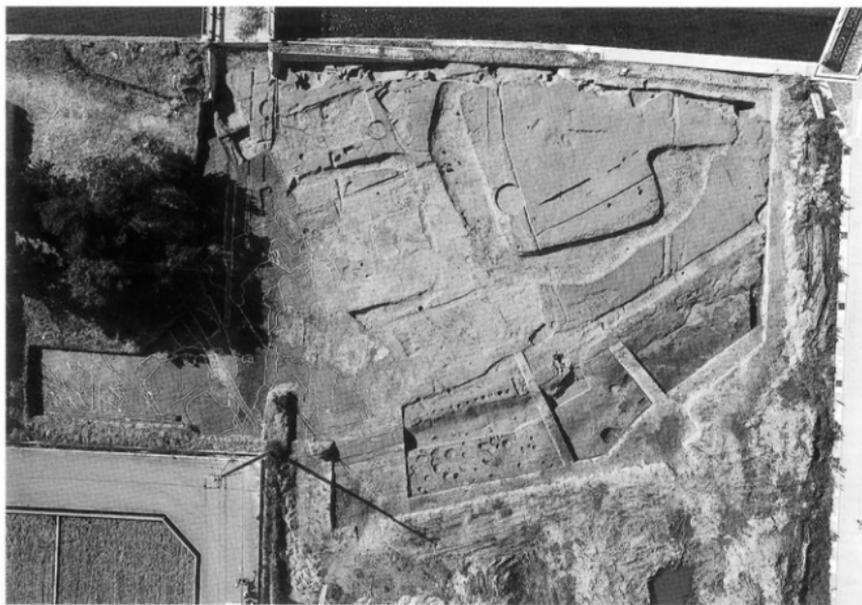
第2次調査区近景(1987年・西方上空から)



第3次調査区近景(1988年・南から)



第4次調査区近景(1990年・上空から・↑北)



第4次調査区近景(1996年・上空から・→北)



河道跡(F区・北から)



河道跡M区(西から)



河道跡S区・縄文土器出土状況(南から)



河道跡土層断面



SI01(3次・西から)



SI01(1次・南から)



SI02(西から)



SI03(南から)



SI05・06(2次・西から)



SI05・06(1次・西から)



SI07(2次・東から)



SI07(3次・北から)



SI08(東から)



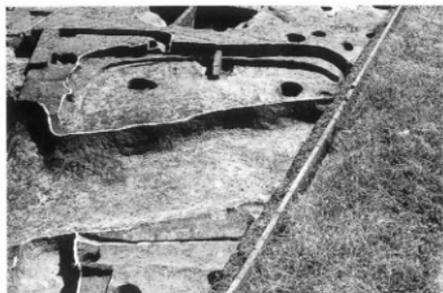
SI09(西から)



SI10(東から)



SI11(東から)



SI14 (北から)



SI15 (東から)



SI16 (西から)



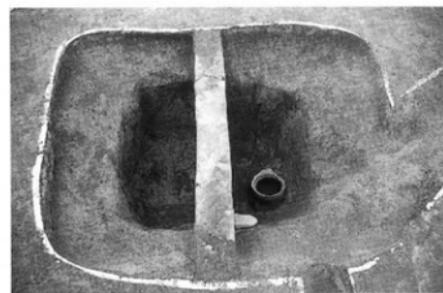
SI20 (北から)



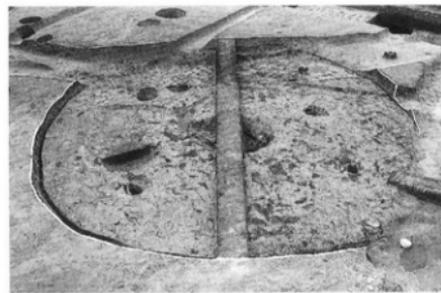
SI21 (東から)



SI22 (北から)



SI22・P7



SI23 (南から)



SI23 炭化物出土状況



SI23 炭化物出土状況



SI24 (南から)



SI25 (第3次・西から)



SI26 (北から)



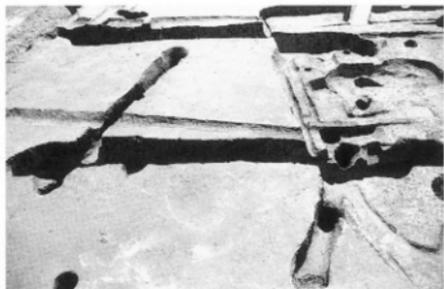
SI27 (B10区・北から)



SI27 (A10区・北から)



SB01 (東から)



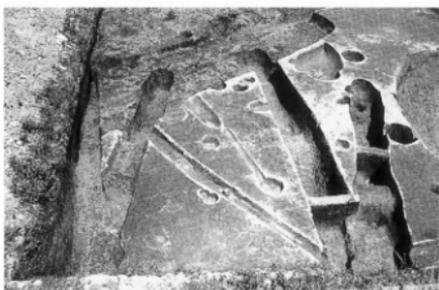
SB02(東から)



SB03(南から)



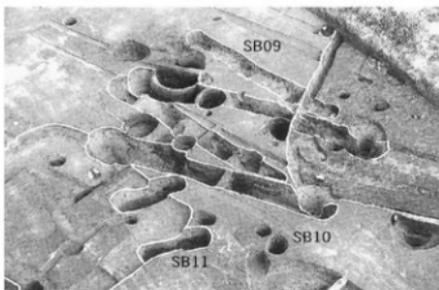
SB04(南から)



SB05(右)・06(西から)



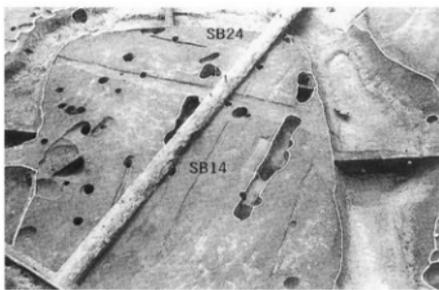
SB08・09(西から)



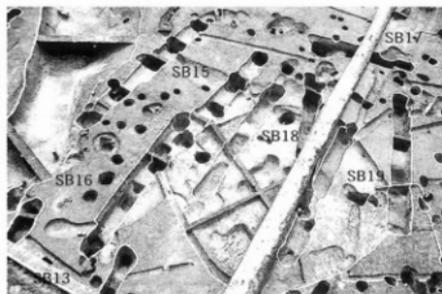
SB09・10・11(西から)



SB12(西から)



SB14・24(東から)



SB13・15～19(東から)



SB13・16(東から)



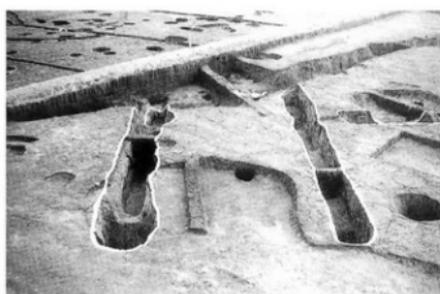
SB15(東から)



SB18(東から)



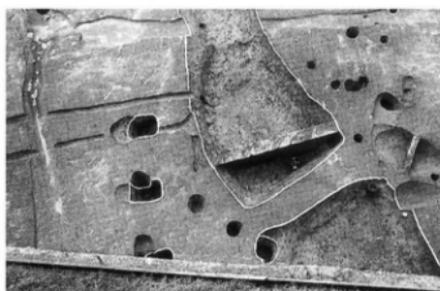
SB17・19(東から)



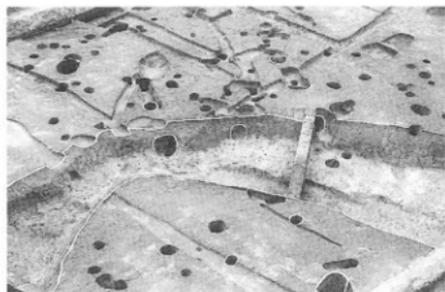
SB20(北から)



SB21(西から)



SB22(東から)



SB23(北から)



SB26・SK62(東から)



SB27(南から)



SB28(北から)



SB29(西から)



SB30(3次・西から)



SB35・36(北から)



SB39(西から)



SB42



SK02・03 (奥)



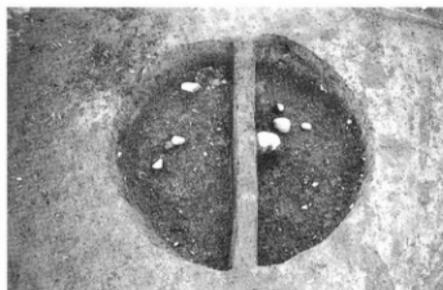
SK04



SK06



SK11



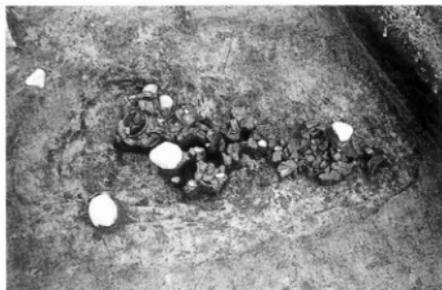
SK13



SK14



SK15



SK17



SK18



SK19



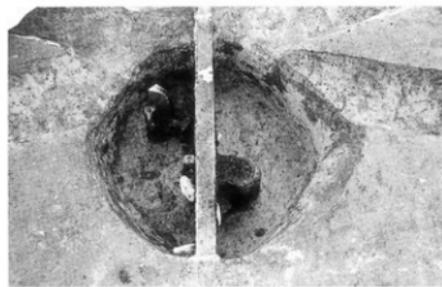
SK20



SK23



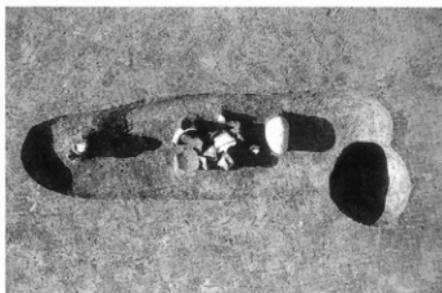
SK26



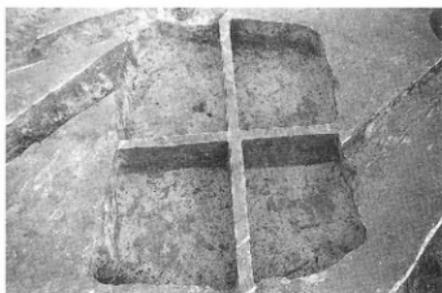
SK27



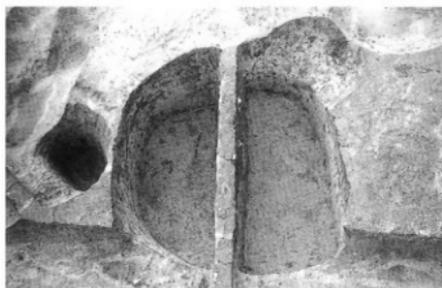
SK28



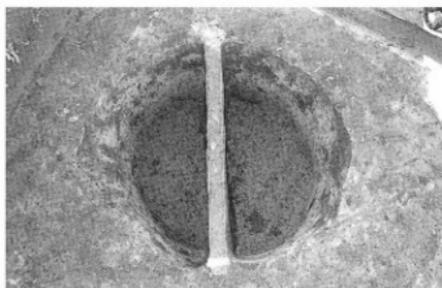
SK30



SK32



SK34



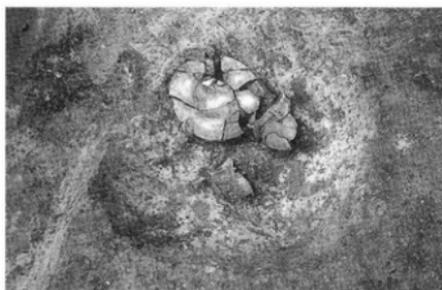
SK35



SK37



SK39



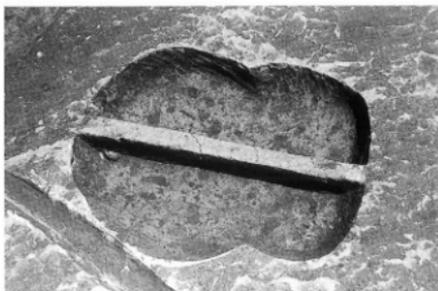
SK42



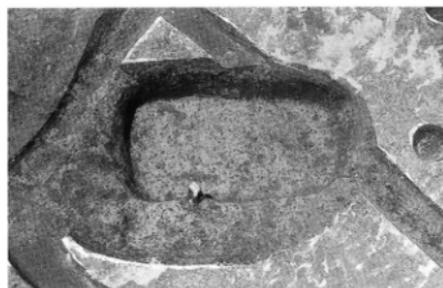
SK44



SK45・46(左)



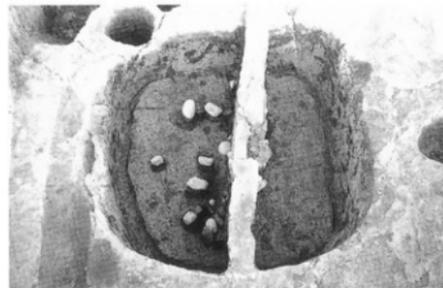
SK48



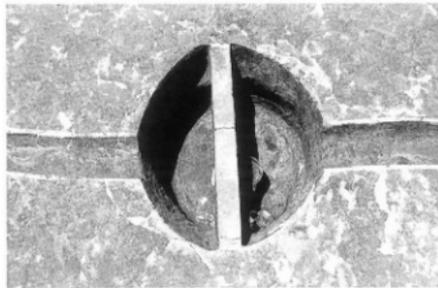
SK49



SK50



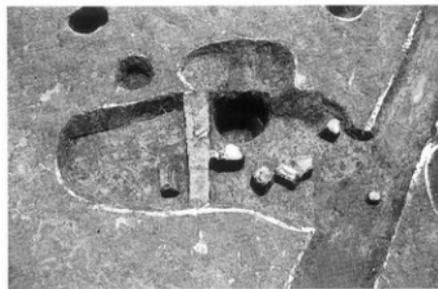
SK50



SK55



SK57



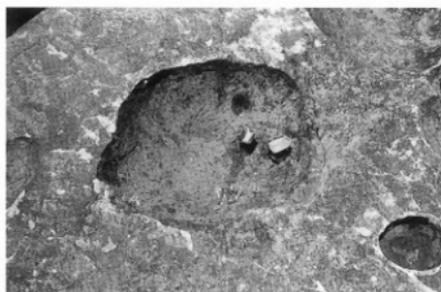
SK58



SK66



SK68



SK69



SK70



SK71



SK72・73 (前)



SK74



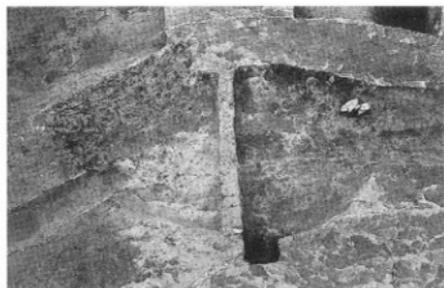
SK78



SK81



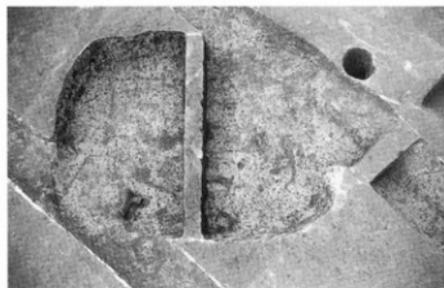
SK82



SK83



SK84 (左)・85



SK86



SK87



SK89



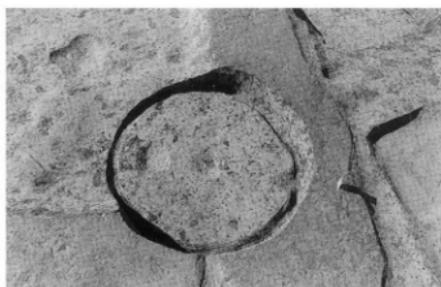
SK90



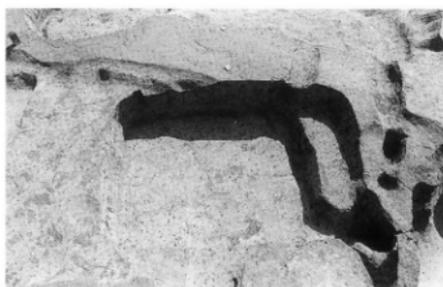
SK91



SK92



SK100



SK101



SK102



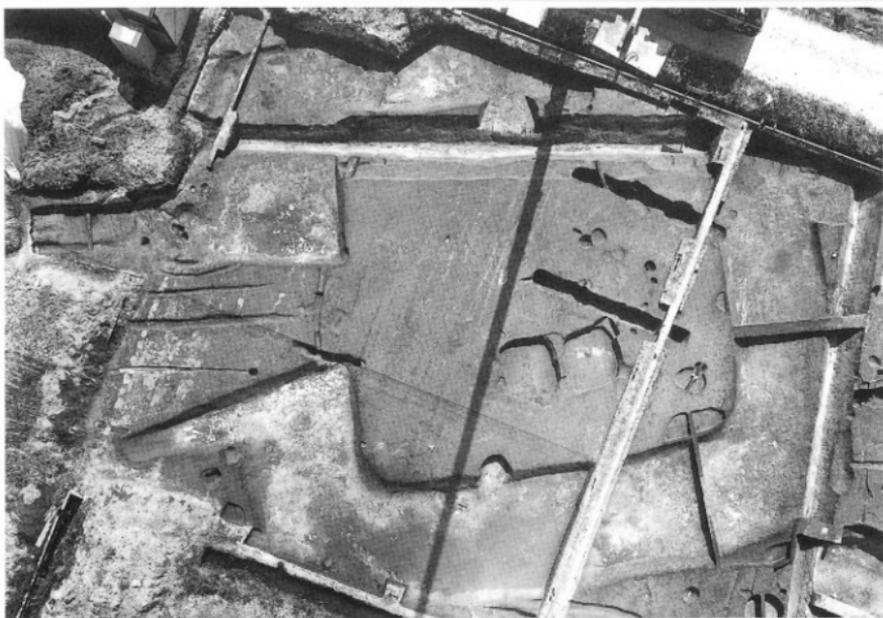
SX02 (北から)



SD03 (南から)



SD04 (東から)



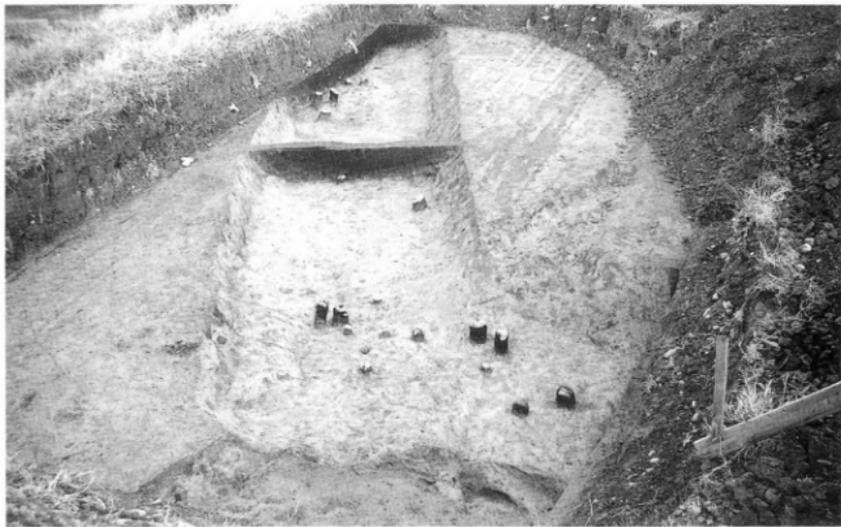
ST01 (北→)



ST02 (南から)



ST03 (北から)



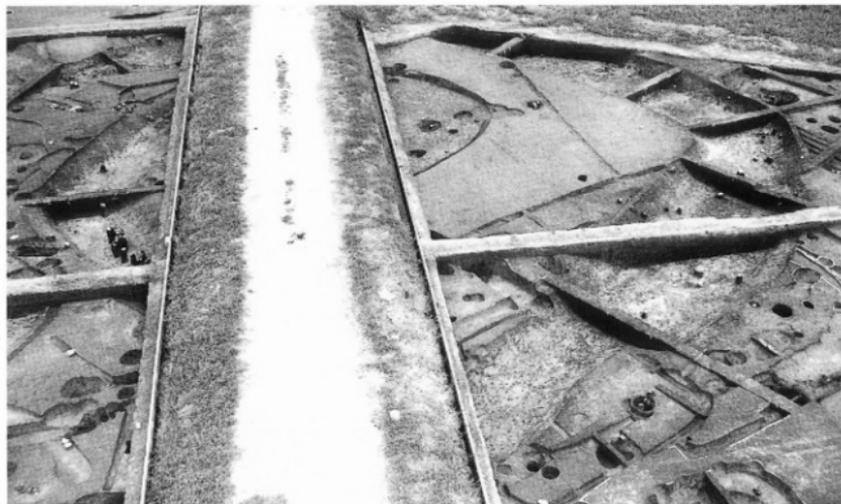
ST04 (第1次・南から)



ST04 (第2次・北から)



ST05 (北から)



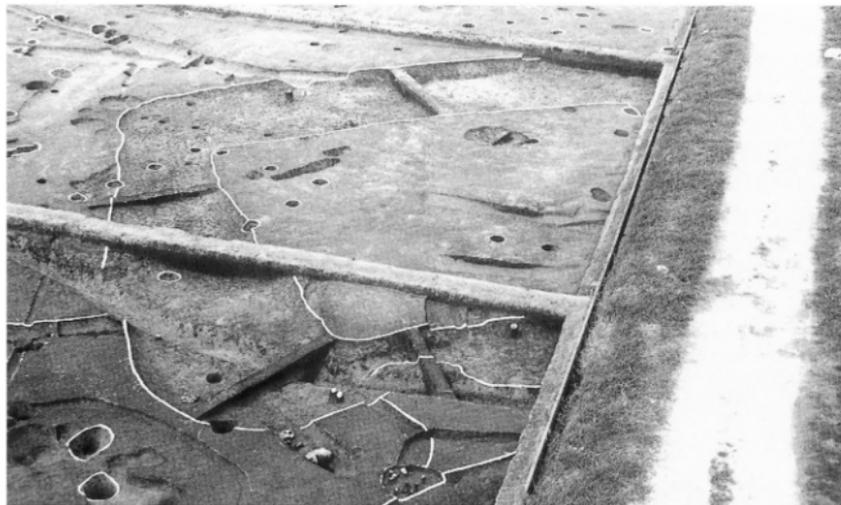
ST06(南から)



ST07(東から)



ST08(東から)



ST09(南から)



ST10(南から)



ST11(南から)



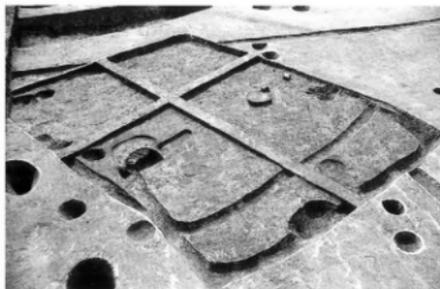
ST12 (東から)



ST14 (右)・ST15 (上空から・北)



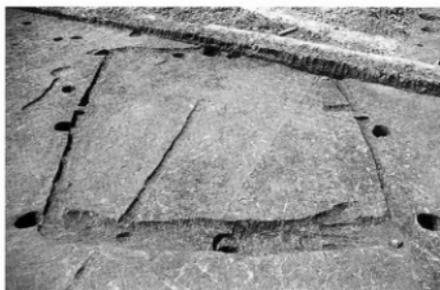
ST13 (北から)



SI12・13(東から)



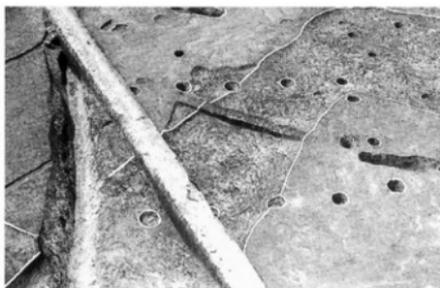
SI17(南から)



SI18(南から)



SI19(南から)



SB31(東から)



SB32(南から)



SB33(南から)



SB34(西から)



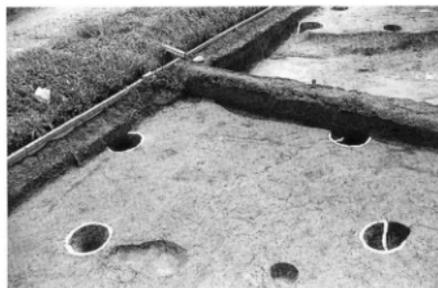
SB38(東から)



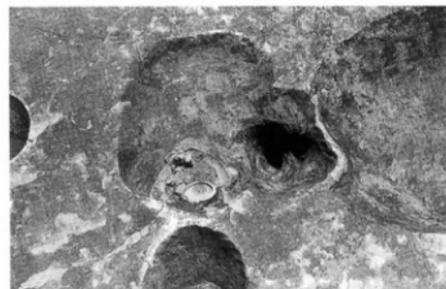
SB40(東から)



SB41(北から)



SB43(北から)



SK67



SK77(北から)



SD05(B7・8区・東から)



SD08(B10区・西から)



SD01 北東屈曲部



SD01 (A5区・西から)



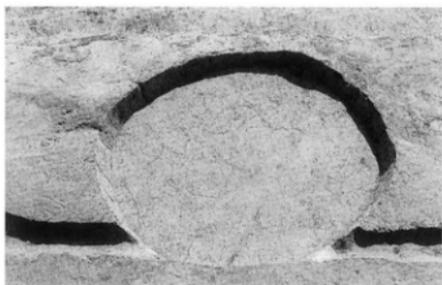
SK96



SK98 (北から)



SK99 (北から)



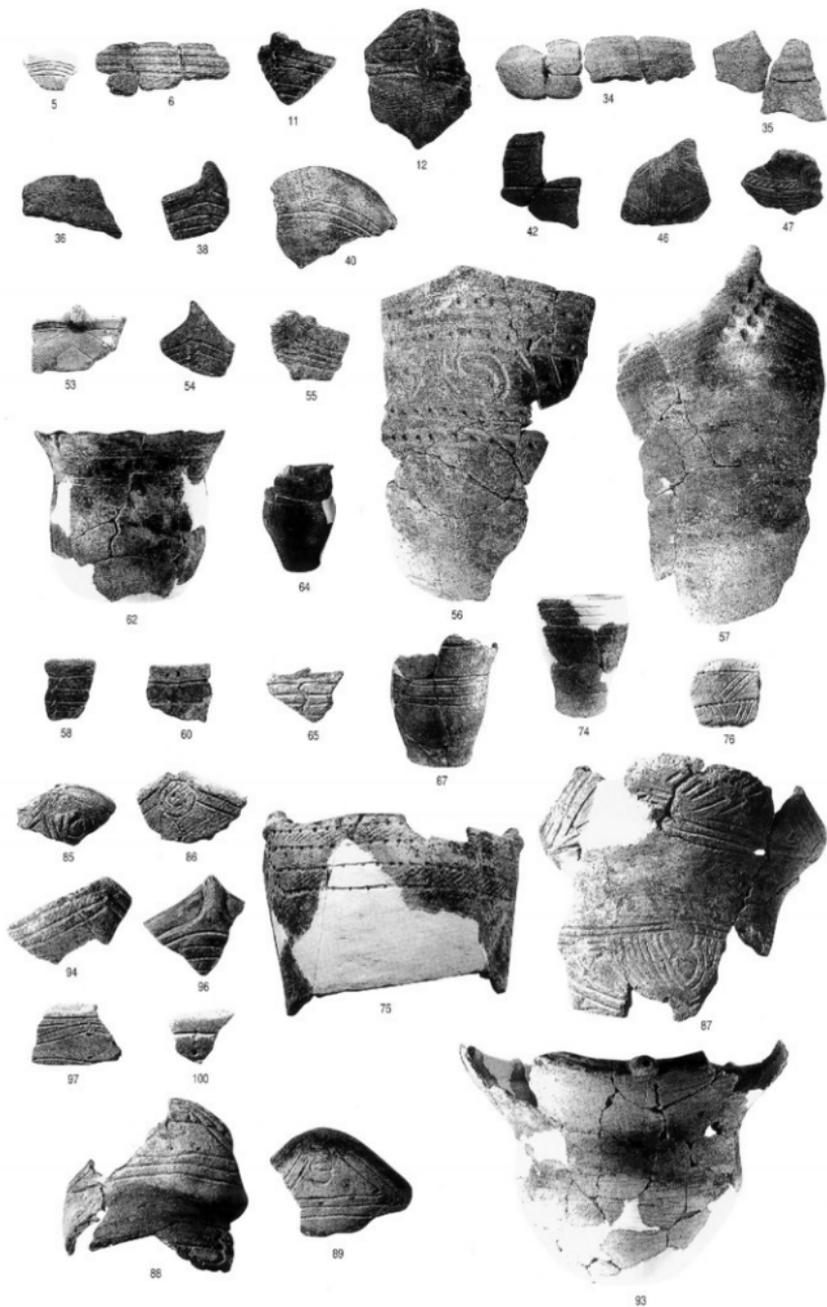
SK103

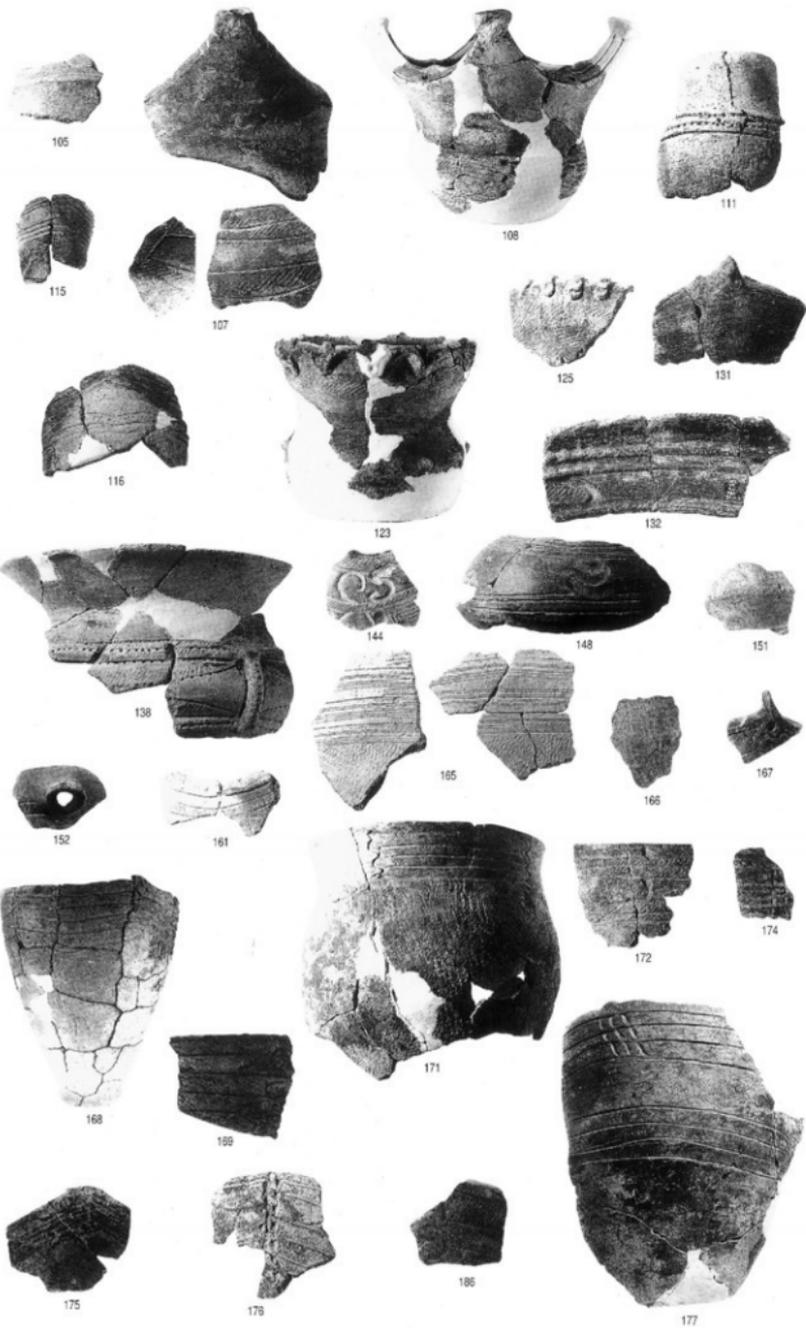


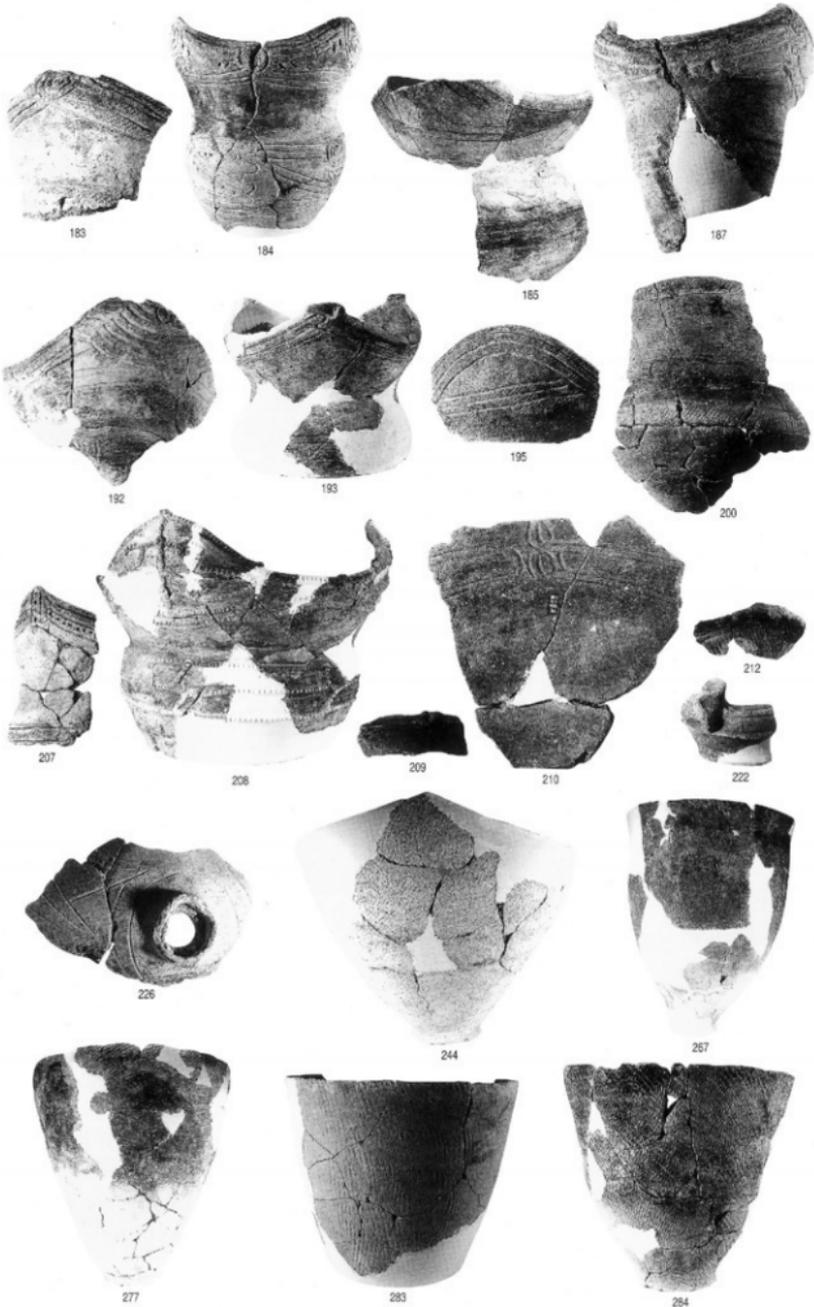
SK105 (北から)

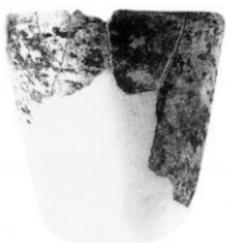


SD19 (北から)





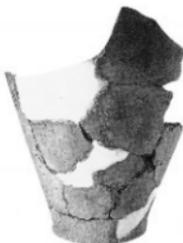




293



320



232



337

338



340



349

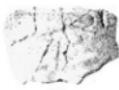


350



351

353



361



362

363



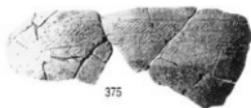
368



370



376



375



363



382



388

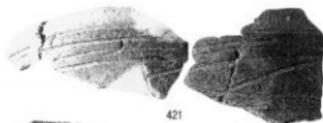


376



399

400



421



394



410



424



434



437



451



443



437



437



468



474



480



489



510



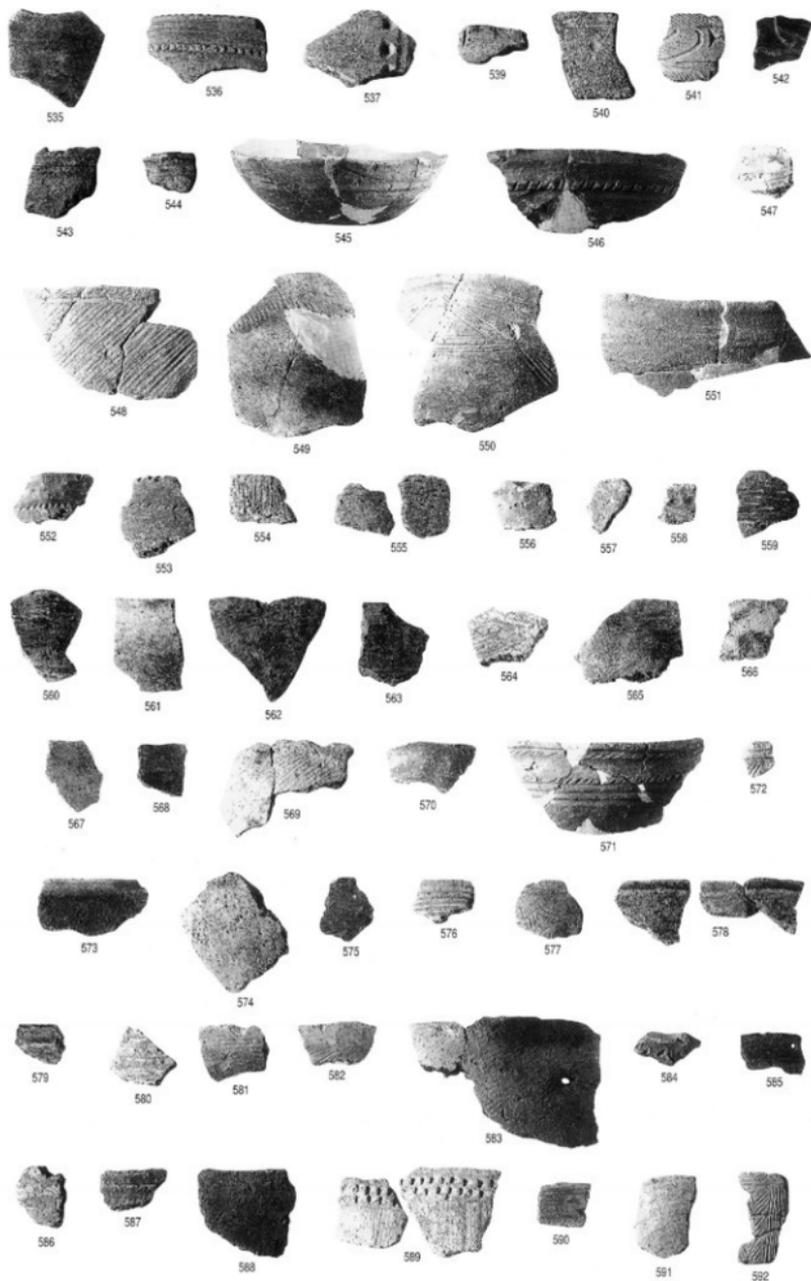
512

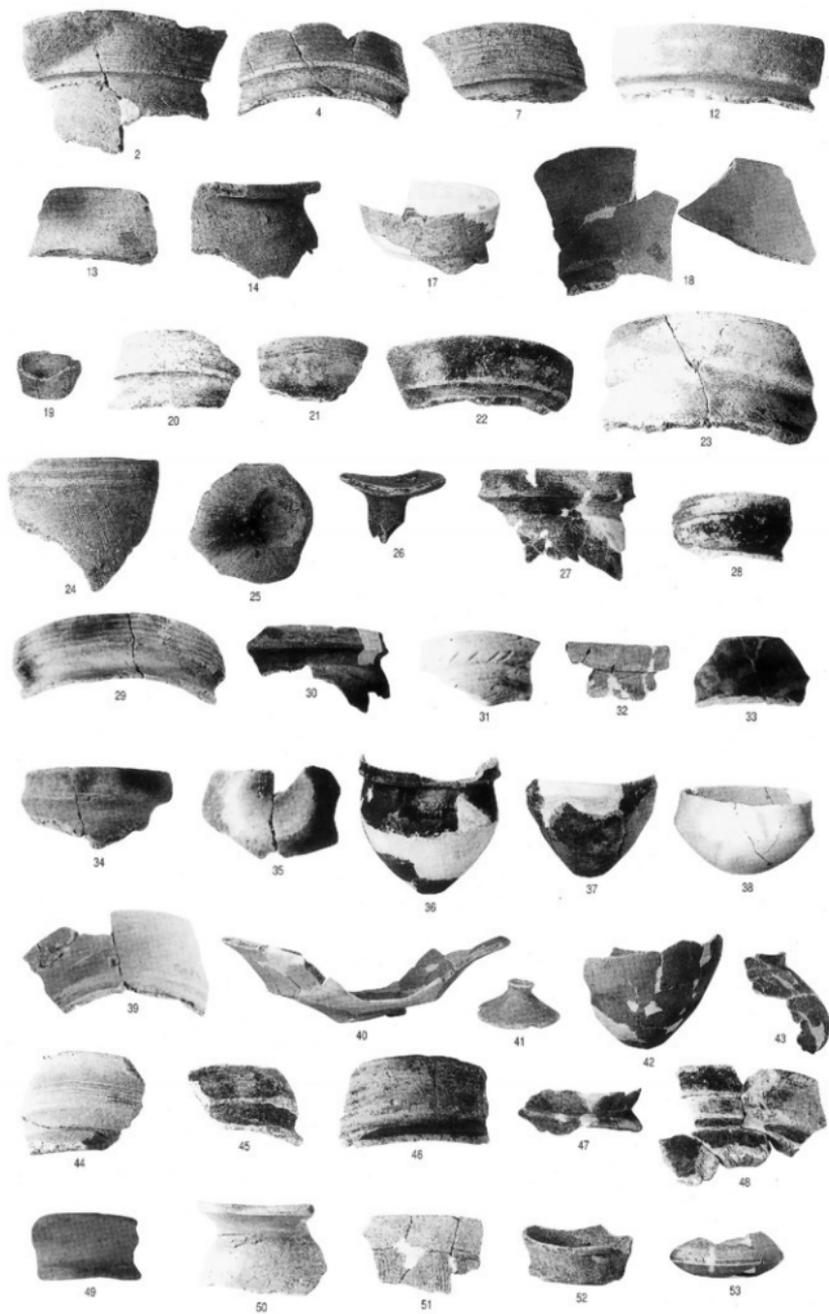


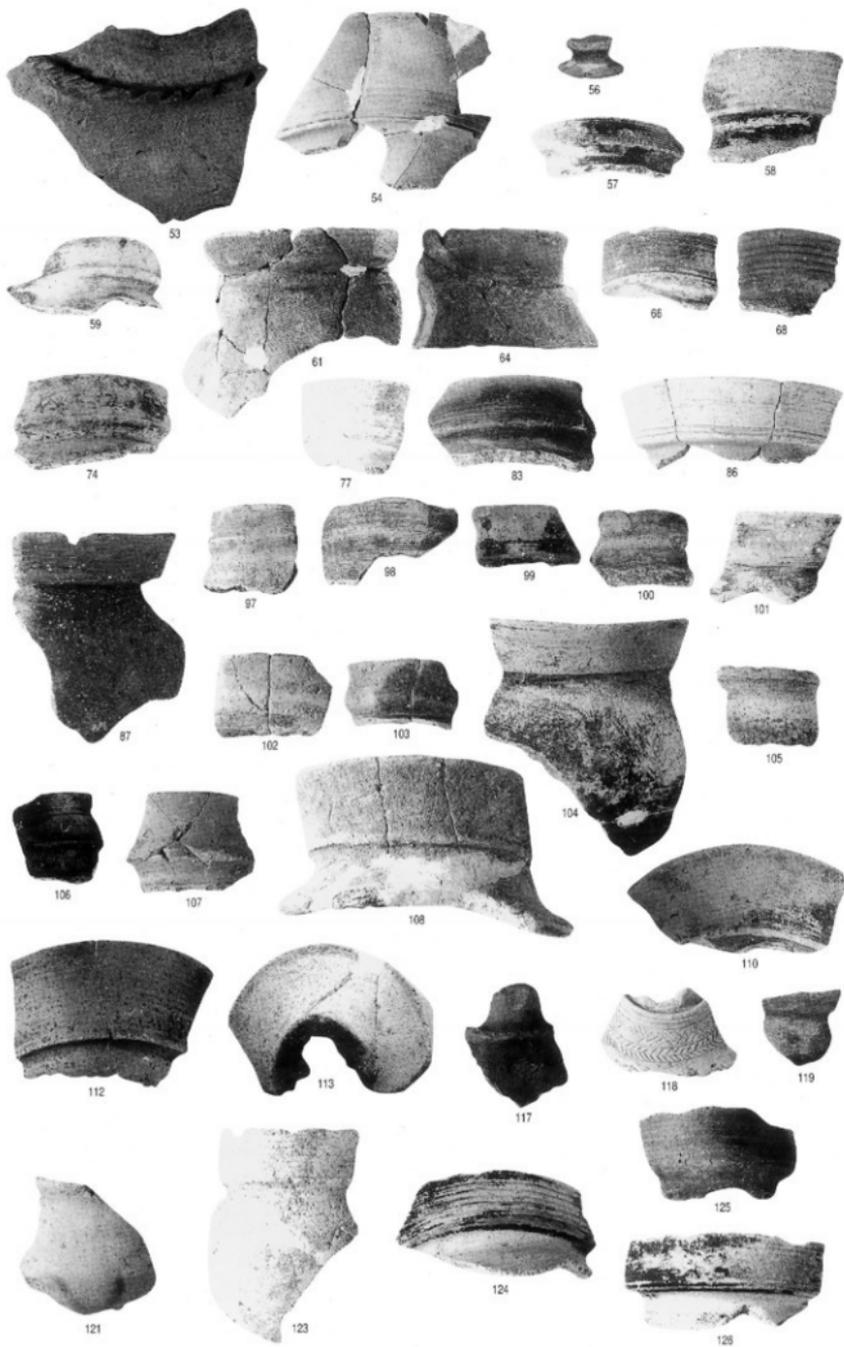
517



518









127



141



149



150



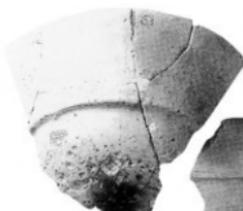
151



152



153



155



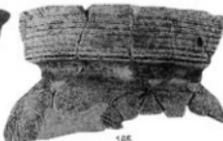
157



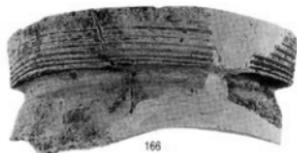
158



159



165



166



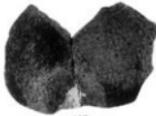
168



174



175



167



169



170



177



178



180



181



184



189



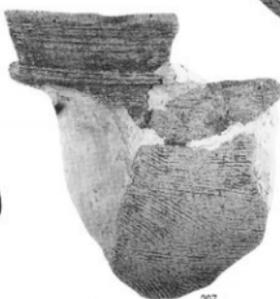
191



193



202



207



214



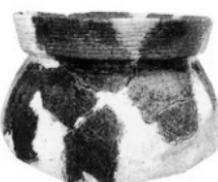
215



230



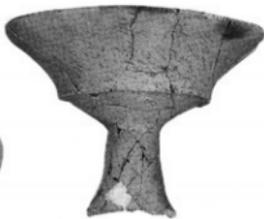
234



239



246



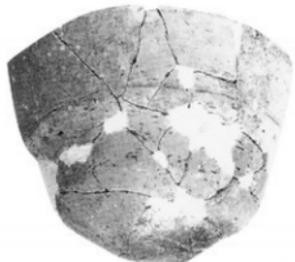
261



262



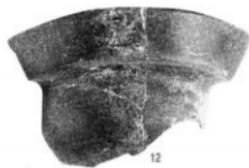
258



268



9



12



14



16



17



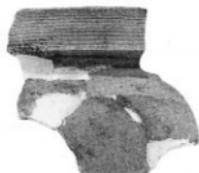
21



35



34



36



39



43



44



46



49



50



51



52



54



55



56



57



76



77



80



72



118



124



127



131



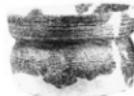
133



144



154



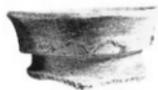
161



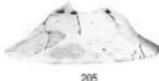
162



169



175



205



210



193



202



224



225



235



243



247



254



258



265



264



256



276



273



274



278



275



284



286



2



8



12



15



18



112



115



147



151



156



167



185



25



26



27



28



29



30



34



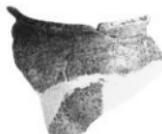
35



36



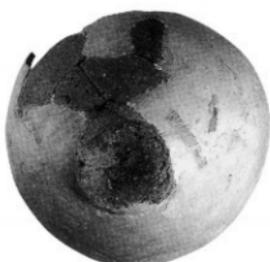
37



31



38



39



40



41



42



43



44



48



49



56



57



58



72



72



73



74



76



78



90



93



94



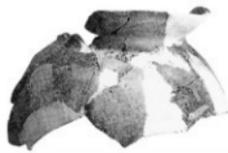
95



96



133



134



150



152



155



210



211



212



180



215



244



245



246



256



331



332



334



337



342



343



335



362



365



367



366



368



369



371



374



378



379



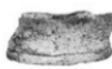
405



406



407



408



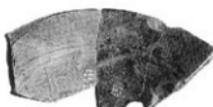
410



411

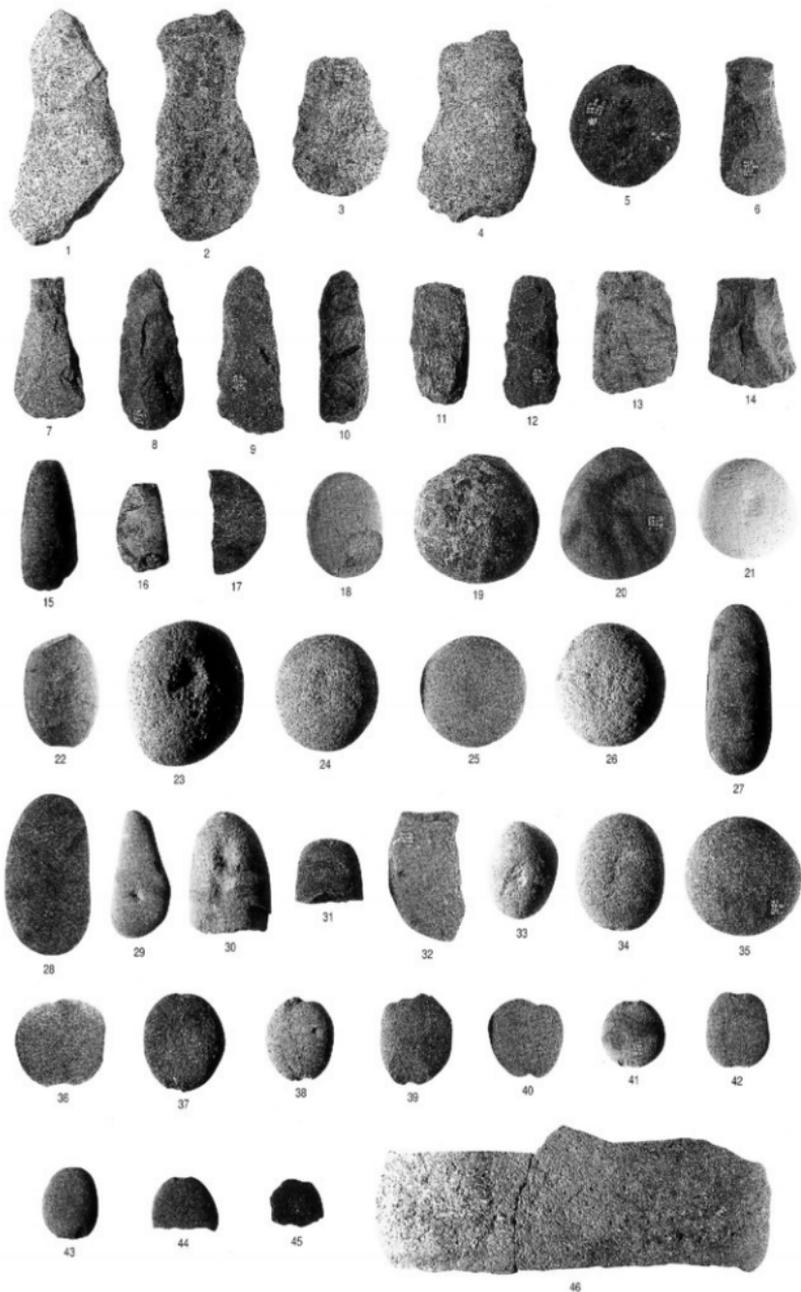


413



418





報 告 書 抄 録

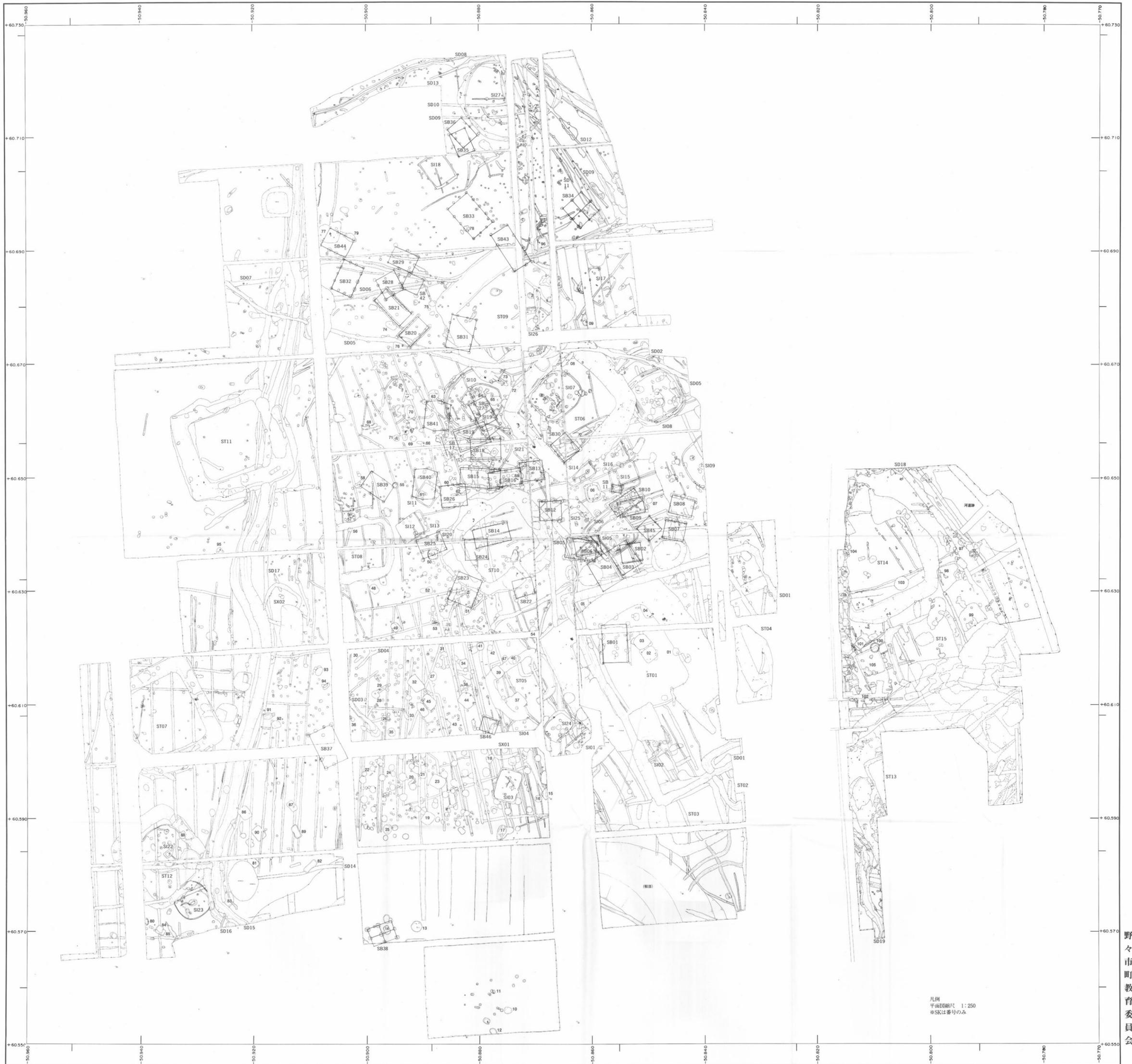
ふりがな	おきょうづかしんでんいせき・おきょうづかしんでんこふんぐん							
書名	御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群							
副書名	御経塚第二土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吉田 淳・横山 貴広							
編集機関	石川県野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号 TEL 076-246-2344							
発行年月日	西暦2001(平成13年)年3月31日							
遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡No.					
おきょうづかしんでんいせき遺跡 御経塚シンデン遺跡	石川県石川郡野々市町	17344	16025	36度	136度	(1次)1986年 7月15日～12月27日 (2次)1987年 3月13日～12月24日	4,143 7,700	御経塚第二土地区画整理事業
おきょうづかしんでんいせき古墳群 御経塚シンデン古墳群	御経塚町地内		16031	32分	35分	(3次)1988年 6月13日～ 7月30日 (4次)1991年10月17日～11月19日 (5次)1996年 6月17日～10月31日	720 170 1,500	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
おきょうづかしんでんいせき遺跡 御経塚シンデン遺跡	その他	縄文後～晩期	不明		土器・石器	河道跡から後期中葉の土器群が出土。		
	集落	弥生後期～ 古墳前期	竪穴建物22棟 掘立柱建物36棟 土坑96基		土器・砥石	古墳群造墓直前までの集落。掘立柱建物は布畑基礎の比率が高い。		
	集落	6世紀後半～ 7世紀前半	竪穴建物5棟 掘立柱建物10棟 土坑4基・溝5条		須恵器・土師器・ 製塩土器	古墳群墳丘の一部削平。		
	その他	中世～ 近世	台形区西溝1基 土坑5基		珠洲焼・土師質 土器 近世陶磁器	御経塚経塚と近接する。微高地の新田開発。		
おきょうづかしんでんいせき古墳群 御経塚シンデン古墳群	古墳群	古墳前期	前方後方墳3基 方墳11基・不明1基		土器	墳丘・主体部は削平により消滅。		

御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

発行 2001年3月
発行者 野々市町教育委員会
921-8815石川県石川郡野々市町本町5-4-1
電話076-248-8545
印刷 高桑美術印刷株式会社

御経塚シンデン遺跡 遺構平面図



凡例
 平面図縮尺 1:250
 ※SKは番号のみ



